# 良心の砦－東大 YMCA
# 会館竣工 50 周年記念誌

# 巻　頭　言

## 良心の砦－巻頭の辞に代えて－

月本昭男（1971 年 文卒）
公益財団法人東京大学学生キリスト教青年会
第 13 代理事長

東京大学学生キリスト教青年会（以下、青年会）は、周知のように、1888 年 5 月 13 日に創立された。創立者 9 名のうちの 3 名、文科大学生大西祝、理科大学生五島清太郎、医科大学生高田畊安は、大学入学以前、京都の同志社英学校で新島襄の薫陶を受け、高田と大西は新島から洗礼を授けられている。創立者の最初に名指される大西祝は、青年会設立の翌年、哲学科を首席で卒業して大学院に進み、1890 年に『良心の起原論』の初稿を書き上げた。

大西が「良心」と取り組んだ背景に新島襄の直接的な影響があったろうか。良心教育を掲げた新島襄は「良心之全身ニ充満シタル丈夫ノ起リ来ラン事ヲ望テ止マサルナリ」との言葉を残している。もっとも、良心という漢語は『孟子』に由来し、明治初年、儒学者・横井小楠は明治天皇の教育のために著した一書に「人の良心は人の道なり」と記し、キリスト教については「その尊ぶところ耶蘇を以て宗とし、道は人の良心に基づくことを知らず」と批判したという。ところが、この儒教的概念は、明治初期から英語 conscience の訳語としてひろく認識され（最初の使用は中村正直か）、植村正久は日本初のキリスト教弁証論と目される『真理一斑』で繰り返し「良心」に言及し、内村鑑三も「良心」をことのほか重視した。大西祝『良心の起原論』の背景には、こうした事情もあったろう。

大西がこの論文を書き上げた翌 1891 年、内村鑑三「不敬」事件が起こり、これを機縁に、キリスト教批判が言論界に巻き起こった。なかでも帝大哲学科教授・井上哲次郎は「忠孝」と「愛国」を掲げ、キリスト教を「反国家的である」と決

めつけた。こうしたキリスト教批判に理路整然と反論を試みた大西は、論文を東京大学に提出しなかった。その第 1 章「良心トハ何ゾヤ」は『哲学会雑誌』に発表し、『六合雑誌』には新たな論考「良心の意義を論ず」を寄せている。1900 年に 36 歳で逝去するまでの大西祝のその後の足跡については割愛するが、『良心起原論』は『大西博士全集』第五巻として 1904 年に刊行され、版を重ねた。1904 年は吉野作造が法科大学政治学科を首席で卒業した年であり、大西が掲げた「良心」は吉野の胸に深く刻まれたにちがいない。吉野は 1917 年に青年会第 3 代理事長に選任されるが、その前年、青年会理事会は「故大西氏記念日 11 月 2 日を以て毎年物故会員の追悼会を為すこと」を決定している。

1919 年 3 月 1 日に朝鮮で「3・1 独立運動」が起こるや、吉野は「対外的良心の発揮」と題する長文の論考を『中央公論』1919 年 4 月号に掲げ、朝鮮総督府による朝鮮統治の姿勢を厳しく問い質した。1923 年 9 月 1 日の関東大震災直後の混乱のなかで発生した朝鮮人虐殺事件の際には、論考「朝鮮人虐殺事件に就いて」を『中央公論』11 月号に寄せ、真相究明を要請するとともに、当時の日本社会と政府の姿勢を厳しく批判し、「あれだけの暴動があってもなお少しも覚醒の色を示さないのは、いかに良心の麻痺の深甚なるかを想像すべきである」と記している。吉野にこのような朝鮮理解をもたらした重要な機縁は、青年会の理事長として、寄宿舎に迎えた意識の高い朝鮮人留学生との交流であった（『吉野作造選集』第 9 巻解説）。じじつ、吉野は青年会会館において中国と朝鮮からの留学生との懇談の機会を設け、理事長就任後はこれを定常化している。

当時、文科大学嘱託講師であった斎藤勇（青年会理事であったか）は、「3・1 独立運動」のなかで起こった「堤岩里教会焼討事件」について、その詳細を海外の新聞で知り、「或る殺戮事件」と題する長い詩文を『福音新報』に掲載して、「君は茅屋の焼跡に立って / まだいぶり立つ臭気が鼻につかないか / 乳呑み児をだいたままの若い母親 / 逃げまどうて倒れた年よりなどの / 黒焦げになった惨状が見えないか」と読者に畳みかけた。戦時中、教授になっていた斎藤勇は、教授会で軍国主義批判の姿勢を鮮明にしたと伝えられる。1946 年、彼は青年会の第 5 代理事長に選任された。

斎藤勇の後を継いだ堀豊彦先生は、現在の会館・寄宿舎の完成までのほぼ四半世紀、理事長としての責任を全うしてくださった。吉野の直弟子として西洋政治思想史を専攻された先生は、東大に移籍後、本駒込のじつに質素な吉野作造旧宅に住んでおられた。私どもが舎生であった時期、先生はすでに東大を退官されていたが、何度か、私どもをご自宅に招いてくださり、学問を志す者たちを諭すかのように、自分は政治学徒として人間の平等と国際平和を信条としてきた、と語られた。じっさい、先生は 1951 年に発足した「キリスト者平和の会」に最初期から関わり、委員長として責任も負われ、最晩年まで平和行進と募金活動の先頭に立ち続けられたのである。募金は被爆者の会に届けられた。

堀豊彦先生を継いだ高見頴治先生はわずか 2 ヶ月で帰天され、代わって農学部教授・高井康雄先生が理事長に就任された。土壌学を専攻された高井先生が、20 歳代の若き研究者として、信州の荒蕪の地、御牧原と八重原に水路を通し、稲作を可能にする事業に携わられたことを知る人は多くないかもしれない。御牧ケ原では、青年会同期の住谷一彦先生とともに、農民福音学校の講師もつとめられた。物静かな先生であったが、青年会において、日本企業はフィリピンから山単位で木材を買い付けるが、伐採後に植林を行わない、そのために洪水が発生し、多くの人命が損なわれたことを知っておいてほしい、と語られたことが忘れがたい。

以上、歴代の青年会理事長の一面を少しく紹介させていただいたが、青年会の寄宿舎で学生時代を送った先輩方の多くもまた、戦前か戦後かを問わず、旧舎か新舎かを問わず、それぞれの分野において「地の塩、世の光」として歩まれている。それは、青年会寄宿舎において多くの先輩方が、キリスト教を通し、先輩方との接触を介し、なによりも舎生間の交流を深めるなかで、知らずして、自らのうちに良心を育んだからにちがいない。私どもの連なる青年会は、じつは日本における小さな「良心の砦」であったのではなかろうか。

新寄宿舎が 50 周年を迎えて、これまでの執行役員は次の世代に引き継がせていただくが、これからも青年会が「良心の砦」であり続けることを願わずにはいられない。

（2026 年 3 月 1 日記）

# 目　次

**第1章　東大 YMCA 会館 50 年の歩み ..... 1**

**第 2 章 卒舎生寄稿エッセイ ..... 17**

森有正と木下順二　大口 邦雄（1956 年理卒）..... 19
旧舎の思い出とクリスマスプレゼント　二神 康郎（1960 年農卒）..... 21
東大 YM 寮舎生としてすごした日々　小出 達夫（1963 年教育卒）..... 23
バッハのカンタータを歌い続けた東大 YMCA コーラス　関澤　純（1966 年農卒）..... 25
東京大学 YMCA の思い出　久保田 信行（1967 年法卒）..... 27
富永 徹 さん のこと　垣内 史堂（1970 年医卒）..... 29
東大 YMCA 会館・寄宿舎　建設小史　岩見 宣治（1971 年工卒）..... 31
気になる“先輩”　篠原正雄（1971 年理卒）..... 37
旧舎から新舎へ　清水 正之（1971 年文卒）..... 39
東大 YMCA 寮から戴いたもの　半田 武比古（1977 年工卒）..... 41
はるかなる東京大学 YMCA　山口 栄一（1977 年理卒）..... 45
ウズラなんですけど　小林 辰美（1977 年文卒）..... 47
私にとっての東大 YMCA　柿谷 均（1977 年理卒）..... 49
東大 YMCA 新舎という出来事　合田 隆史（1978 年法卒）..... 51
寄宿舎の思い出　西　正典（1978 年法卒）..... 53
シンプル　イズ　ベスト　灰本 周三（1978 年経卒）..... 55
東京大学 YMCA の思い出　倉光 泰隆（1978 年法卒）..... 57
呑喜と南洲屋と…　飯島 康一（1980 年経卒）..... 59
東大 YMCA 寄宿舎にいた頃　高谷 武良（1982 年法卒）..... 61
東京大学 YMCA 会報によるつながり－預言など投稿　近藤 信和（1987 年法卒）..... 63
岩井要先生と青い祈祷室　岩佐 明彦（1994 年工卒）..... 65
東大 YMCA の今昔　五百旗頭　薫（1996 年法卒）..... 67
1980 年代以降の 20 年間における、寄宿舎としての東大 Y の変化と不変
中村 義哉（2000 年経卒）..... 73
東大 YMCA なくして我が信仰なし　関　智征（2003 年法卒）..... 77
兄に囲まれた長男　田川 義之（2004 年工卒）..... 79
東大 YMCA 寮で過ごした日々　三浦 真（2006 年経卒）..... 81
東大 YMCA のおかげさまで　半田 淳比古（2008 年医卒）..... 83

熟議を尽くす—寄宿舎生活を振り返って 木原　盾（2015 年文卒）..... 85
与えられた恵み 木原（金子）友紀（2017 年教育修士修了）..... 87
神様を求める気持ちを大切に 徳永（草間）友花（2018 年工博士修了）..... 89

**第 3 章 現役舎生・関係の方々の声 ..... 91**
**3-1 概説編 ..... 93**
2023-2026 の舎について　米倉　敬宏（農学部、2023 年入舎）..... 93
生活の様子　那須 清崇（公共政策大学院、2025 年入舎）..... 95
**3-2 活動編 ..... 98**
早天祈祷会　Theodorus J. Wijaya（工学系研究科、2019 年入舎）..... 98
聖書研究会　Shen Jie（工学系研究科、2025 年入舎）..... 99
総会　石井　蓮（農学生命科学研究科、2022 年入舎）..... 100
日直・掃除　H.K.（工学部、2025 年入舎）..... 101
食事　米倉　敬宏（農学部、2023 年入舎）..... 102
会計　白川　裕都（経済学部、2024 年入舎）..... 103
修養会　D.Y.（新領域創成科学研究科、2023 年入舎）..... 104
駒場祭　米倉　敬宏（農学部、2023 年入舎）..... 105
**3-3 場所編 ..... 107**
礼拝堂　白川　裕都（経済学部、2024 年入舎）..... 107
食堂　Esther O.（公共政策大学院、2025 年入舎）..... 108
厨房　太田　萌（情報理工学系研究科、2024 年入舎）..... 110
喫煙所　石井　蓮（農学生命科学研究科、2022 年入舎）..... 111
OB 談話室　Tavana Alireza （工学系研究科、2024 年入舎）..... 112
お風呂　ブディオノ・クリスチャン・ミレニュー（工学系研究科、2021 年入舎）... 113
廊下　関口　玲（文学部、2025 年入舎）..... 114
三階談話室　D.Y.（新領域創成科学研究科、2023 年入舎）..... 115
舎生部屋　鎌田　将（人文社会系研究科、2025 年入舎）..... 117
卓球室　桐生　有喜（教養学部、2024 年入舎）..... 118
図書室　神野　和磨（理学系研究科、2025 年入舎）..... 119
客室　W.H.（学際情報学府、2023 年入舎）..... 120
3 階・4 階ベランダ　M.M.（経済学研究科、2025 年入舎）..... 121
祈祷室　崔　民赫（法学政治学研究科、2021 年入舎）..... 122
**3-4 関係の方々の声 ..... 123**
東大 YMCA 事務局の変遷　明神 恵子　永田 智子（事務局）..... 123
東大 YMCA 事務局回想　桃井明男 ..... 124

調理師の声　小幡 公雄（調理師）..... 126

**第 4 章 卒舎生座談会―世代を超えた語らい..... 127**

**第 5 章 会館竣工 50 周年記念行事報告 ..... 159**

**5-1　会館竣工 50 周年記念式典・祝賀会記録 .....161**

**5-2　50 周年記念講演会記録「大地と建築と祈りの場」團 紀彦（1979 年工卒） .....165**

**第 6 章 資料編 ..... 175**

**6-1　東大 YMCA 戦後 80 年史年表（1945 年～2025 年） .....177**

**6-2　記録資料.....349**

6-2-1　歴代理事長一覧（1906 年度～2025 年度）..... 349

6-2-2　歴代常務理事等一覧（新舎：1975 年度～2025 年度）..... 350

6-2-3　歴代理事・監事・評議員一覧（1947 年度～2025 年度）..... 351

6-2-4　舎生数の推移（1945 年～2025 年）..... 367

6-2-5　会館・寄宿舎概略図..... 373

**あとがき..... 375**

# 第 1 章

# 東大 YMCA 会館 50 年の歩み

章表紙デザイン：Theodorus J. Wijaya

# 東大 YMCA 会館（新舎）50 年の歩み

## 新会館建設までの歴史

東京帝国大学学生基督教青年会（注[1]）は 1888 年（明治 21 年）5 月 13 日西片町十番地木村熊二宅に創始者となる大西祝氏ら 9 名が参集した時に始まる。アメリカのミッションボードから派遣されたジョン・T・スウィフト氏の勧奨によるという。スウィフト氏は、この年米国 YMCA から派遣された教師であり、日本の学生 YMCA の創設に力と情熱を注いだ人物であった。

旧追分会館（落成当時配布されたパンフレットから）

寄宿舎生活を通して青年会活動を深めるべく寄宿舎を兼ねた会館（木造総二階）が本郷台町三十番地（現本郷五丁目）に新設されたのは 10 年後の 1898 年（明治 31 年）9 月のこと、建築費用の大半はスウィフト氏が米国で集めてくれた募金であったという。時は明治中期、日清戦争（1894～1895 年）後、明治近代化が加速された頃である。

この台町会館が手狭となったことから、1912 年（明治 45 年）に新会館敷地として文京区駒込追分町五十三番地、同五十四番地計約 285 坪が購入された。江戸時代は足軽屋敷であったという細長い敷地であり、当青年会の現在地（文京区向ヶ丘一丁目二十番地六号）周辺である。なお、台町会館の敷地は新会館建築のための原資の一部として売却されたため、在舎生は駒込千駄木町（現千駄木二丁目）に数棟を借用し仮会館とした。

新しい会館兼寄宿舎（旧追分会館という）が落成したのは 1916 年（大正 5 年）春、当青年会発足から 28 年目のこと、時世は第一次世界大戦下（1914～1918）であった。

旧追分会館は間口八間弱、奥行三十三間の細長い敷地に前面にレンガ造り五階建ての会館部その奥に木造の寄宿舎と講堂兼体育館が連なっていた。当時の青年会先輩諸氏の活躍は目覚ま

---

[1] （注）1973 年 1 月 28 日の理事会で当会の名称は「東京帝国大学学生基督教青年会」から「東京大学学生基督教青年会」に名称変更された。戦後 28 年にしてアップデートされたのは、珍聞ではあるが、略すれば東大 YMCA に違いはない。なお、2012 年 4 月からは「公益財団法人　東京大学学生キリスト教青年会」としてスタートし現在に至る。
ちなみに戦後の学制変更に伴い 1947 年（昭和 22 年）、東京帝国大学は東京大学へ改称され、1949 年（昭和 24 年）に旧制第一高等学校を併合して新制東京大学となり現在に至っている。

しいものがあり、翌年 1917 年（大正 6 年）夏この会館の地下室の 6 畳ばかりの部屋で青年会出身の若手医師達による大学青年会医院が開院し、無料での医療奉仕が始まった。この活動はその後大きく発展し社会福祉法人賛育会として結実した。同じく片山哲氏らによる日本初の法律相談所、藤田逸男氏らによる家庭購買組合（今でいう生活協同組合のことか）もここを原点とする。また、音楽会などの文化的行事も折々開催され大正デモクラシーの花開く時期を謳歌したようだ。

1923 年（大正 12 年）9 月 1 日に発生した関東大震災は山梨神奈川県境あたりを震源地とするマグニチュード 8 規模の大地震であったが、東京府下でも甚大な被害が生じた。本会旧追分会館も類に漏れず、建物は大きな被害を受けた。幸い舎生は無事であったが、食料問題もあり、舎は一時閉鎖したが、ほどなく応急修理で再開できたとのこと。

1926 年（大正 15 年）に根本的な改修を施し建物を一新し、5 月 13 日に新会館開館式があった。これを新追分会館と呼ぶことにするが、当青年会先輩で近代建築の巨匠フランク・ロイド・ライトのもと活躍していた建築士の遠藤新氏がデザインしたことから、外観内装家具に至るまでライト氏が設計した旧帝国ホテルを彷彿させる当時としてはモダンな建物であった。爾後 40 数年、太平洋戦争の空襲にも類焼を免れるなど昭和の激動の時期を耐え、戦後はキリスト教活動の拠点として機能し、また寄宿舎からは幾多の先輩諸氏を送り出してきた。

新追分会館（1926 年当時）

戦後になると会館建物の劣化が目立つようになり、屋根の剥離、軒先の大谷石の風化、雨漏、天井漆喰の落下、衛生設備の痛みなどは看過できない状態にあった。戦後 1950 年に大規模修理が施されたものの全体の老朽化は如何ともしがたく、1918 年完成の二舎と呼ばれる寄宿舎部分については倒壊寸前のため使用禁止になるなどもあり、1960 年代頃から抜本的な対策すなわち建て直しが必要とされ、その事前検討が始まっていた。

会館建て直しの機運が盛り上がったのは 1970 年代に入ってからである。当時喫緊の課題であったはずの再建の本格的検討が 1971 年まで持ち越されたのは 1968 年から始まった大学民主化の流れ、いわゆる大学紛争が大きく影響したものと推察される。1969 年（昭和 44 年）1 月の安田講堂事件に代表される一連の騒動はその年の入学試験が中止されるなど社会的に大きなインパクトを与えたが、当時の教職員学生に、また寄宿舎生ひとりひとりにも大きな影を投げかけた出来事であった。

**新会館兼寄宿舎の建設**

1971 年（昭和 46 年）6 月 17 日、本会理事会（堀豊彦理事長）にて会館の再建築をなすことが決定され、さっそく再建準備委員会が動き出している。会館建て直しのために発足した再建準備委員会は、先輩会員十七名、在舎生全員で組織され、翌 1972 年まで八回にわたる検討の結果、青年会の財力を踏まえ現所有地の活用を基本とした以下三案に整理された。

1　現所有地を売却した基金と募金をもとに代替地を求め会館を新築する

2　現所有地の一部を売却した基金と募金をもとに残地に会館を新築する

3　現所有地に高層建築を建てさせ、代わりに建物内に青年会のスペースを確保する

代替地について種々魅力的な提案が寄せられ、その得失に鋭意検討がなされた結果、1972 年 4 月、理事会は最終的に③案によることとし、各種提案のうち東海興業株式会社による等価交換方式が採用された。この交渉にあたって有利な条件で契約できたのは先輩会員特に再建委員長の植田武彦、副委員長の山崎幸一郎両氏の尽力によるとのことであった。

以後、再建委員会が発足し具体的なスケジュールや施策が精力的に議論され実行された。

青年会館内部の設計については、設計小委員会が組織され、デザイン実務は当青年会理事でもあった岩井要氏の真設計建設事務所に委任された。岩井氏と事務所は日本全国の教会やキリスト教系学校建築に経験が深く、まさに適任であった。

ここでは紙面の関係でお名前は載せられないが、多くの先輩諸氏が会館再建という一大事業にあたって、率先して取り組んでくれた賜物である。また、再建のための募金活動は（折しも大学紛争の影響で休講中であった）舎生達が先輩宅を訪問するなどねばり強く活動、最終的に会員 350 名、28 法人から総額 2660 万円の浄財が集まった。

会館再建の詳細な経緯については、岩井要氏の本青年会百年誌（1988 年 5 月発行）への寄稿、ならびに岩見宣治氏の本誌エッセイに詳しい。

過去 47 年間にわたり当青年会の活動の場であった、新追分会館は 1973 年（昭和 48 年）5 月に取り壊され、北側の追分旅館までの数十戸の住宅地を含め再開発され、14 階建てのマンション、ファミール本郷へと変貌を遂げた。

新会館は 1975 年（昭和 50 年）3 月 15 日に完成、4 月 26 日には 120 名の出席者を集めて竣工式を行った。

新会館は上部マンションとの

新会館兼寄宿舎（1975 年建設：写真は 1996 年地下鉄南北線開通で東大前駅ができた際のもの）

関係で種々の設計上の制約をうけたものの、表通りから玄関を通して階段を上がり横に礼拝堂、靴を履き替えて事務室や OB 談話室、食堂とつながる 2 階部分、3 階、4 階に 25 室の各寄宿室、図書室、客間、卓球室などが設けられた。旧舎で使用されていた家具、机や椅子などの調度品については補修が施され新舎でも活用された。また、当青年会の貴重な収入源として 1 階部分外側の貸事務室とマンションの一室が確保されたが、後日後者については売却された。

新会館が建てられた 1970 年代は戦後の高度経済成長期が石油ショック等で終焉を迎え安定成長に入った時期であった。カラーテレビ、クーラー、自動車といった新三種の神器が普及し始め、ヒッピーや学生運動で流行ったジーンズが市民権を得た。1970 年（昭和 45 年）に前回の大阪万博が、1972 年（昭和 47 年）に札幌冬季オリンピックや沖縄の返還があった。世界に目を転じれば、ウォーターゲート事件（1974 年）があり、長く続いたベトナム戦争は 1975 年のサイゴン陥落をもって終結している。

新会館完成後、建設期間中舎外での生活を強いられていた旧舎メンバーと新しく入舎したメンバーとの共同生活が始まり、夕禱等の良き伝統は新舎に引き継がれた。

100 周年記念祝会の様子（1988.5.14）

**50 年の歩み**

2025 年春、新会館が再建されて 50 年が経った。Anno Domini 2025、主イエス・キリストが誕生されてからの歴史を振り返ればこの 50 年はあまりにも短い。

舎生たちは概ね 3〜4 年の間隔で入舎し巣立っていく。彼らが寄宿舎で何を考え、何を語

り、どんな生活をして来たかを概説することは難しい。ましてキリスト者として、あるいはキリスト者たらんとして、何を目指し、何を悩み、何を苦しんだかは当事者でも語りつくせないだろう。ここでは、新会館ができて 50 年、当青年会の動き、寄宿舎の中外であった折々の出来事などを紹介し、その当時の様子を振り返ってみたい。

**百周年記念行事**

1888 年創立以来百周年を迎え、1988 年 5 月 14 日に創立 100 周年記念礼拝と式典が開催された。参加者は 100 余名であった。

また、100 年記念誌が発行され当時理事長であった成瀬治氏は輝かしい歴史を語るとともに大先輩である森有正氏や木下順二氏が旧舎に住んでおられた思い出、青年会のために勤励されていた諸氏への感謝を述べられている。記念誌では、当時舎生でその後長く学生主事を務めた三沢和彦氏が百年のあゆみを滔々と語るとともに、我々ひとりひとりの真剣な前向きの姿勢こそが次の百年の礎となるにちがいないと記している。また、青年会先輩諸氏や当時舎生からの熱いあかしも掲載されている。1988 年、時代は物質的には豊かになる一方、過労死に代表される心の問題が表面化してくる世相であり、激動の昭和が終焉を迎える前の年であった。

**東日本大震災**

2011 年 3 月 11 日宮城県沖を震源としたマグニチュード 9、最大震度 7、未曾有の大地震と津波が東日本太平洋側を襲い、東北地方を中心に甚大な被害が発生した。当青年会会館も建物の一部にひび割れが散見されたが、幸い構造的な問題はなく 227 万円の費用で補修ができた。

新生釜石教会の被災状況

当青年会 OB の柳谷雄介氏が牧師をしている岩手県釜石市新生釜石教会でも一階の天井付近まで津波で浸水したという。小学生、中学生達が日頃の訓練の成果でうまく避難できたため釜石の奇跡と呼ばれているが釜石市全体では 1211 名の死者行方不明が出たという。この教会の復旧や近所への支援物資を配ることなど震災ボランティアで参加した当時舎生の中島彰氏は当青年会会報第 136 号にその活動を報告し被災地への祈りをささげている。

当青年会では有志からの募金をつのり、会堂再建と被災者支援事業のために 200 万円を教会に寄付した。柳谷牧師は会報への寄稿で「被災地でキリストの声を聞く」と題し会員 26 人の小さい教会も牧師教会員の家も壊滅的な被害を受けたこと、教会の駐車場に設置した赤テント

で被災地に必要な休む場所を提供できたこと、各方面からの支援が役立ったこと、その場所から助け合う機会が与えられ地域にますます認知されることができたという経験をヨハネ福音書四章サマリアの女性のたとえを引用して熱く語っている。また、2013 年秋季公開講演会では、柳谷牧師を招き、「世界中が祈った日」として講演していただいた。（会報 136、139、140 号参照）新生釜石教会では会堂内のピアノも浸水転覆したが 5 年後に修理ができ奇跡のピアノとして復活し今でも音色を奏でているという。

3 月 20 日（日）被災地で守られた礼拝災地

**公益財団法人化**

当青年会は長く特殊財団法人として活動してきたが、法令の改定にともない、2013 年 1 月までに公益財団法人か一般財団法人に移行しなければならなくなった。検討の結果、社会からその公益性が広く認められること、寄付していただいた方々にとって所得控除の対象になること、青年会の預金利息が非課税になり法人税や固定資産税などの減免が認められて財務的にも有利であることなどから公益財団法人の認定を目指すこととなった。当時の長島章常務理事のもと諸条件を満たすべく煩雑な事務作業をこなし、2012 年 3 月には公益認定書を受領することができ、2012 年 4 月より公益財団法人としてスタートし、現在に至っている。なお、この認定を維持していくためには事務手続きなどの負担や種々の制約があることを留意したい。

**女性舎生の受け入れ**

寄宿舎に女性の入舎を受け入れることは長年の課題であった。過去の資料をひもとくと 1960 年に当時の堀豊彦理事長が、女子学生の入寮希望を断った経緯から、男女共学化を踏まえ、いずれは女子の入寮も考えないといけないとの発言があった。長年の懸案について理事会の考え方の整理がついたのは 2003 年のことであった。寄宿舎募集要領を見直す中で、キリスト者またはキリスト者たらんとする男子東大生を基本とするが、特に希望のある場合は女子学生の入舎も認めるべきと変更された。また外国人留学生の受け入れについても全体の 3 分の 1 程度まで認めることが確認された。この方針にもとづき、寄宿舎では女子学生受け入れのための施設が整えられていく。ただし、舎生側では反対論も多く、例えば 2005 年の舎内総会では女性入寮を認めないという意見が大勢を占めている。このため、寄宿舎募集案内に現在のところ女子学生は受け付けていない旨、付記するという苦しい対応となった。

最終的に舎生側の理解が得られ女子舎生の受け入れ方針が確認されたのは 2014 年 2 月のこと、東大生の 3 割程度が女子学生であること、当時の舎生が少なくなった状況などの事情が背中を押した形となり、2014 年 4 月以降女性を受け入れることとなった。

2014 年 4 月 13 日にリン・リリアナさんが最初の女子入舎生となった。以後、女子学生の入舎は増え、2026 年現在、5 名が在舎している。

**新型コロナウイルス （COVID-19）**

2019 年に中国で発生した新型コロナウイルス感染症は 2020 年になって日本でも感染が始まり 2023 年まで世界的に蔓延し、多くの感染者、死亡者と経済的な打撃をもたらした。また感染防止の動きの中から新しい生活様式が生まれた。当青年会でも新舎生の募集に苦しんだ時代でもあったが、感染防止のため対面での会議を控えビデオ会議を開くなどの対応を行い、またオンライン併用での講演会や祝会が守られた。2020 年発行の会報 154 号では、感染症とメンタルヘルス、コロナ禍をいかに生きるかなどの特集が組まれている。世界中がコロナ禍にあってどう生きるかを考え、なんとか守りぬいた時代であった。

**キリスト者あるいはキリスト者たらんとして、そして寄宿舎生活について**

当青年会はキリスト教を学ぶ場としてぜいたくな場所である。聖書研究会や合同祈祷会、公開講演会などその機会は多い。早天祈祷会（早祷、1998 年 3 月までは夕祷であった）での話も刺激的である。ぜひ、この学びを絶やさず進めて行って欲しい。

当青年会の入舎選考は大学入試より難しいという逸話があった。現在はどの程度「難しい」のだろうか。選ばれる者も緊張しただろうが、選ぶ舎生側からすると全会一致の結論がでるまで夜まで延々と議論を繰り返す場面があった。大学生、院生の中から舎生として適当な人財を選ぶのだから入試より難しいはずである。特にキリスト者たらんとする者については、要らぬ議論が沸騰した。

一概にキリスト者と言っても、舎内にはプロテスタントもいればカトリックもいる、諸教派に所属する人もいる。こういった混沌とした舎内では、夕祷や早祷だけでなく日常的な会話でも宗教戦争が起こりかねない・・・？

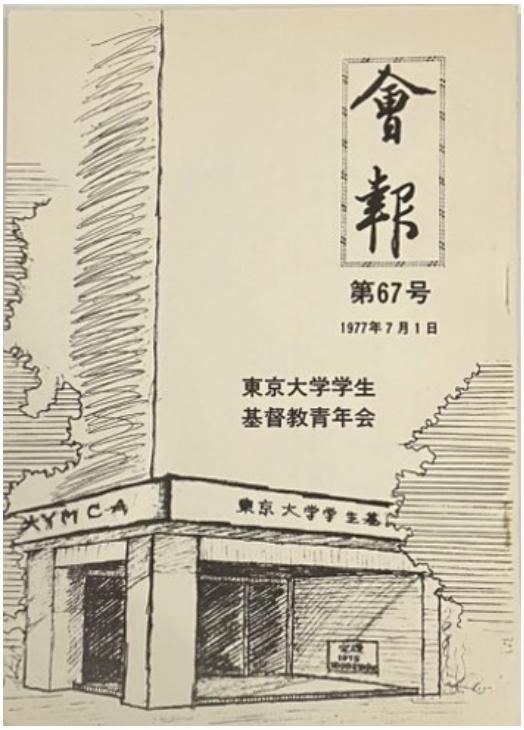
冗談はさておき、各自のキリスト教に対する思いや基盤が異なることは得難い化学反応を起こすはずだ。さらに、勉強する学問も異なること、留学生を交えた国際的な雰囲気は、良い意味での多様性の環境を作っている。最近の言葉であろうが、個人のアイデンティを尊重できる共生社会としてサラダボウルという概念が提唱されているという。当青年会では、この好ましい形での多様性を今後も育んでいきたいものである。

**在舎生の諸活動について**

在舎生は総務部、聖研部、企画部、文共部に分かれて、それぞれの役割を果たしており、そ

れぞれの部は各学生理事がまとめている。青年会会報末尾あたりに事業部報告があるが、注目して読まれていることをどうか覚えていて欲しい。在舎生が何を考え、何を働いたか、活動は活発か、在舎生の数は不足していないか、先輩に何か支援して欲しいことはないか、などなど興味はつきない。

その会報の発行は文共部の重要な仕事である。日常の勉学の合間に年二回発行するのは大変な作業かと思うが、どうか気楽に本音を書いて欲しい。今回、新会館建設後の 1977 年に紙面が刷新された会報第 67 号（右図）から最新号の第 164 号まで目を通す機会があったが、人生の指針となりうる記事や折々のイベント、微笑ましい内容まで、その時々の時代を彷彿とさせてくれる。会報のバックナンバーは東大 YMCA を訪ねて OB 談話室に行けば、読むことはできるわけだが、せっかくの貴重な資料、デジタル・アーカイブできないものかと思った次第である。



新舎後 1977 年の会報（表紙は当時舎生の團紀彦氏による）

次に聖研部では、日々の早天祈祷会だけでなく、聖書研究会や合同祈祷会などを担当し、舎生の信仰活動を育む基となっている。

企画部では、春、秋の公開講演会や卒舎生を囲んだ座談会などを運営するとともに、クリスマス祝会や歓迎会、予餞会など、フットワークは軽く、その働きには頭が下がる思いである。

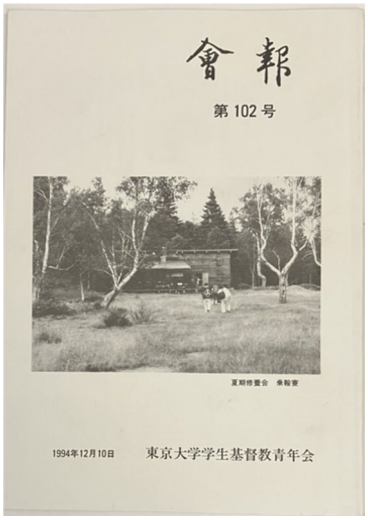
総務部では、ブログの運営や学生 YMCA やその他外部団体との交流など渉外活動に忙しい。どういうわけか修養会も担当しているのが興味深いところである。

普段勉学等に忙しい在舎生だが、毎年予定を組んで寄宿舎を離れ旅行先で修養会を開いている。修養会も、てんこ盛りのスケジュールだと、ゆっくり旅行気分を味わえないかもしれない。半分レクレーション、半分勉強会かもしれないし、夜になればアルコールも欲しくなる。限られた時間でまとまった学びができるのは難しいかもしれないが、楽しい思い出になることは間違いない。

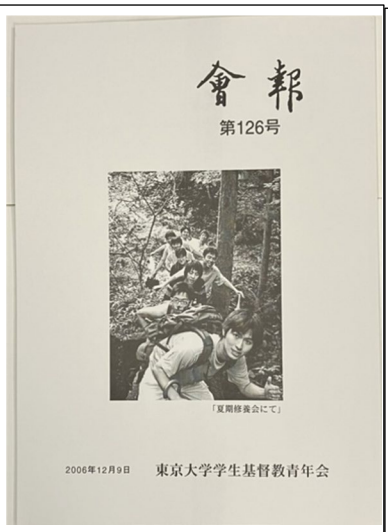
1984 年夏の修養会は、大学が夏休みに入ってすぐ 7 月に八王子の大学セミナーハウスにて二泊三日で行われた。16 名参加できたのは、都心からの交通の便の良さも関係したのであろう。勉強の題材はヨブ記であった。4 月から聖書研究会で読み込んできたこともあり、聖書の理解から個人の信仰生活まで広きにわたって熱心な討論が行われたとのこと。当時の在舎生の

真摯な態度と聖研を指導され修養会にも参加された月本昭男先輩（現理事長）のコーチングが良い結果を生んだようだ。会報第 82 号では、8 ページにわたってその修養会の特集が組まれている。うらやましい成果である。

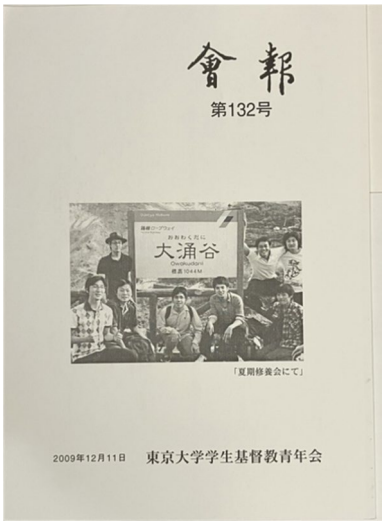
会報の表紙に時々修養会のスナップが掲載されたものがあった。下に 3 つほど紹介させていただきたい。楽しそうな絵である。参加されたメンバーにとって一生の思い出となるのではないだろうか。




1994 年夏季修養会@乗鞍寮




2006 年夏季修養会@奥多摩




2009 年夏季修養会@箱根

**横のつながり、縦のつながり**

他大学 YMCA/YWCA などとの交流や賛育会等外部団体とのつながりは定期的に行われている。学業に忙しい在舎生にとって負担は大きいが、今後も継続して欲しいものである。

寄宿舎で一緒に過ごして来た仲間の絆はかたい。同じ頃に寄宿舎にいた仲間が定期的に集まって皆の近況を確かめるとともに在舎時代を懐かしむ伝統である。集まるにはそれなりの会名が必要ということで、ユニークな名前をつけて気勢をあげる。朴羅会、雅茶会、エントツ会、シニア OB 会、森と木の会、昭和 26～30 年卒業生の会、追分会、同期会、さりげなく集う YM の会、若手会、発散会、他にもあるかもしれない。また関西地区では地域的に集まる関西 OB 会が定期的に開催された。残念ながら、これら世代別の OB 会も、コロナ禍やメンバーの高齢化等でその勢いもしぼんでしまったように危惧されたが、最近またポツポツ再開されたようで何よりである。

OB 座談会、卒舎生座談会などを通して在舎生が先輩の仕事ぶりや活躍ぶりなどを学ぶ機会もある。先輩が寄宿舎を訪問しあるいは海外からはオンラインを通してその経験を語り、若い舎生と意見交換する交わりが定期的に開かれている。在舎生にとって卒業後の進路を考える上でも得難い情報であろう。こうした縦のつながりも絶えないで欲しい。

**当寄宿舎で働いていただいた方々**

当青年会の専務理事あるいは常務理事は数ある会員の中からこれはという方を選び担当していただいてきた。各自個人的な負担をいとわずご精励いただいた。ここでは畏敬の念をこめて新寄宿舎になってからの各氏を振り返りたい。

馬場進氏は 1975 年 4 月に当青年会が晴れて新舎に入った際に専務理事として着任され、明治、大正以来の伝統を新しい世代に伝え、新舎の基を築かれた。その後も 19 年間の長きにわたり勤められ、ご苦労いただいた。

馬場専務理事
（1988 年当時：百周年記念式典にて）

徳久俊彦氏は常務理事として 1996 年から 6 年間務められたが、この期間は舎内の設備補修が三度も発生しご苦労があったと聞く。2002 年に徳久氏が賛育会理事長になられたこともあり当青年会の常務理事を辞任された（その後当青年会理事長として戻られた時代に再び常務理事を兼務された）。

野口吉三郎氏は 2002 年から約 4 年半の間務められたが、当時女性舎生受け入れの是非をめぐり舎内で喧々諤々の議論がなされた時期であった。学生理事として激論を闘わせた村上善道氏は、2012 年に野口氏が帰天された際に追悼文を寄せ、「愛と強い責任感をもって舎監としての職責を全うされた」と会報第 136 号で記している。

長島章氏は 2006 年から 2015 年まで常務理事として務めていただき、公益法人化実現に尽力されたことは先述した通りである。

2015 年に東京女子大で事務局長をやっておられた桃井明男氏を当青年会の事務局長として迎え、事務全般を見ていただくことができた為、その後しばらく原田明夫理事長や徳久俊彦理事長が常務理事を兼務する時期が続いたが、都の立ち入り検査で公益法人として兼務は認められないとの厳しい指摘があり、対応に走る一幕もあった。ようやく 2020 年 5 月から篠原正雄氏が常務理事につかれ現在まで働いていただいている。また、2023 年 9 月から岩見宣治氏が管理担当理事として選任され、会館将来構想の検討やリノベーションの為の働きを進めていただいている。さらに、2024 年 9 月からは徳永友花氏が舎生担当理事として舎生の相談にのる働きを進めていただいている。

各氏が任期中に果たされた、あるいは、まさに果たされている大いなる貢献と数々の労苦に深く感謝したい。

代々の学生主事の方にも、日常生活を通して舎生を指導していただき、大変活躍していただ

加藤せつさん
（1977 年クリスマス祝会にて）

いた。各自学究生活に没頭しなければいけない境遇でありながら、若い後輩舎生の困りごとなど相談にのってもらった。その労をねぎらいたい。

また、事務方や炊事の仕事等で多くの方々にご尽力いただいたので大いに感謝したい。

特に加藤せつさんにおかれては、馬場進専務理事が経営された会社で働いておられたところ新舎再建時に馬場氏に請われて一緒に当青年会に来ていただき、2006 年 7 月まで実に 31 年と 2 か月の長きにわたり事務の仕事を一手に引き受けて頂いた。同時に舎生の良き相談相手として、いわば、母親代わりであった。残念ながら晩年は健康を害され 2012 年に帰天された。翌年 1 月には加藤さんをしのぶ会が当青年会会館にて 54 名出席で開かれた。当青年会 100 年誌の中で舎生との交わりについて加藤さんは次のように書かれている。

『子供のいない私にとり、学生に心配させられ、また喜びを与えられる日々が、生き甲斐となりました。友人に「あなたは幸せね。　東大生ばかり優秀な子供がたくさんいて」と言われます。』

また、末尾に以下の言葉を、私の好きな聖句としてあげておられた。

『愛は全てを完全に結ぶ帯である』（コロサイ 3・14）

**寄宿舎内の技術革新**

1975 年新舎になった頃は、電話が一台あった程度で IT としては何もない、ある意味潔い時代であった。数年後にコピー機が入った時は舎生一同驚いたものである。当時、パソコンもなかったし携帯電話もなかった。

当青年会の会報にしても、新舎設立当時は折り畳み 4 ページの簡素なものであったが、当時舎生の山口栄一氏が加藤せつさんと相談し冊子形式に変更したのが前述した第 67 号であった。1977 年当時、会報を作るには手書きの原稿を東大紛争後廃墟と化していた安田講堂地下にある印刷所に持ち込み、和文タイプで印刷製本してもらったとのことである。

大学でもコンピューターを利用したい時は学内の大型計算機センターに行かねばならない時代、日本で最初のパソコンが発売されたのは 1978 年だから無理もない。ワープロが便利な時代が来て、その後アップルという会社がマッキントッシュを発売したのが 1984 年、マイクロソフトという会社がウィンドウズというソフトを発売したのが 1990 年である。

寄宿舎にインターネット回線が入ったのは、2000 年前後かと思われる。ちなみに東大 YMCA 寄宿舎のホームページ(https://todaiymca.blogspot.com)や SNS（現在は X: @Todai_YMCA）は、2012－13 年頃に舎生たち（特に税所真也兄・坂本敬史兄・千葉岳洋

兄・谷田巌兄・木原盾兄など）の働きで現在の形で運用が本格化した。また、公益財団法人としての東大 YMCA の Web サイト（https://todaiymca.or.jp）は 2016 年頃に創設された。こちらは、当時舎生でマレーシアからの留学生のヘロル・ガイビン氏がドメイン開設からホームページ作成まで、献身的に寮に尽くして下さった。

**会館施設設備の維持改善**

会館の施設設備については使用につれ老朽化が目立つものも出てくるし、時代のニーズに合わないものもでてくる。1992 年に給水管交換工事、1993 年には外壁の大規模補修を実施、建設後 17 年余り最初の大きな出費、計 3700 万円である。続いて 1995 年に内装、照明、冷凍機交換等の大規模な内部補修（2350 万円）が行われ、その年のクリスマスでは見違えるほどきれいになった会館で祝会が行われたと特記されている。1999 年には落雷停電を期に高圧線の張り替えと礼拝堂の照明工事、風呂ボイラーと浴室の改修（費用不詳）が行われた。2001 年には暖房灯油配管の全面更新（費用不詳）を行った。2003、4 年には 2 階の旧賄い人室を女性用浴室に改修、女性用トイレを新設、空調（エアコン）の各室設置、衛生設備の更新や外壁補修など（約 3000 万円）が行われた。これら工事の都度、補修費用捻出のため募金活動が行われ、募金浄財や内部留保で賄われている。

なお、建物の老朽化と関係するかもしれないが、2003 年 3 月には、当寄宿舎上のファミール本郷 7 階で水道管のつなぎ目が外れ、漏水事故になった。このため、4 階階段上の天井から大量の水が流れ落ち、当寄宿舎内が「洪水」に見舞われるという大事件となった。在舎生は総出で真夜中 2 時間ほど排水作業を行ったという。おかげで舎生の一致団結が図られたという成功談はともかく、舎内の内装被害は大規模にわたり、原状修復するまでに約半年、費用は約 1500 万円掛かった。修復費用すべてはファミール本郷側で負担してくれたのは不幸中の幸いであった。会報第 119 号では、当時学生主事だった中村義哉氏がこの洪水事件の顛末を誇らかに報告している。

**今後の再建に関する検討とリフォーム事業**

50 周年の節目を迎える前に 2023 年頃より会館の将来構想について検討が行われている。会館建物は、ファミール本郷との区分所有でありファミール本郷との協調が必要である。ただし、現下の法律条例のもとでは現在の階数ですら作り直すことはできないという制約もある。再建にはなかなか困難な状況にあるわけだが、当青年会としては将来の会館・寄宿舎再建に資するため募金活動を始めることとした。この専用募金は他の運営資金に流用しないことを原則とし、ひろく募金活動が始まったところである。一方、現有設備等の老朽化も目立つことから、内装、トイレ浴室などの衛生設備やセキュリティ対策について改善を図ることとし、先輩の中から山口栄一氏を委員長とし、團紀彦氏にデザインや施工方法を検討していただくプロジェクトが進行中である。

**2025 年新会館 50 周年記念行事**

会館竣工 50 周年を記念して 2025 年 11 月 23 日に記念式典（礼拝ならびに講演会）と祝賀会が開催された。礼拝では当青年会 OB である上田光正牧師に「キリストはわたしたちの平和」と題して説教を行っていただき、その後講演会では当青年会 OB の團紀彦氏に「大地と建築と祈りの場」と題して古代の教会建築の紹介と團氏の建築デザインを踏まえながら講演を行っていただいた。

また、記念事業の一つとして本誌の刊行に至った。本誌 2 章、3 章では卒舎生や現役舎生、関係する皆さんから多くのエッセイが寄せられた。これらは、50 年にわたる折々の懐かしいスナップショットであり、また当青年会の将来へとつなぐ羅針盤ともなりうる。

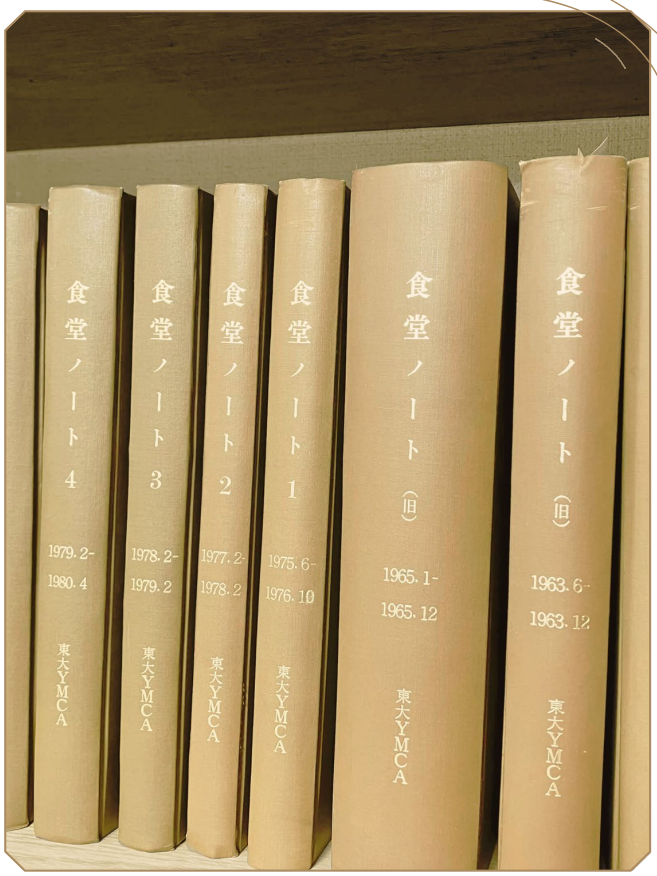
**新しい 50 年へ**

50 年の時の流れの中で、戦争の時代と言われた 20 世紀が終わって 21 世紀となり、すでにその 4 半紀が経過した。日本では激動の昭和が去り、31 年で平成が終わり、令和の時代に至る。しかしながら、時代を経ても地上世界では戦いが絶えず、社会的な不正や制度の不備がはびこるだけでなく、地球環境の問題も枚挙にいとまがない。技術が進み、AI、人工知能の時代が到来したというが所詮あさはかな人間の知恵レベルのままで、神の代わりはできまい。

我が青年会の「新」会館・寄宿舎での諸活動や日々の生活の積み重ねは、50 年にわたる新たな地層を形成した。また寄宿舎を巣立った先輩諸氏の社会での活躍は輝かしいものがある。我が青年会は、それら業績に恥じない新たな歩みを踏みしめつつ、キリスト者・キリスト者たらんとする者として御国の到来を待ち望みたい。

（半田 武比古）

# 第２章
# 卒舎生寄稿エッセイ



# 目　次


森有正と木下順二　大口 邦雄（1956 年理卒）..... 19
旧舎の思い出とクリスマスプレゼント　二神 康郎（1960 年農卒）..... 21
東大 YM 寮舎生としてすごした日々　小出 達夫（1963 年教育卒）..... 23
バッハのカンタータを歌い続けた東大 YMCA コーラス　関澤　純（1966 年農卒）..... 25
東京大学 YMCA の思い出　久保田 信行（1967 年法卒）..... 27
富永 徹 さん のこと　垣内 史堂（1970 年医卒）..... 29
東大 YMCA 会館・寄宿舎　建設小史　岩見 宣治（1971 年工卒）..... 31
気になる“先輩”　篠原 正雄（1971 年理卒）..... 37
旧舎から新舎へ　清水 正之（1971 年文卒）..... 39
東大 YMCA 寮から戴いたもの　半田 武比古（1977 年工卒）..... 41
はるかなる東京大学 YMCA　山口 栄一（1977 年理卒）..... 45
ウズラなんですけど　小林 辰美（1977 年文卒）..... 47
私にとっての東大 YMCA　柿谷 均（1977 年理卒）..... 49
東大 YMCA 新舎という出来事　合田 隆史（1978 年法卒）..... 51
寄宿舎の思い出　西　正典（1978 年法卒）..... 53
シンプル　イズ　ベスト　灰本 周三（1978 年経卒）..... 55
東京大学 YMCA の思い出　倉光 泰隆（1978 年法卒）..... 57
呑喜と南洲屋と…　飯島 康一（1980 年経卒）..... 59
東大 YMCA 寄宿舎にいた頃　高谷 武良（1982 年法卒）..... 61
東京大学 YMCA 会報によるつながり－預言など投稿　近藤 信和（1987 年法卒）..... 63
岩井要先生と青い祈祷室　岩佐 明彦（1994 年工卒）..... 65
東大 YMCA の今昔　五百旗頭　薫（1996 年法卒）..... 67
1980 年代以降の 20 年間における、寄宿舎としての東大 Y の変化と不変
中村 義哉（2000 年経卒）..... 73
東大 YMCA なくして我が信仰なし　関　智征（2003 年法卒）..... 77
兄に囲まれた長男　田川 義之（2004 年工卒）..... 79
東大 YMCA 寮で過ごした日々　三浦 真（2006 年経卒）..... 81
東大 YMCA のおかげさまで　半田 淳比古（2008 年医卒）..... 83
熟議を尽くす—寄宿舎生活を振り返って 木原　盾（2015 年文卒）..... 85
与えられた恵み　木原（金子）友紀（2017 年教育修士修了）..... 87
神様を求める気持ちを大切に　徳永（草間）友花（2018 年工博士修了）..... 89

# 森有正と木下順二

大口 邦雄（1956 年理学部数学科卒）

在舎 1954 年 4 月―1958 年 3 月

私が住んでいた頃の建物は、道路に面して会館があり、奥の部分に寮室と食堂、その奥に二舎と称する畳敷きの部屋があって、先輩達が何人か住んでいた。会館の二階に祈祷室と会堂があり、三階に三室ほど客間があって、私の在舎中、森有正さんがフランスから一時帰国して一年間滞在された。祈祷室で話しを伺う集会を催したが、食堂で夕食後など二舎の先輩たちと交わす議論に耳を傾けるのがもっと面白かった。その内容の多くは森有正全集の初めの方に収録されている。

森さんは変わった面白い人で、賄いの平沢さんというおばさんが、お昼食堂に行くと森さんが一人で饂飩を食べていた。見ると汁をかけずに食べている。「先生、おうどんはおつゆをかけて召し上がるものですよ」と入り口のコンロにかけたてあった大鍋の汁をかけてあげたら、「ほー、饂飩というものは汁をかけると実にうまいものですなあ」とひどく感心したそうだ。この種の逸話は山のようにあるらしい。独特の人柄は会った人でないとわからない。

**略歴・近況：**

本会第 10 代理事長。

国際基督教大学にて、教養学部長、宗教音楽センター所長、理学科長、学務副学長などを歴任。

1992 年～1996 年 国際基督教大学学長。

2004 年～2008 年 恵泉女学園 学園長（2006 年まで恵泉女学園大学学長兼務）。

2023 年 春の叙勲「瑞宝中綬章」受章。

入舎したばかりの頃、毎朝会館の方から異様な声が聞こえるので不思議に思ったが、ぶどうの会という劇団が会堂を借りて毎日練習をしていて、発声練習から始めるのだという。女性用のトイレなどなかったから、若い女優さんとトイレで鉢合わせするのがひどく恥ずかしかった。ぶどうの会は木下順二の作品を公演していた劇団である。それと認識してはいなかったが、山本安英さんと鉢合わせしたこともある。目立たない普通のおばさんだった。

その頃クリスマスには午前中礼拝が行われ、午後近所の子供たちを集めて生誕物語やクリスマス賛美歌を歌わせたりしていた。劇団の俳優さんが『マッチ売りの少女』を、美しく物悲しいピアノかハープの旋律をバックグラウンドで流しながら朗読した。さすがに専門家は違うなと感心した。次の年は、夜の祝会だったか、数人の男女の俳優さんが台本を片手に、立って位置を変える程度の簡単な所作をつけながら中国の民話を朗読した。これが実に面白かった。ああいうやり方なら、少し指導して貰えば素人の僕らでもできるな、とこれも感心しながら観たものである。

入舎して二年目から私は学生理事を務めた。公演が近づく頃、招待券が理事会に届けられ、貧乏学生の私に、図らずも「夕鶴」を観る機会が与えられた。見終わった時私は異様な感動に

襲われ、それからの数日呆けたように何も手につかなかった。それは外側から来たにも拘らず、何かひどく懐かしいもの、自身の心の奥深いところに沈んでいたもの、忘れかけていた何ものかであることに気づいた。それがいったい何なのか、折に触れては考えた。

戦後朝鮮半島から大分県の国東半島に引き揚げて来たのは十二歳の時である。以来六年半にわたる生活は貧しかったが、美しい大地に生きる優しい人々に囲まれて、実に幸せな毎日だった。後ろ髪を引かれる思いで、今や故郷となったこの地を後に上京して来たのである。私は西欧的学問研究を志し、数学者になりたいと願い、フランス語を習得した。宗教音楽に興味を抱き、オルガンやコーラスの技術を学び、日本が欧米先進諸国に劣らぬ文化国家になることに自分の生涯を捧げようと決心していた。戦後十年というこの時代、人々はみなアメリカの方を向いていた。古い日本と訣別してアメリカのようになることが進歩だと信じていた。そしてそれらはみな、学校教育の成果の延長上にあったのである。

そんな時に「夕鶴」を観て、学校教育で培って来たものとは質的に異なる何ものかに突然遭遇したのだ。それは私がそれまで意識的に考えたことのなかった、国東半島での生活体験に一つの意味を与えた。私の深層に横たわるこの日本文化の古層は、戦前・戦中に鼓吹された国粋主義とは別物である。農村には、そもそも臣民などという言葉はない。人々は自然の中で自然とともに、長い歴史を極めて現実的に生きて来たのである。戦争に勝とうが負けようが関係ない。国破れて山河あり。山河とは山や河のことだけではなく、自然とともにしなやかに生きている人々のことでもあることを知った。この体験は、「夕鶴」を観て初めて私の中で一つの経験になった。

森有正全集第一巻はフランス滞在中の思索的手記の形で書かれているが、「バビロンの流れのほとりにて」と題されている。森有正さんと木下順二さんは全く違った道を歩きながら、どこか深いところで繋がっていたのかもしれない。私は木下さんと直接お会いしたことはないが、この二人の先輩から、人格形成に少なからぬ影響を受けた。それは大学の講義では得られない種類のものである。東大 YMCA 寮の良き伝統だと思って感謝している。

# 旧舎の思い出とクリスマスプレゼント

二神 康郎（1960 年農学部農業経済学科卒）
在舎；1957 年 9 月～1960 年 3 月

**略歴・近況：**
愛媛県立松山北高校から東大を経て（株）東食入社、平成 8 年定年退職と同時に国際流通研究所代表となり現在に至る。
日本基督教団信濃町教会所属

旧舎の建物は木造ながら立派な 3 階建てのビルだった。建物の内部は現在の新舎と酷似していて、現在入居しているマンションから東大 YMCA の部分だけを切り取ってそのまま更地に置いた感じだった。しかし寄る年波から建物は古ぼけ、我々が住んでいた時の壁はすすがこびりついたような色具合で、天国と称された 3 階村を除き宿舎は全て薄暗かった。

スペースと入居者の点で旧舎が新舎と異なっている点は旧舎の建物の西隅に二舎と称する和風の部屋があり青年会活動を卒業してしまった大学院生が寝起きしていた。それ以外の部屋には全て学部の男子学生で埋まっていた。一方建物の東の隅には「ぶどうの会」と称する劇団の稽古場があり、常時劇団員が出入りしていた。

当時私が青年会の財務理事をしていた時の主な任務は青年会の財務管理で週一で来舎する大先輩で財務担当の高山さんとの青年会の入出金などの財産チェックだった。他に建物の屋上に設置してあった貯水タンクに梯子を伝って頻繁によじ登るのも任務の一部だった。貯水槽の水面には金属製の球体（ブイ）が浮かんでいてブイは水位に従って上下する仕組みになっていたが、ブイと貯水タンクの接点が錆びてブイが空中に取り残されると舎内全域が断水となる。その修復が財務理事の役目だった。

次は劇団「ぶどうの会」の思い出だ。ぶどうの会のメンバーは東大 YMCA のクリスマス祝会によく賛助出演してくれた。セリフだけの出演だがさすがプロだけあって喝采ものだった。

ぶどうの会は東大 YMOB の木下順二氏が主催、看板女優が山本安英さんであったが発足以来東大 YMCA 寮を稽古場所にしていた。代表的な出し物は「夕鶴」で海外で上演された最初の日本オペラと言われ、公演は国内外で 1037 回に及んだ。音楽担当は有名な団伊久磨氏で昨年開催された東大新舎発足 50 周年記念講演会で「宗教と建築物」と題し講演された OB の団紀彦氏のご尊父だ。

私も一度「夕鶴」を見たが少なからず感動した。木下順二先輩の代表作である芸術性に溢れたオペラの裏舞台をわれらの宿舎が務めたことは誇るべきことではないだろうか。「おつう」を演じた山本安英さんは押しも押されもせぬ大女優であった。「ぶどうの会」のぶどうの由来は知らないが新旧約聖書に頻繁に出てくる「ぶどう」から来たのかもしれない。

余談だが「ぶどうの会」に青木和子さんという女優がいた。もともと演出が希望だったが人数不足で女優として駆り出されたらしい。とてつもないチャーミングな方で YM の舎生の多く

が虜になった。中にはこっそり後をつけた同輩もいたらしい。70年も前の話しだが私にとって今でも忘れられない存在だ。といって会話したこともなく廊下で出会って会釈をする程度のお付き合いだったと思う。当時山本安英の相手役をしていた某男優の女であるとの噂もあった。

本稿を記すにあたりウイキペディアで青木和子を検索してみた。すると驚いたことに 1927年生まれ 99 歳と記してある。1953 年ぶどうの会入団で、これまで結婚した形跡はなく今でも東京のどこかで暮らしているとみられる。

さて、YM のクリスマス祝会といえば、66 年前の YM のクリスマス祝会でのクリスマスプレゼント交換でマグカップをいただいた。プレゼントを渡す相手は決まっているが誰から受け取るかは全くわからないようになっている。これが尋常のマグカップではない。素焼きのカップに絵の具を使い筆でサンタクロースとキャンドルをカラフルに描き、1959.12.12.と日付を入れ Pour Futagami Joyeux Noel と書いたあとフランス語でマタイ 22 章 37〜39 節までを書き連ねたうえ再度薬を塗って焼いたものだ。

貰った時この送り主は萩野瑞さん（1965 年工卒 2023 年永眠）に違いないと思った。数少ないフランス語専攻者で、お互いとても親しくここまで手の込んだプレゼントをくれそうな人は他にいなかったからだ。しかしその後 40 年が経過した頃開かれた同期生による「さりげなく集う YM の会」で会った彼にそれを確かめたところ自分ではないという。これには当てが外れてがっかりすると同時に送り主が闇の中に消えてしまった。

それ以降も送り主の萩野説を私はしつこく信じ続けた。彼以外にフランス語が好きでこれほどできそうな人はいなかったし、彼が送り主を明かさぬ舎の方針を堅持しているかもしれないと思った。それで彼が 2023 年に亡くなり私が東大 YM の会報に思い出の記を書いた時マグカップのことに触れ今でも感謝していると書いた。

ところが会報が発行されて間もなく、萩野谷興君（1963 年法卒）から 1 枚の葉書が舞い込んだ。読めばマグカップを送ったのは私で銀座まで出かけ一日がかりで仕上げたのだという。送り主のことで迷走する私を見るに見かねて知らせてくれたのであろう。彼はドイツ語が第二外国語であったが当時 DEUX DIEU と名乗りフランス語を愛好していた私に合わせてフランス語を使ってくれたようだ。それにしても努力家の彼には改めて頭が下がる。

こういう訳で実にプレゼントを貰ってから 65 年ぶりについに送り主が判明しめでたし、めでたしとなった訳だがこれには後日譚がある。昨年度（2024 年度）の YM のクリスマス祝会の 3 分間スピーチで私はこのマグカップを皆さんに披露したいと思い、スピーチの直前取り出したところ手を滑らせて床に落とし、ばらばらに砕けてしまった。当たり前だがこの手の焼き物は落ちれば必ず砕けるようになっている。

スピーチはそこそこにして私は気まずい思いをしながら破片を拾い集めて持ち帰りセメダインで繋ぎ合わせなんとか復旧することができた。これで私の宝物は貰ってから 66 年経った今も筆立てとして私の仕事机の上を飾っている。

# 東大 YM 寮舎生としてすごした日々

小出 達夫（1963 年教育学部教育社会学科卒）

在舎　1961 年 4 月―1963 年 3 月

**略歴・近況：**

1938 年 長野県長野市生、1958 年 東京大学理科Ⅱ類入学、1963 年 東京大学教育学部教育社会学科卒業、1965 年 東京大学大学院教育学研究科修士課程修了、1965 年 青森県国民教育研究所所長、1969 年 東京大学大学院博士課程中途退学、1969 年 北海道大学教育学部教育行政学講座助手、1995 年 北海道大学教育学部教授、2002 年 北海道大学大学院教育学研究科教授退職、2002 年 北海道大学名誉教授。

北海道大学において、地域連携委員会を設けるなど、地方の教育関係団体や地域企業・北海道教育委員会とのパートナーシップ構築に従事。また、日韓シンポジウム、日米シンポや日本モンゴル教育交流の推進にも携わった。

私は 1959 年東京の信濃町教会で受洗、大学 1 年の時だ。福田正俊牧師からだった。しかし実際に私に決定的影響を与えたのは、長野教会の小原福治だ。高校を卒業して浪人をしていた時だ。実家の農業を手伝いながら、父の勧めで長野教会に行った。小原牧師は県下では有名な教師だった。退職して長野教会の牧師を無資格のまま務めていた。その説教は強烈な印象を私に与え、4 冊の本になって私の手元にある。彼はカントが好きで、世界史の中で最高の哲学者はカントだと再三口にした。カント以上の人間はいないとも言った。小原はキリストとカントと共に生活していた。今になってみると小原福治の言ったことが私にはよくわかる。彼は戦争にくみしなかった。敗戦直前、小学校校長として朝礼講話をした時、日本は負けると生徒に話した。一晩小原は警察に留置された。私が大学で教育学を専攻したのは小原福治の影響だったと今になって思う。

長野から東京に移り、小原福治の勧めで信濃町教会に行った。信濃町教会は東京の教会で、日曜礼拝に来ていた人は私にはどこか合わなかった。教会は人の集まりだ。福田牧師の話も長野の時とは違って聞こえた。私はいつの間にか教会から離れた生活を送るようになった。信仰から離れたわけではない。

私は駒場では理科Ⅱ類生だった。医学部を希望したが到底及ばなかった。本郷に移り、教育学部に再入学し、東大 YMCA 寮に宿舎を得た。移って早々研究室会議で東京外国語大学から移ってきた笠原真美さんに出会った。印象は強烈だった。私は真美さんに惹かれ、しばらくたち、いつしか行動を共にしていた。大学卒業前の 3 月笠原真美さんと結婚し、小原福治牧師の前で結婚した。大学院は、真美さんが社会教育を専攻し、私は教育行政学を専攻した。

この 2 年間の学部学生中、私たち二人は YM の皆さんに大変世話になった。大学の授業のない時には、YM 寮が近かったので、しばしば寮に二人で帰った。当時舎生は男子だけだったので、二人で舎の私の自室に行くのはちょっと気が引けたが、ほかに行く場所はなかった。舎の仲間たちは我々二人を許してくれた。学生仲間の結婚パーティには何人かの舎生の人が列席し

てくれた。特に諏訪さんや大豆生田さんなんかにはお世話になったし、迷惑もかけたと思う。

あれからすでに60年、今私は87歳になった。すでに真美さんは逝ってしまった。私の青春も遠く去った。私の行ける教会も見つからない。聖書も小原福治の本も手の届くところにある。私はロマ書が好きだ。しかしいまそれを読む余裕がない。読む時間はあるが、読まなければいけない本や資料がほかにある。まだ現役生のつもりだ。いつかは聖書と小原福治を中心とした生活に戻りたい。

# バッハのカンタータを歌い続けた
# 東大 YMCA コーラス

関澤　純（1966 年農学部農芸化学科卒）
在舎 1962 年 4 月―1966 年 3 月

**略歴・近況**
東京都公害研究所、ニューヨーク州立大学、香料会社を経て、厚生省研究所で WHO の「国際化学物質安全計画(環境と健康への影響を科学的に評価し各国に周知)」を担当、徳島大学および食品安全委員会ほか。趣味は音楽と登山。福島原発事故被災者の支援を継続中

50 年少し前の話ですが、YMCA 会館竣工 50 周年記念特集号に思い出の一端を寄稿します。私の母方の祖父遠藤新は学生時代東大 YMCA に在籍、1916 年当時には追分寮設計を担当、関東大震災で損傷を受けた後も改修し、1976 年の改修まで多くの方が在籍、私も大学入学時から 4 年間在舎しました。現在も礼拝堂や椅子など以前の面影を偲ぶことができ懐かしさを感じます。私は高校音楽部で 3 年間ハイドンの「天地創造」をコーラスで歌い、中学生の時に初めて買ったレコードは「黒人霊歌（今はゴスペルソング）」を求め、哀愁と力強さを帯びた曲目を愛唱しました。

さてエッセイの本題ですが東大 YMCA では 1959 年に野村良雄氏を顧問とし、音楽美学専攻の先輩等が「グレゴリオ聖歌からバッハまで」を謳い文句に「宗教音楽研究会」を結成、同時にできた「宗教音楽研究会合唱団」（通称 YMCA コーラス）に私は参加しました。コーラスの男声は全員舎生で先輩、同輩、後輩の皆様多数おられたはずですが残念ながらメンバー全員のパートの記憶はなく、現在何とか記憶をたどれるのはバスとしては長島章、島田宗洋、原田明夫、寺尾栄祐、梶村慎吾兄ほかで、テナーとしては村上俊一、川上征、中島伸一兄、関澤他ほぼ 10 名位です。女声陣は音楽大学(武蔵野音大や国立音大)の学生さん、東京女子大、日本女子大、お茶の水女子大の方がほぼ男声と同数参加していました。指揮者は東京女子大学名誉教授・同大学クワイヤ名誉指揮者、明治学院大学クリスマスオラトリオを指揮、室内楽団東京バッハアンサンブル常任指揮者としてバッハ作品の研究と演奏、マックス・ウエーバーの音楽社会学訳解もされた池宮英才先生でした。ピアノ伴奏はピアノ科の学生さん、発声練習は声楽科の学生さんが担当しました。練習曲目は、「キリストは死の縄目に横たわりたもう(Christ lag in todesbanden) BWV4」や、バッハのコラール「主よ　人の望みよ 喜びよ(Wohl mir dass Jesum habe) BWV147」と、ギリシア語による祈りの言葉（「主よ哀れみたまえ」）からなるグレゴリオ聖歌の「キリエ・エレイソン」などでした。カンタータ BWV4 はマルティン・ルター作の復活祭礼拝で歌われるコラールをバッハが編曲したもので通常悲壮な弦楽伴奏で演奏される曲ですが、コラール BWV147 の方はカンタータ“Hertz und Mund und Tat und Leben

(心と口と行いと生き方で)”の終曲で、キリストを信ずる喜びに満ちた曲です。駒場祭の合唱祭への参加に加え、東京女子大学メサイア公演に男声パートの協力出演させていただきました。練習合間には村上氏の尺八演奏披露などもあり、音大の学生さんが卒業演奏で練習中のベートーヴェンのピアノソナタ「アパッショナータ」を礼拝堂のピアノで弾いて下さった時は迫力ある演奏に圧倒されました。私自身は礼拝堂ピアノでバイエルを自己流で練習しましたが、ピアノ科の学生さんに教わればきちんと弾けるようになれたのではないかと後悔しています。

個人的にはシューベルトの歌曲集「美しき水車小屋の娘」「冬の旅」やロシア民謡（ステンカラージンの歌や郵便馬車の御者の歌など原語で）、登山好きなので山の歌、当時の社会を反映し「沖縄を返せ」など、歴史と生活、またロマンあふれる歌に思いを託しました。男子のみの宿舎に女性が来舎し明るい歌声を響かすことができ、クリスマス祝会に分担でお一人を無料招待できたことからコーラスの女性を手分けし招待しました。夏休みには東大野尻寮や同山中寮で合宿があり、合唱団メンバー中には前理事長の原田明夫兄と朋子さんご夫婦のように良縁を結ばれた方も何組かおられました。コーラスを通して仲間とご一緒した楽しいひと時は学生時代の良い思い出であり、おかげ様で今も教会の聖歌隊メンバーとして参加しています。 ところで徳島大学総合科学部の教授として在職時には、映画「バルトの楽園」で紹介された第一次世界大戦中の鳴門の坂東俘虜収容所で、戊申戦争で負けた会津藩士への厳しい処分を経験した会津藩出身の収容所長が、国と家族のために戦い捕虜となったドイツ人兵士を当時として珍しく人道的に扱い地元民との交流を支え楽器の作成に始まる兵士らによる日本初のベートーヴェン第 9 交響曲の演奏を実現させたという伝統ある鳴門市の「2006 年第 25 回第 9 演奏会」に公募の合唱メンバーとして参加しました。

さて最近は世界では大国が大きな顔をのさばらせ、今の日本において物事を内向きにとらえてしまうのは寂しい限りです。東大 YMCA と私達はこの世の動きにどう世に立ち向かってゆくべきでしょうか？

皆様におかれては幅広いお考えをお持ちと思いますが、私たちの教会では会員のうち最も多いのは 80 歳代が 20%超という中、私は教会ではアジアの開発途上国の子供たちへの食と学習の支援事業を担当しています。自分が 60 歳過ぎてからチェロを弾き始めたこともあり、出身普通高校の 40 期後輩の辻本玲さんが 5 年前に N 響首席チェリストに就任したのを機に同窓生の間で彼を応援する会を組織し毎月無料のメルマガを発行し続け、そのほかには福島原発事故被災者を支援する試みも続けています。わずかな働きですが、人の心をつなぐうえでの音楽の素晴らしい力を信じ身近な友や世界の子供たちと手をつないでいきたいと思います。最後に本稿執筆にあたり YMCA コーラスのメンバーにつき、島田宗洋兄、中島伸一兄のご助言をいただきお礼を申し上げます。

# 東京大学 YMCA の思い出

久保田 信行（1967 年法学部第 2 類卒）
1965 年 4 月―1968 年 3 月

**略歴・近況**
北海道紋別郡興部町出身。興部高等学校卒業後、東京大学入学。卒業後北海道電力に入社、定年まで勤務。定年後は囲碁に勤しむ。

## 東大 YMCA に入居、大学生活とその後

1963 年 3 月、北海道の北東、海沿いにある興部という小さな町から大学入学にあわせて上京した。この年、なんの偶然か自分の出身である興部高校から、自分を含め二人も現役で東京大学に合格した。あまりにも珍しいことで、地元新聞に記事が掲載されたほどだった。

とはいえ、東京に親しい人がいるわけではないことには変わらない。当時学費も生活費も全て自分で賄わねばならず、一人で生きていかねばならないと思っていたが、3 年次より入居した東大 YMCA の仲間はそんな自分を温かく迎え入れてくれた。

思い返せば、興部という北海道の片田舎の町から出てきた自分は、教養も文化的経験も自分よりはるかに深い仲間達を前に、多少なりとも気負っていた部分があったかもしれない。しかしながら仲間は自分を「オコッペさん」と呼び、温かく接し、何くれとなく気にかけてくれた。元来人見知りで人付き合いの得意でない自分には、そのことが大変ありがたかった。夕祷の時間を皆と共にもったこと、また当時学生主事でおられた五十嵐正宣さんと一緒にギリシア語を勉強したことなどは今でも思い出に残っている。

法学部を一旦卒業後、学士入学をして第 3 類で一年学んだのち、東大を卒業した。その後は北海道に戻り、定年まで電力会社を勤め上げた。組織に勤める者であれば誰でもそうだと思うが、良いこともあればそうではないこともあった。また 2 年おきの転勤は家族にとって負担だったと思うが、どんな時も常に家族に、とりわけ妻に助けられて定年を迎えることができた。自分なりに故郷に貢献する道を選択したつもりではあったが、東京で学んだ若き日は次第に遠くなっていた。

## 思わぬ縁

しかしながら人生には予想外のことが起こる。長女の翠が東京藝術大学作曲科を受験することになったのだが、非常に厳しい入学試験で 4 次試験まであり、受験期間が 1 ヶ月近くと長丁場になるという。本人の負担も大きいものではあるが、まずはその間に滞在する場所を探さねばならない。

東京藝術大学といえば上野にキャンパスがあるが、東大 YMCA はそこから徒歩 20 数分である。加えて元入舎者の子弟ということで格安で宿泊することができた。受験が終わるまでの数

週間、YM にご厄介になった。その間、林田縫子さんには大変良くしていただき、翠が大学に入学した後もクリスマス会等に誘ってくれるなど、折々に面倒をみてくれた。

また、林田さんの紹介によって翠は弓町本郷教会の礼拝に何度か参加させていただき、そのご縁からオルガンのレッスンを数度受けた。もとよりJ・S・バッハの音楽を愛好していた翠は感激し、その後大学でもオルガンの副科レッスンを受けるようになり、就職するまでの長い間結婚式場のオルガニストとして働いた。オルガンへの道筋を開いてくださったという意味でも、林田さんには大変感謝している。

その後、翠が林田さんと久しぶりに再会しようとしていたまさにその前日、林田さんが体調を崩し急逝された。驚きとともに残念なことではあったが、最後まで矍鑠とした、非常に立派な方であった。

そして現在翠の奉職している聖学院大学には、東大 YMCA の OB である清水正之氏がおられた。偶然清水氏が学長を務められている期間に翠が入職した。これもまた驚くべきご縁であり、自分が過ごした若き日々がこのような未来（現在）に繋がっていたとは、本当に人生分からないものである。

# 富永 徹 さん のこと

垣内 史堂（1970 年医学部医学科卒）
在舎 1965 年 4 月―1970 年 3 月

略歴・近況
1970 年 東大病院内科研修医 1972 年 東大病院第 2 内科医局員、1972 年三井記念病院内科医員、1973 年東大医科研アレルギー学研究部、1976 年 4 月第 2 内科非常勤医、1978 年東大医科研アレルギー学研究部助手、1981 年 10 月～1983 年 9 月米国 NJH ポスドク、1992 年 4 月～2010 年 3 月東邦大学医学部免疫学講座教授、東邦大学名誉教授、2010～2015 年 3 月客員教授として東邦大学医学部で研究活動、2015 年 4 月松蔭大学看護学部教授・看護学科長、2026 年 3 月退職予定.　写真は 16 年前。

記念誌に寄稿させていただこうと思っていたのだが、締め切りが明日になってやっと手を付けることができた。私は 1968 年 2 月から始まった医学部のインターン制度廃止闘争の渦中にいた。このころのことは東大学生キリスト教青年会 100 周年記念誌に寄稿したが、もう一つ書いておきたいことがある。それが富永徹さんのことである。

私が医学科 M3 で、学年末が迫った 2 月にインターン制度廃止を目指して医学部医学科各学年でクラス決議を積み上げ、医学部自治会で学生ストを決議し、ストに入って連日クラス討論に明け暮れていた。（医学部では本郷に進学してから医学部 1 年生になり M1 というので、M3 というのは大学 5 年生のことである。）長くなるので詳細は省くが、インターン制度廃止を目指したこと自体は正しかったと今でも思っている。いろいろな経過はあったがこの後、ストは全学に広がり、さらに全国の多くの大学に広がった。この全国的な学生運動が抑え込まれた後に、医師国家試験を受験するための前提条件とされた 1 年間のインターン制度は廃止された。

医学科では学生ストが合計 1 年半続いたので、M4 だった上級生は半年遅れで、私たち M3 や M2 の学生はほとんどが 1 年遅れて卒業した。富永さんは文学部哲学科だったので、学生ストが全学に広がる前の年に卒業していた。いろいろな批判はあったが、とにかく学生側と大学側が確認書を交わしてとりあえず“正常化”して、授業が再開された。文学部では医学部とは違うことで火種があったはずだが、詳しいことは思い出せない。私は 1 年遅れて医学部医学科を卒業し、東大病院内科の研修医になっていた。東大病院には内科系に 7 講座があり、それまでは医師国家試験合格の後、各内科系の講座に直接入局していたが、私たちの学年から医師国家試験合格後 2 年間は内科系講座を 3 科を回ってその後にどの医局に入局するか決める制度への変更に、内科系医局と話し合って合意していた。

富永さんは文学部の大学院に進学していたと思うが、会うといつも大学側の紛争対処に筋が通らないと嘆いていた。在舎中も“舎内総会”（という名称だったと思う）では、何が根拠になって変更するのかなど鋭い意見を言う人であった。私が東大病院で内科研修医を始めたあと、

ひょっこり彼が私を訪ねてきたことがあり、東大病院の正面入り口を入って　　すぐのところで会ったのだが、岩波の「哲学辞典」と弘文堂の「美学辞典」を私に渡して、「自分はこんな東大で勉強を続けるのも、こんな日本で暮らすのは嫌だから、ドイツに行って勉強する。ついては荷物になるし、これを君にあげる。」と言って去っていった。私はドイツに行ってどこか宛はあるのかと聞いたと思うが、何もないようだったとしか記憶にない。その後は内科研修医としてとても忙しい毎日を過ごしていたので、気になりながらそのままになっていた。ある時、東大Ｙの誰だったか忘れたが「ヨーロッパ旅行でユースホステルに泊まって、翌朝洗面所で顔を洗って歯を磨いていたところ、隣に富永さんがいた」という話を伝え聞いた。とりあえずは元気にしているのだなと安心したが、何をしているのか、どんな暮らしぶりなのかはわからなかった。

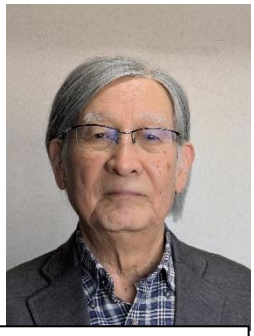
その後数年たって、私は第２科から東大医科研アレルギー学研究部に勉強に行って４年を過ごし、いったん第２内科に戻って内科の診療にあたっていたが、医科研でお世話になった４年先輩から自分の研究室の助手に来ないかと誘っていただき、35 歳目前で内科医から免疫学研究者へと転向した。その後２年間の米国留学を経て医科研アレルギー学研究部の助教授にしてもらった。助教授になった頃だと思うが、富永君がひょっこり医科研まで私を訪ねてきてくれた。医科研本館正面前の芝生に座ってしばらく話をした。これももう 40 年前のことなので記憶がおぼろげだが、ドイツでも定職はないこと、港の荷おろしのような肉体労働もしているということだったと思う。それでも日本の現状を見ると、ドイツで生活し勉強・研究している方が自分にはいいと言っていたことを記憶している。東京でどこにいるのかも聞いたが、八王子の方にいる兄のところにいるということだった。その電話番号を聞いてまた会いましょうということで、その時は帰って行った。

その後は連絡を取ろうと思いつつ、私に余裕がなくてそのままになっていたが、しばらくするとまたドイツへ行った（帰って行った）と誰からともなく伝わってきた。私の方からお兄さんの所に連絡を取ってみればよかったのだが、そのままになってしまった。彼は倉敷工業高校出身で、高卒後しばらく職に就いた後で東大に入り、東大Ｙに入舎してきた人だったので、私よりも 2〜3 歳上だったと思う。健在なら 84〜5 歳くらいになっておられると思う。入舎が私と同期だったように思うが、寄宿舎の委員など一緒に勤めたこともあった。もっと連絡を取っておけばよかったと後悔の念が強い。

名簿にも 1968 年卒のところにずっと名前しか載っていなくて、つながりのあった人間として記録に残しておきたいと思った次第である。締め切り当日に送稿するという、相変わらずの状態であり、取り留めのない話になってしまったが、彼のことを記しておきたいという私の願いをお許しいただきたい。

# 東大 YMCA 会館・寄宿舎　建設小史

岩見 宣治（1971 年工学部都市工学科卒）
在舎：1967 年 10 月～1971 年 10 月



学部と修士で 7 年間大学に在籍した後、運輸省（現国土交通省）に就職して、航空と空港の仕事ひと筋に 35 年間勤務。（航空は目覚ましく発展した分野だったので、結構面白く仕事ができました。）4 年前に完全退職して、今は YM ひと筋、管理担当理事を務めています。

## 1）青年会創立から台町会館へ

「東京帝国大学基督教学生青年会」は、1888 年（明治 21 年）5 月 13 日に大西祝、常松英吉、浜本庫吉、五島清太郎、木村駿吉、兼頭和策、高田畊安、野沢俊二郎、堀田馬三の 9 氏が、西片町の木村熊治氏宅に集まって創立された。その 2 年後の 1890 年（明治 23 年）には、西片町にあった家屋を第一高等中学青年会と共有使用で借受け、4 月 30 日に「聯合青年会館」と名付けて、開館式を行った。これが青年会会館の始まりといえるだろう。

※本小史の記述の多くは「東京大学学生基督教青年会年表」（明治初期から 1952 年まで）に依っており、できるだけ本書の言葉遣いに即して記述した。また、この年表は、当会 OB の荒木亨氏（1957 年文卒）が編纂したもので、以下「荒木年表」と記す。

我が青年会は創立の時から、「寄宿舎生活を共にすることによって、一層我青年会の意義を深からしめん」として、寄宿舎を兼ねた本式の会館を建設しようとする動きがあった。すでに 1889 年（明治 22 年）には、スヰフト・ミラーニ氏の尽力で米国有志の間より募った 1 万円を基礎として、和田垣謙三、井深梶之介、大西祝の三氏の名義で、本郷台町の 370 余坪の土地を会館敷地として購入していたという。その後日清戦役の新機運と共に、建築の計画も進み、1895 年（明治 28 年）年 11 月に、青年会は臨時総会を招集し、会館の建築を為すことに決した。これが初代の本格的な青年会会館となる「台町会館」である。4 月に建築工事に着手し、10 月 17 日には 90 余名の来会者を数えて盛大な開館式を挙行した。木造総 2 階のペンキ塗りの建物で、1 階は食堂、講堂、読書室、応接室、2 階には 10 畳～8 畳の部屋 11 間と祈祷室があり、相当多数の宿泊者を収容できたようである（添付写真を参照）。当時の会館建築には、前述のスヰフト氏や 1 月に来朝した G・M フィッシャー氏に拠るところが大で、お二人は以後長く我青年会のために力を尽されることになる。

※台町会館は、現在の本郷 5 丁目で、「寄宿舎のすぐ下に菊坂の交番がある」との記述もあるので、菊坂を少し上ったところ付近にあったと思われる。

## 2）千駄木会館から追分会館（旧舎）の建設

この年代は、青年会の歴史のなかでも最も活発な活動が行われた時期で、台町会館はまもなく手狭となり、1903 年（明治 36 年）9 月には、青年会総会で、会館新築のため調査委員 7 名を選んだとの記述がみられる。そして 1905 年（明治 38 年）1 月の臨時総会で、この手狭さのゆえと日露戦争を機として青年会の一大発展を図らんとする遠大な構想などから、会館新築の

計画が提議され満場一致で可決された。

これが現在の会館の前身となる「追分会館」に結実していくことになるが、このように、より大きな本格的な会館建設へと青年会を導く源は台町会館の寄宿舎生活で培った精神運動であったようである。例えば、鈴木博氏の談話（会報 11 号）には「西向きの方には 20 畳敷きの食堂がありその中に囲炉裏がありました。秋から冬にかけて盛んに火が起こされ、駄弁熱弁を弄しました。丁度ゲルマンの思想が森から起こった様に、台町の思想は炉辺から起こったのであります」とあり、片山哲氏（1912 年卒）は同号で、「私は台町末期における炉辺会議が今の社会を動かす原動力になっていたのではないかと思う。回想して興味を覚え、且つ有益なる指針を与えてくれたように思う」と述懐している。また、荒木亨氏も、「この炉辺談話から、鈴木文治、吉野作造、河田茂、藤田逸男、星島二郎など平和と進歩のための学者、闘士、実践者を我青年会から産み出したのである」と記している。これらが今に通じる当会館・寄宿舎の理念といえるだろう。

さて、時を経て 1912 年（明治 45 年）に青年会理事会において、台町会館の敷地を 1 万円以上にて売却し、新会館敷地として駒込追分町 53 番地、宅地 141 坪を金 9 千円にて買い受くることに決定した。台町の敷地は、結局 1 万 5,800 円で売れて、10 月中に退去することになったが、後日談があって、木下順二氏の著書「本郷」によれば、これを買い受けたのは、偶然にも同氏の御父君であり、順二氏はその地で生まれ育ったとのことである。まことに奇遇である。

一方、追分の新敷地は既存家屋移転の困難があり、すぐには新会館建設に至らず、1912 年 11 月の臨時理事会で、駒込千駄木町にある 3 棟の家屋を借り受けて移転することとなった。これが結果的に 3 年半続く「千駄木（仮）会館」である。畳敷きの日本家屋であり、この千駄木会館時代を懐かしむ方々も多い。

新会館の建設計画は、用地取得の難航に加えて、米国の不況と世界大戦のために米国からの寄付が延期になったことなどから、一時頓挫するかに見えたが、1915 年（大正 4 年）に米国青年会より 7 万円の寄付金を送付するとの電報がきて、再び具体化に向けて動き出した。敷地問題も解決できて、新会館は 1916 年（大正 5 年）4 月に完成し、千駄木からの移転が開始された。

建築設計は米国人建築家ウイリアム・メレル・ヴォーリス氏（1905 年に来日、滋賀県近江八幡市を中心にキリスト教の信徒伝道者、建築家、実業家として活動し、各地の西洋建築を設計した）、建築総監督は遠藤新氏（1914 年建築学科卒、米国の建築家フランク・ロイド・ライトに師事、多数のライト様式の建築を遺す。後述の当会館大規模修築工事の設計も担当）であった。この時代には珍しい吹き抜けの大空間を持つ大講堂を中心に、寄宿舎、礼拝堂、食堂、ロビーなどを備えた 3 階建ての本格的な建築であった。追分会館献堂式は 10 月 17 日で奇しくも台町会館と同日で、250 余名の参加を得た）。学生招待会では山室軍平、吉野作造、岡田哲蔵、新渡戸稲造氏らによる講演会があり、延べ 550 名の聴衆を集めた。また隣人招待会ではおとぎ話や映画のほか、ピンポン、ボーリング、ピアノ、オルガンなどを開放して約 600 名が参

加したという。

荒木年表の解説には、「大正 5 年の我青年会は、内は追分に新会館の建築、外は大正デモクラシーの狼火となった吉野作造氏の活躍、同じく鈴木文治氏創立の友愛会の順調なる発展などで、会員の意気たるや軒昂たるものがあったであろう」と記されている。また同解説には、新会館を与えられた喜びの大きさを当時の庶務日誌から引用して、「吾等はここに顕然山上の城なる壮麗にして雄大なる新会館を与えられたる事を万腔の熱禱を以て感謝せずんばあるべからず。事ここに到るまでにすでに数星霜の年月の閲したり。台町の会館を去りて千駄木の仮居時代ありしなり。新会館建設の義はその後幾度か頓挫し、愈々工を起こせるは昨大正 4 年 5 月の事なりしなり」との感慨を述べている。

1923 年（大正 12 年）9 月 1 日に関東大震災が発生。我青年会も建物前面が大きく破損するなど相当の損傷を受けた。舎生一同は一高校庭に逃れて事無きを得たが、建物は警察署より玄関とホールの使用が禁止され、また都内の食糧事情の悪さもあって舎生は一時帰郷した。建物の修築工事を急ぎ、1926 年（大正 15 年・昭和元年）5 月に完成、新会館開館式を挙行の運びとなった。大震災後の混乱期にあって、建築計画や資金の調達には相当の苦労があったことと思われる。

完成した新会館は前述の木下順二氏の「本郷」に詳しく、生き生きと書かれているので、長文ながら以下に引用させていただく。

『東京帝国大学学生基督教青年会というのは、本郷通りの電車道に面した三階半の洋館であった。半というのは地階が半分地上にせりあがっていて、当初は室内運動場だったらしいが、私がはいった頃はそこは貸事務所。その上が一階ということになっていて社交室と呼ばれる絨毯敷きのホール、その上の二階が礼拝堂、その上の三階は客間と称して OB が上京して来て泊まる部屋が四つ並んでいたが、私は卒業後この客間に非合法に住みついて、学生時代から通算すると蜿蜒十七年間蟠踞した。前に書いた天文学者の畑中武夫が住んだのもこの客間であり、亡友森有正との忘れがたい隣り同士の交友六年間を、彼がフランスへ去るまで送ったのもこの客間においてであった。寄宿舎はその裏手にくっついていてこれも三階建て。こっちから向こうへ、つまり東から西へ、向かって走る薄暗い長い廊下の両側に、それぞれ七つか八つの洋間の個室がある。だからそれらの部屋は截然と南向きと北向きに分かれていたわけだが、それぞれの階を一階村、二階村、三階村と称して、三村合わせると五十に近い部屋数だったと思われるうえに、二階廊下突き当りの食堂を通り抜けた更に裏には“二舎”と呼ばれる畳敷きの部屋がいくつかあったのだから、“十字軍”が全国の高等学校へ舎生募集に出かけたのも無理はない。一階廊下の突き当りのへんが風呂場、三階廊下の突き当りはヴェランダで、ここは私の生まれた台町の家から真北に直線距離でたったの七百メートルと少々。（中略）大震災後の新築に近い改築の設計者は、帝国ホテルや自由学園を建てたフランク・ライトのお弟子さんであるこの YMCA の OB、故遠藤新さんで、あれがライト式の特徴なのだろうか、社交室の低い天井、全体として安定感のある独特な水平様式は、改築前の帝国ホテルのあのロビーに共通する感じを

持っていた。』

※追分会館（旧舎）の写真と遠藤新氏が描いた建築平面図を添付しているので参照されたい。

また、木下順二氏はこの会館（旧舎）で過ごした日々を次のように語っている。

『各階の別称、一、二、三階村のそれぞれが一日に一度集まって祈禱会をやる。（中略）その祈禱会後の雑談や、冬の夜には社交室の、あのクリスマスで舞台になったフロアで石炭ストーヴを囲んでがやがやといつまでも、というそういう共同生活の中で、若いなりにほかでは持てない人間関係の、また思考のひろがりを、そして快適な毎日を、東大 YMCA は私たちに与えてくれたと思う。三十年代の後半において、そこは当時なりの“自由主義的”雰囲気を、快い調和の上にまだ維持している小世界だった。』

**3）戦前・戦後から新会館・寄宿舎（新舎）の建設へ**

先の第二次大戦の前後における寄宿舎の運営は、国家権力の横暴に始まって、徴兵、空襲と火災の恐怖、6-7 名までに減少した在舎生、極端な食糧難など困難を極めたに違いない。そんな中でも東大 YMCA は、隣地まで迫った焼夷弾の炎がバケツリレーで寸前に消し止められたこと、終戦前後の昭和 19 年も 20 年も 21 年も、たゆまずクリスマス礼拝を守り通したことなどが語り継がれている。また、高井康雄先生（1947 年農卒）が 1959 年会報 42 号に「終戦前後の寄宿舎生活」の寄稿がある。舎は食糧難で舎生有志がしばしば八日市場や津田沼、川越までにも買い出しに出かけたことなどの苦労話の他に、『当時寄宿舎には自宅を進駐軍に接収された大塚久雄先生がおられ、身近で社会科学の教えを受けたこと、木下順二氏と森有正氏らと共に過ごせたこと、あるいは夜を徹した舎友達との「だべり会」などがあって、誠にパラダイスの時代であった』と語っておられる。貧しい生活のなかで、舎生が心の豊かさを持ち続けていたことは驚きであり、救いである。

戦時中の建物の傷みも甚だしかったようで、1950 年には、同盟学 Y 寄宿舎修理補助金から 60 万円、あちらこちらと先輩に頼み歩いて募金計 85 万円を得て、屋根、雨漏り、外壁、設備などの大修理を行ったが、さらに費用が嵩んで 60 万円の負債が生じたという。

さて旧舎は、建築後 40 年余を経て、さらに老朽化が進み、各所に建付けの歪み、廊下の軋み、内装の剥がれなどが生じて応急対策も限界となり、1969 年頃から寄宿舎の再建問題が議論され始めた。何よりも消防署より数度にわたって危険建物の指摘を受けるようになったこともあり、1971 年 6 月の理事会において、会館の再建をなすことを決定し、「会館再建準備委員会」が設置された。確かに木造 4 階建てで、多くの人が各室で石油ストーブを使っているのだから、危険極まりないという不安を感じていた。火事を出さずに無事建替えにこぎ着けたのは誠に幸いであった。

その後の再建への動きは、誠に迅速かつ機動的であった。堀豊彦理事長の穏やかで熱いリーダーシップのもとで、再建準備委員会の委員長に植田武彦氏（1924 年卒）、副委員長に山崎幸一郎氏（1924 年卒）を選出し、岩井要氏（1954 年卒）に建築設計担当を依頼して、執行体制を整えた。OB 会員は、堀豊彦理事長の世代（1924 年前後卒）である「朴羅会」、馬場進専

務理事の世代（1930 年前後卒）の「エントツ会」の方々を中心に、総務、財務、建築、募金・契約の各小委員会を構成した。舎生も学生主事の榊裕之兄と月本昭男兄が中心となり、「舎内再建準備委員会」を発足して、全体の動きを共有しながら、舎内議論と再建への取り組みを強化した。「YM の再建」という目標を持った運動体の強さともいうべきか、今思い起こしても OB と舎生の情熱と一体感が最も高まった時代であったと言えるだろう。

再建案は、①現在の敷地を売却して他に移転する案、②現敷地の一部を売却して残地に新築する案、③現敷地を利用して他施設と合築する案の 3 案を中心に検討された。移転案では、郊外の西船橋の国有地払い下げ用地や近場では文京区白山の売地などが候補に上り、舎生も一緒に現地調査に出かけたが、通学距離、敷地の広さ、価格などの一長一短があり成案には至らず、また現敷地の一部売却案は敷地形状の関係などで困難との結論となった。

残るは合築案で、まず同類のプロジェクトを手掛けていた住宅公団に相談に行ったが、日照権問題の解決などが当方の責務になるなどの不利があって断念した。一方、民間マンション業者の動きは活発で、複数の提案が持ち込まれた。合築案では YM がマンションの一画を区分所有する形となるため、今後の建替えや大規模修繕に一定の制約を受けざるをえないことや将来的には財産価値が目減りすることなどを懸念する意見も出されたが、現在地に引き続き会館を持てる意義も大きく、十分な床面積を持ち、当面の資金手当てや恒久的な収入源を確保できるとの見方で、再建案の方向性が定まった。最終的には、YM の土地を核として近隣地を買収のうえ大規模マンションを建設するという東海興業㈱の提案を採用することとなり、現在の姿の再建計画が決定された。

もう一つの大課題は会員からの募金による資金の調達である。「募金委員会」が設置され、募金実行委員長には鈴木厚氏（1927 年卒）、舎生委員は吉岡直人氏（1972 年卒）が就任した。1972 年 12 月には「東京大学学生基督教青年会再建募金募集趣意書」が作成され、各世代を網羅する会員 140 名が発起人に名を連ねるとともに、『①学生生活のよりよき充足、②学生相互の親睦友好、③学生会員と先輩会員の交流と先輩会員の定例的会合、⑤東大に於ける外国人留学生の寄宿並びに学生会員との友好などの、今までは十分果たすことができなかった諸種の用途にも十分応える事ができる場を提供する場所として、新しい会館、寄宿舎の再建を希求しているところです』と再建の目標が記されている。世代ごとの同窓会などを通じて全会員に呼びかけ、さらに舎生が遠く関西まで赴いて先輩を訪問するなど縦横断の募金活動が展開された。結果的には、会員 350 名と法人 23 件から、募金総額：2,660 万円に達する多大なご協力をいただくことができた。

1973 年 3 月、いよいよ旧舎の解体撤去、新舎の着工が迫ってきたところで、「懐旧舎記念会」が開かれた。片山哲氏や星島二郎氏などの先輩方、礼拝堂を演劇の練習拠点にして来た山本安英さんら「ぶどうの会」の方々、舎生、家族など 100 余名が参加して、さらには、舎生・先輩が足しげく通った「のんき」のおでんや、「南米」のコーヒーなどの屋台も出してもらって、旧舎との別れを惜しんだ。

そして次なる課題は、工事期間中の YM の移転先である。舎生は周辺のアパートを探して分宿し、集会・連絡用に部屋を借りた。事務局の仮事務所は新宿区戸塚の日本キリスト教会館に間借りし、理事会、総会も同会館で行われた。また、工事敷地内にプレハブの倉庫を建ててもらい、図書、什器、備品類を収納してもらったので、散逸することなく引き継ぐことができた。舎生の生活や法人の運営は何をするにも不便で、様々なご苦労があったものと推察される。

新舎の設計は岩井要氏と同氏主宰の「真建築設計事務所」に請け負っていただき、東海興業との折衝にもあたっていただいた。岩井氏の指導を受けながら舎生も設計協議に参画し、他大学 YMCA 寮の動向を調べ、あるいはルーテル神学大学の学生寮の見学に行くなどして、望ましい寄宿舎像を議論し提案した。

YM 所有の敷地は 285 坪（約 940 ㎡）あり、当時の資産価値は 1 億 4,250 万円という。大先輩たちは誠に大きな財産を我々に残してくれたものである。これと等価交換する形で、マンション・ファミール本郷の 1 階から 4 階までの一画（延床面積：約 1500 ㎡）を区分所有することとなった。26 室の舎生個室のほか、2 階に礼拝堂、事務室、OB 談話室、食堂、3 階に集会・娯楽室、舎生談話室、4 階に図書室、和洋の客室などが配置され、豊かなスペースとセントラル方式の暖房設備などを備えた快適な会館・寄宿舎が完成した。また岩井要氏の設計では、礼拝堂には前後に段差をつけて旧舎社交室の雰囲気を残し、旧舎で使った六角テーブルや椅子などを修理して今日に伝える工夫がなされている。

建設工事は石油ショックによる建設資材の不足などの困難に見舞われつつも、OB 諸氏の種々のご尽力により、1975 年 3 月 15 日に新会館が完成した。早速旧舎生 7 名が入居したが、中には気の毒ながら 3 月末までの体験宿泊にならざるを得ない舎生もいたので、新旧両舎に入居したのは、清水正之、篠原正雄、亀井俊之兄の 3 名のみであった。4 月 26 日には佐伯倹牧師の司式・説教により「新会館竣工記念式」が行われ、120 名の参加を得て盛大に祝賀会が開催された。

岩井要氏と再建を担われた先輩諸氏が東海興業㈱と粘り強く折衝していただいたおかげで、新舎建物の他に、マンションの一戸と駐車場 3 台分及び特別寄付金 3,000 万円を受け取れることとなりこれらの資産がその後の当会の健全な運営に大いに寄与することとなった。

**4）これからの会館・寄宿舎に向けて**

当会館・寄宿舎の今後の計画としては、合築・区分所有としたマンション全体の建替えは容易ではなく、一方建築構造的には当分居住可能との見込みが付いたので、2025 年度から、建物の老朽化・不具合箇所、女子舎生用の設備不足、セキュリティ対策等緊急度の高い施設を中心に、大規模修繕に取り掛かることとした。

会館・寄宿舎は、東大 YMCA の存立基盤をなす必要不可欠な施設である。現建物の維持保全と機能の向上に努めて、これからも毎年多くの舎生を迎え、巣立っていくことに寄与できれば幸いである。

# 気になる“先輩”

篠原 正雄（1971 年理学部天文学科卒 D）

在舎　旧舎　1969 年 12 月―1971 年 3 月
新舎　1975 年 4 月―1977 年 3 月

新島学園高等学校卒
東大理学部天文学科卒
1985~2019 駒澤大学教員
2020.5~26.5 東大 Y 常務理事

1969 年 12 月、私は東大 YMCA 寄宿舎に入舎した。現会館の前にあった「旧舎」である。関東大震災後の改修から 50 年近く経った木造の舎。先輩たちが歩いた廊下。木下順二先輩につながる山本安英の会の練習風景。森有正先輩が演奏したというオルガン。

舎でリーダーシップを発揮して議論する面々の中に、三股央兄がいた。東大 YMCA の先輩の一人と思ったのだが、実はちがっていた。当時の舎には、本木セツルメント、目黒 YMCA 等、舎外の活動に関わる舎生が多くいた。三股兄は都市 YMCA のメンバーで、目黒 Y で活動している舎生とつながっていた。

私は目黒 Y などの活動に関わらなかったけれど、舎の再建で旧舎を出て、下宿したころから、三股兄が主事を務めた横浜 YMCA の予備校で非常勤の講師をさせていただいた。

新舎が完成し 2 年ほど暮らした後もしばらくお世話になった。1983 年に私は新舎の礼拝堂で結婚式をあげた。その後、三股兄は私たち夫妻をご自宅に招いてくださった。懐かしい思い出である。18 年後、私の妻が癌で召されたとき、思い出の礼拝堂に集まり私を慰めてくださった若手会のメンバーの中に、三股兄もおられた。若手会が本当の若手の会であったころから、ほぼ毎回三股兄は出席されていた。若手会の当然の主要メンバーである。

2004 年 3 月 20 日、横浜の中華街で開かれた若手会には、大口理事長と事務員の加藤さんも参加された。記憶はあいまいだが、三股兄の送別の会でもあったと思う。2013 年、町田に向かう電車で三股氏とばったり出逢い、話したいこともあるのでそのうち町田あたりでと声をかけられた。しかし、翌年正月に、69 年の生涯を閉じた知らせを受けた。教会で行われた葬儀には懐かしい面々の顔があった。

私は、三股兄についてふさわしい書き手ではない。三股兄と論じ合う人々の中に私はいなかった。兄の言動も活動もほとんど知らない。再建のさなか、新しい舎の活動の在り方をめぐり、吉岡兄と共に三股兄を訪ねたことがある。三股兄を誘う吉岡兄の脇で、私が消極的な物言いをしたことが、ブレーキとなってしまったのではないかと思うことがある。物言いに気を付けていれば、兄を迎えて一層アクティブな舎になっていたのかもしれないと思うこともある。

おそらく、三股兄以外にもいろいろな時代に、会員ではないがその時代の舎生に強い影響を与えた人は幾人もいたことだろう。きっと今も。そして、これからも。

# 旧舎から新舎へ

清水正之（1971 年文学部倫理学科卒）

在舎　旧舎　1969 年 12 月―1971 年 3 月
新舎　1975 年 4 月―1979 年 3 月

三重大学、東京理科大学、聖学院大学教授をへて、聖学院大学学長、聖学院理事長を務める。聖学院大学名誉学長・名誉教授. 日本倫理学会名誉会員

偶然から、旧舎と新舎の双方で、東大 YMCA の生活を体験することができた者として、ささやかな思い出を記しておきたい。正確な記憶はないが、たしか旧舎の最終的な選考の一つ前に入舎を認められたのではなかっただろうか。入舎は 1969 年の 12 月、本郷進学と同じ時期であった。駒場のストライキとその解除の余波で、変則的にその年の 4 月本郷進学が全学的に 12 月になったからであった。当時、特に文学部はなお闘争の余波でほとんど授業はなく、余塵は YM の生活にもいろんな形で影響はあった。しかし、そもそも信仰と生活の場である舎はそれとは別の空間であった。あれこれと思い出は尽きないが、当時の心象風景に関わることでは、いつも身近に音楽があったことだろうか。聖歌の和音はいまでも耳に残る。祈禱室から毎晩のように響いてくる故若原兄の弾くチャイコフスキー、新舎では、片山兄のピアノ演奏、様々なジャンルの音楽に通じていた半田兄から教えられたジャニス・イアン、その青春の繊細な感性がそのまま空気になり音になったかのような曲と歌声、諸兄を通してその後の私の糧となった楽曲は多い。道路の向こう側に喫茶店「南米」があった。何人かの舎生が常連であったが、世間で有名になる前の小椋佳のデビューレコードを聴いたことも懐かしい思い出である。「・・青春の夢にあこがれもせずに　青春の光を追いかけもせずに　流れていった時よ　果てしない海へ　消えた僕の　若い力　呼んでみたい・・」（「しおさいの詩」）、どこか当時の心象風景に合っていたのかもしれない。

旧舎は 4 層の木造建てで、その三層に 30 数人がともに暮らす多人数であったので、たとえば同時期に文学部だけでも 6 人ほどが在舎していた。もちろん医学部、法学部、農学部、薬学部、経済学部，教養とそれぞれ複数の舎生がおり、多彩であったことは現在とはやや異なるところである。食事時の雑談、夕禱での講話と議論、それぞれに個性がやどっており、豊かな舎生活であった。基本的にみな理性的であったが、理論家、社会派、あるいは神秘家と個性の現れは多彩であった。その交わりの中で、わたしはひとつとして嫌な思い出はない。少し遅れた入舎であり、改築時については、わたしは端から見ているだけであった。舎生また OB の方たちの知識・経験をふまえた活躍・献身は、印象深い。在学中に改築をむかえたメンバーは、新舎の完成まで根津やこの近辺に暮らし、月一度程度集まって、近況の報告やおしゃべりを楽しんだ。

巡り合わせで私は、篠原正雄兄、亀井俊之兄とともに、院生として新舎の生活を経験するこ

とができた。今から思えば、旧舎の伝統を新舎にという意識は強かったのかもしれない。新舎の後輩から、こんな発言をしていたと聞く度、当方の記憶になく、恥ずかしく思っている。どうかご容赦を。

1966 年に遠藤周作氏の『沈黙』が発表された。重いテーマではあったが、私には、キリスト教は「お仕着せの洋服」ではなく、「選択」したものであるため、必ずしもそのテーマに共感するわけでもなかったが、読後感を会報に書いたことを覚えている。むしろ特に旧舎時代、深く感じ取っていたのは、先輩としてかつて在舎された森有正氏のことである。祈禱室の置かれたオルガンが、森氏の弾いていたオルガンであるなど、私には意味をもった。森有正氏は、今の若い人にはなじみがないであろうが、東大の仏文の助教授であったとき職を辞し、渡仏し以後パリの東洋語学校で教職につき思索を続けた思想家・哲学者である。キリスト教信仰の近代日本における現実の様態、知的意味を思想史研究の一つの課題と考えていた私には、とても重い存在であった。森氏は、様々な仕事を残しているが、日本語の「経験」ということはその一つである。森氏は、経験は日本語を離れては存在しない。欧米語が「A is B」と発話の主体が誰であっても公共的は命題となるに対して、「A は B でございます」「A は B だ」「A は B でございましょう」等々、発話者甲と乙との関係をむしろ表視することになり、甲と乙との関係が、発話のなかに紛れ込む。森氏はそれを「二項方式」と呼んで日本語が客観的な発話とならず、上下の人間関係が重なることを敏感に感じ批判している。その背後に日本の「家の重み」、あるいは「革命の不在」を指摘してもいる（『経験と思想』）。森氏は、西洋的価値に拝跪したわけではない。当時から共同体論者として批判されてきた和辻哲郎の見解を、正面から受け止めているし、晩年は帰国の機会に、北大でかれが「原爆的」問題を提起したとみる本居宣長を院生と読んでいたという。人間が孤独でありながら、共同性を営まざるをえないそのあり方に正面から取り組んだ思想家といえるだろう。戦後の著作『ドストエーフスキー覚書』（1947 年）のあとがきに「東京・本郷の客舎にて」とあり、67 年の改版あとがきに「イデオロギーのうずまく敗戦後の一種異様な精神情況のなかで模索していた私」という一節がある。ちなみに、旧舎は戦後の文化的拠点という性格を持っていた。木下順二氏の作品を上演しつづけた山本安江さんが稽古場として利用していたこともある。

たとえば他者とは何か、というような容易に答えの出ない問題に根気よく関わり続けてきた流れの一つはキリスト教である。同時期に共に暮らした諸兄が、いつまでも初心を忘れることなくそれぞれの課題に向き合っていることに、いつも眼を開かれる思いを持つ。

私たち戦後の団塊の世代までには、近代日本の悲惨さと陰惨さの影が残る。森氏がドストエーフスキー論等で追究したように、人間が罪人である以上、悲惨と陰惨は今日でも形を変えながらあるだろう。しかし、若い世代の人たちが、足をすくわれる事なく、明朗な言葉と行為で未来を拓こうとしている姿を見る度に「希望」を感ずる。舎が今後ともキリスト教的意味での「希望」を懐くことのできる場であって欲しいと切に願うものである。

# 東大 YMCA 寮から戴いたもの

半田 武比古（1977 年工学部航空学科卒）
1975 年 4 月―1979 年 3 月

略歴・近況：航空会社の技術屋をかれこれ46年余働きもうすぐ引退の予定。学部修士を併せ50年余を「航空」という特殊な分野に捧げたのが、私的自負。終の棲家を信州安曇野に定め、田舎暮らしを満喫。さてこれから何をするか？

會報 124 号（2005 年 12 月発行）に故原田明夫先輩（元理事長）が寄稿された同じ題名の随想を改めて読ませていただき、「この寮に入舎しなかったら今の私はなかったろうと思う」との謙虚な言葉に同感し大いに触発されたので、せめて同じモチーフで徒然に書き記そうと思う。

原田先輩の寄稿、全体を通して大変興味深い内容ですが、ここでは大変恐縮ではあるが抜粋を付けさせていただく。（縦書きを横書きに変換した関係で漢数字を変更）

（原田明夫氏寄稿:會報第 124 号より抜粋）

**東大 YMCA 寮から戴いたもの（1963 年法　原田明夫）**

私は、約半世紀前の 1958 年春に兵庫県から上京して東大に入学した翌年の暮れに東大学生基督教青年会寮に入舎して、1963 年春に卒業するまで約三年余りの間、かの懐かしい旧家で生活しました。人生は偶然の要素で進む途が変りうることは、誰しも経験することだと思いますが、私にとっては、この寮に入舎しなかったら今の私はなかったろうと思うことがいくつもあります。

一つは、寮生の仲間、先輩、後輩の多くといまだに続く交友関係です。今から思うと何を語り合ったか覚えてはいませんが、日頃の生活の合間に、誰彼となく部屋にたむろして夜を徹し口角泡を飛ばして人生のあれこれを論じたことがどれくらいあったでしょうか。キリスト教信仰の問題は、人により様々なものがあり、もとより一筋縄で論ずるような方向には行きませんが、舎生のほとんどの者が、それぞれに語るべき仲間を得て、すべてのことに真剣になって向かい合う姿勢を共有することができたことは間違いないでしょう。この間に自然に得たものの考え方が、あの顔この顔を思い起こしつつ、その後のあらゆる機会に身を処する原点となって私の支えになってくれたような気がします。

もう一つは、聖者の教えを縦の線とし、社会に対する横の関係ではリベラルにして民主的な思想を大切にするこの察が歴史的に育んできた人の生き方です。私は、この夏のある日、以前から一度は行きたいと思っていた宮城県古川市にある「吉野作造記念館」を訪れました。吉野作造先生は、「大正デモクラシーの旗手」と言われ、近代国家としての幕開けとなった明治と動乱の昭和との間でしばしデモクラシーの空気が漂った時代にユートピ

アへの模索を試み、よりよき社会をつくる社会事業家としての活動をし、1917（大正 6）年から 1923 （同 12）年までの間、当会の前身である東京帝国大学学生基督教青年会の理事長を務められました。一貫して流れる先生の思潮は、社会の中で悩み苦しむ弱者に対する視点を常に忘れなかったことではないでしょうか。先生が好んで揮された「忠想」という言葉は、「まごころのこもった思いやり」という意味だそうですが、世界を知り、日本の将来を憂い、生涯はげしい知的戦いを続けた先生の心根を感じることができます。具体的な現れ方は人によって異なると思いますが、この寮に集った多くの方々の心の底にある共通のものであると理解できると思うのです。

最後に、宗教音楽との出会いを忘れることが出来ません。この寮に入舎してすぐ宗教音楽研究会合唱団に属しました。この研究会は、バッハ以前の音楽を勉強するというややこしい研究会で、当時美学とか教育学を専攻していた大秀才の先輩らが始めたもので、舎外からも趣旨に賛同して参加されていた学生がいたほか、女声は音楽大学から美声の持ち主が加わってくれており、東京女子大学の音楽主任だった若き日の池宮英才先生が指導に来てくれて発声の基礎から熱心に教えて頂きました。難しい理屈は結局よく分かりませんでしたが、今でもそのころ歌ったいくつかの宗教曲の一節がふと口をついて出てきたりして懐かしく思います。池宮先生の勧めで、仲間と東京女子大のチャペル・コンサートに参加したりしているうちに、メサイアに辿り着いたのです。以後、学生時代から最近まで、東京に在住する間は昨年第 50 回を数えたメサイア演奏会にボランタリ男声として参加し、コーラルコンサートやオルガン演奏会に訪れるなど、昨年 6 月に 40 年間勤めた法務・検察の職を退くまで、私の人生に貴重な潤いを頂いて参りました。

（引用終わり）

（注）以下メサイアにまつわる感動的なイベントの話が続き、最後に、メサイアの歌の一節から起こして現代社会の多くの問題と精神的な閉塞感を憂い、多様性を尊重しつつ共生を図る理念と哲学の復権が必要であり、知性を働かせる能力を育むべきと、教育論で結んでいます。

（ここからは、半田なりのトリビュートです）

私は新舎一期生として入舎した四名のうちの一人です。1975 年春、同時期に入舎したのは、佐藤廣（医：以後旧姓芦川さんで）、宮内啓行（法）、岩崎英二（工）の三兄でしたが、残念ながら芦川さん、宮内兄の二人はすでに帰天され、今となっては昔話に花を咲かせられる同期入舎生は、岩崎兄だけになりました。

芦川さんは確か大学卒業後にもう一度理三に改めて入学された方で私にとっては人生の先輩、舎内では色々とお付き合いいただきましたが、話し方が理知的でちょっと辛口、単純思考な私にとっては違う見方を教えてくれた方でした。芦川さんは敬虔なカソリック信徒であり、「プロテスタントな」私と宗教論争をしたような、しなかったような・・

晴れて医者になられた後は、新宿区四ツ谷にある佐藤内科小児科医院で長年医療の前線で活躍されましたが、2018 年に亡くなられたのが惜しまれます。

宮内兄は、学業の法学部の勉強はそこそこに（と私には見えました）、トロンボーンを吹き、東大オケにのめりこんだ音楽家肌で、当時からプロ並みのいい音を奏でておられました。彼にせがまれて切符を買い、上野の音楽ホールで東大オケの定期演奏会を聴きに行ったことがあり、プロ顔負けのシンフォニーに驚きました。　さて、演奏曲はブラームスだったか、チャイコフスキーの交響曲だったか、今となっては思い出せません。

宮内兄は大学卒業後に日本郵船に入社され企業人としてまたアマチュアの音楽家として活躍されました。彼の結婚も事務の故加藤せつさんに仲を取り持ってもらった口だったような、本当に加藤さん恐るべしです。ただ、働きざかりの 1995 年 10 月、赴任先のイギリスで病に倒れ、若くして亡くなられたのは、本当に残念です。モロッコ帰りで現地の風土病にかかったのではないかと。

当時のクリスマス祝会での一幕。
左から故宮内、岩崎、故佐藤（旧姓芦川）、合田、劉各兄と半田

新舎に入舎した当時は、東大農学部前の向ヶ丘一丁目付近もそれほど開発されてなくて、ピカピカのマンションの一角に住めるとは・・と感激したとともに心して暮らさないといけないなと思ったところです。入舎当時は旧舎からの先輩が六名ほどおられましたので、東大 YMCA 旧舎からの伝統は、先輩諸氏の温かい対応の中受け継いで来た気がします。勿論、専務理事の馬場さんと事務の加藤さんの薫陶よろしきを得て。

私が在舎していた頃は夕祷が守られていましたが、キリスト教といってもいろいろな考え方があること、また食堂での楽しいダベリなど今でも懐かしく思いますが、さて何を話したものかと。私の部屋は 3 階の奥まったところにありましたが、私の部屋でクラシック音楽とコーヒーが楽しめるということで、色々な方が集まってきて、さながら午後の喫茶店だったかもしれません。　ただ、近くの喫茶店、南米さんには勝てません。

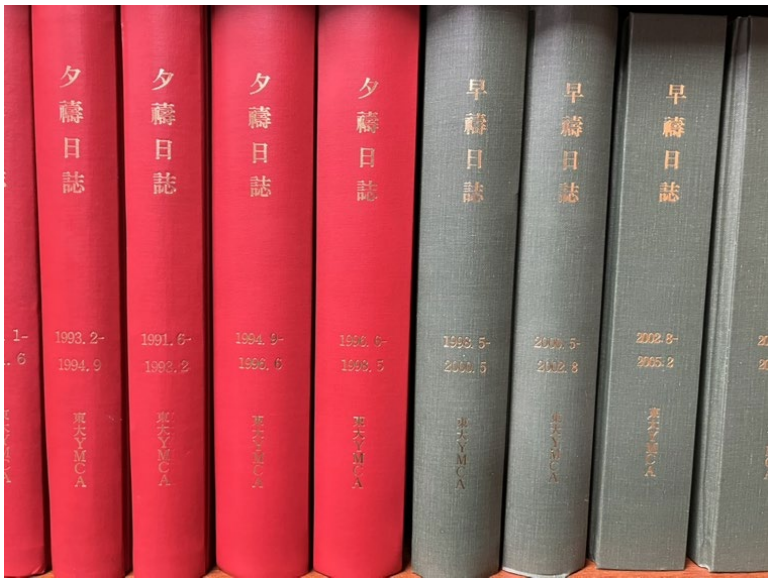
当時、東大 YMCA を運営しておられた、故堀豊彦理事長、故馬場専務理事他錚々たる理事の皆さんには折につけ気軽に声をかけていただき、東大 YMCA の歴史を実感した気がしました。

各方面でご活躍の OB の方からいろいろとお話を聞くことができたことを懐かしく思い出します。特に、大塚久雄さんや木下順二さんの座談会など、今でも鮮明に覚えています。

神学の勉強会では、牧師であり東京女子大学で宗教学の教鞭をとられていた故村上伸教授の勉強会が記憶に残っています。　ディートリッヒ・ボンヘッファーの神学は奥が深く、なかなか深い理解はできませんでしたが、ナチス政権下で真の信仰を守ろうとして逮捕され処刑された彼の生涯は忘れることがありません。　なお、個人的なことで恐縮ですが、家内が東京女子大生で村上先生の弟子だったこともあり、村上先生に私どもの結婚式の司式をしていただいたことも懐かしく思い出します。

（初めにもどって原田大先輩の随想には到底及びませんでしたが、）私にとっての東大 YMCA はキリスト者としての学びもさることながら、仲間や先輩後輩の皆さんとの交流、専門以外の学問（の一端）を垣間見ることができた貴重な四年間だったと思います。

**東大 YMCA　トリビア**




1997 年 3 月夕祷が早祷（早天祈祷会）に変更された。その理由について会報第 108 号（1997 年 12 月発行）で当時舎生その後学生主事の中村義哉氏が報告されています。曰く 1961 年 10 月に夕祷に変更して以来の大転換。変更の一番のメリットは実験、研究等で夜遅くまで大学にいる理系舎生などが参加できること。デメリットは朝早く起きるのが眠くてつらいこと。出席者が 20%増え、まずは順調。このモチベーションを保っていきたいと結んでいます。
夕祷世代の小生としては、なんで早祷になったのかな、という長年のハテナ？が解けました。

# はるかなる東京大学 YMCA

山口 栄一（1977 年理学部物理学科卒）
在舎 1975 年 11 月―1979 年 3 月

**略歴**　NTT 基礎研究所主幹研究員、IMRA Europe 招聘研究員、21 世紀政策研究所研究主幹、同志社大学大学院教授、ケンブリッジ大学クレアホール客員フェロー、京都大学大学院教授を歴任し、オルバイオ㈱代表取締役、京都大学名誉教授。

## 東大 Y に巡り合うまで

1970 年 1 月 8 日、福岡ではめずらしい大雪の日の夜明けに肝臓がんを患っていた母が息を引き取った。あわただしい法要で繰り返される法華経の方便品と如来寿量品をついに暗記するまでになったぼくは、四十九日を終えて悲しむ暇もなく高校受験に突入し県立修猷館高校に入学した。

ところが父はほどなく言った。

「福岡を出るばい。心機一転たい」

「どこへ行くと？」とぼくが聞くと

「東京に行こうと思うとる」と父は答えた。

すでに妹の曜子は、子のいなかった東京の叔母の所に養女として出されていた。母に伝わらぬよう、母ががんだと知らされていなかった 9 歳の曜子は、母の突然の死を前にしてダムの決壊のように泣きはじめ泣き続けた。翌日もその翌日も声をあげてずっと泣いた。そしてそのまま訳も分からずに父と兄から引き離されて東京に連れていかれたのだ。

そんな妹にまた会える。曜子に会いたい。ぼくは、もちろん「うん、行こう」と言った。

こうしてぼくは高 1 の夏に都立立川高校の編入試験を受け、2 年半後に卒業してすぐに駒場に通うことになった。父は再婚して赤ん坊が生まれていたから、狭かった社宅のアパートから早く出なければと思っていたぼくはそこで、駒場寮に入ることにした。ところがある日寮に帰ってみると、ぼくの机は荒らされ、ベッドには誰かが反吐を吐いている。

もうここには住めない。ぼくは荻窪に 6 畳のボロアパートを探し当て、そこで塾をしながら一人暮らしを始めた。中央線の高架の斜め下。家賃 18000 円と格安だけれどとてつもなくうるさいばかりか電車内の便所の汚物がひっきりなしに飛んでくる。

いまつくづく思う。母の死後、どうして 5 年ものあいだ、そんな苛烈な状況から逃げ出さなかったのか。そして大学入学後どうしてそんな酷い生活に耐えられたのか。

それは、ぼくが「この世」から放りだされていたからだ。つまり「あの世」を彷徨っていたのだ、と思う。さらにいえば、ぼくは母親に会いたくて黄泉の国の入り口を探していたのだ。黄泉の国はどこにあるのか、法華経にはその答えは書いてない。そこでキリスト教を始めいろんな宗教の門を叩いた。哲学を始めいろんな学問に入門してみた。唯一、物理学にだけ、「あの世」と「この世」の境界が書いてあった。相対性理論だ。こうしてぼくは物理学科に進むことを決めたのだった。

**東大Ｙに巡り合って**

1975 年、本郷に進学したある秋の日、ぼくは正門付近で 1 枚のポスターを見つけた。東大 YMCA 入舎生求む。月額食事付 32000 円。安い。

何よりもびっくりしたのは、その入舎資格だった。キリスト者もしくはキリスト者たらんとする者。簡潔で美しい。

しかし教会に行ったこともなければ、教会への入り方も知らないぼくに資格があるのか。それでも、キリスト者たらんとすることならできるかもしれない。応募してみよう。

まばゆい輝きを放つできたての東大Ｙの 3 階談話室に集まった入舎希望者は 20 名を超えていた。面接では、いったい何を聞かれるのだろう。おどおどと面接会場に入ってみると、10 人近くの面接官がいた。舎生全員だ。ぼくは被告席に座った。すると篠原正雄さんが優しく問うた。

「将来、どんなことをしたいですか」

ぼくは答えた。

「物理の研究です」それだけだった。

こうしてぼくは、晴れて舎生となることができた。一緒に合格したのはひとり灰本周三くん。同い年の経済学部生だ。灰本くんやそのすぐ後に入舎した文学部東洋史学科の小林辰美くんとは、本当にいつも一緒に過ごした。そして心の中をすべて打ち明けあった。

何よりも忘れられない記憶を掲げておこう。それは、クリスマス祝会でぼくたちが企画したオリジナルの児童劇だ。監督は、小林くん。彼は本屋で「白いりゅう 黒いりゅう」という童話を見つけ出してみごとな脚本を書き上げた。正義の味方の白いりゅうの役は團紀彦くん、悪者の黒いりゅうの役はぼくだ。さらには村の長老役は合田隆史くん、その妻役はその後ぼくの妻になる京子だった。バックミュージックは、小林くんと一緒に良く聞いていたサンタナのアブラクサス。何と今でも黒いりゅうのセリフを覚えている。

「万物は流転するとヘラクレイトスも言っておる」。

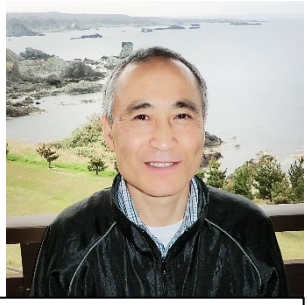
それから 50 年が経つ。篠原さんや清水正之さんは今でもぼくの一番のメンターだし、同い年だった灰本くんや小林くんや合田くんは今でもぼくの心の友だ。

東大Ｙに入らなかったら、ぼくの人生は異なるものになっていただろう。ぼくは今でも「あの世」にいて、彷徨っていたのではないだろうか。きちんとした個室がプライバシーを保ちつつ、しかし同じ釜の飯を食べ夕祷で心の内面を吐き出してみんなに聞いてもらえる。そんな寄宿舎（コレッジ）生活をするうちにぼくはゆっくりと「この世」に戻った。

東大Y。それはぼくの絶望を救ってくれた箱舟だった。10 年後も 50 年後も、できれば 500 年後も静かにここにあって、さまざまな困難を抱え彷徨う東大生たちを優しく受け入れ、そうして柔らかく包みこむ箱舟であり続けてほしい。

# ウズラなんですけど

小林 辰美（1977 年文学部東洋史学科卒）
在舎 1976 年 4 月～1979 年 3 月



**略歴・近況**
出版社勤務を経て、田舎暮らしを求め佐渡島へ移住。現在パン店経営と家庭菜園。

思い出を書きます。

Y 君と街を歩いていたら小鳥屋があって、店先の足元にハトくらいの大きさの地味な鳥が数羽うごめいていました。
「これ、何ていう鳥か知ってるか」と聞くと
「モグラじゃないか」ですって。ウズラなんですけど。

H 君がひとり食堂に座っていたら、もうひとりの H 君が来て生卵をテーブルに置いていきました。すると H 君はニヤニヤしながら足でテーブルゆすり始めました。卵が少―しずつ転がりだしたのに気が付いたもうひとりの H 君はあわてて戻ってきて
「こらーっ」

K さん。夕祷の讃美歌によくハーモニーをつけてました。多才なひとは何でもできる。鶏肉のカレーもおいしかった。

O 君の彼女はバスの一番うしろの席に座るのが好きなんだよ、女王さまになったような気分なんだって。と、もうひとりの O 君が楽しそうに話してました。

Na 君は聖書を文語で読んでる、とびっくりしました。愛読書は森鴎外だと。大きく四つ割にしたキャベツを牛肉と煮込んだ「鴎外スープ」も教えてくれました。彼と一緒にギョーザを作ったことがありました。あとは盛り付けだけ、となったとき、ぼくはどうにも我慢できなくて、一つ食べてしまいました。彼が機嫌をそこねてしまったのは言うまでもありません。申し訳ない。教訓。誰かとギョーザを作るときは、必ず前もって腹ごしらえをしておくこと。

Y 君と八丈島へ行ったことがありました。海が楽しすぎて、泳ぎすぎて、クタクタで、岩にやっと手をかけて登った Y 君、打ち寄せて来た大波にさらわれて後ろに倒れてしまいました。
「死ぬときはこういうふうに死ぬんだなと思った」と言ってました。

M 君が集まりの時、急に窓から差し込んできた光にホコリが浮かんでいました。そのうちの一つを
「空中を漂う微細なネコがヒュルヒュルヒュル」と指先で追っていました。面白いことばかり

言うM君。彼は音楽に詳しくて。僕がたまたま古本屋で買った平凡社の分厚い音楽辞典を譲ってくれないかと頼まれたことがありました。ぼくは断ってしまったのだけれど、彼が持っていたほうが何倍も活用してくれたんだろうなあ。

S さん。台所でインスタントラーメンをゆでながら、吹きこぼれるギリギリのところに火加減を保って見つめていました。秀才中の秀才の静かなひと時でした。

夜更かし君。僕が国からたくさん送られてきた梨を、部屋のドアの外に置いて、「自由に食べてください」と書いておいたら、夜中にゴソゴソ音がしていました。なんだか「人とつながってる」という感じがして、身内が熱くなるようにうれしくなりました。

G 君はギターが上手くて、皆でリクエストしてフォークソングを歌いました。ある時彼が買ったばかりの譜面台を僕は無理をいって譲ってもらいました。
40 年くらい後、再会したときそのことを謝ったら
「えーっ、そんなことあったっけ。よく覚えてるなあ」
僕が記憶力が良いわけではないのです。合宿のとき、G 君は何人かとソファーに座り、その下に寝転がってた Ku 君の背中を、こともあろうに踏んづけて、右手を挙げて、
「悪魔を打ち取ったりー」と嬉しそうに笑っていました。
でも、いちばん笑っていたのは Ku 君のほうだったかもしれない。

Ni 君が何処かの女史たちと、連歌をとりかわしていると聞きました。なるほど、みんなこうして幅広い教養を身に着けているんだな、と妙に感心したことでした。

時々部屋替えがあって、人気があるのは広くて南向きの部屋でした。
だけど Y 君はひとり北側の部屋を選びました。
「北の空のほうがきれいだから」というのでした。

D 君は荒井由美が好きで、部屋の前を通るといつも聞こえてきました。
コーヒーにミルクが解けていくような時間でした。

Ka 君は夕祷で話す順番がまわってきたとき「たまには専攻のことでも」と、生物学の話をしました。僕も生物をやりたかったのだけれど、その前に化学で挫折して、あきらめていたのでした。70 歳近くなってようやく封印を解いて、化学と生物の勉強を始め、今でも続けています。
何の縛りもなく勉強できるというのは、楽しいものですね。

# 私にとっての東大 YMCA

柿谷 均（1977 年理学部生物化学科卒）
在舎 1976 年 4 月―1979 年 3 月

**Profile**　1979 年理学系研究科修士課程修了。東ソー株式会社に入社後、ほぼ一貫してライフサイエンス関連の研究開発に従事。退職後は柿谷技術士事務所を開設して技術コンサルティングや調査活動を継続中。趣味は園芸と歴史。

## 入舎まで

私は大阪市西成区で生まれ、幼少期を大阪府豊中市で過ごした。その後父親の転勤で広島に移り住むことになったが、転校先の小学校では「おまえ、広島の子じゃなかろう」と仲間外れにされた。以来私は今に至るまでずっと「異邦人」の感覚を持ち続けている。

高校 3 年生になった私は広島から寝台特急列車「あさかぜ」に揺られて単身上京し、東京大学理科Ⅱ類を受験した。幸い現役合格することができたが、文字通り右も左も分からない「おのぼりさん」であり、大学では東京で生まれ育った同級生たちが輝いて見えたものである。

私の家の宗派は代々臨済宗だったが、教育者である父はカトリック系のミッションスクール（広島学院中高等学校）に進学するよう助言し、私はこれに従った。当時の広島学院はキリスト教教育に熱心であったが、私はそれを比較的すんなり受け入れることができた。ついにはキリスト教への入信（洗礼）を強く希望するようになり、これに反対する父と何度も口論した。「おまえを広島学院に入れたのはクリスチャンになってもらうためではない」と繰り返し諭されたものである。それでも食い下がり、父に「分別のつく大学生になるまでその信念が変わらなければ認めてやってもいい」と言わせるところまで押し返した。いま思うと不思議な感じがする。強い信仰心からというより、おそらく反抗期真っただ中にあった私は父（＝権威の権化）に対してレジスタンスを起こしていたのだろう。

私は大学に入った年に恩師である神父からカトリックの洗礼を受けた。しかしそれは多分に恩師に対する深い敬意と、恩師や友人たちとの間で思いを共有することによって得られる安心感に依るものだったように思う。自分の頭で考える力はまだなかった。

## YM の門をたたく

駒場での 2 年間を終えた私は、本郷郵便局の裏手にあるパーマ屋の 2 階に引っ越した。下宿部屋の窓を開けると、北の方には周囲を威圧するような高層マンションが見えた。こんなところに住めたらなあ、と漠然と思っていたところ、同じ学科（理学部生物化学科）の先輩である片山兄から学内で声をかけられた。「僕は東大 YMCA の寄宿舎に住んでいるんだけど、一度来てみない？」迷いはなかった。片山兄から入舎選考の手ほどきを受けたのが功を奏したのだ

ろう、1976 年の春、晴れて入舎を許された。

### YM での生活

期待に違わず YM での生活は至極快適なものだった。設備や調度品のすべてが新しく、またきちんと整頓されていたのも心地よかった。中高時代に何度か訪れた長束（広島）のイエズス会修練院とイメージが重なるところもあった。しかし違いも大きかった。まず礼拝堂のつくりはカトリックの聖堂と大きく異なり、しばらくは馴染めなかった。次に使う用語の違いである。詳細は省略するが、私は別の言語を学んでいるような気がしたのを覚えている。

私が入舎したとき、カトリック信者は片山兄と私のふたりだけだった。そのころ舎内ではかなり頻繁にカトリックに対する批判（免罪符やマリア崇拝などについて）の言葉が聞かれ、これもまた刺激的だった。この意味で私はまたしても「異邦人」であったが、ここに集まった学生たちはお互いが異邦人同士であることを意識していたのだろう、激しく議論したあと冗談を言い合って終わるという寛容さにあふれていた。こうした関係性こそが私が東大 YMCA で学んだ最も大きなものだったように思う。

このエッセイを書きながら当時を振り返ると、懐かしい場面が次々と脳裏によみがえる。クリスマス祝会での合唱と寸劇、留学生たちと卓球をしながら交わした談話、野辺山や式根島に出かけた夏の修養会、舎生の才能が満ち溢れていた食堂ノート、小泉さんが作ってくれたジャガイモとベーコンの入ったスープ、などなど。

### 精神の彷徨

社会に出た私はいつしか東大 YMCA で過ごした幸せなときを忘れ、目の前にある課題に立ち向かうことにのみ心を費やすようになった。またキリスト教のマイナス面ばかりが目に付くようになり、カトリックのみならずキリスト教全体に対して懐疑的な見方が自分の中で定着していった。教会に足を運ぶことはなくなり、また東大 YMCA から届く会報は自分とは無縁の遠い存在となった。

私は 50 代半ばでストレスからプチうつになり、一時は仕事の生産性が大幅に低下した。そうした中、自らの精神の安定を保つために読み始めた「ローマ人の物語」（塩野七生著）はこれまでのものの見方を転換するきっかけを与えてくれた。イタリアに住みキリスト教世界にどっぷりつかった生活をしている塩野が「キリスト教嫌い」を公言していることにも大きな興味を覚えた。これをきっかけに、私はカトリックの公式見解と異なるキリスト教理解をしている自分自身を許すことができるようになった。また遥か彼方の存在となった YM の旧舎生たちといつか連絡を取りたいと思うようになった。2024 年末に合田兄らの呼びかけで開催されたウェブ同窓会が発端となり、いまは 50 周年記念誌の作成に関わるという幸運に浴している。私に東大 YMCA の将来を語る資格はないと思うが、どうか新しい時代の要請に応える発展をしていただきたいと願う次第である。

# 東大 YMCA 新舎という出来事

合田 隆史（1978 年法学部（第一類）卒）
在舎 1975 年 6 月―1977 年 3 月

**Profile**　1954 年大阪生れ。1978 年文部省入省、2014-22 年仙台近郊の尚絅（しょうけい）学院大学学長。退任後郷里に戻り、現在非常勤で学校法人明治学院理事、聖学院理事など。1978 年 6 月日本基督教団柿ノ木坂教会にて受洗。現在日本バプテスト同盟潮来教会会員。1976-79、2022-現在本会理事、1988-2008 本会評議員。

**入舎まで**

○大阪の片田舎のクリスチャンホーム 3 代目に生まれ、何とかしてキリスト教の呪縛から逃れようと、高校 3 年まではアリ地獄に落ちたアリの如くもがき続けていたが、ついに力尽きて大学 1 年で受洗。

○それでも心のどこかで、まともなクリスチャンには到底なれないと思っていた自分にとって、「キリスト者たらんとする者」という生き方もあるということに気づかされたのは、ある意味で救いだったのかもしれない。

**入舎して間もなくの頃**

○東大生の様々な生態に触れ、朝起きて夜寝る、飯時に飯を食うというのが全く普通ではないことを知った（それまでは下宿に一人暮らしだが真っ当な日々だった）。

○キリスト者かどうかにかかわらず、キリスト教に対する疑問についてまともに議論できる仲間を見つけた（尊敬する吉野作造先輩がそうであったように）。

○図書室に、聞いたことはあるが見たことのない神学書がずらりと並んでいて、「ここは宝庫だ」と思った（が、実際には僕には難解過ぎてほとんど読めなかった）。

**在舎中のさまざまな契機**

○当時、学部学生といえども、特に他学部の学生と話をするときは、みんなそれぞれ少し背伸びをして（東大生特有の見栄も手伝って）、あえて自分の専門分野（と呼ぶにはあまりにも未熟であったにせよ）の知識や発想に基づいて語ろうとしていた。結果としてそれは（夕禱はもとより食堂や廊下の立ち話に至るまで）自分の成長の貴重な糧になった。旧舎残留の先輩からそれ以上に多くを学んだことは言うまでもない。

○いくつかの例を挙げれば、「物事は放っておくとバラバラになる性質がある。したがって、「昨日の次に今日、今日の次に明日」という順に並んでいると思うのは錯覚で、「昨日という記憶を持ち明日があると思い込んでいる今日」があるにすぎず、昨日、今日、明日は実はランダムに並んでいる可能性が高い（先輩天文学者）」→「明日のことを思い煩うな。明日は明日みずから思い煩わん。一日の苦労は一日にて足れり」（マタイ 6 章）という聖句の自然科学的な意味を悟った。

○「君たちは能天気でうらやましい。大学紛争当時の俺たちは、物事を突き詰めて考え抜いた。極端に言えば、俺は今日なぜたぬきうどんではなくきつねうどんを食うか、についてまで悩んだ（先輩哲学者）。」→頭のいい人は「常識を疑う」のだということを知った（この点で、天文学者と哲学者は一致していた。因みに、大阪人にとって天かすは無料で提供されるべきものであり、いわゆるたぬきうどんは「すうどん」と呼ばれ、きつねうどんとは格が違う。なので、値段が同じであればきつねうどんを食べるのは常識であり、通常この例に関して選択の悩みが生じることはありえない）。
○ジーパンの裾を洗濯挟みで釣って干しているので、腰を上にした方が乾きがいいと助言したら、それでは美しくない、ジーパンを干すときは裾が上でなければならない、と諭された（同期文学部）。→「日常」の行動を規定する原理は、合理主義ではなく美学であるべきだと知った。以後、これを人生の旨としている。
○舎友に勧められて「ベルばら」（池田理代子）を読み始めたら止まらなくなり、徹夜で読破した。そのほか、アクションやビッグコミックなども、誰かが買って食堂などに置いてあったので必ず読んだ。やはり舎友の手ほどきで、クラシック音楽もよく聞いた。それまで少女漫画や成人向け漫画などほとんど読んだことがなく、クラシックは昔の西洋貴族趣味で現代日本人（しかも我々平民）には理解できるはずがないと思っていた。→他者への偏見は自分を不幸にすることを学んだ。

**舎を出てから思うこと**

旧舎の先輩のお話を伺うにつけ、同じ東大生でも紛争前後でずいぶん変わったと思う。一言で言えば、旧舎の世代は、精神構造として、基本的に「天寵を負へる」エリートであったものが、新舎の世代は、いわばごく普通の大衆になってしまったのではなかろうか（もちろん例外はあるだろうが）。普通の大衆でも東大に行けるようになったせいなのか、社会の東大生に期待するものが変わったからなのか、世代が共有するある種の文化があり、そこに変化があるとすれば、きっとその背景にはそれなりの理由があるに違いない。
新舎竣工後数年の間に在舎した、いわば新舎１期生である我々の世代は、全共闘世代にはなじめないが「新人類」にもなり切れない、どちらから見ても「一足違い」の中途半端な世代である。旧舎生から何か「東大Ｙ斯く在る可し」などといった説教めいた訓示を受けたわけでもない。しかし、建物は新しくても、新舎という文化を我々は決して白紙から始めえたわけではない。確かに、我々の世代が東大Ｙの歴史の中で形成された豊かな土壌によって育てられたことに、疑問をさしはさむ余地はない。
であれば、我々には、我々が受け継いだものにささやかでも何がしかの変異を加えて新しい世代に継承していく責任があるのだろう。それは、自分にとっての「東大 YMCA 新舎という出来事」から半世紀を経た今も変わらない、と思うこの頃である。

# 寄宿舎の思い出

西　正典（1978 年法学部公法コース卒）
在舎 1975 年 11 月～1978 年 3 月

**略歴・近況**
1978 年卒業防衛庁（当時）に就職。2015 年事務次官で退職。現在はトランスパシフィックグループという小さなコンサルにいます。48 歳から合気道を始めました。相変わらず防衛省合気道連合会の会長を務めているため毎年 12 月の演武会で「演目第一　会長演武」、これが終わると正月が来ます。

**入舎の背景**

入舎したのは 50 年前の秋、国鉄のスト権ストのために昭島の実家から駒場に通っていた私は動きが取れない時期でした。根津の駅から千代田線で代々木八幡に出れば駒場の裏口は歩いて 10 分ほど。応募した動機の一つはこれでしょう。確かその年の 5 月祭で本郷にいった時に駒込の六義園に足を延ばしたのですが、ちょうど出来て間もない舎を見つけて「こんな施設があるんだ」と驚いたことを覚えています。駒場の掲示板で舎生募集の張り紙を見て飛びつく下地がありました。

**塞翁が馬**

高校で学園紛争にかかわったために 2 年浪人しなければ新舎はできていませんでした。相続のトラブルから母が鬱病に苦しんだ時期と私の大学生活との重なり方も変わっていたでしょう、家を出るという考えにも変化があったと思います。偶然のなせる業です。

**舎での生活**

インターネットはおろか携帯電話すらない幸福な時代。本を読み人と話すことが欠かせない学生生活だったと思います。そして話し込む相手には不自由しない場所でした。そうした中で清水正之兄から教えて頂いた「天皇は日本の政治学ではデーモン、解析することが出来ない存在とする考え方がある」という点は、今に至るまで課題となっています。2011 年の大地震直後のお言葉、ご自身の退位についてのご発言、いずれも憲法が想定していない行為であるに拘わらず一切議論しようとしない憲法学会とマスメディアを見た時に、「デーモン」という観念を思い出したものです。小学校の社会科の授業で憲法 9 条の「戦争放棄」という言葉を聞いた時から感じていた違和感にとって道標となる経験でした。

**今になって思うこと**

50 年という時間は振り返るとあっという間でした。いろいろな方と巡り合い、いろいろな仕事をしました。偶然のなせる業が重なって今日にいたったように思っています。中国の古典を

勉強したいという希望は両親から「そんなものでは食えない」と反対され大学で専攻することが出来ませんでしたが、中国について分析する仕事は数人の仲間と今でも続けています。歴代王朝の興亡を学んで、この共産党体制にも終わりの時が来ることを恐れ、それがどの様なものになるのだろうと思って見ているだけです。70歳を過ぎましたが考えていることは舎生当時とあまり変わりはないようです。

# シンプル　イズ　ベスト

灰本 周三（1978 年経済学部卒）
在舎 1975 年 12 月～1977 年 2 月

**略歴・近況**
1978 年 日本興業銀行入行
2006 年 みずほグループ執行役員
2007 年 みずほ銀行常務取締役
2010 年 みずほグループ常勤監査役
2011 年 スバル専務執行役員
2016 年 スバル常勤監査役
2020 年 退任
最近は、妻の協力を得ながら家庭菜園を楽しんでいる。

1 年ばかりでしたが東大 YMCA にお世話になりました。

今思い返すと、やはり夜の礼拝が一番印象に残っています、皆勤賞とはいかないものの、 真面目に参加していました。夜遊んでいても何か気になって、定時までにそそくさと帰宅していた記憶があります。クリスチャンではない私が何故この夜の礼拝に惹かれたかを振り返ると、その「平易さ」「分かりやすさ」にあった気がします。講話は当然日本語ですし（余談ですが自分の番が回ってくるとテーマを決めるのに悪戦苦闘した苦い経験を思い起こします）、聖書の朗読においても、時代考証的な知識を求められるにせよ、それが無くてもなんとか附いていけました。何よりも日本語ですから。讃美歌においては歌詞がストレートに伝わってくる、すごくわかり易く、多くの美しい曲に溢れていました。こちらも当然日本語です。

翻ってみますと、私の両親は敬虔な仏教徒（曹洞宗）で、月に一度お坊さんがいらして、家族全員が集い講話と読経を聞くのが日課となっていました。父は東洋哲学の素養があったせいか、経典に通じており、読経もかなりの腕前でした。兄は少しかじっていましたが般若心経が精一杯でした。しかし、何一つ努力していない当時の私にはハードルはとてつもなく高く、仏教は正直理解不能な宗教でしかありませんでした。講話は日本語ですからまだ附いていけますが、読経に至っては漢語とは言え、その音読みや言葉の意味や読経のリズムを理解し習得するにはかなりの知識と教養が求められた気がします。正座がマストであったこととも相まって、私には月に一度のこの儀式は苦痛の時間でした。

YMCA の夜の礼拝に参加しながらこのような事をつらつらと考えていました。プロテスタントは奥の深い教義をいかにシンプルでいかに美しい文章や歌にするかを追求した宗教だと思っています。それが故に、食べ物に溢れ、致命的な疫病も克服され、科学万能主義の現代においても、人々の心を捉え、発展している要因だと整理しています。私としてはその活力の源泉は宗教改革にあると結論し、大学図書館でその関連本を読み漁ったのも懐かしい思い出です。今でも先駆者であるルターを尊敬しています。体を張って信念を貫く姿は読んでいて正に感動物でした

一方、仏教界には何故宗教改革が起こらなかったのかは今でも私にとっては大きな謎です。国風文化を生み出した日本人ですから、日本語のお経を編み出したとしても不思議ではありません。その日本語のお経をリズムよく唱えられれば、万人にとって親しみやすく、今とは違った仏教の世界が開けていたかも知れません。僧侶が知識階級の特権を独占しようとした弊害かも知れませんが、大変に残念な事です。

このような文章を寄稿するとは思ってもいませんでしたが、尊敬する東大 YMCA の同期である山口栄一君から強い要請があり思い立ちました。退舎して早 50 年、かえって昔を思い出す良い機会となりました。当時は建物の新築が成り、多様な人材が集まり、大変活気のある寄宿舎でした。1 年間ばかりではありましたが貴重な経験をさせてもらった事に感謝します。最後になりますが、東大 YMCA のますますの発展をお祈り申し上げます。

以上

# 東京大学 YMCA の思い出

倉光 泰隆（1978 年法学部私法コース卒）
在舎 1975 年 11 月―1978 年 3 月

**Profile**　1978 年大学卒業後は東京銀行（現三菱 UFJ 銀行）に入行、銀行退職後は三菱総合研究所に 2021 年まで奉職。現在は悠々自適のはずが、孫達の世話にかり出されている。趣味は、老化防止は指先のこまめな運動からということで始めたクラシックギターと水彩画。

**YM 入舎の状況**

大学 2 年の秋に居住場所を本郷近辺で探し始めたところ、たまたま掲示板で東大 YMCA の入舎募集のチラシに遭遇。早速現地調査したところ、ぴかぴかの新築マンションではないか、しかも個室。大学にも至近で絶好の物件。カトリック系の中高で公教要理をさぼりまくっていた私にとって、「キリスト者およびキリスト者たらんとする者」という要件はハードルの高いものだったが、入舎希望の作文を提出し面接を受けたところ、幸運にも入舎を認めていただいた。山口兄、西兄、灰本兄、中塚兄が同時期に入舎したと記憶。どういう作文を書いたか、また面接で何を聞かれたか全く忘れてしまったが、母子家庭であったことに配慮をいただいたのではないかと思う。入舎開始を 1975 年 11 月としているが、10 月だったかも知れない。入舎後、個室なのでプライバシーは「かなり」確保されることが再認識された。「かなり」というのは「完全ではない」ということなのだが、時折ふらっと訪れる舎生諸兄により読書や勉学が妨げられることはあっても、コーヒーや酒を酌み交わしながら、学部の枠を超えた色々な話ができたことは、まことに貴重な体験だった。

**舎生活のエピソード、思い出**

1　日直日誌

内容、筆跡、文体に各自の個性があふれ、読むのが楽しみだった。特に文学部で倫理学専攻の清水兄や哲学専攻の吉田兄は、万年筆のインク痕鮮やかに丁寧な文字で、凝縮したすきのない文章を毎回記されていたと思う。真似を試みたものの、万年筆でいきなり完成系の文章を日直終了後の限られた時間内に書くことは難しく、断念。

2　夕祷

夕祷は日曜にも行なったかどうか記憶が定かではないが、毎夜いろんな方々の考えを聴くことができた。信仰の話あり、学部で研究している課題の話あり、互いの理解と成長に役立ったと考えている。早祷はなかったと記憶。

3　掃除

入浴後は各自で浴槽を掃除したことは覚えているが、トイレ、食堂、礼拝堂などの公共エリアの掃除を誰が行っていたのか、記憶がない。掃除当番があったのか、それとも月に一度の大掃除日があったのか。サボることは無いはずであるが。

4　食事

小泉さんを思い出す。ベーコンと白菜の入ったスープは特にお気に入り。

5　クリスマス

片山兄の指導で、Mozart の“Ave verum corpus”と翌年は Bruckner の”Locus iste”を合唱した。兄からはラテン語の意味も懇切丁寧に解説いただいた。今でも歌を覚えている。

6　留学生

当時台湾からの留学生が 2 人おられた。劉華昌さんと林靖邦さん。私は第 2 外国語が中国語だったが、当時は中国語の教材は豊富ではなく、中国語のリスニングの宿題として、先生が北京側のラジオ放送を録音したテープの文字起こしをする宿題が課されていた。宿題に取り組んでいたところ、林さんが自室から廊下に飛び出し、「スパイの放送だ！」と叫んだ。何事かと思ったが、向かいの部屋の劉さんが出てこられ、「あれは倉光が中国語の勉強をしているだけだ」となだめてくれ、事なきを得た。後になって聞いたのだが、スパイの連絡は短い文章を 2 度ずつ繰り返して伝えていくそうだ。確かに放送内容は「ベトナム人民共和国を断固支持し・・」とか、「シアヌーク殿下を熱烈歓迎し・・」などの短い文章を 2 度ずつ繰り返していた。

7　ニックネーム

柳元　章さん：中国人風に「リュウ　ゲンショウさん」、短く「リュウゲンさん」

片山　啓さん：一言多命（ヒトコトオオシノミコト）。三井兄が命名。

合田　隆史さん：ゴンベさん。日直ノート等にはゴンベマークでサイン。

半田　武比古さん：ハンダヅケタケヒコーキ。片山兄が命名。

西　正典さん：ブル連隊長。のち防衛事務次官になられた。

灰本　周三さん：田村正和。多分自称。

**洗礼およびその後**

「一言多命」という失礼なニックネームを紹介したが、片山兄にはいろいろお世話になった。おいしい玉露にあずかりながら、理科系の学問の話、芸術の話など興味の尽きない話を伺うことができた。兄に連れられて聖イグナチオ教会に通い始め、大学卒業時の復活徹夜祭の際に洗礼を受ける恵みも与えられた。また、私の結婚式の披露宴の司会も担っていただいた。

その後教会から離れた時期もあったが、現在は自宅の近所のカトリック荻窪教会に所属し、教会委員会などの活動を通して教会の運営のお手伝いをしている。司祭の人材不足のため常駐の司祭はいないが、何とか毎週日曜日のミサは継続できている。皆様一度お越しください。歓迎いたします。

# 呑喜と南洲屋と…

飯島 康一（1980 年経済学部経済学科卒）
在舎 1978 年 4 月―1980 年 3 月

**略歴・近況**

1980 年 4 月東亜燃料株式会社（現 ENEOS 株式会社）に入社し、人事・財務部門を主として、国内は東京本社・和歌山工場・川崎工場やニューヨークおよびヒューストン駐在等を経て、2007 年 12 月退職。その後、数社の人事担当役員を務め、2018 年 3 月実務はリタイア。現在は、東燃国際奨学財団理事長として、海外から日本への留学生に対する奨学金事業に携わっています。世田谷区から借り受けている小さな畑仕事と 2 年前から始めた句会への参加を楽しみにしております。3 人の子どもに合計 9 人の孫がおり、憚りながら個人的少子化対策を講じていると自認しております。

## 呑喜の大鍋

1887 年創業の江戸前おでんの名店呑喜は 2015 年に閉店となった。

私が入寮したのは新舎設立早々の頃であったが、旧地から古参の呑喜は 1 階の片隅に店を構えていた。店内中央には鈍い赤銅色の大鍋が据えられており、穏やかな大人の時間が流れていた。極めて小体な店ではあったが、知る人ぞ知る隠れた名店として人気があり、毎年文藝春秋から発行されていた「東京いい店うまい店」の常連でもあった。南極越冬隊昭和基地にも呑喜のおでんは持ち込まれ、呑喜南極支店(？)として大いに隊員の士気向上に貢献したとも伝えられている。

毎年東大 YMCA のクリスマス祝会は寮生の劇が楽しみの一つではあるが、礼拝堂横でくだんの大鍋からサーブされる、あつあつのおでんもまた贅沢な名物だった。

## 南洲屋のカウンター

呑喜の客層はぐっと渋く、学生時代にはやや敷居の高い場所であったが、本郷通りを隔ててやや農学部寄り斜め正面に位置していた南洲屋にはよく通ったものだ。なんというお名前だったか樹木希林さん似のおねえさんが快活でいつもお店を明るくしていた。調理場を囲むようにカウンター席が設えてあり、その名の南洲に因むものか泡盛が小さなグラスで供された。学生身分でも懐の痛まない味のよくしみた肉豆腐が絶品で、泡盛との相性が抜群であった。

その当時でも十分に古びた風情の仕舞屋だったその店は跡形もなく消え失せてしまったが、朗らかな談笑の光景が、今も記憶の片隅にある。

## 電話の呼び出し

携帯電話が普及したのは 1990 年代後半のことであり、当時は各階の階段正面に受話器があり、それを受けた寮生が館内放送で「○○さん、お電話でーす。」と呼び出しをかけていた。そのため確か夜 9 時以降の電話はご遠慮いただくよう家族友人に頼んでいたように思う。

聞き耳を立てていたわけではないが、その来電コールに「〇〇さんには、よくガールフレンドからの電話があるなあ」などと羨んでいた。

**入寮面接の熱気**

新装間もない寮の設備は快適で美味しい食事も付き、しかも寮費も破格とあって近くの向ヶ丘寮の学生などから羨まれることしきりであった。

当然入寮希望者も相当数あり、面接後の選考会は議論白熱し、結論に至ること数時間に及んだ（コンクラーベの煙は中々上らない）。意見が全員一致するまで議論を尽くすことは伝統であり、夕祷に姿をみせない諸氏もこの時ばかりは顔を揃えた。全員一致という形式は中々興味深いもので、形勢が一方に傾いたかと思ったものの、中入り中断後に一気に逆転したこともありスリリングですらあった。

**夕祷の恵み**

至近距離にある大学の授業はさぼりがちではあったが、一宿一飯の恩義は深く、夕祷は出来る限り参加していた。ただ学校に通っているだけでは接することのない、文系・理系、学部生・院生交じり合って時間を共にする機会は得難いものであった。Christianity を学ぶことと共に、様々な価値観や人生観を側聞することは、その後の社会人人生にとって素晴らしい経験であった。

**サロン・ド・イイジマの夕べ**

夕祷が終わると各自自室に戻り勉学に励むことが皆さんの日課であったが、不勉強な学生であった私の部屋は毎夜それからが佳境を迎えた。ベッドや床に腰を落ち着けた諸兄と大いに歓談を楽しみ、深更に至ることが常となり、人知れず「サロン・ド・イイジマ」なる部屋名までいただくことになった。今では然程珍しくはないパイナップルボートの切り方を実家で仕入れて、皆さんにお出しした時の歓声は嬉しいものであった。

**晴海埠頭の夜明け**

経緯は全く覚えていないが、ある夜明けに寮生数名と晴海埠頭（であったと思う）に赴くことがあった。足をどう調達したかも定かではないが、全面藍色の天空が、西方は藍色を維持する中、東方から徐々に碧色となり更に明度を増していくパノラマショーを、全員が無言でじっと見つめていた時のことを、今でも鮮明に思い起こすことがある。それぞれがどのような感慨をもって暁の空を眺めていたのか、今は知る由もないが。

# 東大 YMCA 寄宿舎にいた頃

高谷 武良（1982 年法学部卒）
在舎 1977 年 4 月-1981 年

**略歴・近況**
1957 年 4 月に姫路市で出生
姫路市内の安平・後藤法律事務所（現「はりま法律事務所」）勤務を経て，1999 年 4 月に姫路市内でしらさぎ法律事務所を開業し，現在に至る。

1　私は、1976 年（昭和 51 年）文 I 入学、田舎の進学校からポッと出てきた学生であったので、東京の何もかもが輝いて見えた。

駒場の同じクラス仲間に坂本堤君がいた。彼は卒業後弁護士になり、残念なことだが 1989 年に発生したオウム真理教坂本弁護士一家殺害事件の被害者として名を残すことになった。彼とは一緒に社会問題の読書会をやっていて、そこで学んだことに関連して公害、労働問題、障害者教育などの現場に社会見学と称して一緒に出かけて行っていた。

そんな学習の中で私は韓国の問題に興味を持った。隅谷三喜男教授の岩波新書「韓国の経済」、やはり岩波新書の T・K 生「韓国からの通信」も読書会のテーマだった。前者は朴正熙軍事政権下での韓国の高度成長を、低賃金・対外依存・借款・大企業と中小企業の二重構造といった経済構造の側から分析したものであり、後者はその時代やその後の全斗煥期の軍事政権下での言論統制、知識人や学生・労働者への弾圧、民主化運動の動きを外に伝えるものであった。そして隅谷氏も T・K 生もクリスチャンらしい。そこで、私の興味は次第にキリスト教に移っていった。そして宗教の嫌いな坂本君とは少しずつ疎遠になっていった。

当時私が住んでいたのは井の頭線永福町駅の北側杉並区和泉 3 丁目。近所の日本キリスト教団の教会にドキドキしながら行ってみた。青年部の方々が快く迎えてくれた。次第にわかってきたことだが、当時その教会では牧師と青年部とが対立しているいわゆる「荒れた教会」であった。青年部では韓国の抵抗詩人で当時獄中にいた金芝河の戯曲「金冠のイエス」をクリスマスの劇でやるというのだ。聖書に記されている「荊の冠」ではなく「金冠」というのは本来「苦難のキリスト」のはずがいつのまにか体制や制度に取り込まれてしまい栄光に覆われた「金冠」になってしまってはいないかという批判がこめられている。保守的な高齢の教会員とも交流することができ、「信徒の友」という日本キリスト教団の雑誌を渡され読んでいたが、そこに私の郷里姫路市の牧師たちが執筆された「河合義一：農民の友として」（河合義一伝刊行会　1976 年）（姫路市に隣接する高砂市選出のクリスチャン国会議員の伝記）の紹介がされていた。私は興味を持って春休みに帰省した時に執筆者の中心人物である姫路和光教会の魚住せつ牧師を訪ねてその伝記を借りて読んでみた。魚住せつ牧師の著書「どぶのそばの教会」（教文館）や兵庫県の牧師が応援した種谷牧師裁判の記録「国権と良心」（新教出版社）も借りて読んでみた。種谷牧師裁判（別名：牧会活動事件）は、1970

年の学園闘争中、警察に追われていた高校生 2 人を保護・かくまったとして、日本基督教団尼崎教会の種谷俊一牧師が犯人蔵匿罪に問われた事件であるが、神戸簡易裁判所で種谷牧師の行為は牧会活動であり正当な業務行為として違法性を阻却するとした無罪判決が下された。主任弁護人は東大 YMCA 出身の中平健吉弁護士である。

そのようなクリスチャンの社会正義を求める諸活動を知って私もクリスチャンになりたくなりその休暇中に魚住牧師から洗礼を受けてしまった。聖書もよく読んでおらず、キリスト教の教理も信仰告白も不勉強なのに何故かそんな気持ちになってしまった。東京の「荒れた教会」から離れたかったこともあると思う。しかし、いわゆる改心の体験はなかった。

2　4 月に大学 2 年生になって東京に帰り、学内掲示板で東大 YMCA の舎生募集のポスターを見て、入舎申し込みをした。申込書添付の作文「私とキリスト教」には上記のようなことをうだうだ書いたと思う。多分こんな浅はかな者を入れるかどうかについては大議論があったと思うが、入舎を許されたということは全員了解してくれたということだ。

東大 YMCA 寄宿舎では多種多様な「キリスト者あるいはキリスト者たらんとする者」と出会えた。カソリックの人とは初めての出会いであった。福音派の人とも初めて話をした。キリスト教音楽や美術に興味のある人とも出会えた。同じ屋根の下で共同生活をする以上別タイプの学生とも仲良くやっていかなければならない。夕祷の場は他者の意見を聞く場でもあり、その後議論になるようなこともあったがこれも楽しい思い出だ。私は、内面を深く見つめながらも社会的な奉仕活動を志向するタイプの竹中義春君（医学部保健学科だったが後年長崎大学医学部医学科に合格）から受けた影響が大である。

教会は寄宿舎すぐ近くの日本キリスト教団西片町教会へ行くことになった。上記中平弁護士もいらしたのでたくさんのことを学ぶことができた。しかし、そのうち牧師の任期をめぐり教会が真っ二つに割れて議論をするようになったので、無教会の高橋三郎先生の集会で聖書を学ぶようになった。そして、詩篇 51 篇の講解を通して真の悔い改めと改心に至った。こんな感じで学生時代はキリスト教漬けの日々であった。

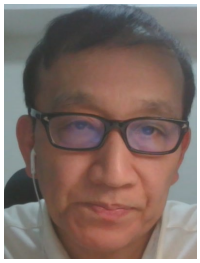
3　現在郷里の姫路で独立開業弁護士として働いている。中平弁護士のような信教の自由や政教分離にかかわる大きな仕事をしたことはないが、キリスト者として恥じることのない弁護士生活を送りたいと願っている。そろそろ 70 歳になるのでそれを機会に弁護士業をリタイアして帰農する予定である。相続した水田で小さな稲作をしていたら村で最後の稲作者となってしまった。

それとともに仕事で忙しい中関西学院大学神学部に通って学んだギリシア語やヘブライ語を思い起こして原典で聖書を学ぶ老後を考えている。

以上

# 東京大学 YMCA 会報によるつながり－預言など投稿

近藤 信和（1987 年法学部第Ⅱ類卒）
在舎 1985 年 4 月－1987 年 3 月



**略歴・近況**
大学卒業後、電機メーカー勤務中（法務）。プロテスタント教会、無教会系の集会、南原繁研究会に所属。教会付属の神学校に在学中。

## 1. 東大 YMCA での出会いや学び、感じたこと

私は大学 3 年 4 年の 2 年間、東大 YMCA で生活し、美味しい食事もいただき、毎日の夕祷や合宿等を経験し、ともに聖書を読み学びお祈りできたこと、私は会計担当と財務理事を経験できたこと、法学部の在舎生二人が（所属教会は異なっても）卒業前のクリスマスに受洗に至ったこと等を感謝しています。夕祷で私が当番の時は信仰書と聖書を読んでいましたがウィリアム・バークレーや内村鑑三の『一日一生』等を使うとよかったです。

## 2. 会報によるつながり

年に 2 回送られてくる会報により、在舎生や卒業生の様子を少しずつでも知ることができ、祈ることもでき、感謝をしています。

私も過去に、勤め先の派遣でイギリスへ語学留学できたこと等を会報に投稿でき、良い記念となっています。

数年前には、南原繁研究会等に所属していることを会報に投稿し、東大 YMCA の知り合いに南原繁研究会の講演会の案内等を送ったりしています。

東大 YMCA 会報 2025 年 12 月号へ掲載をお願いしたものもあります。1)預言、2)イスラエル戦争について、キリスト教関連の市販本等にも私が投稿している内容で、以下に簡単に紹介します。日本の教会から出て行って海外の教会等で話されている内容でもあります。預言によって、国内外の教会数・信徒数を増やし、毎週オーケストラ付の賛美、毎年新しい歌集・CD、海外にいくつもの孤児院等を進めている日本の教会もあります。各教会、各人で預言等の研究をお薦めします。

1)　預言

(1)新約時代・教会時代・現代にクリスチャンが預言することを薦める内村鑑三の言葉

(2)現代において預言することを薦める日本基督教団　高砂教会の手束正昭牧師の言葉、日本基督教団　高円寺東教会　小西芳之助牧師の言葉、日本基督教団の教憲「使徒と預言者との基の上に建てられ、代々・・かくして成立したのが日本基督教団である。」

(3) 日本基督教団出版部の『新約聖書略解』（Ⅰコリント 13:10「完全なものがあらわれたら」とは「キリストが再臨されたら」を意味する。）キリストが再臨されるまで、不完全なもの（預言、異言、知識）は、すたれず、続きます。『ウエスレアン神学事典』「パウロは預言と

いうものを、教会の歴史上継続していくであろう本質的な機能と考えていた」。カトリックの『聖書思想事典』「真の預言的活動は、霊の識別の法則によっていつまでも確認される・・これは今日でも通用する」。

(4)現代の預言は、旧約時代の預言とは異なり、必ず教会の管理のもとで、預言を語り吟味・検討して神からのものだけを選ぶ必要があります。また、(ｱ)預言等の御霊の賜物と(ｲ)愛等の御霊の実の(ｱ)(ｲ)両方を求める必要があります（Ｉコリント 14:1、29、31 等）。

2)　イスラエル戦争（争いがあるときは双方の言い分を聞く必要があります。）

(1)反イスラエルの意見

高橋宗瑠　大阪女学院大学教授「パレスチナ紛争」を語る日本人に欠けている視点 2023 年 10 月 17 日東洋経済 ONLINE。早尾貴紀　東京経済大学教授 2024 年 5 月 31 日　記事：平凡社。

(2)親イスラエルの意見

中川健一牧師　3 分で分かる聖書 Q397「イスラエルはジェノサイド国家ですか」2024 年 5 月 23 日ユーチューブ。パウロ弓野牧師　　世界の終わりは　はじまっています 204「ハマスの情報に惑わされるメディア」2024 年 5 月 8 日ユーチューブ東京町田教会 TLEA。

(3) 聖書のほか、イスラム教のコーランにおいてもイスラエルの民にカナンの地は与えられ認められています（コーラン 5 章　食卓の章 20 節 21 節、17 章　夜の旅の章 104 節）。イスラエルを祝福するものは祝福されます。

以　上

# 岩井要先生と青い祈祷室

岩佐 明彦（1994 年工学部建築学科卒）
在舎 1992 年 4 月―1996 年 3 月

2000 年に博士課程を終了し、新潟大学を経て 2015 年より法政大学デザイン工学部建築学科教授。
災害時に建設される応急住宅を研究しており、最近はイタリアまで調査範囲を拡げています。

手元に一冊の作品集がある。書名は「天と地をつなぐ空間　教会堂」、我らが東大 YMCA の会館を設計した建築家、岩井要先生の作品集である。

岩井先生と親しくさせていただいたきっかけは約 30 年前、20 周年を迎えた会館の改修プロジェクトである。老朽化しつつあった会館の改修が、馬場先生、徳久先生はじめ多くの OB のご尽力で実現することになり、在舎の建築学生としてその改修委員の末席に加わることとなった。

改修委員会では、施工する建設会社との打ち合わせに毎回参加させていただいた。改修は壁紙の張り直しや一部の塗装が中心だったが、改修箇所やその仕上げ方法などを手際よく決めていく岩井先生のお仕事ぶりを間近で拝見することになった。少しは建築の知識が役立てることはできるかと意気込んで参加したもののやや肩透かしを食らったが、その後、工事中の代替宿舎を借りず、居ながら改修を行うこととなったため、工事の進捗に合わせて舎生をあちこちに移動してもらう舎生大移動の司令官を務めさせていただいた。些末な役割ではあったが、場を維持しつつ空間を更新するという営みの一端に関わった経験は、今にして思えば得難いものであった。

改修を終えて見違えるようにきれいになった寄宿舎で再び過ごし始めてしばらくした頃に、岩井先生から連絡をいただいた。作品集を出すのでその手伝いをしてほしいとの依頼であった。岩井先生はすでにご自身の設計事務所（真建築設計事務所）を店じまいされており、所員さんなどもいらっしゃらなかったので、身近な建築学生としてご指名いただいたのだと思う。お手伝いの内容は、作品集の後半部分の図面集のレイアウトで、お預かりした図面を切り貼りし、版下原稿を作成した。完成した版下は、たしか花小金井のご自宅までお持ちし、昼食か何かをご馳走になった記憶がある。

手元にある作品集はお手伝いの褒美に頂戴した一冊である。作品集には岩井先生が真建築設計事務所を主宰していた 1965 年から 1995 年のあいだに手掛けられた教会堂・集会施設 30 作品が掲載されている。あとがきによると作品集に掲載できなかった教会堂が 12 あるとのことなので、30 年の建築家のキャリアのなかで 40 以上の教会堂に携われたことになる。日本基督教団銀座教会やかつて神田美土代町にあった東京 YMCA 国際奉仕センターもその作品の 1 つである。

掲載されている 30 作品のほぼ全ては鉄筋コンクリート造で、外装のアクセントにはタイルやレンガが用いられ、しっかりとした安定感を感じさせる。岩井先生が大学卒業後に独立する

までお勤めになった郵政省建築部は、戦前より逓信省建築部として知られ、権威性を廃し、機能性・合理性を追求したモダニズム建築を確立し、多くの建築家を輩出してきた名門設計組織である。作風にたしかに逓信建築の堅牢さの系譜を感じさせる。

教会堂の設計は、一般的な建築と比べて、参照しうる定型を欠く。そもそも建築される数も限られているし、祈りのかたちに唯一の解はなく、それぞれの共同体のあり方が空間に強く反映される。岩井先生は郵政省建築部時代より、「教会建築研究会」に参画し、教会堂の使われ方を研究されており、1964 年に発刊された「教会建築図集」に関わられている。岩井先生の手掛けられた教会堂の平面計画を見ていくと、多くの教会堂は礼拝堂だけでなく様々な諸室が組み込まれ、和室が設えられたものもある。多くの事例研究に裏付けられながら、教会堂が信徒の集う場所として様々に活用できるように細やかに設計されていることが分かる。それぞれの教会の祈りの形を大事にしながら、信徒の集う場を整え、天と地をつなぐ空間を形にしていったのだろう。

改めて作品集のあとがきを読むと、牧師の家庭に生まれ育った岩井先生が建築の道を志したのは、お父様が手掛けた木造の小さな礼拝堂兼牧師館の建設を目の当たりにしたことだという。大学卒業後、建築家になるか悩んで恩師に相談した時に、お父様の職業を問われ、「キリスト教の牧師」だと告げたところ、建築家修行の耐乏生活にも耐えられそうだと恩師も安心し、建築家の道を勧められたというエピソードが語られている。そういえば、私が作品集のお手伝いで、岩井先生とお話していた時に私の父の職業が話題になったことを思い出した。父も祖父も大学教員で工学を専門にしているとお話したと思うが、どういう文脈でそんな話をしたのか覚えていないが、ひょっとしたら私の建築家としての適性を探っていたのかもしれない。岩井先生は、「建築事務所を 30 年やってきたけど事務所を続けるには 1 年に 12 軒ぐらいコンスタントに住宅を設計しつづけないといけない、けっこう大変だよ」なんてお話をざっくばらんにしてくださった記憶もある。岩井先生の婉曲的なご指導もあってか、私は建築家にはならず、大学教員に導かれ現在に至っている。

この文章を書いていて、もう一つ思い出したことがある。寄宿舎の改修時には、岩井先生は耐久性やコストを重視しながら改修に用いる壁紙や塗料を選定されたが、唯一祈祷室の壁紙だけはこだわり、真っ青な布製の壁紙を指定された。確か値段も高かったように記憶している。「濃紺色は色褪せが早いんだけど、心が静まる色だよね。」とおっしゃっていた。祈祷室は改修後の会館で私のお気に入りの部屋となり、よくひとりで過ごしていた。今回、改めて作品集を見返してみると作品集の表紙は、銀座教会の礼拝堂の写真で、天井のステンドグラスから青い光が礼拝堂に注がれている。青い海底に身を沈めるかのように、心を静謐へと導く場なのだろう。ひょっとしたら、あの祈祷室は岩井先生がそっと寄宿舎に潜り込ませた「天と地をつなぐ空間」だったのかもしれない。あの青い祈祷室は現在の会館に残されているのだろうか。ひっそり訪ねてみたい気になった。

# 東大 YMCA の今昔

五百旗頭　薫（1996 年法学部卒）
在舎 1992 年 4 月―1996 年夏頃

**略歴・近況**
1992 年六甲学院卒。1996 年東京大学法学部卒。日本政治外交史を専攻する研究者となり、助手・講師・東京都立大学助教授（首都大学東京准教授）、東京大学社会科学研究所准教授を経て現在、東京大学大学院法学政治学研究科教授。東大 YMCA の顧問も務める。
写真は、2025 年 11 月 22 日、駒場祭での東大 YMCA の出店を訪問した時のもの。飲茶を頂いた。

金曜日の夕食はいつもカレーだった。平日の朝食・夕食を支度して下さる林田縫子姉が、毎週金曜日の夕方前には、コクと酸味のあるカレーをたっぷり作って下さっていた。昔、ある先輩舎生が、カレーが好きだから平日の終わりはカレーにしてくれ、とリクエストしたらしい。メニューを考える負担を週一回減らしてくれる粋な配慮だった、と林田姉は何度もおっしゃっていた。舎生の方でも林田カレーは人気だった。金曜日の夕食はもちろん、土曜日の朝食や昼食もカレーを体内に流し込む舎生が（私含め）いた。週末のトイレからは、カレーの臭いしかしなかった。

原稿が募られた時に、最初に思い出したのはこのことだった。だから筆を執らなかった。東大 Y は生活の場であったから、所帯じみたこと、自堕落なこと、エゴ丸出しのことばかり思い出される。臭いものに蓋をするように、寄稿の呼びかけは見なかったことにした。

しかし私は昨年夏、自宅の工事の関係で三週間ほど OB として泊めて頂き、感謝の念を新たにしたところだった。その際に、在舎当時の様子を回想する機会に恵まれてもいた。気がとがめ始めたところで、中村義哉兄から、あなたも何か書きなさい、というお誘いが来た。思い出すままに記す（現在の舎について私の記憶に自信がないところは、現在、在舎されているウィジャヤ・テオドルス兄にメールで聞くと瞬時に教えて下さった。テオ兄、ありがとう。もちろん、誤りがあれば全て私の責任である）。

私が入舎したのは 1992 年春、大学入学と同時だった。

本郷通りからガラス扉を入る。後方で扉が閉まると、かえって外の風の音が強く聞こえる。聞きながら階段を上がり、二階の玄関で靴を脱ぐ。このあたりは今も昔も同じである。やはり同じく廊下左手に事務室、次いで談話室がある。当時、時間帯によっては事務室に加藤せつ姉がいらして、しみいるような笑顔で迎えて下さった。舎生を子供のように想って下さっていて、がっかりさせると、なぜいけないか静かにお話しになった。さらにひどいと、目に涙を浮かべていらっしゃることがあり、これはこたえた。

廊下突き当りの食堂に入るとさらに数歩の通路があり、その先で三段ほど降りると正面から

左手に食堂本体が広がり、右に入ると台所であるが、このあたりの間取りも今と同じである。当時は通路左手の本棚に沿って椅子が並んでいて、座面に主要新聞がずらりと並んでいた。食卓にはスピリッツ、ヤングジャンプ、マガジンといった漫画雑誌の最新号が置かれていて、漫画好きにはありがたい環境だった。読んでいると林田姉が台所からスタスタと出現して、「勉強熱心ね」などとからかい、ワッと笑う。昨日のことのようだ。

加藤姉も林田姉も亡くなられたことが本当に寂しい。

生活態度が悪いと、林田姉が雷を落とした。気の利く舎生がいれば、加藤姉を悲しませぬように、林田姉の雷が落ちないように先回りして申し合わせ、従わない者がいれば忠告や警告に及んだ。舎の秩序のこれが基本であった。

食堂にはテレビが二つあり、一つは食堂本体の左手の棚の上に置かれた小型テレビだった。入舎当時の舎生の中心は三沢和彦兄で、ひどい近眼だったので、立ってかぶりつきでこのテレビを見ていた。テレビで面白いことを言うと、我々の方を向いて破顔大笑された。実は立派な科学者で、レーザーの研究のし過ぎで近眼になったと私は信じていた。

もう一つ、北西の角のテレビにはビデオデッキがつながっていて、誰かがレンタルビデオ屋で借りたビデオテープを「ガチャコン」と入れて見始めると、居合わせた舎生は面白そうなら一緒に見て、そうでなければ見なかった。

スーパーファミコンもつながっていて、明け方までストリートファイターIIで闘ったこともある。私は操作性の良い春麗ばかり極めて勝ちに走ったので、先輩舎生に苦言を呈されたことがある。

今でもゲームは、新しい機種が食堂にあるが、あまり遊んでいる様子は見なかった。たしか漫画雑誌はない。新聞は日経・朝日・Japan Times・NY Timesを備えていて、さらに舎生個人で朝日を購読する人がいるらしい。舎生が思い思いの食材を置けるように冷蔵庫が増え、何よりも入って左の壁に沿って個人用のロッカーが出現し、それぞれシリアルとかプロテインとかを入れている。

コーヒー人口が増えた。手回しで淹れる人が増え、そこまでしない人・時のためにはネスプレッソのコーヒーマシンが神棚のように鎮座している。これも有志が買ってきたコーヒーカプセルが食卓にストックされていて、原価くらいのお金を寄付すれば飲んで良いことになっている。ずっと赤字らしく、まさに有志である。コーヒー豆を炒るところから研究している篤志家もいるが、まだ成功したとは聞いていない。まさに篤志だ。

要するに紙媒体の定期刊行物は漫画については見当たらなくなり、ライフサイクルの多様化を象徴するものが代わりに増えている。だが新聞は健在で、購読紙の国際化が進んでいる。食堂の居心地がよく、人が集まるのは変わりない。そのための仕組みも合理的にできている。

今の舎生の諸兄・諸姉は皆、聡明でフレンドリーで、何よりも一生懸命生きている。交流すると楽しいことばかりだった。時折、誰かのことを思い出して、論文や就活がうまくいっているかしら、と思い、成功を祈る。家族が増えたような心地がする。

一番大きな変化は、もちろん女性の舎生が出現したことだろう。女子トイレが増えたはずだし、私が気付いたところでは浴室が増えた。今は二階の事務室・談話室の向かいも浴室になっている。その代わりシャンプーやリンスは各自が持参することになっている。

私の在舎時代には、浴室は四階の一か所にあるだけで、誰かが浴室で衣類の手洗いを始めると渋滞した。

当時、外部との連絡手段は三階と四階の中央に置かれた電話だった。十円玉をガチャン、ガチャンと入れながら話す。恋人とぼそぼそ話している先輩舎生もいた。私は色気なく、主にサークルの打合せで使っていた。つい声が大きくなり、目の前のホワイトボードに「もう遅い時間だから声を落として」と書かれて意気消沈したことがある。

今は三階にだけ電話・ファックス兼用機がある。そこにかかってくることはあるが、そこからかける舎生はいないようだ。もちろんコイン式ではなくなっている。

私がいる間に、個室に自分の固定電話を置くことが急速に普及した。部屋に戻ると留守電のランプが点滅していて、「おっ」と思って聞いたが、やがて面倒になって滅多に聞かなくなった。するとある日、父が寮にやって来たので驚いた。私が生きているか確認するためだという。

家族が電話しても私はいない。食堂の居心地が良く、部屋に上がるのは真夜中だったり明け方だったりで、留守電を聞いても折り返さず忘れてしまう。そもそも聞かずに何日も過ごす。

連絡がつかない場合、実家にとっての生存確認手段は、預金の引き落としである。ところがこれにも全然動きがない。当時の舎費は会計担当の舎生に手渡ししていたと思う。月 3 万円台だっただろうか。まとまった現金を一度引き出していれば、しばらく足りる。それで朝食と夕食は林田姉が作って下さり、夕食はボリュームがあって、一品か二品、次の日の昼に回せば私には足りるほどだった。週末はカレーだけでかなり籠城できる。私はお酒が飲めなかったので、飲み会にもいかず寮と大学を行き来し、行き来すらさぼることがあったので、とにかくお金を使わなかった。

部屋の本に飽きると、四階の図書室や三階の祈祷室を漁れば何かしら読みたいものがあった。祈祷室に座って読んでいるとゆっくりと日が暮れ、長い夜が来る。当時、古参の舎生でカワウソというあだ名の先輩がいた。私もカワウソが鼻と目と耳だけ出して沼を徘徊するように、少しずつ古びていく建物の中で過ごしていた。

カワウソの生態は親の知るところではない。母が特に心配し、結局、父が出張のついでに本郷に来てくれたのだった。私はろくに感謝も謝罪も口にしなかった。あの頃は、親は永遠に生きているものだと決めつけていた。子供だった。

落穂ひろいのように最後に一つ、間取りについて思い出したことを記すと、三階の奥に卓球部屋があった。その名の通り卓球台があって時折 ping pong と聞こえてきたが、むしろ読まれなくなった漫画その他の物置のようになっていた。片付けた方がいいという声が何度か上がり、リフォームの時に結局、片付けたかと思う。

私の在舎中に寮の大規模なリフォームがあったのだった。舎生の側では建築学科にいた岩佐

明彦兄が中心になって尽力された。岩佐兄は日頃から研究室での製図や指導に忙しかったようで、真夜中や明け方に顔面蒼白で帰って来ることが多かったが、寮に帰ると何くれとなく動き、舎生をまとめて下さっていた。

反対に、一番役に立たなかったのが私である。私は既にお察しの通り生活能力がなく、親元から離れてからほどなくして昼夜が逆転し、一年生と四年生の時に特に体調を崩した。リフォームは私が四年生の時だったと思う。入院した私の世話に母が上京して寮に泊まり、リフォームのための私の部屋の片付けもしてくれた。

リフォームが終わった頃に退院したかと思う。食堂でリフォームの打ち上げをしていたか、多くの舎生が集まってそういう雰囲気になっていたかの時に私も居合わせ、さすがに恐縮していた。岩佐兄が私にも何か、と思ってくれて、「ベスト・マザー賞」というのを授与してくれた。母以外に褒めるところがなかったのだ。

私が役に立ったのは一つだけ、ちょうど食堂入ってすぐ右の冷蔵庫と壁の間に何かが落ちたか挟まったのだと思うが、病後痩せていた私は苦も無く隙間に入って回収できたことであった。後日、加藤姉と林田姉に怒られた。加藤姉は、もし隙間に入っている間に私の具合が悪くなったらどうやって救い出そうか、と心配でならなかったらしい。林田姉は、加藤姉もいらっしゃるところで私がパジャマのまま降りて来たのにお怒りだった。

このあたりから臭いものの蓋が開き始める。

私はとにかく貢献しない舎生だった。

まず、東大Ｙのサークル活動に身が入らなかった。衣食住を得るという大きな目的が共通しているだけに、それを除いた各舎生の関心や考えはばらばらのはずだと思っていた。だから舎外のサークルやゼミに打ち込んだ。同じように、寄宿生活のルールにも忠実とはいえなかった。特に反抗的だったのではなく、とにかく生活上の自己規律がなかったのだ。

かすかにでも周りからの厳しい目を感じると、それが生活の場であるだけにこたえた。三沢兄や岩佐兄に叱られたら衝撃で、当時の私なら逆恨みしたかもしれないが、お二人とも驚くほど優しかった。他方で根気よく忠告して下さる先輩舎生が複数いらした。私も本当のアウトローになる覚悟はなかった。外部のサークルで悪友だった井川貴博兄が入舎してきて、東大Ｙでも悪友となり、かつ私の言動が一線を超えると苦言を呈するようになった。食堂での夜更かしが増えた責任の一端も井川兄にあり、腐れ縁は今でも続いている。

こうして徐々に軌道修正し、かつ古参になる中で、いつしか居心地がよくなっていく。だが居心地が悪い間に、自分を正当化すべく、当時から「立憲主義」と呼んでいた考え方が私の中ですっかり根付いてしまった。

それは人を批判したり、それどころか集団の中で何らかのイニシアティブを取ったりするのは、周到な手続きを踏むのはもちろん、表立って反対しない人たちの内面も深く慮ってからでなければ認められない、といった考え方だった。およそ政治らしく見えること全てへの敵意だった。せっかく良いイニシアティブを取ろうとしてくれている舎生を、非難してしまったこと

もある。こういう非難こそ有害無益の政治ではないのか、といった自省が当時の私には欠けていた。

食堂ノートを見れば、私が誰かと論争している連続が時代の一側面に見えてしまうかもしれないが、皆様が私を持て余しているのが実態だっただろう。

今の舎生は問題があれば総会で時間をかけて討論し、また Discord のようなチャットアプリで意思疎通しているので、食堂ノートはよほど静かになっている。言い換えれば、かつては食堂ノートを通じて、舎生間のいさかいは大人たちにほぼ筒抜けだった。

林田姉は大仰な言動が嫌いな方だった。食堂ノートに私が書き散らしていることに対しては、「けんかになっちゃったね(笑)」とおっしゃるくらいで、それだけでも私はギクリとしたが、私が偉そうに書いていることと生活態度のギャップが目に余ると、明るいがきっぱりした声で「格好悪いね」とおっしゃり、理由を短く言って立ち去られた。毎回、図星だった。しょげていると、その場でか何日後かに、「五百旗頭さんはごあいさつだけは立派なのよねー」とあきらめたようにおっしゃり、それが（とりあえずは）許してもらえたという合図のようなものだった。

その私が今は政治を研究する学者の端くれになっている。寮生活の遺産はある。政治の世界で誰がどうやって勝つかにはあまり興味がなく、そもそも政治抜きで解決できないのか、どういう時に政治が必要になるのか、といったことに関心を持つことになった。政治の世界である対立があれば、それは適切な対立なのか、第一に社会の中の亀裂を代弁し、第二に社会を分裂させない程度にはデフォルメできているのか、といったことに漠然とした関心があり、明治中後期・大正初期の対立の演出者だった大隈重信の研究から始めた。

私が東大 Y のサークル活動に不熱心だったもう一つの理由は、聖書への苦手意識だった。私の「立憲主義」にはコモンセンスが欠けていた。聖書の端々に記された道徳的教訓に私は関心を持てなかった。哲学の方が深くて鋭いと考え、寮で聖書を研究する会合にはしばしば欠席・遅参し、参加すると一知半解の哲学の知識を使って聖書の解釈をずらしたり反転させたりして喜んだ。聖書くみしやすしと思っていたのだ。舎生の反応は極めて適切で、私が新しい視点を持ち込んだことは歓迎しつつ、時に強く、時に婉曲に違和感を表明してくれた。

聖書の輪読は、東大 Y の中で相対的に好きな活動になった。何といっても私が相対的にでも歓迎されるのはこの時だった。

立教大学から佐藤研先生が教えに来て下さったことが決定的だった。学者としての役割意識からか、ご自分の信仰を押し付けないよう配慮されていたと思う。でも博識で、解説が本質を衝いていた。誰かの言うことが面白いと思われたら、その観点を豊かに育てる知識を注いで下さった。私にそれが当たると、背中から羽が生え、天井まで拡がったかのように気持ちが高揚した。

聖書の記述から乖離しているという批判を受けずに目立つために私が選んでいった戦略は、終末論への傾斜だった。現代の読者が理解に苦しみそうな、荒ぶる神や世の終わりについての

記述を取り上げ、なるほどと思わせる思想的な含意をくみ取ってみせ、実用的・教訓的に見える箇所は終末の炎で燃やしてしまうことだった。そのための語彙が豊富なカール・シュミットやヴァルター・ベンヤミンを読むことが多くなった。結局は、聖書の渦潮に引き寄せられていったのだった。

今の世界を見ると、「世も末だ」と思うことがある。ちょうど中央公論の時評を頼まれており、毎月の締め切りが近付くにつれ、何と言えば良いのか途方に暮れることがある。だがどこかで、「世の末に生まれてオモチロイ」と楽しく考えている自分がいる。寮生活の後遺症だろうか。

これで臭いものを浄化できたとは思わないし、この文章の、特に後半が読者にとって何らかの意味を持つかは疑問である。私にとっては意味があり、執筆しながら、在舎時代にご一緒した諸兄一人一人が浮かび上がってきた。あまり親しくなかった舎生の、顔や声や佇まいまでくっきり浮かび上がってくる。生活を共にするとはこういうことだった。生活の場だから起こる共感と対立、それと密接不可分に行われるサークル活動、両方にまたがる聖書と祈祷と讃美歌。豊饒な寄宿舎であり、学び舎であった。当時の私は理解していなかったのだが、ただ居るだけで多くのものを得た。

「ほっといてくれ」という「立憲主義」と、万人を巻き込む終末論とは矛盾しているはずだが、それに対する自省もなかった。相反する心象風景を抱きながら、学生時代の私は、ガラス扉から出かけ、ガラス扉へと帰っていった。

# 1980 年代以降の 20 年間における、寄宿舎としての東大 Y の変化と不変

中村 義哉（2000 年経済学部経済学科卒）
在舎 1995 年 4 月－2006 年 3 月

**略歴・近況**
大学院では福祉労働を研究。30 代半ばで出身地の大阪に戻り、福祉の現場に入る。以降、福祉事業所の勤務・経営、地元の大学での勤務を経て、現在は賛育会病院で働いている。

## 1. はじめに

本稿は、会報第 130 号（2008 年）に寄せた、「最近二〇年間の寄宿舎としての東大 Y の変化と不変――舎内総会議事録（一九九八～二〇〇七）を通して――」を改稿したものである。なお、この副題（の期間）は実は誤りで、正しくは会報第 130 号の本文に記した通り、創立 100 周年以降の 20 年間、1998 年 1 月から 2007 年 12 月までの舎内総会議事録をもとにしている。

## 2. 外部との関係

**【学 Y 活動】**

98 年当時は、日本 YMCA 同盟の夏期ゼミ運営委員会が東大 Y で開かれており、08 年当時と比べると、学 Y 活動の距離は近かったようだ。以降の 20 年間を通して、東大 Y 全体としての学 Y 活動との距離は、途切れはしないものの、全体として大きく近づくことはなく、1997 年 3 月には、入舎選考会において署名が求められる「承諾書」の中から、「夏期ゼミなど年 5 回の学生 YMCA の活動に参加すること」という項目が削除されている。ただ、学 Y の行事等は、食堂ノートや舎内総会で共有されており、舎生の中でも総務部員を中心に参加者は連なっていた。

## 3. 入舎・在舎

**【入舎選考会】**

入舎選考会は、寄宿舎運営において最も重要な行事の一つである。これに関しては、最近 20 年間（当時）の会報でも、第 95 号（91 年）から第 98 号（92 年）まで連続して論考が寄せられている（第 95 号特集「入舎選考と寄宿舎の在り方」・馬場進専務理事「入舎選考の重要性について」、第 96 号特集「続・入舎選考会と寄宿舎の在り方」・柴谷光信「退舎にあたって」、馬場進専務理事「東大 YMCA の進路（改題）」、三沢和彦「キリスト者またはキリスト者たらんとする者」、第 97 号特集「東大 YMCA の今後を考える」・三沢和彦「（第 1 回）入舎選考会に伴う最近の問題点」、第 98 号三沢和彦「YMCA の今後を考える（第 2 回）」）。

ふり返るに、入舎選考会に際して寄宿舎が抱えていた問題は、20年間を通して大きく変わらず、いつも新たに問い直され続けていた。

もっとも、入舎選考のシステムは、以下のように変わっていった。88年当初は、入舎面接のみであった（つまり、面接がすべてである）。ただ、30分から1時間程度の面接のみで判断することが難しいケースが多く、88年11月の舎内総会において、応募者から事前に「私とキリスト教」と題する作文を提出してもらうことが決まった。さらに91年4月の舎内総会において、簡単な調書形式の応募要項を作ることが決議された。これ以降は、選考会の前に30分程度の「プレ選考会」を開き、作文と応募要項をもとに、舎生同士で意見交換と質問内容の調整を行うようになった。なお、02年10月までは、これらがどのような内容でも、ともかく選考会は開催されていたが、お互いのすれ違いを小さくするために、以後は次のような手配をとることになった。①見学に来た希望者に対し、舎が求める人材（「キリスト者もしくはキリスト者たらんとする者」）と作文に書かれるべき内容について、より詳しく説明する。②提出書類の内容を舎生全員で共有・検討し、その段階で受け入れが明らかに困難と判断された場合には、応募者にその旨を伝え、まず近隣の教会に通ったり、舎の行事（木曜集会）に出席したりすることを勧める。③そのうえで再度申し込みをすることは、むろん歓迎されることを伝える。

入舎選考会本体に関する大きな変化としては、面接後の議論に、時間制限が導入されたことが挙げられる。92年5月の舎内総会議事録にその決議があり、それが何時間であったかは確認できなかったが、筆者の入舎当初（95年4月）から、「議論は2時間まで。ただし、まだ議論が出尽くしていない場合は、延長できる」との目安があった。なお、全会一致で賛成が得られなければ入舎できないという基準は、当時から変わっていなかった。世代が少し上のOBと話していると、「自分が在舎していた頃は、入舎選考会の結論をめぐって、よく朝まで議論したものだ」という思い出話を聞いたものだが、それほどの長時間にわたる選考会は、この時期を境として姿を消していった。

**【入・在舎制限】**

**＜留学生枠＞**

当時の舎生が日常的に直面していた大きな在舎制限は、外国人留学生枠だった。89年2月の舎内総会では、「留学生の枠は全体の10%（引用者注：当時の定員は25名だったので、3名となる）、1国1名。例外はその都度話し合う」とされた。それが、97年3月の舎内総会では1国2名まで、さらに98年2月の舎内総会では合計5名・国別2名という総量が絶対的であると確認された。98年6月の舎内総会では留学生の上限が絶対5名から、原則5名と見直され、06年1月の舎内総会では、5名プラス2名まで認めるとされた。留学生枠が拡大し続けた背景には、留学生の入舎希望が常にその枠を超えて存在し続け、枠を超えた入舎希望を断っている一方で、日本人学生が埋めるべき空き部屋が多かったことがあった。

この隘路を打開する方法として一時期用いられたのが、いわゆるゲスト制度である。ゲスト

とは、入舎選考会を経ず、本会事務局を通して入舎してくる留学生で、半年から 1 年程度の短期滞在を前提に、場合によっては通常の舎生よりも若干高い費用を払って、在舎していた。ただ、ゲストが舎内の活動にまったく参加しないために、彼らとの交流がほとんど図られないことへの危機意識の高まりと、ある時期の舎生数の増加＝空き部屋の減少に伴い、01 年 9 月の舎内総会において、ゲスト制度の廃止を理事会に提案する決議がなされた。標記期間においては、その後もゲスト制度は原則として復活しておらず、留学生も日本人も、同じ舎生としての入舎選考会を経て入舎することが続いた。

＜博士課程学生の在舎＞

当時の日本人舎生にかかる制限の第一となったのが、いわゆるドクター条項である。留学生に関しては、母国の大学を卒業後に日本に来る経緯から、従前も博士課程の学生の在舎が許されていた。しかし日本人に関しては、以前は博士課程の者の在籍を認めていなかった（たとえば、90 年 12 月の舎内総会で、「日本人は修士まで、博士は例外なく認めない」との内容が確認されている）。それが、97 年 2 月の舎内総会を経て、日本人の博士課程学生の在舎（※修士課程から進学した場合の在舎延長）が可能となり、現在に至る博士課程学生の在舎の扉が開いた。

もともと、日本人学生の在舎年限は 4 年であった。大学入学と同時に入舎すれば 4 年で卒業、本郷進学時に入舎すれば 4 年で修士課程を終える関係にあったが、88 年当時から、在舎期限切れの舎生の在舎延長願いはその都度出され、そのほとんどは承認され続けていた。博士課程の学生の在舎が認められるようになって以降、4 年の在舎年限は当然、絶対的なものではなくなっていく。他方、留学生の在舎期限は 2 年であったが、日々の生活で、日本人舎生よりもはるかに積極的に舎内の活動に参加する者が多く、彼らの在舎延長願いに対しては、「むしろぜひ残ってくださいと言いたい」と請われるような形で、在舎延長を認められることが多かった。

＜女子学生の入舎＞

このように、男子学生に対しては「間口」全体が広がり続ける一方で、女子学生の入舎は当時まで実現していなかった。当時はおよそ数年に一度の頻度で、女子学生の入舎に関する問い合わせがあったが、その都度の審議の末、女子学生の受け入れを否決し続けていた。むしろ理事会の方が女子学生の入舎に積極的で、04 年度にはいったん、舎生募集ポスターから「男子学生」の文字が消えた時期もあった。ただその後、05 年 2 月の理事会において、舎生側の多数意見として、これからも男子寮として運営を続けたい希望があること、また現状としても、男子学生のみで本会の予算編成に支障を来さない人数を確保できる見通しを報告・主張し、再び「男子学生」と明記して、男子寮としての寄宿舎運営を続けることが了承された経緯があった。

## 4. 早祷・夕祷

寄宿舎における一番の基礎的な活動である毎日の集会は、88 年当時は夕祷（午後 10 時～10 時半）だった。遅い時間とはいえ、研究等でまだ舎に戻っていない舎生は少なくなく、97 年 9 月の舎内総会において、夕祷を早祷へ移行することが提案された。その後、98 年 3 月の舎内総会をもって、夕祷から早祷（午前 7 時半～8 時）への移行が決定した。61 年に早祷が廃止され、夕祷が導入されて以降、37 年ぶりの早祷の復活であった。

なお、07 年 10 月の舎内総会において、舎生の出席率向上を主な狙いとして、早祷から夕祷への変更案が出されており、結局のところ、毎日の集会への出席率の低迷とその向上は、いつの時代も課題であった。

## 5. まとめにかえて

ここまで、会報第 130 号（2008 年）に寄せた文章の中から、とくに人・活動の面に焦点をあてて、この頃の変化と不変について、改めて紹介してみた。元の文章では他に、【賄い】【電話・インターネット】【部屋】【仮宿】【浴室】【会計】といった項目があり、いま振り返っても興味深い 20 年間の変遷があるが、ここでは割愛する。

会報第 130 号の文章の終わりに、次のように書いた。「以上、1988 年 1 月から 2007 年 12 月までの舎内総会議事録をもとに、創立百周年後 20 年間の寄宿舎運営を追ってきた。現在、私の手元にはさらに遡って、1983 年以降の 5 年分の舎内総会議事録がある。これを眺めると、本稿に記したものとはまた別の展開も見出せ、実に YM は常に少しずつ変わり続けてきたのだなあ、という思いを強くする」。現役舎生だった頃、私は女子学生の受け入れに反対し続けてきたものだが、現在の YM が、留学生や女子学生をむしろ中心メンバーに迎えて、私が在舎していた頃よりもはるかに「多様性」の高い場となっていること、それこそが今の寄宿舎（生活）の大きな価値になっていることを思うと、感慨深いし、その変化を大いに歓迎したい。

現会館ができて 50 年、この年に私も 50 歳を迎える。人生 100 年時代と言われるようになり、コンクリート建築の寿命も 100 年が展望されるようになってきた。私はあと何年、YM と関わり、その変化と不変を見続けることができるだろうか。YM と深く関わりたい願いはあっても、現在の仕事や家庭の優先順位の高さゆえ、思うように時間を割けないことが多いが、許される限り、今後も、いまと未来の舎生の生活・信仰を含む交わりの場を支え、応援していきたい。

# 東大 YMCA なくして我が信仰なし

関　智征（2003 年法学部卒）
在舎 1998 年―2003 年 3 月

**略歴・近況**
目黒駅にある日本キリスト教団　行人坂（ぎょうにんざか）教会　牧師。非常勤講師先のフェリス女学院大学の教え子が洗礼を受けたり、献身して神学校を目指したり、若い方の育成に力を入れています。

私がクリスチャンになったのは、20 年以上前、東京大学 YMCA 寮に住んでいた時のことです。
もともと「正月は神社、お葬式はお寺、クリスマスはケーキ」という日本の家庭で育ったため、キリスト教にはまったく縁がありませんでした。ところが大学入学後、所属していた体育会テニス部の練習場の近くという理由で YMCA 寮に入ったことが、信仰との出会いのきっかけになりました。

寮では毎朝、讃美歌を歌い、聖書を読み、祈る「早祷（そうとう）」が行われていました。クリスマスには劇や合唱をするなど、温かい共同体の記憶が今も残っています。当初は「聖書は世界共通の教養の一つ」と軽く考えていましたが、次第にそれが「生きるための言葉」へと変わっていきました。

大学 4 年生の頃、人間関係の中で赦せない出来事が起こり、怒りに支配されていました。「悪いのは相手で、自分は被害者だ」と思い込み、憎しみに囚われていました。しかし、いくら相手の変化や謝罪を期待しても、何も変わらない。そんな時、ふと立ち止まり、自分の心を見つめ直しました。
聖書が語るように、相手を憎む心こそ「罪」であり、その罪をも神が赦してくださっているなら、私もまた赦せるかもしれない――。そう思った時、心の中に一筋の光が差し込みました。一緒に寮に住んでいた友人たちに支えられながら、信仰のすべてを理解していたわけではありませんが、洗礼を受けました。

「御言葉が開かれると光が射し出て、無知な者に理解を与える」（詩篇 119:130）

洗礼を受けてからは、同じ聖書の言葉でも、心への響き方がまるで変わりました。聖書を読むたびに、人間関係の知恵や生きる力を受け取る喜びがありました。やがて、自分の小さな過ちや無自覚な言動が人を傷つけていたことに気づかされ、「赦されて生かされている」ことの意味を深く悟りました。その時、「この赦しの喜びを人に伝えたい」と強く思うようになり、牧師を志す原点となりました。

YMCA 時代、仲間たちが私の早祷での話を聞いて「関さんは、日常の出来事と聖書の真理を独自の角度で結びつけて語る」と褒めてくださったことも励みでした。YMCA での日々が、牧師としての歩みを意識する最初の一歩でした。

卒業後は社会人として約 20 年間働き、現在は目黒駅近くの日本キリスト教団行人坂教会で牧師を務めています。お陰様で長男は 18 歳になり、教会で若者たちがバンドで讃美する「土曜アート礼拝（タバナ）」を立ち上げました。2025 年 10 月の礼拝には 74 名が参加し、日曜礼拝を超える恵みが与えられました。東大 YMCA からも南北線で一本で来られますので、ぜひ若い方々にもお越しいただけたら幸いです。大学生の時代に東大 YM でクリスチャンになった原体験から、10－20 歳代への伝道に使命を感じております。

「東大 YMCA なくして、私の信仰なし」
いただいた恩を、今度は次の世代に恩送りしていきたいと願っています。

# 兄に囲まれた長男

田川義之（2009 年工学研究科卒）
在舎 2000 年 4 月―2009 年 3 月

**略歴・近況**
2009 年東京大学大学院博士課程修了。現在、東京農工大学教授。流体力学を専門とし、衝撃現象や可視化計測の研究に従事。大学発スタートアップの設立にも関わる。東大 YMCA 評議員。趣味はチェロ。妻と娘の三人暮らし。

**突然できた「兄」たち**

2000 年、大学入学と同時に東大 YMCA に入寮した。私は長男として育ったが、寮に入ったその日から、突然たくさんの「兄」に囲まれる生活が始まった。しかも皆、遠慮なく意見を言う。議論も容赦ない。長男としてそれなりにしっかりしてきたつもりだったが、ここではすぐに「末っ子」になった。

男子寮の生活は濃密だった。夜通しサッカーゲームに興じ、気づけば窓の外が白んでいる。「これはまずい」と言いながら解散し、数時間後には何事もなかったかのように授業に出る。体力は削られたが、心は満たされていた。グラウンドではソフトボールに汗を流し、勝っても負けても最後は笑い合う。長引いた舎内総会後は、深夜の白山ラーメンへ向かった。

議論の食卓

日常は、常に思索と隣り合わせだった。寮の食堂のテーブルには新聞が何紙も広げられていた。新聞によって同じ事実をこれだけ異なる報じ方をすることを初めて知った。さらに理系人材に囲まれてきた私は経済・国際・哲学・法学・公共福祉を専門とする兄弟たちとの議論の中で、「一つの正解を探す」姿勢よりも、「複数の視点を並べる」ことの重要性を学んだ。あるテーマを巡って徹夜で議論し、翌朝も結論は出ない。それでも複眼的に世界を見る姿勢は、その後の研究者としての思考の型にも深く影響している。

所属した企画部では、大学 2 年生のときに希望を通してもらい、富岡幸一郎先生お招きし、公開講演会を開催した。「使徒的人間 -カールバルト」という先生の著作に感銘を受けたが、当日の茶話会で本の読み方まで教えていただき、その方法は現在にも通じるものであった。杉山好先生のバッハの公開講演会も印象的である。音声の接続ケーブルにまでこだわる姿勢には驚いた。このように私が単身生活していたらほぼあり得なかった、外部からの知的刺激を受けるたびに、寮という場が単なる住まいではなく、思索の場であることを実感した。さらに聖研部に移り、またも希望をきいていただき、東京神学大学の近藤勝彦先生を講師として、組織神学をふまえた聖書の読み方を学んだ。神学議論は難解だったが、その奥には人間存在の根源的な問い（中断される人生）が横たわっていた。

キリスト者たらんとするもの

9 年も在籍していたことをふりかえったとき、入舎面接の「キリスト者たらんとするもの」という合格基準は、私の内面を何度も揺さぶった。入寮面接を受ける側であったときより、面接する側になって、真剣に考えさせられた。何を信じ、どのように生きるのか。寮内の議論は白熱し、ときに沈黙が流れた。何かの拍子に類似の議論をすることはあった。しかし、入舎面接で決定的に異なるのは、最終的に入舎の可否を決断しなければならないことである。全員一致が原則でありながら、100%の確信を得たことはない。

**受洗と音の記憶**

入舎してしばらくして、YM の先輩に連れられて聖ヶ丘教会を訪れた。その年のクリスマス、受洗の決断をした。YM の礼拝堂では趣味のチェロを毎日のように弾かせていただいた。礼拝堂のおかげで、生涯の趣味といえるものが得られた。音が木の天井に反響し、やがて消えていく。その響きは今も私の励ましである。

日常の温かさも忘れられない。事務局の方と一緒に近くの天ぷら屋で昼食をご一緒した。YM は思想の場であると同時に、人を包み込む場所でもあった。

支える側：学生主事

博士課程に進み、学生主事を務めた。後輩たちと向き合う立場になり、自分がいかに多くの支えを受けてきたかを初めて自覚した。悩みを打ち明ける後輩、将来に迷う学生、信仰に葛藤する者。それぞれの歩みに寄り添いながら、自分自身もまた問い直されていた。寮から三名の献身者が生まれたことは象徴的である。YM は、人の決断を無理に迫る場所ではないが、真剣に問い続ける環境は確かにそこにある。

2000 年から 2009 年までの九年間は、学部四年、修士二年、博士三年という時間の長さ以上に濃密だった。笑い、議論し、祈り、時に衝突し、また和解する。その繰り返しが、私の人格を形作っていった。

今も続く交わり

現在は評議員として関わらせていただいている。年月を経ても、YM で築かれた縁は不思議なほど自然に続いている。例えば今年（2026 年）、主宰する研究室発スタートアップの立ち上げに際しても、かつての YM の兄弟たちが助言や協力を惜しまなかった。学生時代の友情が、社会の現場で具体的な支えとなる。その経験は、YM が単なる青春の思い出ではなく、人生を通して生き続ける共同体であることを教えてくれた。

次の 50 年へ

私にとって東大 YMCA は、議論と祈り、笑いと葛藤、そして世代を超えた関係の積み重ねである。兄に囲まれた長男として始まった私の九年間は、今もなお私の根に流れている。次の 50 年も、この場所で多くの若者が問い、迷い、笑い、祈り、自らの軸を見いだしていくことを心から願っている。

# 東大 YMCA 寮で過ごした日々

三浦 真（2006 年経済学部経済学科卒）
在舎期間：2003 年 10 月～2007 年 3 月

**略歴・近況**

2007 年 3 月 監査法人トーマツ（現有限責任監査法人トーマツ） 東京事務所入所
2012 年 9 月 Deloitte Touche Tohmatsu 香港事務所出向
2015 年 9 月 有限責任監査法人トーマツ東京事務所退所
2015 年 10 月 三浦真公認会計士事務所 創業（現在に至る）
2026 年 3 月現在、経営顧問、CFO、取締役、監査役として多数の企業を支援。経営塾やセミナーでの講演、大学や高校、地方自治体での講義、商業出版での執筆などを通じて経営や会計等に関する知見を発信している。公益財団法人や認定 NPO 法人の役員として公益活動にも携わる。

公認会計士の三浦真と申します。私が東大 YMCA 寮に入寮したのは 2003 年、経済学部の学生だった頃のことです。学部卒業後は経済学研究科金融システム専攻修士課程にも 1 年間通い監査法人トーマツへの就職が決まる 2007 年 3 月まで寄宿舎で生活させていただきました。

2025 年 4 月に帰天した私の父は当時、日本キリスト教団吾妻教会の牧師でした。私は大学生の頃から富士見町教会に通っており、現在も同教会に通い続けています。教会の青年会で出会った女性と結婚し、現在は中学生と小学生の 2 人の息子がいます。

寄宿舎での生活からすでに 20 年ほどの歳月が流れましたが、当時の寮での日々は、今振り返っても私の人生の基礎を形づくった極めて重要な時間であったと感じています。

当時の私の生活は、とても華やかなものとは言えませんでした。むしろ振り返れば、艱難辛苦、という言葉がよく似合う時代でした。平日の昼間は大学で経済学を学び、授業のない日は資格試験の勉強に没頭する毎日でした。

私は在学中から公認会計士を志し、水道橋の資格学校 TAC に通いながら、東京大学総合図書館（本郷キャンパス）で勉強を続けていました。図書館が閉館するまで机に向かい、その後寮に戻るという生活でした。

同じ時期に、現在は一橋大学で教授をされている東京大学経済学部の先輩、松下幸敏さんと、朝から晩まで図書館で勉強していたことを懐かしく思い出します。松下さんは計量経済学、私は会計学や監査論を黙々と勉強していました。

東大 YMCA 寮での生活には、いくつか忘れられない思い出があります。まず、寮の食堂です。朝食と夕食が提供され、当時の寄宿舎費は月 5 万円ほどでした。奨学金を借りながら生活していた私にとって、この環境はありがたいものでした。勉強に集中するための生活基盤を支えていただいていたのだと、改めて感謝しています。

また、寄宿舎には朝の祈祷会がありました。私の部屋は祈祷会が行われる部屋の隣で、眠い朝も自然と祈りの場に足を運ぶことができました。祈祷会でメッセージを担当する日には、マ

タイによる福音書の「タラントンのたとえ」を取り上げることが多かったように思います。神様は人それぞれに賜物を与え、その賜物をどのように用いるかを私たちに委ねておられる。この聖書の言葉は、当時の私にとって大きな問いでした。自分に与えられている能力や機会を、神様の前でどのように用いるべきなのか。その問いは今も私の人生の中心にあるテーマです。

もう一つの思い出は、舎生たちとの議論です。中国、韓国、台湾から来た留学生の仲間たちと、東アジアの歴史や政治について朝まで語り合うこともありました。領土問題をどう解決するかというテーマで議論した夜もあります。歴史を振り返る中で、19 世紀のアヘン戦争など西洋列強の介入が東アジアの歴史を大きく変えたのではないかという話になりました。そして最後には、「東アジアが協力すれば、アメリカやヨーロッパ以上に魅力的な地域になるのではないか。だからケンカはやめよう」という結論に落ち着きました。若い学生同士の議論でしたが、国境や文化を越えて本音で語り合えた時間は、私にとって大きな財産です。

そして何より印象に残っているのは、勉強の日々です。当時、公認会計士試験の勉強を必死に続けていました。寮の部屋で電卓を叩きながら問題を解く時間が続きました。当時はお金もなく、将来への不安もありました。しかし、そのような時期にこそ、神様への祈りと信頼が深められていったように思います。振り返れば、あの試練の時間も神様が私を鍛え、備えてくださる過程だったのだと思います。

その後、私は監査法人トーマツに入所し、2007 年 8 月の公認会計士試験に合格しました。2011 年に公認会計士登録を行い、2012 年には Deloitte 香港事務所に赴任する機会にも恵まれました。2015 年に独立し、現在は多数の会社で経営顧問や取締役、監査役を務めています。また大学や経営者団体などで講演・講義を行い、著作活動にも取り組んでいます。

私の人生の土台は、東大 YMCA 寮で過ごした日々の中で形づくられました。あの時代、私はまだ何者でもなく、ただ必死に学び、祈り、歩み続けていました。しかし振り返ると、神様はあの小さな寮の部屋での時間を通して、私を形づくってくださっていたのだと思います。

最後に、東大 YMCA 寮で生活する寮生の皆さんに、ひとつお伝えしたいことがあります。ぜひ、自分に与えられている使命は何かを、寮での生活の中で考えてみてください。神様は一人ひとりに賜物を与えておられます。そして、その賜物をどのように用いるかを通して、それぞれの人生の召命が少しずつ明らかになっていくのだと思います。

この寮で捧げられてきた祈りが、これからも神様の摂理の中で豊かに用いられ、与えられた賜物を生かして、それぞれの召命へと歩む若者たちを育てていくことを祈り願っています。

# 東大 YMCA のおかげさまで

半田 淳比古（2008 年医学部医学科卒）
在舎 2004 年 3 月-2008 年 3 月

略歴・近況
武蔵野赤十字病院、都立小児総合医療センター、聖路加国際病院、マサチューセッツ総合病院、アイオワ大学病院を経て、ハーバード大学ボストン小児病院放射線科。フェローシップ研修教育責任者。趣味はハイキング。

「おかげさまで」という言葉は英語でどう訳したらよいのだろうと時々思う。Thanks to you でも間違いではないのだけれど、そこに込められた「色々と支えられて何とか今がありますよ」という思いまでは、どうも十分に伝わらない気がする。全く言葉は違うけれど、「ふわふわ」という言葉もそうだ。Soft と言えば意味は通じるかもしれないが、あの空気を含んだ軽やかさまではどうにも伝わり切らない。言葉というのは不思議なもので、ふとしたきっかけでそのもつ意味の豊かさに気づかされる。

僕にとって「おかげさまで」という言葉を一番実感する存在が、東大 YMCA である。入舎の最初のきっかけは、父・武比古であった。教育熱心だった父に叱咤激励（？）されて受験生活をくぐり抜け、駒場から本郷へ移るにあたって、父がかつて過ごした東大 YMCA に入ろうと思ったのは、自分にとってごく自然な流れだったように思う。

はじめてご挨拶に伺った際、父と母が大変お世話になった加藤せつ姉に温かく迎えていただいた。初めて訪れたはずなのに、どこか懐かしい空気を感じたのをついこの前のことのように覚えている。作文を提出し、ありがたいことに入舎面接に通していただいた。加藤姉は退舎後も食事に招いてくださって、今も心に残る存在である。お亡くなりになって久しいが、どれだけ時間が経っても電話帳から番号を消せない人というのがいる。加藤さんは、そのお一人だ。

入舎してしばらく経った頃、食堂での何気ない会話からソフトボールに誘ってくださったのが松下幸敏兄だった。中学生の頃に野球をしていた話をしたことがきっかけだったと思う。その流れで渋谷の恵約宣教教会のソフトボール試合に参加し、やがて毎週通うようになり、イエス・キリストを信じ、洗礼を受けることになった。僕が楽しそうに教会生活を送る姿を見てか、妹も教会に通うようになり、今では松下兄と結婚して三児の母となっている。寮の先輩、教会の兄弟が、気がつけば義理の弟にもなっているのだから、ありがたいご縁である。

斜めの部屋に住んでいた西浜悟史兄には、寮生活で本当にお世話になった。一緒にゲームをし、食事をし、時に勉強もしながら、他愛のない話を重ねた日々は、今思い返しても温かい記

憶である。同じ教会に通い、その後西浜兄も洗礼を受け、ともに教会に仕えるようになった。彼の洗礼式は自分の事のように嬉しかった。

丸川正吾兄、王嶺兄、甘木大己兄、村上善道兄、そして千葉高の同級生でもあり東大 YMCA でも一緒だった西岡宏晃兄など、挙げればきりがないほど多くの方々のおかげで今日がある。今はボストンという異国の地に住んでいるけれど、ひょんなきっかけでここボストンの地で田川義之兄に再会でき、その後日にはオンラインで卒寮生座談会にも参加させていただいた。遠く時間も場所も違っていても、画面越しでさえ、一瞬で時間と距離は越えられるものだと実感した。司馬遼太郎はかつて街道を空間的存在そして時間的存在と語ったけれど、僕にとっては東大 YMCA がそれかもしれない。

弟の秀雄も一時期東大で文学を学び、東大 YMCA で生活していた。後に信州大学へ進み、現在は神経内科医として研究と臨床を頑張っている。将来が楽しみだ。

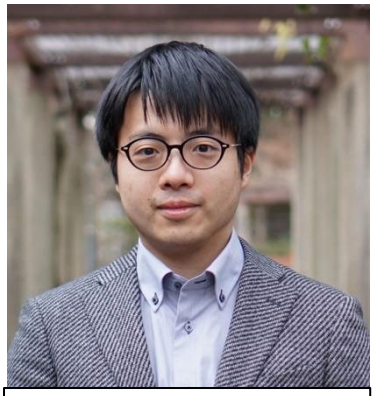
自分を含めて五人兄弟姉妹の家庭で育ったこともあり、学生時代は小児科医を志していた。それがいつの間にか小児放射線という専門分野に惹かれ、さらにアメリカでのトレーニングを志し、今に至っている。一人前の小児放射線科医と数えられるようになってしばらくたち、日々も、一年すらあっという間に過ぎていくけれど、ふと何かのきっかけで立ち止まり、東大 YMCA で過ごした日々を振り返るたび、「おかげさまで」と思わずにはいられない。

と同時に思う。果たして自分は、誰かのためになれているだろうか、と。願わくば、受け取ったバトンを次の誰かに渡せんことを。

# 熟議を尽くす—寄宿舎生活を振り返って

木原　盾（2015 年文学部卒）

在舎期間：2012 年 4 月—2017 年 8 月



略歴・近況：ブラウン大学大学院博士課程修了後、東京大学社会科学研究所学振特別研究員 PD を経て、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科（通称、慶應 SFC）専任講師。最近は 1 歳息子の子育てで忙しい毎日です。

私が東大 YMCA に入舎したのは 2012 年 4 月、駒場から本郷（文学部社会学研究室）へ進学するタイミングでした。女性入舎が始まる 2 年ほど前のことで、そこから交換留学による 10 ヶ月ほどの不在期間を経て、米国に学位留学を始める 2017 年 8 月まで、足掛け 5 年半ほど在舎しました。舎内では聖研部、のちに総務部に所属し、2015 年から退舎するまでは学生主事を務めました（学生主事は同じ社会学研究室の先輩であった税所真也兄から引き継ぎました。）

退舎から月日が流れましたが、寄宿舎生活の経験の中で、今もなお私の宝であり続けているのは、総会において全会一致を目指し、熟議に熟議を重ねた経験です。当時は（今も？）「全会一致の原則」があり、舎の制度やルールは、全員の合意がなければ変更されませんでした。全会一致を目指すプロセスでは、たとえ異論が一人であっても、相手の意見を根気よく聞き、合意に至ることが求められます。私の在舎時には総会における長時間の議論が幾度となくありました。

特に印象に残っているのは、入舎から一週間も経たないうちに開催された月一度の木曜総会が、深夜 1 時ごろまで続いたことです。その夜、議論になっていたのは早天祈祷会のルール変更でした。当時は（今も？）、早天祈祷会は朝 7 時から、日曜・木曜を除く毎日（土曜・祝日含む）行われていました。提案は「（総会が深夜に及ぶことが多いため）総会翌日の金曜日に限っては、早天祈祷会を休みにする」という内容だったと記憶しています。提案が出された背景には、当時の（今も？）総会が 21 時に始まり、日を回っても続くことが珍しくないことがありました。

入舎 1 週目で右も左もわからなかった私は、この件に強いこだわりはありませんでした。しかし、総会が行われていた 3 階の談話室は重い空気で、「安易な理由で早天祈祷会の開催日を減らしてよいのか」「そもそも早天祈祷会は何のためにあるのか」といった熱い議論が交わされていました。当時 20 歳の私としては「ここまで議論するのか！」という驚きが強く、その時に自分が座っていた位置や、説得されるまで制度変更に反対されていた先輩のことを覚えています。

結局、その議案は深夜に全会一致で可決されました。その後の寄宿舎生活で、「キリスト者たらんとする者」の定義、女子入舎、留学生枠の拡大など、おそらく東大 YMCA の歴史の中

で何度も繰り返されてきたであろう（そして現役舎生の方々は今もされているであろう）議論に立ち会いました。5 年半の寄宿舎生活を通して、私は制度を「ニーズに合わせて柔軟に変更することの大切さ」と、同時に「安易に変更することの危うさ」の両面を、身を以て理解するようになりました。

外から見れば、東大 YMCA は「東大生」×「キリスト教」×（当時は）「男性」という共通点を持つ同質的な組織にみえたでしょう。確かにそういう側面もありますが、そうした共通点があるにも関わらず（あるいは、あるからこそ）、意見が激しく食い違うことがあったのだろうと思い返します。

当時は「ここまで議論するのは時間の無駄ではないか」「多数決で決めればよいのではないか」と思うこともありました。しかし、「倫理的にも論理的にも、その意見は絶対に違う」と強く反発したくなるような主張をする相手であっても、共に暮らしながら議論を尽くすと、不思議とその人の背景や人となりが見えてきます。そして、その主張が、その人の歩んできた人生に照らせば、神様が与えた「良心」に基づいているものであると気づかされることが多々ありました。

現在は多くの職場でリモートが主流となり、対面で膝と膝を突き合わせて人と深く関わる機会が減っています。そうした中で、私には東大 YMCA での 5 年間があったからこそ、現在の大学教員としての仕事においても、同僚の教職員の方々との「調整」を楽しんだり、学生との「対話」をしたり、自分とは全く異なる主張を持つ人に対しても、その人なりの「背景」を想像したりすることができるようになっていると感じています。

ある時、故・原田明夫理事長が「もう内容は覚えていないのだが、寄宿舎で皆で真剣に議論したということだけは覚えていて、今では楽しい思い出になっている」という趣旨のことをにこやかに話しておられました。当時現役舎生だった私は、舎内がとある議題で紛糾している最中だったこともあり、「結局は忘れてしまうような議論なら、する意味がないのではないか」と内心考えたのを覚えています。しかし、今は当時の原田理事長の発言の意味が身に染みてわかるようになりました。

時代の要請に合わせて形を変えるしなやかさを持ちながらも、熟議を尽くす東大 YMCA の伝統が次世代へと継承されていくことを願っています。

# 与えられた恵み

木原（金子）友紀（2017 年教育学研究科修士修了）
在舎 2015 年 3 月―2017 年 2 月

**略歴・近況：**2017 年、東京大学に入職。2022 年には日本学術振興会ワシントン D.C.オフィスに出向して米国で生活しました。現在は、育休中に東京大学大学院教育学研究科博士課程に進学し、高等教育論を学んでいます。

**信仰の土台**

東大 YMCA への入舎に導かれたことによって受けた恵みは計り知れず、それは在籍していた 2 年間をこえ、人生を通して持続していくのだろう、と感じている。クリスチャン・ホームで育ったわけでもなく、また大学の寮への入寮が叶わなかった、という消極的理由が契機となり東大 YMCA の入舎選考を受けた私にとって、結果的にここで生活する機会が与えられたことは、「自分で選び取ったもの」というよりも、「与えられたもの」であった。このエッセイを通して、与えられた恵みについて、立ち止まって振り返ることで、東大 YMCA への感謝を表す機会としたい。

東大 YMCA での 2 年間を通して学んだこと、そして、その経験がその後の生き方に与えた影響を考える時、最大の恵みは、他者の心からの祈りに間近に触れることができたこと、そして、一見、順風満帆に見える人々も、実は心の奥底に満ち足りなさや、外には表すことのできない悩みや葛藤を抱えて生きているのだと知ったことであったように思う。

24 時間 365 日、寝食を共にする生活においては、「順調な自分」だけを見せ続けることはできない。早天祈祷会では、多様な学問分野を専攻する舎生一人ひとりの思考や祈りに触れることができた。単に自分のこと、研究のことだけを考えているのではなく、信仰や舎のあり方について真剣に考えたり、神と向き合おうとしたりする姿を間近で見るたび、心が揺さぶられるような思いになったことが、何回かある。もちろん、それは頻繁に起きることではないし、むしろ普段は、和気藹々とした雰囲気の中、温かくて美味しいご飯を他の舎生と一緒に食べるなど、穏やかな生活であった印象が強い。しかし、ノンクリスチャン家庭で育った私にとって、クリスチャンが、どのような祈りを、どのような時に、どのような思いで捧げているのかは、日曜に教会に行って礼拝するだけでは、必ずしも知ることはできなかった。毎週教会に行くことさえ、しばしばままならなかった私にとってはなおさら、同じ世代を生きる舎生の祈りを知ることは、それだけでかけがえのない時間であったし、10 年経った今振り返っても、最も強く、記憶に刻まれている。

**女子舎生としての生活と、企画部の思い出**

おそらく、東大 YMCA が男女共同寮となって以降の様子を実際に知る一人として、女子舎生としての生活を記すことは 1 つの義務でもあるのだろう。私が入舎したのは 2015 年 3 月末であり、2014 年 4 月の女子舎生受け入れ開始以降、すでに 7 名以上の女子学生が入舎してい

た。このため生活上の制約や不自由さを感じたことは、ほとんど記憶していない。思い返せばOB・OG座談会にいらっしゃる先輩方が、口を揃えて「舎の雰囲気が良くなった」とおっしゃって下さったことも、どこかで舎生としての存在を肯定されたように感じ、東大YMCAに住む安心感に寄与したように考えられる。

この記念誌の編集委員としてお声がけをいただいたことで、当たり前に受け止めてきた舎生活の基盤には、実は10年以上もの長期的な議論の積み重ねと、物理的な準備（複数の改装等）があったことを、今になって知った。そして、年表上の記録に文字として現れることはないが、これらの背後には、関係者による多くの祈りもあったのだろう。そのことを思うと、YMCAの諸先輩方に対する感謝の念を、新たにせずにはいられない。ぜひ、この記念誌を通して、当時どのような議論がなされたのかを、私自身改めて学ぶ機会になればと思っている。

舎では企画部に所属していたが、最も印象深い思い出の一つは、あるOB・OG座談会で、清水正之聖学院大学学長、山口栄一京都大学大学院教授、合田隆史尚絅大学学長（肩書は全て当時のもの）をお招きしたことである。具体的な内容の記憶は薄れているものの、今でも印象に残っているのは、「YMCAのDNAを受け継ぐ」といった趣旨のお話がなされたことだった。これは、先輩方が入舎された当時、旧舎から数名の方が新舎に住まわれて、東大YMCAのDNAを伝えるとともに、旧舎の記録をまとめたというお話だったと記憶している。当時、舎に住むことの意義を全く深く理解していなかった私にとって、その言葉は新鮮であり、同時に、「自分はそのDNAを受け継いでいるのだろうか」と自信が持てなかった。当時は十分理解できていなかったが、今になって振り返ると、それは早天祈祷会や、食堂での普段の語り合いといった、ささやかな日常の営みの中に息づいていたと思う。

**現在に至る繋がり**

朝の賛美と祈りで一日を始め、聖書研究会やOB・OG座談会など、月に何度も舎へのコミットメントが求められる生活は、社会人となった今、意識的に再現しようとしても不可能である（実際、退舎直後には、一人で早天祈祷会を続けられないかと試みたが、続かなかった）。同時に、職場での人間関係や優先順位の選択など、学生時代には想像していなかった困難にも日々直面している。それでも、忙しい日常のどこかで、立ち止まることの大切さや、祈りを通して与えられる平安を感じられるのは、東大YMCAでの生活があったからこそだと思う。

入舎する際に常に問われた「キリスト者、あるいはキリスト者たらんとする者」という問いは新たに入舎してくる方々に向けられたものであったが、今振り返ると、同時に選考を通して自分自身に向けられていく問いでもあったように思う。そして現役舎生であるときは思いもしなかったのだが、おそらく自分自身にこれから一生ついてまわる問いになっていくのかもしれないと思う。自分は昔も今も、弱く未熟な存在であるし、家庭を持ち、子供を育てるようになってからは特にそれを感じる。しかし、弱い存在であるからこそ、祈ることで得られる平安と、長い人生の中でたとえ道を外れたとしても、戻ってこられるような土台が、東大YMCAでの生活を通して与えられたことに、心から感謝している。

# 神様を求める気持ちを大切に

徳永（草間）友花（2018 年工学系研究科博士修了）
在舎 2015 年 3 月―2018 年 3 月

**略歴・近況：**
2019 年科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター(CRDS)フェローを経て、2024 年 4 月から東京大学農学生命科学研究科附属演習林フォレスト GX/DX 協創センター・特任准教授（副センター長）。現在、0 歳 10 か月の男の子を子育て中。

## 仏教育ちのクリスチャン一世

私は曹洞宗という仏教の家庭で育ちました。法華経もとても有難い書物ということですが、難解な漢文や書き下し分を読んでも、理解することができませんでした。自分にもっと教養があれば・・・と悩みましたが、結果として、それがキリスト教に出会うきっかけになりました。キリスト教は世界で最も多くの信者がいる宗教ということで、興味を持ちました。聖書は現代語で読みやすく、解釈が難しいところでも、牧師先生や仲間が一緒になって教えてくれ、考えてくれました。手の届かない孤高の神を崇めるというより、神様の方から歩み寄ってくれるような親しみを感じ、クリスチャンになりました。

## 東大 YMCA との出会い

我が家は裕福ではなかったので、北海道にある実家から出ることを考えていなかったのですが、東大の博士課程は給付型の奨学金などがあり、進学を決めました。博士課程 1 年目は月額 12 万円でした。アルバイトをせずとももらえるお金としては十分な額ですが、東京で一人暮らしができる金額ではありません。なんとか安いところはないものか、クリスチャンの人が安く部屋を貸してくれないものか・・・と検索していたら、東大 YMCA の HP を発見しました。光熱費・食費込みで五万円のクリスチャンの寮、ぜひ入りたい！と思いました。ちょうど、少し前から女子入寮が可になっていることも運命を感じました。入舎面接は和やかに進み、すぐに合格通知をいただくことができました。

## 寄宿舎の中にある多様性

東大 YMCA には、想像していた以上の多様性がありました。年代も 10 代～30 代と幅広く、出身も色々な国や都道府県の人がおり、文系・理系とそれぞれの専門性がある人、クリスチャンホーム育ちの人もいれば、私のように仏教家庭出身の人もいました。また、同じキリスト教の中でも、日本キリスト教団や、福音派、ペンテコステ派、長老派など様々な宗派があるということがわかりました。それぞれが違う宗派にも関わらず、同じ神様を信じているという感覚があり、寄宿舎の中には不思議な調和がありました。

**早天祈祷会で分かち合う神様との向き合い方**

早天祈祷会では、様々なトピックがありましたが、特に神様との向き合い方を分かち合うことができることが、興味深かったです。祈りの中で気づかされたことを分かち合ったり、心の中の葛藤を神様にぶつけてみたり、どれも真剣なものでした。伝道のために殉教した人たちのことを感謝だという人もいれば、なぜ神様は自分を信じる人にそのような仕打ちをするのか、と困惑する人もいました。（今思えば、朝から中々ヘビーな話題もしばしば・・・）

**神様を求める気持ちを大切にしたい**

私は東大 YMCA に入る数年前に洗礼を受けていて、教会にも通っていたのですが、クリスチャンホーム育ちの人達は、やはり 2 歩も 3 歩も進んでいるように見えました。讃美歌をたくさん知っていたり、聖書を開くのが早かったり、聖書箇所の解釈が早かったり、理解が深いように感じました。聖書研究会は結構内容が難しく、ノンクリスチャンの人にとってはもっと難しいのではないかと感じました。

東大 YMCA には、聖書の考え方やそのもっと前段階の基本中の基本について、知れる機会が少なかったことから、2019 頃には「ノンクリスチャン向けの聖書の学び会」を開催しました。東京マルチカルチャル教会（TMC）の Jonathan Prins 牧師先生ご夫妻の協力の中、キリスト教についてまったくゼロから学ぶことができる時間を持つことができ、思っていた以上に活発なディスカッションが出来ました。キリスト者たらんとする者として入舎したけれど、キリスト教のことは全然わからない！という人にも、広くキリスト教に触れることができるような機会をこれからも作っていきたいです。資金提供をしていただいた沖見勝也さん、梶村慎吾さんには、この場を借りて深くお礼申し上げます。

また、この活動を通じて交流を始めた関口哲生さんには、私を理事に推薦していただきました。これからも、信仰の面だけではなく様々な観点から、現舎生に寄り添えるような存在でありたいと思っています。

**謝辞**

最後に、東大 YMCA で一緒に過ごし、喜びも悲しみも分かち合ったみんなへ感謝の気持ちを記します。とても楽しく、かけがえのない時間を過ごすことができました。また、事務局の桃井明男さん、明神恵子さんには家族のように暖かく接していただきました。厨房の片桐幸夫さんには、毎日おいしいご飯を作っていただいて、私たちの食を支えていただきました。ここに記して、心から謝意を表します。

（編集：　山口 栄一）

# 第３章
# 現役舎生・関係の方々の声

# 目　次

**3-1 概説編** ..... **93**
2023-2026 の舎について　米倉　敬宏（農学部、2023 年入舎） ..... 93
生活の様子　那須 清崇（公共政策大学院、2025 年入舎） ..... 95

**3-2 活動編** ..... **98**
早天祈祷会　Theodorus J. Wijaya（工学系研究科、2019 年入舎） ..... 98
聖書研究会　Shen Jie（工学系研究科、2025 年入舎） ..... 99
総会　石井　蓮（農学生命科学研究科、2022 年入舎） ..... 100
日直・掃除　H.K.（工学部、2025 年入舎） ..... 101
食事　米倉　敬宏（農学部、2023 年入舎） ..... 102
会計　白川　裕都（経済学部、2024 年入舎） ..... 103
修養会　D.Y.（新領域創成科学研究科、2023 年入舎） ..... 104
駒場祭　米倉　敬宏（農学部、2023 年入舎） ..... 105

**3-3 場所編** ..... **107**
礼拝堂　白川　裕都（経済学部、2024 年入舎） ..... 107
食堂　Esther O.（公共政策大学院、2025 年入舎） ..... 108
厨房　太田　萌（情報理工学系研究科、2024 年入舎） ..... 110
喫煙所　石井　蓮（農学生命科学研究科、2022 年入舎） ..... 111
OB 談話室　Tavana Alireza （工学系研究科、2024 年入舎） ..... 112
お風呂　ブディオノ・クリスチャン・ミレニュー（工学系研究科、2021 年入舎） ..... 113
廊下　関口　玲（文学部、2025 年入舎） ..... 114
三階談話室　D.Y.（新領域創成科学研究科、2023 年入舎） ..... 115
舎生部屋　鎌田　将（人文社会系研究科、2025 年入舎） ..... 117
卓球室　桐生　有喜（教養学部、2024 年入舎） ..... 118
図書室　神野　和磨（理学系研究科、2025 年入舎） ..... 119
客室　W.H.（学際情報学府、2023 年入舎） ..... 120
3 階・4 階ベランダ　M.M.（経済学研究科、2025 年入舎） ..... 121
祈祷室　崔　民赫（法学政治学研究科、2021 年入舎） ..... 122

**3-4 関係の方々の声** ..... **123**
東大 YMCA 事務局の変遷　明神 恵子　永田 智子（事務局） ..... 123
東大 YMCA 事務局回想　桃井明男 ..... 124
調理師の声　小幡 公雄（調理師） ..... 126

# 3-1 概説編

## 2023-2026 の舎について

米倉　敬宏（農学部、2023 年入舎）

現在学生主事を務めております米倉と申します。2023 年5月から舎にてお世話になっております。現舎生を代表しましてここ3年弱の舎につきまして簡単ではありますが記させて頂きます。

私が入舎した 2023 年は、新型コロナウイルスの影響からようやく回復しつつあるような印象でした。依然として入舎面接のオンライン実施や食堂へのアクリル板の設置等はありましたが、入舎少し前に参加した歓迎会は、対面で行われ学生らしい陽気に満ち溢れていました。それから 3 年経った現在、コロナウイルスの影響の跡は微塵もなく、舎生を隔てるものは部屋の扉しかありません。また、舎生は専攻、年齢、国籍、性別などにおいて様々に異なる背景を持ち、同質的になりがちな大学における集団の中で、稀有な豊かさを見せているように思います。近年は院生が大半を占めていますが、そのこともあってか、しばしばみられる「密な」学生寮とは少し異なり、適度な距離感で舎生同士関わっているようにも感じられます。

このように、凪の状態とも思える現在の寄宿舎ですが、それまでの 3 年の間には大小様々な風が吹いていました。まず、常に存在する問題として舎生数の減少がありました。2026 年 3 月現在、舎生数は 20 名にまで増加しましたが、2024 年度までは 15 名前後と比較的少数であり、それが故の問題が多々ありました。一番は事業部をはじめとする寄宿舎運営の困難化で、一人当たりの負担が重くなっていることは否定できない状況でした。例えば、総務部・文共部・企画部・聖研部に分かれる事業部の各部署では少人数でこれまでと同様の仕事を行う必要があり、必然的に一人当たりの仕事量が増加せざるを得ませんでした。このような文脈で、事業部の統合の話が出てきましたが、運用上の難しさや、幸運にも舎生数が 2025 年度以降増加したことで、この問題は一旦据え置きになっています。いずれにせよ舎生数の定員割れの状況は変わらず継続しているため、理事会とも連携しつつ、現舎生の方でも独自に舎生増加のための様々な施策を検討、実施中です。

舎生数の減少の他に、舎生の心身の不調への対応という課題もありました。中でも心の問題を抱える舎生が少なくなく、そもそも学生間でサポートしていけるのか、できるとしてどのように行うのか、ということに当事者として直面することが幾度かありました。現在は、事務局や理事会とのコミュニケーションを十分に取り、青年会全体としてサポートしていく、という

ような方向で進んでいるように理解しています。

さらに、寄宿舎の安全に関わる出来事として、2023 年に部外者の無断立入が、2025 年には東大前駅での傷害事件の発生がありました。これらを重く受けとめ、施錠の徹底化や玄関扉のオートロック化の理事会への要望などを行いました。オートロック化に関しては、現在理事会を中心として進行中のリノベーション計画において実施予定です。

このような向かい風ともとれる状況の中でも、私たち舎生は時には総会で熱い議論を交わし、時には何気ない会話を重ねながら少しずつ前進してきたように思います。振り返るとこの 3 年間だけを見てみても様々な改革や変更がありました。大きなこととしては、入舎面接における選考基準の設定(2024 年 1 月)、会計制度の変更(2025～2026、活動篇に一部詳細を記載)、舎生間の連絡手段としての Discord の導入(2025 年 7 月)などです。他にも、総会決議をまとめて掲載する「決議集」の作成、新たな生活委員としての「食事係」の設置、ペット飼育に関するルール整備等々、様々挙げられます。また、新しい試みとして駒場祭への出展も行いました(活動篇に詳細を記載)。2026 年度には 5 月祭にも出展する予定です。

最後に寄宿舎の活動の核をなす早天祈祷会(早祷)について記させて頂きたいと思います。この 3 年、基本的には平日は朝 7 時、土曜は 8 時から早祷を行ってきました。その中で、課題となってきたのが主に舎生の参加率でした。先輩方とお話をすると、度々早祷の参加率の低さが話題となることから、長年存在している問題であるようですが、この 3 年間も波があるとはいえ、多いとは言えない参加率の状態が続いています。このため、参加率を上げるための方策を様々に検討、実施してきました。2024 年 6 月にはそれまで週 4 回だったのを 2 回に削減し、かつ不参加者へのペナルティ方式を一ヶ月間試行しました。しかしながら、早祷の参加は舎生の義務とはいえ信仰の問題もあるため強制するものではない、という意見などもあり、ペナルティ方式は中止、回数も早祷の存在感の希薄化への懸念のため 2024 年 11 月に週 3 回に再度変更しました。また、時間帯の影響を考慮し、2025 年 8 月には平日も 8 時からに変更しました。他にも夕祷の実施や早祷以外の活動でキリスト教への興味関心を深めるための早祷以外の活動(近隣の教会における教会問答への複数名での参加、QT(ディボーション)の実施など)なども行っています。近年はクリスチャンの割合が減少傾向にあり、寄宿舎全体としてのキリスト教と向き合う温度感も変化しつつありますが、引き続き早祷のあり方の模索は続いていくと思います。

今回、新舎 50 周年という歴史的節目に立ち会い、記念誌の執筆にも携わらせて頂けたことに深い喜びを感じております。舎生の方からは、この概説編に加え、活動編と場所編に分けて寄稿をさせていただきました。活動はもちろん、舎のそれぞれの場所にも各々に特有の思い出や記憶が刻まれると思います。是非、読み手の方々それぞれの思い出の活動や場所の寄稿をお読み下さり楽しんで頂けましたらこの上ない喜びです。

# 生活の様子

那須清崇（公共政策大学院、2025 年入舎）

本稿では、新舎生の目から見た現在の東大 YMCA について述べようと思います。

私は大学院進学のタイミングで早稲田大学から東大に移るとともに、東大 YMCA に入舎しました。ですので入舎時点では、東大に一人も友人がおらずたいへん心細く思っていました。それが今では気心の知れた寄宿舎の仲間に恵まれ、この場所を家として心安らかに充実した日々を送っています。一人暮らしをしていた頃と比べると、心身ともに遥かに満たされていることを実感します。わずか半年強でこのように安らかな環境に恵まれたのはなぜでしょうか。私はそれは、人と接する機会の多さに依るものだと考えています。

私は大学進学を期に上京して以来、学部 4 年間は一人暮らしをしていました。あの頃と比べると、いまの寄宿舎生活は精神的に素晴らしく豊かなものです。そしてその根底には、他の舎生との交流があると考えています。

寄宿舎生活では、常に誰かがそばにいます。食堂に行けばいつも誰かがいて賑やかな笑い声が聞こえてきます。洗面所でふとすれ違った舎生と少しだけ言葉を交わして、元気を貰ったことも何度もあります。ひとり暮らしをしていた頃は、誰かと会いたければ大学まで行くかわざわざ約束をせねばなりませんでした。いつでも気軽に顔を合わせられる距離に誰かがいるという環境は、精神的に大きな支えとなっています。嬉しいときも辛いときも、ひとが側にいるということは大きな励みになるものです。

また、早祷や木曜集会のような東大 YMCA ならではの行事も大切な要素です。早祷では朝から讃美歌を歌い、総会では寄宿舎の運営について議論を交わします。いずれも、ひとり暮らしをしていた頃には考えられなかった素晴らしい機会です。これらの行事を通して生活が引き締まるとともに、他では得難い人生の学びを数多く得られています。

私は東大 YMCA での寄宿舎生活を通して、ともに暮らす隣人というこれまでにない関係として舎生たちと関わり、人間関係や社会について多くのことを考え学んできました。拙いものではありますが、ここからは私が得た学びについて述べさせていただこうと思います。

私が入舎した際の作文には、次のようなことが書いてありました。

「私は幸いにして恵まれた環境で生まれ育ち、個人として生きていくうえでは自分の原状に深く満足しています。ですがこれから社会に出るにあたり、自分だけではなく他者のことを考え、人とのかかわりの中で生きていくためには今の自分にはまだまだ至らないところが多々あると考えています。東大 YMCA での寄宿舎生活のなかでキリスト教の精神を実践することで、よい人間になりたいと思います」

この通り、私は人との関わりの中で生きることのヒントを求めて東大 YMCA に入りました。キリスト教についても YMCA についても何も知らなかった私は、組織の中で個人が生きていくための「規律」のようなものを想像し、それが東大 YMCA にあると考えていました。今に

して思えば、信仰というものに対して過度に潔癖なイメージを持っていたのかも知れません。

入舎した直後の私がまず感じたことは、正直に言ってしまえば「思っていたよりゆるいな」ということでした。私の乏しい宗教知識と過大な想像力は、まるで修道院のような規律と静謐さで満たされた生活を無意識に想像していたようです。これから一緒に暮らしていく舎生たちが、世俗を生きるなま身の人間、いわばキリスト者であると同時に生活者であるということに想像が及んでいなかったのです。

入舎してしばらくは驚きの連続でした。舎生たちは私の想像よりもずっと自然体で、リラックスして生活していました。もちろん共同生活を維持するための最低限の約束事はありますが、私が想像していたような生活を引き締める厳しい規律のようなものはどこにも見当たりませんでした。

その代わりに、そこには「思いやり」がありました。汚れに気づいたら誰に言われずとも自ら進んで掃除をすること、疲れている舎生がいれば声をかけて励ますこと。誰もが自分なりの思いやりを持って行動し、その結果共同生活が円滑に回っている。

そして、思いやりは自己犠牲ともまた違うものでした。いつも人のことを気にかけて元気づけている人が共用品の扱いでうっかりミスが多かったり、誰に言われずとも進んで掃除をしている人が時間には少しルーズだったり。誰もが自然体で生きていて、自分の美点を発揮しながら、自分の欠点を誰かに助けられていました。

それでよいのだ、と気づけたことが私がここで得た最大の学びです。欠点のない人間などいません。誰もが自分では気づかないうちに欠点を持っていて、誰かに助けられなければ生きていくことはできません。だからこそ、お互いに信頼と利他心を持っている集団であれば、誰かの美点が誰かの欠点を補うことができます。規律と自制で常に他者に与え続けるのではなく、多様な他者どうしがごく自然体で生きていることがそれだけで助け合いになる。そのような、人同士の関係性の理想のかたちの一端をこの寄宿舎で見ることができました。

もちろんこれは簡単なことではありません。集団の中で特定の人に負担が偏ってしまうのはよくあることですし、得てして心優しくよく気づく人がそういう損な役回りになってしまうものです。この寄宿舎での生活も常に順風満帆なわけではなく、時には日付が変わるまで総会が続くほどの激論が必要になることもあります。

誰かが一方的に損をするのではなく、ギブアンドテイクの輪が廻るようなよい集団になるためにはどうしたらよいか。その核心は、「信頼と利他心」で集団が結ばれていることだと思います。この集団は自分が与えた分だけ返してくれる。いや、たとえ返ってこなくてもこの人たちのためなら何かをしてあげたい。全員がそう確信できるだけの強固な信頼関係があることが、人と人とがよい関係を結ぶために欠かせないものなのだと気づきました。そしてそれこそが、キリスト者の「隣人愛」なのではないかと考えています。

このように、日々の寄宿舎生活での舎生間の関わりを通して、人としてのあり方や信仰生活について非常に多くを考え学ぶ機会を得ました。ここで学んだことは、日々の生活のたくさん

の思い出とともに、きっと私の生涯の財産となるはずです。

　このような素晴らしい環境に巡り会えたことに感謝するとともに、この場所がよりよい共同体となることに私も貢献できるよう努めていこうと思います。

2025 年度 クリスマス祝会にて

# 3-2 活動編

## 早天祈祷会

Theodorus J. Wijaya（工学系研究科、2019 年入舎）

祈祷会は、三階談話室において、週に三回、舎生が司会を務める当番制で行われています。祈祷会は讃美歌から始まります。讃美歌は、古くから愛されてきたヒムプレーヤー（自動演奏機）によって流され、舎生が歌います。その後、司会による祈祷に入ります。祈祷の内容には原則となる決まりはありませんが、「祈りボード」に記された一般祈願と個人祈願を用います。一般祈願の欄には、詩編の一部をはじめ、寄宿舎やその関係者、日本の教会のための祈りが記されています。個人祈願の欄には、舎生が隣人のために祈りたい課題を自由に記載することができます。例えば、治療のための祈り、就職活動や論文執筆に関する祈りなどが書かれています。

祈願の後、聖書朗読に入ります。司会は、分かち合いたいメッセージに合わせて自由に聖書箇所を選ぶことができますが、特に指定がない場合は、参加者によって旧約聖書と新約聖書を交互に、数節ずつ朗読します。

聖書朗読の後には黙想の時間が設けられます。この時間では、神のみ言葉をゆっくりと味わい、心に留まった言葉に再び向き合い、観想することができます。

数分間の黙想の後、司会による分かち合いに入ります。使徒パウロがローマの信徒への手紙で記したように、「あなたがたのところで、あなたがたとわたしが互いに持っている信仰によって、励まし合いたいのです。」（ローマ 1 章 12 節、新共同訳）。司会は、自身の生活の中で気づいた恵み、経験した成功と失敗、喜びや悲しみを分かち合えます。これを通して舎生同士の絆が深められ、互いの信仰を励まし合うことにもつながります。

分かち合いの後、舎生は再び頌栄を歌い、主の祈りを共に唱えます。その後の数分間には、参加者からの質問やコメントの時間も設けられています。時に、この短い時間が大きな気づきをもたらすこともあります。

なお、場合によっては、早天祈祷会の形式が変更されることもあります。月末には「恵み会」となり、聖書朗読は詩編を用い、司会による分かち合いの代わりに、参加者それぞれが一か月の歩みの中で体験した恵みを分かち合います。

このように、早天祈祷会は、単なる集会ではなく、祈りのひとときであり、多忙な学生生活の中で立ち止まり、思いを巡らし、心を改めるための招きの場です。それは、神の前に生きる私たちに託された、尊く大切な務めです。

# 聖書研究会

Shen Jie（工学系研究科、2025 年入舎）

本寄宿舎では、毎月一回、定期的に聖書研究会を開催している。開催日は舎生総会にて協議の上決定され、各回につき二名の舎生が担当者となり、外部より講師をお招きして行われる。

研究会に先立ち、担当舎生は当月に読む聖書箇所を丁寧に読み込み、内容に関する疑問点や考察を整理する。それらは他の舎生から寄せられた問いとあわせてまとめられ、事前に講師へ共有される。この準備過程を通じて、舎生一人ひとりが主体的に聖書と向き合う機会が設けられている。

研究会当日には、講師によるテーマ講演が行われるとともに、舎生からの問いに対する応答や意見交換の時間が設けられる。たとえば、2025 年 10 月以降は長谷川修一教授を講師としてお迎えし、考古学の視点から聖書の記述と、現在のパレスチナ地域における考古学的知見との関係についてご講義いただいている。加えて、聖書研究をめぐる近年の学際的な研究動向にも触れながら、多様な学問分野における解釈や議論を紹介してくださっている。これにより、舎生は日常の聖書読解を、より広い視野と多角的な視点から捉えることが可能となり、相互の思想的対話もいっそう深められている。

聖書研究会は、毎日の早祷に加えて、舎生が聖書およびキリスト教についてより深く学ぶための重要な定期活動である。今後も継続的に実施し、聖書研究のさまざまな分野で活躍する研究者を招きながら、舎生の多元的な理解と活発な交流を促していく予定である。本研究会は、寄宿舎生活における学びと対話を支える、かけがえのない機会の一つとなっている。

早天祈祷会・聖書研究会で現在も使用している歴史あるヒムプレイヤー

# 総会

石井　蓮（農学生命科学研究科、2022 年入舎）

この寄宿舎に入って初めての総会に参加する前、身構えてしまうような話をよく耳にした。曰く、総会では張り詰めた雰囲気の中白熱した議論が行われ、深夜遅くまで終わることはない、というものだった。実際に参加してみると恐れるようなものではないことはわかった。基本的には全員がお互いへの敬意を持って議論しつつ、中身はしっかりと濃密で有意義なものであり、生活の根幹に関わるルール設計やトラブル対処が行われていく場であった。

みんなで協力して物事を決める。言葉で言うのは簡単だが、本当に難しかったこともある。前提として、舎生間で生活に関する考えや常識には大きな隔たりがあることが多い。ある人にとっては当然なことが、ある人にとっては許せないのが常だ。片方にとって譲歩可能なことである場合はまだ良い。だがどうしても双方が譲れないようなこともある。それに対し、全会一致の決議を持って何らかのルール整備をしようとする行為は困難を極める。そこには、いつだって簡単な解決策など存在しない。地道に、誠意と互いを思いやる心を持ちつつ、自他の主張を吟味して考え続けることしかできないのだ。

無論上記のプロセスが人間関係のトラブルにつながったこともある。それでも、人と人が生活していく上で必要なものだ。もっと一般化してもいい。これは、人が他者と対話して生きていく上で絶対に必要なプロセスであることを私は確信している。当然社会に出てから仕事をする上でも、何度もきっと、似た苦しい議論を経験するはずだ。私は、それを生活の場の中で濃密な形で経験できることを極めて価値のことであると思うとともに、この難題に挑戦した仲間との間に芽生える連帯もまた得難い宝だと感じる。

# 日直・掃除

H. K.（工学部、2025 年入舎）

東大 YMCA 寄宿舎での日直や掃除といった当番活動は、単なる作業ではありません。それは、私に「一人の生活者」としての自覚と、組織の一員としての基礎を教えてくれる大切な時間です。

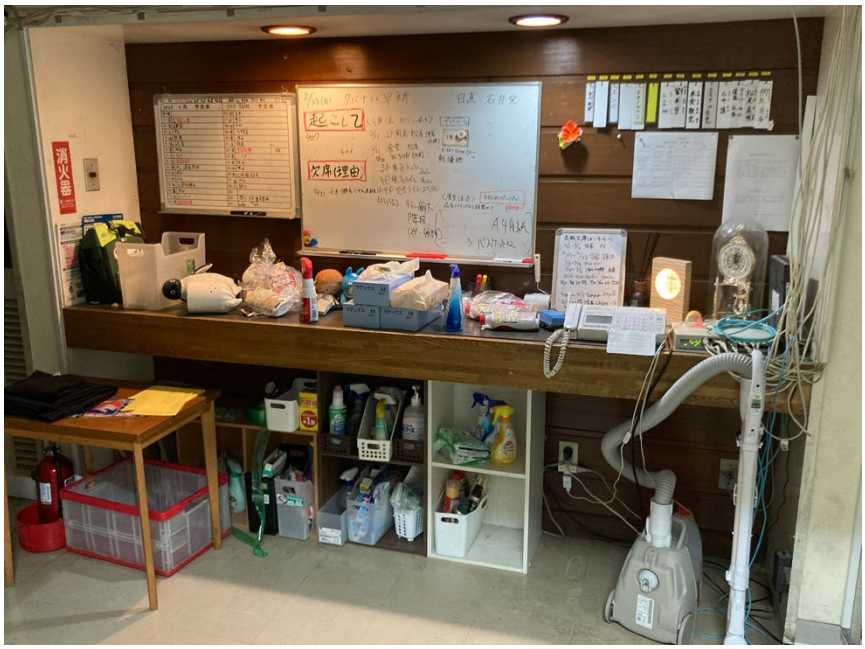
実家にいた頃、ゴミ捨てや皿洗いは当たり前に親がやってくれるものでした。しかし、舎で自ら手を動かすようになり、分別の仕方を覚え、汚れを落とす中で、日々の生活がいかに多くの手間によって維持されているのかを初めて実感しました。これは、一人の人間として生きていくための「自立」に向けた、重要な第一歩だと感じています。

また、これらの当番は「社会に出る前のチームワークの練習」という側面も持っています。限られた人数の中で掃除を分担し、時には「どうしても外せない予定があるから代わってほしい」とお願いしたり、逆に誰かのピンチをフォローしたり。単に仲良く過ごすだけでなく、組織の中で自分の役割を見つめ直し、責任を果たすことの難しさと大切さを学んでいます。

自治である以上、当番の進め方一つをとっても話し合いが欠かせません。時に意見がぶつかり、本音で議論することもありますが、そうして自分たちの手で生活を回してきたからこそ、一生の宝物と言える深い絆が生まれるのだと確信しています。

こうした「お互い様」の精神は、単に効率がいいからあるのではありません。「助けてもらうありがたさ」と「誰かの役に立てる喜び」の両方を知ることで、寄宿舎はただの建物ではなく、しんどい時に弱音を吐いても大丈夫な温かい場所になっていきます。

自分のやりたいように過ごせる一人暮らしは気楽かもしれませんが、誰かと支え合い、認め合いながら生活を作るこの時間は、これから社会に出ていく私たちにとって、何物にも代えがたい「心の栄養」になっています。



# 食事

米倉　敬宏（農学部、2023 年入舎）

舎生にとって、舎の食事は、何よりも生存を担保する基本的活動であり、まさに、日ごとの糧となっている。まかないさんによって提供される食事は質と量共にこれ以上ないもので、献立は毎日異なる彩りを見せ、決して飽きることがない。また、舎生同士余り物や残り物をシェアし合うこともよくあり、最近は何種類ものお茶を舎にいながらにして楽しむことができる。さらには舎生が一丸となって食事を作る「ホットミール」という不定期開催の行事では、調理の過程まで共に楽しむこともでき、食環境は複合的な豊かさを見せる。

一方で、舎において食事は時に生活環境に緊張をもたらす材料となる。食事は重要であるが故にそれに関連する問題は多くの場合切実にならざるを得ない。例えば難解な未解決問題として食堂にある共用の冷蔵庫の管理問題がある。食堂の冷蔵庫は舎の中でもカオスで無秩序な空間の代表として知られているが、そこの食品・食材の処分に関しては、「明らかに腐敗」しているということをほとんど唯一の指標としているために、しばしばゾンビ化した食べ物たちが腐敗菌を撒き散らしながら我が物顔で居座ることになる。秩序を取り戻そうとするまかないさんをはじめとする心ある人たちの働きによって冷蔵庫内のエントロピーはなんとか過剰増大せず済んでいるが、未だ安定化には至っていない。また別の難問として「ガスコンロ問題」がある。舎は文化遺産並みに古いガスコンロを依然として使用しているが、それゆえ消し忘れ防止装置などの安全設備が皆無であり、舎生による不適切な使用は危険を招きうるという問題がある。IH の導入や使用時間の制限など、改革は進みつつあるが、未だ手探りの状態であり、今後の改善が望まれる。

このような緊張の種をはらみつつも、食事は舎の中心的な活動であり続けてきた。普段はバラバラに生活している舎生たちも、食事時には顔を合わせ、何気ない雑談から本格的な討論まで多種多様な会話が花開く。これからも、食事は舎生たちを結びつける役割を果たし続けていくだろう。

# 会計

白川　裕都（経済学部、2024 年入舎）

2025 年 9–11 月期に舎生会計を担当いたしました白川と申します。平素より、東大 Y の活動を温かく見守り、お力添えを賜っております OB/OG の皆さまに、心より御礼申し上げます。

このたび、舎費の運用に関して、舎生側と事務局側での二元管理に起因する不都合や非効率が顕在化してきたことを踏まえ、舎費は事務局へ直接納入する方式へ変更いたしました。あわせて、舎費の納入状況等については事務局より情報共有を受け、従来どおり舎生会計が総会にて報告する運用としております。なお、今後の一元的な舎費管理においても、舎費納入の周知・催促は舎生会計が主体的に担うこととしており、舎としての自治性は引き続き確保されるものと考えております。

また、そもそも舎費そのものは舎生が任意に使途を決められる資金ではありませんが、二元管理のもとでは、舎費口座に臨償積立金・年会費・入舎積立金等が混在しやすく、資金区分が分かりにくくなる傾向にありました。その結果、舎生の意思決定により運用している臨償積立金についても、実務上の利活用が難しくなる場面が見られました。今回、舎生口座の資金を整理し、「舎生が運用・利活用できる資金」と「性質の異なる資金」を明確に峻別する方向で整えたことは、舎生会計システムの本旨である自治性を損なうのではなく、むしろシステムとしての透明性と運用可能性を高めるものだと認識しております。

加えて、2018 年より運用されている Google スプレッドシートによる舎費・関連資金の管理について、複数の入力・集計上のエラーが確認されたため、整合性を取るための入力内容の軽微な修正を行いました。

舎生の自治的な積立として、舎費等とは区分して管理している臨償積立金については、今年に入って共用備品の整備等により日常的な資金需要が高まりつつあります。こうした状況を踏まえ、より日常的に運用・利用しやすい形へ整備を進めました。一方で、年間の使用上限額、支出に関する舎生間の意思決定プロセス、臨償積立金の望ましい使途の整理など、ルールとして明文化されていない点も残っております。他大学 Y では年度予算をあらかじめ策定し、その範囲で運用している例があるとも伺っております。東大 Y としての実情に即した制度設計の可能性も含め、今後、舎生の皆さんと継続して議論を深めてまいりたいと考えております。

最後に、会計システムや資金運用に関して知見をお持ちの OB/OG の皆さまの中で、ご助言・ご協力を賜れる方がいらっしゃいましたら、ぜひお声がけいただけますと幸いです。舎の将来に向け、持続的で透明性の高い運用体制を築いていくため、何卒よろしくお願い申し上げます。

# 修養会

D.Y.（新領域創成科学研究科、2023 年入舎）

コロナ禍で中断していた修養会は二年前から再開され、昨年度の修養会では日帰りで鎌倉を訪れることになった。二月一六日の朝、総勢八人で寄宿舎を出発し、最初の目的地である鎌倉雪ノ下教会を目指した。鎌倉というと大した遠出でもないが、私はまるで初めての遠足に向かう小学生のように、ほんの少し、ドキドキしていた。当時、文共部員だった私は、中心になって会を取り仕切るという慣れない役回りを担っていた。舎の皆とそろって外出する機会も珍しく、どんな会になるか、期待よりも先に緊張していたのである。

目的地に到着して、まず想定外だったことには、雪ノ下教会がカトリックとプロテスタントの二つあったのだ。当初の計画では、プロテスタント教会を訪れる予定だったのだが、皆で相談した結果、カトリックの雪ノ下教会のミサに出席することになった。

礼拝堂に足を踏み入れると、天井は高く、オルガンの音色がよく響きわたり、壁際の窓からは柔らかな光が差し込んでいる。その静謐な空気に包まれ、自然と心が澄んでいくようであった。普段はプロテスタントの教会に通っている私にとって、カトリックのミサはなじみの薄いものであり、聖体拝領や典礼も、周りの人の見様見真似であったが、その一つ一つが非常に新鮮な体験であった。

ミサの後は皆で海鮮丼を食べたり、北鎌倉を散策したりと鎌倉の町を楽しんだ。旅の締めくくりには由比ガ浜を訪れた。幾たびもの撮り直しの末に、人文字 YMCA をなんとかカメラに収めたのだが、C の文字担当の米倉兄が、跳びすぎて疲れてしまい、桐生兄に途中で選手交代したのは、良い思い出である。

振り返ると、出発前の私の心配はすべて杞憂に終わった。入舎したばかりの舎生も、これから卒業して社会に出ていく舎生も、皆で相談しつつ作り上げたこの修養会で仲が深まり、心に残る、恵みにあふれた時間であった。

2024 年度修養会の様子

# 駒場祭

米倉　敬宏（農学部、2023 年入舎）

2025 年の 11 月下旬、イチョウによってキャンパスが黄色く彩られ、独特に香りづけられた季節に東大 YMCA は駒場という若者の街に上陸した。「年寄り」が多い現舎生の大半にとって、血気盛んなその地は微妙に居心地が悪かったけれども、勇気を出して訪問であった。そう、なんのことはない、駒場祭への出展である。しかしこれは東大 Y の有史上おそらく初めての試みであり、決して容易な挑戦ではなかった。そもそもの出展の主眼は寄宿舎の宣伝にあった。昨年から今年にかけての新舎生は十人という稀にみる豊作であったが、水物である応募者の人数のことであるから油断はできない。波にのってきた舎をより軌道にのせるための絶好の機会として駒場祭は捉えられたのだった。出展内容は、ある舎生が「東大 YuMmyChA 亭」という天才的な企画名を思いついたことで、ヤムチャに決定した。

蒸し餃子と烏龍茶を提供することとなったが、神は私たちに予想以上の試練をお与えになった。悲劇の第一幕は、二人いる担当者(私はその一人)が駒場祭前後で多忙であるということだった。私は学園祭前日の金曜日が卒業論文締め切りという比較的まだ「幸運な」状況であったが、もう一人は公務員試験が土日に位置し、物理的に参加が不可能になった。第二幕は駒場祭の日程が 50 周年記念式典と被ったことであった。これにより、3 日間の駒場祭のうち 1 日出れないことが確定した。終幕にして最後のトドメとなったのは、他でもない、当日の売れ行きであった。駒場祭の屋台は、五月祭と比べ過酷なことで知られているが、それは想像以上であった。比較的良い立地であるはずなのだが人々は無情にも一瞥をくれるのみでただただ通り過ぎていった。売れ残った大量の餃子は、舎生の日用の糧となった。唯一救いであったのは、舎に関心を持ってくれる方々が思ったよりいてくださったことである。中には、応募を真剣に検討してくれそうな方もいらっしゃった。因果関係は分からないが、駒場祭の直後に数人の見学申し込みがあった。

今回の反省を踏まえ、五月祭も含む来年度以降の学園祭における対策が検討された。冊子の配布や物品販売など、食事提供に限定されない出展の可能性も提示された。私は今年度で舎を去る身であるので今後は見守るしかできないけれども、これからも舎を牽引していく前途洋々な学生たちの柔軟でアイデアに満ちた出展に期待しているところだ。東大 YMCA の学園祭での冒険はまだ始まったばかりである。To be continued...

駒場祭にて出展した東大 YuMmyChA 亭

舎生総出で、食堂にて事前準備（折り鶴）をしている様子

デザイン：W.H.さん（学際情報学府、2023 年入舎）

# 3-3 場所編

## 礼拝堂

白川　裕都（経済学部、2024 年入舎）

礼拝堂は、総会や記念礼拝といった節目の場でありながら、日常の中にも静かに息づいている空間だと思います。普段は総会で用いられ、時折ピアノの音が響き、土日には聖書研究会や合唱サークルなど外部団体の利用もあり、用途は多様ですが、そのいずれにおいても、場の落ち着きが損なわれることはありません。

私自身も、勉強のためにこの場所を使うことがあります。テスト前に思考が行き詰まったとき、礼拝堂の静けさは自然と集中を取り戻させてくれます。窓の向こうに見える文京学院大学のビル越しの空も印象的で、時間の流れが一度緩むような感覚があります。

この空間の特徴の一つは、廊下の小窓や階段越しに伝わる「気配」だと感じています。中を覗かなくても、誰かがいることが分かる。ピアノの音から、演奏している人が自然と思い浮かぶこともあります。完全に閉じられない構造が、他者の存在を意識の周縁に留め、過度な緊張を生まずに集中を支えている。その在り方は、寄宿舎生活らしい距離感を象徴しているように思います。

近年はオンライン配信の機会も増え、今年度は音響設備を一部整えました。ミキサー型のオーディオインターフェースやコンデンサーマイクを導入し、必要な範囲でケーブル類も更新しています。記念礼拝や講演会、会議や合唱の配信・記録が、以前より滞りなく行える環境が整いつつあります。

設備は少しずつ更新されても、礼拝堂が持つ空気感や景色は変わりません。今後ホワイトボードなどが加われば、研究や日々の関心事について自然に言葉を交わす場面も、より生まれやすくなるかもしれません。先輩方が大切にされてきたこの空間を、時代に即した形で丁寧に使い継いでいければと思います。

# 食堂

Esther O.（公共政策大学院、2025 年入舎）

Whenever I return back to the dorm, I'm greeted by a dark corridor and at the end of it, a warm glowing light behind frosted glass doors. Sometimes, its silent. Other times, I hear chatter and laughter flowing out from behind it. Sometimes, when I feel like I want some company, I pop in for a quick (or not so quick) chat. Other times, too tired from the day's activities, I plod upstairs, with the light comforting me, reminding me that I'm surrounded by a community.

Big cities can be isolating. Tokyo is no exception. But for me, the dorm has been a wonderful home, and the only one I've known in Tokyo in my short 3 months here. Most of my fondest memories of day-to-day life at the dorm have revolved around the 食堂. Many of my friendships with the other dorm students were formed around warm meals around the large dining table, reminiscent of one from a large family home. The presence of homecooked food provides the setting for good conversations, ranging from what happened in our days, the latest dorm events, complaining about exams and coursework and even discussions on politics, economics and public policy matters (although I study that, so maybe my experience is biased). As someone who takes some time to make friends, the repeated interactions with my dormmates in the 食堂 has given me the opportunity to forge friendships in my short time here; it's truly a space that makes the dormitory feel like a home away from home.

Of course, we must thank 小幡さん for the warm homecooked meals at both breakfast and dinner. As someone who has been a 留学生 in Europe for the past 4 years of my life, I've stayed in private accommodation the whole time. I've never had catered food. Every meal was a chore of having to think about what to cook, what ingredients to buy, when to buy it, washing and prepping the food, then at the end of it washing up after the meal. While I usually enjoy cooking, on top of my usual studies and during busy periods, it was a chore. Therefore, I'm grateful to come home to a lovingly prepared homecooked meal, with おかず to accompany it!

And while the 礼拝堂 is great for official meetings and big events, the 食堂 is my favourite place for the relaxed and fun events. My favourite memory has been the Christmas 礼拝 afterparty, where everyone could unwind, drink together and participate in a very fun Secret Santa gift exchange.

All in all, the 食堂 is a integral part of our dorm life here – I never know who I'll meet that day or what conversation we'll have, but the element of surprise adds to the excitement and enjoyability of communal living.

食堂にてクロスワードをする舎生

岩見さんがご飯を作ってくださった日

小幡さん

食堂にてスライド発表の練習をする様子

クリスマス会後 プレゼント交換の様子

小幡さん

# 厨房

太田　萌（情報理工学系研究科、2024 年入舎）

厨房といえば、一般的にはまかないの小幡さんの姿を思い出すのだろう。だが私にとって厨房は、寄宿舎の中で自分の部屋以外に、唯一無心になれる場所だった。

短い時で三時間、長い時には六時間ほど、深夜の厨房で一人、黙々とお菓子を作っていた。お菓子作りが好きだったわけではない。甘いものも、特別食べたいとは思っていなかった。ただ、忙しなく人の気配が途切れない寄宿舎生活の中で、頭を空っぽにするための行為が必要だった。

実家にいた頃、料理をした記憶はほとんどない。その後の一人暮らしでも、オーブンを持たないまま過ごした。寄宿舎に来て、立派なオーブンを見たとき、なぜかこれを使わなければもったいない気がして、パウンド型とハンドミキサー、レシピ本を一冊だけ買った。

消耗しやすい自分にとって、決まった量を計量し、混ぜ、こね、並べるという単純な作業だけをこなす時間は救いだった。数時間で終わらせるつもりが、気づけば朝になっていたことも一度や二度ではない。私が欲しかったのは完成したお菓子ではなく、プロセスであり、甘ったるい匂いが厨房に広がる頃には、もう興味を失っていることがほとんどだった。

大量にできたお菓子は、食堂の冷蔵庫に入れておけば、舎生によってすぐに消えていった。大人数のメリットである。作るプロセスを一人で楽しみ、成果物は自然と皆で共有されていく。その両立ができるのは、寄宿舎ならではのありがたい環境だった。

特に思い出深いのは、クリスマス会のプレゼント交換でもらった、ヘクセンハウスのキットを使って、6 時間ほどかけて大量のクッキーパーツを焼き、大掃除の後に皆でヘクセンハウスを組み立てたことである。食堂に置いておいたら、組み立て前にパーツの一部を舎生に食べられるというハプニングが起きたり、不器用すぎてハウスにならない問題があったり、みんなでチョコペンで落書きをしたり、存分に楽しんだ。

これからも、あのオーブンが舎生を陰ながら支えていくことを願っている。

# 喫煙所

石井　蓮（農学生命科学研究科、2022 年入舎）

現代人は忙しい。この東大 YMCA 寄宿舎の舎生とて例外ではない。学業に、バイトに、日々勤しんでいる。そんな中聖域として残された時間がある。それが喫煙所での一時である。タバコを吸う 5 分間、この時だけ日々の雑務から解放されて思索に耽ることができる。研究のこと、就職のこと、もっと大きな人生のこと。それをゆったりと考える時間をいつもこの場所は与えてくれる。

もちろん一人で過ごす時間だけではない、友人と共にタバコを吸う時間もまた得難いものである。普段食堂で話すのとはまた違った時間がそこでは流れている。公で話すのが躊躇われるような人の心の奥底の話を共有できるような、そんな不思議な場といえよう。普通の寄宿舎生活を過ごしているだけでは知り得なかった友人の一面を垣間見て、より親密な関係を築くことができたのだ。

近頃喫煙をめぐる世論は大変厳しい。公式マップから消えたもののまだ喫煙所の設置がある東京大学は有情なほうだ。東大 YMCA 寄宿舎に喫煙所があるのも本来不思議なことであり、一喫煙者としては極めて幸運なことといえよう。健康に対するタバコの害は否定すべくもなく、いずれはこの寄宿舎の喫煙所も消えるだろう。それでもその時間に他にない価値を見出す人間がいることをここに記した。

# OB 談話室

Tavana Alireza （工学系研究科、2024 年入舎）

OB 談話室は、食堂の隣、廊下の突き当たりに位置する部屋である。入舎希望者が舎内見学の際、最初に案内される場所の一つであり、多くの場合、この部屋が寄宿舎の第一印象を形づくる。木製の壁や家具に囲まれた空間には、どこか懐かしさを感じさせる落ち着いた雰囲気が漂っている。部屋に置かれたピアノや、著名な卒舎生の写真は、この場所に品格と歴史の重みを添えている。また、来訪者の目を引く古いベルをはじめとするいくつかの調度品は、長い年月を経て受け継がれてきた寄宿舎の記憶を静かに物語っている。

この部屋は、月例の OB 会や聖書研究会などに利用されており、世代を越えた対話の場としての役割を担ってきた。近年では、英語によるスモールトークの集まりも行われており、教育、経済、哲学など、多様な分野のテーマについて自由に意見が交わされている。参加者それぞれが異なる視点を持ち寄ることで、新たな考え方に触れ、理解を深める機会となっている。

OB 談話室は、単なる部屋ではなく、対話を通じて好奇心を満たし、価値観を共有する場として、今も寄宿舎生活の中で大切な役割を果たしている。

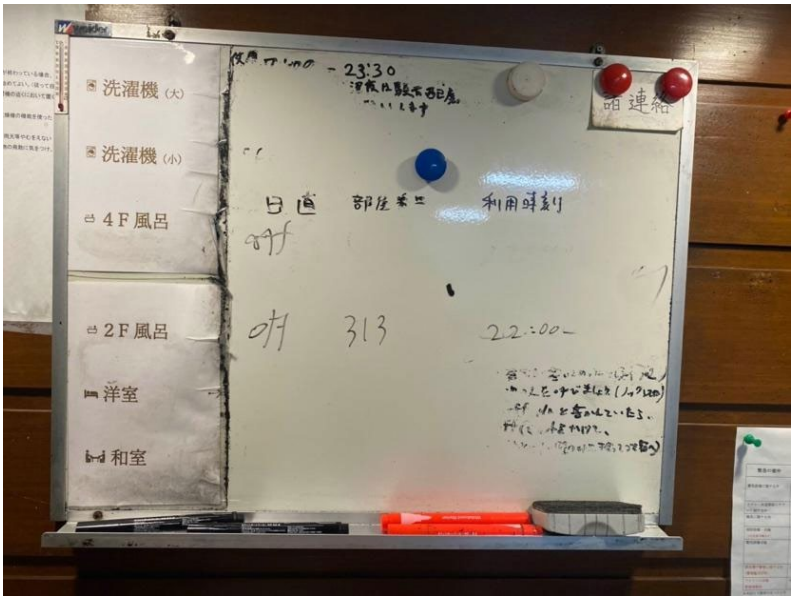
# お風呂

ブディオノ・クリスチャン・ミレニュー（工学系研究科、2021 年入舎）

東大 YMCA 寄宿舎のお風呂は 2 階と 4 階にあります。それぞれシャワー・バスタブ付きで、4 階のお風呂は学生の部屋に近いため入る時間帯が制限されていますが、2 階のお風呂はいつでも入っていいことになっています。また、2021 年ころから雑会計の廃止とともに 2 階お風呂のお湯の利用料金もなしになりました。

そんなお風呂ですが、建物の中で自分の部屋以外で唯一「一人でゆったりできる空間」だと私は思います。個人の時間が欲しい時、自分の部屋にいるかお風呂に入ります。お風呂だと、シャワーを浴びながら歌を歌うことができますので、ストレス発散にはとてもいいと個人的に思います。

こんな大切なお風呂なので、もちろん掃除も学生でしっかり行っております。いつもみんなが快適に使うことができるように、いつも私たちの大切な場所になるように、これまでも、これからも。




お風呂の利用時に使用するホワイトボード。部屋番号と利用時刻を記入する。

# 廊下

関口　玲（文学部、2025 年入舎）

廊下と階段は各部屋を移動するための通り道だから、道である以上それ自体のためにそこに赴くということは基本的になく、機能としては媒介者の地位に留まる。したがって、そこで舎生との間に何かが起きるのだとすれば、それはたぶんに偶然の産物である。多くの場合ふたりは目的地を異にしており、すれ違いのつかの間に交流が生じる。軽く会釈をして通りすぎることもあれば、会話に花が咲いてしばらくそこに立ち止まることもある。外出先で知り合いに出くわすと、私は面食らって、うまく話せずに別れてしまいがちなのだが、寄宿舎のなかでは誰かと遭遇することを当然のこととするモードにあるから、割とスムーズに会話ができる。この点、外の道路と建物内にある廊下との違いかもしれない。

私の部屋は階段とお手洗いから比較的近い距離にある。扉が薄いのもあって、部屋にいても外の往来がよく聞こえる。各舎生の生態をある程度把握できるようになると、誰がいま通っているのか、声を聞かずともだいたい予想できる。ホワイトボードに文字を書く音を聞いて、あ、いまのは〇〇さんかなとか想像する。最近は食堂の扉の建付けが悪くなっていて、開閉のたびに指笛のような音が鳴り響く。その頻度が多いと食堂の賑やかな様を想像し、気分がよければ、自分もそろそろご飯にしよう、と部屋を出る。この寄宿舎の生活音はそれなりに私に親しい。

天気がいい夕暮れ時は、4 階の廊下は夕焼けが差し込んできれいに映える。寄宿舎のなかで、私が特に好きな場所だ。

# 三階談話室

D.Y.（新領域創成科学研究科、2023 年入舎）

「ここ、使ってもいいんですか？」

入舎して数日後、三階談話室を使い始めたときのことを、今もよく覚えている。人生初めての寄宿舎生活、真面目で優秀そうなクリスチャン学生たちに囲まれた生活の始まり。私は期待と緊張で興奮し、気持ちが高ぶってしまって、入舎してしばらくは、いつも落ち着かなかった。最近は早天祈祷会や木曜集会を行っている、この三階談話室も、当時は舎生の自習スペースとして使っていた。四つ並べられた長机のうち、入り口側の二つの席は既に使われていたが、残り二つの窓際の席は空いていた。居住空間の中に、他人と一緒に勉強に打ち込める自習スペースがあるということに私は大喜びし、他の新舎生にとられる前に、と入舎してすぐさま、窓際の席を陣取った。新しい大学院生活、そして、私の YMCA 寄宿舎生活は、この一言と共に、談話室にて幕を開けたのである。

午前中は談話室で課題や研究作業をし、研究室に行き、そして夜、再び談話室に戻ってまた作業をし…。実家通いであったこれまでと比べ、通学時間が大幅に減った分、勉強にかけられる時間が驚くほど増えた。私は寄宿舎にいる時間の多くを談話室で過ごし、勉学に邁進した。そしてそんな生活の中で特に、談話室メンバーとの交流は、かけがえのない日常の一部となっていった。以前から談話室の住人であった当時の学生主事や、時期を同じくして新たな談話室の住人となった新舎生とは、毎日のように、学校で経験した面白い話や、研究における苦労や悩みなどを分かち合い、励まし合いながら(というよりは、聞いてもらい、助けてもらいながら)、共に時間を過ごした。また、キリスト教についてほとんど無知に等しかった私は、聖書の内容や信仰、祈りについて多くの話を聞き、日曜日には、近所のさまざまな教会に連れて行ってもらった。大学ではずっと疎外感を抱いていた分なおさら、信頼できる兄と弟が増えたような心持ちがして、毎日が楽しく、新鮮で、充実したものであった。

談話室の本棚には、聖書や讃美歌だけでなく、過去の早祷ノートがたくさん並んでいる。私は時間があれば、好んでそれらの早祷ノートを遡って読んだ。そこには、かつて舎に居た人たちが、どのように日々を送り、何を考え、信仰にどう向き合っていたのか、その思考の断片が書き残されていた。人の日記をのぞき読んでいるような感覚がして、ひどく面白く、また、翻って自分はどうかと思い巡らせながら、信仰について考えたりもしていた。

それから二年半以上が経つ。談話室の友はみな舎を去り、他方、私は今も入舎当初と同じ窓際の席に座って、この文章をしたためている。

思い返せば、この二年半は想像もしていなかったほど濃密で、体当たりで人と関わる経験を積んだ。他者から受け取る愛と、共に生きる喜び。あるいは、自分とは異なる考えをもつ

他者との衝突と、それぞれが負う傷つきや悲しみ。互いに認め合い、許し合い、自分を偽らずに在れるこの環境の中で、多様な他者との関わり方を、私は少しずつ学んできたのだと思う。そして何より強く自覚するようになったのは、独りでは到底知りえなかった自分の姿、どうしようもなく自分を優先してしまう、自分の弱さである。相手のため、と思ってした行為さえ、振り返れば実は単なる自己保身だったと、後で気づいたことも多くある。いとも簡単に口にされる「他者を愛する」という行為は、表面的な優しさとは全く別のものであり、私にとって決して容易なものではなかった。

今、また、幾度となく眺めてきた窓の外の風景を前に、自らの変化と、なおこれからも続いていくこの問いについて、キリスト者となった私は静かに思い巡らせている。

# 舎生部屋

鎌田　将（人文社会系研究科、2025 年入舎）

半世紀もの間、数多の先輩方を見守ってきたこの建物。竣工 50 周年という記念すべき年に、その歴史の一部としてこの部屋で日々を紡げることに、深い縁と喜びを感じています。私の部屋は、単に眠る場所を超えて、友人とのつながりを感じられる温かな空間です。

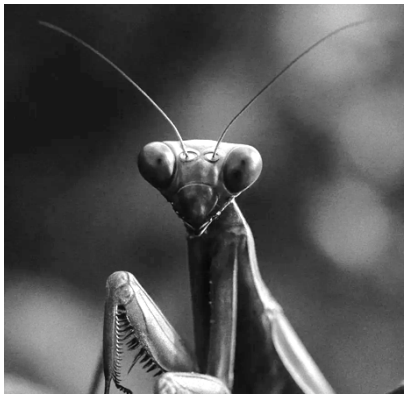
私の部屋を見渡すと、友人や舎生から譲り受けたものが数多くあります。今、私が毎日向かっている机と椅子は卒業した友人から譲り受けたものであり、窓辺にかかったカーテンもまた、舎生からゆずってもらったものです。自分一人では完成しなかったこの部屋が、多くの方々の厚意によって形作られている事実に、日々感謝が絶えません。

また、この建物の造りも、独特の味わいがあります。廊下の音が筒抜けで、ちょうどこれから寝ようとしていると急に笑い声が聞こえてくるなど、困ることもありますが、そのにぎやかさが友とともに生きているという安心感を与えてくれます。住人同士がプライバシーの名のもとに隔離された現代の住宅では決して味わえない、人と人との距離の近さが生むこの活気こそが、本寄宿舎が 50 年保ち続けてきた魅力だと実感しています。

50 年という長い歳月、この壁や床はどれほどの舎生の門出を見守ってきたのでしょうか。私もまた、先達から受け取ったこの温かな空間を大切に育み、次にこの部屋に住まう未来の舎生へと、誇りを持ってこのバトンを繋いでいく決意です。

# 卓球室

桐生　有喜（教養学部、2024 年入舎）



東大 YMCA に入舎してから約 13 か月が経った。僕の入舎前は舎内で定期的に卓球トーナメントが開かれ、舎生同士で気軽にラリーを楽しめる環境があったと聞いている。だが現在は定期開催はなく、不定期に数人で集まって遊ぶ程度になってしまった。僕自身は中高の 6 年間卓球を続け、技量はともかく競技としても娯楽としても卓球が好きだった。大学に入ってからも卓パというサークルに入っていたが、次第に学業や他の用事で卓球に割ける時間は減り、入舎したころには数か月まったくラケットを握らない期間ができていた。

熱が完全に冷めたわけではなく、近くに台があるというのは思いがけない幸運だった。入舎して最初の一か月は気ままに一人で球を打っていた。一人練習も悪くはないが、やはり相手がいてラリーを続ける楽しさには及ばず、どこか物足りなさを感じていた。その後、数名の舎生から「卓球やろう」という声が上がり、約半年ぶりにまとまった人数でプレイする機会が訪れた。

久しぶりの対人プレイは期待以上に楽しかった。ラリーの合間に交わす雑談や駆け引きの中で、普段の会話では見えない舎生それぞれの一面が垣間見えた。集中してボールを追う瞬間や、失点して苦笑いする表情、小さな勝利に沸く声―そうした些細なやり取りが共同生活の空気を柔らかくし、居心地の良さを増してくれた。定期的な大会がなくなったのは残念だが、不定期でも集まってプレイすることで新しいつながりが生まれ、卓球は僕にとって単なる運動以上の意味を持ち続けていると改めて感じた。今後も時間を見つけてラケットを握り、舎生と卓球を通じて交流を続けていきたい。

# 図書室

神野　和磨（理学系研究科、2025 年入舎）

まかないの小幡さんとの一枚

階段を 4 階に上がると、正面にあるのが図書室です。図書室には、これまで東大 YMCA 寄宿舎が収集してきた書籍や、卒舎生諸兄姉の皆様が執筆された書籍が所蔵されるとともに、三階談話室と並んで舎生の勉強場所の一つとなっています。部屋には本棚の他に、六角テーブルが 2 台と木椅子、Canon の印刷機が一台設置されています。夜になると図書室の部屋から明かりがこぼれ、その前を通ると、机に向かう舎生の背中が目に入ります。

2025 年 12 月現在、ざっと数えたところ蔵書の数は 4000 冊を越えます。この図書館には、その部屋の広さに比して実に多様な分野の本が収蔵されています。聖書、神学書、信仰に関する書、外国語文献、比較宗教論、倫理学、古典、書簡・日記・回想録、世界史・日本史、法思想史・憲政史、政治経済学・行政学、自然科学史・科学思想史、数学、生物学、医学、百科事典、演劇論・音楽論、小説、新書など多岐に渡ります。

これらの書籍が並ぶ本棚は、この寄宿舎に入れ替わり立ち代わり滞在してきた舎生たちの、知的好奇心、知的格闘、思索、省察が、130 年以上の歳月をかけて積み重なってきた地層のようです。言語・分野を問わず、キリスト教その他の諸宗教に関する書籍が所蔵される様は、小さな知恵の館を思わせます。

これだけの蔵書を長年にわたり維持・整理されてきた舎生の方々、ならびに事務局の皆様のご尽力に、感謝申し上げます。

# 客室

W.H.（学際情報学府、2023 年入舎）

来月から、事務局が家族や YMCA 関係者以外を客室に入れない方針にするという噂を聞いたが、どうもその決定に至るには、私の行動も少なからず関係しているのではないかと思っている。

これまで私は、洋室・和室・ゲストルームに、いろいろな友人を迎えてきた。洋室には、私の教会の先生が一時期月に一度ほど利用していた。京都時代に通っている教会が、私の東下りとともに東京に分点を設け、日曜の朝礼拝堂を借りている。そのため、教会の方々が時々洋室を借りることがある。

舎生自身が客室で泊まることは普通ないが、私は LA の学会から戻った時にラボメンバーの中で流行っていたコロナに感染してしまい、洋室で隔離生活をした。体の発熱と夏の暑さに蒸され、曖昧な記憶だ。

その次の夏、和室でアメリカで留学している中高の友人と博士進学と失敗した恋愛の話をした。卒業後は全く違うところで全く違う人生を歩んでいたが、なんとなく今もまた、人生の同じところに辿り着いていた。

バイト先の本屋で拾った野宿しそうな観光客 2 人を和室に入れたこともあった。初対面の人を家に連れてくるのは普通ではないと思うが、異郷で出会った同い年の同郷人への憐れみだったのか、象牙の塔に生きてきた私が中国の田舎で塾講師をしている 2 人の純粋なエネルギーに心を打たれたのか、なんとなく助けてあげたかった。このことを知っているのは、たぶん今フランスにいる元舎生の一人だけ。

地塩寮の客室に安くて泊まらせてもらってるお礼に、京大 Y の方もゲストルームを安く泊まってもらっている。地塩寮の客室に猫が出るけど、ゲストルームに何が出るんだろう。

今日もまた一人、夜行バスで来た友人をゲストルームに迎えた。京都時代の友人はみんな苦学生で、いつも一番安いゲストルームを利用している。去年ゲストルームで泊まっていた友人に今年もクリスマスカードを送ろう。

客室はもともと OB/OG と学 Y の方々のために用意されたものなので、こうした方針になるのも仕方ないと思う。たしかに私は友達を入れすぎて寄宿舎に負担をかけたかも。それに事前の予約ではなく急なお願いになることも多い。でもなんとなく、知り合った人をこの舎の客室に泊まらせたいという気持ちが強くある。「隣人」とは何か、クリスチャンにとって人生をかけて解いていく言葉かもしれない。

# 3 階・4 階ベランダ

M.M（経済学研究科、2025 年入舎）

3 階の住民である私にとって「3 階ベランダ」といえば卓球室から入って洗濯物を干す場所、という印象だろうか。ただ、入舎時にベテラン舎生から洗濯物を干すと風で飛んでいくと言われてから恐ろしくて布団カバー以外干せていない。布団カバーは洗濯ばさみでこれでもかと厳重に挟んで飛ばないようにしている。また、窓がなぜか自然と閉まるようになっており、ベランダに出ると外に締め出されてしまう。なので夜に干そうとすると暗さも相まって余計怖い。

「4 階ベランダ」は 4 階の舎生が洗濯物を干す場所である。しかし、私にとっては夕焼けスポットだ。私は夕暮れ時のマジックアワーが 3 度の飯より好きで、見るたびに見惚れて立ち尽くしてしまう(自分で言うのもなんだが安上がりな趣味である)。そんな私にとって夕焼けが綺麗に見えるスポットは大事な居場所である。夕焼けハンターの私は 4 月に上京してきた時から、さながら餌を求めるハイエナのように寄宿舎周辺の夕焼けスポットを探し回っていた。が、まさに灯台下暗し。探し回っていた私が求めていた特等席は、なんと自分の住む寄宿舎にあったのだ。最近は、自分の部屋から少しだけ見える西の空が綺麗なとき、急いで 4 階ベランダに向かう。そこになぜか置いてある椅子に座って繊細なグラデーションを眺めると 1 日の嫌なことを忘れてしまう。4 階ベランダが私の夕焼けライフを彩ってくれている。

4 階ベランダからの夕焼け. 12 月 18 日 17:04 撮影
(青とオレンジが混ざる瞬間がたまらなく美しい)

# 祈祷室

崔　民赫（法学政治学研究科、2021 年入舎）

今の東大 YMCA の会館には、祈祷室がある。以前は、4 階の風呂場の前にあったらしいが、いまは、ベランダの扉のすぐ前の北向きの部屋が祈祷室になっている。

私が入舎した 2021 年 4 月頃には、祈祷室は、既に退舎した舎生たちが書いた祈り課題のポストイットなど、活発に使われていた痕跡はあったが、だいぶ放置されていた。コロナ禍の影響で舎生が 10 人前後しかいなくなっていたこともあると思う。そこで、せっかくの祈祷室を活用したいと思い、大掃除をし、きれいなカーテンを窓につけ、いまのような感じに整えた。

この祈祷室では、舎生たちとともに祈り会を行ったことも何度かあるが、大切な思い出である。また個人的にもこの祈祷室がすごく気に入ったので、よく祈りや、静かに黙想する場所として使わせていただいた。これらすべて東大 YMCA に入舎できたから得られた経験であった。

人間は遙か古代から祈っていたようである。そして、キリスト教は、ほんとうに素晴らしい祈り方を人間に示している。

YMCA の舎のコミュニティは、人間の理性では知り得ないところから来る恵みに感謝し、互いのことを思い、大事にする舎生たちの祈りによって支えられているのだと私は信じている。そして、舎に連なる方々の祈りが、舎生の祈りを支えていることも忘れてはならないのだと思う。私は祈祷室が人間の「祈り」ということを大事にしている点で、これからも大切にされてほしいと願っている。

# 3-4 関係の方々の声

## 東大 YMCA 事務局の変遷

事務局　　明神恵子　永田智子

1975 年 4 月新舎に本部事務所が移されてから、当時専務理事となられた馬場進さんがご自分の会社におられた加藤せつさんを事務局員として雇用されました。以来、加藤さんは 31 年の間、事務局の事務的な仕事から舎生の母親代わりとなるようなお世話まで、多岐にわたることを一人でこなされてきました。子供がいなかった加藤さんは時にはご自宅に舎生を呼んでご馳走されたこともあると伺いました。2005 年頃から体調を崩され、入院されるようになり、2006 年 4 月に岩井理事のご紹介で明神恵子が事務局に入りました。加藤さんからの引継ぎもままならないまま、当時の常務理事でおられた野口吉三郎さんのご指導の下、事務局の仕事を始めましたが、当初から他の職場と掛け持ちで、週 2 回の勤務でしたので、仕事量の多さにいっぱいいっぱいだったことを鮮明に記憶しています。2011 年度には次年度から公益財団法人に移行すべく、当時の常務理事だった長島章さんと必死に申請書類を作成し、2012 年 4 月から公益財団法人として発足できました。2022 年 4 月に篠原常務理事の実妹である永田智子が事務局に入り、明神と週 2 日ずつ勤務しています。

事務局では、会費・経費・会員名簿の管理、公益財団法人としての東京都への年次報告等の事務的な仕事を行いながら、舎生の生活や活動が順調にいくよう見守っています。

# 東大 YMCA 事務局回想

桃井明男

私は、当時財団の理事長をされていました原田明夫さんから暫くぶりに電話をもらい「今、何をしていますか？」と声を掛けられ、「時間があれば少し相談したいことがあるので一度会って話をしましょう」ということになりました。それは、2015 年 5 月のことでした。

後日、お会いして話を聞きますと「東大 YMCA の常務理事をしている長島章さんという方の健康状態が芳しくなく、後任の常務理事を探す努力をしてきたのだが、短期的には難しいということになり困っている。当分の間、私が止む無く常務理事を兼任することとなり、ついては、事務局を強化する必要性があるので見つかるまでの間、私に時間の許す範囲でよいから事務局の手伝いをお願いできないか」という相談でした。

原田さんとは、私が東京女子大学の事務局長をしていたときに大学の理事長として就任されて以来、そのほとんどの期間、補佐をしていました。奥様の朋子夫人も女子大の卒業生ということでお二人とは親しい関係でした。また、東京キリスト教青年会（東京 YMCA）で奉職していたときには、東大 YMCA の OB の多くの方々とも馴染みがあり、無下に断れないのでお役に立つならお引き受けしましょうということになりました。

後日、原田さんと一緒に事務所に行って、長島さんと事務局の明神さんにお会いして仕事内容の説明を受け、対外的なこともあるので「事務局長」という形でお願いされました。そして、今まで常務理事が行っていた大部分の実務を私が担い、寮母的存在の明神さんと料理上手な賄いの片桐さん、月に一度会計の入力補助をしてくれている津崎さんの四人で、法人業務と基幹事業の寄宿舎を切り盛りすることになりました。明神さんは、他の仕事と掛け持ちしていて週 2 日（火・木)の勤務、私が大学や他団体の仕事をやりくりして週 3 日（月・水・木）事務所に顔を出すことになりました。曜日が重なる木曜日は、明神さんと一緒に夜 7 時から 9 時過ぎまでの合同祈祷会、聖書研究会、OB 座談会に出席しました。これは、舎生の一人一人と交わりその人を知る良い機会となりました。当時、聖学院の学長をされていました阿久戸光春先生の聖研は、先生も準備に力が籠っていて舎生も熱心に事前勉強をして濃密な時間を共に過ごしました。

また、明神さんも私も一人の日は、様々な雑務をこなさなければならず、老朽化に伴う施設のトラブル、舎生どうしのいざこざが起きたときには学生主事の相談相手になったりしました。特に大変だったのは 2019 年からのコロナ禍でした。が、個々の隔離状態にある中でも罹患した舎生のために食事を部屋の前まで届けたり下げたりして助け合い、何とか協力しあってこれを乗り切りました。

一方、法人業務は公益法人改革により 2011 年 4 月に公益財団法人になって 3 年目を迎えた時でしたので、主務官庁（東京都）による第 1 回目の立ち入り検査があり、さらには、2 回目

となる 3 年毎の東京都の立ち入り検査がありました。この時には、厳しい改善指摘事項があり、その対応に苦慮したことを思い出します。

しかし、このことがあって忘れられたかのようになっていた理事長の常務理事兼務のことで改善指導があり、これを解消し選任しなければならなくなりました。

私は、ようやく退く機会が来たと心底喜びました。というのも、2022 年 6 月に事務局を退く迄の 7 年間、原田理事長が 2017 年 4 月 6 日に病気で天に召され、その後、急遽徳久俊彦理事が理事長（常務理事兼務）を引継がれたりした関係で常務理事の選任は後回しなり、事務局長が実務をこなす状態が長く続いていたからです。

これを機に月本昭男氏が理事長に就任、篠原常務理事そして岩見理事の三人体制となり、事務局も明神さんと新たに篠原理事の実妹の永田さん、それに会計補助の津崎さんと健康を害し退職した賄いの片桐さんに代わって小幡さんが加わった新しい事務局体制が敷かれました。

# 調理師の声

調理師　小幡公雄

50周年おめでとうございます。私はこの寄宿舎でまかないを作っています小幡と申します。2023年の4月からお世話になっております。こちらに来る前は某社員食堂で勤務しておりました。寄宿舎での仕事は、これまでの職場と大きく違いました。予算の範囲内ではありますがメニューを自由に作ることができ、またそれぞれの学生の好き嫌いに応じてメニューを変えることができます。留学生たちの出身地域の料理を作ることもあります。何より学生から食べた感想を直接聞くことができるのが嬉しいです。

途中骨折による休職も挟みましたが、これまで2年余りこちらで働かせていただいて、ようやく舎生たちも打ち解けて接してくれるようになり、毎日こちらに来るのが楽しみになっています。食事関連は問題が多くまだまだ課題もありますが、学生たちには楽しい寄宿舎生活を送ってもらいたいと思います。

（編集：　米倉 敬宏）

# 第４章
# 卒舎生座談会―世代を超えた語らい

# 卒舎生座談会―世代を超えた語らい:寄宿舎生活の思い出とこれから

日時：2025 年 12 月 13 日（土）　14 時～15 時半
場所：東京大学学生基督教青年会　OB 談話室

参加者（敬称略）：
二神 康郎（1960 年・農卒）
山口 栄一（1977 年・理卒）
山田 祐彰（1989 年・農卒）；オンライン参加
関 智征（2003 年・法卒）
西岡 宏晃（2007 年・工卒）
徳永 友花（2018 年・工卒）
太田 萌（現舎生・情理修士 2 年）
米倉 敬宏（現舎生・農 6 年）

卒舎生座談会が開催された OB 談話室
左：徳永友花さん　　右：山口栄一さん

徳永（司会）
それでは始めたいと思います。今回卒舎生座談会ということで、クリスマス祝会の前にお集まりいただいて、ありがとうございます。ちょうど世代をまたいだ交流という形で、色々な年代の方々にお集まりいただけました。本日は、東大 YMCA での思い出話ですとか、これからの寄宿者としての役割、印象に残っていることなど、自由に会話しながら楽しい時間を過ごせたらいいなと思っていますので、よろしくお願いします。まず自己紹介をしていきたいと思います。お名前と在舎した年、卒業した専攻や、今日座談会でお話ししたいことなどがあればお願いします。

山口
1975 年入舎、新舎第 1 期生（1.5 期ぐらいなんですが）で、1979 年の修士修了とともに舎を出ました山口栄一と申します。理学部物理学科卒です。京都大学の教授をやっていましたが、2020 年に定年退官し、今はオルバイオ株式会社の代表取締役をしています。よろしくお願いします。

太田
太田萌と申します。現舎生です。東京大学大学院の情報理工学系研究科のシステム情報学専攻の修士 2 年です。寮には 2024 年の 3 月から住み始め、1 年半ちょっとになります。よろしくお願いいたします。

米倉
同じく現舎生の米倉敬宏と申します。 2023 年の 5 月入舎なので、2 年弱くらい在籍していて、今年度末で卒舎する予定です。農学部の獣医学専攻の 6 年（最終学年）です。学生主事を務めています。よろしくお願いします。

二神
1957 年 9 月から 2 年半在舎しました。唯一古い宿舎、旧舎出身です。色々お話ししたいことはありますが、また後で。二神康郎です。農学部の農業経済学科卒業です。

西岡
西岡宏晃と申します。寮には 2005 年から 2007 年までおりまして、精密機械の修士卒です。その後は東京電力に入社しまして、新潟県の原子力発電所に勤務したり、海外の発電プロジェクトに携わったりしてきました。今は JERA の洋上風力の会社、JERA Nex bp という会社で、国内の洋上風力の開発をやっております。寮には 20 年ぐらい来られていなかったのですが、ご案内のメールを見て少し懐かしくなり、今回久しぶりに足を運ばせて頂きました。

徳永（司会）
私は徳永友花と申します。在舎が 2015 年から 18 年です。2014 年から女子入寮可になりまして、博士課程を 3 年間ここで生活しました。工学系研究科の建築学専攻を出ております。今は東大の農学部の附属演習林で、特任准教授をしております。東大は実はすごく広大な面積の森林を持っておりまして、国土の 0.1%を持っています。東大の 99.9%の敷地は附属演習林が持っているというキャッチフレーズがあります。そこでカーボンニュートラルなど環境の側面から森林を見るというような研究をしています。よろしくお願いします。

関
関智征と申します。 1998 年入舎だったと記憶をしていますので、 2003 年法学部卒です。今は日本キリスト教団行人坂教会という目黒駅にある教会で牧師をしております。キーワードとして「東大 YMCA なくして、我が信仰なし」。「私にとっては、イギリスの寄宿舎のような交流が現役時代にあった」「YMCA は自分にとってキリスト教主義の中高に通ったような気持ちだった」と感じています。今日はよろしくお願いします。

山田
私は 1989 年に農の修士修了と同時に退舎しました。 3 年ちょっといました。その時同じ宿舎に三沢和彦君がおりまして、今職場が同じです。彼は農工大の統括副学長、私は農学部教授です。私にとっては YMCA との出会いは本当にひょんなことで始まりました。今東京理科大で教授をしている小林憲司君から、面白そうな寮があるから、行って面接受けてみないかと言われました。彼は敵前逃亡しまして、私だけ先に受けて入って、結局彼も後から入りました。求道者という資格で面接を受けさせていただきました。その時、馬場専務理事、加藤せつさん時代ですが、馬場専務理事が面白い問答をするやつがきたと言われて入れていただいたようです。私も YMCA の 3 年間がなかったら今はなかったなと思います。ちょうど環境問題への関心が高まり始める、バブル末期に向けた時期だったので、そちらの方のサークルに入っていましたが、彼らも卒業したら普通に就職していました。私は 3 年間 YMCA に置いていただいた間に、学生 YMCA の集まりや、国際的な会合にも出させていただいて、非常に感じるところがあって、 NGO で 3 年間プロジェクトを担当してからフロリダ大学に留学して、アマゾンに行き、現地調査をして 7 年近くアメリカにおりました。帰ってきてから縁あって農工大に入

山田祐彰さん

れていただいたら三沢君がいました。林野に関しては、農工大も総面積 1000 ヘクタールの98%以上は演習林だと思います。隣に東大の演習林があります。農工大農学部は昔、東大農学部実科と呼ばれていました。私は農業経済出身ですが、フロリダ大学では森林生態の研究室に行きました。

徳永（司会）
山田さんが 1980 年代後半で関さんは 90 年代後半から 2000 年代初頭なので、ちょうどここのメンバーで世代を跨いでいるような形になっていて、すごく年代のバランスがいいなと思いました。本当に良かったです。どうもありがとうございます。
では、自己紹介も終わったところで、東大 YMCA の思い出話などをみんなで分かち合いたいと思いますが、どうでしょうか。

二神
旧舎、今のここを新舎とすれば、旧舎に住んだのは私だけだと思いますが、旧舎のイメージは、今住んでいる新舎をそのまま独立させて、更地の上にドカンって置いたようなイメージになります。木造 3 階建ての、私が入った時はもう古びていて、壁も汚れて汚かったんですけども。建物の特色としては、二舎というのがありました。西側の奥にあった別棟。別棟といっても続いているけど。部屋は和式で畳の部屋があって、そこに大学院生が、 2、3 日なんかゴロゴロと住んでいるようなイメージだった。それから、東の隅には、劇団ぶどうの会という稽古場がありましてね。そこで、木下順二というここの先輩と、山本安英という超有名な女優が組んで『夕鶴』という有名な劇を、海外を含めて 137 回公演した。僕も一回見たけど、とても芸術性の高い劇であるし、劇団だった。

二神康郎さん

関
木下さんと在寮期間は重なっていますか？

二神
いや、被ってない。全然上。ぶどうの会というのは木下順二と山本安英が作ったのですが、最初からこの YMCA が本拠地だったんです。練習場だった。だから、この YMCA をもとにこの有名な公演が作られたというのは、この建物にとって非常に忘れられないかもしれないですね。

徳永（司会）
ありがとうございます。他に何かございますか？

山口
では新舎1期のお話をしないといけませんね。東大YMCAは、その旧舎の土地の一部を売却してファミール本郷ができ、4 階までの区分所有者として東大 YMCA 新舎が誕生しました。そして、1975 年の 4 月に初めて舎生の募集がされました。僕は、1975 年の 11 月ぐらいの入舎です。
あの頃は、みんな学生は貧乏なんです。貧乏学生で大概六畳一間の下宿に住んでいるようなそういう時代です。もうおんぼろの木造の、僕もそんなところに住んでいました。そんなある日、本郷の正門の前に舎生募集の案内がありまして、ふらふらっと見に来たわけです。もう驚きました。ピカピカじゃないですか。要するにマンションです。僕らあの頃、そもそも将来マンションに住めるなんて思ってもなかったし、自分の表札が掲げられる家に住めるなんて思ってもいなかった。そんな時代です。だからこんな所に僕たち学生が住んでいいのかって思いました。入舎選考の日には 20 人ぐらいが談話室に集まりました。一人一人呼ばれて選考があって、灰本周三君と僕だけが合格したと思います。だから倍率 10 倍だと思います。それぐらい大変でした。

山口栄一さん

住んでみると、もう本当にとにかく快適なわけです。なぜかというと、プライバシーがきちんと守られた個室だからです。別に個室に閉じこもっていても誰も文句は言わない。毎日夕祷はありますけど、夕祷も参加しても参加しなくてもいいし、参加したくなったら参加するぐらいのペースで、要するに決まり事が何もない。夕食はもちろん暖かくて美味しいし、朝食は勝手にパン焼いて食べるし、こんな幸せな学生時代は他にありません。先ほど東大 YMCA が自分の人生を変えたという言葉がありましたけど、全くその通りです。
何よりも大事なことは、文理融合です。多分野の人、特に理科系の人は文科系の人と話すチャンスって普通はないわけです。東大は進学振り分けの前まではなんとか異分野の方々と話す機会はあります。でもやっぱり理Ⅰ、理Ⅱ、理Ⅲとかの間だけですから、理系が文系と話す機会はないわけです。それこそ合田さんを始めとする文系の人と初めて話して、全然考え方が違うんだっていうことをよくわかりました。
2008 年、同志社大学教授の頃に僕はケンブリッジ大学に参りまして、客員フェローとして、クレア・ホールコレッジというコレッジに住んだのですけど、毎昼毎晩食事が出ます。僕は諸外国から来た客員フェローたちと話したくて毎日食事をいただきました。もちろん学生も一緒

にいます。新しいコレッジですからハイテーブル・ローテーブルはなくて、学生もすぐ隣に来たりする。それでものすごく親密になるわけですね。そもそも隣に来る人は約半分が文系で、英国国教会史とかヨーロッパ哲学史の話題になるわけですね。 1 時間半その中で過ごさなきゃいけない。苦労します。だけど、やっぱり 東大 YMCA の経験があるから、すごく楽しかったですね。このケンブリッジでのコレッジというのは、あ、これは東大 YMCA と同じだと思いました。だから、ここ東大 YMCA はケンブリッジ大学のコレッジに他なりません。
東大 YMCA こそが僕のそれからの人生を形作ったなと今でも思います。学問の境界を飛び越えて文系の人と隔たりなく喋ったり議論できるのは、もうここのおかげですね。

徳永（司会）
ありがとうございます。さっき二神さんのお話を聞いて、昔は木造だったんだなと思いました。そこから旧舎から新舎になる時に立て替えたんですね。

徳永友花さん

山口
そうです。岩井要さんの設計で、一番大事にしたのが礼拝堂で、礼拝堂は旧舎と同じ設計仕様にしたと聞いています。旧舎は見たことないんですけど、工事の期間中は、舎生はバラバラに住んだって聞いています。清水正之さんとか篠原正雄さんとかは、旧舎から新舎にも住んでくださって、旧舎の DNA を受け継ぎたいという思いで。新舎には 4 人くらい旧舎の方がいらっしゃいました。

徳永（司会）
工事の期間はみな違うところに住んでいたのですね。旧舎の方が入舎希望者の面接をされたのですか？

山口
それは興味深くて、舎生全員で面接するんです。ですから、僕の面接をしてくれたのは、篠原さんをはじめとする旧舎の人たちプラスそれまでに入っていた新舎生の 7、8 人ですね。舎生全員が面接官だったのですね。

徳永（司会）
今も変わらず、全会一致の面接だったんですね。今は、だんだん老朽化みたいな話も出てきて

る中で、新舎がピカピカだったというお話を聞いて、昔はすごいみんなが喜ぶ、憧れのところだったということですが、現舎生の方はどうですか。

米倉
そこにある模型（写真 1）は旧舎ですか？

写真 1　OB 談話室に飾られた旧舎の模型

二神
あれは旧舎です。道路に面してた。

米倉
すごい立派ですね。立地はどこにあったんですか。この近くですか。

二神
この建物のちょうど中心にあったんです。今上にマンションがあるでしょ。それ全部 YM の土地だった。その上にどんと建物が乗っていた。だから途中で建物を売ってビルを建てた時に、非常に有利な条件で建てられた。

太田
だからこのように、自由に作れたんですね。

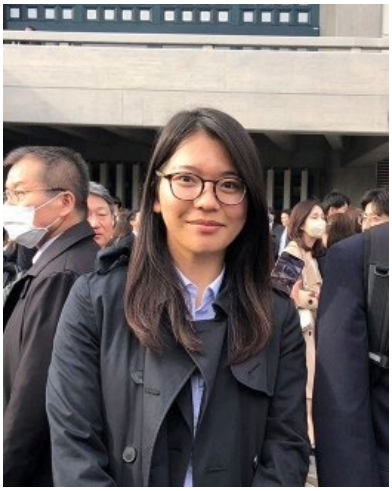
関
あまり議論は逸れたくないですが、その有利な条件というのは等価交換方式でしたか。

山口
土地を区分所有にして、土地の一部を売ってここの権利を得るという感じですかね。

関
それが今ファミール本郷の理事会でゴタゴタしてるから、新築もできないって言うんですよね。

山口
それはそうではなくて、文京区が高さ規制を入れたからだそうです。 7 階しか建たなくなった。そうすると建て替えようとすると 8 階以上の人の住処がなくなっちゃうんですよね。だから建て替えの話は頓挫してしまっていると聞いています。

米倉
壁紙とか入り口のセキュリティが結構ゆるい感じは多分昔からだったと思うんですけど、色々やっぱり時代の変化というか、安全性の色々な問題とか最近多いということで、そういう点も含めて、時代に合わせて修繕も必要です。2014 年から女性が入ってきたことで、今現状女性の方もいらっしゃるんですけど、やっぱり設備面で追いついてない部分があります。そこをどうしようかということで理事会中心に話していただいています。そういった部分で、まだ時代に追いつけてないなというところは、どうしてもその通りですね。


太田萌さん

太田
私が入った時点では、男女別とかも何もない状態で入ったので、私としては特に嫌な思いをしたこともないですけど、以前女性専用のお風呂があるかという質問をされた方がいて、なかったらいいです、というようにメールで問い合わせされた方が 1 人いらっしゃいました。やっぱり気にされる方は絶対的に存在するので、広く開かれた場所を目指すんだったら、やっぱそういうのはあった方がいいだろうなとは思いますね。でも、私個人としては、この寮に見学

に来た時は、結構年期が入っているというか、古いなと思ったんですけど、意外と住んでみると、住めば都というか、特に支障なく暮らせておりますね。

徳永（司会）
私も 2015 年入舎なので 2014 年ぐらいに初めて来て見学しましたが、なんかもっと寮って言ったらすごくもっと年季入ったようなイメージがあった中で、それに比べたら、これならっていうような気持ちはありました。個室っていうのも、研究室行ったり戻ってきたりというように、自分のペースで生活できるっていう意味ではすごく良かったなと思いました。あとすごくやっぱり治安が良かったですね。私がいた時は、お財布とかが礼拝堂にあったら、届けてあげなきゃという風にみんなが困惑する。盗られるんじゃないかとかではなくて。私がいた時は、盗難事件とかは全然なかったですし、たまに外部からちょっと変な人が入ってきたとかいうのは、まあ年 1 回ぐらいあったんですけど、比較的寮の中が治安よく過ごせたっていうのは、すごく大きかったなと思いますね。

太田
徳永さんが入られた時は、女性が入るようになってから何年目だったんですか。

徳永
2 年目ぐらいですね。でも女性はそんなに少なくはなくて、 3 割ぐらいは女性がいました。今よりもしかすると多いかもしれないですね。

関
私の世代も、正面玄関の鍵はかけてなくて、各部屋もほとんどの学生が鍵しないんですよ。でも盗難とかなくて、多分その古き良き最後の時代かもしれないですね。だから YMCA っていうのは鍵しないでもお互い守られてる場所、結構私の時もそういう感覚がありましたね。でも、外に行くと、やっぱり戦いがあるっていう意味で、なんかこの家みたいな守られた感じがあって、当時加藤せつさんが事務局で門野さんという方がお料理で私にとっては東京の母親が 2 人いるような、家で守られているような感覚だったんですね。それはね、感謝しますね。

米倉
家って意味では、今の扉が木製の扉で、かつ、隙間があるんですけど、僕は個人的に意見があって、あれは確かに今騒音みたいな話が出ていて、どうしても音漏れという面では問題ですが、一方で、それは逆に鉄扉とかにしてしまった場合に、結局予算的に無理って話になったんですけど、それはちょっとなんか意味合いが違ってくる。やっぱりどうしてもそれで仕切られる。個人個人の家というか、それがやっぱり寮としてのこの暮らしとしては、やっぱりなんか違う

と思っている。いまのその「家」という意味では、なんか音の入り、漏れ具体も結構しっくりきているぐらいだと思っている。難しいところもあるんですけど。

米倉敬宏さん

二神
さっきのぶどうの会についてちょっと付け加えると、今日クリスマス祝会じゃないですか。その時必ずぶどうの会のメンバーが出てきて、セリフだけだったけど出演してくれて、もうすごく上手くてね。やっぱりプロとアマじゃ大違いで、良かったですね。もう一つ、ぶどうの会の、團伊玖磨という有名な方が音楽責任者でした。その人の息子がこの間 11 月の会館竣工 50 周年記念式典で話された。あの人は建築家の團紀彦さんで、その團伊玖磨さんの次男です。

山口
僕と一緒に住んでいた仲間です。僕の一年後輩で、新舎 2 期生です。

二神
だからそういう意味で、ぶどうの会というのは、やっぱりこの YMCA と、非常に深い繋がりがあると思うんですよね。ぶどうの会の「ぶどう」というのも、はっきり聞いたわけではないけど、聖書にぶどうってたくさん出てくる。だからそこから来たんじゃないかっていう気もするんですよね。

山口
その頃、旧舎時代は、舎生は劇をやっていましたか。

二神
やってましたよ。

山口
じゃあ 2 本立てなんですね。すごいですね。

徳永（司会）
歴史が長いんですね、舎生劇は。

山口
そうすると劇の伝統は今もありますか。

徳永（司会）
あります。

関
ありますか、よかった。なんか一時期、クリスマス合唱がなくなったって噂があったかと。

徳永（司会）
合唱が少し減ったんですよね。

太田
3 階と 4 階で分かれて、対決するのがなくなって、全員で歌う全体合唱だけになりました。一時期、人数も少なくなってしまった時もあるので、多分そこでちょうど分かれる合理性みたいなのが多分なくなっていって。

関
私の時代、本郷 3 丁目の近江屋で大きいケーキと小さいケーキ買って、

徳永（司会）
今も買いますよね。

太田
でも今は大小をつけなくなって、普通に買うようになりました。あまり勝った方が大きい方とかそういうのもなくなりました。

徳永（徳永）
それ私の世代までありました。コロナぐらいからな、なくなったんですよね。コロナ前の最後の世代なので。

関
クリスマス会の劇と合唱は自分の中ですごい糧になっています。というのは、私はキリスト教の家庭でもないし、幼稚園から高校までキリスト教の学校でもなかったので、YMCA に入って初めてキリスト教文化に触れたんですね。賛美歌も知らない聖書も知らない。その中で劇をさせてもらった。今でもセリフを覚えているんですね。劇はぜひ続けてもらいたいなと思います。クリスマスの歌も合唱コンクールがあるからもう一生懸命練習するんですよ。それで、スターバックスとかスーパーマーケット行った時に「あ！これキリスト教の賛美歌だ」って YMCA に入ってから気づけるようになったんです。自分にとって YMCA はキリスト教主義の学校に通ったようなものだったというのは、全然キリスト教家庭じゃないところから、劇や賛美歌とかでキリスト教文化に馴染めた、それが結果的に洗礼まで在舎した時に結びついたことに感謝しているところです。

関智征さん

山口
ちなみにその時の劇はどんな劇だったのですか。

関
それが聖書の劇じゃなくて、私はカッコー役なのですが、主人公がチェロを弾く・・・なんですかね。屋根の上のバイオリン弾きかな。

山口
じゃあ誰かが脚本を書いて。

関
舎生で脚本も書いていました。教会で今クリスマス劇とかちっちゃい子やるじゃないですか。そのセリフ覚えたり。「聖書を教えるのに劇を演じさせるっていうのが、一番教育的にいい」、というんです。今日はその感謝を伝えに来ました。

徳永（司会）
ありがとうございます。今でもセリフ覚えているっていうのは、すごいですね。

太田
すごい。去年劇やりましたけど、去年でもちょっと覚えてないです。去年はちょっと 2 人だったので。

徳永（司会）
そうなのですか。年によってはすごい少なくなっちゃいますよね。今年は 10 人いますよね。

山口
西岡さんの時代は劇やっていたのですか。

西岡
劇はやっていたと思います。私がいたのは20年ぐらい前なのですが、やはり学生の自治というのが印象的でした。私は駒場の時は世田谷区の春風学寮という内村鑑三に所縁のある無教会派の学生寮に入っていたのですが、本郷に来てから海外留学して日本に戻ってきた時に、少し家庭の事情もあって住むところを探していたら、旧知の友人が YMCA に入ってみたらと声をかけてくれまして。今でも覚えています。面接で皆さんの前に座って色々と質問を受けたときに、「神様を信じますか。」と聞かれたのですが、うちは少し複雑で父親が禅宗で私は長男なのです。それで母親がクリスチャン。両方見てきて、家的にはクリスチャンにはなりきれないのですが、でも神様は一つかと思い、「うちの家は禅宗なのですが、神様は共通ではないかと思いますので、勉強させてもらいたいと思います。」と答えました。それで面接は落ちたと思ったのですが、結果的には受け入れて頂きました。本当に卒業するまでの 2 年間、友人に恵まれたと言いますか、今振り返ると本当に悪い人がいなかったように思います。部屋なども開けっ放しでしたし、心から安心して暮らせたというのはすごく貴重な時間で感謝しています。その頃には女性を入れるかどうかという議論も少しあり、我々のときはまだ想像ができる時代ではなかったですけれど、今はこのようにご一緒されていると聞いて、時代と共に変わっていって素晴らしいなと思いました。ただ今日は久しぶりに来てみて設備が全体的に古くなっているような印象も受けましたので、もし寄付などを募るようなことがあれば、少しでも寄付をさせて頂ければと思います。

西岡宏晃さん

山口
募金のチェック欄に、『リノベーションに使う』という欄が増えました。実際に今年度の理事

会でリノベーションが決まりまして、もうすぐ着手します。1 階と 2 階で。礼拝堂と 2 階は完全にリノベーションをします。それも團紀彦さん監修で。

徳永（司会）
ちょうどこの 1 年ぐらいで、募金の活動に力入れていて、会報の中にも一緒にご寄付のお願いっていうのを入れさせていただいているところです。

二神
募金といえば、この新舎を建てる時に、やっぱり募金活動をしましてね。僕は、その募金活動の委員の一人でね。2 人 1 組で OB のお宅を回りました。ところが、中にはつれない人もいたりして、困った記憶がありますね。

関
二神さんご自身は福音派的な御茶ノ水の教会に行かれて、今は信濃町の日本キリスト教団ですが、当時は住んでいた人の教会行っている人の教派とかどんな感じだったんですか ？

二神
あんまり意識にしないですね。まあ、大きく言えるのは受洗者と洗礼受けてない人というという区別はあったけどね。それだって特にこうだからどうのこうのということはなかった。ただそれを超えて、考え方の違いというのがあった。やっぱりこちらとしては、クリスチャンとして、変な行動をしていたら説得力がないわけだから、その点では、厳しい生活をしましたね。2 年間半の間は、あんまり変なこともできないし、証って言うと大げさだけど、そのために自分でしなきゃいけないことというのは考えながらやっていましたね。

山口
そのテーマは大変面白いです。ここの募集要項は『キリスト者もしくはキリスト者たらんとする者』というたった一行の募集要項じゃないですか。もちろんキリスト者の人はもう堂々と入って来られますけど、そうじゃない人たちはやっぱり『キリスト者たらんとする者』と書いてあるので、ホッとして受けに来るわけですよね。このキリスト者たらんとする者というのがあるというのは、この東大 YMCA の良いところで、この曖昧性がある種の多様性を生んでいるなと僕は思います。それを感じたのは、関西に東大 YMCA の支部がありまして、山本彼一郎さんという弁護士の方が支部長をされていて、彼が自己紹介の時に「私は今でもキリスト者たらんとする者です」とおっしゃるんですね。それで場がパッと和んで。あ、これが東大 YMCA だなという気がしました。

二神
今はちょっと基準が緩くなってね。たらんとするものじゃなくて、関心がある人というのが条件みたいになっている。

山口
理事会でも話題になりまして、学生理事の方が『関心のある』というような、もう少し緩い表現にしましょう、みたいな話があった時に、結構議論になりました。議論になるということは、そういう方向に向かっているなとは思います。

太田
キリスト者たらんとする者の方が、解釈の仕方が人によって様々で、広がりがあるというのはすごく理解できるのですが、一方で、この現代、この環境においてはなかなか理解されづらいというか、ハードルを高く感じやすい。面接の基準でも、公式的なものではないですが、キリスト者たらんとする者というのを関心がある者と、同義にするという形をとっていますよね。

米倉
とっています。これも個人差があるんですが、基本的に全体としてはそうですね。

山口
それはいいことなのか悪いことなのかというのはどうですか。

米倉
まず現実的に、本当に厳密な意味でのキリスト者たらんとする者に絞ってしまうとかなり寮運営という意味でも、やっぱり難しくなってしまう。そこを落としていくと、また（現舎生の人数が）10 人切ってくるか、そのぐらいの数になってくるので、現実としてその基準を適用するのは難しいというのがあります。一方で、確かに関心があるというのは幅があるので、空気感として触れたいというだけなのか、本当に結構自分の中で強い関心があって入る人と結構幅があったりして、そこの判断も難しい。

太田
あと、受洗していない人がかなり多い現状において、そういう人がキリスト者たらんとしていないと判断することのハードルがおそらくすごく高いですよね。あなたはキリスト者たらんとしていないですというように判断することは、結構難しいです。

米倉
正直に言う人もいますが、大体はまあ関心があると繕う。普通の人は、関心をある程度示すので。

山口
僕はキリスト者たらんとする者という言葉はすごく美しいと思っていて、関心のある人も包含するという意味においてね。だから僕は結論として、それでいいんじゃないかなと思うんですけどどうでしょうか。

太田
私もそれは思います。いいのですが、応募する側からとすると結構難しいです。結構面接の中でもキリスト者たらんとする者の解釈で揉めたこともありますよね。

米倉
もちろんあります。自分が応募する時も、ちょっと違うなと思いつつ、ちょっと怖いというか。

太田
これが認められるんだろうか、みたいなものがあって。

関
私が入ったのは 25 年、30 年ぐらい前ですが、私は「教養としてキリスト教を学びたいんです」と面接で言ったんです。それで 1 回落とされたんですよ。2 度、寮の入舎面接を受験したんです。YMCA に「浪人」しているんですけど、2 度目の受験の時は、もっと実在的なこと、「自分がロサンゼルスに行って何も伝手がない時に、求めなさい探します。叩きなさい開かれますという聖書の言葉でドアをノックしていたら、いろんな道が開かれました」みたいなをこと言ったら、 2 回目は通りました。教養として聖書を学びたいというのも、全然私は「キリスト者たらんとする者」だと思うんですけど、当時落とされましたね。

米倉
きっかけがどうであれ、どう転ぶかわからないという考えも一方であって、どこにその道が開かれるかというのは、やっぱり意図せず繋がる部分というのはあるので。極論言ってしまえば、誰でも開かれていると言ってしまえば、それはそうなんですけど、今は面接で、やっぱりある程度、関心の程度がないと、運営にも支障が出てくるという点でも結構現実路線で自分は考えています。

関
ぶっちゃけ一緒に住んで大丈夫な人がどうかというのは見ますよね。自治寮ですからね。

西岡
私は拾って頂いたようなものであまり偉そうなことは言えないのですが、面接は学生たちが行い、全員から OK をもらう必要があるということは、逆に言うと、寮に入ると自分が必ず面接する側にもなるわけですので、そのディスカッションのときには自分が問われているような気もしました。やはりキリスト者（たらんとする者）というのが軸に置かれていたように思いますが、こうあるべきだとか、ここは違うのではないかと、はっきりした意見が出てくると、軸を強く持って生きている方は素晴らしいなと感じることもありましたし、他方、この人も入ったら変わるかもしれないとか、あの言葉はもしかしたら何かを求めているのではないか、といったように人の可能性に思いをはせる包容力のある発言もあったりして、そのプロセスのなかで選ぶ方も選ばれる方も色々と考えたり学んだりするものがあったように思います。

山口
そうですね。そういうことですね。

関
そうなったらいいですよね。私の時代、選ぶ側がなんかちょっと上から目線で「こいつはキリスト者じゃない」みたいなのがあって、「お前何様だよ」みたいなのがありました。面接する側も問われているんです。神様に。

徳永（司会）
私も 3 年ぐらいいましたけど、やっぱりその 3 年の中でも基準って統一されてないなと感じたんですよね。あ、この人前だったら落ちていたかもしれないなっていうようなことはありましたね。3 年の中でも感じたので、きっと何十年の歴史の中でもあるんだろうなとは思います。関さんも 2 回受けられたというので、もちろん内容も変わったのかなと思うんですけど、タイミングとかその時の面接官とか、全員人なので罪人というのもありますし、そういうのはすごく私も感じましたね。

山口
私は社会人になってから、アメリカに 1 年間赴任した時に、洗礼を受けたわけですけど、帰ってきて清水正之さんが「山口君が洗礼を受けるなんて思ってもみなかったよ」っておっしゃったんです。つい最近です。だからやっぱり見抜かれていたんだって僕は思いました。

徳永（司会）
山口さんは、卒業してから洗礼受けられたのですか。

山口
僕は、ここに住んでいる間はキリスト者になることに反発していました。キリスト者たらんとする者であろうとしていました。それで、29 歳になってから、アメリカに赴任した時に洗礼を受けたんですけど、もう一度、実は今はキリスト者たらんとする者に立ち返ろうと思っています。

関
よく教会でも洗礼受けていない人のことを「求道者」、洗礼受けた人のことは「教会員」と言うんですけど、洗礼受けても私は求道者だと思うんですよね。道を求め続ける。洗礼を受けたから私は真理を全て知った、ゴールじゃなくて、私も今でも求道者だと思っています。キリスト者たらんとするものだと私も思っています。

徳永（司会）
オンラインからだと入りづらいかもしれませんが、山田さん、どうですか。

山田
懐かしい議論だなと思いました。私も京都大学 YMCA に行かせていただきましたが、大先輩の方々が一生懸命、一度学生運動に乗っ取られた寮を守っておられるという感じはありました。せっかく東大 YMCA のような貴重な場が今まで続いていて、これからも続けていくのにはどうしたらいいかということで、皆さん色々と考えを巡らせていらっしゃるんだと思います。多分同じような課題を抱えているところがいくつか他にもあると思うのですが、今は学生 YMCA を通じた他学の YMCA との交流はないんですか。

米倉
あります。学 Y というので、寮がある一橋とか早稲田とかはもちろんなんですけども、サークルとして活動している立教とか清泉女子大学とかも含めたものはあって、総務部の学生が行ったり、舎生が行ったり、ちょこちょこ交流はしています。この間、早稲田の信愛学舎に何人かで伺って、お互いの寮事情みたいなところを話したりしました。今はわからないですけど、信愛学舎が一時期 5 人とかで大変な状況だったみたいです。そのようにちょこちょこ交流はしている感じです。

山田
私も総務部だったんですけど、そういうことを東大Ｙに持ち帰って、舎生の方々と共有する場が大事なのかなと。私は個人的には『たらんとする者』で馴染んでいたんですけど、あんまり敷居を低くしてしまうのは難しいところですね。退舎に関する規定はないですよね、入っちゃったらもう。

太田
在舎延長はありますね。

米倉
ありますね。一応、入って２年でそこで全員再審査というのがあります。

徳永（司会）
一応入寮面接と同じ厳しさを求められます。

山田
再審査ですか。そういうのが出来たんですか。

徳永（司会）
在舎延長なかったですか。じゃ問題かなにかがあって、そういう規定が途中で出来たかもしれないですね。

山田
それはびっくりですね。さっき泥棒の話が出て驚いたんですけれども、私の時はそんなこともなければ、再審査して落とすようなことも、まずなかったですね。いつも満舎でしたから。今半分しかいない状態ということで、どうしてって思います。私の時は男子だけで満舎だったんです。だからどうしてそういう風になっているのかなってびっくりしました。

太田
倍率がすごく高くて選ばれしものだけが入れていたんですね。

関
狭き門の。

山口
それはあるかもしれません。

関
私の 2000 年ぐらいってもう寮の人数が、ガクっと減ったんですよ。それで、留学生枠とか広げてどうにか 10 人以上キープしようとするんですけど、感じるのはやっぱり増えている時もあって、減っている時もあって、また増えたり減ったり、どうにか今まで守られてるのは、もちろん先輩方の OB の支えもありますけど、やっぱり神様が、この人数を守ってくれていると感じます。

山口
今 19 人で、割と増えているんですよね。

徳永（司会）
一時期もうちょっと少なかったですけど。

太田
10 人切るんじゃないかという話はありましたよね。

関
よかったです。（現舎生が）増えて。私の時にはプロテスタントもいればカトリックもいたんです。無教会の方もいました。聖公会の方もいましたし、別に洗礼を受けてない方もいて、その多様性が本当に今の私にも糧になっています。私自身は YMCA の時に最初日本キリスト教団の教会に寮の友達に連れられて行ったんですよ。でも洗礼を受けたのは、武蔵野福音自由教会という福音派だったんです。それで 10 何年経って今呼ばれて、日本キリスト教団の牧師になったんですね。やっぱり当時 YMCA で色々な牧師さんを呼んでいたんですけど、この人素晴らしい人だなと思えば、日本キリスト教団、福音派、ペンテコステ派、誰でも呼んでいたんですが、それは YMCA の良さかなと思っています。だから今私日本キリスト教団の人間ですけど、福音派の皆さんとも仲良くしているのは、YMCA の時に色々な教派の友達がいたという原点にあるな。今もそうですか、皆さん行っている教会は。

米倉
カトリックの方もいらっしゃいますし、もちろんプロテスタントも。無教会はいらっしゃらないかな。福音派もいらっしゃらない。多分カトリックかプロテスタント、あとアングリカンはいらっしゃいますけど、どれかですね。

二神
洗礼を受けているのが半分ぐらいですか。

米倉
半分もいない。３分の１ぐらいかと思いますね。

徳永（司会）
私がいた時は、たまたまかもしれないですけど、洗礼受けている人の方が結構多かったです。やっぱりクリスチャンホームで育っている人は、知識量とか全然違いますね。私は一世なので、本当にノンクリスチャンの人と同じぐらいの知識量と言ったらなんですが、やっぱり２世３世の人は賛美歌を知っている量も全然違うし、聖書の箇所とかもすごく頭に入っていて、すごいやっぱり叩き込まれているなという感じはしましたね。そういう人たちが私の時は多かったなという印象はありましたけど、今はちょっと減ってきているんですね。それも時代によりますよね。

太田
そうですね。洗礼受けている人も結局留学生が多かったりしますね。

米倉
そうですね。日本人は今は一人かと思います。

徳永（司会）
西岡さんの時はどうでしたか。

西岡
あまり誰が（洗礼を）受けている、受けていないというのは気にしていない雰囲気だったように思います。カトリックとプロテスタントも、あまりお互いに区別するような感じではなく、逆にクリスマスのときなどは、今年はうちの教会にみんなおいでよとか、新しく入った人にあの牧師の先生の話が面白いから今度みんなで聞きに行こうよとか、そういう感じだったような気がします。

徳永（司会）
そうだったんですね。私の時も色々な教派の人いました。私は昔北海道に住んでいて、東京に来た時に色々な人たち、出身地域や教派も違うけど、なんていうか、同じ神様のことなんだな

っていうのはわかったんですよね。同じ神様の話をしているなっていうのは、すごい感覚的なものではあるんですけれども、それぞれ神様に対しての向き合い方というのは違うんだけれども、北海道で洗礼を受けた時に、色々教会で関わってきた神様と同じ存在のものをみんな信じているんだなというのを感じて、お祈りとかもそうですけれども、やっぱりそういうところが、YMCA のいいところかなと思いました。一つの神様という存在をみんなで認識して向き合うというところ、そういうのが良かったなというのは今お話してて思い出しました。

関
徳永さんが前お話してくれた、長野で YMCA の OB の朴先生の教会を、現役の舎生みんなで遊びに行ったみたい話。そういうのが YMCA の良さかなと思って。私の時代は常務理事が徳久さんだったんですよ。徳久さんは九十九里に別荘を持っておられて、毎年夏に現役の寮生を招待してくれたんですよ。徳久さんが親戚のおじさんみたいな感じでした。ご飯をお嬢さんと一緒に振る舞ってくれたりして。逆に私は息子が 18 歳になって、学生に対して徳久さんみたいなことをしてあげたいなというのがこれからの目標ですね。

徳永（司会）
すごくわかります。私も全く知らない若い人に東大 YMCA 出身です、という感じで来られたら、もうなんか家族みたいな認定しちゃいます。

山口
それでいいんじゃないですかね。だからやっぱりキリスト者もしくはキリスト者たらんとする者という基準でいいし、両者が混在していていいし。要するに同じ釜の飯を食うので、お互いに信頼しあえるというそういう関係性がずっと一生続くというのはいいことですよね。
先程も申したようにそれは、ケンブリッジ大学のコレッジと全く同じ感じですね。ケンブリッジって、ケンブリッジ大学出身だというだけでは、お互いに信頼し合わないんですよね。お前どこのコレッジって言って、同じだと分かると信頼し合う。

関
私は牧師ってこともあるんですけど、YMCA に求めるのは、やっぱりキリスト者たらんとする者として、吉野作造先生のように、東大生がキリスト者になるための箱、器として、YMCA に用いられてほしいな、と思うんですよ。自分自身がノンクリスチャンで入って、在寮中にキリスト者になった。自分のような学生が神様に起こされたらいいなというのは、自分の願いです。そのために現役寮生の方に何かできることあれば、喜んでしたいなという思いはあります。もちろん、現役の時に私みたいに住んでいるうちに洗礼を受けなくてもいいと思うんですけどね。卒業された後、何年かしていろんな人生の壁に当たったりなんとかで 10 年後 20 年後 30 年後

に、あ、YMCA にそういえば住んでたな、ちょっとクリスマスに教会でも行ってみようみたいな、そう思ってくれる人がこの現役の方でも出ればいいなとは思いますね。

徳永（司会）
そうですよね。なんか神様のことを今バーっと説明して、すぐに洗礼を受けるとかではなくて、それがなんか心のどこかに留まっていて、将来神様を思い起こすきっかけになるとか、そういうことですよね。YMCA がそういう場であってほしいなという気持ちはあります。舎生が減ってどうするってなった時に、色々門戸を広げる話になって、キリスト者という条件を撤廃するかとか、女子入寮の時もそうなんですけれども、東大という限定を取るかとか、色々な議論があるんですけれども、やっぱりキリスト者というところが、守られているというところが、いろんな年代の方々、皆さんそうなのかなというところもあって、これからも守りたいところかなというのは感じるところですよね。

関
私の時代は早祷だったんですけど、早祷が本当に良くて。やっぱりこの日本の教育で自分を表現する場って意外と少ないんですよ。歌を聞かせてもらったり、劇を見てもらったり、自分をプレゼンテーションしたり。早祷は、私の時 15 人ぐらい住んでいたので、 15 日に 1 回は回ってきました。別に聖書の話をしなくても、自分の専門の研究の話とかをする人もいました。他の学生の、自分と違う専門の話をする話もすごい勉強になりました。その時に私と一緒に住んでいた福島一生さんが、「関さんの早祷のトークは日常のさりげないことと、聖書の真理を架け橋してくれる。そのジャンプのロジックが面白い」と言ってくれたのが、牧師になりたいと思ったきっかけなんです。

山口
いつから夕祷から早祷に変わったんですか。僕らの時は夕祷なんです。少なくとも 1980 年代ぐらいまでは夕祷ではないでしょうか。夜 10 時から。3 階と 4 階に分かれて。

西岡
私のときは早祷でした。

二神
早祷。

徳永（司会）
変わっていったんですね。90 年代後半より前ということは、山田さんの時は、どうでしたか。

山田
私の時は夕祷でした。

徳永（司会）
まだ夕祷なんですね。 90 年代のどこかで変わったということなんですね。

山口
なんでだろう。夕祷だと 10 時に帰ってこなくてはならないからかな。

米倉
院生が増えてきたんですかね。

山口
でも朝起きられないんじゃないですか。早祷、何時からですか、

太田
8 時からですね。

米倉
一限の人がいる場合はちょっと調整しますね。多分今はいないです。

山口
いずれにしても、そうやって言葉で、みんなの前で自分の心底の思いを喋るというのは、ここでしか経験していないですね。あとはないです。社会の中でもないし。大学でもないし。

徳永（司会）
山口さん、先ほど 3 階と 4 階に分かれてと言われていましたけど、分かれてやったんですか。

山口
分かれてやっていました。3 階と 4 階別々にやっていたと思います。祈祷室ってあるでしょう。そこだけカーペットが敷いてありました。本当にみんな好きなこと喋っていましたね。失恋した話とかね（笑）。

二神
僕の時は、1 階 2 階 3 階とそれぞれ別れて早祷をやっていました。早祷やると何か書かなきゃいけない。それがね、全部あそこ（写真 2）に綴じられている。

写真 2　製本された早祷・夕祷資料

関
これ貴重な歴史資料なので、ぜひ理事会でデジタル化の検討をしてもらえませんか。万が一の資料なので、ぜひ火災リスクとか紙が劣化するリスクとかに備えて。

太田
階で別れてやっていたら、入ってからずっと聞かない人とか出てくるんじゃないですか。

関
部屋を移動しない限りそうですよね。

山口
どうやればいいんだろう。もうちょっと AI が進歩して手書きの文書をパッとデジタル化して

くれればいいんだけど。
僕は新舎の 1 期生として入舎した時に旧舎の資料が、ある部屋に全部段ボールで山積みになっていたんです。僕の趣味は「整理整頓」だったので、講義の合間の時間を見つけては、全部段ボールを開けて、4 階の談話室を全部使ってどんどん整理していったんですね。整理し終わったらこれをぜひとも製本したいなと思って専務理事の馬場さんにお願いして、あの 30 万円ぐらいくれませんかって言ったんですよ。そうしたら、いいよって言ってくれて。それで、あの東大法文 2 号館の地下の製本屋のところに全部持って行ったんですよ。製本して後から見つかったりしているノートがあるので、ちょっとどこか抜けているのがあって、それは申し訳ないなと思っています。

二神
じゃあそこにあるのは、山口さんが全部製本したんですか。

山口
私が台車に全部乗せて持っていって製本しました。楽しかったです。

関
これのおかげで、6 年前に天に召された OB の駿河敬次郎先生というお医者さんに治療してもらったんですけど、その戦中の資料とか、こちらから拝見させてもらったんですよ。感謝しています。

山口
それは役に立って嬉しいです。

二神
一人でやられたんですか。

山口
一人でやりました。誰もそんな整理が趣味の人いないですから（笑）。楽しいですよ。こうやって重ねていくとだんだん揃ってきてね。構造や景色が見えてくるんです。一番楽しかったのは、日直ノートの製本でした。日直ノートは新舎になってから始まったんですね。いっぱい汚れとかシミがついているんですけど、これは日直になった人が夜中に書くんですよね。 12 時頃に全部玄関のカギを閉めてそれから書くんです。だから、夜中に酔っぱらっていたりして書いているから、結構みんな自由奔放に書いていたんです。あれが素晴らしかった。日直ノートの最初の 1975 年から 1979 年ぐらいのものを僕がまとめたんですけど、ものすごく面白いんで

すよ。本音が言語化されていて。たとえば仰ぎ見ていた清水正之さんが結構いろいろ本音で書いている。僕は日直ノートで叱られてずいぶん鍛えられました。歴史的な価値のある資料だと思います。

関
YMCA は緩くあってほしいなと思うんです。私の時までは大学とかも学部生の時まではギリギリ緩かったんですよ。半期 15 回のうち 7 回ぐらい休講している教授がいたりとか。今文科省的にもできないですね。非常に大学も緩かったし、もぐりとか、そういう文化がギリギリあった時代です。YMCA も緩かったんですけど、今は大学とかは文科省の縛りとかでキツキツになっていますけど、せめて YMCA は緩いままでいてほしいなっていうのはあります。私にとっては旧制高校の香りが感じる場所なんですよ。自分の専門以外の話も聞けて、うだうだ生活と関係ないような、なんか無駄な話が実は教養になっているみたいな部分あったので、そういう旧制高校の文化がほのかに香っているこの寮の緩さは維持してほしいなと感じますね。昔の旧制一高寮とかもすごく緩かったらしいですもんね。

徳永（司会）
今学生めちゃくちゃ忙しそうにしていますよね。勉強したりアルバイトしたりとか。

山口
これから東大 YMCA はどうなっていくといいか。
僕はケンブリッジ大学のコレッジから学ぶといいと思います。たとえば、ケンブリッジのコレッジでは夕飯の時間が、6 時半から 7 時半って決まっているんですよ。7 時半までに行かないとパシャってシャッターが閉められる。それでかけ込みます。すると、みんな揃うんですよ。全員が揃って 8 時ころ食い終わったらまた理系の学生は実験に行くわけですね。ところが東大 YMCA は結局食堂に置きっぱなしになっていて、 11 時ぐらいまでに帰ってきて冷たくなってしまった夕食を食べるという感じでしょ。だからあれ 6 時半から 7 時半に食べようよって揃えると、案外もっと同じ釜の飯を食う感があるかなっていう気がします。

関
懐かしいです。確かに私も、洗礼を決心したのが、マイケル・ジョンストンというニュージーランドからの留学生だったんですけど、彼も私もいつも 6 時半に食べるという習慣があったので、ご飯食べながら、「聖書これ違うんじゃないかとか」など私が議論を突っかけて、彼が牧師の息子として答えてくれて。なので、ここの食堂での会話がどんな神学校よりも自分の糧になっていますね。

徳永（司会）
そうなんですよね。食事の時間になんかすごく仲良くなりますよね。色々と話しをする時間になりますよね。

関
今食事は美味しいですか？

太田
美味しいです。

関
なんて方が今作ってるのですか。

太田
今小幡さんという方です。昔は住み込みでやってくださる方がいらっしゃったんですか。

山口
新舎の 1 期の時は、小泉さんという女性で、とても美味しかったです。住み込みじゃなかったですね。住み込めたんですけど、住み込まなかったです。近くの方だと思います。

徳永（司会）
私の時は片桐さんっていう方でした。片桐さんは住み込んではなかったですけど。

二神
僕の時には、住み込みでしたね。

西岡
朝晩の食事があるのは有り難いですよね。

山口
パンはセルフですか今も。

太田
朝晩で、今も一応セルフサービスでちょっと凝ったものを作ってくださっています。

徳永（司会）
グレードアップしてますよね。フルーツが付いていたり、すごいですよね。

太田
バリエーションが豊かというか、毎日違ったものを出していただいたり。

徳永（司会）
クリスマス祝会の時に、プレゼントを準備するというのが毎年あるんですよ。誰か舎生がプレゼントを決めて買いに行って、祝会の時にお渡しするんですよね。

関
あるんですか、よかった。いつもサーブしてもらっているので、たまには学生からサーブするんですね。

西岡
我々の時は、夜 11 時頃に食事が残っていたらそれは誰が食べてもいいというルールでしたので、お腹の空いた人達が集まってくる時間帯がありましたね。そこで色々な会話をしたことも懐かしい思い出です。料理の上手な友人が、皆に料理を振舞ってくれることなどもあって、それも良い思い出です。

米倉
多分夜行性人間がいて、結構集まる時間が分かれていたりしますよね。

山田
私の頃は、自分たちで食堂で調理できたんですけど、今はどうなんですか。

徳永（司会）
今もできます。

山田
私は馬場さんに愛農会の大学講座とか、聖書研究会に行かせていただいて、そこでパン種をもらってきて、天然酵母パンを色々食堂で作ってみんなにごちそうしたんです。せっかくその設備があるのでしたら、月に 1 回でも外から関心ある人に来てもらって、ごちそうを振舞って、私の頃は留学生がよくやっていたんですが、こんな所だけどどうって関心を持ってもらえたらいいのかなと思いました。また寮に入りたいという人が増えてくれたらいいですね。やはり食

べることは非常に大事なので。私はそれで農学部に入りました。今日はどうもありがとうございました。

徳永（司会）
ありがとうございました。それではちょうど時間になりましたので、これで終了したいと思います。みなさん、本日はお集まりいただいてありがとうございました。

（編集：　徳永 友花）

## 卒舎生座談会参加者一覧

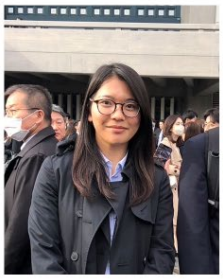
二神康郎
（1960年・農卒）

山田祐彰
（1989年・農卒）

**卒舎生座談会が開催されたOB談話室**
左：徳永友花　右：山口栄一
（2018年・工卒）　（1977年・理卒）

関智征
（2003年・法卒）

西岡宏晃
（2007年・工卒）

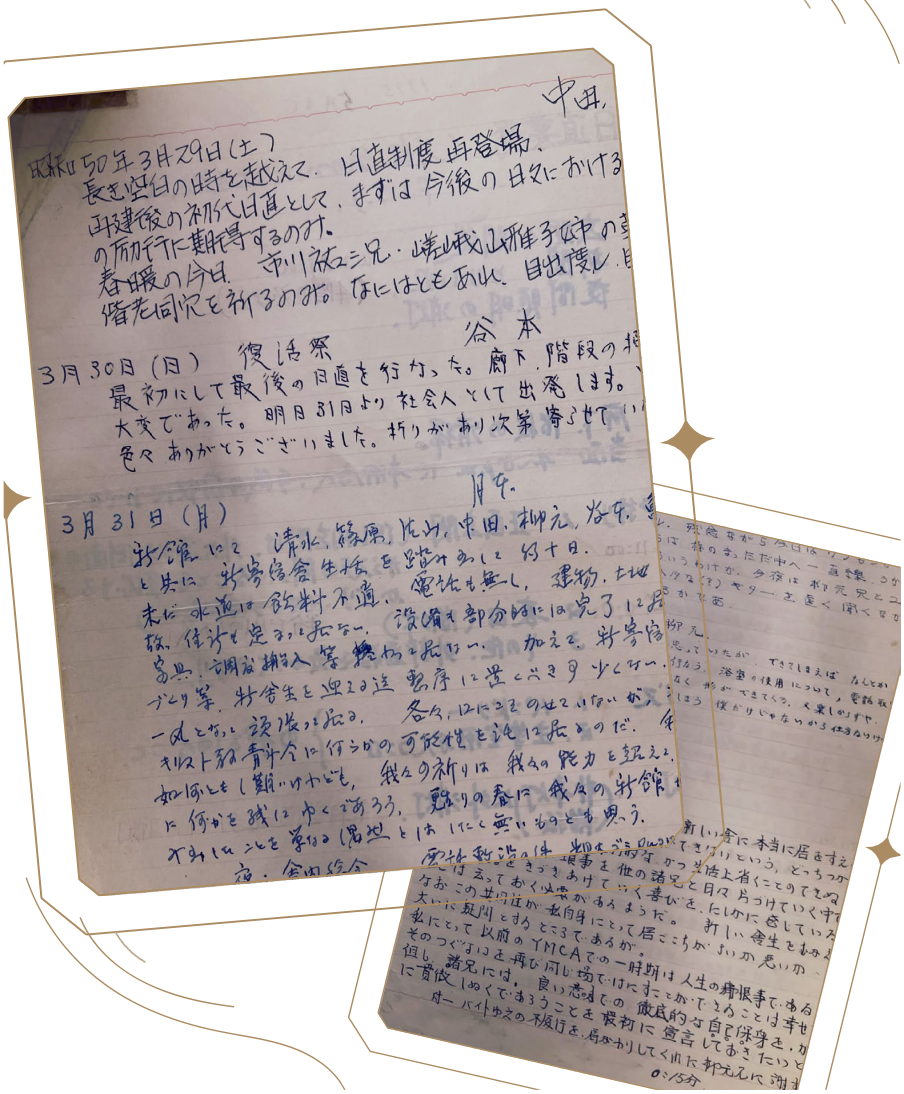


太田萌
（現舎生・情理修士2年）

米倉敬宏
（現舎生・農6年）

# 第 5 章

# 会館竣工 50 周年記念行事報告



中田.

HAKU 50年3月29日(土)
長き空白の時を越えて. 日直制度再登場.
再建後の初代日直として. まずは今後の日々における
の所作に期待するのみ.
春暖の今日. 市川敏三兄・嶋山我山雅子姉の
婚礼同席を祈るのみ. なにはともあれ. 日出度し.

谷本

3月30日(日) 復活祭
最初にして最後の日直を行なった。廊下. 階段の掃
大変であった。明日31日より社会人として出発します。
色々ありがとうございました。祈りがあり次第寄せて

月.

3月31日(月)
新館にて 清水. 篠原. 佐々. 中田. 柳元. 谷本.
と共に 新学寮生活を踏みしめ 早十日.
未だ水道は飲料不適. 電気も無し. 建物. 土地
故. 住み定まった訳ではない.
窓無. 調度搬入等 終わった訳ではない. 加えて. 新学寮
づくり等. 新舎生を迎える迄 整序に進べき事 少くない.
一丸となって頑張って参る. 各々. 自にこそのせていないが.
キリスト教青年会に何らかの可能性を絶に信ずるのだ.
如何ともし難いけれども. 我々の祈りは 我々の能力を超える.
に何かを残してゆくであろう. 暖かの春に 我々の新館
不動の心を学ぶ場所としたく無いものとも思う.
寮. 会館竣工

新しい舎に本当に居を定え
ということ. どっちつか
少なくとも今日は 柳元兄と二
おかげ 面.
柳元
思っていたが. できてしまえば なんとか
なく 形ができてくる. 水道の使用について. 電話
しまう 使がりじゃないから仕方ないけ
新しい舎に本当に居を定え
ということ. どっちつか
今おこの出来ばえ. 我自身にとって居ごこちがよいか悪いか
大いに疑問とする点である。 新しい舎生をもお
私にとって以前のYMCAでの一時期は人生の精髄事である
そのつぐないは再び同じ場ではにすることができるかぎり自己保身を
但し. 諸兄には. 良い意味での徹底的な自己保身を. 
に貢献しぬくであろうことを期待に宣言しておきたいと
月一 バイトゆえの不履行を. 肩かわりしてくれた柳元に謝
0:15分

公益財団法人

# 東京大学学生キリスト教青年会

## 会館竣工 50 周年記念式典及び祝賀会のお誘い

日時 2025 年 11 月23日 日曜日

14：30～ 16：30

記念礼拝

記念講演

17：00 祝賀会

### 記念礼拝

上田光正先生

テキスト：エフェソの信徒への手紙 2 章 14 ～ 18 節

説教題：「キリストはわたしたちの平和」

プロフィール：1942 年東京生、1960 年東大入学、東大 YMCA 入寮。巣鴨ときわ教会にて受洗、1966年東京神学大学大学院修士課程卒業、阿佐ヶ谷東教会副牧師、弓町本郷教会伝道師、1968 年東大大学院修士課程卒業（哲学）、1973 年ゲッチンゲン大学神学部博士課程卒業帰国して安芸教会、若草教会、美竹教会、曳舟教会主任牧師歴任、現在伊東教会協力牧師。

著書：『カール・バルトの人間論』（日基教団出版局）、『聖書論』（同）、『日本の伝道を考える』（シリーズ本、1 ～ 5 巻、教文館）、『キリスト教の死生観』（教文館）、『カール・バルト入門』（日基教団出版局）、『バルトによる説教論』（同） 他。

### 記念講演

團 紀彦先生

演題「大地と建築と祈りの場」

建築家／都市計画家。1956年、神奈川県生まれ。

東大 YMCA 入寮 東京大学大学院修士課程、米イェール大学建築学部大学院修了。

98年、愛知万博日本誘致案の作成に参画し、政府の旧来型開発手法を厳しく批判、海上（かいしょ）の森の環境保全に道を開いた。2020年から長野県軽井沢町の都市と自然環境保全のためのマスターアーキテクトを務める。代表作に日月潭風景管理処、台湾桃園国際空港第1ターミナル、日本橋室町東地区再生計画「コレド室町」、表参道HUGO BOSSなど。

### 祝賀会

参加費 5,000 円

東大学生キリスト教青年会 会館礼拝堂にて、飲食付きで行います。

ご参加は、下記、メールアドレス、または、事務局まで郵送にてご連絡ください。

E-mail: todai-ymca@nifty.com

住所 〒113-0023 東京都文京区向丘 1-20-6 東京大学学生キリスト教青年会

# 5-1　会館竣工 50 周年記念式典・祝賀会記録

公益財団法人　東京大学学生キリスト教青年会は、東京大学の学生（含大学院生）間にキリスト教を宣べ、かつ、その霊性、知性、身体、の発達を図ることを目的として、その中核となる事業として寄宿舎の設置運営を行ってきました。2025 年は、その基礎となる向ヶ丘寄宿舎が新寄宿舎として建て替えらえれ、竣工した 1975 年から、50 年という節目のとしとなりました。そこで、有志の発案により、寄宿舎の改修や、生活環境の改善の検討が始まり、あわせて、会館竣工 50 周年記念式典を開催する運びとなりました。

記念式典としては、上田光正先生をお迎えし、エフェソの信徒への手紙 2 章 14 節の御言葉「キリストはわたしたちの平和」と題して、記念礼拝をしていただきました。

==========

上田光正先生

1942 年東京生、1960 年東大入学、東大 YMCA 入舎、巣鴨ときわ教会にて受洗、1962 年東京神学大学 3 年編入、1966 年同大学大学院修士課程卒業、阿佐ヶ谷東教会副牧師、弓町本郷教会伝道師、1968 年東大大学院修士課程卒業（哲学）、　1973 年ゲッチンゲン大学神学部博士課程卒業（神学博士、「カール・バルトの人間論」）、帰国して安芸教会、若草教会、美竹教会、曳舟教会主任牧師歴任、現在伊東教会協力牧師。

==========

カール・バルト（弁証法神学や危機神学、あるいは新正統主義と呼ばれる 20 世紀のキリスト教神学に大きな影響を与えたスイスの神学者。ナチス・ドイツの政策に従うドイツ福音主義教会に対抗して結成された告白教会の理論的指導者。バルメン宣言の起草者）のもとに学び、追悼講演会にも参加した、上田先生から、ベルリンの壁は、象徴的な敵意という壁であったということ。

人間がなぜこんなに戦争が好きなのかということ。アベルとカインからつながる原罪。復讐という連鎖。万人の万人よる闘争。敵意という隔ての壁。キリストは私たちの平和でありますという聖書の言葉は、平和は、キリストの血が大地にそそがれ、人類の罪が贖われ、呪いを祝福に変えた。キリストの十字架だけが、平和の唯一の源である。ということお話いただきました。

また記念講演として團紀彦先生に、「大地と建築と祈りの場」というテーマでお話しいただきました。

==========

團　紀彦先生

建築家／都市計画家。1956 年、神奈川県生まれ。東京大学大学院修士課程、米イェール大学建築学部大学院修了。98 年、愛知万博日本誘致案の作成に参画し、政府の旧来型開発手法を厳しく批判、海上（かいしょ）の森の環境保全に道を開いた。2020 年から長野県軽井沢町の都市と自然環境保全のためのマスターアーキテクトを務める。代表作に日月潭風景管理処、台湾桃園国際空港第 1 ターミナル、日本橋室町東地区再生計画「コレド室町」、表参道 HUGO BOSS など。

==========

大地と祈りの場というのは、建築というものがなかった時代から、はじまること。トルコのカッパドキアの洞窟修道院では祈りの場が、地下都市まで作られている。アジャンターの石窟など、岩山と洞窟が修道僧の存在とあいまって祈りの場が形成されてきた。

キリスト教におけるゲッセマネの園建築の平面図では、バジリカ式教会＝マーケットと集中式教会がある。サンピエトロ大聖堂は、ブラマンテから、ミケランジェロ、ラファエロ、ベルニーニとつながる設計者の中で、集中形式からバジリカ形式がつながってきた。フィレンツェのサンタマリア大聖堂など、この時代からコンペティションが始まって、建築家の名前が残り始めたこと。ギベルティとブルネレスキがフィレンツェのサンタマリア大聖堂の二重ドーム構造でコンペになった逸話。ゴシック建築は何故イタリアにないのかという疑問と、フン族のアッティラの侵入とゲルマン民族の大移動により作ったゴート族の建築がゴシックではないかという仮説。ゴシックのカテドラルは周りの街並みになじまない。ローマの街並みは壊せず、自分たちの象徴を作ったのではないかというモニュメンタリズムの系譜。

日本の建築と宗教の関係では、仏教的ではない建築物の事例として、柴又帝釈天、京都太秦の広隆寺、宇治の平等院鳳凰堂の解説。私の建築として、共生媒体という考え方や、祈りをテーマにしたモニュメントについてお話しいただいた。

式典後の祝賀会は、現役舎生も含めて、約 50 名の参加で、寄宿舎の礼拝堂が満員となる大盛況でした。式の冒頭の月本昭男理事長のご挨拶からはじまり、冒頭には、プロのミュージシャンに委嘱した、クリスマス祝典にふさわしい音楽のアレンジ演奏（ヴォーカル　尾崎久美子姉、ピアノ宮澤由衣姉）ではじまり、その後、食事をしながら、OB 先輩諸兄から想い出を語っていただきました。

最年長で、1987 年から 37 年間にわたり、役員をお願いした二神康郎兄。旧舎の設計をされた遠藤新先生の係累であられる関澤純兄。新舎建替の時の学生主事、榊原博之兄。新舎と旧舎の両方で生活をされた現専務理事の篠原正雄兄、清水正之兄。さらに 50 周年記念事業として、記念誌の刊行や、宿舎の改修に取り組まれている山口栄一兄、合田隆史兄。当会と長くともに歩んできた賛育会の元理事長、小堀洋志兄。当会の歴史を感じさせる面々から、多彩なお話が飛び出し、興味尽きない会となりました。最後は、現役舎生の明るい自己紹介で締めくくり、豊かな一日となりました。

（高倉　鉄夫）

# 5-2　50 周年記念講演会記録

## 「大地と建築と祈りの場」

**團 紀彦（1979 年工学部卒）**

私は東大 YMCA に 1977 年から 79 年までお世話になりました。山口先輩からお声がけいただき 40 数年ぶりに舎を訪れましたが、当時と変わったところも変わってないところもあり、大変懐かしく思いました。77 年にお世話になったとき、私はキリスト者ではなかったにもかかわらず暖かく迎えていただきました。当時は 3 人ずつ入舎が許可され、一緒に入ったのは田浦さんと星野さんでした。私はずっと建築に携わってきましたので、本日は建築という立場からキリスト教や祈りについてお話ししたいと思います。

**大地と祈りの場**

大地と祈りの場のつながりは、建築が発達する以前からあったように思います。キリスト教にとって祈りの場の原点といえるものは、おそらく左の絵にあるゲッセマネの園でしょう。

真ん中の写真はトルコ・カッパドキアの岩窟修道院です。3 世紀から 13 世紀まで使われたようですが、ここでは紀元前 4000 年という気が遠くなるような昔からヒッタイトの人たちが岩をくりぬいて住んでいました。それが岩窟修道院になったという、人が地形を利用して祈りの場を作ったという実例です。彼らは地下都市を建設してローマ帝国やイスラム勢力からの迫害に耐えたという歴史もあります。こうした場所には多くのキリスト教絵画が残されており、そのうちのいくつかは偶像破壊の対象となり顔がスクラッチされていたりします。天井に描かれたイコンはその後のキリスト教会に見られる天井画につながるものを感じさせます。

こうした岩窟を祈りの場とした例は仏教にも見られます。シルクロードにある仏教の岩窟遺跡には大変保存状態がいいものがあるのですが、なぜ人々が岩の中を祈りの場としたのかは建

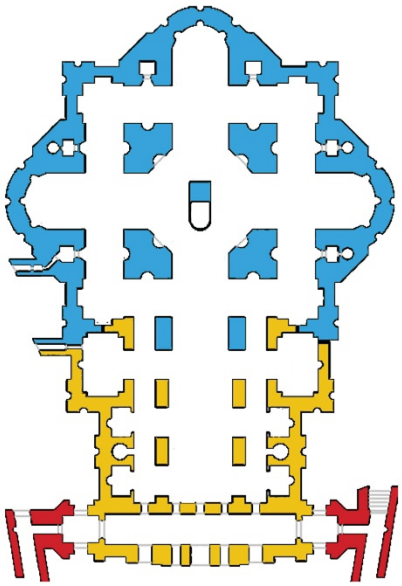
築家として興味が持たれます。

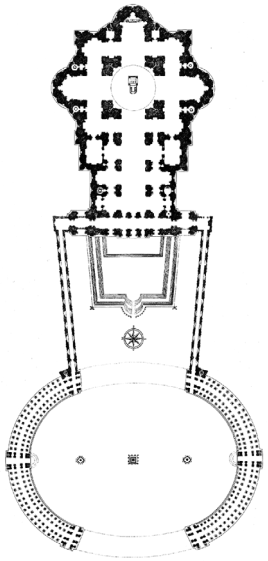
右はシリアにあるシメオン修道院の元となった聖シメオン・スチュリテスが塔にこもって40数年間祈ったという絵です。アシジの聖フランシスコも修道士として活動し、のちにそれを記念する大きな教会が建てられました。こうした孤立して黙想し個人として尊崇を集めた人たちと大きな教団との関係というのは、仏教の場合を含め外からはなかなか見えてこないのですが、私は興味を持っています。

**集中式からバジリカ式へ**

次に教会堂の平面図の話をします。いま一番流布しているのはバジリカ式の教会堂ですが、どうも集中式のほうが少し古いようです。建築用語でバジリカというのは二つの意味がありまして、ローマ時代のマーケットの廃墟もバジリカです。ネロの時代の迫害から解放されたキリスト教徒がマーケットを教会堂として使い始めたという説があり、私としても調べたいと思っています。バジリカの平面図を見ますと、真ん中に身廊が通っていてその両側に側廊があるのですが、その側廊に八百屋などが店を構えていたマーケットになっていたと思われます。正面のアプスには、コンスタンティヌス帝がキリスト教を公認する前ですので、お線香を焚くような土俗的な宗教儀式の場所があって興味深いです。

集中式の教会堂として私がいつも素晴らしいなと思っているのはラヴェンナのサンヴィターレ聖堂です。ですが集中式聖堂には正面が作れないという大きな問題点があります。大勢の信者を前にして聖職者が話をする時に劇場的な空間を作りにくい、また聖職者が天を仰いで祈るとき、誰かを背にしなくてはいけないということになります。そういう現実的な問題に対してどうするかということで悩んだ形跡があります。一方イスラム教のモスクは十字架やキリストの像といった象徴を完全に排除してモスクの方向に向かって祈るだけですから、構造的にはまったく違うものになります。



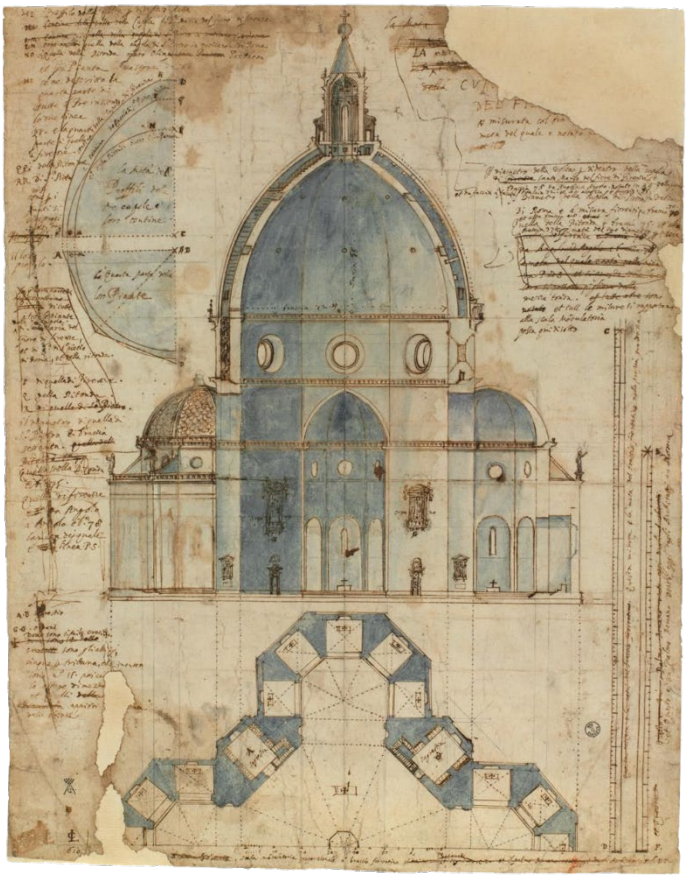


サンピエトロ大聖堂の平面形式の変遷

バチカンについてですけど、16 世紀のはじめにはサンピエトロの原型がありました。しかし老朽化がひどいのでユリウスⅡ世の時に再建することになりました。当時いたルネサンスの巨匠たちを起用し、120 年くらいかけて完成に導きました。この平面図を見ると、もともとは集中式だったことがわかります。つまりギリシア十字からラテン十字へと変化していったわけです。ここでサンピエトロの建設に関わった人たちを紹介したいと思います。ブラマンテという人がローマ教皇から依頼を受けた初代の建築家でした。この人は集中式の会堂を設計しました。それを引き継いだのがミケランジェロです。ミケランジェロはブラマンテの集中式を構造的に強化して、上に大きなクーポラを載せる形にしました。そして大きなクーポラを支えることができる太い柱を設計しました。ここまでが平面図の青い部分です。次に登場するのがラファエロであり、彼は集中式ではダメだと考えて長い身廊を設計しました。平面図の黄色い部分です。こうしないと教会の正面が立派にならない、またミサもやりづらいという現実的な問題を解決するためでした。残念なことにラファエロは若くして亡くなったのですが、バチカンは投票でこの設計思想を採用しました。ベルニーニはそれから 100 年くらい後、バロックの時代に登場します。彼はサンピエトロの正面に大きな楕円形の広場を付け加える設計をしました。ミケランジャロがサンピエトロの構造を強化したというのはあまり知られていないことですが、そのために使った太い柱で生じたニッチにピエタの彫像が置かれました。このように構造的な強化と彫像の配置が表と裏の関係になっているのはとても興味深いことです。

ところでここにダヴィンチが登場しないのはなぜだろうと思って調べたことがあります。す

るとどうやらダヴィンチはミケランジェロとかなり仲が悪かったようだということが分かりました。ダヴィンチはとても売り込みが上手だったようですが、教皇はむしろ地味なミケランジェロを選んだというのが面白いところです。ミケランジェロはシスティーナ礼拝堂の天井画を任されましたが、いやいやながら引き受けたようです。自分は彫刻家なのにどうしてという思いが強く、また非常に制約のある条件の中で描く必要がありましたが、大胆な省略やデフォルメを用いて生き生きとした人物画に仕上げているのはすごい天才だなと思います。ミケランジェロというとダビデ像を思い浮かべる人が多いと思いますが、彼は優れた建築家でもあったわけです。



サンタマリア大聖堂のクーポラ

ルネサンスというのは裸体を描くなどある意味反宗教的な面を感じさせますが、これは長く続いたペストから人々が光を求めたことの表れではなかったかと思います。そしてギリシアに素晴らしいものがあったではないかという気づきがあったでしょう。もうひとつ十字軍の遠征でサラセンの先進的な技術が入ってきたという影響も見逃せません。ルネサンスはまた建築家がはじめて個人名として登場する時代でもあります。

フィレンツェのサンタマリア大聖堂はバチカンの 100 年くらい前にできたものですが、平面図を見ると中心が 8 角形であり、集中式会堂に身廊と側廊が付いた形になっています。すなわちサンピエトロの原型になっているような形式がここに見られます。これは有名な話ですが、ブルネレスキとギベルティというふたりの建築家が腕を競い合いました。洗礼堂の扉のコンペティションではふたりの技量が甲乙つけがたいということで、ふたり共同で製作するようにという話になりました。しかしそれはやはり無理な話であり、プライドの高いブルネレスキが辞退しました。つまりギベルティが扉の彫刻を製作することになったわけです。そのあとサンタマリア大聖堂のコンペがあったのですが、ブルネレスキは 3 度も審査会場からつまみ出されました。それはなぜかというと巨大なクーポラの内側にもうひとつクーポラを設けるという非常に大胆な提案をしたためでした。そうすることで大きな足場を組まずに作業ができるというわ

けです。しかし審査員の中には建築家もいて、そんなことは不可能だとブルネレスキを審査会場からつまみ出したのです。一方ギベルティは世慣れた人で、フィレンツェの職人組合を味方に付けていました。ギベルティは会堂のどこを誰が設計するかという差配権を握り、自分はクーポラをブルネレスキは１階周りの平面を担当すると決めました。ところがギベルティが原寸大の模型を地面に作り市民に見せていた折、強風が吹いて模型が壊れてしまいました。その大崩壊の様子を見ていた職人組合長は、このままでは自分たちの命が危ないと思ったのでしょう、ブルネレスキのところに来て陳謝したということです。そのためブルネレスキが上から下まですべて設計することになったのですが、彼が一番幸せそうだったのはふたつのクーポラの間の薄暗い狭い空間の中で仕事をしていた時だったという話が伝わっています。このようにルネサンスというのは、人の表情が見える時代だったということができます。

**モニュメントとしての建築**

次になぜゴシック建築がイタリアにあまりないのかという話をしたいと思います。これはアッティラという５世紀の人、匈奴系であるフン族の族長ですが、彼がゲルマン民族であるゴート族を支配下に置いて北ヨーロッパに入ってきたのが民族大移動の引き金だったと言われています。その後非常に大きな玉突き現象が起こったわけですが、面白いことに西ヨーロッパに攻め込んだ東ゴート族が通ったルートに大きなゴシック建築が建っているのです。たとえばストラスブール、ケルン、アミアン、ボーヴェなど。そもそもゴシック／ゴチックというのは「ゴート族の」という意味なのですが、どうしてゴート族が攻めてきたラテン（古代ローマ）の町に大きなゴシックのカテドラルができたのか大変興味深いので、きちんと調べてみたいと思っています。

ロンシャン礼拝堂

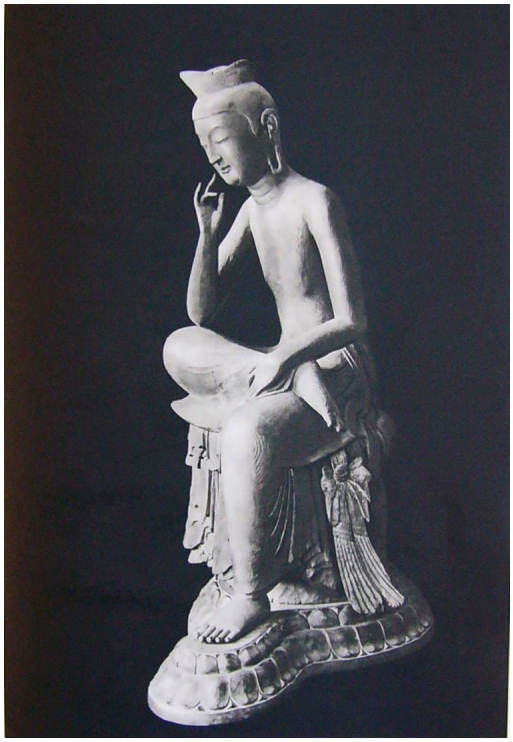
このゴシック建築というのは周りの町並みとつながろうという痕跡がまったくないんです。ゲルマン民族は戦闘的に入ってきたのか平和的に入ってきたのか分かりませんが、ローマの都市は壊せなかったんですね。ゴート族はやがて賃借人としてローマの都市に定住していくのですが、ある種の置き土産としてまた自分たちが東から来た証（あかし）のモニュメントとしてゴシック建築を残したのだと私は想像しています。

こういうモニュメンタリティの系譜というのは現代建築の中にもあって、シドニーのオペラハウスやビルバオのグッゲンハイム美術館などがいい例です。とにかく目立つインパクトのあるものを町の中に作るということですが、逆にそんなものは要らないからきちんとした町並を作ろうという考え方もあり、両者はせめぎあっているのですが、いずれにしてもモニュメンタリティの系譜の原点がゴシックにあると私は思っています。ル・コルビジエのロンシャン礼拝堂にもモニュメンタリティはありますが、その程度はさほど強くなく、どちらかというとロマネスク的な壁の厚みを感じさせます。これは現代建築ですが、素晴らしいキリスト教建築物だと思います。

**奇妙なお寺**

大航海時代に入ると宗教改革が起こり、キリスト教界として極めて大きく重要な議論が戦わされました。この東大 YMCA もプロテスタンティズムの流れをくむものでありますが、その一方でスペイン、ポルトガル（といったカトリック勢力）は危機感を持って世界を視野に入れた布教を開始します。両国は世界を半分ずつに分けるという極めて勝手な取り決めをしたため、日本に最初にキリスト教を布教しに来たのはポルトガル船でした。

ここから宗教と建築についてお話ししたいと思います。柴又の帝釈天はヒンドゥーの神様を祀ったものですが、外観は仏教のお寺にしか見えません。逆説的に考えるとこの時代あるいはさらに古い時代に海外から他の宗教が入ってきたとすると、日本はまれびと（稀人）信仰といって外から入ってきた人をすぐには排除しない国であり、ザビエル以前にキリスト教が伝わったと仮定すると、建材として石もないしお寺に近いものを建てたのではないかと想像します。帝釈天も外観はお寺なのですが、中に入ってみるとやはり違うものを感じます。いつかインドの人に見てもらって感想を聞きたいと思っています。



広隆寺弥勒菩薩半跏思惟像

私が日本のお寺の中で、これはお寺ではないんじゃないかと建築的に感じるものをふたつほど紹介します。そのひとつは京都・太秦にある広隆寺です。ここには有名な弥勒菩薩像が安置されています。当時中国（唐）ではネストリウス派のキリスト教が大変流行していて、大秦寺と呼ばれていました。大秦というのは中国語でローマという意味であり、要するにローマ寺で

す。広隆寺を建てたのは渡来系の秦一族ですが、広隆寺の伽藍配置などを見ると普通の寺とはかなり違うものを感じます。またユダヤの紋章のようなものが入った井戸があるのも不思議です。もし渡来系の文化が入ってきていても日本ではオリジナルの石でできた建造物を作ることはできなかったでしょう。太秦の太いという字の点を取ると大秦になるわけであり、私としてはとても興味深く思っています。またここにある弥勒菩薩像ですが、弥勒菩薩は釈迦の入滅後56億年後に地上に現れるとされる今は存在しない仏、いわばメシアです。私はこれを一種の仮託のように感じています。仮託というのは仮に託すという意味であり、あるものを人々にとってなじみのあるもので表現することです。ザビエルは日本人の通訳であるヤジロウと、日本でどのようにキリスト教の神を説明しようかと議論しました。その中で大日如来のような存在だということにした時期があります。あとになってこれは違うだろうということで止めたわけですが。こうした仮託というのは宗教でしばしば登場します。ですから弥勒菩薩の場合もそうしたものではなかったかと推測しているわけです。

もうひとつが宇治の平等院です。平等という字が仏教寺院に付けられることはごくまれであり、藤原頼通の強い意志によって平等と付けられました。道長のころから西方浄土が強く意識されるようになったたわけですが、西方浄土、極楽浄土というのは元々の仏教にはなかった概念です。ひょっとしてここにもキリスト教の影響があったのではないかと想像しているのですが、これについてはしっかり調査してからお話ししたいと思います。

**そこにあるものを生かす**

最後に私が関わった建築についてご紹介したいと思います。これは京都の西京極にある市のスケートリンク兼スイミングプールです。冬場はスケートリンクにするので、地下に大きな機械室を設けないといけない。そこで計算してみると9万 $m^3$ もの土をダンプカー2000台ほど使って搬出しなくてはいけないことが分かりました。周囲は住宅地ですので、搬出した土はどこか遠方の港湾の埋め立てに使うようなことになるわけです。ですからなるだけ土の移動を少なくしたいと思っていました。一方建築物は18万 $m^3$ くらいの容積と計算されるのですが、私はルーが9万 $m^3$、具が18万 $m^3$ ある27万 $m^3$ のカレーを想像して、

京都西京極　京都アクアリーナ

そこから始めてはどうだろうかと考えました。つまり土は誰かがどこかに捨ててくれるというのではなく、その場で使うという考えでやってみるのもいいんじゃないかと思ったわけです。日本は平野部が国土の 20%ほどしかありませんから、里山を削って造成工事するというのが常でした。しかしこれからそういったやり方はどんどん難しくなってきます。

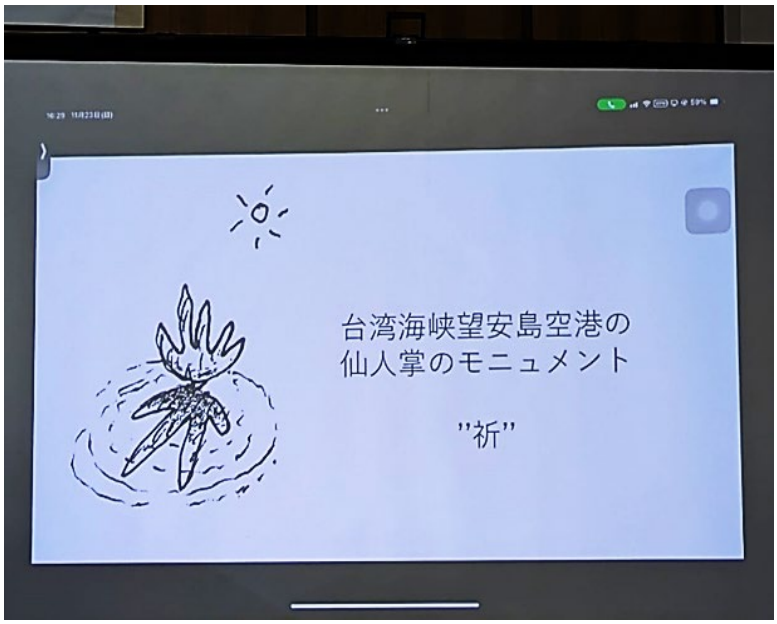
次にご紹介するのは台湾の日月潭（にちげつたん）風景管理処というものです。これは 1999 年に台湾南投県で起きた大地震による土砂崩れの現場跡地を記念館と環境管理センターにするという取り組みでした。日月潭という美しい人造湖とその周辺の景色を調和させかつその場の土をなるだけ利用するような設計をしました。建築というのは元々あった自然を奪ってその上に建てるのが常だったのですが、私はむしろ自然を返したいと思いました。

台湾桃園国際空港第 1 ターミナル

こちらの写真は桃園の国際空港第 1 ターミナルですが、これは改修のプロジェクトです。この空港が 1979 年にできたときは旅客数 500 万人を前提としていたのですが、あっという間にオーバーキャパになりました。2000 年時点ですでに 1000 万人となり、今後を見込んで 1500 万人が利用可能な空港を新設するかあるいは改修でそれを実現するかという話になりました。我々は改修を選択したのですが、具体的には大きな屋根を作って空港ビルの外側を内部化し、耐震補強することで要請に応えるものを完成させました。信じられないかもしれませんが、改修だと新築に比べてコストが 1/15 なんです。ですから環境保護的にも良かったと思います。

我々はどういう仕事をしているのかを考えてみますと、過去にある糸と未来の糸をつなぐ仕事なのではないかと思います。過去のものを全否定せず、将来の糸とつなぐべきものを選択してつなぐという仕事です。いわば第一章に続く第二章を作り、第二章を読んだ人が、ここまで

読んでよかったと満足してもらえればいいわけです。




最後に台湾海峡にある望安島での仕事の話をして締めくくりたいと思います。望安島というのは台湾海峡にある澎湖群島を形成する小さな島なのですが昔から海難事故が多く、明朝最後の将軍である鄭成功が航海の安全を祈願して名付けたとされています。つい最近のことですが、私は望安島にプロペラ機発着用の小さな空港を設置するプロジェクトに参画することになりました。この空港とともにモニュメントの設計も担当することになったのですが、私が提案したのは「祈（いのる）」と題した架空のサボテンです。望安島にはたくさんのサボテンが自生しており、サボテンは中国語で仙人掌、すなわち仙人の掌（たなごころ）と書くところから発想しました。サボテンには色々な種類がありますが、これは５本の指をイメージした架空のサボテンでして、スライドにお示しするのは光が差すと影ができるというイラストです。どの宗教も祈るときには必ず手を使うわけであり、望安島の名前の由来にもちなむ、祈る心を形にしたモニュメントを設計しました。

今日は「祈りの場」ということで、本筋としてはキリスト教における祈りの場である教会の建築物、そしてその原点が建物の外、すなわち大地にあったのではないかというお話をさせていただきました。

## Q&A

（山口）私は東京と京都、半々の生活をしているのですが、京都の桂にあるアクアリーナには何度も行ったことがあります。行くと何故か心が安らぐのですが、これを設計されたのが團さんだと知り、大変驚き嬉しく思いました。なぜ安らぐのかなと考えると、あの緩やかな曲線、そしてモニュメントとして主張するのではなく京都の町に溶け込んでいるからではないかと思いました。質問ですが、團さんはこうした様々な建築物をどうやって思いつくのでしょうか、それは朝なのか夜なのか、といったことを含めてお聞きしたいと思います。

（團）先輩がアクアリーナのことをご存じだというのは私としてもうれしく思います。ここでお世話になった学生のころは、建築というのがイメージ先行であり、建築家は湯水のようにア

イデアが湧いてこないとだめなんだろうなと思いこんでいて、むしろ別の道に進もうかと思い悩んだ時期もありました。しかしそのうち、実は現実的な解を導き出すところで色々なやりかたがあると考えるようになりました。たとえば土を捨てるにしても実際に捨てている現場の事は知らないわけで、捨てずに済むやり方があるんじゃないか、そのほうがいいんじゃないかと思うとその方向で考えが進むわけです。あ、どちらかというと朝です。

（榊）私は室町の COREDO を色々な用事でよく使っているのですが、團さんの作品だということは数か月前に知りました。質問ですが、私ぐらいの年になると古い味わいのある大学の建物がなくなっていくのが寂しく思われます。戦後できた建物には味わいのないものが多く、何とかならないものだろうかという思いを持っていました。この先日本の大学の建物を作るにあたって、長い年月に耐えるたとえばオックスフォードのカレッジのようなものを実現させるにはどうしたらいいとお考えでしょうか。

（團）私は青山学院大学で 8 年ほど教えていたことがあります。青山のキャンパスにはツタが絡まっていてもおかしくないネオクラシックの小さな建物があるのですが、現代建築だとツタが絡まると廃墟感しか出ない、その違いは何なのだろうかと学生と議論したことがあります。車にツタが絡まっていたらスクラップですよね。私は現代のインダストリアルデザインが最も影響を及ぼしたのは建築だと思っています。現代建築の中で上手に年を取ることのできるものがない、これが一番大きな問題だと思うんです。新古典主義的な、たとえばオックスフォード、ケンブリッジ、私が留学したイェールもそうですが、こういった建物を設計できる人がもう世界中でいなくなってしまいました。日本人の建築家なら茶室ぐらい作れるだろうと思うわけですが、実はできる人がいないんです。それでも東京大学の中には古い建物が少し残っています。たとえば化学科でしたっけ、有機溶媒のにおいが漂ってくるような雰囲気の。私は大学にはそういう建築物があるべきだし、そのためには設計できる人を養成すればいいんじゃないかと思うんです。表面的に模倣したものではなく本物を見て、それをきちんと画にできる人が、たとえ 100 人にひとりであっても出てくれればいいなと思っています。

（柿谷　均）

# 第 6 章

# 資料編

# 目　次

**6-1　東大 YMCA 戦後 80 年史年表（1945 年～2025 年）** ..... **177**

**6-2　記録資料** ..... **349**

6-2-1　歴代理事長一覧（1906 年度～2025 年度） ..... 349

6-2-2　歴代常務理事等一覧（新舎：1975 年度～2025 年度） ..... 350

6-2-3　歴代理事・監事・評議員一覧（1947 年度～2025 年度） ..... 351

6-2-4　舎生数の推移（1945 年～2025 年） ..... 367

6-2-5　会館・寄宿舎概略図 ..... 373

# 6-1 東大 YMCA 戦後 80 年史年表

## （1945 年～2025 年）

凡　　例

1. 本年表の記載事項は、東京大学学生キリスト教青年会（東大 YMCA）の理事会・評議員会資料、会報、事業活動報告、各種行事関係資料等から抜粋したものである。

2. なお、1945～57 年の記載事項は、原則として「東京大学基督教青年会年表」（通称「荒木年表」）から転記した。以下、57 年までの事項のうち、出典を明らかにする必要がある場合には、「荒木年表」に基づく事項には(a)と付記し、(a)以外の当会保存資料に基づき追記した事項には、タイトル末尾に(y)と注記している。
   ※荒木年表は、荒木亨氏（57 年文、後に、国際基督教大学教授）が精魂込めて取りまとめたもので、1868 年（明治元年）から 1952 年（昭和 27 年）までの当青年会の歴史を網羅している。

3. 記載事項のうち、理事会等の公式会議、式典・公開講演会等の主要な行事、会報発行・その他重要な活動の報告は、年月日記載の右欄に個別に記載し、年度ごとの定例行事、事業部活動報告などは、理事会の年度別事業報告としてまとめて記載している。

4. また、理事会あるいは会報等の内容をまとめて記載している欄に、その他の資料に基づく事項を挿入・追記した場合には、「＃」の記号を頭書して出典を区別することとした。「はがき通信」からの出典は末尾に「㋹」と付記している。

5. 1945～57 年の記載事項は、「東京大学基督教青年会年表」（通称「荒木年表」、以下(a)と略記）から転記している。なお、(a)以外の当会保存資料に基づき追記した事項には、タイトル末尾に(y)と注記した。

# 東京大学学生キリスト教青年会（東大 YMCA）の戦後 80 年史年表

## （1945 年～2025 年）

| 年　月　日 | 事　項 |
|---|---|
| **1945 年（昭和 20 年）** | |
| 1945/3/29 | 家庭組合の件につき、来訪・問合わせ多し |
| 1945/3/30 | 隣家の数世帯、強制疎開のため一時青年会に入る |
| 1945/4/3 | 夜、空襲あり |
| 1945/4/5 | 区役所に電線修繕督促（5～6 日） |
| 1945/4/12 | 終日、町会との交渉 |
| 1945/4/15 | 岩住理事長宅を見舞う |
| 1945/4/17 | 町会往復 3 回。4/18 区役所に追分小との間の疎開路地使用の交渉、拒否される。4/20 区役所に電力・電話線の修理督促。4/24 土木課に電力線修理交渉。5/3 電話線修理 |
| 1945/4/23 | 舎内総会：会計良好のため食費 15 円（旧 17 円）、維持費 7 円（旧 10 円）に値下げ |
| 1945/4/25 | 同盟会館後片付けを応援（25～26） |
| 1945/4/29 | 印刷用紙 500 枚を春日町古道具屋にて購入、天長節祝賀晩餐会用 |
| **1945/5/9** | **ドイツ無条件降伏** |
| 1945/5/11 | 電話開通。5/12 電力線修理依頼に団子坂下に行く。5/23 修理成る。 |
| 1945/5/24 | B-29、250 機来襲、撃墜 10 機を数う。追分町電停前湯屋横の通路まで消失。魚屋・豆腐屋罹災。電力線また故障 |
| 1945/6/4 | 基督教研究会（永松主事、「宗教と道徳との関係」）　出席者 9 名 |
| **1945/8/6** | **8/6 広島に原爆投下、8/9 長崎に原爆投下、8/14 ポツダム宣言受諾、8/15 終戦詔勅放送、太平洋戦争終結** |
| 1945/10/12 | 学内紹介講演会：賀川豊彦氏 |
| 1945/12/15 | クリスマス祝会 |
| **1946 年（昭和 21 年）** | |
| 1946/3/10 | 理事会 |
| 1946/3/17 | 青年会総会 |
| 1946/3/30 | 役員会 |
| 1946/5/13 | 創立記念日 |
| 1946/5/18 | 新入生歓迎会、並びに事業懇談会 |
| 1946/6/1 | 第 58 回創立記念祝賀会　星島二郎氏商工大臣就任、衆議院議員（片山哲、河野密、鈴木義男、星島二郎、松沢兼人、森戸辰男）当選祝賀会 |

| | |
|---|---|
| 1946/9/16 | 住谷悦治氏「吉野先生の時代について」 |
| 1946/9/21 | 全日本基督教学生青年会協議会：東山荘にて |
| 1946/9/26 | 紹介講演会：今中次麿氏「科学と信仰」 |
| 1946/9/28 | 役員会、このほか 11/4、11/11、11/18、11/25 に同会を開催 |
| 1946/10/2 | 舎内卒業生祝賀会 |
| 1946/10/7 | 理事会、このほか 10/14（主事問題、その他）、10/21、10/28、12/2 に同会を開催 |
| 1946/10/17 | 青年会館接収を恐れて、外務省、司令部、終戦事務局宗教部へ行く |
| 1946/11/6 | 二高・忠愛寮訪問 |
| 1946/11/14 | 舎内総会 |
| 1946/11/16 | 舎外生を対象として、矢内原教授の「イエス伝の研究」 |
| 1946/12/14 | クリスマス祝会 |
| 1946/12/22 | 役員会（永松主事、辞意を表明） |
| **1947 年（昭和 22 年）** | |
| 1947/2/3 | 役員会、このほか 2/10 に役員会開催 |
| 1947/2/19 | 定期理事会：斎藤理事長、河田、岡本、石原、江口、渡辺、赤坂各理事、永松主事、稲木監事が出席<br>◎1946 年度決算と 47 年度予算、永松主事辞任（後任　木下氏）の件(y)<br>＊永松前主事より木下主事に事務引継完了(a) |
| 1947/3/15 | 定期総会開催(y)　※(a)は日程を 4/15 と記載 |
| 1947/4/28 | 事業執行委員会を開催、このほか 5/5 及びその後、毎月曜日に開催 |
| 1947/5/6 | 植村環女史 紹介講演会 |
| 1947/5/25 | 新入会員歓迎会 |
| 1947/6/17 | 第 59 回創立記念祝会　並びに国会議員当選祝賀会（片山首相、森戸文相ら出席）（荒） |
| 1947/7/11 | 東大 YMCA 夏期学校（～7/31　15 日間）を実施。　高専科 56 名、中等科 87 名参加<br>校長は木下順二氏、講師は在舎生で、田浦武雄、北村一男、住谷一彦、菅川薫、中平健吉、石原力、五十嵐雄一、岡本途也、小川章、江口篤壽、浦田常治、佐藤秀之 |
| 1947/9/26 | 定期理事会：斎藤理事長、石原、河田、木村各理事。吉利監事、吉川主事、学生理事が出席<br>◎同盟加入の件、◎60 周年記念事業の件など<br>※青年会同盟加入の件、60 周年記念事業の件、家屋修繕寄付金募集の件、その他を審議(y)※（a)では日付を/27 と記載 |

| | |
|---|---|
| 1947/9/29 | 卒業生予餞会 |
| 1947/9/30 | 事業委員会 |
| 1947/10/1 | バイブルクラス |
| 1947/10/5 | 青年会同盟加盟申請 |
| 1947/10/7 | 祈祷会（毎週学内)、同盟委員会 |
| 1947/10/18 | 青年会連盟委員会 |
| 1947/10/23 | 学内紹介講演会　講師；斉藤惣一氏「戦後における学内運動の動向」 |
| 1947/10/27 | 事業委員会、このほか 11/3 に同委員会を開催 |
| 1947/11/4 | 例会　吉川需氏「キリストの容貌」 |
| 1947/11/12 | 早天祈祷会 |
| 1947/11/15 | 連盟委員会 |
| 1947/11/19 | ハメルン氏帰国記念バイブルクラス |
| 1947/11/21 | 聖書研究会（北森嘉蔵氏)、於：山上御殿 |
| 1947/11/22 | 文化祭に YMCA 合唱団出席 |
| 1947/11/23 | カトリック研究会と討論会　「カトリシズムとプロテスタンティズム」、「学生運動の回顧と展望」にも出席 |
| 1947/11/24 | 事業委員会、このほか 12/1、12/8 にも同委員会を開催。12/8 は舎内総会も開催 |
| 1947/12/13 | クリスマス祝会 |
| 1947/12/19 | 学生協議会 |
| 1947/12/20 | 学生青年会連絡委員会 |
| 1947/12/28 | 学生クリスマス礼拝（東京女子大チャペル） |
| **1948 年（昭和 23 年）** | |
| 1948/1/8 | 夏期学校準備会に連盟代表として石原委員長出席、於：近江八幡 |
| 1948/1/26 | 事業委員会、このほか 2/1、2/9、2/16（新旧理事引継会を兼ねる)、4/20（学生運動のこと、60 周年記念行事の件)、4/26 にも同委員会を開催 |
| 1948/2/6 | 定期理事会準備会 |
| 1948/2/7 | 定期理事会：斎藤理事長、石原、河田、藤田各理事が出席<br>◎理事改選の件（三田村理事⇦木村監事)、木下主事辞任⇦吉川需氏(y) |
| 1948/4/27 | 舎内総会 |
| 1948/5/1 | 新入会員歓迎会並びに 5 月例会（森有正氏講話） |
| 1948/5/3 | 事業委員会を開催、このほか 5/10 にも同委員会を開催 |
| 1948/5/3 | 60 周年記念講演会（森戸辰男氏「平和と政治」、鵜沢総明氏「極東裁判の弁護を終わりて」) |
| 1948/5/11 | 第 2 回 60 周年記念講演会（河村又介氏「基督教と憲法との関係」、堀内 |

| | |
|---|---|
| | 謙介氏「世界の平和と国際連合」。5/12 松田智雄氏「宗教改革と新しき人の創造」、赤岩栄氏「基督教の現実的課題」 |
| 1948/5/26 | 事業委員会、このほか 6/7、6/14、6/21、6/28、6/13、6/20、9/27、10/11 に同委員会を開催 |
| 1948/6/2 | 6 月例会（吉利和監事奨励） |
| 1948/6/29 | 文化部主催舎内討論会 |
| 1948/9/27 | 入舎選考会 |
| 1948/9/29 | 定期理事会：斎藤理事長、石原、河田、藤田、木村各理事、吉利監事、吉川主事、学生理事（石原、中平、菅川、乙守、橋本、田浦監事）が出席(y)<br>◎寄宿舎部屋代値上げの件（学生 40 円から 100 円、先輩 60 円を 150 円、一舎の先輩は 225 円）（荒）<br>◎専任主事銓衡依頼の件（河田氏、有能な青年主事の必要を説く）<br>◎YM 憲法第 9 条一部改正の件：(学生理事の任期を 2 年から 1 年に変更)<br>※(a)では日付を 9/25 と記載 |
| 1948/10/2 | 例会 |
| 1948/10/4 | 学内祈祷会、このほか 10/11、10/25、11/1、11/8、11/15、11/22、11/29（聖研あり）、12/6、12/13 にも同会を開催 |
| 1948/10/9 | 舎内総会、事業懇談会（各部割り当てと文化発表会、展覧会の件）このほか 12/3 にも同会を開催 |
| 1948/10/26 | 舎内聖研（森岡巌氏） |
| 1948/10/29 | 学内基督者懇談会 |
| 1948/10/30 | 舎内講演会（木山美智雄氏「基督者の見たるソ連」） |
| 1948/10/30 | 文化発表会・展覧会（～11/1） |
| 1948/11/16 | 学内文化講演会（佐藤定吉氏「科学と宗教」 |
| 1948/11/30 | 学内聖研（松村寛三郎氏） |
| 1948/12/2 | アジア学生懇談会｛平和問題｝ |
| 1948/12/7 | 文化講演会（森有正氏「実存と信仰」） |
| 1948/12/7 | セイロン島会議出席者壮行会（於：東京 YMCA） |
| 1948/12/10 | YM・YW 合同クリスマス祝会 |
| 1948/12/11 | クリスマス礼拝　大村 阿佐ヶ谷教会牧師(y)　152 名参加(a) |
| 1948/12/12 | 東大 YMCA クリスマス祝会(y)　第 1 部：ピアノ演奏（岩下昭比古氏）、舎生コーラス、オルガン二重奏（森有正先生、吉川需先生）　第 2 部：劇「人は何によって生きるか」（トルストイ作） |
| 1948/12/14 | 例会（安田重雄氏奨励） |

| | |
|---|---|
| 1948/12/20 | 事業委員会（クリスマス反省） |
| **1949 年（昭和 24 年）** | |
| 1949/1/21 | 舎内総会、このほか 6/6 にも同会を開催 |
| 1949/1/31 | 定期理事会：斎藤理事長、他理事が出席(y)<br>◎各部事業報告の件：庶務部、連絡部、文化部、聖書研究部、共励部より報告<br>◎1949 年度予算の件<br>◎会館営繕のための寄付金募集の件<br>◎憲法第 9 条一部改正の件、舎費値上げの件（学生 200 円、先輩 500 円）、火災保険を 2 倍（70 万円）とする件(a) |
| 1949/2/5 | 青年会総会 |
| 1949/2/7 | 事業委員会、このほか 5/13、5/23、9/19、9/26、10/3、11/7、11/14、11/17、11/21、11/28、12/5、12/12、12/19 に同委員会を開催 |
| 1949/5/16 | 事業懇談会、このほか 6/6、6/23（映画界準備）に同懇談会を開催 |
| 1949/5/28 | 61 回創立記念・新入生歓迎会 |
| 1949/7/2 | 映画会「禁男の家」 |
| 1949/10/1 | 定期理事会：斎藤理事長、他理事が出席<br>◎会館営繕のための寄付金募集の件 |
| 1949/12/10 | クリスマス祝礼拝　司会：植木光教氏、聖書：宮田光雄氏、祈祷：山崎保興氏、説教：宮本武之助氏、祝祷：白井牧師、祝会劇「郭公」(y) |
| **1950 年（昭和 25 年）** | |
| 1950/1/28 | 定期理事会：斎藤理事長、他理事が出席(y)<br>◎1950 年度予算の件<br>◎理事改選の件：藤田理事が辞意を表明⇒後任に堀豊彦氏<br>◎1950 年度には、6 月と 11 月に子供会を開催。近所の子供達、延べ 100 人以上が社交室で遊んだ（このために中野兄は 16 ミリの映写技師の免許を取得） |
| 1950/2/4 | 臨時理事会：斎藤理事長、他理事が出席、学生理事：山崎、宮田、宮原、岩島、松村<br>◎理事改選の件：斎藤理事長を再任、藤田氏に謝意(y) |
| 1950/4 月 | ケール夫人とルイス夫人により、スタンレージョーンズの「道」をテキストとしてバイブルクラスあり |
| 1950/5/11 | 紹介講演　D・リーバー氏「世界における青年会」及び、隅谷三喜男氏「学問と信仰」 |
| 1950/5/13 | 創立 62 周年記念並びに新入生歓迎会 |
| 1950/5/29 | 学内早天祈祷会 |

| | |
|---|---|
| 1950/6/26 | 聖書研究会（福田正俊氏「ロマ書」、16 名出席）、このほか 7/3 第 2 回（18 名）、11/11 第 3 回（9 名）、11/18 第 4 回（7 名）、11/25 第 5 回（10 名）の各聖研が行われた。 |
| 1950/6/27 | 臨時理事会：斎藤理事長、他理事が出席(y)<br>◎会館修繕資金寄付募集を決定 |
| 1950/6/29 | 文化講演会（松田智雄氏　「社会科学とキリスト者の実践」） |
| 1950/10/2 | 第 1 回修築募金発起人会、10/17 石川清宅にて発起人実行委員会、10/20 募金開始、60 名・10 万円を目標 |
| 1950/10/7 | 定期理事会：斎藤理事長、他理事が出席(y)<br>◎各部事業報告 |
| 1950/10/20 | 神学研究会：熊野義孝氏「今日の神学の根本問題」 |
| 1950/12/16 | クリスマス祝会　参会者 130 名(y) |
| **1951 年（昭和 26 年）** | |
| 1951/1/29 | 定期理事会　斎藤理事長、他理事が出席(y)<br>◎各部事業報告、◎1951 年度予算の件、◎総会を開催する件 |
| 1951/2/10 | 総会開催(y)<br>◎1951 年度役員改選の件、◎1951 年度予算の件、◎舎費値上げの件、◎会費値上げの件 |
| 1951/6/30 | 会報 31 号（復刊第 1 号）発行(y)<br>＊斎藤勇理事長　「本会創立者　大西祝博士」<br>＊宮田光雄氏　「基督教文化の問題」<br>＊M・H　「姉への手紙」<br>＊OB 寄稿　16 篇<br>＊各部事業報告<br>◆聖研部：5/29 学内早天祈祷会（ペンテコステに際して学内伝道のため）、聖研 6/26、7/3、11/11、11/18、11/25　福川正俊 東京神学大学教授により、ロマ書を中心として」、10/20「神学研究会　熊野義孝先生」<br>◆文化部：<br>▷5/11 講演会　リーパー 東京 YMCA 同盟主事　「世界における学生 YMCA」<br>▷5/11 講演会　隅谷三喜男 東大助教授　「学問と信仰」<br>▷6/29 講演会　松田智雄 立教大学教授「社会科学とキリスト者の実践」<br>◆連絡部<br>▷学生 YMCA 同盟の活動に参加： |

| | |
|---|---|
| | 6/3 ベネット博士講演会「キリスト教とコミュニズム」<br>6/17～18 関東部会、我が国最初の野外伝道音楽会「ラクーア音楽伝道会」を開催（約 3,000 名の市民が集う）<br>11/18 世界祈祷週間青年の夕べなど<br>その他　東山荘夏期学校など<br>◆共励部（スポーツ、音楽などのレクリエーション係）:「お池のコーラス」（三四郎池のほとりで行う讃美歌の合唱練習）は 4 年前に始まったが最近、東大 Y 舎生は殆ど参加していない様子　※(a)にも同記載あり<br>◆庶務部<br>▷5/13 創立 62 周年記念・新入生歓迎会<br>▷6/15　M・G・フィッシャー氏（青年会育ての親）を迎え懇談会（YMCA 運動・会館修築など）※(a)にも記載<br>▷11/4　平井好一先輩（運輸審議会委員）を囲む会「アメリカ視察報告」　※(a)にも記載<br>◆会館修築資金募金の中間報告：在舎生 34 名、先輩 183 名、申込総額 667 千円。目標額 80 万円<br>◆1951 年度役員名簿（2/10 総会決定）　理事長：斎藤勇氏、理事：堀豊彦、木村健二郎、石原謙、河田茂氏（以上、特別会員）、岩島久夫、松村寛三郎、加藤庄六、宮原守男、永山和夫氏（以上、通常会員）、監事：吉利和氏、(特別)、今井義量氏（通常） |
| 1951/7/20 | 第 2 回発起人会（1 月より 7 月まで、学生訪問により 80 名、10 万円募金） |
| 1951/7/25 | 募金計画樹立（大西定彦氏の招待で、小石川日立会館において有志協議会)。8 月までに主に大西氏の斡旋による募金 20 万円、9/15 現在で、応募者 30 名、再応募者 20 名より 20 万円、11/30　YWYF より 60 万円。9 月～12 月まで再募金を継続し、応募者 71 名、再応募者 15 名、計 30 万円となる。 |
| 1951/10/11 | 定期理事会　斎藤理事長、他理事が出席(y)<br>◎苅野委員辞任に伴う後任選出の件（前例により選挙次点者・小野寺氏を推薦決定）<br>◎会館修繕の件：修繕資金の管理を河田理事に委任、修繕計画を石原憲治理事に委任。 |
| 1951/12/13 | 有志発起人実行協議会（星島二郎氏の招待により、衆議院 2 号議員室にて） |
| **1952 年（昭和 27 年）** | |
| 1952/1/28 | 臨時事業委員会（学生サナトリウム問題、単独にて資金募集は拒絶） |

| | |
|---|---|
| 1952/1/30 | 定期理事会　斎藤理事長、他理事が出席(y)<br>◎役員改選の件：現役員に石原憲治、宮本武之助、高見穎治、石川清氏を加えることを決定<br>◎総会開催の件、◎52 年度予算の件、会館修築募金の件(y) |
| 1952/2/4 | 事業委員会、このほか 2/11、10/20、11/11、12/1 に同会を開催 |
| 1952/2/5 | 舎内総会、このほか、3/1、4/28、5/20、6/17、7/1、9/23（フィッシャー氏より 400 ドル、同盟を経て届く）、10/21、11/12、12/4、12/5（若泉氏のインド行き、その他）に同会を開催 |
| 1952/2/9 | 総会開催(y) |
| 1952/2/14 | 臨時理事会(y)<br>◎理事長互選の件：堀豊彦理事長が選任（新任）、吉利和監事（重任）を決定<br>◎評議員会設置の件、◎OB 会の件（規約制定の件承認）、◎斎藤理事長への記念品贈呈の件<br>◎建物登記の件、◎学生集会等の周知の件、◎会報及び名簿印刷の件 |
| 1952/2/16 | 二舎生　下宿斡旋広告を朝日に掲載、2/23 同広告をキリスト新聞に掲載 |
| 1952/2/25 | 寄宿舎委員会、このほか 10/18、11/11、11/30 に同会を開催 |
| 1952/3/3 | 予餞会 |
| 1952/3/22 | 毎週火曜バイブルクラス（ブラウンリー「マルコ伝」） |
| 1952/3/25 | 第 1 回神学研究会　福田正俊氏「神認論」　（バルト「教義学要綱」による） |
| 1952/5/9 | 聖書研究会：宮本武之助氏「キリストにおける統一」 |
| 1952/5/13 | 創立記念式(y) |
| 1952/5/13 | 臨時理事会にて、堀理事長、他理事が出席。(y)<br>◎斎藤前理事長に記念品贈呈の件<br>◎修築募金推進の件（3 月段階で追加募金 90 名、10 万円、5 月段階では募金進捗せず、なお 50 万円を要する状況）(a)。 |
| 1952/5/24 | レコードコンサート、このほか 6/28 にも開催 |
| 1952/5/24 | 舎内晩祷開始 |
| 1952/5/30 | 神学研究会「創造」、そのほか 6/20 第 3 回、9/20「贖罪」、11/13（井上良雄氏「復活」）に同会を開催 |
| 1952/5/31 | 新入生歓迎会・OB 会 |
| 1952/6/1 | ペンテコステ早天祈禱会 |
| 1952/6/6 | 聖書研究会「新しい人と平和」 |
| 1952/6/16 | 修築募金のための演劇会（新演劇研） |

| | |
|---|---|
| 1952/6/19 | 学生サナトリウムのための音楽会（浅野千鶴子氏独唱） |
| 1952/6/27 | 理事会 |
| 1952/7/5 | 青年会臨時総会（憲法一部改正） |
| 1952/7/7 | 旅行（～8 日、修善寺・戸田） |
| 1952/8/17 | 理事会（通常会計より 27 万円繰り入れ） |
| 1952/9/19 | 聖書研究会：ダルマラージ教授の「奥義」、及びハブルンド主事を囲む夕食会。このほか、10/24　「キリストのプレローマ」、11/7　「カイロスの活用」の聖研を開催 |
| 1952/11/10 | 舎内音楽会 |
| 1952/11/17 | ボイドア卿講演会 |
| 1952/11/21 | 米国留学土産幻灯会 |
| 1952/11/27 | 理事会：残額 7 万円の募金の件 |
| 1952/12/16 | 待降節祈禱会 |
| 1952/12/17 | 若泉氏送別会 |
| ＊＊＊＊＊＊＊＊東京大学基督教青年会　年表（通称「荒木年表」　は、以上 1952 年までを収録して完成＊＊＊＊＊＊＊＊ | |
| **1953 年（昭和 28 年）** | |
| 1953/2/12 | 定期理事会：堀理事長、他理事が出席 |
| 1953/5/13 | 創立 65 周年記念式典並びに祝賀会　式辞：堀理事長、感謝祈祷：小松武治先輩<br>修築が完成した会館にて先輩 30、舎生 27、舎外生 4 の計 61 名が参加<br>「のんき」の出前 |
| 1953/11/17 | 定期理事会：堀理事長、他理事が出席<br>◎各部事業報告<br>◎二舎の経営方針の協議 |
| 1953/12/10 | 会報 33 号発行<br>＊堀豊彦理事長　「創立 65 周年記念式辞」<br>＊矢内原忠雄 東大総長　「YMCA か YMA か」<br>＊粂野文雄氏　「東大キリスト者平和の会の過去と現在」<br>＊石原憲治氏　「大学青年会の諸問題」<br>＊先輩短信：鵜沢総明氏、大島広氏、片山哲氏、藤田逸男氏、今中次磨氏、奈良常五郎氏、原崎郁平氏、桃原英治氏、茶村修吾氏、宮本武之助氏「信仰の洞察と愛の責任」、松本輝男氏「日平産業を退社して」<br>＊各部報告<br>◆庶務部：式典・祝会などを担当、10/28 選挙権を守る学生運動に参加<br>◆文化部：図書室の整理と利用促進に着手 |

| | |
|---|---|
| | 6 月宮本武之助先生による学内伝道集会、参会者；60 余名<br>9 月 CA クールソン教授（理論物理学会議で来日）の講演、社交室において満員の参会者あり<br>◆共励部：4 月と 6 月に舎内音楽会。その他、同志会との卓球大会など開催<br>◆連絡部：<br>6 月　九州水害救援募金<br>8 月　夏期学校（東大 YMCA が準備委員長）<br>10 月　ラングーン大学哲学部教授のラブー博士との懇談会、前田教授と舎生が参加<br>▷その他、東大キリスト者連合会の基督教講座（前田護郎先生と関根正雄先生）、井上良雄先生の講演会、連合会総会（1953/5/25 山上会議所にて開催）などの報告<br>◆その他、各階人物評 |
| 1953/12/10 | クリスマス礼拝並びに祝賀会　説教：鈴木正久 駒込教会牧師 |
| **1954 年（昭和 29 年）** | |
| 1954/2/12 | 定期理事会：堀理事長、他理事が出席<br>◎理事長互選の件：堀理事長を推挙<br>◎1952 年度決算の件、◎1953 年度予算の件<br>◎通常会費を 200 円とする案で総会に上程<br>◎入舎基準の件：インターン、大学院生の入会の取扱い |
| 1954/2/20 | 総会開催<br>◎総会後の定期理事会において、理事長は互選により、堀氏を再任<br>◎各部事業報告<br>◎青年会史の編纂の件：5 万円の事業予算で、編纂に着手を決定。学生会員 荒木亨兄に編纂作業を委託、完成目標は 1955 年末とする。 |
| 1954/5/15 | 創立記念式典 |
| 1954/12/1 | 会報 34 号発行<br>＊吉川需 主事「青年会史編纂について」　（編纂事業に着手。既存の年表は、1903 年（明治 35 年）に 東大青年会創立 15 周年記念として作成された「中央学生基督教青年会史」のみ（1937 年に、青年会創立 50 周年記念事業として編纂に着手するも頓挫した）<br>＊荒木亨氏（1957 年文）　「青年会 70 年の歩みから」<br>＊各部報告<br>◆聖書研究部：6/5 早天祈禱会（三四郎池にて）」、6/9 と 6/25 聖書研究会、 |

| | |
|---|---|
| | 6/18 神学研究会：宮本武之助氏　「人間性について」<br>◆文化部：英国レスター女史の講演会「平和問題について」<br>◆共励部：レコードコンサート、舎内音楽会、昇仙峡への旅行などを実施<br>◆連絡部：5 月　日本学生平和会議に参加、連合会主催の聖書研究会（関根正雄先生、前田護郎先生による）、YM 同盟主事リーバー氏の洞爺丸事故による遭難の報告 |
| 1954/12/11 | クリスマス祝礼拝 |
| **1955 年（昭和 30 年）** | |
| 1955/2/26 | 定期理事会：堀理事長、他理事が出席<br>◎各部事業報告、◎会計報告 |
| 1955/5 月 | 創立記念式典 |
| 1955/11/17 | 定期理事会：堀理事長、他理事が出席<br>◎各部事業報告、◎年表の編纂<br>◎入舎基準：大学院生の入舎取扱承認 |
| 1955/12/17 | クリスマス祝礼拝　説教：松尾喜代司 荻窪北教会牧師（本会会員）「頌め讃える為帰って来た一人」、第 2 部晩餐会（司会：堀豊彦理事長）、第 3 部親睦会（各階コーラス、演奏、演劇） |
| 1955/12/25 | 会報 35 号発行<br>＊斎藤勇 前理事長　「フィッシャー氏・鵜沢両博士」<br>＊吉川需主事「挨拶」（1958 年から 8 年間主事として在籍）<br>＊荒木亨氏（1957 年文）「青年会史料編纂準備を顧みて」（「青年会史粗年表」完成）<br>＊各部報告<br>◆聖書研究部：4～12 月に、1 回の神学研究会と 6 回の聖書研究会を熊野義孝氏と倉松功 信濃町教会副牧師を迎えて実施<br>◆文化部：森有正兄再渡仏に際し、座談会を開催<br>◆共励部：5/3 新旧舎生対抗野球大会、5/5 同志会対抗卓球大会、11/3 都下 野猿峠親睦ピクニック（31 名参加）、11/26 舎内音楽会<br>◆連絡部：「全国学 Y 代表者懇談会」が初開催、学内キリスト者連合会の聖書講座（中沢洽樹先生、前田護郎先生）、12/18 子供クリスマス（社交室にて 50 人の子供が参加） |
| **1956 年（昭和 31 年）** | |
| 1956/2/9 | 定期理事会：堀理事長、他理事、及び年表担当の荒木亨氏が出席<br>◎各部事業報告、◎年表の編纂、◎総会：2/11 に開催 |
| 1956/5/13 | 創立記念式典 |

| | |
|---|---|
| 1956/5/20 | 会報 36 号発行<br>＊岩井要氏「吉川主事の後を継いで」<br>＊荒木亨氏（1957 年文）「青年会史編纂事業経過報告」<br>＊富森啓児氏「YM に生活する者として」<br>＊「鈴木一郎兄を囲んでの舎内座談会」（世界学生基督教連盟総会に出席前の懇談会） |
| 1956/11/20 | 定期理事会、堀理事長、他理事が出席<br>◎各部事業報告<br>◎史料：130 円程度で 1,000 部を配布。50 部程度を地方、学 Y 同盟に配布<br>◎二舎の件：解消する方針で調査開始 |
| 1956/11/30 | 会報 37 号発行<br>＊堀豊彦理事長　「青年会の置かれている地位」（東大が 1949 年春に新制に切り替わった後の学生生活の変遷、寄宿舎の運営の課題など）<br>＊石原憲治氏　「中国の大学を訪ねて」（1955/11/9 片山哲氏団長の中国訪問団に参加）<br>＊富森啓児理事　「最近の聖研活動より」<br>＊鈴木一郎氏　「世界学生基督教連盟 WSCF 総会」<br>＊舎生投稿 3 篇<br>＊各部報告<br>◆庶務部：創立記念式典、クリスマス祝礼拝に行事に加え、「今青年会では、青年会の在り方について再び問い合おうとする気運が生じている」と報告<br>◆聖書研究：前年の参加者減少を克服し、毎回 10 名を超える参加者を得ており、教会生活と YMCA 活動との両立などについての取り組みを報告<br>◆文化部：会報発行と図書室の整理<br>◆共励部：同志会との野球大会や卓球大会、狭山丘陵ハイキング（23 名参加）<br>◆連絡部：WSCF への鈴木兄の派遣とキリスト者学生運動の自治回復、東大 YMCA が果たすべき役割など報告<br>＊「東京大学学生基督教青年会史を 1956 年早々に発刊。B5 版 350 頁の大冊で、頒布価格 100 円<br>＊10/19 第 10 回東大 YMCA OB 会開催（第 1 回は 1951/6/5） |
| **1957 年（昭和 32 年）** | |
| 1957/1/21 | 定期理事会：堀理事長、他理事が出席<br>◎各部事業報告 |

| | |
|---|---|
| | ◎二舎の件：既住の先輩の全員退舎を決定<br>◎舎費：学生一般の部屋代を 100 円値上げ。◎56 年度決算の件、57 年度予算の件 |
| 1957/5/14 | 臨時理事会：堀理事長、他理事が出席<br>◎臨時総会開催議題の件<br>◎主事の件：平沢・近藤両主事退職を了解、後任は未定。当面大口氏が主事補佐を担う。 |
| 1957/11/15 | 定期理事会、堀理事長、他理事が出席<br>◎各部報告、◎募金報告、◎電話をもう 1 本引く件、◎基本財産の保管の件 |
| 1957/12/4 | 会報 39 号発行<br>＊堀豊彦理事長　「『アドベント』に想う」<br>＊OB 寄稿：<br>　河田茂氏「人工衛星と聖書」、清水孜氏「半年の跡を顧みて」、河田茂氏「賛育会病院後援会」<br>＊特集「就職についての討議<br>＊荒木亨氏「舎にいる友へ」<br>＊各部報告<br>◆総務部：1957 年 3 月の青年会機構改革により、「庶務部」から「総務部に改称」<br>◆聖研部：6/8 ペンテコステ早天祈禱会（奨励：藤田牧師)、5/2「信仰と社会的実践―原水爆問題」など<br>◆財務部（本年度より新設)：青年会会計の逼迫、部屋代、使用料など値上げなどが課題<br>◆連絡部：6/15 青年会 OB 会、その他同盟夏期学校等への参加<br>◆文化共励部（文化部と共励部を一本化） |
| 1957/12/14 | クリスマス祝会　説教；宮本武之助氏　110 名参加 |
| **1958 年（昭和 33 年）** | |
| 1958/1/20 | 定期理事会、堀理事長、他理事が出席<br>◎理事改選の件：吉利和と木村健二郎氏の後任に高見穎治氏、宮原守男氏を推す。<br>◎史料年表の件：荒木氏に謝意を表し、記念品を贈呈する。年表の配布方法を検討する。 |
| 1958/3/17 | 定期理事会：堀理事長、他理事が出席<br>◎各部報告、◎二舎利用の検討<br>◎主事の件：管理主事の後任に高山茂七郎氏が候補。そのほか、諸活動 |

| | |
|---|---|
| | を支援する主事に鈴木一郎氏を推す。◎会館問題研究委員会の件、◎青年会史売りさばきの件：キリスト教新聞に広告を出す。 |
| 1958/10/13 | 理事会<br>◎旧 MDS 室を東大セツルメント法律相談室に貸与することを決定 |
| 1958/11/8 | 紹介講演会　講師：大塚久雄教授　「近代思想史上のプロテスタンティズム～特に職業理念について」　（駒場にて、学生 150 名が参加）　※会報 41 号に講演録 |
| 1958/12/8 | 会報 41 号発行<br>＊巻頭言：堀豊彦理事長<br>＊修養会特集（10/20～22）　主題「キリスト者学生の生き方」<br>・開会式：堀理事長「東大学生基督教青年会について」、舎生発題（二神・村井兄）、講演：鈴木正久氏「基督者の自由」と「ロマ書第 7 章」、宮本武之助氏「主題講演」と「自由討議」、飯島宗享氏「基督者の実存」、堀豊彦氏「我が国における近代国家の生成と破綻」<br>・修養会の反省と感想など<br>＊各部報告<br>◆総務部：10/6 フィッシャー氏未亡人　来日歓迎会（会館にて 30 余名参加）<br>◆財務部：高山主事指導のもとで会館財務事務を行う。「青年会年表」の販売残部が多く、販売促進を目指す。<br>◆聖研部：<br>中川秀恭 北海道大学文学部教授を囲む夕食懇談会<br>12/1 椎名麟三氏による新入舎生歓迎講演会<br>◆文化共励部：10/25 舎内卓球大会、11/8 舎生マラソン大会 |
| 1958/12/13 | クリスマス祝礼拝 |
| 1959/1/31 | 青年会総会 |
| **1959 年（昭和 34 年）** | |
| 1959/3/24 | 東大 YMCA 会館問題懇談会：本郷学士会館にて、理事・監事・主事のほか先輩会員が出席。※「東大 YMCA 建築委員会」とも称している。 |
| 1959/4/27 | 1959 年度第 1 回理事会　出席者：堀豊彦理事長（1923 卒）、高見頴治（1924 年卒）　宮原守男監事（1952 年卒）、高山茂七郎主事（1917 年卒）、鈴木一郎主事（1958 年卒）、以下新任学生理事：佐々木文彦、二神康郎、磯田一雄、成田勝彦、三宅晋兄及び高橋雅二学生監事<br>◎予算案、◎舎生の自発的な寄宿舎塗装作業など報告<br>◎地下室を診療所（今村一男氏）に貸与決定 |
| 1959/5/13 | 創立 71 周年記念式典　式辞：堀豊彦理事長「過去 71 年は偉大である |

| | |
|---|---|
| | が、現在我々は一応これを忘れ去って未来の 71 年を考えるべきではないか」、式典後社交室にて軽食・懇談会、先輩のスピーチあり |
| 1959/6/20 | 会報 42 号発行<br>＊高見頴治氏（1899 年文）「年表を読んで」<br>＊高井康雄氏（1947 年農）「終戦前後の寄宿舎生活」（打ち続く空襲の中、寄宿舎は奇跡的に消失を免れた。舎生は 6-7 人のみ。終戦後、大塚久雄先生は自宅を進駐軍に接収され、当会館に寄宿された。社会科学面では大塚先生、信仰面では鈴木正久 西片町教会牧師、文化面では木下順二氏・森有正氏と接触があり、誠にパラダイスの時代だった、と記述）<br>＊三浦永光兄「舎生間の交わり」、富森啓児氏「青年会の歴史と改革」<br>＊報告「最近の寄宿舎」　4 月の入舎選考（応募者 34 名）により 11 名が入舎、6 月現在、一般舎生数は 33 名、院生・主事・事務員・炊事員を合わせて宿舎常駐人口は 40 名<br>舎費は 1 か月 4,550 円、朝 6 時半に各階に分かれて早祷を実施など<br>＊各部報告<br>◆聖書研究部：聖書研究会、基督教思想研究会、神学研究会等の後援、クリスマスなど諸行事を予定<br>◆文化共励部：図書の整理、荒木年表読書会<br>◆財務部；耐用年限を過ぎた会館の処分問題が焦眉の急との認識<br>◆連絡部：現在会員数は約 800 名<br>◆1958/12/12 舎生有志の文集「あめんどう」創刊号（第 1 号発行：発行責任者：黒瀬壽男氏）<br>文集は、「学生基督者共同体として現在の僕たちの真剣に考えていることを記録し、僕たちの世代の使命を明らかにするための共有財産とする」心構えで発刊<br>寄稿は、清水孜、村井仁、武田勝彦、黒川次郎、橋本章、野口吉三郎、山本憲男、川原正言、堀健二、長綱良昌、高橋雅二、萩野瑞、佐々木文彦、コンノエイジ、三宅晋、西岡義喬、黒瀬壽男、西岡義喬の各兄<br>※3 月に第 2 号は発刊済みで、「実存と信仰」（成田）、「絶対化の悲劇」（村井）などの真剣な追求があり、第 3 号は来る 7/1 発行予定、との記述があるが、第 2 号、第 3 号は保存されていない。<br>◆宗教音楽研究会合唱団誕生：グレゴリオ聖歌から、バロック時代の教会音楽までを歌う混声合唱団。顧問は野村良雄先輩、指揮は池宮英才東京女子大音楽主任 |
| 1959/8/31 | 鈴木一郎主事が渡独（9 月末まで）、主事代行は野崎昭弘氏 |
| 1959/10/19 | 講演会　講師：杉山好 先生　「ヒルティの幸福論について」 |

| | |
|---|---|
| 1959/10/19 | 東大 YMCA 1959 年度特別研究集会（～21 日）：当会館において開催、講師は、堀豊彦理事長、関根正雄 東京教育大助教授、松田智雄 東京大学経済学部教授、藤森元日本 YMCA 同盟主事、宮本信之助 国立教会牧師・東京女子大教授、宮本武之助 東京神学大学教授・本会会員、赤岩栄 代々木上原教会牧師、中川秀恭 北海道大学文学部長、窪田暁子 日本 YWCA 幹事 |
| 1959/12/11 | 元理事 河田茂氏の葬儀　（葬儀委員長は片山哲氏） |
| 1959/12/12 | クリスマス祝礼拝　説教：熊野義孝 武蔵野教会牧師 |
| 1959/12/20 | 会報 43 号発行<br>＊巻頭言：石川清理事（1917 年卒）　※今年は「宣教百年」、カトリック信徒を含めクリスチャンは現在約 40 万人<br>＊「伊勢湾台風救援活動について」　橋本章兄、T・U 生<br>＊魚住昌良氏「ミュンヘン便り」<br>＊「特別研究会」（10/19～21 修養会）に参加して　萩野瑞兄、中村和郎兄<br>＊安保改定反対声明まで（反対決議は 10/30 の事業懇談会にて）<br>＊各部報告<br>◆聖研部：5/17 ペンテコステ早天祈禱会（奨励：生原優氏）、<br>5/28「早祷問題を巡って」（講師：西川哲治氏）、<br>7/9 菅井準一先輩を囲む会<br>＃聖書研究会：土曜聖研月 2 回。木曜聖研：年 2 回を実施<br>＃駒場紹介講演会　講師：堀豊彦理事長<br>◆文化共励部：年表を読む会、子供会を 2 回開催<br>◆連絡部：11/19「ミュラー博士の講演会」（連合会主催）<br>＃連絡部の対外的活動は活発で、梶村委員を中心に連合会委員会、学 Y 指導者会議、連合会主催の講演会と聖書講座等に積極的に参加した。<br>**※「＃印」は、会報以外の事業報告等他資料から追記した事項を示す。** |
| **1960 年（昭和 35 年）** | |
| 1960/1/28 | 1959 年度第 2 回理事会 |
| 1960/3/5 | 河田茂氏追悼会（1959/12/8 帰天）　礼拝司式：松尾喜代司牧師、追悼の辞：佐伯倹牧師、堀豊彦氏理事長。社交室にて、約 70 名出席 |
| 1960/4/30 | 定例理事会：堀理事長、他理事 6 名、監事が出席<br>◎高山主事から「大修築案」報告（予算 38 万円、大屋根・ベランダなどの手入れ）<br>◎女子学生の入舎希望について：堀理事長談「今年の東大の一番の変化は男女共学になったこと。先日、当寄宿舎に入りたいという女子学生が来た。理事会にも諮って断ったが、いずれ女子の入舎は考えなければな |

| | |
|---|---|
| | らない」<br>◎今村一男氏（1965 年医）「文京第一医院」を二舎に開業 |
| 1960/5/13 | 創立 72 周年記念式典　挨拶：堀豊彦理事長、約 40 名出席。式典後晩餐会、その後の懇談で、先輩会員と学生会員の交流のために、先輩宅に 4－5 名の学生が訪問する形式を想定して、今後懇談会を企画したい、との希望が話題に上った。 |
| 1960/10/5 | 会報 44 号発行<br>＊吉利和理事（1943 年医）　「河田茂先生を想う」<br>＊山崎幸一郎氏（1923 年卒）　「あのころ」<br>＊各部報告<br>◆聖研部：「聖研読書会」発足<br>◆文化共励部：4/5 夜子供会の映画会、約 60 人の子供が参加<br>◆財務部：59 年 3 月に「会館問題懇談会」を開催し、会館の存廃が議論されたが、当分大丈夫ということで、大規模な修理を計画した。<br>◆連絡部：連合会の駒場講演会、YM/YW 連盟のゼミに参加<br>◆宗教音楽研究会合唱団の活動が続く。<br>◆59/10/19 に「現代日本研究会」が発足。目的は、現代に生きるキリスト者学生として、その社会的責任を明らかにすることで、安保改定、刑法改正、ILO 条約などを取り上げた。 |
| 1960/10/29 | 定例理事会：堀理事長、他理事 8 名と監事が出席<br>◎大修築工事は予算を超え、約 63 万円となり、特別積立金等で賄う。 |
| 1960/12/17 | クリスマス祝礼拝　舎生 22 名が参加 |
| **1961 年（昭和 36 年）** | |
| 1961/1/22 | 会報 45 号発行<br>＊年頭所感：堀豊彦理事長<br>＊修養会報告特集（60/10/18～20 に開催）　主題：「東大学生基督教青年会と私」<br>開会礼拝：船木弘毅先生、講演：堀先生・永松先輩・佐伯先生、学生発題、修養会の感想など<br>＊同盟の夏期学校報告<br>＊寄宿舎便り：一般舎生数は現在 32 名。食堂にテレビと石油ストーブが入り、楽しい交わりの場となる。<br>＊「先輩を訪問する会のその後」　第 1 回は 11/20 福場吉夫先輩（1918 年卒）宅に招かれ、学生 5 人が訪問、第二回は 12/13 山崎幸一郎先輩（1924 年卒）宅に招かれ、学生 4 人が訪問<br>＊各部報告 |

| | |
|---|---|
| | ◆聖研部：木曜聖研：講師の石島三郎氏による「ヨハネ黙示録」が間もなく 8 回で終了する。安保闘争や浅沼事件が祈祷会でも取り上げられた。<br>◆宗教音楽研究会合唱団：11/19 駒場祭で演奏会、12/3 学 Y 合唱団との合同演奏会。会員数は 46 名、常時出席者数は約 30 名<br>◆読書会：来年から西川哲治先生を月 1 回招いて原書の読書会を予定<br>◆聖書を読む会：11/25 から開催。ほぼ毎日夜、舎生 10 名前後が参加 |
| 1961/5/13 | 第 73 周年創立記念式典　挨拶：堀豊彦理事長、学生と先輩 5 名が出席。式典後に晩餐会開催 |
| 1961/5/17 | 臨時理事会<br>◎新星学寮（東南アジアの留学生を対象とした文化団体）より、改修工事のために一時、二舎の使用依頼があり、7 月以降 3 か月の使用を許可。13 名が滞在<br>◎客間の使用は「学部時代に舎生であったものが引き続き大学院に在学中の者に限る」こととした。<br>◎石原理事から「本木セツルメント」の活動報告があり、最近 200 万円の基金で旧家を買い入れ、近く発会式を行うとのこと。<br>◎1960 年度決算は、合計約 158 万円規模、1951 年度予算は、合計 125 万円規模<br>◎1951 年度役員：特別会員理事は、堀豊彦理事長、石川清、石原憲治、高見頴治、吉利和の各理事と宮原守男監事、通常会員としては、笹野修一、梶村慎吾、萩野谷興、柳沢忠、原田明夫の各理事と長島章監事 |
| 1961/5/20 | 五月祭講演会　講師：浅野順一 渋谷美竹教会牧師「今日の時代と聖書の信仰」※会報 46 号に講演録 |
| 1961/6/20 | 会報 46 号発行<br>＊高見頴治理事（1925 年卒）　「土佐旅行」<br>東大 YMCA において「東京クルセード反対実行委員会」を発足し、研究会、講演会、反対声明、ビラまきなどの活動を実施<br>＊OB 寄稿：駿河敬次郎氏「先輩として」、青本健作氏「友人への手紙」<br>＊先輩を訪問する会：5/28 駿河敬次郎先輩宅を訪問<br>＊寄宿舎だより：一般舎生数は 30 名、他に客間に 3 名の諸兄が在住<br>＊各部報告<br>◆聖研部：渡辺信夫牧師を招き、イザヤ書を研究。<br>5/21 ペンテコステ早天祈祷会（伊藤之雄 西片町教会副牧師による奨励）<br>＃5/21 ペンテコステ早天祈禱会　小石川植物園において、伊藤之雄牧 |

| | |
|---|---|
| | 師による説教<br>　※ペンテコステは以上の 2 つの記述があり、いずれかが正しいのか不明<br>◆連絡部：東大キリスト者学生連合会主催の前田護郎先生による聖書講座<br>◆財務部：二舎の修理を実施、一舎も修繕計画あり。卓球台を新規購入<br>◆文共部：初めて新入会員歓迎ピクニックを実施、同志会対抗卓球大会などを実施<br>◆宗教音楽研究会合唱団：五月祭に講演と演奏の集い「耳で聞く音楽史」を開催<br>＊片山哲氏、星島二郎氏の両先輩が、ドイツ・クリスチャン・アカデミーと西独政府の招きにより、1 か月間渡独した。 |
| 1961/9/18 | 定例理事会：堀理事長、他理事・監事が出席<br>◎寄宿舎内規改正（今後の青年会の発展を期待して新しい内規を制定）：目的、舎生の規定、入舎選考、誓約書、退舎、集会、総会、寄宿舎委員など。なお、早禱の出席者の減少により、10 月の舎内総会において、早禱を廃止し、新たに夕祷が設けられた。<br>◎客間の提供規程<br>◎二舎の今後の取扱 |
| 1961/12/16 | 会報 47 号発行<br>＊堀豊彦理事長　「この年のクリスマスに」<br>＊野崎昭弘氏（1959 年理）「かけだしものの雑感」<br>＊青年会同盟と女子青年会カンファレンス合同の夏期学校報告<br>＊先輩訪問：10/20 山井浩先輩（1917 年卒）<br>＊「あめんどうの会」発足（パッペンハイム著「近代人の疎外」をテキストに 10 月に研究会を発足、月 2 回を予定）<br>＊各部報告<br>◆聖研部：引き続きイザヤ書を学ぶ。早祷から夕祷へ切り替え。聖書を読む会はサムエル記を学ぶ。11/23 聖研部主催「青年会問題討論会」を開催、18 名が出席<br>◆財務部：会館の窓枠修理完成（北側諸室の二重窓化など）<br>◆宗教音楽研究会合唱団：8 月に野尻湖で合宿。11 月駒場祭に出演 |
| **1962 年（昭和 37 年）** | |
| 1962/1/29 | 青年会総会<br>◎1962 年度事業部報告<br>◎新役員の選任：先輩理事は、堀、高見、石原、吉利、西川の各氏。理事長は互選により、堀氏の再任を決定 |

| | |
|---|---|
| 1962/2/9 | 第 1 回理事会<br>◎1962 年度事業部報告<br>◆4/27 聖書研究会（月 1 回）　渡辺信夫牧師による「イザヤ書研究」<br>◆5/20 同志会との恒例ピンポン大会 |
| 1962/3/7 | 理事会 |
| 1962/4/23 | 梶村慎吾兄　広島―アウシュビッツ平和行進出発 |
| 1962/5/13 | 第 74 回創立記念式典　35 名出席 |
| 1962/5/19 | 五月祭講演会　講師：西川哲治 東大教授・牧師　「自然・科学・信仰」<br>終了後、講師と出席者で懇親会を開催 |
| 1962/7/4 | 米国大学生交歓会：ニューイングランドの大学生約 20 名を招待して平和問題、信仰問題等を議論 |
| 1962/7/12 | 会報 48 号を発行<br>＊堀豊彦理事長　「創立記念日の祈念」<br>＊栗原基氏（1901 年文）　「台町青年会寄宿舎時代の思い出」<br>＊橋本章氏（1959 年法）　「4，5 年前と・・・・・」<br>＊寄宿舎だより：大論争の末に舎費を月 5,400 円に値上げ。舎の屋上に「露天シャワー」が完成<br>＊海外だより：4/23「広島―アウシュビッツ平和大行進」14 名が横浜港を出港、東大 Y から梶村慎吾兄が参加<br>＊大学管理制度を巡って、中央教育審議会が　「大学の管理・運営」についての原案をまとめ、発表。　舎でも大学の自治・学問の自由が失われることへの懸念を表明<br>＊各部報告<br>◆総務部：創立記念日に際し、「現在の最も大きい問題は、寄宿舎と青年会との関係で、我々青年会が信仰者の集まりとして生命を持っているか、という問題」、との記載あり。堀豊彦理事長は毎週午後に来舎し、話し合いの機会を持っている。<br>◆財務部：防火・避難用具の整備、台所の改造計画など<br>◆聖研部：西川先生により、マルコ伝を学ぶ。<br>◆連絡部：会員総数は約 900 名となり住所録の整備が重要<br>◆文共部：図書整理、講演会、レクリエーションなど<br>◆宗教音楽研究会合唱団：4 年目、マタイ受難曲を手掛ける。<br>＃6/10 ペンテコステ早天祈禱会　講師：澄田健一郎師、小石川植物園にて<br>＃5/3 新入生歓迎ハイキング<br>＃7/4 米国ニューイングランド大学 20 名来訪、交歓会を開催 |

| | |
|---|---|
| 1962/10/4 | 修養会　講師：西川哲治牧師。水上町の東大谷川寮にて実施、参加者16名 |
| 1962/11/5 | 駒場における青年会紹介講演会　講師宮本武之助先生「現代を如何に生きるか」 |
| 1962/12/15 | クリスマス祝礼拝　説教：鈴木正久 西片町教会牧師、　出席者約120名 |
| **1963年（昭和38年）** | |
| 1963/1/26 | 第2回理事会<br>◎1963年度事業報告<br>◆聖書研究会：小西芳之助 高円寺教会牧師を講師に迎え、ロマ書全16章を8回に分けて研究<br>◆6/2ペンテコステ早天祈祷会　前夜は12名、祈祷会は26名が出席<br>◆10/26修養会（～28日：）主題は「青年会と信仰」、東大山中寮にて、18名参加 |
| 1963/1/31 | 青年会総会　青年会OB会の開催要望など |
| 1963/2/10 | 会報49号発行<br>＊修養会特集号<br>奨励：西川哲治氏「われらの信仰の基礎と表明」<br>「修養会を終わって」　徳永隆史、諏訪頼一、岩切哲朗の各兄<br>＊海外だより：梶村慎吾氏<br>＊各部報告<br>◆財務部：台所改修（総工費：20万円余）<br>◆聖研部：10/28　修養会を東大谷川寮にて実施。木曜聖研は、西川哲治先生によるマルコ伝 |
| 1963/5/19 | 創立記念式典 |
| 1963/5/19 | 五月祭講演会　講師：松田智雄先生「平和を求める者」　※大塚久雄先生ご病気のため急遽依頼して実現した。 |
| 1963/8/19 | 会報50号発行<br>＊特集：「スラムの人々の隣人に」足立区本木町で行なわれているセツルメント活動の紹介と協力依頼<br>・石原憲治氏「同情者に訴える」（本木スラム、バタヤ、ハーモニカ長屋、隣保館設立など）<br>・文共部では、隣保館にて子供たちの学生指導を行っている。<br>＊OB寄稿：青本健作氏「駆け出し雑感」、　徳永隆史「随想―勝手なこと」<br>＊各部報告 |

| | |
|---|---|
| | ◆財務部：環境改善事業に取り組む。社交室の改修計画あり。青年会の年会費は現在 300 円<br>◆聖研部：▷木曜聖研は、小西芳之助 高円寺東教会助牧師を招き、ロマ書を学ぶ。出席者は 12 名<br>▷6/2 ペンテコステ早天礼拝：大串元亮 信濃町教会牧師、小石川植物園にて 26 名出席。<br>◆連絡部：創立記念式典の案内は、住所がわかる東京近辺在住者に約 100 枚を発送、返事は 55 通<br>◆文共部：新入生歓迎ハイク、六中女子ソフトボール部との対抗試合、各階対抗卓球大会などを実施。セツル学習教師派遣事業<br>◆宗教音楽研究会合唱団：池宮英才先生の指揮でバッハカンタータ 4 番ほか小曲に取り組む。 |
| 1963/11/16 | 駒場祭での青年会紹介講演会・映画　講師：梶村慎吾兄「広島―アウシュビッツ平和行進」ほか |
| 1963/12/5 | 会報 51 号発行<br>＊特集「ICL ジャパン発足」　石川清氏「I．C．L に就いて」<br>※米国からの ICL(International Christian Leadership)使節団来日を契機に、石川清氏（当会 OB）を会長として、社会人として活動している信徒の結びつきのために「ICL ジャパン」が設立された。<br>＊梶村慎吾兄「広島―アウシュビッツ平和大行進」<br>＊修養会報告：10/26～28　山中寮にて実施、テーマは「青年会と信仰」<br>▷高沢金吾兄「我々の信仰と青年会のあり方についての私見」<br>▷筒井正明兄「修養会に出席して感じたこと」<br>＊各部報告　◆聖研部：修養会報告<br>＊駒場祭講演会：「広島―アウシュビッツ平和大行進」の記録映画と講演 |
| 1963/12/14 | クリスマス祝礼拝　説教：西川哲治先生 |
| **1964 年（昭和 39 年）** | |
| 64/1/23 | 理事会<br>◎新青年会館設立の件<br>◎学生主事の問題 |
| 64/1/30 | 青年会総会 |
| 64/5/13 | 創立記念式典　出席 OB：堀豊彦、高山茂七郎、山井浩、福場吉夫、清水孜、橋本章、高見頴治、野崎昭弘、永松克巳、星島二郎、山崎保興先輩の 11 名 |

| | |
|---|---|
| 64/5/24 | 五月祭講演会　講師：菅野猛 工学部教授　「職業と信仰」　　来会者約 90 名　※会報 52 号に講演要旨 |
| 64/6 月 | 臨時理事会<br>◎南委員会室を「ぶどうの会」の拠点として使用するという賃貸契約に対し、舎生側より反対意見が出され、本件は見送られた。 |
| 64/9/24 | 定例理事会 |
| 64/10/15 | 会報 52 号発行<br>＊堀豊彦理事長「キリストにある一人の人」<br>＊OB 寄稿：徳久俊彦氏（1953 年経）「信仰と社会人」、中島伸一氏（1963 年卒）「信仰とは」、山崎保興氏「ある回想」<br>＊山崎幸一郎氏（1924 年卒）「朴羅会 40 周年記念旅行記」（大正末期から昭和初期に青年会寄宿舎で暮らした世代の OB 会）<br>＊川上征兄「SCM 合同カンファレンスに参加して」（セイロン・カンディにて開催）<br>＊事業部報告<br>◆聖研部：木曜聖研は、従来のお一人の講師による通年講義の形を改め、2 か月ごとに異なった講師を招く形式とした。前半は、赤岩栄代々木上原教会牧師「現代教会の疑問点」、野呂芳夫牧師（青山学院大学）「現代のキリスト教」を講師に招いて実施、後半は、関根正雄先生（教育大学）「聖書解釈の諸問題」及び「福音と律法」、隅谷三喜男先生「社会科学の見地より見た日本社会とキリスト教」、高木幹太氏「現代に生きるキリスト者」<br>＃5/5 新入舎生歓迎ハイキング（丹沢大野山）<br>＃5/17 ペンテコステ早天礼拝　中村彊根津教会牧師により、小石川植物園で実施 |
| 64/11/15 | 駒場祭講演会　講師：飯島宗亨 東洋大学教授「プラハ平和協議会の意義」　20-30 名が参加 |
| 64/12/12 | クリスマス祝会　先輩出席 15 名 |
| **1965 年（昭和 40 年）** | |
| 65/1/23 | 理事会<br>◎各理事の年間活動報告　※学生主事に月額 5 千円を支給することが決定 |
| 65/1/28 | 青年会総会　※95 通の案内状を出し、返信は 27 名。堀、高見、高山氏など 7 名の先輩が出席<br>※事務員の給与が 1 万円から 1 万 3 千円に増額、学生の部屋代が 500 円から 550 円、卒業生の年会費が 300 円から 500 円に改定した。 |

| | |
|---|---|
| 65/5/13 | 創立 77 周年記念式典　式辞：石原憲治理事 |
| 65/5 月 | 五月祭講演会　講師：大塚久雄先生「行動的禁欲について－戦後日本が獲得した自由と民主主義は幸福を約束するか」 |
| 65/7/1 | 会報 53 号発行<br>＊堀豊彦理事長「ベトナムを巡る問題に寄せて」<br>＊関場理一氏（日本宗平協国際部）「宗教者平和運動の前進の為に－原理論争からの脱出」、川上征氏「宗平協の平和運動<br>＊OB 寄稿：宮原守男監事（1952 年法）　「三河島事件の弁護人として」<br>＊事業部報告<br>◆総務部：学部別舎生数：本郷（法 7、経 2、文 2、工 6、理 2、農 3、薬 0、医 7）　駒場教養 4　大学院 2　合計 35 名<br>◆聖研部：木曜聖研の形式を模索中。今年は、舎生からの問題提出を中心に「現代における愛の意味」、「人間疎外」、「職業と人生の意義の関連」、「平和問題」などに取り組む。定常的には毎日 10 時から夕祷、水曜に合同夕祷を持つ。6/6 青山学院の宮谷宣史先生を招きペンテコステ礼拝を実施<br>◆文化共励部：新入生歓迎仮装ハイキング（高尾山）<br>◆財務部：寄宿舎の老朽化問題、物価の高騰に腐心<br>◆連絡部：12/17 木曜聖研に寄与するための東京女子大との懇談会（東京女子大との合同聖研を実施、他学 Y との交流、機関誌の交換など<br>＃10/31～11/2 修養会　谷川寮において、舎生のみ 17 名で実施。主題「聖書の理解」<br>＃11/3 同志会との卓球大会<br>＃11 月末　卒業生の寄付による「教養文庫」を計画・開始<br>＃12 月～1 月　東京女子大 YWCA との読書会、合同聖研 |
| 65/12/15 | 会報 54 号発行　　特集：信仰と自己変革<br>＊森明麿氏　「信仰と使命感―小さき者の回想」<br>＊宮田光雄先生　「信仰と自己革新」<br>＊中村惺氏（1958 年農・東大理学部生物学科助手）<br>＊井出千束兄「信仰と自己変革」 |
| **1966 年（昭和 41 年）** | |
| 1966/5/13 | 第 78 回創立記念式 |
| 1966/5/22 | 五月祭講演会　講師：西川哲治 東大理学部教授「合理的思惟と信仰」 |
| 1966/7/1 | 会報 55 号発行　「学生会員の生活と意見」<br>＊高沢金吾学生主事「近頃の印象」 |

| | |
|---|---|
| | ＊筒井正明兄「継ぎはぎの帯」、久保田信行兄「雑記帳ぱらぱら巡り」、須藤自由児「A 君へ」<br>＃3/25 連絡部報創刊号　発行（田辺功理事）：事業部巡り、聖研ゼミ、本年度予算など。その後、<br>4/15-No4：五月祭、事業部巡り（聖研部）、YM 七不思議など<br>4/28-No5：聖研ゼミ特集号（全国学生聖研セミナー）、<br>5/3-No6：創立記念式典、舎費値上げなど、<br>5/12-N07：五月祭講演会、<br>5/13-No8：食事アンケート、仮装ハイキング、酒談義（筒井正明）など、<br>6/10-No9：連絡部アンケート、6 月月間計画表、舎生便覧（便利ノート）、酒談義 2、東京女子大 YWCA との交歓会、<br>6/30-No10：夕梼報告（井出千束）、酒談義 3～4、フィリピン・ワークキャンプ（須藤自由児）、<br>11/13-No11：東大 YMCA とは？<br>67/1/22-No12：聖研の盛況、事業部新体制発足、以上<br>＃5/3　木曜聖研講師は牧野信次氏に依頼することを決定<br>＃5/3　新入生歓迎仮装ハイキング（陣馬高原～相模湖）、16 名参加<br>＃6/5　ペンテコステ早天祈祷会：小石川植物園にて。前日には矢内昭二牧師を囲んで「我々と教会」について討論 |
| 1966/12/10 | クリスマス祝会　鈴木正久牧師<br>劇「ホテルジフテリアの殺人」（探偵喜劇） |
| **1967 年（昭和 42 年）** | |
| 1967/1/20 | 理事会 |
| 1967/1/28 | 青年会総会 |
| 1967/2/1 | 会報 56 号発行<br>＊中沢源一郎氏（1930 年文）　「ブラジルからの手紙」<br>＊石原次郎氏（1931 年法）　「彼の理想は大きく実った」<br>＊木下順二氏（1944 年文）　「東大 YMCA との第 1 章」（木下氏は 1936 年入寮、1953 年の退舎まで 17 年間在舎）<br>＊原田明夫氏（1963 年法）　「寄宿舎の思い出」<br>事業報告等他資料から追記<br>＃66/7/15　東大 YMCA 夏期学校　主題「福音による現代の再建―交わりの回復を求めてー」<br>シンポジウム（飯坂良明、藤田若雄、武藤一雄、渡辺信夫の各氏）、西村秀夫氏講演「現代の学生の思想状況」、　北森嘉蔵氏講演「我々 |

| | |
|---|---|
| | の先輩はいかに生きたか」、　パネル討議<br>聖書研究：熊沢義宣牧師「イエスキリストとの出会い」<br>＃66/6/15 東京女子大との第 1 回交歓会　テーマ：「『沈黙』（遠藤周作著）に見る人間の生き方」<br>▷66/7/6 東京女子大との第 2 回交歓会　講演：梶村慎吾氏「平和は作り出すもの」<br>＃66/10/21～23 修養会　講師：八木誠一氏　テーマ：「復活」（イエスの復活、パウロの復活体験）　東大谷川寮にて 14 名参加 |
| 1967/5/10 | 理事会 |
| 1967/5/13 | 創立 79 周年記念式典　礼拝式辞：吉利和理事、先輩出席 5 名 |
| 1967/5/21 | 五月祭講演会　講師：武田清子 国際基督教大学教授　「伝統的価値の連続と非連続―キリスト教の土着化について」 |
| 1967/7/5 | 会報 57 号発行　特集「青年会寄宿舎生活のあり方」<br>＊大島廣氏（1909 年法）「60 年前の台町会館」※かつて台町にあった YM 会館の様子を詳しく描く。<br>＊岡田良一氏（1941 年法）「30 年前の青年会」※昭和 10 年代の戦前の様子を詳しく描く。<br>＊五十嵐雄一氏（1948 年法）「‘すいとん’の頃」※戦争直後の舎の生活を描く。木下順二、森有正、大塚久雄の各氏が在舎した時代<br>1946/3/3 東京基督教学生会発足（一橋大、早大、東女大など十数校が参加）、1946 年に夏期学校を開催など<br>＊清水弘之兄「無題」、国生肇兄「故郷の友へ」<br>＊事業部報告<br>◆総務部：舎生便覧発行<br>◆聖研部：木曜聖研は荒井献先生（青山学院）を招き、ヨハネ福音書を学ぶ。参加者 18-9 名。5/14 白山教会において、ペンテコステ早天祈禱会、奨励は牧野信次 美竹教会牧師、参加者 24-5 名<br>◆文共部：仮装ハイキング（長瀞）<br>◆連絡部：連絡部報の発行開始（これまでに 3 号）、学 Y ニュースにも委員（国生肇兄）を送ることとした。（他の事業報告等によると）しかし、問題があり途中で中止 |
| 1967/9/23 | 理事会：堀理事長、他理事が出席<br>◎事業部中間報告及び展望<br>◎文集、クリスマス、その他<br>◎理事改選の件：堀理事長より 2 年任期の終了する機会に辞任したいとの申し出あり、慰留意見多し。 |

| | |
|---|---|
| 1967/12/9 | クリスマス祝礼拝　説教：鈴木正久 牧師　　先輩出席 13 名<br>舎生劇「瓜子姫とアマンジャク」 |
| 1967/12/10 | 会報 58 号発行<br>＊吉利和理事（1928 年医）「キリスト教と私－誇りと反省」<br>＊宮原守男監事（1952 年法）「マルクス主義とキリスト教」<br>＊事業部報告<br>◆総務部：施設訪問（かね子学園、中井児童学園、石神井学園）<br>◆聖研部：木曜聖研は、引き続き荒井献先生によるヨハネ伝。旧約研究は 12 月に開始予定<br>◆修養会は、11 月 3～5 日に東大山中寮にて開催。講師は招かず、「聖書と信仰」、「キリスト教と平和の問題」、「YM の生活について」、「キリスト教と職業倫理」などのテーマで討論、参加者 17 名<br>◆文共部：合同夕梼の試行。各階対抗卓球大会とサッカー大会。文集発行の予定<br>◆連絡部：連絡部報 4 号を発行<br>◆財務部：寄宿舎老朽化に伴い小修理多し。クリスマス祝会は入場券を販売 |
| **1968 年（昭和 43 年）** | |
| 1968/1/25 | 定例理事会<br>◎決算報告 |
| 1968/1/27 | 青年会総会 |
| 1968 頃 | 「あめんどう」復刊第 2 号発行　発行責任者：川越厚兄<br>※復刊 1 号と 2 号が作成された記録があるが、2 号は確認できない。<br>筒井正明、二木成侗、佐藤良逸、乙田間寂士、タケチャンチュー・ショクーン、井出千束、川越厚、片平洌彦、西田芳弘、久保田信行、荒井献（聖研）、岡本謙一、X・M、こくしょうはじめ、垣内史堂、町沢静夫、清水弘之、中島誠、名無権兵衛、浅田巌、赤尾直人、榊裕之、湯原哲夫各兄 |
| 1968/5/11 | 創立 80 周年記念式典　説教：佐伯倹 品川教会牧師（1921 年法）「更新の時」、<br>記念講演：荒木亨氏（1952 年文）「年表落穂拾い」、懇談会スピーチは、片山哲氏ほか 9 名。舎生の他、OB9 名が参加　※説教・スピーチ詳細は会報 56 号に掲載 |
| 1968/5 月 | 五月祭講演会　講師：西村秀夫先生（教養学部）「大学における人間の諸問題」 |
| 1968/6/27 | 理事会：堀理事長、他理事が出席 |

| | |
|---|---|
| | ◎会館建築の件：会館の老朽化による危険性から新築が急務との認識<br>◎創立 80 周年記念行事の件<br>◎入舎基準の件：カトリック信者の入会について議論。※「YM はプロテスタントの寮であることを建前として確認し、今後 Ecumenical Movement を通じて他教派と積極的にかかわっていくべし」との意見が出された。 |
| 1968/7/15 | 会報 59 号発行<br>＊堀豊彦理事長　「創立 80 周年記念式典に因みて」<br>＊沢田節蔵氏（1909 年卒）「創立 80 周年のお祝いに寄せて」、片平洌彦兄「創立記念式典について」<br>＊三浦斧吉氏「帝大基督教青年会の思ひ出」（大正 7-8 年ごろ―弁護士）<br>＊石原力氏｛戦時中の青年会｝、徳久俊彦氏（1953 年経）「雑感」、二神康郎氏（1960 年農）「青年会 80 周年に出席して」、原田健氏（1918 年卒）「所感」（1916 年 3 月に新会館が完成、それまでは千駄木町に借家住まい。新渡戸稲造先生の秘書）、　青木康氏（1954 年法）「記念会に出席して」<br>＊寄宿舎だより：一般舎生 31 名と客間に 3 名在舎<br>各部報告<br>◆総務部：2/11「建国記念の日」討論集会、5 月に「YM の歴史を学ぶ会」など<br>◆聖研部：木曜聖研は、西村俊昭先生（青山学院・砧教会）の指導のもと、旧約の預言者について学ぶ。<br>＃特別講義：木田献一 青山学院大学神学部助教授を講師として 12/15「預言と契約」、1/19「預言と歴史」を学ぶ。<br>◆文共部：3 月に 68 年度卒業生との親善サッカー大会、5 月初めに「新入生歓迎仮装ハイキング」（丹沢）、6 月東京女子大との合同読書会<br>◆財務部：退舎生有志が南委員会室の壁塗りの奉仕。消防署より「危険建造物」に指定されており、再建に向けた動きもあり。<br>＃新企画として、10 月上旬に「清水弘之氏を囲む会」、10 月下旬に「佐藤良逸氏を囲む会」を開催した。<br>◆連絡部：名簿改訂作業に着手。学 Y を超えて対外的な交流を志向<br>＃68 年度は、多くの舎生が何らかの形で東大闘争に参画したため、舎の活動は低迷した。<br>＃5/3 新入生歓迎仮装ハイキング（丹沢） |
| 1968/12/14 | クリスマス祝礼拝　説教：松尾 荻窪北教会牧師　「生の倫理―学園闘争の中で」 |

| 1969 年（昭和 44 年） | |
|---|---|
| 1969/1/18 | 東大闘争終結　1/19 安田講堂陥落 |
| 1969/1/27 | 理事会：堀理事長、他理事が出席。<br>◎理事改選の件：堀理事長、石原憲治理事より辞任の申し出あり⇒1/30 の総会を控え、すぐには決定できず来年に持ち越す。 |
| 1969/1/30 | 総会 |
| 1969/2/24 | 臨時理事会：堀豊彦理事長、他理事が出席<br>◎理事改選の件：任期満了に伴い、堀豊彦理事と高見穎治理事は再選、石原憲治理事は退任、後任は高井康雄氏。宮原守男監事は再選<br>**◎会館の再建について、「再建問題委員会準備会」を発足（2/25）** |
| 1969/5/17 | 創立記念式典　説教：徳永五郎先輩「荒野の試み」　出席者：OB10 名、舎生 30 余名 |
| 1969/6/27 | 理事会；高見、堀、石原の先輩理事、高山主事、五十嵐、片平、佐藤、森、赤尾、川越の学生理事<br>◎再建委員会の発足の件など |
| 1969/9/25 | 理事会：堀豊彦理事長、他理事が出席<br>◎事業報告の件：学生理事より、東大闘争の余波で、YM の事業活動が減少したこと、<br>◎80 周年記念事業の件 |
| 1969/9/29 | 会報 60 号発行<br>＊五十嵐正宣氏（1967 年医・前学生主事）　「感想」<br>＊増田陸郎氏（1938 年医）　「東大 YMCA―わが心の学舎によせて」<br>＊関谷正彦氏（1928 年法・聖公会司祭）　「東大 YMCA の思い出」<br>＊湯原哲夫学生主事　「雑感」<br>：事業部報告<br>◆連絡部：東大基督者連合会の聖書研究会（荒井献先生による使徒行伝）に参加、その他、靖国神社法案に関する問題」や他の学生 YMCA との交流に取り組む。<br>◆文共部・聖研部：東大闘争が安田講堂陥落で一旦終結した状況下で、活動が困難<br>11/26 読書会「マルクス主義とキリスト教」<br>◆総務部：6/7 舎生便覧を配布、6/14 卒業生を送る夕食会、<br>6/11 連絡部報を拡大改組し、「YM Monday」と称する事業部報を月 2 回発行、10/9 同第 6 号発行<br>▷6 月末カナダ SCM3 名が来訪、7/5 まで当舎に滞在。7/5 歓迎レセプションを開催 |

| | |
|---|---|
| | ▷靖国神社法案に関して、研究会、討論会を行い、7/20 教団主催のデモに参加<br>＃ペンテコステ早天祈禱会　講師：藤村和義先生（渋谷教会）「聖霊を受けるとはどういうことか」　雨天のため YM にて参加者 22 名<br>＃6/25～27 夏期合宿　伊豆下田の東大下賀茂寮にて<br>＃8/26～28 修養会　上野原キャンプ場にて<br>＃1969 年 11 月現在：舎生数 23 名（空室 10 室）※寄宿舎の再建が具体化するなかで、入舎選考が困難な状況あり<br>＃1969/7/7 先輩を訪問する会：宮原守男監事宅 |
| 1969/12/13 | クリスマス祝礼拝　説教：小西芳之助牧師。参加者：舎生 35 名、OB16 名。客人約 50 名 |
| **1970 年（昭和 45 年）** | |
| 1970/1/24 | 理事会：堀理事長欠席、その他理事出席<br>◎44 年度決算の件、◎45 年度予算の件 |
| 1970/5/8 | 創立 83 周年記念式典　説教：徳永五郎氏　先輩 10 名が参加 |
| 1970/7/7 | 会報 61 号発行<br>＊黒川弘氏（1935 年法）「日曜学校創設の思い出」<br>＊OB 寄稿：関谷正彦氏「思い出」、小田原登志郎氏「S・S（日曜学校）破竹会（昭和 8 年・9 年卒業組）そのほか」<br>＊舎生寄稿 3 篇<br>＊事業部報告<br>◆総務部：合同祈禱会には 20 名近い出席。混乱の時代から、平和なよそおいと楽しい交流を取り戻しつつある。<br>◆連絡部：「一昨年以前では、大学に機動隊が入ることは社会的にも大事件であったが、今では日常茶飯事となってしまい・・・・・」という状況を嘆きつつ、地味に活動する。<br>◆聖研部：東大 YMCA は信仰共同体として存在しているのか？など、舎生にとってより根源的な問いが様々な形をもって発せられている状況。聖書は一体我々に何を語るか？これが聖研での問い返し。<br>◆財務部：修理費の増大から新舎を夢想<br>◆文共部：各学部とも正常化しつつ、日常に埋没。五月祭参加は見送り。共同体とは何か？という問題が大きい。<br>＃1969/10/10～12 修養会　代々木・オリンピック記念青少年総合センターにて、10 名参加。テーマ：「私にとってキリスト（教）とは何か」。従来の聖研部主催から超事業部主催に変更、「キリスト者の団体としての自覚的再出発のスタートが切れた」との評価あり。 |

| | |
|---|---|
| | ＃11/3 卓球大会（文京女子短大学生も参加、これが機縁となり、暮れに発生した火災時に舎生が駆けつけて消火・救援活動に協力した）<br>＃秋から冬にかけて、計 3 回クラシック・コンサートを実施<br>＃読書会　椎名麟三著「懲役人の告発」　参加者：10 数名 |
| 1970/9/19 | 理事会：堀理事長、他理事が出席<br>◎入舎基準の件：69 年度入試中止に伴う新入生の減少を受けて、大学院生の増加を承認 |
| 1970/12/12 | クリスマス祝礼拝　聖研：月本昭男兄 |
| **1971 年（昭和 46 年）** | |
| 1971/1/3 | 関西 OB 会 |
| 1971/1/23 | 理事会：堀理事長、他理事が出席<br>理事選任の件：堀豊彦、高見穎治、高井康雄理事を再選 |
| 1971/1/23 | 総会 |
| 1971/1/30 | 会報 62 号発行<br>＊住谷悦治氏（1922 年法・同志社大学総長）<br>＊鈴木厚氏（1927 年卒）「思い出すこと」（旧館震災と復興を記述）<br>＊野村良雄氏（1932 年文卒）「信仰の歩みのジグザグ」<br>＊原田郁夫氏（1952 年工）「世の中変わった」<br>＊榊裕之氏「メッセージ」<br>＊舎生寄稿 3 篇<br>＊事業部報告<br>◆総務部：修養会（2 回上野原と検見川）開催。有志によるグループ活動）イエス論研究、絵画、早稿）<br>◆聖研部：キリスト者の多くが、神学者、聖職者を含めて「正統」信仰の上に、どかりと座り居眠りをしている状況で、聖書研究が困難ではある。まだ見ぬ真理を求めて真剣な模索が行われている。 |
| 1971/5/8 | 創立記念式典　説教；徳永五郎先生（1953 年卒） |
| 1971/6/17 | 定期理事会：堀豊彦理事長、他理事が出席<br>◎会館再建の件：会館の再建築をなすことを決定。このため、「再建準備委員会」を設置し、この件を諮問し、成案を得た段階で、臨時総会を招集して最終決定するとの申し合わせを決議した。榊主事より「再建に関する他大学の動向」について報告<br>◎1970 年度事業報告の件：<br>◆第 1 回木曜聖研（4/22）西村秀夫氏　「東大闘争と信仰」<br>◆ペンテコステ 5/29～30）根津教会中村牧師<br>◎入舎基準の件：来年 3 月の卒業生が 10 名を超え、一時的に舎生が減 |

| | |
|---|---|
| | 少するので、大学院生の継続在舎を認めたいと提案あり |
| 1971/7/8 | 第 1 回再建準備委員会を開催。堀理事長より経過説明のうえ、理事会の諮問を受け、17 名の委員にて発足。委員長に植田武彦氏、副委員長に山崎幸一郎氏を選出<br>岩井要氏の概算を考慮して検討した結果、考えうる案として A 案：転地による地価落差利用案、B 案：用地の一部売却残部使用案、C 案：用地の全部使用・他施設（住宅公団等）との同居案、の三案を検討することとなり、そのための必要事項調査を進めることを決定 |
| 1971/7/10 | 会報 63 号発行　再建特集号<br>＊堀豊彦理事長「会館再建について」<br>＊榊裕之氏「寮再建に関する動向」<br>＊OB 寄稿：馬場進氏「思うこと」、楠田洋氏「OB の一人ひとりを結集して」、西川哲治氏「再建計画に際して」、二神康郎氏「舎のこと」<br>＊舎生寄稿 2 篇<br>＊第 1 回再建準備委員会報告<br>＊事業部報告<br>◆総務部：総務部方針「事業懇談会に向けて」、再建問題への取り組み。6/25～27 夏期合宿（東大下賀茂寮にて）<br>◆聖研部：木曜聖研は、4/22 西村秀夫先生を招き「大学問題と信仰」、6/24 佐古純一郎先生を招き「美的実存と宗教的実存」を学ぶ。<br>5/30 ペンテコステ祈禱会（中村 根津教会牧師） |
| 1971/8/19 | 第 2 回再建準備委員会を開催。具体的な検討の結果、A（移転案）については、土地売却先としては地形等から一般不動産には不利で、文京区への売却案が有望、B（一部売却案）については、有効な分割の可能性からみて困難、C（他施設との同居案）については、日照権問題の解決等が当方に委ねられるため、住宅公団等との同居はほぼ絶望的、となった。今後、土地売却の可能性や文京区内での代替地の可能性を追求することとした。 |
| 1971/9/20 | 第 3 回再建準備委員会を開催（9/20）、第 4 回（11/26）において、野村不動産（白山町の代替地を紹介）、大成建設（土地の売却と代替地の買収）、高層スティールハウス工業（土地買収）、東海興業（青年会の土地と隣接地にマンションを建設する案）と順次打ち合わせを行った。 |
| 1971/12/25 | 会報 64 号発行<br>＊吉岡直人兄「新しい生命への躍動―再建準備委員会からの報告」<br>＊清水正之兄「遠藤周作『沈黙』とその映像を巡って」<br>＊事業部報告<br>◆総務部：11/17 東京都教育委員会の調査（舎の現況、寄付行為、登 |

| | |
|---|---|
| | 記、財務、理事会・監事等の調査で、前回は数十年前)、再建問題への対応<br>◆聖研部：今年は神学的に偏ることなく周辺領域との関わり方・聖書の読み方を探ろう、という方針<br>◆文共部：スポーツ大会や卒業生を囲む会を実施したが、今少し盛り上がりに欠ける。 |
| **1972 年（昭和 47 年）** | |
| 1972/1/17 | 定例理事会<br>◎再建につき、理事会としては最終的交渉権限を再建準備委員会に委嘱するとの提案を可決 |
| 1972/1/27 | 1972 年度総会<br>◎「独立の建物を建て白山に移る」方針で、高層スティール工業との交渉を再建準備委に委ねること、最終決定は臨時総会で行うことを確認 |
| 1972/2/14 | 第 5 回再建準備委員会を開催（2/14)、第 6 回再建準備委員会（3/7)、第 7 回再建準備委員会（3/21）において、高層スティール工業、東海興業と交渉。また「小さくても土地付きを」との意見あることも踏まえ、同居案、移転案を検討することとした。第 6 回委員会出席者は、植田、山崎、高見、高山、岩井、石原、楠田、馬場の先輩委員と、榊、月本、岩見、藤本、若原、市川、田中潔、尾山、篠原、清水久、吉岡の各兄なお、2/3 に「舎内準備委員会」を発足し、舎生の取り組みを活発化した。2/29 舎内再建準備討論会（石川、岩見、月本、尾山、若原、鐸木、高本、中村、田中令、藤本、市川、篠原、吉岡、森田、広井、山形、田中潔、小堀の各兄が出席)、3/3 舎内再建準備委員会を開催 |
| 1972/3/31 | 第 8 回再建準備委員会を開催。東海興業の提案と高層スティール工業の提案を比較検討し、僅差ながら、東海興業案が有利と判断し、理事会に「東海興業と契約する案」を答申することに決定 |
| 1972/4/8 | 定期理事会：堀理事長、他理事が出席<br>◎会館再建の件：再建準備委員会から 2 年間の経過報告のうえ、最終答申を提出。準備委を解消し、新たに「再建委員会」を発足させ（委員長は堀理事長)、再建事業を開始することを決議 |
| 1972/4 月 | 復活祭記念祝礼拝　説教：山本将信 西片町教会牧師 |
| 1972/5 月 | 創立記念式典　記念講演は堀豊彦理事長、片山哲元首相出席 |
| 1972/9/15 | 会報 65 号発行<br>＊森原元夫氏（1927 年法)「東大 YMCA の思い出」<br>＊田中潔兄「妙高高原での夏期修養会」(7/27～29)。テキストはルター「キリスト者の自由」 |

| | |
|---|---|
| | ＊総務部： 再建計画では、一時期 72 年 3 月と目されていた旧舎取り壊しの予定が、夏休み頃に遅れ、さらに 1 月以降などと徐々に遅れたため、年間計画や予算が立たず、舎生の活動は停滞せざるを得なかった。加えて、再建関係の雑務のため相当多忙であったことなどにより、新舎生の入舎も少なく、舎生数は年度初めより半減してしまったとの嘆きあり<br>◆聖研部：5/21 にペンテコステ祈禱会　説教：山本牧師（西片町教会）　※各部とも再建間近で舎生が減少し、活動は低調に推移。木曜聖研は 72 年度中開催できなかった。 |
| 1972/9 月 | 定例理事会、臨時総会：<br>◎会館再建の件：「青年会会館・寄宿舎の再建についての基本方針」を承認、再建委員会の設置及び総務、財務、建築、募金契約の各小委員会の設置を承認<br>◎事業計画の件：5/13 創立記念式典及び夕食会を開催予定 |
| 1972/10/7 | 再建委員会　堀、高見、山崎、石原次郎、岩井、榊、植田、小堀、楠田、月本、浦西、藤本、篠原、吉岡、田中潔、市川の各氏が出席<br>◎契約の件：10/7 東海興業と合意（東海興業の大幅な譲歩あり）<br>◎募金委員報告（吉岡氏）、設計経過報告（岩井氏） |
| 1972/11/11 | 後期理事会：<br>◎運営委員会を置く件<br>◎東海興業から提供される 3,000 万円の使途の件<br>◎青年会憲法の改正⇒寄付行為の改正の件<br>◎会費及び部屋代改正の件、留学生受け入れの件など |
| 1972/12/9 | 理事会<br>◎東海興業との契約内容の報告を承認<br>◎契約に伴う本会の基本財産処分の件<br>◆本会の基本財産である青年会館と寄宿舎を取り壊し、又基本財産である同敷地（285.6 坪：評価額 44.663 千円）を東海興業㈱に提供する。この土地の代償として、①同社が隣接地を含めた地上に建築する 14 階建てマンションの 1～4 階の一部（延べ 455 坪及び共有土地 260.41 ㎡：持ち分比 13,4%）を会館・寄宿舎として、②金 3,500 万円を、③建物の内 1 戸分（23,878 坪）を東海興業から提供を受けること、以上を可決した。<br>◎寄宿舎・会館の設計の件<br>◆寄宿舎・会館の設計について、設計者：岩井要氏から説明を受けるとともに、東海興業との詳細な折衝は岩井氏に一任することを承認した。 |
| 1972/12/9 | クリスマス祝礼拝　説教：池明観 徳成大学教授、講話：堀豊彦理事長 |

| | |
|---|---|
| | 「明日の青年会に向けて」<br>祝会にて、山崎幸一郎氏が再建委員会から報告 |
| **1973 年（昭和 48 年）** | |
| 1973/1/15 | 1972 年度後期理事会 ※6 月開催の理事会が延期されて 1 月に開催となった<br>◎事業部活動報告<br>◆6 月　夏期修養会　ルター著「キリスト者の自由」をテキストに読書会、東大池之平寮にて<br>◆舎生選考会<br>◆11～12 月　週 1 回計 5 回のロマ書講話：山本将信 西片町教会牧師<br>◆73/1/15 同志会との合同礼拝・卓球大会　同志会から 6 名参加<br>◎高山先生の退職金の件、◎再建中の仮事務所設置の件<br>◎舎生の新理事紹介：市川祐三（総務）、浦西友義（聖研）、田中令穂（連絡）、片山啓（文共）中田晴雄（財務）、田中潔（監事） |
| 1973/1/23 | 募金委員会<br>◎年代別のほか、地域別募金も必要（関西地区は柴谷先輩がまとめる）<br>◎事務の専従者を置くべきか？　募金期間の延長、募金名簿の作成など |
| 1973/1/28 | 定例理事会：堀理事長、高見理事ほか学生理事が出席<br>◎72 年度事業報告、◎72 年度決算<br>◎学生理事の交替　総務：田中潔⇒市川、聖研：鐸木道剛⇒浦西、連絡：広井⇒田中令穂、文共：山下逸喜⇒片山、財務：森田⇒中田晴雄、監事：田中潔<br>◎仮事務所の件（神田 YMCA などの間借りか、敷地内仮設事務所か？）<br>◎事業部予算の件：<br>・仮集会室（木曜聖研）⇒アパート、堀先生の教会、堀先生宅の 2 階などを検討、<br>・夏季修養会⇒堀先生の小諸別荘などを検討<br>・再建中の舎生会員への援助<br>・特別寄付金（東海興業から 3,000 万円）の受け取りと取扱い（運営委員会による運用など）<br>◎理事選任の件：高井理事の辞意は慰留、理事長は再建が緒に就いた段階で辞任の意向、若い理事と監事は留任し、二神、野崎、徳久氏等を核メンバーに予定する。<br>◎名称は、「東京帝国大学学生基督教青年会」から「東京大学学生基督教青年会」に変更する。（理事会決議）<br>◎年次別 OB 会　1/20 拡大三八会：幹事は高沢金吾氏（1964 年工卒） |

| | |
|---|---|
| | 「若竹」にて |
| 1973/1/31 | 青年会総会：先輩出席 7 名<br>◎1972 年度活動報告<br>◎1972 年度決算：年会費 1,000 円で 163 名が納入（募金活動により住所確認が取れた会員は約 600 名）<br>◎再建準備の件<br>◆募金委員会：応募者 155 名で総額約 750 万円<br>◆建築委員会：契約書を作成中、都からの許可を取得次第、取り壊しに着手、周辺住民との調整も必要。仮事務所は東京 YMCA と折衝中。高山主事、木村庸五理事の辞任を承認（暫定的に月本主事が事務処理を引き継ぐ。同盟に対し東大 YMCA への 350 万円の援助を要請。二神、野崎氏などにより運営員会を構成 |
| 1973/3/12 | 特別理事会：舎の引っ越し事務所の移転等について懇談 |
| 1973/3/24 | 「懐旧舎記念会」　開催　※百年史では 3/27 と記載<br>舎生、先輩、家族など計 100 余名が参加<br>プログラム：住谷悦治氏「吉野作造先生と東大 YMCA」<br>礼拝、乾杯：片山哲氏　先輩スピーチ（原田健、堀豊彦、岩井要、吉川需、星島二郎の各氏ほか）、山本安英さんの朗読、音楽、食事（スキヤキ、呑気のおでん、南米のコーヒー・サンドイッチ） |
| 1973/3/28 | 旧舎引っ越し、閉鎖準備、解体工事<br>▷新舎で使う備品、書籍、レコード等をまとめて、仮設倉庫に保管<br>▷舎生の緊急連絡網の整備、毎月 1 回の短信の発出（吉岡兄）、▷舎生集会は月 1 回<br>▷5/6 ピアノ、オルガン等の搬出。二舎取り壊し開始<br>▷5/25 寄宿舎本体の取り壊し開始。（5/23 旧舎最後の住人・高幣兄が退舎） |
| 1973/4/12 | はがき通信第 1 号　発行：<br>▷高山主事が 73 年 1 月末に辞職　▷会館建築中の仮事務所は「日本キリスト教会館」（新宿区戸塚 1-551）　▷東海興業から「建築確認申請」が認可された旨報告、まもなく取り壊しに着手　▷3 月末に舎生は寄宿舎を出て、分散下宿　▷月本・岩見両学生理事は 3 月末に辞任し、後任に吉岡兄、篠原兄が就任 |
| 1973/5/12 | 創立記念式典　本郷ルーテル教会にて礼拝。講演：西川哲治先生、東大山上会議所にて式典。先輩・舎生計 30 名出席 |
| 1973/7/27 | 東海興業との間で新舎建築工事契約締結（於：東海興業東京支店）<br>堀理事長、高見理事、山崎幸一郎、植田武彦、石原次郎、榊裕之の各先輩、舎生は月本主事、篠原、吉岡、市川兄が陪席 |

| | |
|---|---|
| 1973/7/28 | はがき通信第 2 号　発行<br>▷会館は撤去工事後、現在基礎工事中。　▷東海興業と契約調印、▷募金額が伸びず、▷事務主任として三井豊秋氏（慶応大出身）を迎えたことなど<br>※その後、はがき通信は、理事長、専務理事、事務局から会員への情報伝達手段として、年に数回の発行が続けられ、最後のはがき通信は 2001 年 9 月 27 日の第 78 号とみられる。なお、はがき通信から引用した事項は末尾に㈜と記載 |
| 1973/9/20 | 理事会及び再建委員会：日本キリスト教会館にて開催<br>◎再建関係<br>◆新舎建設工事契約の報告<br>◆特別寄付金（3,500 万円）の運用<br>◆募金活動について、舎生が先輩宅を訪問するなど活動を強化<br>◎舎生援助金（活動補助金）の給付を決定（資金運用により 150 万円を目途）<br>◎事業報告：<br>◆4/12 舎生集会、決定事項は以下のとおり<br>▷第 1 回木曜聖研は 4/25、堀理事長宅にて<br>▷第 1 木曜は事業委員会（理事集会)、第 2 木曜は事業懇談会（全舎生集会及び退舎生夕祷)、いずれも西片町教会集会室にて<br>▷仮事務所に、堀理事長、高見理事のほか吉岡、篠原の両学生主事、その他舎生が当番制の交替で詰めることとした。<br>◆6/7 舎生理事集会、6/13 定例舎生集会、6/22 木曜聖研（講演：西村俊昭氏、エゼキエル書）予定、場所はいずれも西片町教会集会室にて<br>◆7/18～7/21　舎生修養会、長野県サントピア学者村（堀理事長の別荘）にて開催（片山啓兄） |
| 1973/10/4 | 定例理事会　西片町教会集会室にて開催<br>◎事業部報告<br>◎舎生活動補助金の運用の件：青年会から舎生に対し年額 140 万円を給付 |
| 1973/10/4 | 舎外における舎生活動開始<br>▷10/5 総務発行の葉書通信　創刊　※「集会のお知らせ」など<br>▷10/4 舎生理事集会、10/11 舎生全体集会　西片町教会集会室にて開催。各理事の活動報告、舎生による募金活動の提案、活動援助金の使途を決定。各舎生には 5,000 円を支給、ただし連絡がない舎生には支給しない。会計の管理は片山兄。また、舎生の集会用の部屋を別途確保することとした。 |

| | |
|---|---|
| | ▷11/18 活動援助金（各自 5,000 円）を支給。対象は 18 名<br>▷舎生の活動拠点として、亀井兄が近くのマンションの 1 室を借り、2 部屋のうち 1 部屋を YM 舎生の共用スペースとすることを決定（費用は活動援助金から応分の負担をする）<br>▷7/11「若手会」　寿司屋「若竹」にて開催 |
| 1973/12/15 | クリスマス祝礼拝：<br>日本福音本郷ルーテル教会にて礼拝、説教：岡田 本郷ルーテル教会牧師の「時は流れて」<br>その後、赤門横の学士会館別館にて記念祝会 |
| **1974 年（昭和 49 年）** | |
| 1974/1/24 | 理事会：日本キリスト教会館にて開催<br>◎運営委員会設置の件：再建後の会館等の運営のあり方を検討するために、運営委員会を発足させる。そのために 4 月中旬に運営委員会準備会を設置して、その準備に当たらせる。<br>◎舎生の活動（1973/10 月～1 月）<br>10/21 東大 YMCA 秋の登山　目的地：奥多摩・鷹ノ巣山（日帰り）、担当：市川兄<br>11/1 舎生理事集会、11/8 舎生集会、いずれも西片町教会集会室にて<br>◎舎生への活動補助金　支給対象者は、月本、山下、市川、浦西、亀井、篠原、清水（久）、鐸木、高幣、田中（キ）、田中（令）、藤本、吉岡、片山、柳元、谷本、中田の各兄<br>▷1/17 舎生理事会及び舎生集会：理事候補者を決定　聖研：片山、文共：柳元、財務：田中令、連絡：谷本、総務：中田、監事：田中潔<br>◎年次別 OB 会 10/7 会館再建若手会　幹事：飯高茂氏（1965 年卒）・筒井正明（1966 年卒）氏　「若竹」にて |
| 1974/1/31 | 本会総会：日本キリスト教会館にて開催<br>◎堀理事長から総括報告<br>◎1973 年度決算・1974 年度予算<br>◎理事改選の件：任期満了の理事全員を改選、吉利和氏は退任、岩井氏が就任。学生理事は、片山（総務）、柳元（文共）、田中令（財務）、谷本（連絡）、中田（総務）、田中（監事） |
| 1974/3/11 | 運営委員会（準備会）：同盟会議室にて<br>◎議長選出：石原氏と馬場氏の連立議長制<br>◎募金、新舎生の募集、OB と舎生の結び付け・組織化、外国人留学生の件など |
| 1974/4/9 | 運営委員会：同盟会議室にて |

| | |
|---|---|
| | ◎舎生の募金のための先輩訪問開始、募金活動の資料と堀理事長の名刺（紹介状）をもらうこと |
| 1974/5/11 | 創立記念式典　礼拝説教：徳永五郎牧師、本郷ルーテル教会にて<br>祝会：学士会館本郷赤門分館にて |
| 1974/5/21 | 運営委員会：議長は石原次郎氏、YMCA 同盟会議室にて<br>構成は OB：徳久、石原、馬場の 3 氏、理事：岩井要、高井の 2 氏、舎生：吉岡、片山の 2 兄<br>常任の委員の他、オープンシステムとして会員の自由な参加を求める。<br>委員会は毎月第 3 火曜日に開催 |
| 1974/6/19 | 運営委員会：YMCA 同盟会議室にて。　※会議室の関係で翌日に変更開催<br>◎専務理事の給与と仕事、◎備品調達の決定手続き |
| 1974/7/9 | 運営委員会主催第 1 回懇談会　講話：西川哲治 東大・高エネルギー物理学研究所教授（1949 年理、本会理事、元豊島岡教会副牧師）「信仰と科学」、講話後、夕食懇談会。日本基督教会館にて |
| 1974/9/17 | 運営委員会：YMCA 同盟会議室にて<br>◎新しい事務員募集の件<br>◎事務監督及び企画立案のために専務理事を置く件<br>◆舎生の活動（2 月～9 月）<br>▷2/7 舎生集会、3/7 舎生理事会及び舎生集会、7 日に募金未申込者の確認し、14 日舎生集会にて訪問の分担を決める予定、4/11 舎生理事会及び舎生集会いずれも向ヶ丘マンション舎生集会室にて<br>▷5/9 舎生集会は週 2 回（第 2・3 木曜）開催を決定、その後 5/23、6/13、6/27 に開催。<br>▷9/19 舎生集会：事務主任の三井氏が病気入院中のため、高見先生と堀理事長及び舎生が交代で事務室に詰めることとした。いずれも向ヶ丘マンションにて<br>◆7/15 夏期修養会（～16 日）：千葉県御宿町　民宿石井荘、清水、篠原、亀井、柳元の 4 名参加 |
| 1974/9/26 | 新会館上棟式、堀理事長以下 10 名余が出席、現場視察。石油ショックによる建設資材の不足等により、大型建築工事は困難に直面しているが、3 月の竣工を目指している。日立製作所の駒井先輩が各方面に尽力㈥5 号 |
| 1974/10/15 | 運営委員会：YMCA 同盟会議室にて<br>◎岩井氏と柳元兄から、新しい家具調度の調達について説明あり<br>◎事務員採用の件 |
| 1974/10/22 | 定例理事会 |

| | |
|---|---|
| | ◎家具調度購入の件：家具調度の購入費は 1,300 万円までとする。購入は岩井氏に陪審 2 名をつけて一任する。 |
| 1974/11/19 | 運営委員会：YMCA 同盟会議室にて<br>◎東海興業より、来年 2 月末には新会館・寄宿舎に入居可能の見込みとの報告あり。これを受けて、新館への入居希望を確認する予定 |
| 1974/12/14 | クリスマス祝礼拝　説教：高見穎治理事、日本福音本郷ルーテル教会にて<br>祝夕餐会は、東大山上会議所にて |
| 1974/12/17 | 運営委員会：YMCA 同盟会議室にて<br>◎徳久氏より会計の中間報告<br>◎落成式後の人事・組織<br>㈥5 号（11/29）にて堀理事長談：「2 月末の会館完成見込みを受けて、本会として新しい出発であるから詮衡を厳正にし、キリスト者たることを重要条件とすること、外国人留学生の入舎は考慮を要し未決定」 |
| **1975 年（昭和 50 年）** | |
| 1975/1/13 | 募金・運営合同委員会：鐸木、徳久、山崎、楠田、馬場、石原など各氏が出席<br>◆募金申込額が目標額 3,000 万円に対して未達のため、再募金を決定<br>◆募金方法について、①事務局から「募金趣意書」を出す、②各年代で募金実行委員を決めて、活動する。募金実行委員を選任し、1 月末に招集する。 |
| 1975/1/24 | 理事会：YMCA 同盟会議室にて、出席：堀、高見、亀井、中田、片山、柳元<br>◎理事会のもとに、以下の小委員会（担当理事）を設置する。①財政・運営小委員会：経常収支と新財政システム（石原、馬場）、②組織・機構小委員会：役員・職員制度の改正（岩井、徳久）、③学生小委員会：入舎詮衡規準と寄宿舎生活の規約・学生の仕事等（高見、高井）<br>◆舎生の活動（74 年 10 月～75 年 3 月）<br>舎生集会：1974/10/11、11/14、12/12、1975/1/16（出席：月本、清水、篠原、柳元）<br>3/14 臨時舎生集会、その後、若竹にて追い出しコンパ。集会はいずれも向ヶ丘マンション 204 号にて |
| 1975/1/27 | 募金委員会　出席：亀井、木村、馬場、石原、鐸木、高見、植田、永松、徳久、岩井、高井の各氏 |
| 1975/1/30 | 青年会総会：日本キリスト会館にて　※これに先立ち 1/24 理事会、1/27 募金委員会を開催 |

| | |
|---|---|
| | ◎過去 1 年間の歩みの報告、募金目標 3,000 万円に対し約 600 万円未達の件<br>◎完成後の青年会の運営 |
| 1975/3/15 | 東大 YMCA 新会館・寄宿舎が完成。引き渡し後、3/17 から下宿等に分宿中の旧舎生 7 名が入居開始（3 月末卒業予定の短期滞在者を含む） |
| 1975/4/7 | 本会事務所を日本 YMCA 同盟の仮事務所から移転 |
| 1975/4/26 | 新会館竣工記念式（司式：佐伯俠牧師）。堀理事長挨拶、岩井要理事の建築経過報告、日本 YMCA 同盟大和久総主事の祝辞。その後、祝賀会、参会者 120 名 |
| 1975/5/12 | 理事会（再建後第 1 回）<br>◎理事定員を 15 名とする。<br>◎馬場氏への報酬は暫定的に 10 万円とする。<br>◎事務員の加藤さんの報酬は 10 万円とする。勤務は(月)～(土)で(土)は午前中のみ<br>◎今後の収支見通し、事業部より決算・予算報告、今後の事業部の活動体制など |
| 1975/5/21 | ◆合同祈祷会開始（毎月第三水曜日）。第 1 回は 5/21、司会：馬場理事、成瀬、篠原理事、根岸、牛島、山浦、原田（郁）、木村（庸）各 OB が出席。年度内に 10 回開催<br>◆夕食座談会開始（毎月第二金曜日）、当初エントツ（すき焼き）としたが、その後普通の食事に変更、食事代 1，500 円。年度内に 5 回開催、高井康雄、岩島哲夫、清水護氏らが席話 |
| 1975/10/22 | 青年会総会：<br>◎予算・決算の件、会館再建の件：状況報告<br>◎寄付行為改正の件：「名称の‘帝国’を削除」、「理事数を変更（先輩 5 名→10 名、学生 5 名とする）、「住所変更」、「事業年度の変更（4 月～3 月→11-10 月）<br>◎理事改選の件：先輩理事は堀、高見、高井、西川、岩井、馬場専務理事に加え、増員により駿河、成瀬、野崎、徳久の 4 名が被選。※堀理事長が辞任 |
| 1975/7/18 | 理事会：<br>◎再建・青年会の収支報告、基本財産の確定<br>◎大塚氏を中心とした学 Y の集まりの件<br>◎理事定員、理事改選の件：先輩理事は 10 名、学生理事は 5 名とし、9/6 青年会総会に向けて馬場氏を中心に候補者の検討を進める。<br>◆その他　馬場氏報告：賄いの調理師解雇の件<br>◆舎生の活動（4 月～9 月） |

| | |
|---|---|
| | ▷4/2 舎生集会、4/11 舎内総会、4/20 舎生選考会あり（4 名入舎）、6/18 舎内総会、7/9 舎内総会、7/16 入舎選考会<br>◆合同祈祷会：6/18：感話　牛島信義氏<br>◆年次別 OB 会：6/4 エントツ会（13 名出席）、6/10 朴羅会（13 名出席）<br>◎その他：清水事務員が退職、後任は加藤せつ氏 |
| 1975/9/6 | 青年会総会　※再建後初の総会<br>◎75 年度予算・74 年度決算の件、会館再建の件：状況報告<br>◎寄付行為改正の件：「名称の‘帝国’を削除」、「理事数を変更（先輩 5 名→10 名、学生 5 名とする）、「住所変更」、「事業年度の変更（4 月～3 月→11～10 月）<br>◎理事改選の件：先輩理事は高見、高井、岩井、馬場、駿河、成瀬、野崎、徳久、学生理事は、清水、篠原、片山、柳元、中田を選任した。<br>※堀理事長が辞任 |
| 1975/10/25 | 公開講演会　講師：宮本武之助氏　「現代神学の動向」 |
| 1975/11/29 | 大塚久雄氏を囲む会：「近代合理主義批判とは」 |
| 1975/12/13 | クリスマス祝礼拝・祝賀会　説教：神保勝世氏「キリストへの思い」。60 名参加<br>高見新理事長の挨拶、堀豊彦前理事長に記念品贈呈<br>※11 月に新舎生 5 名が入会し、現在 16 名となり、昔日の舎の賑わいが戻った感あり、と亀井学生主事が報告　㈥8 号 |
| 1975/12/29 | 高見穎治理事長急逝 |
| **1976 年（昭和 51 年）** | |
| 1976/1/16 | 第 5 回月例座談会　講師高井康雄　本会理事「アフリカ・ガーナでの研究報告」、講演後、お好み焼きの会を開催 |
| 1976/1/31 | 理事会：高見穎治理事長急逝（12/29）を受けて開催、馬場進専務理事の他、野崎、岩井、徳久、成瀬、高井、駿河の各先輩理事が出席。学生は、片山（総務）、合田、篠原（企画）、半田（財務）、清水（聖研）、西、柳元（文共）沢、中塚、芦田の各兄が出席、<br>議長は高井理事<br>◎75 年度事業報告<br>◆聖研部：聖書研究会は近隣教会の牧師及び木田献一先生を招き 4 回開催<br>◆修養会：7 /14～16　伊豆大島・山海荘にて 10 名全員が参加。討論テーマ「東大 YMCA の活動と生活」、読書会「イエスとその時代」（荒井献著） |

| | |
|---|---|
| | ◆10/15 事業懇談会、舎内総会、10/22 にも舎内総会：留学生の入舎問題など<br>◎1975～76 年度事業計画<br>◆高見理事長の記念会を 3/12 に開催<br>◆新理事長に高井氏、成瀬氏を推す声、多数あり。⇒3 月理事会にて決定する。西川哲治氏の理事就任を了承<br>◆堀理事長感謝募金の件（総額 114 千円） |
| 1976/3/27 | 定期青年会総会：（予算総会）駿河理事が議長となり、以下の事項を審議<br>◎現況　会員数：1032 人、舎生数：20 名<br>◎76 年度事業計画及び予算の件<br>◎理事改選及び理事長推挙の件： 堀豊彦、高井康雄、岩井要、中田晴雄、柳元章、片山啓以上 6 名は任期満了、高見頴治は逝去、清水正之、篠原正雄の 2 名は辞任。寄付行為第 10 条 11 項による定員 10 名乃至 15 名の処、満場一致を以て、高井康雄（重任）、岩井要（重任）、柴谷貞雄（就任）、石川憲彦（就任）、学生理事は合田隆史、西正典、中塚隆、宮内啓行の 4 名（就任）を選出した。退任及び就任の期日は 1976 年 3 月 31 日<br>新理事会は、任期中の馬場、駿河、成瀬、徳久、野崎、半田の各理事を加えて、14 名で構成。総会後の理事会にて、新理事長に高井康雄氏（47 年農・東大農学部教授）の就任が決定、同氏は、国際土壌学会副会長で、西片町教会会員<br>◎年会費の改定（1,000 円→2,000 円）の件など<br>◎その他<br>◆堀豊彦元理事長からオルガン購入費、高見頴治前理事長から OB 談話室の書棚・書籍等寄付あり<br>◆合同祈祷会：成瀬理事「希望について」 |
| 1976/5/8 | 創立記念式典　説教：松尾喜代司 日本キリスト教団荻窪北教会牧師（1922 法卒）「限界生活における信仰」、奏楽は堀理事長寄贈のオルガンにより成瀬理事が演奏 |
| 1976/5/8 | 青年会総会　※創立記念礼拝の後<br>出席者：高井康雄、堀豊彦、松尾喜代司、馬場進、岩井要、成瀬治、石原次郎、片平洌彦、石川憲彦、森原元夫、小林辰美、山口栄一、柿谷均、片山啓、三井和彦、西正典、岩崎英二、中塚隆、田浦宏己、倉光泰隆、植田武彦、鈴木宜之、半田武比古の各氏。（理事以外を含む）<br>◎故高見前理事長の後任の高井理事長あいさつ<br>◎現況：舎生数は 24 室中 22 名収容。昨年度は舎生数が少なかったた |

| | |
|---|---|
| | め、事業部活動は低調<br>◎75 年度決算及び事業報告<br>◎月例合同祈祷会：<br>5/19（感話：清水正之）、6/16（桜岡忠雄）、7/21（馬場進）、9/15（高井康雄）、10/20（西正典）、11/17（垣内史堂）、1/19（岩崎英二）、2/16（徳久俊彦）、3/16（岩井要） |
| 1976/5/10 | 会報 65-2 号発行<br>**※65 号は実は 1972/9/15 に発行されており、新会館が完成後、前号から約 4 年を経て発行されたため、同じ 65 号としてしまった模様。従って本号を便宜的に 65-2 号と称する。**<br>＊馬場進専務理事「再建 2 年目を迎えて」　※会館新築の経緯を報告<br>＊岩井要氏「新会館の建築に寄せて」　※建築家・設計者の立場で報告<br>＊中島伸一氏「再建された寄宿舎を訪問して」<br>＊各部報告<br>◆総務部：在舎生はほぼ 20 名に達した。課題は「東大学生キリスト教青年会」という名称の内実化、学生の自立的活動<br>◆聖研部：木田献一先生（青山学院・旧約聖書学）を招き、旧約を学ぶ。舎内においては信仰の問題を議論しあう場の創設が課題。＃合同祈禱会は 1975 年度に 10 回開催<br>◆文共部：第 1 に書籍の整理、特に図書カードの作成に取り組み中、第 2 に以前の夕祷ノート、食堂ノート、庶務日誌の製本・保存、第 3 に舎生の文集作成<br>◆企画部：講演会、座談会等の実施。1/16 高井理事の講演「ガーナの国際会議報告」、2/13 岩島久夫氏「防衛問題」など |
| 1976/5/14 | 「東大 YMCA 文集」創刊号発行　発行者：東大 YMCA 文共部<br>三井和彦、清水正之、灰本周三、高麗犬某、半田武比古、柿谷均、林靖邦、山口栄一、片山啓、ケロッペ・フォン・シノハラ、宮内啓行、岩崎英二、小林辰美、中塚隆、倉光泰隆、G&G,I　各位 |
| 1976/5/15 | 理事会<br>◎6-10 月行事予定<br>◎貸事務室問題の件（かねて賃貸を折衝中の学会センターより適正価格にて買取りたい旨の意向が出されたため、その対応を協議する）<br>◎東大 YMCA の運営組織の件<br>総会、理事長・理事会、専務理事・財務担当理事・事業担当理事、監事、各事業部、各寄宿舎委員など<br>◎寄宿舎運営の件（舎生総会、寄宿舎委員の分担業務、寄宿舎会計、東大 YMCA に相応しい舎風の確立、会館施設利用規定作成委員会の件な |

| | |
|---|---|
| | ど |
| 1976/6/5 | 公開講演会：奈良常五郎氏による「海外医療事業について」 |
| 1976/9/25 | 理事会：高井康雄理事長、馬場進、柴谷貞雄、駿河敬次郎、徳久俊彦、岩井要理事、宮原守男監事、他学生理事出席。欠席は成瀬治、野崎昭弘理事<br>◆合同祈祷会、夕食座談会計 6 回<br>◆公開講演会予定（11/6 松田智雄氏、11/20 加藤常昭氏）<br>◆クリスマス祝礼拝予定（12/11 説教は堀理事長に依頼）<br>◆聖書研究会（木田献一氏「聖書の信仰」）<br>◎会館・寄宿舎の評価と税務の報告・承認：　床面積 1,502.59 ㎡で課税評価額は 106,683,900 円、うち課税床面積は 1 階 OB 室など 271.16 ㎡、非課税床面積は、寄宿舎室・食堂など 1231.43 ㎡、固定資産税は年額 304,957 円。所有マンション部分は、床面積 76,69 ㎡、固定資産税は年額 104,960 円。土地の減免決定額は 29,870 円。<br>◎その他<br>・1 階貸事務室の借主は、（財）学会事務センターで、敷金 300 万円、家賃月額 20 万円、1976/10/1 から契約更新期間 2 か年で賃貸開始<br>・堀元理事長からの特別寄付金 1,173,000 円はルームクーラー設置及びオルガン購入に充当、高見前理事長からの同寄付金 300,000 円は、書棚及び書籍購入に充当<br>・駿河理事による賛育会近況報告 |
| 1976/11/4 | 故 森有正氏葬儀　国際基督教大学教会堂にて、葬儀委員長：清水二郎、司会：佐古純一郎、祈祷：加山久夫、故人略歴：成瀬治、弔辞：清水二郎、中川秀恭、垣花秀武、木下順二、阿部良雄<br>森有正氏は、1976 年 10 月 18 日、パリにて帰天、64 歳 |
| 1976/11/13 | 公開講演会　講師：松田智雄氏　「文化の構造的危機―文化密度の都市集中と地方拡散―」 |
| 1976/11/20 | 公開講演会　講師：加藤常昭氏「社会主義独逸における基督教」 |
| 1976/12/11 | 会報 66 号発行<br>＊高井康雄理事長（1947 年農）「感謝せん、今ぞ年は終れり」<br>＊OB 寄稿：井上隆一氏（1920 年卒）、斎藤勇氏（1911 年卒）「この会、この設備」、石原憲治氏（1919 年卒）「私の信仰生活とその近況」、松沢兼人氏（1921 年卒）「東大 YM の底力」、住谷悦治氏（1922 年卒）「心のふるさと」堀豊彦氏「東大青年会にありて」、森明麿氏（1925 年卒）「二つの尊い足跡を訪ねて」、好川増輔（1927 年卒）「思い出と感謝」、馬場久吉氏（1930 年卒）想い出のひとこまを」、牛島信義氏（1930 年卒）「ナイル河」、平川信弘氏（1935 年卒）「ストーク・ボー |

| | |
|---|---|
| | ジズの教会」、楠田洋氏「OB よ、もう一度集まろう」、成瀬治理事（1950 年卒）「森さんの部屋にいた頃」、谷啓輔（1953 年卒）「東山荘の思い出」、宮越正美氏（1953 年卒）「雑感」、荒木亨氏（1957 年卒）「東大青年会と私」、　飯高茂氏（1967 年卒）「舎で考えること」、その他短信あり |
| 1976/12/11 | クリスマス祝礼拝　説教：堀豊彦 前理事長<br>祝会　挨拶：高井理事長、舎生劇「白いりゅう 黒いりゅう」　小林辰美脚本監督、團紀彦・山口栄一主演 |
| **1977 年（昭和 52 年）** | |
| 1977/2/5 | 理事会：高井理事長、他理事出席<br>◎事業報告：月例集会の曜日変更、合同祈祷会の司会者、理事一部改選（→総会に付議）の件など。その他、継続中の荒井献氏による聖研は 7 月終了予定とのこと。また、地方学 Y 訪問再会については、賛成意見と「東大 Y のあり方の整理が未了の段階で時期尚早」、あるいは、「同盟の夏期ゼミナールへの多数出席が優先との反対意見あり」とのこと |
| 1977/3/26 | 定期総会：<br>◎1976 年度事業報告の件<br>◆会員現勢　はがき通信第 10 号に、現状で、名簿記載：1032 名、通信発送数：620 名、会費納入：254 名、舎生数：20 名。なお「結婚・身の上相談、貸室、集会、宿泊、調査、印刷その他よろず雑務歓迎、受付」（馬場進専務理事）との記載あり　㈥10 号<br>◆合同祈禱会：※以下 3 篇は会報 68 号に記録<br>4/21 高井康雄理事長<br>8/10 成瀬治（1950 年文）　「悔い改めと自由」<br>10/12 赤星進氏　「真の信仰」<br>11/9 清水博氏（1956 年医）　「簡素な生活」<br>◆7/12 夏期修養会を式根島の民宿にて開催。3 泊 4 日、10 名参加<br>◆夕食座談会：4/16 久保田省吾（54 年法・日商岩井㈱食品部長）「将来の食品問題」、5/14 紅山雪夫、6/11 渡辺守道、7/9 高井康雄、9/10 すき焼き懇談、10/8 すき焼き懇談、11/26 牛島信義、12/4 木下順二氏「森有正氏を偲ぶ」、1/14 三宅泰雄氏、2/10 駿河敬次郎氏、3/11 柴沼明氏<br>◎1976 年度会計報告の件、1977 年度予算の件<br>◎理事・監事改選の件：3/31 現在の役員名簿：（理事長）高井康雄、（専務理事）馬場進、（理事）柴谷貞雄、駿河敬次郎、成瀬治、徳久俊彦、岩井要、野崎昭弘、石川憲彦の各氏、（学生理事）岩崎英二、柿谷均、宮内啓行、山口栄一、倉光泰隆の各兄、（監事）宮原守男、片山啓 |

| | |
|---|---|
| | の両氏 |
| 1977/5/7 | 創立 89 周年記念式典　説教：高井理事長、司会：成瀬理事、46 名参加（京都から、住谷悦治、堀、森原、桜岡、石原の各氏、若手会多数を含む）㈥13 号 |
| 1977/5/21 | 公開講演会（五月祭参加）：宮田光雄氏「現代をいかに生きるかー現代のボンヘッファー像を巡って」<br>※会報 67 号に講演録 |
| 1977/6/6 | 駿河敬次郎氏（1944 年医）が、イタリア政府より「偉大なる科学者」としてコメンタドーレ勲章を受賞 |
| 1977/6/25 | 公開講演会：講師：内田芳明 横浜国大教授　「現代を如何に生きるかー内村鑑三と現代」　※会報 68 号に講演録 |
| 1977/7/1 | 会報 67 号発行<br>＊舎生論考「ボンヘッファー『抵抗と信徒』を読んで」舎生 13 名から投稿<br>＊先輩からの寄稿：平川信弘氏（1935 年文）「言語学と私」、　小林進一氏（1939 年経）「信仰の反芻」、　山本富雄氏（1941 年経）「東大 YMCA の追憶」、　宮腰正美（1953 年法）「奄美のこと」、　清水博（1956 年医）「近況の中から」<br>＊先輩訪問：1977/1/18 片山哲氏（堀元理事長と馬場理事）、1/22 斎藤勇（高井理事長と馬場理事）との記載あり |
| 1977/7/2 | 理事会：高井理事長、他理事出席<br>◎下半期事業計画の件（クリスマス祝礼拝、合同祈祷会、公開講演会、聖書研究会、夕食座談会）<br>◎外国人留学生入舎要項の一部改正の件（「プロテスタント教会員たること」に“原則として“を挿入、舎生の面接を省略のうえ専務理事及び理事長が詮衡すること、「保証人を置く」を追加すること） |
| 1977/10/22 | 秋季公開講演会：熊沢義信 東京神学大学教授　「現代を如何に生きるかー神学の視点より」　※会報 68 号に講演録 |
| 1977/12/10 | 公開講演会；今堀和友 東大医学部教授　「再臨問題について」　※会報 69 号に講演録 |
| 1977/12/17 | クリスマス祝礼拝 |
| 1977/12/17 | 東大 YMCA 会報 68 号発行<br>＊寄稿：高井康雄理事長（1947 年農）「全世界に真の光を」、　山浦勘蔵氏（1931 年工）「いちじく談義」、　黒沼栄一氏（1941 年理）「無題」、　駿河敬次郎理事（1944 年医）「賛育会きょうこのごろ」、野崎昭弘（1959 年理）「『就職戦争』の思い出」 |

| 1978 年（昭和 53 年） | |
|---|---|
| 1978/1/14 | 理事会：<br>◎1978 年度事業計画<br>◎寄付行為の形式改正の件（東京都要請の「評議員会設置の適否」）<br>◎役員選出機関は総会か、評議員会か」）<br>◎新年度予算の件 |
| 1978/3/25 | 総会：高井理事長は海外出張のため欠席、議長は駿河理事<br>◎1977 年度事業報告及び 78 年度事業計画の件<br>◆聖書研究会：木田献一先生（青山学院大学）による旧約聖書の講義<br>◆夏季修養会：7/12～14 東京 YMCA 野辺山高原センターにて。岩井、徳久、野崎の各先輩が参加<br>◆講演会：本年度は五月祭講演会を出発点として、「現代を如何に生きるか」というテーマのもとに複数の講演会を実施した。　※講演録は会報 68 号に掲載<br>◆合同祈禱会：<br>6/8 第 24 回合同祈禱会　奨励：中沢宣夫 立教大教授（1953 年文・聖アウグスティヌス研究の権威）㊅<br>6/14 橋本光男氏（1949 年理）　「主にある喜び」　※会報 69 号に報告<br>8/10 第 26 回合同祈禱会　奨励：成瀬治理事（西洋史）「悔い改め」㊅14 号<br>10/12 赤星進 小山日赤病院精神科部長（1943 年医）㊅14 号<br>1/11 大口邦雄氏（1956 年理）「芥種一粒ほどの信仰あらば」※会報 69 号に報告<br>3/8 木村庸五氏（1970 年法）「アジアの証言－韓国への拒絶―」※会報 69 号に報告<br>◆月例夕食座談会<br>9/22 吉川需氏㊅14 号（90 歳）<br>◆先輩訪問：7/5 高井康雄理事長と清水博 薬学部教授が緒方章先輩を訪問。<br>◎1977 年度決算・1978 年度予算の件<br>◎理事改選の件（高井、柴谷、駿河、成瀬、徳久、岩井、野崎、石川憲彦の各理事は任期満了のところ再選、清水博理事は新任、星野利幸、三沢和彦、高谷武良、大江博の各学生理事は新任、理事総数は、任期中の馬場進、山口栄一理事 2 名を加え、計 15 名。理事長は互選により高井理事長が推挙され、引き続き就任、監事は半田武比古氏が就任<br>◎その他 |

| | |
|---|---|
| | ◆図書・資料の整理：精力的に行われた。蔵書はキリスト教関係が約500冊、一般図書が約300冊あり、旧来の3階書庫では収まり切れないので、4階談話室を「図書室」に改装した。 |
| 1978/5/13 | 創立90周年記念礼拝・後懇親会：説教 西川哲治氏<br>※礼拝後77年度決算報告あり |
| 1978/6/17 | 公開講演会：深瀬忠一 北大法学部教授（1953年法）　「新しい時代に向かってー三度パリの屋根の下で考えたこと」　※会報69号に講演録 |
| 1978/7/8 | 定例理事会：<br>◎下半期事業計画<br>◎寄付行為の形式改正の件（継続審議）、◎会費・部屋代の件<br>◎入舎詮衡の件（3月退舎、総務部編集「舎生便覧」の作成、寄宿舎運営方針など） |
| 1978/7/14 | 会報69号（70周年記念号）発行<br>＊90周年特別寄稿：堀豊彦元理事長（1924年法）「所懐」<br>＊寄稿：松沢兼人氏（1921年法）「ある出会い」、　稲生晋呉氏（1934年医）90周年に寄せる」、　合田隆史（1978年法）「三年坂」、その他舎生から5篇<br>＊文共部作成の図表「青年会事業部の変遷」（1929～1972年）を掲載<br>※木下順二先輩から「森有正氏の著作集編纂のため当会にある資料を提供してほしい」旨の依頼があり探したが、同氏の文章があると思われる会報36号若しくは38号に限って発見できなかったので、手元にお持ちの方はお貸し願いたいとの記述あり<br>＃4/4合同祈祷会　講師：市瀬晴夫先生（東京銀行診療所長、1943年医）<br>＃4/23「キリスト者平和の会」（堀豊彦夫妻及び他大学教授、学生などによる原爆被害者慰問、平和アピールなどの活動団体）集会、当会館和室にて、15-6名<br>＃4/28　OB 座談会　講師：吉利和先輩（1938年医、浜松医大学長、1974/1/31理事退任）<br>＃5/15　OB座談会　講師：高井康雄理事長「インドネシア・タイの農業の将来」<br>＃6/5ガーナ大学研究生短期滞在（和室） |
| 1978/9/20 | 片山哲先生記念会を開催（賛育会と合同）<br>先生のご遺族の出席のもと、島村亀鶴 富士見町教会牧師による司式で記念礼拝を行い、その後夕食会を開催。企画部では小冊子「東大YMCAに於ける片山哲氏」を作成<br>※会報70号に報告、合わせて明治41年と43年の同氏の「早祷日誌」 |

| | |
|---|---|
| | を掲載 |
| 1978/11/25 | 秋季公開講演会　講師：住谷一彦氏（1949 年文）:「マックスウェーバーと私」　※会報 71 号に講演録 |
| 1978/12/16 | クリスマス祝礼拝　説教：村上伸 東京女子大教授（4 年間の西独教会での奉仕後帰国)。祝賀会では、吉川需氏と岩下昭比古氏のバッハ「パッサカリヤとフーガ」は当夜の圧巻、高沢金吾兄一家の童話劇あり。㋩18 号 |
| 1978/12/16 | 会報 70 号発行<br>＊馬場進専務理事（1930 年経)「東大青年会の進路　その 2」<br>＊新聖研講師紹介：村上伸 東京女子大教授「今考えていること」<br>＊寄稿：篠原正雄氏（1971 年理)「寄宿舎再建史―私の再建メモより―」<br>＊寄稿：松野新（1919 年工)「私の人生観」<br>＊片山哲先生記念会の報告<br>＊6/15 医学部医学科出身者の会の開催報告<br>＃10/11 合同祈禱会　奨励；野崎昭弘理事（山梨大学工学部教授）<br>＃10/18OB 座談会　講師：石川憲彦氏「小児の心の病から見た現代の人間」 |
| **1979 年（昭和 54 年）** | |
| 1979/1/20 | 理事会<br>◎1979 年度事業計画の件（合同祈祷会、公開講演会、聖書研究会、夕食座談会など）<br>◎1979 年度収支予算の件など<br>◎次期総会の件：理事改選及び予算・決算など<br>◎舎費値上げを検討中：月額 1 万円から 1 万 2 千円（大学院生は割増）に値上げする案などについて議論開始（舎生からの馬場専務理事への質問、11/27 これに対する回答などを経て継続審議） |
| 1979/3/31 | 定期総会：<br>◎78 年度事業報告及び 79 年度事業計画の件、◎78 年度決算・79 年度予算の件<br>◆聖書研究会：昨年に引き続き村上伸 東京女子大教授先生指導のもと、バルトの「キリスト教倫理Ⅲ」を学ぶ。<br>◆月例座談会<br>石川憲彦、野崎昭弘、清水博、馬場進の各理事が卓話　㋩16 号<br>◆その他：木下順二氏著の新刊「龍が見える時」（森有正氏在舎の頃の微笑ましい 1 章あり） |

| | |
|---|---|
| | ◎役員改選の件（馬場理事は任期満了のところ再選、学生理事は任期満了の 4 名に対し選挙の結果、水本和実、岡村善文、岡田謙介、飯島康一が被選就任、監事は宮内啓行が就任。※本報告は 4/15 に会員各位に送付 |
| 1979/5/12 | 創立記念礼拝：奨励は宮本武之助氏「信仰の秩序」、懇親会の卓話は荒木亨 国際基督教大学教授「青年会の歴史が私に残したもの、与えたもの」　※会報 71 号に講演録 |
| 1979/5/26 | 五月祭講演会：新見宏 聖書協会主事による「聖書における人権」　※会報 72 号に講演録 |
| 1979/7/7 | 会報 71 号発行<br>＊巻頭言：高井康雄理事長（1947 年農）「終戦直後の舎生活を振り返って」<br>※本号から「巻頭言」の掲載開始<br>＊馬場進専務理事（1930 年経）「東大青年会の進路　その 3」<br>＊松野四郎氏（1931 年工）「電池とわたくし」、　稲生晋呉（1934 年医）「モンペリエ訪問記」 |
| 1979/7/7 | 定期理事会：高井理事長、他理事出席<br>◎下半期事業計画：<br>◆合同祈祷会<br>◆聖書研究会（バルト基督教倫理講座、村上伸 東京女子大教授、78/10 開講～79/9/19 最終、下半期は東駒形教会の雨宮栄一牧師によるルカ伝の研究）<br>◆公開講演会、座談会、関西 OB 会 9/27 など<br>◆客室利用料金の改定<br>◆その他：学生主事に関すること、舎生募集と詮衡時期・方法について懇談 |
| 1979/11/10 | 公開講演会：杉山好教授「バッハとプロテスタンティズム」（於：東大教養学部図書館内視聴覚教室）　　※会報 73 号に講演録 |
| 1979/12/15 | クリスマス祝礼拝：説教 西川哲治氏「あなたにはゆるしがあるので」 |
| 1979/12/15 | 会報 72 号発行<br>＊座談会：堀豊彦元理事長　「吉野作造先生と私」　※10/24 に開催<br>＊寄稿：馬場進専務理事（1930 年経）「ギデオン国際大会の記」<br>＃6/13 合同祈禱会　奨励：関谷正彦先生（1927 年卒、聖公会司祭）<br>＃6/30　OB 座談会　小島均 東京神学大学元財務理事（1918 年卒）「イスラエルにおける聖蹟訪問」<br>＃6 月～7 月　入舎詮衡の結果を巡って、舎生と馬場専務理事・理事長との間で異例の長期にわたる論争あり（詮衡基準、入舎選考会の制度な |

| | |
|---|---|
| | どが論点） |
| **1980 年（昭和 55 年）** | |
| 1980/1/26 | 定期理事会：高井理事長、他理事出席<br>◎80 年度上半期事業計画：客室利用料金の改定の件など |
| 1980/3/29 | 1980 年度定期総会：<br>◎1979 年度事業報告及び 80 年度事業計画の件、<br>◆聖書研究会は、村上伸先生による「バルトの学び」が終了し、10 月から雨宮栄一 東駒形教会牧師による「ルカ福音書」を学ぶ。<br>◎1979 年度決算及び 80 年度予算の件<br>◎理事・監事改選の件（結果、高井、馬場、柴谷、駿河、成瀬、徳久、岩井、清水、野崎、石川憲彦の各氏、学生理事は岡村善文、岡田謙介、大島誠、水本和実、高谷武良の各兄、監事は宮原守男、岩崎英二の両氏が就任 |
| 1980/5/10 | 創立記念礼拝及び懇談会　説教：雨宮栄一牧師。礼拝後「本会創立百年に向けて」夢と希望を語る懇談茶話会を開催。㈥21 号 |
| 1980/6/7 | 公開講演会：講師 武田清子国際基督教大学教授　「キリスト者と天皇制」　※会報 74 号に講演録 |
| 1980/7/5 | 定期理事会：高井理事長、他理事出席<br>◎1980 年度下半期事業計画：合同祈祷会、聖書研究会（東駒形教会 雨宮栄一牧師に引き続き依頼の方向）、公開講演会、クリスマス祝礼拝、座談会など<br>◎その他：入舎選考の方針案（募集の時期、ポスター、選考委員会の時期など）、「全会一致の決定原則と「キリスト者たらんとするもの」等についての議論など |
| 1980/7/10 | 会報 73 号発行<br>＊巻頭言：高井康雄理事長（1947 年農）「小さいものが最も大きい」<br>＊OB 寄稿：小島均氏（1918 年）「大正時代の青年会の音楽家たち」、大岩鉱氏（1927 年）「ある祈祷会の記録」、鈴木厚氏（1927 年）「その頃の青年会と吉野作造先生」（※関東大震災の翌年入舎で、会館の一部に損傷が見られたものの、寄宿舎は一舎、二舎ともに超満員」との記述あり）、稲生晋呉氏（1934 年）「三度チュビンゲンへ」、黒岩栄一氏（1941 年）「日本基督教団信仰告白（1954 年 10 月制定）はそのままでよいのだろうか」 |
| 1980/9/27 | 関西地区 OB 会：高井理事長、堀豊彦、馬場進、平井好一氏（87 歳）、加藤せつの各氏が出席、参加者 26 名 |
| 1980/11/29 | 秋季公開講演会：杉山好東大教授「バッハ三講」　（11/29「若きバッ |

| | |
|---|---|
| | ハ」、12/6「壮年期のバッハ」、12/20「円熟期のバッハ」の 3 日間にわたる講演会　）　※会報 75 号に講演録 |
| 1980/12/13 | クリスマス祝礼拝　礼拝説教：雨宮栄一 東駒形教会牧師　「博士たちの贈物」<br>舎生劇「きりしとほろ上人伝」（原作：芥川龍之介）　65 名参加 |
| 1980/12/13 | 会報 74 号発行<br>＊特別寄稿：堀豊彦元理事長「守成は創業より難しい」<br>＊舎生寄稿 11 篇<br>＊OB 寄稿：松野四郎氏（1931 年）「私の近況（世間の動き）」、　石倉一郎氏（1934 年）「今中次麿先生を偲ぶ」、　平川信弘氏（1935 年）「バッハを聴く会」、　大木善和氏（1961 年）「中国とキリスト教―後藤基己を偲んで」<br>＊舎生寄稿 9 篇 |
| **1981 年（昭和 56 年）** | |
| 1981/2/7 | 定期理事会：高井理事長、他理事出席<br>◎1981 年度上半期事業計画：合同祈祷会、聖書研究会（雨宮栄一牧師は 3 月末に終了予定、沢正彦牧師に依頼）、公開講演会、クリスマス祝礼拝、座談会など<br>◎寄宿舎の定員を 25 名とする件<br>◎寄宿舎に関する法規の確認の件（寄宿舎非課税の条件、客室は課税対象、仮宿制度の再検討） |
| 1981/3/28 | 定期総会及び理事会：<br>◎1980 年度事業報告及び新年度事業計画承認の件<br>◆舎生数 20 名、うち留学生 3 名（韓国・台湾・北米）㊥20 号<br>◆聖書研究会：講師：雨宮栄一牧師　ルカ福音書を学ぶ。㊥20 号<br>◆合同祈禱会:<br>（10 月）奨励：関谷正彦氏㊥22 号<br>2/11 岩井要氏<br>3/11 石川憲彦氏<br>◆月例座談会：<br>4～6 月に 3 回に亘る成瀬理事を囲む会<br>10/22 川竹和夫（1949 年文・NHK 放送世論研究所長）「日本のテレビ視聴について」㊥22 号<br>11/27・1/29 成瀬理事<br>◆夏季修養会：7 月　伊豆天木山荘にて<br>◆OB 座談会：<br>9/25 成瀬治先輩「ルーマニアの学会参加のはなしなど」 |

| | |
|---|---|
| | 10/22 河竹和夫先輩（NHK 放送世論調査所長）<br>1/23 野崎昭弘理事・国際基督教大学教授「チェコ、ルーマニアの印象」㋭20 号<br>2/26 中平健吉先輩（1949 年法）「長年の法曹生活・人権闘争」<br>◆年次別 OB 会：12/9「朴羅会」　銀座交詢社にて、伊賀、堀、植田、湯浅、加藤、平尾、大岩、森原、山崎（幹事）、馬場（陪席）の各氏が出席　㋭23 号<br>◆10/10 明治大学 YMCA と野球試合<br>◆客室利用料金：洋室：3,000 円・和室：2,300 円（一般はそれぞれ 3,500 円と 2,800 円）㋭21 号<br>◎80 年度仮決算及び新年度予算承認の件<br>◎理事・監事改選の件（学生理事 平野明宏、小山哲司、前川守、星地亜都司の 4 名選出、学生監事 藤井信吾を選出） |
| 1981/4/25 | 特別講演会：野村実氏「生命への畏敬ー現代の医療とキリスト教倫理－」（東大 YMCA の協力で礼拝堂で行われた日本キリスト者医科連盟関東部会の講演会）　※会報 75 号に講演録 |
| 1981/5/9 | 創立記念礼拝及び懇談会　説教：奈良常五郎 大阪 YMCA 総主事（本会 OB）「東大 YMCA の使命」　※会報 75 号に説教録 |
| 1981/6/13 | 公開講演会　講師：隅谷三喜男先生　「現代科学と世界観」　※会報 76 号に講演録 |
| 1981/7/4 | 定期理事会：高井理事長、他理事出席<br>◎1981 年度下半期事業計画：合同祈祷会、聖書研究会（沢正彦牧師、テキストは秋田実著「聖書の思想」）、公開講演会、クリスマス祝礼拝、座談会など |
| 1981/7/10 | 会報 75 号発行<br>＊巻頭言：高井康雄理事長「クウオ・バディス・ジャパン」<br>＊舎生寄稿 11 篇<br>＊OB 寄稿：堀豊彦元理事長「平凡に、然乍らきびしくー新入生諸君を迎えてー」、西山竜平氏（1931 年）「エントツ随想」、松沢兼人氏（1921 年）「門田を探している」、馬場久吉氏（1930 年）「お別れのご挨拶」 |
| 1981/12/10 | 会報 76 号発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事「前向きに生きよう」<br>＊舎生寄稿 10 篇<br>＊OB 寄稿：今川憲次氏（1931 年文）「三宅泰雄君の著書を読んでーがん病床からの生還―」 |
| 1981/12/19 | 公開講演会：杉山好 東大教養学部教授「バッハにおける男性的と女性的―マグニフィカトを巡って」 |

| | |
|---|---|
| | 杉山先生のバッハ講義は今後定例化し、他の講演会がある場合でもこれを開催する方針とした。<br>※会報 77 号に講演録 |
| 1981/12/12 | クリスマス祝礼拝　説教：西村俊昭牧師　「人間とは何者か」　※会報 78 号に説教録<br>舎生劇：「神の子」（原作：舎生・大谷遊介） |
| **1982 年（昭和 57 年）** | |
| 1982/1/30 | 定期理事会：高井理事長、他理事出席<br>◎1982 年度下半期事業計画：合同祈祷会、聖書研究会（沢正彦牧師に引き続き依頼の方向）、公開講演会、創立記念礼拝、クリスマス祝礼拝、座談会など<br>◎1982 年度収支予算に関する件<br>◎寄宿舎運営に関する件（大学院マスター1 年なら入舎選考が受けられるとすることなど） |
| 1982/3/27 | 総会：高井理事長は海外出張のため欠席、議長は駿河理事。<br>◎1981 年度事業報告及び 82 年度事業計画承認の件<br>◆舎生総数が新舎になってから最大の 25 名を記録（残室は 1 室）<br>◆聖書研究会：雨宮栄一牧師に替わり、沢正彦牧師（東大、延世大院、ブリンストン神学校に学び、韓国教会史の釈書）を迎える。㈥24 号<br>◆夏期修養会：15～17 日、主題は「生と死」、講師は沢正彦 日本基督教団小岩教会牧師、バプテスト天城山荘にて実施<br>◆合同祈禱会：4/11 成瀬理事<br>◆5/21 座談会：講師は柳生望 立教女学院教授・アメリカ文学者「アメリカのプロテスタンティズム」<br>◆OB 座談会：<br>6/25 森岡巌先輩（1949 年法・新教出版社社長）<br>9/23 増田陸郎先輩（1938 医・いのちの電話理事）<br>10/28 野津甫先輩（1943 文・朝日新聞）・佐藤宏一先輩（42 年・東京商工会議所）共催、<br>　※以上 76 号に記録<br>11 月　清水博氏（1956 年・東大教授）　「社会における個と社会性について」<br>2 月　山本富雄先輩（1941 年・リクルートセンター　）「就職情報」<br>◆10/4 早稲田大学 YMCA とソフトボールの試合<br>◎1981 年度決算及び 82 年度予算承認の件<br>◎理事改選の件（全員の任期満了に伴い、高井、馬場、柴谷、駿河、成瀬、徳久、岩井、清水、野崎、月本昭男の先輩理事及び岩城照彦、高倉 |

| | |
|---|---|
| | 鉄夫、塩見順一、星地亜都司、戸辺一之の学生理事が選出された)。監事改選の件（全員の任期満了に伴い、宮原守男、藤井信吾の両氏が選出された)。<br>◎総会後の理事会において、互選により、高井理事長と馬場常務理事（役職名を「専務理事」とする）を選任した。 |
| 1982/5/8 | 創立記念礼拝及び懇親会　礼拝：宮本武之助 前フェリス女学院院長（1930 年卒）　「キリスト・イエスにあって神に生きるもの」　※会報 77 号に説教録<br>卓話：月本昭男氏（1971 年文・チュービンゲン大学に学び帰国）「ドイツより見た日本」㈥集会案内 |
| 1982/6/26 | 公開講演会：講師 菊池吉弥 高座渋谷伝道所牧師　「生きることの意味」　※会報 78 号に説教録 |
| 1982/7/3 | 理事会：高井理事長、他理事出席<br>◎下半期事業計画の件：合同祈祷会、聖書研究会（教団小岩教会 沢正彦牧師、テキスト 秋田稔著「聖書の思想」)、公開講演会（12/8)、OB 座談会など<br>◎百年史編纂準備委員会設置の件 |
| 1982/7/10 | 「斎藤勇先生（7 月 4 日帰天）のお別れの会」　弔辞：高井康雄理事長 信濃町教会にて、堀先生ほか会員多数が参列 |
| 1982/7/10 | 会報 77 号発行<br>＊巻頭言：高井康雄理事長（東大農学部教授)「地はあなたのためにのろわれ」<br>＊舎生寄稿 12 篇<br>＊OB 寄稿：佐藤宏一先輩（1942 年）「大戦勃発前后の学生基督教青年会」 |
| 1982/9/18 | 臨時理事会決議：①東京都教育委員会宛て基本財産処分の件（1982/9/30 認可申請→1982/10/13 処分承認)、②マンション土地・建物売買契約の件（当会所有の 809 号室を売却するため、1980/9/20 付け「一般媒介契約書」を三井信託銀行不動産部上野支店長あてに手交、媒介価格 3,500 万円、手数料成約価格の 3.5%＋6 万円)、(1982/12/23 売買契約成立、価格 3,300 万円)、(1983/1/8 売買手続き完了、1983/1/10 登記完了） |
| 1982/12/11 | クリスマス祝礼拝　説教：澤正彦 日本基督教団小岩教会牧師　「下向し給う神」<br>舎生劇：講談劇「裸の王子様」(原作ワイルド） |
| 1982/12/15 | 会報 78 号発行<br>＊巻頭言：松尾喜代司氏（1921 年）　「関東大震災（1922 年 9 月）前 |

| | |
|---|---|
| | 後の東大 YMCA 会館の様子」<br>＊追悼：「斎藤勇先生を悼む」　高井康雄理事長「感謝の辞」、堀豊彦元理事長「斎藤勇先生追慕」<br>大木善和（1961 年医・社会精神科医）「故斎藤先生を悼んで」<br>＊舎生寄稿 6 篇<br>＊OB 寄稿：吉田弘治（1979 年）「立ち返る門出」 |
| 1982/12/18 | 公開講演会：村上伸先生「ナチスに処刑された神学者―ボンヘッファー」　駒場構内にて　※会報 79 号に講演録 |
| **1983 年（昭和 58 年）** | |
| 1983/1/29 | 定期理事会：高井理事長、他理事出席<br>◎上半期事業計画の件、合同祈祷会、聖書研究会、公開講演会、OB 座談会など<br>◎1983 年度予算の件<br>◎マンション売却の件など |
| 1983/3/18 | 吉野作造先生 50 周年記念会　会館礼拝堂にて<br>松野新、松沢兼人、松尾喜代司、菱沼勇、堀豊彦、鈴木厚、森原之夫、関谷正彦、堀江薫雄、小関紹夫、宮本武之助、牛島信義、佐藤次郎、石原次郎、大沢寿一の各氏など 28 名が出席<br>当日、冊子「目で見る吉野作造」を配布。㈥28 号 |
| 1983/3/31 | 定期総会：<br>◎1982 年度事業報告及び 1983 年度事業計画の件<br>◆舎生総数 25 名ながら、減少し、新舎生も入らず 9 月現在の舎生は 18 名<br>◆夏期修養会：(7/15～)　栄光海の家、テーマ「アッシジの聖フランチェスコ」<br>◆合同祈禱会；10/14 吉利和 浜松医科大学長　㈥26 号<br>◆11 月　大沢 YMCA との合同聖研（第 1 回）開催<br>◆OB 座談会：<br>4/22　岩井要先輩（1944 年工・当会館設計者）　「現代ウサギ小屋考―日本の建築文化を考える」<br>5/27　奥田健二先輩（1949 年・日本鋼管）　「日本経営の虚像と実像」<br>6/24　宮田親平先輩（1954 年・文芸春秋社）　「ジャーナリズムと科学と宗教」<br>9/30　寺内正義先輩（1964 年・NHK）　「報道の最近の潮流と取材の実体験」<br>10/28　成瀬治先輩（1950 年・東大教授） |

| | |
|---|---|
| | 11/15　岡本途也先輩（1947 年医・昭和大学教授）　「聴覚のはなし」<br>2 月　榊裕之先輩（1968 年工・東大助教授）　「電子工学のはなし」<br>◎1982 年度決算及び 1983 年度予算の件（マンション収入の大幅減、マンションを売却し、有価証券として基本財産に繰り入れる件）など<br>◎その他：<br>◆節電・節約のため電力容量を減少（トランスの取り換え）<br>◆ザンビア文化交流使節団と夕食会、礼拝堂にて |
| 1983/5/14 | 創立 95 周年記念礼拝・懇親会　式辞：高井康雄理事長。懇親会にて 1982 年度決算報告、新会員の紹介、茶話会を行う。 |
| 1983/5/28 | 春季公開講演会　講師：清水博 東大薬学部教授「新しい生命観と人間像」　※五月祭参加の形で教室を借りる初めての試み　※会報 80 号に講演録 |
| 1983/7/2 | 定期理事会：高井理事長、他理事出席<br>◎下半期事業計画の件、◎玄関庇補修の件など |
| 1983/7/10 | 会報 79 号（吉野作造先生特集号）発行<br>＊巻頭言：高井康雄理事長「創立 95 周年にあたって」<br>＊寄稿：「吉野作造先生 50 周年記念会より」　松沢兼人氏（1921 年法）、　堀豊彦元理事長、松野新氏（1919 年）、鈴木厚氏（1927 年法）、堀江薫雄氏（1928 年法）、関谷正彦氏（1928 年法）、小関紹夫氏（1929 年法）、菱沼勇氏（1923 年法）、佐藤次郎氏（1939 年医）、石原次郎氏（1931 年法）、大沢寿一氏（1932 年工）、西山竜平氏（1931 年文）、松尾喜代司氏（1922 年法）、黒川弘氏（1935 年法）<br>＊OB 寄稿：石倉一郎氏（1934 年経）「感想ー吉野先生を偲ぶー」、　吉利和氏（1938 年医）「木下順二君の『本郷』を読んで」<br>＊舎生寄稿 7 篇 |
| 1983/11/12 | 公開講演会：杉山好東大名誉教授　於　駒場 |
| 1983/12/10 | クリスマス祝礼拝　説教：神保勝世 横浜共立学園長（1930 年卒）「僕となりしキリストの従順」、オルガン：岩下昭比古氏。祝会：高井理事長あいさつ<br>参加者は、堀、森原、関谷、岡崎、根岸、越智、神保、石原、清水氏等「朴羅会」、嶋三四郎、山本富雄、能美英彦氏等「五九六サン会」のほか、駿河、徳久、白井、大木、萩野、合田・宮内新婚カップル、「若手会」、「八三会」など多数。名物のんき、若竹すし、南米コーヒーなども楽しむ。<br>舎生劇：「クリスマス・キャロル」　㈥29 号 |
| 1983/12/10 | 会報 80 号発行<br>＊巻頭言：堀豊彦元理事長（1924 年法）「美しく清らけく」 |

| | |
|---|---|
| | ＊舎生寄稿 8 篇<br>＊追悼：馬場進専務理事「故山崎幸一郎氏を悼む」、　湯浅恭三氏（1924 年法）「告別のことば」<br>＊OB 寄稿：清水護先輩（1931 年文）「特集号の英文寄稿に思う」、佐藤宏一先輩（1942 年経）「未だに解せぬこと」<br>＃夏期修養会：アモス書のレジュメあり |
| **1984 年（昭和 59 年）** | |
| 1984/1/28 | 定期理事会：高井理事長、他理事出席<br>◎84 年度事業計画の件、◎84 年度予算の件 |
| 1984/3/31 | 定期理事会及び総会<br>◎総会議案の件<br>◎新年度入舎選考結果の件（学部 9 名、新入生 2 名）、<br>理事会終了後、定期総会：会員総数 584 名、出席会員数 42 名<br>◎1983 年度事業報告並びに 74 年度事業計画承認の件<br>◆聖書研究会：1983 年度より月本昭男 立教大学講師による「イエスのたとえ話」を学ぶ。<br>◆夏季修養会（7 月）　講師：月本昭男氏、バプテスト天城山荘にて<br>◆合同祈禱会：<br>4/28　成瀬治理事<br>5 月　小林喜成 福島信夫教会牧師<br>6 月　野崎理事<br>7 月　望月 学 Y 主事<br>8 月　馬場進専務理事<br>10/13　山本富雄 賛育会理事（1941 年経）「賛育会のために」<br>11 月　島田 中渋谷教会牧師<br>12 月　馬場進専務理事<br>2 月　石原力 虎の門病院医師<br>3 月　木村庸五 弁護士<br>◆OB 座談会<br>4 月　高井理事長<br>5 月　高久史麿先輩（1954 年・東大病院）「医学教育と人間像」<br>6 月　磯田一雄先輩（1960 年）「学校教育のあり方や教育の基本原理」<br>9/29 加美山節先輩（1943 年経・三洋証券・前東京 YMCA 常議員会長）「日本的経営と資本主義の精神」<br>10/27　川村勝通先輩（1949 年文・東京放送）「民間放送の展望」<br>◎83 年度収支決算並びに 84 年度収支予算承認の件（うち年会費の 2,000 円⇒3,000 円への増額については、次回総会で決定することとし |

| | |
|---|---|
| | た）<br>◎理事全員の任期満了に伴う理事改選の件（高井康雄、成瀬治、馬場進、柴谷貞雄、駿河敬次郎、徳久俊彦、岩井要、清水博、野崎昭弘、月本昭男の各理事及び宮原守男監事の全員重任を決定、学生理事は、上野直之、小谷賢昇、佐藤真二、西道隆臣及び監事は、星地亜都司の各兄が選出された。）<br>◎決算・予算、事業報告・計画及び理事・監事改選の件で、理事会提案のとおり可決。<br>◎理事長の選任：総会後の理事会において、高井理事長（76 年から 8 年間在位）の辞意を尊重し、後任に互選により成瀬理事長(日キ教団中渋谷教会・西洋近代氏が専門)が選任された。 |
| 1984/5/12 | 創立記念礼拝：特別講演 三浦永光 津田塾大教授「環境の危機と進歩の恩恵」　※会報 81 号に講演録 |
| 1984/6/9 | 公開講演会：荒井献教授　「平和への道―イエスに応えてー」　※会報 82 号に講演録 |
| 1984/7/2 | 定期理事会：成瀬新理事長を議長として、理事 13 名が出席、下期事業計画等を審議。㈥31 号 |
| 1984/7/10 | 会報 81 号発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事長　「創立 96 周年にあたって」<br>＊舎生寄稿 11 篇 |
| 1984/11/29 | 定期理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎第 4 四半期事業計画の件（合同祈禱会、OB 座談会など）<br>◎来年度入舎選考の時期<br>◎寄付行為の一部改訂の件 |
| 1984/12/8 | 公開講演会　講師：杉山好東大教授「俗の中の聖－J・S バッハ（クリスマスオラトリオの世界)」　　駒場にて |
| 1984/12/15 | クリスマス礼拝：説教 奈良常五郎 前日本キリスト教海外医療協力会総主事　「乙女マリアの信仰」<br>祝会：大江博兄のピアノ、岩下昭比古氏のオルガン演奏。<br>堀豊彦、原田明夫、柳沢忠、水本兄のほか、小山哲司夫妻など家族の出席多し。<br>舎生劇：シラノ・ド・ベルジュラック」(原作ロスター) |
| 1984/12/15 | 会報 82 号発行<br>＊特別寄稿：　堀豊彦元理事長「高木八尺先生（1914 年法・東大教授）追慕」<br>＊特別寄稿：　松野新「受胎告知」<br>＊夏期修養会報告：舎生より 7 篇 |

| | |
|---|---|
| | ＊舎生寄稿 9 篇<br>＊OB 寄稿：岩見宣治氏（1971 年工）　「石原憲治先生（1919 年工・1984/7/11 帰天）を偲んで」　※石原先生は本木セツルメント活動の創始者<br>＊OB 寄稿：大谷遊介氏（1983 年文）「友好を通じて理解へ（日中青年交流―今後の課題）」 |
| **1985 年（昭和 60 年）** | |
| 1985/1/26 | 定期理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎寄付行為の形式変更の件（1985/10/22 付け東京都教育委員会認可済の現行寄付行為につき、1984/6/5 同委員会の査察の際の要請を受けて、条文の整理・文体の改訂等を行う）<br>◎1985 年度事業計画の件（合同祈禱会、聖書研究会：日本聖書神学校川島貞雄教授に依頼予定）、座談会など<br>◎1985 年度予算の件<br>◎東京大学学生基督教青年会特別規則の改訂（1984 年第 3 回理事会にて改訂した経緯あり）の件：　寄付行為 14-15 条により、その一部として定めるもの。①会員は、通常会員（東大の学生）、特別会員（教職員、卒業生など）、名誉会員（特別功労があった者で、総会で推薦）の三種とする。②通常・特別会員のうち福音的基督教会に属するものを「正会員」、属さないものを「準会員」とする、③総会は毎年 1 回開催、④本会に、総務、聖研、企画、文共、財務の 5 部を置く、などが含まれる。 |
| 1985/3/30 | 定期理事会及び定期総会<br>◎1984 年度事業報告及び 1985 年度事業計画の件<br>◆聖書研究会：　引き続き月本昭男理事を講師として「ヨブ記」を学ぶ。<br>夏季修養会（7/18～20）　八王子セミナーハウスにて。<br>◆合同祈禱会：<br>4/12　雨宮栄一 東駒形教会牧師<br>5 月　馬場進専務理事<br>6 月　黒川弘氏（社会福祉法人 乳児保護協会）<br>8 月　馬場進専務理事<br>9 月　山本将信 日本基督教団西片町教会牧師<br>11 月　上田光正 日本基督教団美竹教会牧師<br>12 月　関谷正彦 聖公会司祭<br>2 月　早川先生<br>3 月　原先生 |

| | |
|---|---|
| | ◆OB 座談会：<br>4 月　成瀬治新理事長<br>6 月　中所武司先輩（1968 年工）「計算機ソフトウェアの諸問題」<br>9 月　五十嵐雄一先輩（199 年法・ジャスコ）「流通のはなし」<br>10 月　大江博先輩（1979 年経・外務省）「フランス・ベルギー滞在のとき」<br>1 月　町沢静夫先輩（1968 年文・医　国立精神衛生研究所）<br>◎84 年度決算及び 85 年度予算の件<br>◎年会費の 2,000 円⇒3,000 円への増額の件、寄付行為改訂の件など |
| 1985/5/11 | 創立 97 周年記念礼拝及び<br>新会館 10 周年記念会・懇親会　説教：小田原登志郎 活水学院長　「エオマの旅人」 |
| 1985/6/8 | 公開講演会　神奈川大学 弓削達教授「今平和を作り出すもの　～ローマからの声～」　※会報 84 号に講演録 |
| 1985/7/6 | 定期理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎1985 年度下期事業計画の件、◎設備補修工事の件、◎寄付行為改正の件 |
| 1985/7/10 | 会報 83 号発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事長（50 年文）「友のために祈る」<br>＊舎生寄稿　10 篇<br>＊OB 寄稿：<br>山本富雄先輩（1941 年経）　「日本人を考える」<br>平川信弘先輩（1935 年文）「馬場（久吉）先輩（1930 年経・1985/1/5 帰天）に捧ぐー静岡の伝道時代」 |
| 1985/7/20 | 夏期修養会（～22 日）テーマ「異端とは何か＝異端と正統の間」　山中湖畔東大ロッジにて |
| 1985/11/9 | 関西地区 OB 会：阪急グランドビルにて、20 名が参加。東京より馬場・徳久両理事、事務局加藤氏が出席。これを機に、柴谷理事を代表として、関口哲生、渡邉肇、佐々木鋼八、村尾裕史氏等の肝いりで、関西 OB 会が発足した。㈥36 号 |
| 1985/12/5 | 公開講演会　講師：西村和雄 都立大学助教授　「社会科学の世界」 |
| 1985/12/14 | クリスマス礼拝　説教：中沢宣夫 立教大学教授　「大いなる歓喜」<br>舎生劇「クリスマスの星」、岩下兄のバッハ、小林兄のフルートの演奏。61 名が参加 |
| 1985/12/15 | 会報 84 号発行<br>＊舎生寄稿　9 篇<br>＊OB 寄稿： |

| | |
|---|---|
| | 松野新（1919 年・弁理士）氏「私の人生観」<br>片平洌彦氏（1969 年医）「軍事費を削って飢えと病いの克服を　―被爆 40 周年のクリスマスの祈り－」 |
| **1986 年（昭和 61 年）** | |
| 1986/1/30 | 定期理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎1986 年度事業計画の件、設備補修工事の件<br>◎1986 年度予算の件、修繕工事の件<br>◎創立 100 周年記念準備委員会設置の件 |
| 1986/3/29 | 定期総会：先輩理事・学生理事の十数名が出席。委任状 193 通<br>◎1985 年度事業報告<br>◆聖書研究会：5-7 月は、内田和彦 草加福音教会牧師、9-3 月は、雨宮栄一 教団東駒形教会牧師<br>◆合同祈禱会：<br>4 月　澤正彦 教団小岩教会牧師<br>6 月　赤星進先輩（赤星クリニック）<br>8 月　馬場進専務理事<br>9 月　落合則男 日本 YMCA 同盟学生部主事<br>11 月　成瀬理事長<br>1 月　入江建久 国立公衆衛生院建築物衛生室長<br>3 月　今村一男先生<br>◆夏期修養会（7/21～23）　東大山中寮にて<br>◎1986 年度事業計画<br>◎1985 年度決算及び 86 年度予算<br>◎理事任期満了による改選<br>成瀬治、馬場進、柴谷貞雄、駿河敬次郎、高井康雄、徳久俊彦、岩井要、清水博、野崎昭弘、月本昭男の理事 10 名を再任、及び学生理事は、高嶋祐一郎（再任）、三沢和彦、小林和夫、井原和人、近藤信和の 4 名を新任として選出した。監事は宮原守男と小川有実の両氏を選任した。 |
| 1986/4/14 | 堀豊彦元理事長（1986/4/9 帰天）の葬儀<br>武蔵野教会において、司式は熊野清牧師、弔辞：馬場進専務理事 |
| 1986/5/10 | 創立記念礼拝　式辞：成瀬治理事長、特別講演会：斎藤総衛 日本 YMCA 同盟総主事　「世界の YMCA の現状と日本の YMCA の役割」<br>※会報 85 号に講演録 |
| 1986/5/10 | 創立 100 周年記念行事準備協議会：記念礼拝・祝会、100 年史、記念募金、準備実行委員会の設置 |

| | |
|---|---|
| 1986/6/28 | 公開講演会：佐古純一郎 二松学舎大学文学部長「椎名林蔵―その信仰と文学―」　※会報 86 号に講演録 |
| 1986/7/5 | 定期理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎1986 年度下半期事業計画の件、寄付行為改訂に関する件（合同祈禱会、聖書研究会など）、寄付行為改正の件、寄宿舎食費改正の件（現行は舎費月額 32,500 円（うち食費 8.500 円）のところ、食費を 500 円値上げすることを舎内総会で申し合わせた旨の報告があり、理事会はこれを承認した）<br>◎100 周年準備委員会の件（百年史、記念式、記念募金）など |
| 1986/7/10 | 会報 85 号（堀豊彦先生追悼特集）発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事長　「主のみ言葉をきくことのききん」<br>＊追悼特集：馬場進専務理事「感謝とお別れの辞」、石原次郎氏（1931 年法）「堀先生の思い出」、高井康雄元理事長「堀先生を偲んで」、住谷一彦氏（1941 年文）「『特別の人』、堀先生」、渡邉守道氏（1949 年法）「堀先生を偲ぶ」、宮田光雄氏（1951 年法）「堀豊彦先生とドイツ教会闘争」、深瀬忠一氏（1953 年法）「堀先生の親身の愛」、野崎昭弘氏（1959 年理）「堀先生とフッサールの写真」、木下毅氏（1960 年法）「堀先生との邂逅」、　月本昭男氏（1971 年文）「無形の宝」、原研治氏（1972 年医）「堀先生を偲んで」、西正典氏（1978 年法）「堀先生の思い出」、その他寄稿 16 篇<br>＊舎生寄稿　11 篇 |
| 1986/9/27 | 定期理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎1986 年度下半期事業計画の件<br>◎設備補修工事の件<br>◎寄付行為改訂に関する件：東京都教育委員会と折衝の結果、双方検討の上、改めて折衝することとなった。要点は、財団法人は、所管官庁の寄付行為の雛型に依り「評議員」の設置を必要とするも、本会は社団法人的性格により「評議員会」はなく、「会員」による「総会」を最高議決機関としていること、及び、総会成立の定足数に関しても他とは異なることである。<br>◎創立 100 周年記念準備の件（史料整理、記念礼拝・祝会、記念誌、講演会など） |
| 1986/10/25 | 関西 OB 会：　柴谷貞雄理事（1932 年法）のあいさつの後、講演①小林哲也 京都大学前教育学部長（1953 年教）「国立大学の管理を巡る問題」、講演②　村尾裕史 日本イーライ・リリー㈱副社長（1959 年医）「遺伝子工学の現状」が行われた。阪急グランドビルにて、20 人参加 |

| | |
|---|---|
| 1986/11/29 | 公開講演会　講師：斎藤友紀雄 いのちの電話常任理事　「こころの危機と人間の成長」　※会報 87 号に講演録 |
| 1986/12/10 | 会報 86 号発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事長　「地には平和を」<br>＊舎生寄稿　16 篇<br>＊OB 寄稿<br>　北彰氏（1973 年文）「お力をお貸しください！」<br>　坂口忠氏（1941 年農）「久しぶりの会誕生記」　※1964～1970 年卒の会<br>　関口哲生氏・小谷賢昇氏「東大 YMCA 関西 OB 会の発足について」<br>　梶村慎吾氏（1969 年法）「東大 YMCA と賛育会」<br>＃7/17～19　夏期修養会　講師：川上盾先生。三浦海岸（民宿グリーンハウス）にて、15 名参加 |
| 1986/12/13 | クリスマス祝礼拝　説教：関谷正彦 聖公会司祭　「受肉降誕の意義（愛の奇蹟）」<br>堀先生甲子夫人、森原夫妻、神保、大塚、楠田、粂野、入江、梶村、片平、徳久、岩井、野崎、月本、岩崎、飯島、塚本の各先輩などが出席<br>舎生劇「よみがえった改心」（オーヘンリー原作、新井崇脚色）　㊅37 号 |
| **1987 年（昭和 62 年）** | |
| 1987/1/29 | 定期理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎1987 年度事業計画の件<br>◎巣鴨ときわ教会から「会堂建築工事中の 1987 年 4～11 月の間の日曜日の礼拝堂使用させてほしい」との申し込みがあり、承認した。 |
| 1987/3/26 | 定期理事会及び定期総会：理事会は成瀬理事長、他理事、先輩、学生の 24 名が出席。199 通の委任状。総会付議案件の件<br>◎1986 年事業報告及び 87 年度事業計画の件<br>◆聖書研究会（講師は弓町本郷教会 川上盾伝道師）<br>◆夏期修養会：　7/17～19 日　三浦海岸グリーンハウスにて　※会報 86 号に報告<br>◆合同祈禱会：<br>4 月　山本将信 西片町教会牧師　「地の塩、世の光」<br>6 月　石原力 賛育会病院長　「よきサマリア人」<br>8 月　馬場進専務理事　「私の戦争体験」<br>9 月　西村俊昭 砧教会牧師　「畏れ」<br>10 月　加藤久幸 日本 YMCA 同盟協力主事・農村伝道神学校　「神の声か、民の声か」 |

| | |
|---|---|
| | 11 月　雨宮栄一 東駒形教会牧師　「ステパノの死」<br>1 月　磯田一雄 成城大学教授<br>3/12 佐藤良逸氏（1969 年法・朝日新聞社）<br>◆OB 座談会<br>4 月　成瀬理事長を囲む会<br>5 月　紅山雪夫先輩（1935 年法）「海外旅行の話など」<br>5/30　松隈潤先輩（国際飢餓対策機構）の帰国報告会<br>6 月　石川憲彦先輩（1973 年医）<br>◎86 年度決算及び 87 年度予算の件<br>◎寄付行為改訂の件：評議員会の新設など、改訂案を満場一致で可決、東京都教育委員会に提出、認可の日を以って実施　㈥38 号 |
| 1987/3/29 | 堀豊彦先生一周年記念会開催　特別講師：学習院大学 飯坂良明教授 |
| 1987/5/9 | 第 99 回創立記念礼拝・懇談会　式辞：馬場専務理事「創立百周年を迎えるに際して」、講演：落合則夫 日本 YMCA 同盟学生部主事「日本 YMCA 同盟学生部と東大 YMCA のつながり」 |
| 1987/6/6 | 春季公開講演会　講師：吉利和 日赤医療センター病院長　「まぼろしと真実」 |
| 1987/7/2 | 1987 年度第 1 回理事会<br>◎下半期事業計画、◎100 周年記念行事、◎寄付行為改訂の件（評議員の選出方法など）、予算・決算の形式改正の件、など |
| 1987/7/10 | 会報 87 号発行<br>＊舎生寄稿 7 篇<br>＊OB 寄稿：梶村慎吾氏「賛育会後援会について」<br>＊三沢和彦氏「東大 YMCA 百年史についての報告」、その中で 100 年間の主要トピックスは以下のとおりと整理<br>①青年会創立（明 21）、②台町会館（明 31～）、③追分会館（大 5～）、④賛育会設立（大 6）、⑤全国高等学校伝道隊（大 6～）、⑥日曜学校開校（昭 6）、⑦SCM 運動（昭 6 頃）、⑧信仰告白会（昭 15）、⑨東大キリスト者平和の会（昭 26）、⑩青年会改革論（昭 30 頃）、⑪現会館再建（昭 50） |
| 1987/9/25 | 1987 年度第 2 回理事会：<br>◎下半期事業計画の件<br>◎創立 100 周年記念事業の件（1988/5/14、宮本武之助氏による説教と礼拝の後、東大山上会館に移動して懇談会を行う計画）<br>◎寄付行為改訂に関する件<br>◎公益法人会計の見通しに関する件など |
| 1987/11/10 | 臨時理事会：新寄付行為により新たに評議員の選出委嘱の件 |

| | |
|---|---|
| | 新評議員は、森原元夫（1927 年法）、小田原登志郎（1934 年法）、岡田良一（1941 年法）、楠田洋（1942 年法）、能美英彦（1943 年工）、五十嵐雄一（1948 年法）、石原力（1948 医年）、橋本光男（1949 年理）、岩下昭比古（1952 年農）、高久史麿（1954 年医）、今村一男（1955 年医）、荒木亨（1957 年文）、二神康郎（1960 年農）、原田明夫（1963 年法）、梶村慎吾（1969 年法）、岩見宣治（1971 年工）、市川祐三（1974 年経）、浦西友義（1974 年経）、合田隆史（1978 年法）、大谷遊介（1983 年文）の各氏、計 20 名。就任は 1988/1/28 の第 1 回評議員会 |
| 1987/11/14 | 秋季公開講演会　講師：杉山好教授「J・S バッハにおける個と共同体」 |
| 1987/12/10 | 会報 88 号発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事長「家庭でクリスマスを」<br>＊舎生寄稿　7 篇<br>＊OB 寄稿：渡邉肇史（58 年経）「関西 OB 会開催」講演①　中島昭夫 朝日新聞社記者「速報競争と人権」、講演②　岩井健作 日本キリスト教団神戸教会牧師「幾つもの葬儀」<br>＃11/15 早稲田 Y とのソフトボール大会<br>＃11/27　OB 座談会　講師：西田氏（NHK 国際報道部） |
| 1987/12/12 | クリスマス祝礼拝：説教日本聖書神学校教授 西村俊昭牧師　「十字架を見上げる」<br>森原、関谷、神保、小田原、黒川、大塚、合志、楠田、能美の先輩、成瀬、駿河、徳久、岩井の各理事、梶村、岩城、山口、など OB34 名が参加<br>舎生劇：「椿説伊国慾自立雅話（チンセツアウトノミヤ）」（作：小川有美） |
| 1987/12/24 | 寄付行為の全面改訂が東京都教育委員会より認可、翌 25 日に法務局への登記を完了 |
| **1988 年（昭和 63 年）** | |
| 1988/1/28 | 1987 年度第 1 回評議員会・定期理事会（於：神田美土代町東京 YMCA 本館）<br>◎1988 年度事業計画の件：合同祈祷会、聖書研究会（講師は城西教会 徳永五郎牧師）<br>◎1988 年度予算の件、理事及び監事全員の任期満了に伴う改選の件など<br>※寄付行為改訂に伴う評議員会の第 1 回、新旧学生理事が参加。 |
| 1988/5/6 | 1988 年度第 1 回評議員会・88 年度第 1 回理事会（議事は評議員会と同じ） |

| | |
|---|---|
| | ◎1987 年度事業報告の件<br>◆寄付行為改正後も事業は順調に終了<br>◆聖書研究会：統一テーマを「主の祈り」として「十戒・主の祈り」（関田正雄著）を通読<br>◆夏期修養会：7/23～25 日東大山中寮に於いて、講師は、川上盾 弓町本郷教会伝道師。　※会報 88 号に報告<br>◆合同祈禱会：<br>4 月　山本将信 西片町教会牧師　「海上の嵐」<br>5 月　鈴木みづえ姉（本会学生会員）　「家族について」<br>6 月　中川健朗氏（1985 年工・科学技術庁）<br>8 月　馬場進専務理事　「今の時を生かして用いなさい」<br>9 月　雨宮栄一 東駒形教会牧師　「み名をとなえて」<br>11 月　成瀬治理事長<br>3 月　山下逸喜先輩（1975 年文・メリルリンチ投資顧問）<br>◆OB 座談会：<br>10 月　岩見宣治先輩（1971 年工）「新会館建設時の苦労話など」<br>11 月　吉川需先生<br>◆百年史編集会を舎生全員で隔月に開催<br>◎87 年度決算の件<br>◎創立 100 周年記念行事の件 |
| 1988/5/14 | 創立 100 周年記念式典<br>▷礼拝：聖書朗読：野崎昭弘理事、祈祷：宮原守男監事、奨励：宮本武之助氏　「キリスト・イエスにおける神の作品」、祝祷：関谷正彦師、奏楽：岩下昭比古氏　　※会報 89 号に説教録<br>▷祝賀会：司会：徳久俊彦理事、挨拶：成瀬治理事長、祝辞：福田垂穂日本 YWCA 同盟委員長、小林道彦 東京 YWCA 総主事、植松健一早稲田大学 YWCA 会長、川田宏 賛育会理事長、乾杯：加美山節 東京 YWCA 常議員会議長。招待者は、同盟、東京 Y、元理事長のご遺族、聖研・講演会の講師。<br>参加者は、木村健二郎、森原元夫、堀江薫雄、中江、柴谷貞雄、吉利和、田浦武雄、原田真、山崎保興、山口栄一家 4 名、大島誠夫妻など先輩を含めて 100 余名。参加者名は㋝42 号<br>▷百周年記念募金は、6/13 現在で、申込者 185 名、申込額 740 万円（目標額：1,000 万円）。㋝41 号 |
| 1988/5/14 | 定期理事会：<br>◎1987 年度事業報告の件：1987 年度は期初より舎生 24 名、うち留学生（韓国 3 名、タイ 1 名） |

| | |
|---|---|
| | ◆1987 年度聖書研究会（講師：川上盾 弓町本郷教会伝道師）「コンピューター・人工知能・人間」　※会報 89 号に講演録 |
| 1988/6/11 | 公開講演会 講師：野崎昭弘理事（34 年理・国際基督教大学教授） |
| 1988/7/7 | 定期理事会：成瀬理事長、他理事出席。<br>◎1988 年度下半期事業計画の件：<br>聖書研究会：徳永五郎牧師（1954 年文）による「マルコ福音書」、合同祈禱会、OB 座談会など<br>◎営繕の件：暖房用ボイラーの取替え、共用電話機 2 台取替え |
| 1988/7/10 | 会報 89 号（創立 100 周年記念特集号）発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事長　「義にして自由なキリスト者」<br>＊創立 100 周年記念礼拝　奨励：宮本武之助氏「キリスト・イエスにおける神の作品」<br>＊100 周年を迎えて<br>馬場進専務理事　「創立百周年記念式典を越えて」<br>荒木亨氏　「東大青年会の意義」<br>三沢和彦氏　「百年記念誌編集を終わって」<br>小林和夫氏　「百年記念誌編集に参加させて頂いて」<br>村山斉氏　「百周年記念式典を終えて」<br>徳久俊彦氏　「百周年記念式を終えて」<br>＊百周年記念礼拝当日の舞台裏<br>加藤篤史兄氏「受付」、　柴谷光信兄「百周年記念に参加して」、　柳谷雄介、兄「会場」、　木村梯一兄「創立百周年記念式典の放送設備について」、　大賀英史兄「食事」　小西順人兄「百周年記念式典の写真を撮って」、　横尾譲兄「看護」<br>＊舎生寄稿　7 篇 |
| 1988/9/1 | 定期理事会：成瀬理事長、他理事出席<br>◎1988 年度下半期事業計画の件：合同祈禱会、OB 座談会、営繕の件など |
| 1988/10/15 | 関西 OB 会　新阪急ビルに於いて、100 周年記念行事報告を中心に懇親会、東京からの理事長他 4 名を含む 35 名が出席 |
| 1988/12/3 | 秋季公開講演会　講師杉山好 東大教授　「バッハと敬虔主義」　※会報 91 号に講演録 |
| 1988/12/10 | クリスマス祝礼拝　説教：徳永五郎 城西教会牧師　「非常な喜び」、奏楽：岩下昭比古氏<br>参加 OB は、梶村慎吾、入江建久、大木善和、原田明夫、片平洌彦、山口栄一、岩崎英二、宮内啓行、塚本文武兄など<br>舎生劇：「銀河鉄道の夜」（女性会員第 1 号の鈴木みづえ姉も出演）　㋩ |

| | |
|---|---|
| | 43 号 |
| 1988/12/10 | 会報 90 号発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事長「大きな転機にのぞんで」<br>＊舎生寄稿　6 名<br>＊OB 寄稿：渡邉肇氏（1958 年経）、三沢和彦氏（学生主事）、徳久俊彦氏（1953 年経）　「冷や汗ものの誤植のこと」<br>＊関西 OB 会報告<br>＊舎生事業報告　①SCM 神石農業聖研報告　2 篇、②中四国夏期学校 5 篇 |
| **1989 年（昭和 64 年／平成元年）** | |
| 1989/1/26 | 定期理事会<br>◎1989 度事業計画の件：<br>◆聖書研究会（講師は月本昭男理事）、合同祈禱会、座談会、学 Y 合同集会など<br>◎学生主事の委嘱（三沢兄）<br>◎1989 年度予算の件（炊事係給与の舎生負担分 500 円増額など）<br>◎百周年記念募金収支（1988 年 12 月現在）：寄付金 812 万円、事業支出 357 万円、差引残高 455 万円） |
| 1989/1/28 | 88 年度第 2 回評議員会：1/26 開催の理事会に同じ |
| 1989/5/13 | 創立記念礼拝・懇親会　奨励：高井康雄前理事長「創立 101 周年に向けて」 |
| 1989/5/13 | 1989 年度定期理事会及び 89 年度第 1 回評議員会（同日の理事会の議事にほぼ同じ）<br>◎1988 年度事業報告の件<br>◆聖書研究会：徳永五郎 城西教会牧師（53 年文）により、マルコ福音書を学ぶ。<br>◆夏期修養会（7/18～20 日）野尻湖東大学生寮<br>◆合同祈禱会：<br>4 月　藤原位憲 巣鴨ときわ教会牧師　「ぶどう園のたとえ」<br>8 月　馬場進専務理事<br>9 月　定家修身　本郷弓町教会牧師　「新しき人」<br>10 月　成瀬治理事長<br>1 月　宮原守男監事「訣別の遺訓」<br>◆OB 座談会<br>4/22　成瀬治理事長を囲む会<br>5/27　垣内史堂先輩（1970 年医） |

| | |
|---|---|
| | 9/29　岩下昭比古先輩（1952 年農・三井デュポンフロロケミカル）「ピアノ演奏と音楽の話」<br>10/27　河竹和夫先輩（1949 年文・東京女子大教授）「国際コミュニケーションについて」<br>11/24　青池明先輩（1950 年医）<br>◆東大 Y にて行われた学 Y 活動：「学 Y ニュースレターが復刊（編集長は東大 Y の大賀英史兄）」、「関東地区 学 Y 卒業記念礼拝」、「茶道より日本文化を知る」、「関東地区 学 Y 新入生歓迎交流会」<br>◎1988 年度収支決算の件<br>◎100 周年記念募金の件（会員 230 名その他から総額約 840 万円の寄付） |
| 1989/7/15 | 春季公開講演会：高エネルギー研究所前所長 西川哲治氏（1949 年理・国立高エネルギー物理学研究所長）「素粒子の世界」 |
| 1989/8/1 | 会報 91 号発行<br>＊巻頭言：加藤庄六氏（1952 年経）「学 Y にリバイバルを！」<br>＊三沢和彦兄「学生主事就任にあたって」<br>＊舎生寄稿　14 篇<br>＊本格的な蔵書の整理報告 |
| 1989/9/1 | 1989 年度第 2 回理事会：成瀬理事長、他理事出席<br>◎1989 年度下期事業計画の件<br>◎評議員任期満了に伴う委嘱の件など |
| 1989/7/19 | 夏期修養会（～21 日）：東大教育学部野尻寮にて、テキストは青野大潮著「十字架の神学」 |
| 1989/11/4 | 秋季公開講演会　講師：魚住昌良 国際基督教大学教授（本会 OB）「文化の連続・非連続―中世都市ケルンの成立」 |
| 1989/12/8（平元） | クリスマス祝礼拝　説教：美竹教会 上田光正牧師（1962 年）「偉大なるへり下り」<br>出席者は、成瀬、馬場、駿河、岩井、野崎の各理事、森原、能美、二神の各評議員、関谷、神保、吉利氏など諸先輩、山口、岩崎、横田兄ご家族、新婚上野夫妻など 70 余名　㋩46 号<br>舎生劇：「西新宿物語」<br>※岩井要氏による「六角テーブル」の修復が完了、お披露目あり |
| 1989/12/9 | 会報 92 号発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事長　「和解の福音」<br>＊舎生寄稿　5 篇<br>＊OB 寄稿：松野四郎氏（1931 年）「私の健康法」、　岡田良一氏（1941 年法）　「クリスマス劇の思い出」 |

| | |
|---|---|
| | ＊学Ｙ活動報告※この頃舎生の大賀英史兄を中心に、東大Ｙは精力的に学Ｙ活動に参画していた。 |
| **1990 年（平成 2 年）** | |
| 1990/1/25 | 1989 年度第 3 回理事会：成瀬理事長、他理事出席<br>◎1989 年度事業計画の件（聖書研究会講師は引き続き月本昭男理事、合同祈禱会、座談会など）<br>◎1989 年度予算の件（ベッドやマットなどの取り換え購入のために営繕費予算を増額することなど）<br>◎理事・監事全員の任期満了に伴う改選の件など |
| 1990/1/27 | 1989 年度第 2 回評議員会：1/25 理事会にほぼ同じ<br>議長は岡田良一氏、その他、森原、能美、五十嵐、石原、岩下、二神、梶村、合田の各評議員　㈥47 号 |
| 1990/5/12 | 1990 年度第 1 回理事会・評議員会：成瀬理事長、他理事が出席。評議員会の議事は理事会に同じ<br>◎1989 年度事業報告の件：<br>◆舎生数は 22 名<br>◆聖書研究会（講師は月本昭男 立教大学助教授・本会理事）<br>◆合同祈祷会など<br>4 月　ベアンテ・ボーマン氏（チェリスト）　「神の御名」<br>5 月　弥永真生氏（1986 年卒）　「神様の計画」<br>6 月　野崎昭弘氏（1934 年理・理事）<br>8 月　三沢和彦学生主事　「聖書と祈り」<br>10/12　中村彊 牧師　「神は愛なり」<br>12/14　馬場進専務理事　「若い諸君へ」<br>1/11　宮原守男氏（1952 年法・監事）　「みことばを行うものとなれ」<br>3/8　馬場進専務理事　「新しい皮袋に」<br>◆夏季修養会　（7/19～21 日、東大教育学部付属野尻寮に於いて実施。講師は望月牧師で、「『十字架の神学』の成立」を輪読。<br>◆OB 座談会<br>4/27　成瀬治理事長　「ルターの信仰」<br>6 月　石川憲彦先輩（1973 年医）<br>2 月　野崎昭弘先輩（1959 年理・理事）<br>◎90 年度予算の件、◎給水設備補修の件<br>創立記念礼拝および祝会　説教：宮原守男監事（1952 年法）　「イエスの裁判」　※会報 93 号に講演録 |

| | |
|---|---|
| 1990/6/16 | 春季公開講演会　講師：高久史麿 東大医学部教授「日本の科学研究－現状と将来の展望」　※会報 94 号に講演録 |
| 1990/7/10 | 会報 93 号発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事長　「ただ神の栄光のために」<br>＊舎生寄稿　7 篇<br>＊蔵書整理報告（蔵書印、ラベル貼り付け、コンピューターに登録など完了。<br>＊OB 寄稿：梶村慎吾先輩（1969 年法）「『若竹』とのお別れ会」 |
| 1990/11/17 | 荒木亨 国際基督教大学教授（1957 年文・評議員）　「シフター・私的二項関係・御言葉－私小説と聖書の読み方」　※会報 95 号に講演録 |
| 1990/12/15 | クリスマス礼拝および祝会　説教：宮木保彦 教団ロシアム教会副牧師<br>舎生劇：「くもの糸」 |
| 1990/12/15 | 会報 94 号発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事長「慰め主としての聖霊」<br>＊舎生寄稿　5 篇、特別寄稿として、三沢和彦学生主事　「ザビエルに導かれて生誕の地まで」 |
| **1991 年（平成 3 年）** | |
| 1991/1/24 | 1990 年度第 3 回理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎1991 年度事業計画の件：聖書研究会、合同祈祷会、夏期修養会、座談会など<br>◎1991 年度予算の件<br>◎小田原登志郎氏死去に伴う評議員補充の件、学生理事一部改選の件など |
| 1991/1/26 | 1990 年度第 2 回評議員会（於 東京 YMCA ホテル）<br>◎1991 年度事業計画の件：聖書研究会：佐藤研氏に依頼・交渉、合同祈祷会、座談会など |
| 1991/5/11 | 創立記念礼拝（説教：宮田光雄 東北大教授）「みつばさの蔭に－ヨッヘン・クレッパーの信仰のうた－※会報 95 号に講演録 |
| 1991/5/11 | 1991 年度第 1 回理事会・評議員会：理事会は成瀬理事長、他理事が出席。評議員会の議事は、理事会にほぼ同じ<br>◎1990 年度事業報告の件<br>◆聖書研究会：引き続き月本昭男先生（1971 年文・理事）により、テーマは「詩篇を読む」<br>◆夏期修養会：8/6～8 日に、東大教育学部付属野尻寮に於いて実施。講師は、佐藤司郎 信濃町教会牧師<br>◆合同祈禱会 |

| | |
|---|---|
| | 4/12　雨宮栄一 東駒形教会牧師　「ベテスタの池の話」<br>6/14　大蔵浩之氏（1971 年経）　「海外のキリスト者の現状」<br>7/12　馬場進専務理事　「御霊によって歩きなさい」<br>10/11　佐藤司郎 牧師　「すべて重荷を負うているものは、私のところに来なさい」<br>2/14　二神康郎氏（1960 年農）「私の信仰生活」<br>◆OB 座談会<br>4 月　成瀬治理事長<br>5 月　柴沼明先輩（1950 年法・文）<br>10 月　駿河敬次郎理事　「ザンビアの話」<br>11 月　井上忠先輩（1948 年文）<br>2 月　高島光世先輩（1946 年農）<br>◎1990 年度決算の件、◎給水設備補修の件など |
| 1991/6/22 | 公開講演会　講師：榊裕之 東大生産研教授　「マイクロエレクトロニクスと量子力学」 |
| 1991/7/4 | 1991 年度第 2 回理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎下半期事業計画の件<br>◎役員任期満了に関する件など |
| 1991/7/10 | 会報 95 号発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事長「死への備え」<br>＊舎生寄稿　4 篇<br>＊馬場進専務理事　「入舎選考の在り方」<br>＊退舎生寄稿　4 篇 |
| 1991/11/7 | 1991 年度第 3 回理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎評議員 19 名の任期満了に伴う改選の件：年齢層を若い方に移行する方針であることと、評議員数は定款では 16 名以上 30 名以内と規定されており、従来の 20 名にはこだわらないことを確認<br>新評議員は、森原元夫（1927 年法）、岡田良一（1941 年法、農）、楠田洋（1942 年法）、能美英彦（1943 年工）、五十嵐雄一（1948 年法）、石原力（1948 年医）、橋本光男（1949 年理）、岩下昭比古（1952 年農）、加藤庄六（1952 年経）、高久史麿（1954 年医）、今村一男（1955 年医）、荒木亨（1957 年文）、二神康郎（1960 年農）、原田明夫（1963 年法）、梶村慎吾（1969 年法）、岩見宣治（1971 年工）、浦西友義（1974 年経）、山口栄一（1977 年理）、合田隆史（1978 年法）の以上 19 名<br>◎給水設備補修の件（老朽化により給排水管を全面的に取り換える工事が必要で見積額は 1970 万円で不足分は定額貯金の一部を取り崩す。工事期間は 92 年 4 月から 6 月） |

| | |
|---|---|
| | ◎その他：ファミール本郷から「外壁等の補修について同一時期の補修工事と、合わせてマンション管理組合に加入」の要望があったが、「保全整備について共同責任を担いつつも、組合には従来通り加入しない」ことが確認された。 |
| 1991/11 月 | 公開講演会　講師：斎藤晧彦 日本 YMCA 同盟学生部委員長・鳥取大教授）　「この状況の中で、育てつつ、育てられる」 |
| 1991/12/11 | クリスマス祝礼拝　奨励：成瀬治理事長「神われらと共にいます」、奏楽：岩下昭比古氏<br>新舎生による劇「ルカによる伝説」<br>出席者は、森原、関谷、岡崎、角田、岡田、能美、粂野、徳久、和久田、野崎、二神、大木、原田明夫、梶村、岩見、石川、小林、安野、近藤、瀬下、柴田、松田、大賀の各先輩　㋺51 号 |
| 1991/12/14 | 会報 96 号発行<br>＊巻頭言：宮本武之助先生　「東大 YMCA と私」<br>＊舎生寄稿 4 篇<br>＊「続 入舎選考会と寄宿舎の在り方」　馬場進専務理事、三沢和彦学生主事、柴谷光信兄の 3 篇 |
| **1992 年（平成 4 年）** | |
| 1992/1/30 | 1991 年度第 3 回理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎1992 年度事業計画の件<br>◆聖書研究会：講師は引き続き、佐藤研 立教大学助教授に依頼<br>◆合同祈祷会：4 月の奨励は根津教会 中村彊牧師に依頼、公開講演会など<br>◎1992 年度予算の件<br>◎建物・設備保全の件（今後増加すると予想される高額な修繕費の確保の方法等を検討するため「建物・設備保全委員会」の設置を決定） |
| 1992/2/1 | 評議員会（於：東大山上会館）：建物・設備及び外壁の補修工事に関しマンション側と歩調を合わせて行う必要があること等について審議 |
| 1992/3/7 | 1991 年度第 2 回評議員会（於：東大山上会議所）<br>◎1992 年度事業計画の件<br>◆聖書研究会：奨励は引き続き、佐藤研 立教大学助教授<br>◆合同祈祷会：4 月の奨励は中村彊 根津教会牧師<br>◎1992 度予算の件、◎建物・設備保全の件<br>◎役員改選の件：3/31 に理事 15 名全員が任期満了につき改選 |
| 1992/4/30 | 1992 年度臨時理事会：成瀬理事長、他理事が出席。現在の理事は、成瀬治、馬場進、駿河敬次郎、清水博、徳久俊彦、高井康雄、関口哲生、 |

| | |
|---|---|
| | 岩井要、野崎昭弘、垣内史堂の各氏、学生理事：小谷明生、五十川陽洋、小泉和史、高井啓介、湯地晃一郎兄の計 15 名、監事は弥永真生氏、主事は三沢和彦兄<br>◎理事長互選の件（全員一致により成瀬理事長の留任を決定）<br>◎建物・設備保全委員会の件：92 年度に給水管交換工事に 1,970 万円、93 年度に外壁補修工事に 1,892 万円を支出する。今後は長期的な観点から、建物保守と資金調達について委員会を立ち上げて、対策を検討する。またこれを機に、本会の存在意義や活動方針のビジョンを検討すべきとの意見あり |
| 1992/5/9 | 創立記念礼拝・祝会　奨励：市瀬晴夫氏（当会 OB・医師）「主に導かれて」 |
| 1992/5/9 | 1992 年度第 1 回理事会及び 1 回評議員会：理事会は成瀬理事長、他理事が出席。評議員会の議事は理事会にほぼ同じ<br>◎舎生数：現在 20 名（3 月に 7 名退舎、4 月に 6 名入舎）<br>◎1991 年度事業報告<br>◆聖書研究会：佐藤研 立教大学助教授を講師として、ロマ書を学ぶ。<br>◆夏期修養会：東大教育学部池の平寮において、テーマは「山に登る」<br>◆合同祈禱会<br>4/11　ベヤンテ・ボーマン宣教師（チェリスト）　「神の御旨に従って生きる」<br>5/9　山本三和人 ロゴス教会牧師　「文学的神奉仕」<br>6/13　中村彊 根津教会牧師　「神は愛なり」<br>7 月　佐藤陽二 牛込キリスト教会牧師<br>9 月　大口邦雄先生（1956 年理）<br>10 月　佐藤司郎 信濃町教会牧師<br>11 月　山本将信 西片町教会牧師<br>12 月　雨宮栄一 東駒形教会牧師<br>1 月　藤原位憲 巣鴨ときわ教会牧師<br>2 月　宮原守男監事（1952 年法）　「エマオへの道」<br>◆OB 座談会<br>4 月　成瀬治理事長<br>5 月　森重勝先輩（1959 年教養）<br>6 月　熊代昭彦先輩（1963 年法）　「これからの厚生行政の展望」<br>9 月　梶村慎吾先輩　「賛育会について」<br>10 月　森重勝先輩　「ロマネスク教会を訪ねるフランスの旅」<br>11/9　沖見勝也先輩（1966 年工）　「情報ネットワークの進化と今後の発展」 |

| | |
|---|---|
| | 1/23　荒井嵩先輩（1990 年法・自治省）<br>◎1991 年度事業計画の一部変更（給水管工事は経費（営繕費）ではなく、固定資産取得の支出に変更）<br>◎1991 年度収支予算変更承認の件（給水管工事に伴う予算の変更）<br>◎1991 年度収支計算書報告の件など |
| 1992/6/13 | 公開講演会　講師：大久保忠旦 東大農学部教授（1956 年農）「草原植生と家畜―環境問題との関連で考える」 |
| 1992/7/2 | 1992 年度第 2 回理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎1992 年度下期事業計画の件（合同祈祷会、座談会、公開講演会など）<br>◎建物外壁補修の件（1993/2 月頃着工を目途にマンションと共同で工事を行う計画で調整中、これに伴う本会の資金繰りについては継続審議）など |
| 1992/7/11 | 会報 97 号発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事長「愛と栄誉」<br>＊OB 寄稿：　妹尾次郎先輩（1935 年理）　「河田茂先輩の遺著」、山本富雄先輩　「東大 YMCA 在京 OB 有志の会だより」、　岩見宣治先輩（1971 年工）　「会館建物老朽化の話」<br>＊舎生寄稿 4 篇<br>＊三沢和彦 学生主事「東大 YMCA の今後を考える－第 1 回入舎選考会に伴う最近の問題点」（新入舎生の応募の減少や選考会の長時間化など） |
| 1992/11/14 | 公開講演会　講師：加美山節 賛育会理事（1943 年）　「東大 YMCA と社団法人賛育会」 |
| 1992/12/11 | 会報 98 号発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事長<br>＊舎生寄稿　5 篇　※最近の東大 Y の活動を見直したいという小論を含む。<br>＊三沢和彦 学生主事「東大 YMCA の今後を考える－第 2 回入舎選考会に伴う最近の問題点」 |
| 1992/12/19 | クリスマス礼拝及び祝会　奨励：雨宮栄一牧師「求めよ、まことの光を。」<br>舎生劇：「取税人ザアカイ物語」 |
| **1993 年（平成 5 年）** | |
| 1993/2/4 | 1992 年度第 3 回理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎1993 年度事業計画の件 |

| | |
|---|---|
| | ◆聖書研究会：奨励は引き続き佐藤研 立教大学助教授<br>◆合同祈祷会、公開講演会など<br>◎1993 年度予算の件など<br>◆建物設備修理保全の件：全員一致にて理事会提案を承認 |
| 1993/2/6 | 1992 年度第 2 回評議員会　2/4 理事会議事事項にほぼ同じ |
| 1993/5/8 | 創立記念礼拝・祝会　奨励：成瀬理事長「主にある交わり」 |
| 1993/5/8 | 1993 年度第 1 回理事会及び第 1 回評議員会：成瀬理事長、他理事が出席。評議員会の議事は理事会にほぼ同じ<br>◎1992 年度事業報告の件<br>◆舎生数は 21 名、うちプロテスタントは 12 名、カトリックは 9 名<br>◆聖書研究会：昨年に引き続き、佐藤研 立教大学助教授を招き、「マルコの福音書」を学ぶ。<br>◆夏期修養会（7/29～31）　東大野尻寮において 7 名参加。「アンリ・セルーヤ著『神秘主義』をテキストに議論<br>◆合同祈禱会<br>4/9　宮原守男 監事（52 年法）<br>5/14　中村彊 根津教会牧師<br>7/9　馬場進 専務理事<br>10/8　佐藤司郎 信濃町教会牧師<br>11/12　佐藤陽二 牛込キリスト教会牧師<br>1/14　定家修身 本郷弓町教会牧師<br>2/11　西村俊昭 砧教会牧師<br>◆OB 座談会<br>5/22　山田祐彰先輩（87 年農・NGO 活動推進センター）<br>9/25　弥永真生先輩（86 年法・筑波大学助教授）<br>10/22　谷岡文城先輩（88 年法・大蔵省）※現姓：桜内文城氏<br>11/26　川越厚先輩（ライフケアシステム・メディカルディレク）<br>1/28　八木征司先輩（新日鉄情報通信システム）<br>2/25　水本和実（朝日新聞）<br>◆建物外壁大規模補修工事の件（屋上防水を除き 6/10 までにほぼ完了、外壁は当初見込みより劣化が進んでいた）<br>◎1992 年度決算の件<br>◎楠田洋評議員の逝去に伴う補充の件（後任は、東大生産研究所 原島文雄教授に決定）<br>◎関西 OB 会の件など |
| 1993/5/23 | 春季公開講演会　講師：日野原重明 国際聖路加国際病院長　「いのちをみつめて」　東大五月祭会場にて実施　※会報 100 号に講演録 |

| | |
|---|---|
| 1993/7/11 | 会報 99 号発行<br>＊巻頭言　三沢和彦学生主事<br>＊舎生寄稿　5 篇<br>＊OB 寄稿：妹尾次郎（1935 年理）氏　「内ケ崎作三郎先輩の一著書とご活躍の一端」、山本富雄氏（1916 年経・元青年海外協力隊カウンセラー）　「東大 Y 在京 OB 会だより（1936～43 年卒)」、原崎郁平氏「追想（大学卒 50 年記念として)」 |
| 1993/10/23 | 関西 OB 会：大阪朝日新聞「うつぼクラブ」にて、24 名出席。講演：山形謙二氏「終末医療の現場より」 |
| 1993/11/6 | 秋季公開講演会　講師：駿河敬次郎理事（葛南病院院長）　「アフリカの今」（ザンビアの小児医療を通して） |
| 1993/11/19 | 臨時理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎建物・設備大規模修理による募金の件；一昨年来大規模補修に計 3,700 万円の経費を要し、運用資産 8,000 万円が大幅に減少。加えて来年以降に、寄宿舎の内装補修に 1,500 万円の経費が見込まれることから募金が必要となった。<br>◎募金計画の概要：名称は「寄宿舎建物設備修繕募金」、目的は、「1994～1996 年度に行う寄宿舎内部改修資金及び寄宿舎維持修繕募金の計 2,000 万円」、目標金額は 1,000 万円で全会員に募金を要請、期間は 1993 年 12 月から 1 年間<br>◎評議員選任の件（大島誠氏の辞任に伴い、倉光泰隆氏と霜垣幸浩氏に依頼することを決定） |
| 1993/12/11 | クリスマス祝礼拝　奨励：中沢宣夫先生（本会 OB）「新しい人」<br>舎生劇：「三番目の十字架」 |
| 1993/12/11 | 会報 100 号発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事長　「イエスはともにいます」<br>＊OB 寄稿：関口哲生氏「関西 OB 会だより」、山形謙二氏（72 年理）「終末期医療の現場より」、高橋佑一郎氏（1987 年文）「北米の教会とアジアの教会管見」、築山俊昭氏「補遺二件」、蒲田常治氏「ひろげよう愛の輪を」、大津秀暁氏（1990 年理）「会報 100 号によせて」、小谷明生氏「外から東大 YMCA を眺めてみて」、　矢治健太郎「これからの YM に望むこと」<br>＊100 号記念特集「会報をふりかえって―会報を通して YM の 105 年を浮き彫りにする！」<br>（執筆者：五百旗頭薫、五十川陽洋、松井隆造、小泉和史、宮沢啓明、弓田竜、柳原克彦、若松英士の舎生諸兄）<br>＊五月祭講演会講演録　講師：日野原重明 国際聖路加国際病院長「い |

| | |
|---|---|
| | のちを見つめて」<br>＊舎生寄稿　5 篇<br>＊「スクープ電撃結婚！　あの毛利兄、遂に・・・」 |
| **1994 年（平成 6 年）** | |
| 1994/1/29 | 1993 年度第 3 回理事会・第 2 回評議員会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎1994 年度事業計画の件：聖書研究会、合同祈祷会、座談会、公開講演会など<br>◎1994 年度予算の件<br>◎理事改選の件：評議員会において理事・監事の改選（任期は 94 年 4/1～96 年 3/31）<br>先輩理事：成瀬治 成城大学教授（1950 年）、馬場進（1930 年）、駿河敬次郎 市川葛南病院院長（1944 年）、高井康雄 東京農大教授（1947 年）、徳久俊彦 大成火災海上専務取締役（1953 年）、岩井要 真設計事務所長（1954 年）、関口哲生 神戸海星女子大教授（1954 年）、清水博 金沢工業大学教授・場野研究所長（1956 年）、野崎昭弘 大妻女子大教授（1959 年）、垣内史堂 東邦大学医学部教授（1970 年）<br>学生理事：岩佐明彦、大川真理、五百籏頭薫、宮澤啓明、弓田竜の各兄<br>監事：宮原守男 弁護士（1952 年）及び弥永真生 筑波大学助教授<br>◎評議員改選の件：1993/7/1、11/19、及び 1994/1/28 の理事会にて次期評議員が選出された（任期は 2 年）。岡田良一（1941 年日本海運会館監査役）、能美英彦（1943 年・開発設計㈱）、五十嵐雄一（1948 年・イオン興産）、石原力（1948 年・賛育会病院長）、橋本光男（1949 年）、岩下昭比古（1952 年）、加藤庄六（1952 年・ロンロー・パシフィック㈱）、高久史麿（1954 年・国立国際医療センター）、今村一男（1955 年・ますみ会クリニック）、荒木亨（1957 年・国際基督教大学）、二神康郎（1960 年・東食）、原島文雄（1962 年・東大生産技術研究所）、原田明夫（1963 年・法務省）、梶村慎吾（1969 年・賛育会）、木村庸五（1970 年・弁護士）、小堀洋志（1971 年・鹿島建設㈱）、月本昭男（1971 年・立教大学）、市川祐三（1974 年・総理府）、浦西友義（1974 年・東京国税局）、倉光泰隆（1978 年・東京銀行）、霜垣幸浩（1984 年・東京大学）の各氏<br>◎建物設備補修募金：目標額 1,000 万円のところ 6 月 20 日現在で、126 名から約 704 万円の入金）<br>◎鈴木道剛氏（1974 年文・岡山大学助教授）が、立教大学「辻荘一・三浦アンナ記念学術奨励賞（キリスト教美術研究部門）」を受賞 |
| 1994/5/14 | 創立記念礼拝・祝会　奨励：関谷正彦 元聖公会司祭　「日本における明治以降のキリスト教を回顧し、大志をもって将来を迎えたい」　※会 |

| | |
|---|---|
| | 報 102 号に講演録 |
| 1994/5/14 | 1994 年度第 1 回理事会：成瀬理事長、他理事が出席。第 1 回評議員会：議事は理事会にほぼ同じ<br>◎1993 年度事業計画の一部変更の件、93 年度予算補正の件<br>◎1993 年度事業報告の件<br>◆舎生数（年平均）19 名（うち留学生 3 名）<br>◆聖書研究会：　講師は、佐藤研 立教大学助教授「マルコによる福音書」<br>◆夏期修養会：8/11～13 日に東大野尻湖寮にて実施<br>◆合同祈禱会：<br>4/9　宮原守男 監事<br>5/13　山本将信 西片町教会牧師<br>7/8　中村彊 根津教会牧師<br>10/7　細川勝利 浜田山キリスト教会牧師<br>12/9　尾山令仁 聖書キリスト教会牧師<br>1/13　雨宮栄一 東駒形教会牧師<br>3/10　佐藤司郎 信濃町教会牧師<br>◆OB 座談会<br>4/20　成瀬治 理事長ほか 3 名の理事<br>5/27　高沢金吾先輩　「宇宙について」<br>6/24　岩井要先輩　「学生時代の思い出と新舎屋建築の苦労話」<br>9/30　藤島尚和先輩　「公文教育について」<br>10/28　粂野文雄先輩<br>11/25　市川祐三先輩<br>1/27　前川守先輩<br>◆他大学 YMCA との交流<br>5 月に英国 RICHMOND COLLEGE の学生約 20 名が来舎、交流会を実施<br>6 月に早稲田大学 YMCA とのサッカーの試合などを実施<br>◎1993 年度決算の件<br>◎12/1　東大 YMCA「建物・設備補修募金のお願い」を発出。募金目標額：1 千万円、期間：1993 年 12 月～1994 年 12 月末日。募金総額は 3 月末現在で約 640 万円）の件<br>◎日本 YMCA 同盟委員に木村庸五氏が就任 |
| 1994/6/11 | 春季公開講演会　講師：杉山好東大名誉教授（恵泉女子大学教授）「青年バッハの旅立ち」　※会報 102 号に報告 |
| 1994/7/16 | 会報 101 号発行 |

| | |
|---|---|
| | ＊巻頭言：成瀬治理事長「聖徒の交わり」<br>＊永松克巳先生（1933 年文・1994/2/17 帰天）追悼：　河田弘氏（河田茂氏の長男・賛育会後援会長）「わが信仰の兄、先生」、古川清氏（1940 年農）「回想」、岡田良一氏（1941 年法）「永松さんを偲ぶ」、山本富雄氏「故永松主事を偲び、舎生に訴える」、加美山節氏（ICU 基金理事、日本 YMCA 同盟理事長）「永松克己先生と ICU」、永松正子氏「思い出すこと」（※1945 年 5 月の空襲ではバケツリレーで火災を免れたこと、その後青年会の二舎に家族で住んでいたことなど記述あり）<br>＊OB 寄稿：妹尾次郎氏「ジョン・アール・モット氏のこと」、山本富雄氏「東大 YM・OB 会だより」（1936～1943 年卒の在京 OB 会）、<br>粂野文雄氏「1952～54 年卒業同期会」、合田隆史氏「感謝（ニューヨークでの礼拝と交わり）」、岡田謙介氏（1979 年農）「謹賀新年」（コロンビアから）、橋本徹氏（1986 年工）「ボストンより」、近藤信和氏（1987 年法）「イギリス渡航」<br>＊舎生寄稿　17 篇 |
| 1994/10/16 | 第 1 回会館内部補修についての委員会（徳久、岩井、小堀氏と、舎生：岩佐、若松兄、事務：加藤さん）<br>岩佐明彦兄より「舎の補修に向けて」の報告があり、現在の募金総額の 800 万円以内で計画すること、舎生ができる所は自力で行うこと、基本調査・工事範囲とついては小堀洋志氏に検討を依頼することなどが確認された。 |
| 1994/12/10 | クリスマス祝礼拝　奨励：月本昭男 立教大学教授　「イエス・キリストの『誕生』に想うこと」<br>舎生劇：「イカロスの卵」（劇音楽は小泉和史兄作曲） |
| 1994/12/10 | 第 2 回東大 YMCA 会館内部補修についての委員会（成瀬、岩井、小堀、三沢氏と、舎生：岩佐、若松兄、事務：加藤さん）<br>岩佐明彦兄の「舎生による内装補修計画」の中間報告、見積もり結果（設備類を除く内装工事のみで 1,300 万円余）の報告があり、さらに具体案の検討を進めることが確認された。その後、岩佐明彦兄から 1995/06/15 付け「東大 YMCA 内装工事に関して」のメモが提出された。 |
| 1994/12/10 | 会報 102 号発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事長「悔い改めて主を迎えよ」<br>＊三沢和彦学生主事「東大 Y の伝統である『無限の可能性』に賭ける」、「スケバン刑事 II と物理学」<br>＊三沢和彦兄の退舎に寄せて、舎生から寄稿 7 篇<br>＊舎生寄稿　8 篇 |

| | |
|---|---|
| | ＊追悼：馬場進専務理事「関谷正彦先輩（1932 年法・1994・8/27 帰天）　※関谷氏の奥様は森有正氏の妹 |
| 1994/12/17 | 秋季公開講演会　講師：三浦永光氏 「環境問題と自然観の転換」 |
| **1995 年（平成 7 年）** | |
| **1995/1/17** | **阪神淡路大震災** |
| 1995/1/28 | 定期評議員会及び理事会開催；成瀬理事長欠席の為駿河理事が議長<br>◎1995 年度事業計画、収支予算<br>◎学生理事 1 名辞任に伴う補欠理事選出（岩佐明彦兄⇒武田誠兄）<br>◎建物内部補修の件 |
| 1995/2/4 | 1994 年度第 3 回理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎1995 年度事業計画承認の件、◎1995 年度予算の件<br>◎建物内部補修の件：「内装補修委員会報告」のとおり、見積金額は内装・照明・冷凍機交換等を含めて約 1,500 万円であり、さらに改修内容・規模の再検討を進めること<br>◎補修募金状況報告の件：募金総額は 3 月末現在で約 860 万円 |
| 1995/5/13 | 創立記念礼拝及び祝会：会館再建 20 周年<br>奨励：馬場進前専務理事　「我が酒杯は溢るるなり」　※会報 103 号に講演録 |
| 1995/5/13 | 1995 年度第 1 回理事会・第 1 回評議員会：理事会は成瀬理事長、他理事が出席。評議員会の議事は理事会にほぼ同じ<br>◎1994 年度事業報告の件<br>◆平均舎生数：21 名（うち留学生 3 名）<br>◆聖書研究会：泉守彦先生（東大倫理学科大学院卒、東大特別研究員、ロマ書などパウロ思想の研究）を招き、ルカによる福音書を学ぶ。<br>◆夏期修養会（8/8～10 日）　東大乗鞍寮に於いて、「互いの交わり」をテーマに実施。<br>◆合同祈禱会<br>4/14　宮原守男 監事<br>5/12　佐藤陽二 牛込キリスト教会牧師<br>7/2　尾山令仁 聖書キリスト教会牧師<br>10/13　三沢和彦 学生主事<br>11/10　定家修身 弓町本郷教会牧師<br>12/8　細川勝利 浜田山キリスト教会牧師<br>2/9　雨宮栄一 東駒形教会牧師<br>◆OB 座談会<br>5/26　山口栄一先輩（1977 年理）　「常温核融合とフランスでの研究生活」 |

| | |
|---|---|
| | 6/23　加藤庄六先輩（1952 年）　「ヨーロッパ放浪記」<br>10/27　小堀洋志先輩（1971 年工）　「アメリカから見た日本」<br>11/24　山田祐彰先輩（1987 年）　「ブラジルの森林学」<br>2/23　高橋雅二先輩（1961 年）　「外交官の仕事と生活」<br>◎1994 年度決算の件、<br>◎建物内部補修の件<br>◆10/6　第 1 回寄宿舎内装補修委員会（委員会に先立ち、岩井理事、岩佐明彦学生理事が各室点検を実施)、11/28 内部状況の点検（岩井理事、小堀洋志評議員、及びリフォーム会社大興物産)、1/10 第 2 回内装補修委員会を実施。補修必要箇所は、①外部金具の故障、②照明器具の全般的な老朽化、③天井剥離、④壁のビニールクロスの破損・汚れ、⑤床のモザイクパーケットの剥がれや浮きなど |
| 1995/6/3 | 春季講演会　講師：杉山好東大名誉教授　「大学都市ライプツィヒとバッハ」　※会報 104 号に報告 |
| 1995/7/3 | 1995 年度第 2 回理事会：成瀬理事長は欠席、駿河敬次郎理事他が出席<br>◎建物設備補修の件<br>◎1995 年度下期事業計画の件：聖書研究会（3 月末まで、泉守彦 明治学院大講師による「ローマ人への手紙」)、合同祈祷会、公開講演会など |
| 1995/7/6 | 会報 103 号発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事長「仕えあうかたち」<br>＊OB 寄稿：山本富雄氏「1935～45 年卒同期会」、粂野文雄氏「51～55 年同期会」、「小堀洋志氏・吉岡直人氏「『若手会』第？会親睦会の報告」、梶村慎吾氏「吉野作造記念館開館する」<br>＊舎生寄稿 9 篇 |
| 1995/10/18 | 臨時理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎建物内部補修追加（床）の件、◎補修募金の件<br>◎評議員改選の件：選出された次期評議員は計 28 名で、以下のとおり。任期は 1996 年 1 月 1 日～97 年 12 月 31 日)。　岡田良一（1941 年法)、能美英彦（1943 年工)、五十嵐雄一（1948 年法)、石原力（1948 年医)、橋本光男（1949 年理)、岩下昭比古（1952 年農)、加藤庄六（1952 年経)、高久史麿（1954 年医)、今村一男（1955 年医)、荒木亨（1957 年文)、二神康郎（1960 年農)、原島文雄（1962 年工所)、原田明夫（1963 年法)、梶村慎吾（1969 年法)、木村庸五（1970 年法)、小堀洋志（1971 年工)、月本昭男（1971 年文)、市川祐三（1974 年経)、浦西友義（1974 年経)、倉光泰隆（1978 年法)、霜垣幸浩（1984 年工）の各氏※以上再任、橋本章（1959 年法)、黒川次郎（1960 年法)、高澤金吾（1964 年工)、飯高茂（1965 年理)、榊裕之（1968 年工)、吉 |

| | |
|---|---|
| | 岡直人（1972 年理）、北彰（1973 年文）の各氏　以上新任 |
| 1995/11/11 | 関西 OB 会：大阪サイエンスクラブにて、25 名参加。阪神淡路大震災の年 |
| 1995/11/18 | 秋季公開講演会　講師：浅見定雄 東北学院大学教授（神学博士）<br>「新宗教と日本の若者達―カルトの問題とは」 |
| 1995/12/9 | クリスマス礼拝　説教：徳永五郎 東京城西教会牧師（先輩会員）<br>「キリストの貧しさ」<br>舎生劇：「靴屋のマルチン」（トルストイ民話集より）団長：渡辺頼勝兄、60 余名が参加<br>※内装工事がこの前日に完了、見違えるほどきれいになった会館で祝会を開催　㋕63 号 |
| 1995/12/11 | 会報 104 号発行<br>＊巻頭言：成瀬治理事長「ふたたび『聖徒の交わり』」<br>＊追悼：吉川需先生　岡田良一氏（1941 年法）「吉川さんの思い出」、能美英彦氏（1943 年工）「優しい眼差し」、藤原郁夫氏（1943 年医）「吉川君と音楽に関する私的な思い出」、白戸四郎氏（1948 年医）「吉川需兄を偲んで」、渡邉守道氏（1948 年法）「需ちゃんを思う」、成瀬治氏（1950 年文）「吉川さんの思い出」、岩井要氏（1954 年工）「吉川需さんと私」、荒木亨氏（1957 年文）「吉川先生を想う」<br>＊舎生寄稿　11 篇<br>＊五百旗頭薫兄　「高田畊安先輩の足跡―南湖院をしのぶ」<br>＊OB 寄稿：　木村梯一氏（1989 年工）　「関西 OB 会報告」 |
| **1996 年（平成 8 年）** | |
| 1996/1/27 | 評議員会<br>出席は、岡田、五十嵐、橋本、今村、霜垣の各評議員のほか、黒川、高沢、吉岡の新任評議員<br>◎理事・監事改選の件：全員の任期満了に伴い、以下の理事・監事を指名した。任期は 1996 年 4 月 1 日から 1998 年 3 月 31 日まで）<br>理事：駿河敬次郎氏（1944 年医）、高井康雄（1947 年農）、成瀬治（1950 年文）、徳久俊彦（1953 年経）、岩井要（1954 年工）、関口哲生（1954 年工）、清水博（1956 年薬）、野崎昭弘（1959 年理）、垣内史堂（1970 年医）の各氏　※以上再任　大口邦雄（1956 年理）新任、新任学生理事は、奥山博史、清水知足、井川修、渡辺頼勝、松田恵利也の各兄。監事：宮原守男氏（1952 年法）及び弥永真生氏（1986 年法）　以上再任<br>馬場進理事より退任の申し出があり、理事会はこれを了承した。後任理 |

| | |
|---|---|
| | 事は大口邦雄氏 |
| 1996/2/1 | 1995 年度第 4 回理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎1996 年度事業計画の件（聖書研究会、合同祈祷会、座談会、公開講演会など）<br>◎1996 年度予算の件<br>◎常務（専務）理事選任の件、（徳久俊彦氏が 1996 年 4 月より常務理事に就任）<br>◎建物内部補修工事の件（1995/7/17～8/25、2,350 万円）など<br>◎客室料金を改定（会員及び家族は、洋室 4,000 円、和室 3,000 円） |
| 1996/3/26 | 地下鉄南北線「東大前」駅　開業、東大 YMCA は、駅から 1 分の至近距離となった。 |
| 1996/4/8 | はがき通信第 64 号発行、今号から徳久 新常務理事が発行責任者<br>＊定期評議委員会及び理事会　＊建物補修募金　＊創立記念礼拝及び会員総会　＊公開講演会<br>＊新舎生募集　＊「地下鉄が便利になりました」 |
| 1996/5/11 | 創立記念礼拝　奨励：徳久俊彦常務理事「変わらざるもの、変わるべきもの」　※会報 105 号に講演録 |
| 1996/5/11 | 1996 年度第 1 回理事会：徳久常務理事、他理事が出席。第 1 回評議員会<br>◎理事長選出の件：理事の互選により、理事長は成瀬治氏（再任）、常務理事は、徳久俊彦氏（新任）が選出された。<br>◎1995 年度事業報告の件<br>◆舎生数：23 名（うち留学生 3 名）<br>◆聖書研究会：引き続き、泉守彦 明治学院大学講師（東大倫理卒）を招き、「ローマ人への手紙」を読む。<br>◆1995/7/31（平 7）夏期修養会（～8/2）　東大山中寮にて、講師は泉先生<br>◆合同祈禱会<br>4/13　宮原守男 監事<br>5/11　佐藤司郎 信濃町教会牧師<br>6/8　弥永真生 監事（筑波大助教授）<br>7/13　佐藤研 立教大学助教授<br>10/12　二俣松四郎 弓町本郷教会<br>12/14　山本裕司 西片町教会牧師<br>2/9　雨宮栄一 東駒形教会牧師<br>◆OB 座談会<br>5/25　窪田明先輩（1957 年）　「カナダ・日本・アメリカでの生活」<br>9/28　野崎昭弘先輩（1959 年）　「ギリシャ人の考えたこと」 |

| | |
|---|---|
| | 10/26　関栄次先輩（1953 年）　「外国から見た日本」<br>11/30　山本富雄先輩（1941 年）<br>2/22　谷岡文城先輩（1988 年）<br>◆内装工事報告　学生委員 岩佐明彦兄<br>◎1995 年度決算の件<br>◎その他<br>①会館内部補修の募金は、311 人の会員から総額：約 1,800 万円<br>②内外学生センター（旧学徒援護会）から留学生宿舎提供に対する補助金として年間 11 万円を受領　③馬場専務理事に名誉理事をお願いする件（寄付行為の改訂を伴うこと、寄付行為には専務理事の規定がないことなどにより改訂が必要との議論）<br>④理事各位との連絡方法の充実など<br>1996 年度第 1 回評議員会：議事は理事会にほぼ同じ |
| 1996/5/25 | 公開講演会　講師：宮田光雄 東北大学名誉教授　「それでもリンゴを植えよう～世紀末を目指して～」　※会報 106 号に講演録 |
| 1996/7/12 | 会報 105 号発行<br>＊巻頭言：駿河敬次郎理事<br>＊追悼：徳久俊彦氏「安井琢磨先生（1931 年経・1995/12/17 帰天）を偲ぶ」<br>＊追悼：保田幹男氏（1941 年農）「志保田進兄（41 年農・1995/12/24 帰天）を偲びて」、　古川清氏（1940 年農）「追悼の辞」<br>＊舎生寄稿　8 篇<br>＊「南北線開通（1996 年 3 月）のお話」<br>＊荒木亨氏（1957 年文）　「年表作成の頃」（OB 座談会より）<br>＊OB 通信：粂野文雄氏（1953 年農）「第 3 回 OB 同期会（51～55 年卒）報告」 |
| 1996/7/13 | 1996 年度第 2 回理事会：成瀬理事長、他理事が出席<br>◎1996 年度下期事業計画の件（聖書研究会：東駒形教会 雨宮栄一牧師によるマルコ福音書、合同祈祷会、座談会、公開講演会など）<br>◎馬場専務理事の名誉理事推挙の件<br>◎監督官庁に 95 年度事業報告及び決算書を提出する件など<br>＃6/15 日本 YMCA 同盟委員会において、高野孫左衛門氏任期満了で退任し、後任に岡田久雄氏（三菱電機副社長）が就任 ㊇65 号 |
| 1996/10/19 | 公開講演会：杉山好 恵泉女学園大学教授・東大名誉教授　「バッハの宗教改革カンタータを巡って」　※会報 107 号に報告 |
| 1996/12/14 | クリスマス祝礼拝　説教：東駒形教会 雨宮栄一牧師「博士の贈り物」<br>舎生劇：「ペテロ」（チェーホフ作「学生」より）　55 名の先輩・家族 |

| | |
|---|---|
| | が参加 |
| 1996/12/14 | 会報 106 号発行<br>＊巻頭言：徳久俊彦常務理事<br>＊特集「追悼　大塚久雄先輩」徳久俊彦氏「大塚久雄先輩を偲ぶ」、隅谷三喜夫氏「大塚先生と大塚史学」、住谷一彦先輩に聞く「大塚久雄先生と私」<br>＊追悼：「若泉敬兄（1954 年法・1996/7/28 帰天」、関口哲生氏「渡邉肇兄（1958 年経・1996/10/26 帰天）を偲ぶ」、「故 宮内啓行兄（1979 年・1995/10/31 帰天）、記念会報告」（1977～1982 年卒一同）・岩崎英二氏（1979 年工）、山口栄一氏（1977 年理）<br>＊特集「YM 就職戦線」<br>＊舎生寄稿　3 篇 |
| **1997 年（平成 9 年）** | |
| 1997/1/25 | 1996 年度第 2 回評議員会：<br>◎1997 年度事業計画の件：聖書研究会、合同祈祷会、座談会、公開講演会など<br>◎1997 年度予算の件 |
| 1997/2/1 | 1996 年度第 3 回理事会：<br>◎1997 年度事業計画承認の件：聖書研究会、合同祈祷会、座談会、公開講演会など<br>◎1997 年度予算承認の件<br>◎理事長交代の件：1997 年 4 月 1 日より、大口邦雄理事が理事長に就任することを承認可決 |
| 1997/5/10 | 創立記念礼拝：大口邦雄理事長「信仰と知性」　※会報 107 号に講演録 |
| 1997/5/10 | 第 1 回評議員会・理事会：<br>◎1996 年度事業報告の件<br>◆聖書研究会（雨宮牧師は岐阜に赴任のため 1 年で終了）<br>◆夏期修養会（7/31～8/2）　於：東大山中湖寮　テーマ：「職業と信仰」、「教会活動と個人」<br>◆合同祈祷会：<br>4/11 宮原守男 監事<br>5/9 佐藤陽二 牛込キリスト教会牧師<br>7/13 定家修身 弓町本郷教会牧師<br>9/12 若松英士兄（舎外会員）<br>12/12 徳久俊彦 常務理事<br>◆OB 座談会 |

| | |
|---|---|
| | 5/30 荒木亨　「青年会の年表作成の頃」　※会報 105 号に報告<br>6/27 榊裕之　「エレクトロニクスの進展と社会－基礎科学と社会変革の視点から」<br>9/26 山本富雄/河田弘（慶応大学 Y の OB）「第 2 次大戦直前の学 Y 運動」　※会報 106 号に報告<br>10/24 住谷一彦　「大塚久雄先生と私」　※会報 106 号に報告<br>11/28 高沢金吾　「次世代航空機の開発とその課題」<br>1/23 西村和雄　「複雑系経済学と私」<br>2/27 岩島久夫　「変質した冷戦後の国際情勢と日本」など）<br>◆年次別同期会：　4/27 第 3 回 OB 同期生談話会（1951～1955 年卒）※会報 105 号に報告<br>◎その他<br>◆6/21 都教育委に 95 年度事業報告を提出<br>◆松田智雄先生より約 1 千冊の蔵書の寄贈を受ける。 |
| 1997/5/17 | 公開講演会：　荒井献先生「腸のちぎれる思いに駆られてー岩波版・新約聖書翻訳の意図と特徴について」　※会報 108 号に講演録 |
| 1997/7/10 | 会館玄関脇のガラスが何者かにより破られる。明らかに人為的な行為ながら詳細は不明のまま |
| 1997/8/31 | 会報 107 号発行<br>＊巻頭言：高井康雄理事「終戦前後の舎生活を振り返って」<br>＊大口邦雄氏「理事長就任にあたって」<br>＊特集　追悼「宮本武之助先輩（1930 年文・1997/3/6 帰天）」　徳久俊彦氏「宮本先輩を想う」、　馬場進名誉理事「宮本武之助君の思い出」、　寺田武男氏（一橋大学 YMCA OB）「宮本武之助先生との出会いと別れ」、　岩井要氏「宮本武之助先生と教会建築」<br>＊舎生寄稿　10 篇<br>＊山本富雄先輩（1941 年経）「第二次大戦直前の学 Y 運動」　※OB 座談会より<br>＊徳久俊彦氏「堀江薫雄先輩（1928 年法・当時 94 歳）に聞く」<br>＊OB 寄稿：山本富雄先輩「1935～1945 年卒 OB 会」、高井康雄理事（1947 年農）「終戦直後在舎生の会」、田中敬一氏（1954 年工）「1951～55 年卒同期会」（岩島久夫氏の講演あり） |
| 1997/9/6 | 理事会 |
| 1997/11/8 | 公開講演会　講師：杉山好 恵泉女学園大学教授、東大名誉教授）先生「ヘンデルの広さとバッハの深さ」 |
| 1997/12/6 | 97 年度理事会<br>◎評議員改選の件（12 月末に任期が満了する全評議員の改選を行い、 |

| | |
|---|---|
| | 以下の次期評議員を選出<br>石原力、加藤庄六、高久史麿、今村一男、荒木亨、橋本章、黒川次郎、二神康郎、原島文雄、原田明夫、高沢金吾、飯高茂、榊裕之、梶村慎吾、木村庸五、小堀洋志、月本昭男、吉岡直人、北彰、市川祐三、霜垣幸浩の各氏（以上再任）、北村一男、狩野照、松村寛三郎、久保田省吾、山口栄一の各氏（以上新任）、計 19 名。岡田良一、能美英彦、五十嵐雄一、橋本光男、岩下昭比古、浦西友義、倉光泰隆の各氏は退任<br>◎寄付行為内規の件：内規として「顧問推挙に関する規定」及び「名誉理事推挙に関する規定を採択。「顧問」は評議員・会員として、「名誉理事」は理事として永年多大な貢献をした者の中から推挙する。 |
| 1997/12/13 | クリスマス祝礼拝　説教：上林純一郎牧師「Rejoice 喜べ！」 |
| 1997/12/13 | 会報 108 号発行<br>＊巻頭言：岩井要理事「きらめく作品の群れに囲まれて」<br>＊成瀬治前理事長「理事長職を終えて」<br>＊岩井要氏「職業としての建築家―プロフェッションの倫理について」<br>※OB 座談会より<br>＊舎生寄稿　3 篇<br>＊97 年度夏期修養会報告<br>＊追悼：「湯浅恭三兄」（1924 年法・1997/8/3 帰天）　斎藤総衛 前日本 YMCA 同盟総主事「湯浅恭三先生を偲ぶ」、　徳久俊彦氏「湯浅恭三先輩のこと」、　馬場進氏「湯浅恭三さんの思い出」<br>＊追悼「黒沼栄一兄（1941 年理・1997/8/13 帰天）」　赤間道義氏（1941 年文）「黒沼栄一先輩の思い出」、　片岡眞一氏「黒沼栄一先輩を偲ぶ」<br>＊OB 寄稿：徳久俊彦氏「追悼　植松健一先生（早大 YMCA 前理事長・1997/9/13 帰天）」、徳久俊彦氏「星島二郎先輩とアンジェラスの鐘」、梶村慎吾氏「55 年代在舎生懇親会」報告と西山竜平レクイエム「わだつみの声」上演のお知らせ |
| **1998 年（平成 10 年）** | |
| 1998/1/31 | 1997 年度第 3 回理事会：<br>◎事業計画承認の件：◆創立 110 周年記念事業としてシンポジウム開催などの諸活動<br>◆聖書研究会（引き続き、上林純一郎牧師）、合同祈祷会、座談会、公開講演会など<br>◆創立 110 周年記念募金の件、◆賛助会員の拡大の件、◆「自由文庫」設置の件（大口理事長からの提案で、先輩に文庫・新書など 1 冊ずつの寄贈を依頼し、食堂などに書棚を置く。ただし、一切の管理をしない無 |

| | |
|---|---|
| | 管理方式とする案）などの事業計画あり<br>◎1998 年度予算の件、◎寄付行為内規の改正の件（「顧問」に関する件)、顧問推挙の件≪岡田良一（1941 年法卒)、能美英彦（1943 年工)、五十嵐雄一（1948 年法)、橋本光男（1949 年理)、岩下昭比古（1952 年農）の各氏 5 名に顧問を委嘱する≫など<br>1997 年度第 2 回評議員会：議事は理事会議事に加え、理事・監事改選の件（3 月末をもって任期満了となる全理事・監事の改選を行い、以下の理事・監事を選出した。大口邦雄、徳久俊彦、駿河敬次郎、成瀬治、岩井要、関口哲生、野崎昭弘、垣内史堂、渡辺頼勝、井川修、中村義哉、小倉和夫（以上再任)、橋本徹、原島文雄、蛯浦道生の各氏（以上新任）　計 15 名。退任は、高井康雄、清水博、奥山博史の各氏の 3 名。監事は、宮原守男氏、弥永真生氏（以上再任） |
| 1998/5/16 | 創立 110 周年記念礼拝　奨励：日本 YMCA 同盟 斎藤総衛名誉主事「信仰と行為」　※会報 109 号に講演録<br>◎記念フォーラム　榊裕之教授「科学技術の進展と人間・社会」、　コメンテーター：原田明夫、田辺功、石川憲彦、清水正之の各氏　司会；北彰氏 |
| 1998/5/16 | 1998 年度第 1 回評議員会・理事会<br>◎寄付行為一部改訂の件：①賛助会員は個人に加え法人を含める」ことに改訂、②専務理事を新たに設置、③「評議員の議長は理事長とする」と読めるので「互選」に改訂、④「総会の議決」の規定を削除（「総会」の組織がない）<br>◎1997 年度決算の件<br>◎名誉理事推挙の件：「名誉理事推挙に関する規定」(1997/12/6 理事会決定）に基づき、高井康雄元理事長を推挙（1969 年に理事、1976 年に理事長就任。会館再建と、その後の本会活動を主導し、夕梼日誌・早梼日誌の製本化にも尽力）<br>◎1998 年 12 月末現在、在舎生は 24 名で」ほぼ満室<br>◎1997 年度事業報告の件<br>◆聖書研究会（本年度より、早稲田教会 上林順一郎牧師による「ルカによる福音書」)<br>◆夏期修養会（7/31～8/2）　千葉県九十九里の徳久俊彦氏の別邸にて、15 名参加<br>　テキストは宮田光雄集・聖書の信仰から「世に勝つ信仰」<br>◆合同祈祷会<br>4/10 宮原守男 監事<br>5/8 泉守彦先生（明治学院大学講師） |

| | |
|---|---|
| | 6/12 山下智子 弓町本郷教会伝道師<br>7/10 渡辺信夫 東京告白教会牧師<br>9/11 原田一之 東京キリストの教会牧師<br>11/13　佐藤司郎 信濃町教会牧師<br>◆OB 座談会：<br>6/26 井川貴博　「富士通・国際法務での経験」<br>9/25 垣内史堂理事　「免疫学の話」<br>10/30 駿河敬次郎理事　「チャレンジングライフ～小児外科のパイオニアとして」<br>1/29 徳久俊彦　「損害保険と私」<br>2/26 野崎昭弘　「数学教育について」<br>◆11/3 同志会とスポーツ大会<br>◆卒業年次別 OB 会の件<br>4/12　昭 21～24 卒の会、12 名参加<br>4/19　1987 年前後卒の「華の会」、9 名参加<br>4/26　昭 26～30 卒の会、11 名参加<br>6/6　昭 40 年代卒の会、15 名参加<br>9/26　昭 30 年代卒の会・20 名参加）<br>◎その他<br>◆税務を依頼していた中川省三氏の死去に伴い、新たに平野昭宏氏に税務・会計事務を委託した。<br>◆9/27 宮田光雄先生の「一麦寮 25 周年記念会」<br>◆10/3 桃山学院大学 太田雅夫教授が来会（吉野作造、星島二郎、鈴木文治先輩の早祷日誌会報等を閲覧）<br>◆10/13 星島二郎先輩の追悼文集「一粒の麦」出版記念会（徳久理事が出席）<br>◆2/17 遠藤楽氏（旧会館の設計者・遠藤新先輩のご子息）との縁が広がり、先輩の業績を研究しているグループが資料調査や家具の実測に来訪した。<br>◆12/1 アメリカ合同メソジスト教会 張瑞雄牧師来会（1934 年に在舎していた黄彰輝氏の教え子で、伝記を作成予定）などを報告<br>◎創立 110 周年記念事業の件：記念募金（98 年 6 月から 1 年間、目標 800 万円）<br>◆記念フォーラム（榊裕之教授の講演）など<br>◆6/27 東京都に 96 年度事業報告と会計報告を提出 |
| 1998/6/13 | 公開講演会：隅谷三喜男 東大名誉教授　「成田の空と大地」　※会報 110 号に講演録 |

| | |
|---|---|
| 1998/7/30 | 夏季修養会（～8/1、千葉県野栄町にて、12 名参加） |
| 1998/8/1 | 会報 109 号発行<br>＊巻頭言：関口哲生氏「年々新たなるつながりを思うー創立 110 周年に寄せてー」<br>＊大口邦雄理事長　「創立 110 周年の祈り」<br>＊徳久俊彦氏　「創立記念日報告」<br>＊舎生寄稿　9 篇<br>＊OB 寄稿：山本富雄氏「1935～45 年卒のシニア OB 会」、徳久俊彦氏「『終戦直後』同窓会」、徳久俊彦氏「1950～55 年卒業同窓会」、徳久俊彦氏「故きを温ねて～先輩にお話を伺う」、徳久俊彦氏「入江寛二先輩（1936 年経）に聞く」、周藤勝一氏（1965 年薬）、梶村慎吾氏「アメリカの高齢者施設に学ぶ」、徳久俊彦氏「西山竜平作曲『わだつみの声』上演」 |
| 1998/9/5 | 1998 年度第 2 回理事会：大口理事長、他理事が出席<br>◎1998 年度上期事業報告の件<br>◎1998 年度下期事業計画の件 |
| 1998/11/3 | 関西 OB 会：関口哲生理事の世話役で、神戸六甲山荘にて開催。関西在住 19 名と東京から大口理事長以下 4 名参加。藤田卓男氏（1952 年医卒）による「カルシュウムと生活習慣病」の講演あり |
| 1998/11/21 | 公開講演会：杉山好東大名誉教授「バッハシリーズ＝待降節のカンタータ」 |
| 1998/12/12 | クリスマス祝礼拝　奨励：弓町本郷教会 定家修身牧師「光は暗闇の中で輝いている」。<br>祝会は先輩 29 名、家族 9 名、舎生 24 名の計 64 名が参加<br>舎生劇：「セロ弾きのゴーシュ」 |
| 1998/12/12 | 会報 110 号発行<br>＊巻頭言：野崎昭弘理事「より広く、より高く」<br>＊徳久俊彦氏「東大 YMCA　110 周年略史の試み」<br>＊舎生寄稿　3 篇<br>＊OB 座談会より：二神康郎先輩「欧米流通業の新潮流」<br>＊追悼：徳久俊彦氏「中江憑先輩（1929 年文・1998/10/28 帰天）追悼」<br>＊OB 寄稿：高井康雄氏「第 2 回終戦直後同窓会」、梶村慎吾氏「1957 年～1969 年同期会報告」、徳久俊彦氏「続　故きを温ねて～京都に猿橋先輩を訪ねる」 |

| 1999 年（平成 11 年） | |
|---|---|
| 1999/1/30 | 1998 年度第 3 回理事会及び評議員会<br>◎1999 年度事業計画の件、◎1999 年度予算の件<br>◎「浅野順一記念奨学金」の件：「組の会」代表宮原守男氏から依頼のあった同奨学金の運営委託を受諾することとし、以下の大綱で進める方針を決定。概略は、①資金総額：5 千万円、②対象：当会に関係のある留学生など、運営方針：返済を要しない給付として 10 年程度存続目途、③運営機関：大口理事長、徳久俊彦、野崎昭弘、宮原守男、岩井要の 5 名による運営委員会を構成など |
| 1999/2/10 | 理事会 |
| 1999/4/17 | 東大 YMCA 第 2 回フォーラム　発題：高久史麿 自治医科大学長「高度先進医療と生命倫理」、司会：田辺功氏、コメンテーター：宮原守男、宮田親平、垣内史堂、清水正之の各氏)、80 名参加　※会報 11 号に報告 |
| 1999/5/15 | 創立 111 周年記念礼拝　奨励：加美山節先輩（1943 年経）「東大 YMCA110 周年に思うこと」　※会報 111 号に講演録 |
| 1999/5/15 | 1999 年度第 1 回理事会・評議員会<br>◎1998 年度事業報告の件：<br>◆舎生数 3 月に 6 名が退舎、4 月に 6 名が入舎、留学生の国籍は、アメリカ、韓国、中国、ボリビア、インドネシア、シンガポール<br>◆聖書研究会（昨年に引き続き、早稲田教会 上林順一郎牧師）を招き、「ルカによる福音書」を学ぶ。<br>◆夏期修養会：7/31～1、千葉県九十九里の徳久俊彦氏別邸において、12 名参加。テキストは「ダライラマ、イエスを語る」<br>◆学内伝道活動：「12 月クリスマス夕食会：橋本徹氏（1957 年）のスピーチ」、「五月祭講演会協賛：Dr. Hugh Ross 氏（天文学者）の講演会」、「五月祭講演会協賛：　佐々木満雄氏（1967 年）の講演会」<br>◆合同祈禱会<br>4/9 宮原守男<br>7/9 定家修身 弓町本郷教会牧師<br>10/15 佐藤義孝氏（キャンパスクルセード・フォー・クライスト）<br>11/22 山北宣久 聖が丘教会牧師<br>1/14 山本裕司 牧師<br>◆OB 座談会<br>6/25 高井康雄名誉理事　「地球環境の危機と問題土壌」<br>9/24 徳久理事　「東大学生基督教青年会 110 年史」　※会報 110 号に報告 |

| | |
|---|---|
| | 10/22 二神康郎評議員　「欧米流通業の新潮流」<br>11/26 大蔵浩之氏　「金融界から見た日本経済の現状と今後の展望」<br>1 月　清水知足兄・菊池裕生兄　「社会人 1 年目としての生活」<br>2 月　徳久俊彦氏　「讃美歌とは何か」<br>◆卒業年次別 OB 会の件：<br>4/18 昭 26～30 年卒の同窓会（宮原守男氏による「裁判の話」<br>4/25 戦争直後卒業生の会（高井康雄氏以下 19 名参加）<br>6/6 戦前卒業生の会（山本富雄氏世話人で、木下順二氏以下 16 名参加）<br>8/8 若手会（1970 年前後卒、9 名参加）<br>8/31 昭 30 年代卒業生の会（20 名参加）<br>2/10 追分会（昭和 30 年代前半卒業の OB 会）　（17 名参加）　※会報 111 号に報告<br>◎1998 年度決算の件<br>◎寄付行為改訂の件、◎協力会員・家族会員制度の発足の件<br>◎創立 110 周年記念募金の件：4/23 現在で、405 万円の募金受領<br>◎その他：6/30 東京都教育委員会に 97 年度事業報告及び決算書を提出 |
| 1999/8/10 | 会報 111 号発行<br>＊巻頭言：大口邦雄理事長「20 世紀の終わりに」<br>＊OB 寄稿：橋本光男氏「森と木の会」、徳久俊彦氏「東大 YMCA 追分会」、徳久俊彦氏「1951～55 年卒同窓会」<br>＊舎生寄稿 7 篇<br>＊徳久俊彦氏（1953 年経）「加藤庄六氏（52 年経・1999/1/10 帰天）を偲ぶ」、（岩島久夫氏（1952 年法）「『庄六兄』を偲んでーわが信仰と行動のモデル」<br>＊追悼：百瀬泉（1941 年文）「ある友との交わりー大木善和兄（61 年文・1998/2/23）の昇天に寄せて」 |
| 1999/9/4 | 1999 年度第 2 回理事会：大口理事長、他理事出席<br>◎1999 年度上半期事業報告の件：合同祈禱会、OB 座談会<br>◎1999 年度下半期事業計画の件<br>◎評議員改選の件：現評議員は 1999 年 12 月末で任期満了につき改選が必要<br>なお、理事は 2000 年 3 月末で任期満了につき、来年 1 月の評議員会にて選任が必要<br>◎創立 110 周年記念募金の使途の件：9 月末終了時点で、194 名の会員から約 430 万円の寄付あり。記念事業、建物設備の補修、資料の整理等の使途を決定 |

| | |
|---|---|
| | ◎卒業年次別同窓会：<br>4/17 昭 26～30 年卒の同窓会（12 名参加）<br>5/29 森と木の会（15 名参加）<br>7/2 戦前卒業生の会（参加 18 名）<br>◎浅野順一記念奨学金の報告 |
| 1999/11/20 | 秋季公開講演会　講師：杉山好東大名誉教授「青年期のバッハ…オドリベット」 |
| 1999/12/11 | クリスマス祝礼拝　説教；内坂晃牧 砧教会師（聖研講師）「闇は光に勝たなかった」、57 名参加<br>舎生劇：「男はつらいよー長崎純情編―」（山田洋二原作） |
| 1999/12/11 | 会報 112 号発行<br>＊巻頭言：原島文雄理事（1962 年工）「50 年前の宿題」<br>＊舎生寄稿　8 篇<br>＊追悼：徳久俊彦氏　「佐藤次郎先輩を送る」<br>＊OB 寄稿；山本富雄氏（1941 年経）「1935～45 年シニア OB 会」、蒲田常治氏（1922 年工・詩人）「世界の旗　世界の歌」<br>＊報告：徳久俊彦氏「賛育会の現況」、「西山竜平先輩の『わだつみのこえ』全曲上演」、　「山本富雄先輩　国際協力功労者として表彰さる」、「『安井文庫』埼玉大学に開設」 |
| **2000 年（平成 12 年）** | |
| 2000/1/29 | 1999 年度第 2 回評議員会・第 3 回理事会<br>◎図書・資料整理の推進のため、「資料委員会」の設置が決定され、荒木亨氏を中心に 10 名の委員が選任された。<br>＃役員改選の件：2000 年 3 月末に任期満了を迎える理事・監事全員の改選が行われ、原島文雄、垣内史堂理事が退任、月本、吉岡両氏が選出された。再任の先輩理事は、大口邦雄（理事長）、徳久俊彦氏（常務理事）、駿河敬次郎、成瀬治、岩井要、関口哲生、橋下徹、野崎昭弘の各氏、学生理事は勝部圭一、花川耕介、ダニエル・ヘラー、宮川尚久の各兄。監事は、宮原守男、弥永真生の両氏<br>その他：浅野順一記念奨学金は 6 名の学生（中国、日本各 1 名、韓国 4 名）　㊦75 号 |
| 2000/5/13 | 創立 112 周年記念礼拝　奨励：石原力 社会福祉法人興望館理事長「凡てのこと相働きて益となる」 |
| 2000/6/10 | 公開講演会：荒木亨氏（1957 年文）「東大学生基督教青年会、森有正、オーギュスタン・ベルク」※東大 YMCA の資料整理の前提として青年会の歴史を改めて学ぶこととし、3/4 と 4/1 に荒木亨氏の発題で勉強会 |

| | |
|---|---|
| | を行ったので、締めくくりに本講演会を開催した。会報・日誌の整理が進められている。※会報 113 号に講演録 |
| 2000/7/15 | 会報 113 号発行<br>＊巻頭言：月本昭男氏（1971 年文）　「重箱の隅をつつけよ」<br>＊追悼：増田陸郎（1938 年医）　「角田資敏君の昇天を悼みつつ（1937 年工・1999/11/29 帰天）」<br>＊追悼：徳久俊彦氏（1953 年経）「角田先輩を偲ぶ」 |
| 2000/9/2 | 2000 年度第 2 回理事会<br>◎下半期事業計画の件 |
| 2000/10/28 | 関西 OB 会：神戸 YMCA 会館において、若林信生氏、渡辺聡氏など 16 名参加（東京からは大口理事長夫妻、徳久氏、加藤せつ氏）　※会報 114 号に報告 |
| 2000/11/4 | 公開講演会：杉山好 恵泉女学院教授「宗教改革の音楽家バッハ」 |
| 2000/12/9 | クリスマス祝礼拝　説教：宮木保彦 曙教会牧師　「喜びと平和に満たされて」<br>舎生劇：「男はつらいよー長崎純情編―」（山田洋二原作・下斗米一明脚本） |
| 2000/12/9 | 会報 114 号発行<br>＊巻頭言：吉岡直人氏（1972 年理）　『宇宙原理』　と『人間原理』<br>＊10/21 座談会：「内坂晃先生に聴く」<br>＊退舎生は語る：清水知足氏（1998 年法）、堀史彦氏（1999 年経）、下斗米一明氏（法学政治学研究科）<br>＊追悼：佐藤淨氏（1957 年経）「三宅省三君（1957 年法・2000/10/17 帰天）のご逝去を悼んで」、山本富雄氏（1941 年経）「人見楠郎兄（1941 年文・2000/11/4 帰天）を偲ぶ」、徳久俊彦氏「三人の先輩を送る」堀江薫雄先輩（1928 年法・2000/8/27 帰天）、三宅省三先輩、人見楠郎先輩 |
| **2001 年（平成 13 年）** | |
| 2001/2/3 | 2000 年度第 2 回評議員会・第 3 回理事会<br>◎2000 年度事業報告の件：<br>◆聖書研究会（内坂晃先生による創世記の学び）、合同祈禱会、OB 座談会など<br>◎2001 年度事業計画の件：聖書研究会（内坂晃先生が 2 年間を終えて終了）、合同祈禱会、OB 座談会、公開講演会など<br>◎2001 年度予算の件<br>◎ファミール本郷駐車場用地買収及びマンション管理組合加入の件：マ |

| | |
|---|---|
| | ンション側は現管理組合を法人化し、土地取得する意向（取得価格は1,500万円、当会は持ち分14.7%で約217万円を支出し、管理組合加入の方向で交渉にあたる予定　※しかし組合加入はその後受け入れられないと回答）<br>◎礼拝堂のスピーカー寄贈の経緯報告（杉山好先生の知人　松村貴志子氏から先生に託された寄付金により購入・寄贈されたもの）<br>◎「学会センター」から地下室の使用を止め、退去する旨の通知あり<br>◎浅野記念奨学金の支給状況を報告<br>◎会費改定の件：現行3千円を5千円に改定し、一定年齢以上の会員は3千円とする案で相談 |
| 2001/5/19 | 創立113年記念礼拝<br>開会祈祷：大口邦雄理事長、奨励：清水護先輩（92歳）「回顧と感謝」<br>※会報115号に報告<br>礼拝後に浅野記念奨学金の受給者を代表して、李英珠さん（東大博士課程）が研究発表 |
| 2001/5/19 | 2001年度第1回評議員会・理事会<br>◎2000年度事業報告の件：<br>◆聖書研究会：内坂晃先生による創世記の学び<br>◆キャンパス向け伝道企画　「YMCA OPEN HOUR」を開催<br>◆夏季修養会（7/31～2）：千葉県野栄町の徳久理事別邸にて、13名参加<br>◆合同祈禱会<br>2000/4/13 宮原守男先輩　「ニコデモ老人」<br>5/11 山本裕司 西片町教会牧師　「復活説を迎えて」<br>7/20 藤原淳賀 東京基督教大学牧師<br>12/14 松本敏之 弓町本郷教会牧師　「暗闇に輝く光」<br>1/11 早稲田教会 上林順一郎牧師　「終わりから生きる」<br>◆OB座談会<br>5/25 月本昭男氏（1971年文）　「重箱の隅をつつけよー旧約研究30年」<br>7/27 佐々木徹氏（1985年工）　「ベンチャー企業経営経験談」<br>10/26 島田宗洋氏（1966年医）　「心臓四方山話」　※会報114号に懇談録<br>1/25 小谷明生氏（1994年経）　「エチオピアにおける開発援助の体験から」<br>2/22 星野利幸氏（1983年教養）　「数値シミュレーションの開発を手掛けて」 |

| | |
|---|---|
| | ◆年次別同期会<br>2000/3/4 若手会：9 名参加<br>4/8 第 4 回 森と木の会（終戦直後卒業生の会）　※会報 113 号に報告<br>4/15 昭 26 年～30 年卒の同期会※会報 113 号に報告<br>7/1 シニア OB 会（昭 10 年から 20 年卒）　14 名参加　※会報 114 号に報告<br>◎2000 年度決算の件<br>◎基本財産繰り入れの件：00 年度決算の約 382 万円の収支差額のうち、清水護氏からの寄付金 200 万円を基本財産に繰り入れることとした。<br>◎年会費改定の件：本年度より年会費を現行 3,000 円から 5,000 円に引き上げる（学生会員を除く）こととし、「会員及び会費に関する規程」を改正した。<br>◎その他：6/14 東京都教育委員会に 99 年度事業報告及び収支報告を提出 |
| 2001/5/25 | 馬場進 前本会専務理事の「お別れの会」　司会：徳久俊彦、祈祷：大口邦雄理事長、説教：大浦勝 牧師、弔辞：清水護 元国際基督教大学教授　80 名が参加<br>馬場進氏は 1930 年経卒、2001/5/1 に帰天、95 歳 |
| 2001/5/26 | 五月祭講演会　講師；速水優日銀総裁「土の器に納めた宝」　※学内キリスト教サークルの協働 |
| 2001/7/14 | 公開講演会：富阪キリスト教センター 薛恩峰（シュエ・エンフェン）牧師「中国のキリスト教」　※会報 116 号に講演録 |
| 2001/7/20 | 会報 115 号発行<br>巻頭言：徳久俊彦氏（1953 年経）　「信仰と学問」<br>追悼：徳久俊彦氏（1953 年経）　「馬場進さん（1930 年法・2001/5/1 帰天）を送る」<br>追悼：増田陸郎氏（1938 年医）　「妹尾次郎兄（1935 年理・2001/3/20 帰天）を偲ぶ」<br>追悼：徳久俊彦氏「妹尾次郎先輩のこと」、「浦田常治先輩（1947 年工・2001/2/17 帰天）のこと」 |
| 2001/9/1 | 2001 年度第 2 回理事会：大口理事長、他理事が出席<br>◎2001 年度上期事業報告の件、 ◎2001 年度下期事業計画の件<br>◎評議員改選の件；2001 年 12 月末にて任期満了にとなる評議員について、全員を再任したうえ、4 氏を加えて、以下の体制とした。石原力、北村一雄、苅野照、松村寛三郎、久保田省吾、高久史麿、今村一男、荒木亨、和久田康雄、橋本章、黒川次郎、二神康郎、原田明夫、高沢金 |

| | |
|---|---|
| | 吾、飯高茂、榊裕之、湯原哲夫、梶村慎吾、木村庸五、月本昭男、吉岡直人、北彰、高本真一、山口栄一、霜垣幸浩の各氏（以上再任）、＊市川祐三氏は遠隔地転勤のため退任。新任は浦西友義、合田隆史、藤井信吾、三沢和彦の 4 氏。定数 30 名以内のうち総数は 29 名、任期は何れも 2002/1/1～2003/12/31<br>◎明年度以降の理事体制の件（懇談）；現理事は 2002 年 3 月末で任期満了につき、2002/2/2 予定の評議員会において選任の必要あり。徳久常務理事は、賛育会理事長職と恵泉女学園役員に専念するため、辞任の申し出がある。一方かねてより昭和 20 年代卒の役員（現在 26 名中 6 名）のは引退案がある。<br>◎貸事務室（収益事業）契約の件：2001/8/21 付の（株）東信堂との契約を承認<br>◎浅野記念奨学金の支給状況を報告 |
| 2001/11/10 | 公開講演会　杉山好先生「バッハと大学」、<br>「寄贈スピーカーの披露と感謝会」（寄贈者 松村貴志子氏を招待） |
| 2001/12/8 | クリスマス祝礼拝　説教：松本敏之 経堂緑岡教会牧師　「主のよき力に守られて」、70 名が参加。※会報 117 号に説教録<br>舎生劇：「白雪姫 in the ジブリワールド」（団長：藤田義崇兄、台本：近藤陸矢兄） |
| 2001/12/8 | 会報 116 号発行<br>巻頭言：駿河敬次郎（1944 年医）　「クリスマスに思う」<br>追悼：徳久俊彦氏（1953 年経）　「三輪和敏先輩（1937 年文・2001/6/2 帰天）を偲ぶ」、「中原賢次先輩（1926 年法・2001/7/3 帰天）を偲ぶ」<br>追悼：中原真澄氏「『美田』と『神の国』―中原賢次を送って」<br>追悼：岡崎滉先輩（1929 年農・2001/8/30 帰天）<br>追悼：稲木昇先輩（1947 年法・2001/9/20 帰天）<br>追悼：関口哲生氏（1954 年工）「柴谷貞雄さん（1932 年法・2001/9/24 帰天）を偲ぶ」<br>10/20「篠原真弓さんの魂の平安と篠原兄及びお子様のなぐさめ、励ましを祈る会」報告<br>10/26「三宅省三さんの思い出を語る会」報告 |
| **2002 年（平成 14 年）** | |
| 2002/2/2 | 2001 年度第 2 回評議員会・第 3 回理事会<br>◎2001 年度事業報告：聖書研究会、合同祈禱会、OB 座談会など<br>◎2002 年度事業計画の件、◎2002 年度予算の件<br>◎理事・監事全員の任期満了による改選の件：現理事は 02/3/31/付で |

| | |
|---|---|
| | 任期満了となる。新理事体制は、大口邦雄、徳久俊彦、岩井要、関口哲生、橋本徹、野崎昭弘、月本昭男、吉岡直人、中村義哉の各氏（以上再任)、野口吉三郎（1959 年法)、梶村慎吾（1969 年法)、グナワン・ヘンリー、石渡裕太、佐藤央雅、田川義之氏の各氏（以上新任)、監事は宮原守男氏、弥永真生氏（以上再任)、駿河敬次郎、成瀬治両理事は勇退<br>◎名誉理事委嘱の件：駿河敬次郎、成瀬治両氏に名誉理事を委嘱する。<br>◎理事会・常務理事選任の件：新理事体制で選任の結果、理事長に大口氏を再任、常務理事に野口氏を選出した。 |
| 2002/5/18 | 創立 114 周年記念礼拝　証詞：岩井要理事「信徒の旅立ち（ヘブライ人への手紙 11 章 8-13)」、50 余名参加　※会報 117 号に講演録<br>併せて「創立 114 周年記念写真展示会」を開催 |
| 2002/5/18 | 評議員会・理事会：評議員会：議長は北村一男氏<br>◎2001 年度事業報告の件<br>◆聖書研究会（弓町本郷教会 松本敏之牧師によるヨハネ福音書とブラジル音楽)<br>◆夏季修養会（8/1～2)：神奈川県営「三浦ふれあいの村」にて、12 名参加<br>◆合同祈禱会<br>4/12 宮原守男氏　「マグダラのマリア」<br>5 月 牧野 宮原伝道所牧師　「我らの父よ」<br>6/14 上田光正 美竹教会牧師　「コリントⅠ-15 章」<br>7/12 小泉健 五反田教会牧師　「祈りについて」<br>9/13 徳久俊彦理事　「我信ず」<br>10/11 高尾浩史 武蔵野自由福音教会伝道師　「祈り」<br>11/15 山本裕司 西片町教会牧師　「アドベントの意味」<br>1/24 上林順一郎 早稲田教会牧師　「情熱と責任と叡智と」<br>2/14 戒能信生 東駒形教会牧師　「一週間の宗教的休暇」<br>◆OB 座談会<br>5/31 川浦徹先輩　「企業財務での経験～IR＝投資家向け広報活動とは何か」<br>6/28 岩井要先輩　「日本の近代建築と青年会出身の建築家」<br>9/27 海老沢功先輩　「シュバイツァー博士の横顔」　※会報 116 号に報告<br>10 月岡村光倫先輩　「小さな会社に入った YMCA 舎生の半年後」<br>11/22 岩見宣治・塚本文武・半田武比古の各先輩　「空港の話」<br>1/31 岩島久夫氏　「9・11 同時多発テロ発生の背景と多様化する国際安 |

| | |
|---|---|
| | 全保障環境」<br>◆年次別同窓会：<br>4/21 昭 26-30 年卒の会（東野宗利氏「これからの食糧問題」、13 名出席）<br>4/21 カップルの会（宗教音楽研究会合唱団の仲間）<br>4/29 森と木の会（終戦直後卒業生の会、若林信生、中平健吉氏を含め 15 名出席）<br>※以上は会報 115 号に報告<br>7/10 シニア OB 会（戦前卒業生の会、増田陸郎氏「聖地巡礼の話」、9 名出席<br>※会報 116 号に報告<br>9/7 さりげなく集う YM の会（原田明夫検事総長就任祝賀、33 名出席）<br>※会報 116 号に報告<br>10/20 若手会（1970 年前後卒業生の会、13 名出席）<br>◎2001 年度決算の件<br>◎退任常務理事に対する退職慰労金贈呈の件<br>◎その他<br>◆浅野記念奨学金の報告<br>◆マンション管理組合加入問題は、組合費の使途が当会と関係が薄いものが多く、また非公式に駐車場使用料を組合に差し出せとの要求が出されたため、加入しない旨の回答をしたが、その後まったく反応がないままに推移<br>◆5/22 東京都教育委員会に 2000 年度事業報告及び収支報告書を提出 |
| 2002/5/23 | 公開講演会　講師：野田英二郎氏（日中友好会館副会長、本会協力会員）、30 名出席。※会報 117 号に講演録 |
| 2002/6/8 | 公開講演会　講師：富岡幸一郎 関東学院大学文学部助教授　「カールバルトと現代」　※会報 118 号に講演録 |
| 2002/8/1 | 会報 117 号発行<br>＊巻頭言：野口吉三郎 常務理事　「よき共同体の生い立ち」<br>＊退任挨拶：徳久俊彦　理事　「常務理事としての 6 年」 |
| 2002/9/7 | 2002 年度第 2 回理事会：大口邦雄理事長、他理事出席<br>◎2002 年度下期事業計画の件<br>◆聖書研究会（弓町本郷教会 松本敏之牧師によるヨハネ福音書）<br>◆合同祈禱会：9/12 武蔵野自由福音教会 小川国光牧師などを計画<br>◆OB 座談会：9/26 村上俊一氏 1966 卒　「病理学から見た生命倫理」<br>◆公開講演会など<br>◎その他 |

| | |
|---|---|
| | ◆寄宿舎の冷房設備設置の件<br>◆女子学生入居のため、女子用トイレ・浴室設置の件<br>◆東京都教育委員会の監査における指摘事項の件：①入舎募集を東大生に限ることは望ましくない、②寄宿舎の非課税認定基準は「1 室 15 ㎡以下」と「舎費 2 万円以下」、③評議員数が理事数に比して過大、④流動運用資産が過大、⑤ホームページによる財務資料の公開など<br>◆東京大学学内団体の「東京大学総長賞」受賞（当会指導顧問教官 霜垣幸浩助教授より連絡あり） |
| 2002/11/9 | 公開講演会：講師：杉山好 東大名誉教授「バッハの器楽曲とカンタータの接点について」 |
| 2002/11/11 | 駿河敬次郎氏が「キリスト教功労者顕彰」を受賞　※会報 118 号に報告 |
| 2002/11/30 | 関西 OB 会：講師 井出千束氏（1967 年医卒）「脊椎の再生＝最近の動向」、21 名出席<br>※会報 119 号に講演録 |
| 2002/12/14 | クリスマス祝礼拝　説教：上田光正 美竹教会牧師（1962 年教養卒）「恐れるな」<br>※会報 119 号に説教録<br>舎生劇：「世界で一番馬鹿な旅人」　65 名参加 |
| 2002/12/14 | 会報 118 号発行<br>巻頭言：大口邦雄（1956 年理・本会理事長）<br>リレー随想：大沢寿一氏（1932 年工）　「追分回想」（吉野作造先生とのエントツ会など）、岡田良一氏（1941 年法）「東大 YMCA と私」、青木康氏（1954 年法）「学 Y と私」、川原正言氏（1959 年工）「この世界はどう動くのかな」<br>聖研：松本敏之 経堂緑岡教会牧師　「アメリカの武力行使に反対する」 |
| **2003 年（平成 15 年）** | |
| 2003/2/8 | 2002 年度第 2 回評議員会・第 3 回理事会<br>◎事業報告：聖書研究会、合同祈禱会、OB 座談会、関西 OB 会、公開講演会など<br>◎寄宿舎運営改善の件<br>①寄宿舎募集要項の変更<br>◆現行の応募資格「キリスト者またはキリスト者たらんとする男子東大生」の原則を維持するが、特に希望する場合は、「A：東大女子学生、B：主として OB 会員の子弟の男女他大学生、C：(空室がある場合には）OB 会員・東大教授・当会に関係の深いキリスト教教職者等の推薦 |

| | |
|---|---|
| | による1年以内の短期逗留」も選考により入舎を認める。<br>◆「キリスト者たらんとする」者の具体的な基準の運用については、現在の高校生の教会離れの現況に鑑み、1～2年生については、キリスト教の知識が少ない者でも「キリスト教に多大な関心を持つ者」は弾力的に対応する。<br>◆外国人留学生の枠は全体で5～7人以内を目安とし、常時25名程度の入居者の確保を目指す。<br>（参考）＊女子学生の入舎状況（京大地塩寮は24人中6人、東北大渓水寮は14人中3人、九大名島寮は11人中4人）＊「入寮資格にキリスト者であることを問わない」と明記する寮は、京大地塩寮、北大汝洋寮、九大名島寮　＊受洗礼者の入寮状況（早大信愛学舎は12人中0人、九大名島寮は10人中1人、東北大渓水寮14人中2人）<br>②環境改善設備工事の実施：空調設備の増設・改修、電気設備容量の増強、浴室増設・洗面所改装などの居住環境改善工事を実施する（工事費用：3,000万円）。<br>③舎費の改訂：舎費合計で現行44,000円⇒53,000円に改訂、内訳としては、部屋代（18,000円⇒20,000円）、食材費（10,000円据置き）、賄人件費負担（4,000円⇒7,000円）、光熱水費等（8,000円⇒9,000円）、空調設備負担金（0円⇒4,000円）、自治庶務雑費（4,000円据置き）。また入舎一時金は40,000円⇒50,000円（うち25,000円は退舎時返済）に改訂。なお、値上げは03年7月から3年間で、激変緩和措置を講じつつ実施する。<br>◎特別寄付金募集の件：特別工事3,000万円の実施による資金減少に対応して、特別寄付を募集する。実施期間は、監督官庁の許可取得後03年秋以降3年間、目標金額は2,000万円<br>◎03年度事業計画の件：聖書研究会、合同祈禱会、OB座談会、関西OB会、公開講演会など<br>◎03年度予算の件： |
| 2003/3/5 | ファミール本郷の漏水事故により浸水被害が発生。復旧工事の負担につきマンション側と協議し、9/22に示談が成立。当方は、礼拝堂の天井・床、3Fと4Fの壁面張替え、314号室の補修を行い、その費用：約1,500万円を受領した。 |
| 2003/5/10 | 第115周年創立記念礼拝　奨励：橋本徹 本会理事　「主のみ心のままに」、50余名出席。※会報119号に講演録 |
| 2003/5/10 | 2003年度第1回評議員会・理事会<br>◎2002年度事業報告：<br>◆聖書研究会：松本敏之 弓町本郷教会牧師によるヨハネ福音書（松本 |

| | |
|---|---|
| | 先生は 4 月から経堂緑岡教会牧師）<br>◆夏季修養会（7/29～30）:「自らのキリスト教信仰について語る」、秋川渓谷国民宿舎にて 15 名参加<br>◆合同祈禱会<br>4/11 宮原守男氏（本会監事）　「ヨハネの甘え」<br>5/9 鋤本幸司先輩　「預けること」<br>6/13　中村圭助 小石川ルーテル教会牧師　「私にとっての祈り」<br>7/11 小林宏 銀座教会牧師　「祈りの本質とは何か」<br>9/12 小川国光 武蔵野自由福音教会牧師　「伝道と愛」<br>10/10 山本裕司 西片町教会牧師　「自由を与える神」<br>11/14 牧野 宮原伝道所牧師　「闇が濃くなっている」<br>◆OB 座談会<br>7/25 花川耕介先輩（2003 年・新領域創成科学研究科卒）「フィンランドの留学を終えて」<br>9/26 村上俊一先輩（1966 年医）　「生命倫理　生まれてから死ぬまで」）<br>10/24 矢治健太郎先輩（1991 年教養）　「天文学と畑中武夫」<br>11/28 山口周三先輩（1964 年法）　「真善美・信仰＝南原繁先生に学ぶ」<br>1/30 和久田康雄先輩（1957 年法卒）　「陸海空の交通安全のために」<br>2/27 野口吉三郎常務理事（1959 年法卒）　「学生・社会生活で感じたこと」<br>◆世代別同窓会<br>4/13 森と木の会（終戦直後卒業生の会、15 名出席）<br>4/20 昭和 26～30 年卒業生の会（12 名出席）<br>4/26 さりげなく集う YM の会（昭和 32～41 年卒業生の会、26 名出席）<br>※以上 3 件は会報 117 号に報告<br>◎他大学交流：11/30「同志会」と親睦体育会開催 |
| 2003/6/7 | 春季公開講演会　講師：小塩節 前フェリス女学院長　「ドナウ川のほとりでー4 世紀史上初のゲルマン語聖書の謎」、65 人出席 |
| 2003/7/22 | 会報 119 号発行<br>＊巻頭言：宮原守男監事（1952 年法）　「ペテロとパウロの剣」<br>＊リレー随想：福場博康氏（1945 年農）「青年会時代追想」、奥田健二氏（49 年法）「親鸞聖人から学ぶ」、谷啓輔氏（1953 年法）「青年会寄宿舎と私」<br>＊報告：中村義哉 学生主事　「YM 洪水事件顛末記」 |

| | |
|---|---|
| | ＊追悼：徳久俊彦理事（1953 年経）「『サマリア人』を継ぐ者　隅谷三喜男先生を偲ぶ」 |
| 2003/9/20 | 理事会：大口理事長、他理事が出席<br>◎2003 年度上期事業計画の件：聖書研究会、合同祈禱会、OB 座談会、公開講演会など<br>◎会館建物外壁補修工事の件：外壁等の劣化が見られるため、マンション側の外壁等大規模修繕工事に合わせて、当方の会館・寄宿舎部分の外壁等改修工事を行うもの。現在の見積り経費は 3,000 万円で、2004 年 5 月理事会にて最終決定したうえで、同 9～10 月に工事を実施する予定<br>◎特別醵金募集実施の件：03/2/8 評議員会・理事会にて決定した特別寄付金募集については、「汚水排水管の全面更新及び生活環境改善工事」（工事費約 3,500 万円）が完了し、また新たに外壁補修工事を実施することとしたため、次のとおり、会員に特別醵出をお願いする。（特別寄付金：3,000 万円以上、期間：2003 年 10 月～2006 年 9 月、特別借用金：限度額 2,000 万円、期間 2006 年 9 月から最大 5 年間）<br>◎評議員全員任期満了による改選の件：昨今の当青年会の運営課題に鑑み、全員を再任する。この結果、評議員は以下の各氏。石原力、北村一雄、苅野照、松村寛三郎、久保田省吾、高久史麿、今村一男、荒木亨、和久田康雄、橋本章、黒川次郎、二神康郎、原田明夫、高沢金吾、飯高茂、榊裕之、湯原哲夫、梶村慎吾、木村庸五、垣内史堂、岩見宣治（再度新任）、大蔵浩之、北彰、高本真一、浦西友義、山口栄一、合田隆史、藤井信吾、三沢和彦の各氏（定数 30 名以内のうち総数は 29 名、任期は 2004/1/1～2005/12/31）<br>なお、次回改選時（2006/1/1）より、「80 歳以上または、任期中に 80 歳を迎える評議員は、原則として勇退する」こととする。<br>◎2003 年度事業計画の件：聖書研究会、合同祈禱会、OB 座談会、公開講演会、社内音楽会など |
| 2003/11/15 | 東大 YMCA 音楽会（グランドピアノ寄贈感謝記念）　ピアノ演奏：後藤直子氏、津田美佐子氏、大島由里氏、合唱：アカデミカ・コール有志、器楽演奏：舎生・OB など |
| 2003/11/8 | 秋季公開講演会　講師：杉山好先生「対話の音楽家　バッハ」、57 人出席 |
| 2003/12/13 | クリスマス祝礼拝　説教：菅原力 弓町本郷教会牧師　「飼い葉桶に横たわるキリスト」　※会報 121 号に説教録<br>舎生劇：「ヨセフ物語」（団長：玉置恵一、脚本：細野篤・鹿島真人） |
| 2003/12/13 | 会報 120 号発行<br>＊巻頭言：梶村慎吾氏（1969 年法） |

| | |
|---|---|
| | リレー随想：村松武司氏（1955 年医・薬）「神様への手紙」、　細越康暢氏（1953 年理）「世相雑感」、高野晋氏（1961 年文）「ますますの『戦後』」<br>＊寄稿：徳久俊彦氏（1953 年経）「斉藤惣一大先輩について」、安達貴教氏（1996 年経）　「フィリップ・アリエス『〈子供〉の誕生』を巡る、ある経済学徒の見方―アナール学派とマルクス学派の融合への一試論」 |
| **2004 年（平成 16 年）** | |
| 2004/2/21 | 2004 年度第 2 回評議員会・第 3 回理事会<br>◎2003 年度事業報告の件、◎2004 年度事業計画の件、◎2004 年度予算の件<br>◎理事監事全員任期満了改選の件：理事は理事会提案のとおり改選し、監事は全員を再任した。また理事選任後の互選により、理事長に大口邦雄氏、常務理事に野口吉三郎氏（1959 年法）が選任された。この結果、新理事体制は、大口邦雄、野口吉三郎、徳久俊彦、岩井要、関口哲生、橋本徹、野崎昭弘、梶村慎吾（1969 年法）、月本昭男、吉岡直人、学生理事は中村義哉、村上善道、田川義之、細野篤、松下幸敏、監事は宮原守男、弥永真生（以上再任）の各氏<br>◎学生主事委嘱の件：学生主事に中村義哉氏が再選された。任期は 1 年間<br>◎その他<br>◆浅野記念奨学金の件<br>◆2002 年 7 月に行われた東京都教育委員会の監査結果に基づく指導書を 2003 年 7 月に受領。「保有株式の処分」と「内部留保率の適正水準化」に留意されたい、との指摘があった。 |
| 2004/5/16 | 創立 116 周年記念礼拝　奨励：宮田光男 東北大名誉教授「《荒野の 40 年》以後―V ヴァイゼッカーの政治思想」　※会報 121 号に説教録 |
| 2004/5/16 | 2004 年度第 1 回評議員会・理事会<br>◎2003 年度事業報告<br>◆聖書研究会：上田光正 美竹教会牧師（1961 年教養卒・本会 OB）による「ローマ人への手紙」<br>◆夏季修養会（7/22～24）：「小学唱歌と讃美歌の関係を探る」、草津温泉リゾートホテルにて 13 名参加<br>◆合同祈禱会<br>4/10 宮原守男 本会監事 「ペテロの不器用」<br>5/8 平野耕一郎 東京ホライズン代表　「ヤベツの祈り」<br>6/12 安海春男 東京インドネシア教会牧師　「福音の本質」 |

| | |
|---|---|
| | 7/10 内坂晃 稲城教会牧師　「内村鑑三 人生最大の遺物」<br>9/11 佐々木満雄 弁護士　「どんなことでも くよくよするな」<br>10/9 山本裕司 西片町教会牧師　「ダビデ王の物語」<br>11/12 戒能信生 東駒形教会牧師　「空白」<br>1/15 三谷康人 VIP クラブ東京会長　「逆転勝利の人生」<br>2/12 江渕篤史 日本キャンパスクルセード スタッフ「あなたの神はどのような神ですか」<br>3/11 小野浩司 YMCA 同盟関東スタッフ　「視点の転換」<br>◆OB 座談会<br>6 月 松田恵利也先輩（1998 年工学系研究科）　「新幹線も家庭も安全運転で」<br>9 月 渡辺頼勝先輩（2001 年医卒）　「職業としての医師」<br>10/23 増島俊之氏（元総務事務次官・中央大教授）　「天国と地獄」<br>1/29 中島昭夫先輩（1969 年工）・朝日新聞記者）　「情報公開法とその使い勝手」<br>2/26 呉正憲先輩（2002 年経）　「大会社に入ってしまった OB の 1 年」<br>◆年次別同期会<br>4/12 森と木の会（1945～50 年卒業生の会）　※会報 119 号に報告<br>4/19 昭和 26～30 年卒業生の会　※会報 119 号に報告<br>9/29 シニア OB 会（昭和 12～19 年卒業生）※会報 120 号に報告<br>※以上 2 件は会報 119 号に報告<br>◎2003 年度決算の件<br>◎修繕工事等<br>◆外壁補修工事の件：工期（8/17～12/26、ファミール本郷と同時施工)、見積金額（約 2,800 万円）<br>◆2 階の旧賄い人室に浴室を新設。旧トイレを改修して女性用トイレを新設（いずれも女子学生受け入れの準備のため)）<br>◎特別醵金中間報告の件：寄付金（2004/5/15 現在、157 人、送金額約 1,400 万円)、借用申出額（15 人、約 900 万円）<br>◎その他：6/27 東京都教育委員会に 2000 年度事業報告及び収支報告書を提出 |
| 2004/5/29 | 春季公開講演会　月本昭男 立教大学文学部教授「旧約聖書と現代／一神教は暴力的か」　※会報 121 号に講演録 |
| 2004/7/26 | 会報 121 号発行<br>巻頭言：橋本徹氏（1957 年法・本会理事）<br>＊リレー随想：石原力氏（1948 年医)「戦争末期の青年会」、前田宗治 |

| | |
|---|---|
| | 氏（1953 年工）「北欧と出会って 40 年余」、三浦永光氏（1961 年教養）「政治における言葉の魔力と戦争」、岡本謙一氏（1968 年理）「近況報告」、清水正之氏「差異をうけとめる感性」<br>＊投稿：徳田信氏（修 1 年）「再洗礼信仰と戦争批判」 |
| 2004/9/18 | 2004 年度第 2 回理事会<br>◎2004 年度上期事業報告の件<br>◆聖書研究会、合同祈禱会、OB 座談会など<br>◎「寄宿舎建物・設備補修」特別寄付金中間報告の件：「借入金」の借入は中止（外壁補修工事費が予算より大幅に削減でき、また特別寄付金の入金が速やかに進行して、借入の必要が解消）<br>◎2004 年度下期事業計画の件：公開講演会は杉山好名誉教授によるバッハ講演会を予定していたが、外壁補修工事等により、来年春に延期する。<br>◎その他<br>◆浅野順一記念奨学金の報告<br>◆同盟委員に梶村慎吾理事を選任（前任は岩井要理事）<br>◆短期留学生逗留：<br>6/7～7/24、Joel Joos ベルギー・ライデン大学教授「丸山真男、津田左右吉の研究」 |
| 2004/11/20 | 関西 OB 会　特別講演：西村和雄 京都大学経済研究所教授「学力論争とは何であったかー本当の生きる力をつける教育とは」、関口哲生氏（1954 年工）「こぼれ話あれこれ」<br>※会報 122 号に講演録と報告 |
| 2004/12/11 | クリスマス祝礼拝　奨励：山北宣久 聖ヶ丘教会牧師（日本キリスト教団議長）　「最後の機会」　※会報 123 号に説教録<br>舎生劇：「聖なる夜の贈り物」（団長：中山淳雄） |
| 2004/12/11 | 会報 122 号発行<br>＊巻頭言：徳久俊彦氏（1953 年経）　「ディーン・リーパーのこと」<br>＊リレー随想：住谷一彦氏（1949 年文）「青年会寄宿舎生活の思い出」、藤村洋氏（1953 年工）「天を仰いで、地を這って」、成田勝彦氏（1960 年工）「ヒトとエネルギー」、中島昭夫氏（1969 年工）「巣立って、舞い戻る我が『古巣』」、岡本嘉六氏（1971 年農）「食・いのち・環境を繋ぐもの」<br>＊寄稿：平井満喜男氏（1937 年文）「真鍋中隊長の思い出」、増田陸郎氏（1938 年医）「私の青年会時代のこと」<br>＊追悼：徳久俊彦氏（1953 年経）「高崎望君（1955 年医・2004/4/26 帰天）を悼む」 |

| 2005 年（平成 17 年） | |
|---|---|
| 2005/2/19 | 2005 年度第 2 回評議員会・第 3 回理事会<br>◎2004 年度事業報告<br>◆公益法人制度改革法案が審議中。2006 年通常国会において成立すれば、2-3 年の移行措置を経て施行されるので、対応策の準備が必要<br>◆寄宿舎建物補修特別醵金は 2/15 現在約 1,800 万円の募金あり<br>◆聖書研究会、合同祈禱会、OB 座談会、公開講演会など<br>◎2005 年度事業計画の件　◆聖書研究会：近藤勝彦氏、創立記念礼拝、公開講演会<br>◎2005 年度予算の件<br>◎その他報告<br>◆女子学生の入舎について、学生理事から報告は以下の通り。<br>『理事会はすでに女子学生の入舎を認めており、すでに女性用設備の改修も完成している。現状で女子学生の入舎申し込みがなかったわけではないが、まだ一人も入舎していない。2005/1/13 の臨時舎内総会において議論の結果、参加者 16 名のうち、女性入舎に賛成が 2 名、反対が 12 名、保留が 2 名で、舎生側としては、当面女性は受け入れないことで総意を得た。反対意見の中心は女性が入った場合の生活上の危惧であり、キリスト教的にも保守的にならざるを得ないとの趣旨。また現には舎生の努力の結果、今春は男子学生で満員であり、応募者を断っている状況である。この問題の決定権が理事会にあることは承知しているので、対処方法につき理事会においても真摯に話し合っていただきたい。』<br>これを踏まえ、理事会で活発な議論が行われた。結論的には、現段階では、募集基準の変更ではなく、「ただ今は、女子の方は受け付けていない」旨を募集案内等に記載することを容認する、とのコンセンサスが得られた。<br>◆浅野記念奨学金の件：年間を通じ、5 名に支給 |
| 2005/5/14 | 創立 117 周年記念礼拝　奨励：木村庸五（本会評議員）「憲法とキリスト者」、40 名参加。※会報 124 号に講演録 |
| 2005/5/14 | 2005 年度第 1 回評議員会・第 1 回理事会<br>◎2004 年度事業報告の件<br>◆舎生数は 22 人～24 人で推移した。<br>◆聖書研究会：上田光正 美竹教会牧師（1961 年教養卒）を講師に迎え、ローマ人への手紙」を学ぶ。<br>◆夏季修養会（8/25～26）：聖書研究「キリスト教の教派」、東大農学部生命科学研究所付属 科学の森研究センター 秩父演習林川俣学生宿舎にて、参加 11 人 |

| | |
|---|---|
| | ※会報 122 号に報告<br>◆秋季公開講演会は、会館の外壁等大規模修繕工事のために中止<br>◆合同祈禱会：<br>4/8 宮原守男 監事　「パウロの挫折」<br>5/13 後藤茂末 南浦和教会牧師　「キリストと呼ばれるイエスの系図」<br>6/10 渡辺大修 弓町本郷教会伝道師　「祈る時には」<br>9/9 瀬戸重樹氏（伝道者不登校生塾）　「キリストの愛に生きよ」<br>10/14 堀江綾子 神学生（聖ヶ丘教会）　「縦と横」<br>11/11 所 悠 調布バプテスト協力牧師　「カレブのように」<br>1/13 藤川義人 神学生　「サムソンの祈り」<br>2/10 粕谷甲一 神父　「‘聖体の年‘　再起への希望をこめて」<br>◆OB 座談会、<br>4/22 湯原哲夫先輩・榊裕之東大教授<br>6/24 三沢和彦先輩（本会評議員）「創造的研究開発への道・量子波束制御」<br>7/22 勝部圭一先輩（1998 年理）「地図事業に携わって感じること」<br>9/22 萩野瑞先輩（1962 年法）「JICA12 年と最近考えること」<br>10/28 原崎郁平先輩（1942 年工）「物つくりの現場から」<br>11/25 真野玄範先輩（1995 年文）「エキュメニカルと YMCA、NCC」<br>1/27 大橋祐治先輩（1958 年経）「私の信仰、非暴力平和部隊の挑戦」<br>◆世代別同窓会<br>4/15 森と木の会（終戦直後卒業生の会、14 名出席）　※会報 121 号に報告<br>5/22 昭和 26～30 年卒業生の会、9 名出席）　※会報 121 号に報告<br>11/15 シニア OB 会（昭和 12～19 年卒業生の会、8 名出席）　※会報 122 号に報告<br>9/3 さりげなく集うカップルの会（谷間ゆかり「ルリスダンラバレ」於：西片町、8 組・19 名出席）　※会報 122 号に報告<br>◎2004 年度決算の件：外壁補修工事の減により有価証券取崩し（1,000 万円）が不要となった。当期収支差額は 210 万円の減で、2 月の見込み（500 万円減）より好転した。特別醵金は、05/5/10 現在で 1,800 万円<br>◎次期理事長の人選については、協議の結果、原田明夫氏（1963 年法卒、前検事総長、現在スタンフォード大学客員教授）が最適任であり、大口理事長より理事会の総意として就任要請をすることとした。<br>◎その他：<br>◆外壁補修工事は 2004/8/9 着工したが、遅延して、2005 年 3 月完工<br>◆短期留学生として、Joel Joos　ベルギー・ライデン大学教授が逗留 |

| | |
|---|---|
| | （6/7～7/24）、丸山真男、津田左右吉の研究のため<br>◆新潟県中越地震　ボランティア活動に舎生が 5 名参加<br>◆教会キャラバン：弓町本郷、西片町、富士見町、聖が丘、美竹、池袋教会を訪問<br>◆6/24 東京都教育委員会に 2003 年度事業報告及び収支報告書を提出 |
| 2005/6/11 | 春季公開講演会　講師：杉山好東大名誉教授　「宮廷音楽家バッハ」、50 人出席<br>※会報 123 号に講演録 |
| 2005/7/20 | 会報 123 号発行<br>＊巻頭言：関口哲生（1954 年工）　「高齢者介護が、今、新しくなっている」<br>＊リレー随想：五十嵐雄一氏（1948 年法）「東大 YMCA 外史」、雨宮新氏（1953 年法）「老いを生きる人々と共に」、白井文夫氏（5194 年法）「随想」、百瀬泉氏（1956 年文）「使徒パウロとの出会いー『トレフォンターノ』教会の思い出」、高橋雅二氏（1961 年法）「二度あることは三度ー出会いの不思議」、須藤自由児（1969 年工）「私の青春・YM 寮」、石川憲彦氏（1973 年医）「雑念」<br>＊追悼：徳久俊彦氏（1953 年経）「渡辺忠雄（1924 法・2005/4 帰天）大先輩を送る」、関榮次氏（1953 年法）「『中澤さん』（1953 年文・2004/10/14 帰天）を偲ぶ」、徳久俊彦氏（53 年経）「ゼール・ゾルガー（魂への配慮者）中澤宣夫さん」、岩井要氏（1954 年工）「中澤宣夫兄を悼む」 |
| 2005/9/17 | 2005 年度第 2 回理事会；大口邦雄理事長、他理事出席<br>◎2005 年度上期事業報告並びに 2005 年度下期事業計画の件<br>◆4 月当初から 25 人在舎、うち留学生 3 人<br>◆聖書研究会、合同祈禱会、OB 座談会<br>◎2005 年度予算執行の一部変更の件；<br>◆投資有価証券のハイイールド・オープン債は今年度中に処分し、通常の債権に切り替える。<br>◆舎費を本年 10 月より値上げする（舎費全体で 50,000 円、うち寮費 34,000 円、食費 15,000 円、庶務費 1,000 円）。<br>◎評議員全員任期満了（2006/1/1～2007/12/31）による改選の件：勇退予定は 6 名、その他は全員再任の方向。12 月までに候補者の意向確認を行う。<br>◎「寄宿舎建物・設備補修」特別寄付金中間報告：2005 年 8 月現在で、2,068 万円<br>◎その他 |

| | |
|---|---|
| | ◆ファミール本郷の消防訓練に参加<br>◆7 月に厨房土間、休憩室とトイレなど一部改修を実施 |
| 2005/10/22 | 公開講演会　講師：徳善義和 ルーテル神学大学名誉教授（元神学校校長）　「自由と愛に生きる『キリスト者の自由』を巡って」、40 人出席<br>※会報 124 号に講演録 |
| 2005/12/8 | 会報 124 号発行<br>＊巻頭言：野崎昭弘氏（1959 年理）　「過度の単純化を恐れる」<br>＊リレー随想：田浦武雄氏（1948 年文）「青年会寄宿舎生活の想い出」、深瀬忠一氏（1953 年法）「或る寮生」、徳永五郎（1954 年文）「出会い」、清水博氏（1956 年医薬）「青年会宿舎の日々とその後」、原田明夫氏（1963 年法）「東大 YMCA から戴いたもの」、大蔵浩之氏（1971 年経）「素朴な信仰」、国生肇（1971 年法）「刑事司法への国民参加雑感」<br>＊追悼：北村一男（1948 年経）「孟信さん（1955 年医・2004/4/26 帰天）を偲んで」、増田陸郎氏（1938 年医）「山本富雄君（41 年経・2005/8/5 帰天）の死を悼みて」、徳久俊彦氏（1953 年経）「山本富雄先輩を惜しむ」<br>＊遺稿：山本富雄氏「ジャングル・エレジー」、「アメリカ俘虜記」 |
| 2005/12/10 | クリスマス祝礼拝　説教：近藤勝彦 東京神学大学教授「クリスマスの 2 つの名」<br>舎生劇：「ヤコブ物語」（団長：内山健太郎、脚本：小野雄人） |
| **2006 年（平成 18 年）** | |
| 2006/2/18 | 2005 年度第 3 回評議員会・理事会<br>◎事業計画承認の件<br>◎収支予算承認の件<br>◎理事・監事改選の件<br>3/31 を以て任期満了となるため、以下のとおり改選した。<br>先輩理事：徳久俊彦、関口哲生、橋本徹、野崎昭弘、野口吉三郎、梶村慎吾、月本昭男（以上重任）、原田明夫、清水正之（以上新任）、※大口邦雄、岩井要、吉岡直人の各理事は辞任）<br>学生理事：西浜悟史、内山健太郎、小野雄人、鹿島真人、細野篤　※中村義哉、田川義之、王嶺、松下幸敏の各理事は辞任<br>監事：宮原守男、弥永真生（以上重任）<br>◎理事長選任の件<br>新理事の互選により原田明夫氏を選任した。 |
| 2006/5/13 | 創立 118 周年記念礼拝　奨励：原田明夫理事長　「隔ての壁を超える |

| | |
|---|---|
| | 途」（エフェソ書 2 章 14～16 節）　※会報 125 号に講演録 |
| 2006/5/13 | 2006 年度第 1 回評議員会・理事会<br>◎2005 年度事業報告の件<br>◆4 月当初より 25 名在舎、10 月に家庭事情により 3 名退舎<br>◆聖書研究会：近藤勝彦 東京神学大学教授を講師として、「キリスト者のアイデンティティ」、「贖罪の信仰」、「洗礼の意味」を学習<br>◆夏季修養会（8/29～30）：伊豆大島・波浮港・都立大島セミナーハウスにて、14 名参加<br>◆7/9 日本バプテスト連盟恵約宣教教会とのソフトボールの交流戦<br>◆合同祈禱会<br>4/14 宮原守男 本会監事「トマスの疑い」<br>6/16 松本敏行 経堂緑が丘教会牧師「手をさしのべて」（コンゴ共和国難民申請者のグローシャル・アルセン氏同席）<br>7/14 三浦真琴 滝乃川教会神学生「神のおられるところ」<br>9/15 北村裕樹 弓町本郷教会伝道師「神の招き」<br>10/20 太田修 春風寮長「私にとっての聖書」<br>11/17 日野宝子 代田教会神学生「蒔かれた種の話」<br>1/12 河瀬愛子 ホーリネス本田教会「ロシア宣教に召されて」<br>2/9 草島豊 日本 YMCA 同盟牧師「自らの分別に頼らず、主を覚える」<br>◆OB 座談会<br>4/28 新入生歓迎会、橋本章　賛育会理事長出席<br>5/26 清水知足先輩(1998 年法)　「外務省の業務・ODA の現状」<br>6/16 懇親晩餐会（パレスホテル）　駿河敬次郎先輩（1944 年医）<br>9/29 平野昭弘先輩（1982 年法）　「『軍縮地球市民』の創刊について<br>11/24 梶村慎吾先輩（1969 年法）　「広島アウシュビッツ平和行進；社会福祉の現状」<br>1/19 前川守先輩（1982 年文）　「我が国の経済・社会の変遷・職業選択」<br>◆世代別同窓会<br>4/9 森と木の会（終戦直後卒業生の会）　12 名出席　※会報 123 号に報告<br>4/16 昭和 26～30 年卒業生の会、14 名出席)、岩下昭比古氏のピアノ独奏鑑賞<br>10/18 合同同窓会「岩下さんアンコールの会」、18 名出席<br>11/8 シニア OB 会（昭和 12～19 年卒業生の会、及び 80 歳以上の会)、6 名出席<br>11/19 さりげなく集う YM の会、30 名出席）※会報 124 号に報告 |

| | |
|---|---|
| | ◎2005 年度決算の件<br>◎大口理事長辞任に伴う理事 1 名選任の件；理事候補は長島章氏で 2006/6/1 に就任見込み。任期は前任者の残任期間で、2008 年 3 月 31 日まで。<br>◎学生主事委嘱の件：4 月 1 日より田川義之氏に委嘱する（追認）。任期は 1 年<br>◎その他：<br>◆浅野順一記念奨学金：前年度継続者 2 名に加え、新規に 4 名決定<br>◆教会キャラバン：経堂緑が丘教会、信濃町教会、西片町教会<br>◆短期留学生（研修医師）：ザンビア Tsibu,BBUKU 氏が 7/20～8/11 に逗留<br>◆加藤せつさんが退職、在籍は 1975/6/1～2006/7/11 の 31 年 2 か月<br>◆6/27 東京都教育委員会に 2004 年度事業報告及び収支報告書を提出 |
| 2006/6/17 | 春季公開講演会　講師：榊裕之 当会評議員「技術と人の関わりを考える…地における技術と天上への祈り」、清水正之 当会理事「技術者と倫理・・・理科系大学の経験を基にして」 |
| 2006/7/11 | 会報 125 号発行<br>＊巻頭言：橋本章（1959 年法）「賛育会の歩みとともに」<br>＊リレー随想：上柳昭治氏（1950 年農）「YM の時代とその後―出会いの想い出―」、宮田親平氏（1954 年医）「空中を飛んだ話」、大久保忠旦氏（1956 年農）「中国東北部を旅して考える」、赤堀恒雄氏（1959 年法）「今思うこと」小池将文氏（1970 年法）「還暦を迎えて」、岩見宣治氏（1971 年工）「貧しきこと」<br>＊追悼：徳久俊彦氏（1953 年経）「平井満喜男先輩（1937 年文・2005/11/26 帰天）のこと」、関口哲生（1954 年工）「古川清先輩（1940 年農・2005/6/13 帰天）を偲ぶ」、徳久俊彦氏「鮎澤真澄さん（52 年文・2005/10/28 帰天）を偲ぶ」 |
| 2006/9/16 | 2006 年度第 2 回理事会：原田明夫理事長、他理事が出席<br>◎2006 年度上期事業報告並びに下期事業計画について<br>◎野口常務理事辞任に伴う新常務理事選任の件：野口氏より辞任の申し出があり、これを承認するとともに、後任の常務理事に長島章氏を選任した。<br>◎宿舎・建物補修特別寄付金の件：2006 年 9 月現在で、入金額計は 2,218 万円となった。目標額の 3,000 万円は未達ながら過去最高の募金額を達成。当初資金枯渇も危惧されたが、結果として若干の余資、積立金を残し、一連の設備補修を完了した。 |
| 2006/10/28 | 関西 OB 会　講師：速水正憲 京都大学ウイルス研究所教授（1967 年 |

| | |
|---|---|
| | 農)「サルから学ぶ HIV との共生・・・HIV の起源と将来、そのワクチン開発」　※会報 126 号に報告と寄稿 |
| 2006/11/11 | 秋季公開講演会　講師：杉山好東大名誉教授　「バッハのカンタータに見る信仰と希望と愛～音楽と霊感をもってする生ける福音伝達」 |
| 2006/12/9 | クリスマス祝礼拝　説教：山本裕司 西片町教会牧師　「クリスマスは真夜中の祭り」<br>舎生劇：「銀河鉄道の夜」(団長：金寛英、脚本：半田秀雄) |
| 2006/12/9（平18） | 会報 126 号発行<br>＊巻頭言：原田明夫理事長（1963 年法)「グローバル化の潮流と国家の在り方」<br>＊リレー随想：河竹和夫氏（1949 年文)「私の本郷時代”四年半“」、久保田省吾（1954 年法)「思い出す事ども」、黒岩恭浩氏（1956 年工)「卒業後の 50 年―ワイズメンズクラブ他」、紅山雪夫氏（1960 年教育・法)「古代からの信仰を伝えてきた西アジアやアフリカのキリスト者たち」、寺尾榮祐氏（1964 年経)「中途半端な人生」、久保田信行氏（1968 年法)「サラリーマン生活を終えて」 |
| **2007 年（平成 19 年）** | |
| 2007/2/17 | 2006 年度第 2 回評議員会・第 3 回理事会<br>◎2007 年度事業計画の件、◎2007 年度収支予算の件<br>◎学生主事選任の件：田川義之氏の任期の 1 年間延長を決定した。 |
| 2007/5/12 | 第 119 周年創立記念礼拝　奨励：橋本章 賛育会理事長「賛育会―隣人愛の実践を目指して」 |
| 2007/5/12 | 2007 年度第 1 回評議員会・理事会<br>◎2006 年度事業報告の件<br>◆舎生数は 4 月当初 23 人でスタート、その後 23～25 人で推移、以降 3 月まで 26 人在舎<br>◆聖書研究会：今年度も引き続き、近藤勝彦 東京神学大学教授を講師として、聖書の基本的な事柄を学んだ。<br>◆夏季修養会：8/8～8/9 に奥多摩の福音の家にて、11 名参加<br>◆教会キャラバン：三軒茶屋教会<br>◆合同祈祷会<br>4/13 宮原守男 本会監事　「イエスの弟子ヤコブ」<br>6/8 鍋谷憲一 根津教会牧師　「愛」<br>7/14 坪井節子 カリコン子供センター理事長　「子供達の人権の問題」<br>9/15 山本昇氏（国際ギデオン協会）　「ギデオン協会とは」<br>10/23 左藤順 牛込キリスト教会牧師　「心と魂のはたらき」 |

| | |
|---|---|
| | 11/9 吉田茉莉子 契約宣教教会牧師　「いける命の水」<br>1/11 橋本いずみ 富士見町教会牧師　「賜物と招き」<br>2/8 長島章 本会常務理事　「私の信仰遍歴」<br>◆教会キャラバン：弓町本郷教会、根津教会、池袋東教会<br>◆OB 座談会<br>7/27 元田浩先輩（1965 年工）「明示的な理解に魅せられて（原子力から人工知能まで）」<br>9/28 片平洌彦先輩（1966 年医）　「日本国憲法と私たちの命、健康、平和」<br>11/23 中川健朗先輩（1983 年工）　「科学官僚としての歩みから」<br>1/25 福島一生先輩（2004 年法）　「三年目の転職～天職を探して」<br>◆年次別同期会<br>4/8 森と木の会（1945 年～50 年卒業生の会）　※会報 125 号に報告<br>◎2007 年度事業計画の件など<br>◎その他：7/29 当会主催の青年交流会　弓町本郷教会において、40 数名が参加 |
| 2007/6/2 | 春季公開講演会　講師：石川憲彦 林試の森クリニック院長（1973 年医卒）「人間の心は何故病むのか」（副題：「生物学的精神医学の発展と社会病理学の衰退の影で、飼い主を見失った羊達の迷走」）　65 名参加<br>※会報 127 号に報告 |
| 2007/8/10 | 会報 127 号発行<br>巻頭言：長島章 常務理事（1962 年法）　「歴史を通して働かれる神」<br>リレー随想：白戸四郎氏（1948 年医）「終戦直後の東大 YMCA」、岩下昭比古（1952 年経）「あるキリスト者夫人の物語」、西村俊昭氏（1954 年文）「思い出す事ども」、磯田一雄氏（1960 年文）「彼我相学から彼我相楽へー『日台連句』の試み」、青本健作氏（1963 年法、）「闘病時代の寅彦」、島田宗洋氏（1966 年医）「不作為の罪」<br>追悼：「木下順二さん（1939 年文・2006/10/30 帰天）を偲ぶ」　雨宮新氏（1928 年法）、嶋三四郎氏（1939 年工）、河竹和夫氏（1949 年文）、橋本光男氏（1949 年理）、上柳昭治氏（1950 年農）、柴沼明氏（1950 年法）、徳久俊彦氏（1953 年経）、岩井要氏（1954 年工）、白井文夫氏（1954 年法） |
| 2007/9/15 | 2007 年度第 2 回理事会<br>◎2007 年度上期事業報告の件、◎2007 年度下期事業計画の件<br>◎評議員定時改選の件：退任 2 名、再任 26 名 |
| 2007/11/17 | 秋季公開講演会　講師：杉山好 東大名誉教授「年末年始のバッハ声楽曲―クリスマスを巡るアドヴェントエピファニー用作品」、65 名出席 |

| | |
|---|---|
| 2007/12/8 | クリスマス祝礼拝　礼拝説教：大住雄一 東京神学大学教授「神我らと共に」<br>※会報 129 号に講演録<br>舎生劇：「シモンとイエス」（団長：陳崇、脚本：全員） |
| **2008 年（平成 20 年）** | |
| 2008/1/7 | 会報 128 号発行<br>＊巻頭言：月本昭男理事（1971 年文）　「ささやかな国際交流」<br>＊リレー随想：小林正樹氏（1954 年法）「身辺雑感」、関澤純氏（1966 年農）「私の出生のいきさつと東大 YMCA」<br>＊追悼：徳久俊彦氏（1953 年経）「松村寛三郎さん（1952 年医・2007/10/2 帰天）の思い出」 |
| 2008/5/10 | 第 120 周年記念創立記念礼拝　講師：上田光正 美竹教会牧師「歴史を変える神の言葉」　※会報 129 号に説教録 |
| 2008/5/10 | 2008 年度第 1 回評議員会・第 1 回理事会<br>◎2007 年度事業報告の件<br>◆舎生数：2007 年 3 月の退舎生が 11 名と多く、4 月当初は 18 名でスタートしたが、その後入舎募集活動を積極的に行った結果、7 月時点で 25 名までに回復。2008 年度は 3 月の退舎予定者が 3 名と少なく、25 名以上の水準を維持する見込み。<br>◆聖書研究会： 2007 年度から大住雄一 東京神学大学教授を講師として「マタイ福音書」を学ぶ。<br>◆8/8～9 夏季修養会：伊豆下田の東大下賀茂寮にて、10 名参加<br>◆2/26 香港 YMCA 来訪と交流会開催　※会報 127 号に報告<br>◆学 Y 全国・海外プログラム関東地区報告会　東大 YMCA 於いて、東大、早稲田、立教、中央、ICU の各 YMCA が参加<br>◆合同祈禱会：<br>4/12 宮原守男 本会監事　「ステパノの殉教」<br>6/14 荒川博行 カトリック梅田教会司祭　「祝福と呪い」<br>7/12 白正煥 用賀教会牧師　「共に生きる」<br>9/13 斎藤真行 聖が丘教会神学生　「原体験」<br>10/11 東条隆進 信愛学舎会長　「二足のわらじを履き続けるか」<br>11/8 柴田園子 聖が丘教会神学生　「光」<br>1/11 安井宣夫 本郷ルーテル教会牧師　「呼ばれる」<br>2/14 李相勲 牧師（在日韓国基督教会総会事務局幹事）　「豊かさの創造」<br>◆OB 座談会：<br>5/24 島田宗洋先輩（1966 年医）　「心臓ペースメーカーの父　田原 |

| | |
|---|---|
| | 淳」<br>7/26 花川耕介先輩（2000 年工）　「フィンランドの建築物と建築士として」<br>9/27 五百旗頭薫先輩（1996 年法）　「これまでの歩みから」<br>10/25 原田明夫理事長　「検事生活を振り返って」<br>1/24 三沢和彦先輩（1987 年理）「職業としての学問」<br>◆世代別同窓会<br>4/14 木下順二氏を偲ぶ会（25 名出席）<br>6/2 若手会（15 名出席）<br>10/6 さりげなく集う YM の会（27 名出席）<br>若手会（加藤せつ姉感謝の会・憲法について考える会、14 名出席）<br>◆東京都教育委員会の監査の件：5 年ぶりの監査で、指摘事項としては①評議員の数が多すぎる。新定款を作る際は理事と概ね同数にとどめられたい。②寮生の対象を東大生に限ることは公益性基準（不特定多数）に合致しない（＊結果的に東大生になるのは仕方なし）、その他総じて伝票等を精査の上、しっかりと処理されており、優秀との評を受けた。<br>◎その他：貸事務室契約更新の件<br>◆6/25 東京都教育委員会に 2006 年度事業報告、収支報告書を提出 |
| 2008/6/7 | 公開講演会　講師小塩節 フェリス女学院理事長「音楽の都ウイーンの謎」　※会報 130 号に講演録 |
| 2008/8/17 | 会報 129 号発行<br>＊巻頭言：原田明夫理事長（1963 年法）　「中国との対話について」<br>＊リレー随想：渡邉守道氏（1948 年法）「東大青年会と私―60 年余前を振り返って」、東野宗利氏（1951 年法）「渺茫記」、原田郁夫氏（1952 年工）「一老人の想い」、筒井正明氏（1966 年文）「45 年前の自分からの手紙」<br>＊追悼：徳久俊彦氏（1953 年経）「増田陸郎先輩（1938 年医・2007/8/1 帰天）のこと」 |
| 2008/9/13 | 2008 年度第 2 回理事会<br>◎2008 年度上期事業報告の件、◎2008 年度下期事業計画の件<br>◎公益認定のための新定款の内容の件 |
| 2008/11/1 | 関西 OB 会　特別講演：山川一郎氏（京大 YMCA OB・1960 経）「学 Y 運動の現状についてー私の経験と将来への願い」　※会報 130 号に報告 |
| 2008/11/8 | 公開講演会　杉山好 東京大学名誉教授「バッハの名曲を聴く（BMV1,140）　50 名参加 |
| 2008/12/13 | クリスマス祝礼拝　説教：菅原力 弓町本郷教会牧師「神の愛が現れるとき」　※会報 131 号に説教録 |

| | |
|---|---|
| | 舎生劇：「愛のあるところに神あり」 |
| 2008/12/13 | 会報 130 号発行<br>＊巻頭言：徳久俊彦理事（1953 年経）「学 Y120 周年に思う」<br>＊リレー随想：：萩野谷興氏（1963 年法）「韓国人学者 姜東鎮氏と民事裁判」、井出千束氏（1967 年医）「入舎から 40 年」<br>＊120 周年記念特別寄稿：中村義哉氏（2000 年経）「最近 20 年間の寄宿舎としての東大 Y の変化と不変―舎内総会議事録（1998～2007）を通して」、大澤寿一氏（1932 年工）「ある有料老人ホームでの生活体験から―白寿そしてその後―」 |
| **2009 年（平成 21 年）** | |
| 2009/2/14 | 2008 年度第 2 回評議員会・第 3 回理事会<br>◎2008 年度事業報告の件<br>◎2009 年度事業計画の件：聖書研究会、合同祈禱会、OB 座談会<br>◎学生主事選任の件：2009 年度の学生主事として、村上善道氏（総合文化研究科大学院博士課程 2 年）を選任した。<br>◎公益財団法人となるべく公益認定の取得を目指すことの承認の件：2008 年 12 月より公益法人法制が施行され、5 年以内に公益財団法人か一般社団法人に移行しなければならない。東大 YMCA は、以下の理由から公益財団法人となることを目指したい。<br>1. ステータスシンボル（社会から公益性が認められる）<br>2. 寄付金が寄付者の所得控除に対象となる。<br>3. 当財団にとって、受取利息が非課税となり（一般財団法人は課税）、収益事業に係わる法人税が大幅に軽減される。将来の問題として、固定資産税がどうなるかの不安を解消できる等メリットが享受できる。一方、監督官庁の監督下に引き続きおかれることとなる。 |
| 2009/5/9 | 創立記念礼拝　説教：賀来周一 福音ルーテル教団引退牧師「現代社会の忘れ物」、35 名出席。※会報 131 号に説教録 |
| 2009/5/9 | 2009 年度第 1 回評議員会・第 1 回理事会<br>◎2008 年度事業報告<br>◆舎生数：2008 年度は、前年度の退舎生が 3 名と少なく、年度前半で 28 名と満杯になり、年間平均では 27 名弱と予算（24 名）を大きく上回った。しかし、年度末から本年 4 月にかけて退舎生が 11 名と近年にない多数に上り、4 月末現在で 17 名と低水準となった。今後強力な入舎勧誘を行う。<br>◆聖書研究会：引き続き、大住雄一 東京神学大学教授により「マタイ福音書」を学ぶ。<br>◆夏季修養会（9/29～30）　講師：関智征先輩（2003 法卒）、秩父の旅 |

| | |
|---|---|
| | 館にて、16 名参加<br>◆合同祈禱会：<br>4/10 宮原守男本会監事　「バルナバ～パウロの信仰上のコーチ」<br>6/12 関智征（2003 年法）　「許しの力を与える方」<br>7/10 濱田真喜人 聖が丘教会神学生　「誓うということ」<br>9/11 藤原淳賀 恵約宣教教会牧師　「神に捧げるということ」<br>10/9 明神恵子 本会事務　「証」<br>11/27 羽島健司 東京神学大学神学生（2007 文卒）　「どちらも成し遂げる」<br>1/15 阿久戸光晴 聖学院大学学長　「死臭への怒り」<br>2/26 田川義之（学生主事）　「神を畏れ敬えば」<br>◆OB 座談会<br>5/22 霜垣幸浩先輩（本会評議員 1984 年工）「YM 時代から現在の研究生活を振り返って」<br>7/24 関智征先輩（2003 年法）　「使える人より仕える人」<br>9/25 中島伸一先輩（本会評議員 1964 年法）　「信仰と社会人生活」<br>10/30 窪田明先輩（1957 年法）　「カナダの選挙制度」<br>1/29 月本昭男先輩（1971 年法 本会理事）　「学問と人生」<br>◆世代別同窓会<br>4/9 森と木の会（終戦直後卒業生の会、10 名出席）　※会報 129 号に報告（住谷一彦氏）<br>4/12 同期会（51～55 年卒の会、10 名出席）<br>10/4 さりげなく集う YM の会、22 名出席）<br>10/23 追分会（10 名出席）<br>◆公益法人認定法が 2008/12/1 に施行。移行期間は 5 年。当会も来年度は本格準備の年になる。<br>◎2008 年度決算<br>収入面で舎生の増加に伴う寮費の増加と寄付金収入の増加があり、支出面で水道光熱費の値上がりに伴う増加と修繕費の増加があったが、わずかながら経常利益 25 万円を計上できた。<br>◎その他：6/20 東京都教育委員会に 2007 年度事業報告、収支報告書を提出 |
| 2009/6/13 | 公開講演会　講師：船本弘毅 関西学院大学名誉教授・前東洋英和女学院院長　「新しい時の兆し－今の時と聖書」　※会報 132 号に講演録 |
| 2009/7/17 | 会報 131 号発行<br>＊巻頭言：関口哲生理事（1954 年工）「『軍事力か、和解で平和か』の分かれ道～最近のテレビ深夜番組などの世相から」 |

| | |
|---|---|
| | ＊リレー随想：高久史麿氏（1954 年医）「我が国の医療を巡る諸問題」、倉沢隆平氏（1963 年医）「吉沢國雄先生を偲んで」、五十嵐正宣「思いつくままに」、篠原正雄（1971 年理）　「絶滅危惧種若手会のバトン 7 をやっと伝えるの弁」<br>＊追悼： 徳久俊彦理事（1953 年経）「西山竜平大先輩（1931 年文・2008/11/2 帰天）のこと」<br>＊追悼：徳久俊彦理事「植木光教氏（1950 年法・2009/6/6 帰天）急逝」 |
| 2009/9/12 | 2009 年度第 2 回理事会（出席は原田明夫、長島章、徳久俊彦、橋本徹、野崎昭弘、梶村慎吾、山本義人、税所真也、織田拓磨、中島彰氏の 10 名、欠席は関口哲生、野口吉三郎、清水正之、月本昭男、久保田力氏の 5 名、出席監事は宮原守男、弥永真生氏の 2 名、明神恵子姉：陪席）<br>◎2009 年度上期事業報告の件<br>◆聖書研究会、合同祈禱会、OB 座談会など<br>◆その他：「昨今の舎生減少に関する説明と対策」（村上善道学生主事のメモがあり、本理事会までに提出されたものと思われる。その概略は以下のとおり。①2008 年度末に 28 名いた舎生は、現在は 16 名。その原因は、2008 年度後半から、一部の特定舎生の問題行動によって空前絶後の混乱が発生し、多くの舎生に嫌気が広がり、7 名もの途中退舎が発生したことによる。②このところ、外国人留学生の枠を広げ、大学院生の制限の撤廃や研究生の入舎許可など入舎生の増加策を進めてきたが、2005 年度以降は舎の活動に参加せず、最低限の義務も果たさない不適格な舎生が入舎して、舎が完全に機能不全に陥った。③女性の入舎についても、2003～4 年に舎内での女性問題があったことから、反対する舎生が多い。④OB の役員におかれては、単に入舎資格を緩めて入舎生を増やすべきという安易な議論は止めてほしい。<br>◎2009 年度下期事業計画の件<br>◎新定款の骨子の件：種々の意見が出された。<br>◎いずれ定める新定款上の評議員の選任方法に係わる許可申請の件：2008 年 11 月 18 日付けの東京都生活文化スポーツ局から「特例財団法人における最初の評議員の選任について」の通達（別紙 1「最初の評議員の選任方法についての考え方」、別紙 2「申請書」別紙 3「最初の評議員の選任方法の案」を含む）があり、最初の評議員を選任するにはその方法について、理事会の決議を経て、旧主務官庁の認可を受けることとされた。その趣旨は最初の評議員がその後の運営に強い権限を持つことから、旧法人の延長ではなく、新たに中立・公平な立場で選任する必要 |

| | |
|---|---|
| | があるとするものである。理事会では、この通達を踏まえ、中立的な立場にある者が参加する「評議員選定委員会」を設置し、この機関決定に従い最初の評議員を選任することとした。 |
| 2009/11/14 | 公開講演会　講師：杉山好 東大名誉教授「バロック音楽の高峰をたどってークリスマスの出来事の意味を考える」 |
| 2009/12/11 | 会報 132 号発行<br>＊巻頭言：野崎昭弘理事（1959 年理）　「我、よき友を知る」<br>＊リレー随想：徳久俊彦氏（1953 年経）「高久さんからのバトン」、上田豊三氏（1961 年法）「断想 50 年」、飯高茂氏（1965 年理）「私の健康法」<br>＊追悼：二神康郎氏（1960 年農）「故窪田明さん（1957 年経・2009/5/14 帰天）を偲んで」<br>＊追悼：徳久俊彦氏「植木光教さん（1950 年法・2009/6/6 帰天）を偲ぶ」<br>＊OB 通信：徳久俊彦氏「黄彰輝先輩（1937 年文）のこと」 |
| 2009/12/12 | クリスマス祝礼拝　説教：亀岡顕 本郷中央教会牧師「イエスに会いたいなら」<br>舎生劇：「クリスマス・キャロル」 |
| **2010 年（平成 22 年）** | |
| 2010/2/13 | 2009 年度第 2 回評議員会・第 3 回理事会<br>◎2009 年度事業報告の件、◎2010 年度事業計画の件：聖書研究会、合同祈禱会、OB 座談会など<br>◎2010 年度予算の件：舎費収入は 22 人ベース（2009 年度は平均 17 名）、会費収入は前年度並みの 150 万円を見込む。<br>◎理事・監事全員任期満了改選の件：OB の理事・監事は辞意を表明している橋本徹理事を除き全員再任。この任期中（～2012 年 3 月 31 日）に公益認定申請を行う予定。2010 年 4 月 1 日からの理事は、原田明夫、長島章、徳久俊彦、関口哲生、野崎昭弘、野口吉三郎、梶村慎吾、月本昭男、清水正之、天野翼、織田拓磨、山田望、中島彰、日野義友の各氏 14 名、監事は宮原守男、弥永真生氏の 2 氏<br>◎理事長・常務理事選任の件：理事長に原田明夫氏、常務理事に長島章氏を選任<br>◎学生主事選任の件：朴大信氏（人文社会系研究科宗教学専攻修士 2 年）を選任<br>◎その他：<br>◆公益法人認定に関する準備については、今年中に新定款の内容を中心に都教育委員会の内諾をとりつけ、来春許可申請ができればと考えてい |

| | |
|---|---|
| | る。<br>◆2010 年 1 月 1 日現在の評議員は 24 名で任期は 2011 年 3 月 31 日まで。名簿は以下のとおり。高久史麿、橋本章、黒川次郎、二神康郎、高橋雅二、原島文雄、青本健作、高沢金吾、中島伸一、飯高茂、村上俊一、榊裕之、湯原哲夫、木村庸五、垣内史堂、岩見宣治、大蔵浩之、高本真一、浦西友義、市川祐三、山口栄一、藤井信吾、霜垣幸浩、三沢和彦の各氏 |
| 2010/5/8 | 創立 122 周年記念礼拝　説教：大住雄一 東京神学大学教授「希望へと救われる」 |
| 2010/5/8 | 2010 年度第 1 回評議員会・理事会<br>◎2009 年度事業報告の件<br>◆舎生数：2008 年度はほぼ満室で推移したものの、2009 年度末前後の退舎生が 11 名と多数の反面、入舎生が僅か 1 名となったため、舎生数は 16 名に止まり、その後、増減があったが、2010 年 4 月現在も 17 名で推移<br>◆聖書研究会：引き続き、大住雄一 東京神学大学教授により「詩篇」を学ぶ。<br>◆夏季修養会（9/28～29）：箱根ロッジ富士見苑にて、9 名出席<br>◆合同祈禱会：<br>4/9 関智征先輩（2003 年法）　「愛とは何か」<br>6/11 小森禎司 桜美林大学名誉教授　「神の御業」<br>7/9 井本祐介 キャンパスクルセードフォクライスト宣教師　「聖霊」<br>9/10 山口和憲 弓町本郷教会伝道師　「ある婚礼での出来事」<br>10/8 宮崎綾子 東京神学大学神学生（聖が丘教会）　「この世を生きる」<br>11/12 戸井田学 東京神学大学神学生（千歳船橋教会）　「素晴らしいデザイナーの発見」<br>1/14 片岡宝子 経堂北教会副牧師　「キリストと結ばれている」<br>◆OB 座談会<br>5/28 中村義哉先輩（2000 年経）　「寮生活から将来設計等々」<br>7/23 野崎昭弘本会理事（1959 年理）　「大学教授としての経験から」<br>9/24 藤井信吾本会評議員（1983 年法）　「取手市長になって」<br>10/22 藤森研先輩（1974 年法）　「新聞記者としての経験から」<br>1/21 青本健作本会評議員（1963 年法）　「半世紀前の世界」<br>◆世代別同窓会<br>4/11 同期会（51～55 年卒の会、8 名出席）<br>4/11 若手会（1970 年前後卒、13 名出席） |

| | |
|---|---|
| | 4/18 森と木の会（終戦直後卒業生の会、12 名出席）<br>10/20 さりげなく集う YM の会、25 名出席）<br>12/9 追分会（9 名出席）<br>◎2009 年度決算の件：舎生数の減少に伴い舎費収入が前年度比 576 万円の減少、運用益収入が増加し、収入合計では 425 万円減少した。支出は、食費、水道光熱費の減少により、支出合計では 315 万円の減少、減価償却負担後は 87 万円の赤字となった。<br>◆その他：6/17 東京都教育委員会に 2008 年度事業報告、収支報告書を提出 |
| 2010/6/12 | 公開講演会　講師：賀来周一 福音ルーテル教会牧師・キリスト教カウンセリングセンター長「この『私』は死んだらどうなるのですか」 |
| 2010/7/20 | 会報 133 号発行<br>＊巻頭言：宮原守男監事（1952 年法）　「私の東大 YMCA での思想遍歴」<br>＊リレー随想：木下毅氏（1960 年教・法）「東京大学学生キリスト教青年会との絆」、小堀洋志氏（71 年工）にインタビュー<br>＊追悼：「河竹和夫先輩（1949 年文・2009/11/16 帰天）を偲んで」<br>北村一男氏（1948 年経）、柴沼明氏（1950 年法）、徳久俊彦氏（1953 年経）、黒川次郎氏（1960 年法）、<br>徳久俊彦氏「奥田健二先輩を偲ぶ」 |
| 2010/9/11 | 2010 年度第 2 回理事会<br>◎2010 年下期事業計画の件<br>◎2010 年上期事業報告の件<br>◆舎生数は 4 月以降 17 名で推移したが、現在は 15 名で空室が多い。秋以降の舎生募集が課題<br>◆聖書研究会、合同祈禱会、OB 座談会、公開講演会など<br>◎2010 年度収支見込の件：舎生数の減少により、事業収入、食費収入が予算比で 325 万円の減少する見込み、このため有価証券について債権の入替えを行い、130 万円の売却益を確保する。今年度収支は 50 万円程度の赤字の見込み<br>◎公益認定に係るスケジュールの件：今後定期理事会・評議員会で必要な決議を行い、年度内に公益認定の取得を目指す。 |
| 2010/10/2 | 関西 OB 会　講師：山形謙二氏（1972 年理）「死を生きる・・・ホスピス医療の現場から」、神戸 YMCA にて、13 名出席（東京から理事長、常務理事が出席）<br>※会報 134 号に報告 |
| 2010/11/13 | 公開講演会　講師：杉山好 東大名誉教授「BACH 講演会」 |

| | |
|---|---|
| 2010/12/11 | クリスマス祝礼拝　説教：菅原力 弓町本郷教会牧師<br>舎生劇：「賢者の贈り物」 |
| 2010/12/11 | 会報 134 号発行<br>＊巻頭言：原田明夫理事長（1963 年法）「『ジャパン・アズ・ナンバーワン』から 30 年」<br>＊リレー随想：前田宗治氏（1953 年工）「デンマークという国（国民の幸福度世界で一位の国）」 |
| **2011 年（平成 23 年）** | |
| 2011/2/12 | 2010 年度第 2 回評議員会・第 3 回理事会<br>◎2010 年度事業報告の件、◎2011 年度事業計画の件<br>◎2011 年度予算の件：舎生数を年平均 19.8 人ベース（2010 年は 15.6 人）とすれば、2010 年度の有価証券売却益減 130 万円、寄付金収入減 110 万円を考慮しても、利息収入増、賃貸更新料収入、減価償却費の減少もあり、2010 年同様収支トントンに近い線になると思われる。<br>◎学生理事の選任：2 名が退任し、斎藤虎象、ダヴィドムルヤディの 2 名を選任。学生主事は引き続き、朴大信氏に委嘱<br>◎公益財団法人への移行の件：<br>・当法人は法令により、2013/1/30 までに、公益財団法人又は一般財団法人に移行しなければならない。いずれの場合も当局の認可を受ける必要がある。<br>・公益財団法人となれば、①ステータスシンボル（社会から公益性が認められる）、②寄付金が寄付者の所得控除に対象となる、③受取利息が非課税（現在 50 万円⇒0 円）となり（一般財団法人は課税）、収益事業に係わる法人税が大幅に軽減され、固定資産税が減免される、などのメリットが享受できる。一方、ディメリットとしては、①監督官庁の監督下に引き続き置かれることとなり、収支相償原則の徹底などの制約があること、②将来にわたって認定基準をクリアし続けなければ認定取り消しのリスクがあること、などがあげられる。<br>・審議の結果、公益法人への移行方針が決定され、本年 5 月以降に公益認定申請を行い、2012 年 3 月までに認定の取得を目指すこととなった。<br>・今後のスケジュールは、①11 年 3 月に最初の評議員選任委員会開催、②3 月～5 月に東京都教育委員会と認定に関する折衝、③5 月に理事会・評議員会にて、「定款の変更案」の決議、諸規定の決議、移行後の理事・監事の検討、公益認定申請の決議、④6 月～9 月に移行認定の申請、12 年 2 月に評議員会にて、移行後の理事・監事の選任、⑤同 3 月に認定通知書を受領のうえ、4 月に登記等の移行手続きを行う。 |

| | |
|---|---|
| | ◎「最初の評議員」選任委員の件：<br>最初の評議員選任は当法人に「評議員選定委員会」を設置して行うことで、都教育委員会から認可されている。これに基づき、委員会メンバーとして、木村庸五氏（評議員)、宮原守男氏（監事)、堀建二氏（外部委員・電気通信大学特任教授)、寺尾栄祐氏（外部委員・社会福祉法人賛育会理事)、明神恵子氏（事務局員）の 5 名を選任した。 |
| 2011/3/11 | 東日本大震災　発生 |
| 2011/5/14 | 創立 123 周年記念礼拝　説教：賀来周一 福音ルーテル教会牧師「信仰において譲らず、愛において譲る・・・割礼問題から見えてくるもの」 |
| 2011/5/14 | 2011 年度第 1 回評議員会・理事会<br>◎2010 年度事業報告の件<br>◆聖書研究会；菅原力 弓町本郷教会牧師を講師として「マルコ福音書」を学ぶ。<br>◆夏季修養会（9/8～9)：伊東市旅館にて、修士 2 年生が多く論文準備のために参加者 5 名のみ<br>◆合同祈禱会：<br>4/29 長島章 本会常務理事「青年会と寄宿舎」<br>6/10 浜田真喜人 聖が丘教会神学生　「センチネル」<br>7/8 スルヤハレファ 東京インドネシア福音教会牧師　「あらわになるもの」<br>9/9 宮崎綾子 東京神学大学神学生（聖が丘教会）　「求めよ、さらば与えられん」<br>10/14 増田将平 青山教会牧師　「私の価値」<br>11/11 伊藤英志 三軒茶屋教会牧師　「霊の導きによって歩む」<br>2/17 山口和憲 弓町本郷教会牧師　「救い主の ID」<br>◆OB 座談会；<br>5/27 月本昭男 本会理事（1971 年文・D）　「テル・レヘシュ（イスラエル）発掘調査の活動について」<br>7/22 岩島久夫先輩（1952 年法）　「軍事アナリストの立場から」<br>9/30 黒川次郎先輩（1960 年法）　「メディアの行方」<br>10/28 村山斉先輩（1986 年理 D）　「宇宙に終わりはあるか」<br>2/24 丸川正吾先輩（2005 年法）<br>◆世代別同窓会：<br>4/17 同期会（51～55 年卒の会、12 名出席）<br>6/16 若手会（70 年前後卒、8 名出席）<br>12/11 さりげなく集う YM の会、20 名出席）<br>12 月　追分会（10 名出席） |

| | |
|---|---|
| | ◎2010 年度決算の件<br>◎公益認定を申請する件<br>◆公益財団法人東京大学学生キリスト教青年会の定款（案）<br>◆役員の報酬及び費用弁償に関する規定<br>◆会員・賛助会員の会費に関する規定：会員：年 5,000 円（学生：3,000 円）、賛助会員：5,000 円以上<br>◎評議員選定委員会規則制定の件<br>◎評議員選定委員に対し「最初の評議員」候補者を推薦する件<br>◎その他：6/17 東京都教育委員会に 2009 年度事業報告と収支計算書を提出 |
| 2011/6/11 | 春季公開講演会　講師：船本弘毅 日本基督教団牧師・前東洋英和女学院院長「キリスト者の自由・・・今の時代をどう生きるか」　会報 135 号に講演録 |
| 2011/9/10 | 2011 年度第 2 回理事会：原田理事長、他理事が出席<br>◎2011 年度上期事業報告の件<br>◎2011 年度下期事業計画の件：聖書研究会、合同祈禱会、OB 座談会、修養会、公開講演会など<br>◎2011 年度収支見込の件<br>◎「最初の評議員」選定結果報告の件<br>◎公益認定作業の進捗状況 |
| 2011/11/19 | 秋季公開講演会　講師：大貫隆 東京大学名誉教授「『死人たち』には未来がある」、40 名出席<br>※に講演会記録 |
| 2011/12/10 | クリスマス祝礼拝　説教：亀岡顕 本郷中央教会「前進か後退か」<br>舎生劇：「Le Petit Prince」 |
| **2012 年（平成 24 年）** | |
| 2012/1/18 | 東大 YMCA 会報 136 号発行<br>＊巻頭言：原田明夫氏（1963 年法）「政治と社会のあり方が問われている」<br>＊柳谷雄介（1991 年農）新生釜石教会牧師 支援記：徳久俊彦（1953 年経）<br>＊追悼：関栄次氏（1953 法）「岩井要兄のこと（2011/9/22 帰天）」、関口哲生氏（1954 年工）「人々と共に、時代と共に～生きている教会堂～人をつなぐ」、徳久俊彦氏（1953 年経）「岩井要君を送る」、宮原守男氏（1952 年法）「故岩井要君への追悼」（現東大 YMCA 会館建築設計者、その他教会堂建築の設計実績多数）、鈴木道剛氏（1974 年文）「杉山好 |

| | |
|---|---|
| | 先生（2011/9/10 帰天）をお送りする」、徳久俊彦氏「杉山好先生を送る」（東大名誉教授、東大 YMCA 公開講演会で長年継続して「バッハ・ゼミ」を開催。）、村山斉氏（1986 年理）「哲二さんを偲ぶ（2010/12/15 帰天）」（西川先生は、東大名誉教授、物理学者、粒子加速器を研究、牧師としても定期的に説教）、村上善道氏（2004 年文）「在りし日の野口吉三郎常務理事（59 年・2011/3/9 帰天）を想う」 |
| 2012/2/18 | 2011 年度第 2 回評議員会・第 3 回理事会<br>◎2011 年度事業報告の件<br>◎2012 年度事業計画の件：聖書研究会、合同祈禱会、OB 座談会、修養会、公開講演会など<br>◎2012 年度予算の件：舎生数を今年度比横ばいの 19 人として、大口寄付金の計上を見込まず、家賃更新料の減を見込んでも、利息収入の増加があり、若干の経費圧縮できれば、多少の黒字もありうる。<br>◎公益認定取得の件：公益認定申請を 2011 年 12 月 8 日付で行い、同 12 月 22 日の公益認定委員会で承認された。<br>◎評議員改選結果報告の件：2012 年 4 月 1 日の評議員名簿は以下のとおり、任期は 2015 年 5 月まで。橋本章、黒川次郎、二神康郎、高橋雅二、青本健作、中島伸一、村上俊一、垣内史堂、岩見宣治、霜垣幸浩の各氏<br>◎「最初の評議員」選定結果報告の件<br>◎理事・監事全員任期満了改選の件：2012 年 4 月 1 日の理事・監事名簿は以下のとおり、任期は 2015 年 5 月まで。（理事）原田明夫、長島章、徳久俊彦、関口哲生、野崎昭弘、梶村慎吾、月本昭男、清水正之、可児邦広、千葉岳洋、樋口崇、山城一平の各氏、（監事）木村庸五、弥永真生の両氏<br>◎理事長・常務理事選任の件：理事長に原田明夫氏、常務理事に長島章氏を選任した。<br>◎常務理事の報酬に関する件：公益財団法人では常務理事の報酬は理事会の決議事項とされている。2012 年度の報酬は、月額 85,000 円（年額 102,000 円）とする。<br>◎学生主事選任の件：学生主事に、税所真也を選任<br>◎新定款・諸規定承認の件 |
| 2012/4/1 | 当会は 4 月 1 日に公益財団法人として設立登記し、新たな「公益財団法人 東京大学学生キリスト教青年会」としてスタートした。<br>【評議員名簿】、橋本章、黒川次郎、二神康郎、高橋雅二、青本健作、中島伸一、村上俊一、垣内史堂、岩見宣治、霜垣幸浩の各氏（任期は 2015 年 5 月まで） |

| | |
|---|---|
| | 【理事名簿】原田明夫、長島章、徳久俊彦、関口哲生、野崎昭弘、梶村慎吾、月本昭男、清水正之、可児邦広、千葉岳洋、樋口崇、山城一平の各氏(任期は 2014 年 5 月まで)<br>【監事】木村庸五、弥永真生の両氏(任期は 2016 年 5 月まで)<br>※理事長（設立登記は「代表理事」）原田明夫氏、常務理事長島章氏 |
| 2012/5/12 | 創立 124 周年記念礼拝　説教：鍋谷謙一 根津教会牧師「153 匹　ヨハネ福音書 21 章 1～14 節」45 名出席　※会報 137 号に説教記録 |
| 2012/5/12 | 2012 年度第 1 回評議員会・第 1 回理事会<br>◎公益認定取得並びに公益財団法人設立登記終了の報告の件<br>2011 年 12 月 8 日に公益認定申請、同 12 月 22 日に公益認定委員会で承認、2012 年 3 月 22 日に認定書受領、同 4 月 1 日に設立登記し、当会は同日公益財団法人としてスタートした。<br>◎2011 年度事業報告の件：<br>◆舎生数は、前年から増加（15.6 人⇒18.0 人）<br>◆聖書研究会；菅原力 弓町本郷教会牧師を講師として「マルコ福音書」を学ぶ。<br>◆春季修養会（3/8～9）　講師：早矢仕宗伯 武蔵野福音自由教会牧師、奥多摩バイブルシャレーにて、ほぼ全員の 15 名が参加　＊例年の夏期修養会に代えて実施<br>◆合同祈禱会<br>4/21 中島彰氏　「震災ボランティアに参加して」<br>7/7 中程愛美 弓町本郷教会伝道師　「信仰において生きるとは」<br>9/8 宮崎綾子　頌栄教会伝道師　「信仰による改革」<br>10/13 関川美樹 東京神学大学 M1 神学生　「神様の時間」<br>11/17 竿代照夫 インマヌエル中目黒キリスト教会牧師　「与える幸い」<br>1/26 三橋侑子 東京神学大学神学生　「終わりを見据えて生きる今」<br>2/9 朴憲郁 東京神学大学教授　「信仰者の自由」<br>◆OB 座談会<br>5/26 原田明夫　本会理事長（1963 年法卒）<br>7/28 王嶺先輩（2007 法卒）　「中国の若者事情」<br>10/27 上田光正先輩（1962 教養卒）　「日本キリスト教団の歩み」<br>2/23 桧山卓也先輩　「東大 YM を出てから、退舎後 1 年の若い先輩との交流」<br>◆世代別同窓会：<br>4/16 同期会（51～55 年卒の会)、11 名出席<br>6/14 若手会（70 年前後卒)、13 名出席 |

| | |
|---|---|
| | 10/1 さりげなく集う YM の会、25 名出席<br>3/15 追分会、5 名出席<br>◆全国学生 YMCA 寮関係者協議会（於：東大 YMCA 会館）、長島常務理事/中島理事によるプレゼンテーション「東大 YMCA の現状と課題」<br>◎2011 年度決算の件：舎生数の増加により事業収入と食費収入が前年比 147 万円増加、債権の入替えにより利息収入が 82 万円増加した。一方、債権売却益が 135 万円減少、寄付金が 44 万円減少、営繕費等が 45 万円増加し、経常利益は 60 万円を計上<br>◎その他<br>◆2012/5/12 より、加藤せつさんの入院費の負担軽減と手持ち資金支援のための募金を開始した。（募金者 158 名、募金総額は 637 万円となった）<br>◆2012/6/1 より 12 月末日までの期間で、新生釜石教会会堂再建及び同教会が行う被災者支援事業のために、「釜石支援募金」を行うこととした。（募金総額は 171 万円となった）<br>◆3/11 の東日本大震災の会館建物への影響について、㈱シミズライフケアによる実地検分を行った結果、「会館の一部にひび割れが散見されるものの今回は構造的な問題はない。但し若干補修を要するものあり」との評価。補修は 7 月に完了、費用は約 227 万円で、資金は修繕引当資産から充当した。<br>◆6/17 に東京都教育委員会に 2010 年度事業報告と収支計算書を提出 |
| 2012/6/30 | 春季公開講演会　講師：富岡幸一郎 関東学院大学教授・文芸評論家「内村鑑三とカールバルト・・・ローマ書解釈の共時性」、45 名出席<br>会報 138 号に講演会記録 |
| 2012/7/31 | 東大 YMCA 会報 137 号発行：<br>＊巻頭言：木村庸五氏（1970 年法）　「日本におけるキリスト教・キリスト教会」<br>：随想：富森啓二氏（1956 年法）　「凱旋なき凱旋」<br>＊総務部「第 39 回学生 YMCA 夏期ゼミナール」参加報告<br>＊長島常務理事報告　「公益財団法人に移行」<br>＊追悼：雨宮新氏（1953 年法）「粂野文雄君を偲ぶ（1953 年農・2012/2/11 帰天）」（東大キリスト者平和の会主催）、徳久俊彦氏（1953 年経）「粂野文雄・信子夫妻を送る」、「森岡巌先輩を送る（2012/2/1 帰天）、深瀬忠一氏「森岡巌先輩を送る」（新教出版社「福音と世界」編集長、同社長、ボンヘファーの紹介とキリスト者の戦争責任の問題など） |
| 2012/9/8 | 2012 年度第第 2 回理事会：原田明夫理事長、他理事が出席<br>◎2012 年度上期事業報告の件 |

| | |
|---|---|
| | ◎2011 年度下期事業計画の件：聖書研究会、合同祈禱会、OB 座談会、修養会、公開講演会など<br>◎2012 年度収支見込の件<br>◎募金に関する中間報告の件<br>◎その他：在舎延長申請が舎生総会で否決された舎生がその後退舎せず、不当に居室の占拠を続けるという事案が生じ、2012 年 1 月頃から常務理事及び理事長が本人との交渉・勧告などを行ってきた。その後工学部博士課程に在籍しているとの申告は偽りであることが判明した。 |
| 2012/11/10 | 関西 OB 会　講師；山口栄一 同志社大学大学院教授「東電原発事故の本質―JR 福知山線事故との精神的類似性」※会報 139 号に講演記録 |
| 2012/11/24 | 秋季公開講演会　講師：船本弘毅 関西学院大名誉教授　「何ゆえイエスはー不安・不信の時代と信仰」、48 名出席。※会報 139 号に講演会記録 |
| 2012/12/8 | 東大 YMCA 会報 138 号発行<br>＊巻頭言：橋本章氏（1959 年法）「東日本大震災から 1 年 7 か月」<br>＊OB の声 20 篇（今号から開始）<br>＊総務部「第 40 回学生 YMCA 夏期ゼミナール」参加報告 |
| 2012/12/8 | クリスマス祝礼拝　説教：賀来周一 日本福音ルーテル教会定年牧師（キリスト教カウンセリングセンター相談所長）「愛と死の季節、クリスマス」　※会報 139 号に説教記録<br>舎生劇：「モモ」 |
| **2013 年（平成 25 年）** | |
| 2013/2/9 | 2012 年度第 2 回評議員会・第 3 回理事会<br>◎2012 年度事業報告の件、◎2012 年度収支見込の件<br>◎2013 年度事業計画の件：聖書研究会、合同祈禱会、OB 座談会、修養会、公開講演会など<br>◎2013 年度予算の件<br>◎理事 1 名辞任の件：月本昭男理事の辞任を承認した。<br>◎常務理事に対する報酬の件；常務理事の報酬を、年前半は月額 8.5 万円、後半は 12.5 万円とする。<br>◎学生主事選任の件：引き続き税所真也氏を選任<br>◎故加藤せつ姉よりの寄付受け入れの件など：寄付総額（12/5/12～9/30）は 637 万円、うち加藤さんの口座へ 300 万円を振込み、郵送料等を除き残金は 332.5 万円となった。このうち 29 万円を釜石募金に振り向け、303.5 万円を当会に寄付することとした。また、釜石支援募金は加藤せつさんの寄付を含め総額 200 万円となった。 |

| | |
|---|---|
| 2013/5/11 | 創立 125 周年記念礼拝　説教：菅原力 弓町本郷教会牧師　「招かれている今を生きる」 |
| 2013/5/11 | 2013 年度第 1 回評議員会・第 1 回理事会<br>◎2012 年度事業報告の件：<br>◆聖書研究会：菅原力 弓町本郷教会牧師を講師として「マルコ福音書」を学ぶ。<br>◆春季修養会（3/17～18）：日光オリーブの里にて、奨励：塚本良樹 KGK 主事、11 名参加<br>◆合同祈禱会<br>4/19 滝田新二 片柳福音自由教会牧師　{ライフサイクルとソウルサイクル}<br>6/14 白畑司 市が尾キリスト教会牧師　「目をさまして祈りなさい」<br>7/4 岡田朋記 東京神学大学神学生　「後まで残る捧げものとは」<br>9/13 姫井雅夫 赤坂教会牧師　「人生の目的」<br>10/25 中島彰 東京神学大学神学生（当会 OB）　「主を待ち望む」<br>11/15 申起變 麻布福音教会牧師　「福音をもったエリート」<br>1/24 朴憲郁 東京神学大学教授・牧師　「新しい生き方」<br>2/21 近藤修司 浜寺聖書教会牧師　「希望における成長」<br>◆OB 座談会<br>5/31 駿河敬次郎先輩（1944 年医）　「御恩寵の下で」<br>7/26 水上拓郎先輩（2004 年農）　「キリストの道を歩んで」<br>9/27 浦西友義先輩（1974 年経）　「YM を出てから」<br>1/31 半田淳比古先輩（2008 年医）<br>2/28 山口栄一先輩（1977 年理 D）「東電原発事故の本質―JR 福知山線事故との精神的類似性」　※会報 139 号に記録<br>◆世代別同窓会：<br>4/14 同期会（51～55 年卒の会）、8 名出席<br>6/23 若手会（70 年前後卒）、9 名出席<br>10/6 さりげなく集う YM の会）、24 名出席<br>◆「故加藤せつさんをしのぶ会」　2013/1/19　本会礼拝堂にて、54 名出席<br>◎2013 年度事業計画の件：聖書研究会、合同祈禱会、OB 座談会、修養会、公開講演会など<br>◎2012 年度決算の件：舎生の減少により事業収入と食費収入は前年比 100 万円の減、寄付金収入は加藤せつ姉からの寄付等により 613 万円の増、また 13 年秋の空調システム改修に備えて、今年度決算で、大修繕積立金の 500 万円の積増しを行う。 |

| | |
|---|---|
| | ◎その他：6/13 東京都教育委員会に 2011 年度事業報告と収支計算書を提出 |
| 2013/6/8 | 春季公開講演会　講師：山口周三氏（64 年法卒）「南原繁の生涯に学ぶ」　50 名参加<br>※会報 139 号に講演記録 |
| 2013/8/6 | 東大 YMCA 会報 139 号発行<br>＊巻頭言：原田明夫氏（1963 年法）「混迷を続ける経済・社会・政治と議会制民主主義」<br>＊「加藤せつさんを偲ぶ」　5 篇<br>＊釜石より「被災地でキリスト者の声を聞く」（柳谷雄介 新生釜石教会牧師） |
| 2013/9/14 | 2013 年度第 2 回理事会：原田明夫理事長以下理事が出席<br>◎2013 年度上期事業報告の件<br>◆舎生数は 16～17 名で推移、増加対策が必要<br>◆2013 年版の新しい会員名簿を発行。名簿の更新は舎生中心で行ったが、作業上は多くの困難があったとの記録がある。<br>◎2013 年度下期事業計画の件<br>◎資産買替資金引当金勘定創設の件：公益財団法人には「資産買替資金引当金勘定」を創設し、無税にて費用計上することが可能となったため、理事会で決議のうえ、今後 5 年間は毎年 84 万円を費用計上する。<br>◎加藤せつ姉の寄付金の処理とエアコンの更新工事の件 |
| 2013/10/3 | 2 月の理事会で、女性入舎の受け入れが正式に決定されたのを受けて、10 月に受け入れ準備のための舎内総会を開催 |
| 2013/11/9 | 秋季公開講演会　講師：柳谷雄介 新生釜石教会牧師（1993 年農卒）「世界中が祈った日」　※会報 140 号に講演録 |
| 2013/12/14 | クリスマス祝礼拝　説教：船本弘毅 東京女子大元学長「東方で見た星」　※会報 141 号に説教録<br>舎生劇：「この世に降りし神の御子」 |
| 2013/12/14 | 東大 YMCA 会報 140 号発行<br>巻頭言：清水正之氏（1971 年文）「『文化と超越』再考」<br>＊徳久俊彦氏（1953 年法）「日本 YMCA 人物辞典余話」<br>※日本 YMCA 結成 100 周年を記念して 2003 年に「新編　日本 YMCA 史」を刊行 |
| **2014 年（平成 26 年）** | |
| 2014/2/8 | 2013 年度第 3 回理事会：原田明夫理事長、他理事が出席<br>◎2013 年度事業報告の件、◎2013 年度収支見込の件 |

| | |
|---|---|
| | ◎2014 年度事業計画の件、◎2014 年度収支予算の件<br>◎常務理事の報酬に関する件：2014 年度から報酬総額を予算通り 126 万円とする。<br>◎学生主事選任の件：引き続き税所真也氏を選任<br>◎寄宿舎に女子学生を受け入れる件：2014 年 4 月以降の女子学生受け入れを決定した。東大生の 3 割程度が女子学生であり、現に入舎希望者がいること、設備面ではそれほど問題ないこと、一方男子舎生の減少傾向が続いていることなどがその背景であり、現舎生間でも賛否両論があり、議論を続けた結果、舎生の総意が受け入れに賛成との報告を受けたために今般の決定となった。なお、これに伴い新年度より入寮選考基準のうち「東京大学の男子学生」を「東京大学の学生（含む女子)」と変更する。 |
| 2014/3/13 | 東大 YMCA 寄宿舎に女子学生を受け入れ開始。同 4 月 13 日に初めての女子学生リン・リリアナさん（公共政策大学院 1 年）が入舎 |
| 2014/5/10 | 126 周年創立記念礼拝　説教：菅原力 弓町本郷教会牧師「起き上がりなさい」　ヨハネ 5 章 1～9A<br>※会報 142 号に説教記録 |
| 2014/5/10 | 2014 年度第 1 回評議員会・第 1 回理事会<br>◎2013 年度事業報告<br>◆聖書研究会上半期は、菅原力 弓町本郷教会牧師を講師として「マルコによる福音書」を学び、下半期は、阿久戸光春 聖学院大学理事長/東京池袋教会牧師を講師として学ぶ。<br>◆修養会：3/6～7）奥多摩バイブルシャレーにて、16 名が参加<br>◆合同祈禱会<br>4/11 富永憲司 柏木教会牧師　「『放蕩息子のたとえ』を読む」<br>5/9 阿久戸光晴 聖学院大学長　「現代日本の急務と課題」<br>6/13 及川信 中渋谷教会牧師　「その水をください」<br>7/11 桜井圀郎 日本長老教会牧師　「神の前にたつ＝人生の基礎」<br>9/12 滝田新二 片柳福音自由教会牧師　「ビジョンの人モーセに学ぶ～神との出会い」<br>10/10 山本裕司 西片町教会牧師　「待つことに耐える」<br>11/28 岡田大輔 日本聖書学院学長　「無題（テモテへの手紙Ⅱ3;14-7)」<br>2/13 姫井雅夫 赤坂教会牧師<br>◆OB 座談会<br>5/30 木村庸五先輩（1970 年法）　「自民党の憲法改正草案について」<br>7/25 三浦永光先輩（1961 年教養）　「福島と足尾鉱毒事件をつなぐも |

| | |
|---|---|
| | の」<br>9/26 徳久俊彦先輩（1953 年経）「YMCA 人物辞典余話」　（高久史麿、橋本徹、岩見宣治の各氏が同席）<br>10/31 朴大信先輩夫妻（2011 年人社研究科）　「YM 寮で生活して」<br>2/27 矢治健太郎先輩（1991 年教養）　「太陽活動と我が人生」<br>◆年次別同期会<br>4/13 昭 26～30 卒同期会、8 名出席<br>5 月追分会<br>7/13 若手会、11 名出席<br>10/5 さりげなく集う YM の会、26 名出席<br>◎2013 年度決算の件<br>◎理事全員任期満了の件（理事会が推薦⇒評議員会が決定）<br>【理事名簿】原田明夫、長島章、徳久俊彦、関口哲生、野崎昭弘、梶村慎吾、月本昭男、清水正之氏（以上再任）、西部悠太（聖研）、木原盾（総務）、岩谷雄介（企画）、王旭東（文共）の諸兄（以上学生理事）。原田明夫理事長、長島章常務理事は再任<br>◎その他：6/20 東京都教育委員会に 2012 年度事業報告並びに収支報告と提出 |
| 2014/6/21 | 春季公開講演会　講師：船本弘毅 関西学院大名誉教授　「聖書は今の時代に何を語るか」（詩篇 119 章 9～16 節）　※会報 141 号に講演録 |
| 2014/8/7 | 会報 141 号発行<br>＊巻頭言：山口栄一氏（1977 年理）「沈みゆく船・日本を救え」<br>＊初めての女子学生の入舎「新舎生の声」<br>＊総務部報告：「舎生減少に対応するために、入舎業務は総務部に移行」、「ポスター、Twitter アカウントの作成、ブログのコンテンツの充実、Wikipedia のページ作成など東大 YMCA の情報宣伝に努力」、「新舎生は 4 月以降 4 名（うち女子 3 名）入舎、さらに 8 月以降に 2 名（うち女子 1 名）が入舎予定」 |
| 2014/9/13 | 第 2 回理事会：原田明夫理事長、他理事が出席<br>◎2014 年度下期事業計画の件、◎2014 年度上期事業報告の件<br>◆舎生数は 4 月より 16 名で推移、現在は 18 名。女子学生が 6 名入舎したことが増加に寄与<br>◎2014 年度収支見込の件<br>◎吉野作造記念館の支援の件：記念館の困難な経営状況により支援依頼があり、当会としては賛助会費として年 5～10 万円の寄付を検討したい。<br>◎寄宿舎の留学生枠の件：留学生の受け入れ枠は近年拡大してきてお |

| | |
|---|---|
| | り、現在は 9 名（収容能力 27 名の 1/3）で今後もこれを維持する。なお、国別配分枠は特に設けないが、偏らないように運用する（現在は 1 国 3 名まで）。なお、現在は、中国 3、韓国 2、マレーシア 2、インドネシア 1、アルゼンチン 1 名が在舎<br>◎今後の理事・評議員の選定のあり方の件：今後評議員会において役員選考委員を選出するよう提案する。 |
| 2014/10/25 | 秋季公開講演会　講師：金澤正剛 国際基督教大学名誉教授　「キリスト教音楽の始まり」　※会報 144 号に講演録 |
| 2014/11/8 | 関西 OB 会　講師：木村梯一氏（1989 年工卒）「内側から見た日本の電子産業」　大阪 YMCA 国際文化センターにて、15 名参加。※会報 142 号に報告掲載 |
| 2014/12/9 | 会報 142 号発行<br>＊巻頭言：原田明夫氏（1963 年法）「『グローバル化』する世界における対話の必要性」<br>＊清水博（1956 年薬）　「<いのち>の持続可能性」<br>＊総務部：東大 YMCA の主催　「学生 YMCA 同盟と東大 YMCA の集い」<br>＊聖研部：「東大 YMCA 読書会」を開始：第 1 弾は『告白』（アウグスティヌス） |
| 2014/12/13 | クリスマス礼拝・祝会　説教：阿久戸光晴 聖学院大学理事長・院長<br>「旅へ出かけるクリスマス・旅から帰るクリスマス」<br>舎生劇：「現代版ヨブ記」 |
| **2015 年（平成 27 年）** | |
| 2015/2/7 | 第 3 回理事会：原田明夫理事長、他理事が出席<br>◎2014 年度事業報告、◎2014 年度収支見込み<br>◎2015 年度事業計画の件、◎2015 年度予算の件<br>◎学生主事選任の件：学生主事として木原盾兄を選任する。また、兄が在任中に短期留学する可能性があり、また博士課程の在舎生も多くなったので、兄との年齢差を埋めるために「副主事」を置くこととする。なお、副主事の配置は、木原兄の在任中に限った措置とする。 |
| 2015/4/25 | 2015 年度第 1 回理事会<br>◎2014 年度事業報告の件<br>◆聖書研究会：講師は昨年に引き続き　阿久戸光晴先生<br>◆合同祈禱会<br>4/10 仲宗根正美氏（ホープオブ東京教会）　「クリスチャンの特権」<br>6/12 伊藤英志 三軒茶屋教会牧師　「新約聖書と旧約聖書」 |

| | |
|---|---|
| | 7/10 渡辺二郎先生（相原キリスト集会）<br>9/11 上田光正 曳舟教会牧師　「ヨブの信仰」<br>10/13 山本裕司 西片町教会牧師　「弱く見える部分がかえって必要」<br>11/10 楊先生（東京陽光基督教会牧師）　「信仰の特徴」<br>1/29 李エリア宣教師（早稲田大学研究所）　「まず神の国と神の義を求めよ」<br>2/12 菅原力 弓町本郷教会牧師　「種の力を信じなさい」<br>◆OB 座談会<br>5/22 中島彰先輩（2012 年教養）　「東神大ライフ」<br>6/22 山口栄一先輩（1977 年理 D）「グローバルリーダーを育成する新しい大学院の挑戦」<br>9/25 竹川彬史先輩（2013 年公共政策大学院）　「シンクタンクの仕事」<br>11/27 小川有美先輩（1987 年教養卒）　「環境・原発の政治」<br>1/22 田川義之先輩（2009 年工 D）　「東大 Y での信仰生活・共同生活」<br>◆読書会及び賛美集会：10 月より毎週土曜夜に読書会が行われ、アウグスティヌスの「告白」を読了、引き続きボンヘッファーの「共に生きる生活」を読む予定。また、毎週火曜夜に賛美集会が開かれるようになった。<br>◆10/30「学生 YMCA 同盟と東大 YMCA の集い」（東大 YMCA 主催）<br>講師：森小百合 YMCA 同盟学生 Y 専従スタッフ「世界と日本の YMCA 運動の歴史、現在の学生 YMCA 同盟の活動」<br>◆年次別同期会：10/11 さりげなく集う YM の会　26 名出席<br>◎2014 年度決算の件<br>◎常務理事選任の件：長島章常務理事の退任希望を受け、常務理事は当分の間、原田明夫理事長が兼務する。なお事務局長として桃井明男氏を迎え、長島氏が行っていた仕事の大部分をカバーする体制とする。<br>◎学生理事の交替：新任は、申ヨハン（総務）、リンリリアナ（聖研）、王旭東（文共）、張ヨウホウ（企画）。木原盾は学生主事、西部悠太は副主事に就任<br>◎その他：6/26 に東京都管理法人課に 2013 年度事業報告並びに収支報告を提出 |
| 2015/5/23 | 創立 127 周年記念礼拝　説教：菅原力 日本キリスト教団新生教会牧師「夜明けの岸辺」<br>※会報 143 号に説教録 |
| 2015/5/23 | 2015 年度第 1 回評議員会 |

| | |
|---|---|
| | ※内閣府より「公益財団法人においては理事会と評議員会の開催日は14日間以上空ける必要がある」との指示があったので、理事会を4/25、評議員会を5/23の開催とした。<br>◎2015年度事業計画の件、◎2015年度収支予算の件、◎学生主事交替の件、◎常務理事変更の件、◎2014年度事業報告、◎2014年度決算の件、◎学生理事交替の件、以上、審議内容は4/25理事会とほぼ同様 |
| 2015/6/13 | 春季公開講演会　講師：船本弘毅 関西学院大名誉教授「今、キリスト者であることーボンヘッファーの思想と信仰を読み直す」　50名参加<br>※会報143号に講演録 |
| 2015/7/30 | 会報143号発行<br>＊巻頭言：野崎昭弘氏（1957理）「国立大学の学費値上げについて」<br>＊総務部：舎生の男女比、日本人・留学生比が共に1：1となる。「寮生活の手引き」を9年ぶりに改訂 |
| 2015/9/19 | 2015年度第2回理事会原田明夫理事長、他理事が出席<br>◎2015年度上期事業報告、◎2015年度収支見込の件、◎2015年度下期事業計画の件<br>◎留学生受け入れ時期の一次変更の件：2014/9/13理事会において「留学生は収容能力の1/3程度の9名の枠を設ける」ことが確認されている。今般、舎生数を確保する観点から、退舎時期がはっきりしている留学生がいる場合に限り、募集時期を早めて募集・面接を行うこととする。（一時的に留学生枠を超える可能性を容認する）<br>◎理事・監事・評議員の選任：現在の任期2016/5/14まで。本人から辞退の申し出がない限り全員の再任の方向で手続きをする。 |
| 2015/10/31 | 秋季公開講演会　講師：金澤正剛 国際基督教大学名誉教授「キリスト教音楽」　40名参加。　※会報144号に講演録 |
| 2015/10/31 | 関西OB会　発題：山本彼一郎弁護士（1973年法）「第二次砂川事件最高裁判決ほか3件の判例」、「信仰と聖書について」　※会報144号に講演録 |
| 2015/11/12 | 聖書研究会特別講演　講師：阿久戸光晴 聖学院大学理事長・院長「聖書の読み方」　※会報144号に講演録 |
| 2015/12/12 | クリスマス祝礼拝　説教：鍋谷謙一 日本基督教団根津教会牧師　「思い悩むな」<br>舎生劇：「信仰と勇気の物語―エステル記―」　※会報145号に説教録 |
| 2015/12/17 | 会報144号発行：<br>＊巻頭言：徳久俊彦氏（1953年経）「先輩の足跡を辿って」<br>＊文共部報告：舎内蔵書の整理と図書目録の電子リスト、総会議事録の |

| | |
|---|---|
| | データベース化 |
| **2016 年（平成 28 年）** | |
| 2016/2/13 | 2015 年度第 3 回理事会：原田理事長、他理事出席<br>◎2015 年度下期事業報告、◎2015 年度収支見込の件<br>◎2016 年度事業計画の件、◎2016 年度予算の件<br>◎評議員選定委員選任の件：2016 年 5 月に任期満了を迎える評議員を選定するため、評議員選定委員を岩見宣治評議員、木村庸五監事、明神恵子事務局員、吉岡直人外部委員、小堀洋志外部委員の 5 名を選任する。<br>◎学生主事選任の件：引き続き木原盾氏を選任<br>◎資産買替資金引当金枠増額の件：引当金の計上金額については、改めて坪 100 万円で計算し直して、毎年 515 万円の引当金を計上することとなる。 |
| 2016/4/23 | 2016 年度臨時評議員会<br>◎2016 年度事業計画及び 2015 年度収支予算の件<br>◎評議員選任の件：岩見評議員選定委員会委員長（現評議員）より、2016 年 3 月 26 日に選定委員会が開催され、審議の結果、理事会から推薦があった評議員候補者が全員選定された旨、報告あり<br>【評議員名簿】　二神康郎、高橋雅二、青本健作、中島伸一、村上俊一、霜垣幸浩の各氏（以上再任）、吉岡直人、中村義哉、田川義之、三浦真の各氏（以上新任）<br>◎理事選任の件：原田理事長から現理事全員の再任と理事 2 名の新任、及び学生理事 4 名の候補者の説明があり、これを可決した。<br>【理事名簿】　原田明夫、長島章、徳久俊彦、関口哲生、野崎昭弘、梶村慎吾、清水正之（以上再任）、垣内史堂、岩見宣治、古屋玲奈、平井正道、康佳慧、金子友紀の各氏（以上新任）<br>◎監事選任の件：理事長から現監事全員の再任の提案があり、これを可決した。<br>【監事】木村庸五、弥永真生の両氏<br>　※以上の任期はいずれも 2016 年 5 月から 2020 年定時評議員会終結の時まで |
| 2016/4/23 | 2016 年度第 1 回理事会<br>◎理事・監事改選の件<br>◎2015 年度事業報告<br>◆舎生数は 17 名、うち女性 7 名、留学生 7 名（中国 3、ポルトガル、インドネシア、マレーシア、韓国各 1 名）<br>◆聖書研究会　講師：阿久戸光晴 聖学院大学理事長・院長 |

| | |
|---|---|
| | ◆合同祈禱会<br>4/9 浦田慎二郎 カトリック下井草教会神父　「イエス、弟子たちに現れる」<br>5/14 早矢仕宗伯 東京武蔵野福音自由教会牧師　「交わり招かれて」<br>6/11 杉本智俊 新生キリスト教会連合・町田クリスチャンセンター牧師「気づきの重要性」<br>7/9 新川代利子 ウェスレアン・ホーリネス教団淀橋教会　「労苦の実り」<br>9/10 リチャードローズ カルバリー・チャペル府中牧師　「Old School Church」<br>10/8 蔦田康毅　東京国際基督教会牧師　「主にある交わりの特徴」<br>11/19　山本裕司 西片町教会牧師　「渇かない水」<br>1/14 早矢仕宗伯 東京武蔵野福音自由教会牧師　「祈り」<br>3/17 滝田新二 片柳福音自由教会<br>◆OB 座談会<br>5/28 渡辺頼勝先輩（2001 年医）　「形態機能と社会機能を取り戻す顔の治療」<br>6/25 長島章 前常務理事（1962 年法）　「東大 YMCA の現状と課題」（東大 YMCA150 周年に向けて）<br>7/30 特別 OB 座談会　「共同生活で得たもの、大学の意義、天に宝を積む生き方とは？」　清水正之 聖学院大学学長、山口栄一 京都大学大学院教授、合田隆史 尚絅大学学長。※会報 144 号に記録<br>9/24 大口邦雄元理事長（1956 年理・D）　「寮での記憶、少年時代の思い出を語る」<br>10/22 西道隆臣先輩（1984 年薬）　「信仰の歩みから仕事の内容を語る」<br>2/25 戸川武則先輩（2011 教育学研究科　）「子育てから考える」<br>◆年次別同期会<br>10/10 第 16 回さりげなく集う YM の会　24 名参加<br>11/26 追分会　10 名参加<br>◆官庁関係：6/18 東京都管理法人課に 2014 年度事業報告等を提出。<br>7/16 役員変更登記完了。10/8 東京都生活文化局都民生活部管理法人課公益法人係による立入検査<br>◎2015 年度決算の件<br>◎理事長・常務理事選任の件：原田理事長より役員の状況を鑑みて、当分の間、理事長が常務理事を兼務するとの提案があり、これを可決した。最終的には 7/21 理事会の書面決議による。 |

| | |
|---|---|
| | ◎日本 YMCA 同盟代議員選任の件；梶村慎吾氏を選任（任期：2016/07～18/06 の 2 年間）<br>◎大規模修繕工事・サッシ更新工事の件：マンションの大規模修繕工事（同時施工で YM 負担分あり）とサッシ更新工事、階段等修繕工事を行う。費用は合計約 2,900 万円の見込み。 |
| 2016/5/21 | 創立 128 周年記念礼拝　説教<br>山本裕司 日本キリスト教団西片町教会牧師「二重三重の封印」　※会報 145 号に説教録 |
| 2016/5/21 | 2016 年度第 1 回評議員会（新旧合同）<br>◎2016 年度事業報告の件、◎2016 年度予算の件 |
| 2016/6/25 | 春季公開講演会　講師：高本真一 三井記念病院院長（1973 年医）「患者とともに生きる～ミッションに生きる～」、43 名参加。※会報 145 号に講演録 |
| 2016/8/2 | 会報 145 号発行<br>＊巻頭言：月本昭男氏（1971 年文）「ベルゴリオからフランシスコへー教皇フランシスコの評伝を読む」<br>＊村上俊一氏（1966 年医）「心の科学」 |
| 2016/9/10 | 2016 年度第 2 回理事会：原田理事長、他理事が出席<br>◎2016 年度上半期事業報告の件、◎2016 年度収支見込の件<br>◎2016 年度下半期事業計画の件<br>◎大規模修繕工事・サッシ更新工事及び募金の件：工事は本年秋に開始の予定。YM 部分に係る費用は 2380 万円。また本工事を行うため、「大規模修繕募金」を行う（期間は 2016 年 10 月から 2017 年 12 月まで）。 |
| 2016/9/19 | 聖書研究会・修養会（～20）　講師：阿久戸光晴 聖学院大学理事長・院長 |
| 2016/10/22 | 秋季公開講演会　講師：金澤正剛 国際基督教大学名誉教授「キリスト教音楽史の裏街道―ラウダの流行からオラトリオの誕生まで」、30 名参加　※会報 146 号に講演録 |
| 2016/11/12 | 関西 OB 会　発題：柴谷光信氏（1992 年経）発題：「これからのエネルギービジネスについて」　11 名参加　※会報 146 号に講演録 |
| 2016/12/10 | クリスマス礼拝・祝会　説教：姫井雅夫 日本キリスト教団赤坂教会牧師　「あなたがたのために」　※会報 147 号に説教録 |
| 2016/12/8 | 会報 146 号発行<br>＊巻頭言：木村庸五氏「信教の自由と平和のゆくえ」<br>＊随想：中川徹氏（1963 年理）『自由』vs『愛』：人類文化を貫く未解決の『主要矛盾』 |

| 2017 年（平成 29 年） | |
|---|---|
| 2017/2/18 | 2016 年度第 3 回理事会：長島章理事、他理事が出席（原田理事長は欠席）<br>◎2016 年度事業報告の件、◎2016 年度収支見込みの件<br>◎大規模修繕工事報告の件、◎2017 年度事業計画の件<br>◎2017 年度予算の件：再来年の 130 周年記念に向けて、記録を作るための予算を「その他の経費」に含めることとした。<br>◎学生主事選任の件；昨年に引き続き木原盾氏を選任<br>◎理事長及び常務理事の件：病気療養中の原田理事長兼常務理事の病状と意向が報告され、臨時に理事長臨時代行として徳久俊彦理事、常務理事代行として長島章理事を選任 |
| 2017/4/15 | 原田明夫理事長　葬儀（2017/4/6 帰天）、青山葬儀場にて、東大 YMCA 青本健作氏が弔事 |
| 2017/4/22 | 2017 年度第 1 回理事会<br>◎理事長選任の件：原田理事長の逝去に伴い、徳久俊彦理事を理事長に選任した。<br>◎2016 年度事業報告の件<br>◆舎生数：21 名、うち女性 8 名、留学生 7 名（中国、韓国各 2、インドネシア、マレーシア、ポルトガル各 1）<br>◆聖書研究会：引く続き、阿久戸光晴 聖学院大学理事長・院長を講師に迎えた。1 月からは、左近豊 日本基督教団美竹教会主任担当教師にお願いしている。<br>◆関東地区学生 YMCA 聖書研究会：6/16 に当会礼拝堂にて、講師は阿久戸光晴先生。立教、清泉、慶応、早稲田、大宮 YMCA から 36 名出席<br>◆合同祈禱会<br>4/14 重田稔仁 上野の森キリスト教会牧師　「ゲッセマネの祈り」<br>5/10 ジェームズ・フーストン師との交流会<br>5/12 斎藤美沙子 東京喜び教会伝道師　「目の開かれた者」<br>6/9 敦賀章博 日本長老教会：久我山キリスト教会牧師　「召しと、決断。その潔さ」<br>7/14 蔦田康毅 東京国際基督教会牧師　「ディボーション」（詩篇 1 章 1～3）<br>9/8 ジョン 日本福音自由教会宣教師　「万華鏡のような民族；（黙示録 7 章 9～10）<br>10/13 菅原力 日本基督教団新生教会牧師　「成長する種」（マルコ 4 章 1～34）<br>11/17 左近豊 日本基督教団美竹教会主任担当教師　「信仰の歩み」（申 |

| | |
|---|---|
| | 命記 7 章 6～8）<br>1/12 早矢仕宗伯 東京武蔵野福音自由教会牧師　「交わり」（ヨハネの手紙 4 章 7～21）<br>2/16 ジョン 日本福音自由教会宣教師　「一つの肩」（セパニヤ書 2 章 1～3、3 章 9）<br>◆夏季修養会：9/19～20 に中央工学校・軽井沢南ヶ丘クラブにて開催。講師は阿久戸光晴先生、6 名参加<br>◆修養会：3/10～11 奥多摩福音の家にて、13 名参加<br>◆OB 座談会<br>5/26 三浦真先輩（2005 経卒）「『最も重要な掟』に従って生きる」<br>7/28 吉岡直人先輩（1972 理 D）「宇宙原理と人間原理」<br>9/22 梶村慎吾理事（1969 法卒）「第 5 回同盟協議会報告等」<br>11/24 朴大信先輩（2011 人文社会研究所卒）<br>1/26 岩佐明彦先輩（1994 工）「仮説のトリセツーもし、仮設住宅で暮らすことになったら」<br>◆近隣教会訪問<br>5/30 日本聖公会東京教区 東京聖テモテ教会　司祭：香山洋人牧師<br>6/13 日本基督教団弓町本郷教会　大澤宣牧師<br>7/3 日本福音ルーテル教会 安井宣生牧師<br>◆年次別 OB 会<br>5/23 追分会　9 名参加<br>6/25 若手会<br>10/1 さりげなく集う YM の会　24 名参加<br>◎2016 年度決算の件<br>◎日本 YMCA 同盟代議員選任の件<br>◎その他：<br>◆6/16 東京都管理法人課に 2015 年度事業報告等を提出<br>◆公益財団法人ホームページを開設 |
| 2017/5/13 | 創立 129 周年記念礼拝　説教：左近豊牧師「アーモンドの枝を見たもの」　出席者 26 名<br>※会報 147 号に説教録 |
| 2017/5/13 | 2017 年度第 1 回評議員会<br>◎2016 年度事業報告の件、◎2016 年度決算の件<br>◎理事選任の件：新理事として月本昭男 上智大学神学部特任教授（71 文）、学生理事として、吉田聖、山岸純平、呉爾傑兄を選任した。任期はいずれも 2018 年定時評議員会終結のときまで |
| 2017/6/17 | 春季公開講演会　講師：船本弘毅 関西学院大名誉教授・東京女子大学 |

| | |
|---|---|
| | 元学長）　「究極のものと究極以前のもの～ボンヘッファーの信仰に学ぶ～」　※会報 148 号に講演録 |
| 2017/7/7 | 会報 147 号発行<br>巻頭言：篠原正雄氏「上州安中、柏木義円牧師のこと」<br>随想：島田宗洋氏（1966 年医）「リビング・ウイル」<br>追悼：青本健作氏　「原田明夫さんへの弔事（2017 年 4 月 6 日帰天）」 |
| 2017/9/16 | 2017 年度第 2 回理事会　徳久俊彦理事長、他理事が出席<br>◎2017 年度上半期事業報告の件、◎2017 年度収支見込みの件<br>◎2017 年度下半期事業計画の件<br>◎次年度理事長及び常務理事選任の件<br>◎学生主事選任の件：木原盾氏の留学・退舎に伴い、後任に、康佳慧氏（法学政治学研究科博士課程・2015 年入舎）を選任した。任期は 1 年 |
| 2017/9/16 | 故原田明夫前理事長を偲ぶ会　追悼説教：広田叔広梅が丘教会牧師「最期の祈り」　※会報 148 号に説教録 |
| 2017/11/4 | 秋季公開講演会　講師：金澤正剛 国際基督教大学名誉教授「宗教改革 500 年をめぐって」　（宗教改革の結果、音楽がどのように変わったか？）　※会報 148 号に講演録 |
| 2017/11/11 | 関西 OB 会は、発題：丸川正吾氏と関口哲生理事、神戸 YMCA にて 14 名出席。　※会報 148 号に報告 |
| 2017/12/9 | クリスマス礼拝・祝会　説教：大澤宣 日本基督教団弓町本郷教会牧師「希望のしるし」　※会報 149 号に説教録 |
| 2017/12/8 | 会報 148 号<br>＊巻頭言：小堀洋志氏（1971 年工）「たとえ泥臭くても」<br>＊随想：関澤純氏（1966 年農）「福島原発事故被災者から見た緊急時対応と基本的人権の尊重」<br>＊OB の声：宮田光雄氏（1951 年法）「吉野作造先生と私」<br>＊原田前理事長（2017/4/6 帰天）への追悼文：徳久俊彦氏（1953 年経）、木下毅氏（1960 年教）、二神康郎氏（1960 年農）、島田宗洋（1966 年医）、岡本謙一氏（1968 年養）、梶村慎吾氏（1969 年法）、広田叔広 梅が丘教会牧師　「前夜式・告別式式辞」、「追悼説教」 |
| **2018 年（平成 30 年）** | |
| 2018/2/17 | 2017 年度第 3 回理事会：徳久俊彦理事長、他理事が出席<br>◎理事長職務執行状況報告；<br>◆「税額控除に係わる証明書」の有効期間：現行「2017/10/28 まで」につき、改めて 8/15 に同証明書申請を行い、11/15 に交付された。<br>◆大規模修繕募金が 12 月末に終了し、寄付金総額は約 675 万円となっ |

| | |
|---|---|
| | たこと等を報告<br>◎次年度理事及び常務理事選任の件：2018 年 5 月の定時評議員会終了の時をもって理事任期が終了するため、改めて選任が必要。野崎理事より退任したい旨の申し出があった。 |
| 2018/4/21 | 2018 年度第 1 回理事会<br>◎2017 年度事業報告<br>◆舎生数は 23 名、うち女性は 7 名、留学生は 7 名（韓国 3 名、中国、ポルトガル、インドネシア、シンガポール各 1）<br>◆聖書研究会：引き続き講師は、左近豊 日本基督教団美竹教会牧師で、「詩篇」を中心に<br>◆春季修養会：3/9～10　東山荘にて、9 名参加<br>◆合同祈禱会<br>4/13 蔦田康毅 東京国際基督教会牧師　「イースター」（マタイ 21 章 1～11）<br>5/11 重田稔仁 上野の森キリスト教会牧師　「聖書ディスカッション」<br>6/8 小幡塁 JECA 永福南キリスト教会牧師　「証」（ヨハネ 21 章 24～25）<br>7/12 三宅規之 めぐみ福音キリスト教会牧師<br>9/14 井上武 レデンプトール修道会神父　「キリストの自由」<br>10/12 北川正弥 日本基督教団代々木中部教会牧師　「怪力サムソン」<br>11/9 鈴木啓之 国際基督教会宣教師「へりくだる者に恵みを」<br>1/11 Duane Dietze 日本福音自由教会宣教師 「主の誠実とそれへの応答」<br>2/8 朴大信 東京神学大学大学院生　「主の教えに生かされる慰め」<br>◆7/27 関東地区学生 YMCA 聖書研究会を当会礼拝堂にて実施。東大、立教、清泉、慶応、早稲田、中央、大宮 YMCA から 25 名参加。講師は、左近豊 日本基督教団美竹教会牧師<br>◆OB 座談会<br>5/18 西部悠太先輩（2016 年農・生命科学研究科）　「学生時代・今の職業など」<br>7/13 徳久俊彦理事長　「東大 YMCA の歴史から」<br>9/21 梶村慎吾理事（1969 法卒）　「第 6 回日本 YMCA 同盟協議会報告等」<br>10/19 千葉岳洋先輩（2014 年卒）：ピアノ演奏と音楽家として生きることなどのお話<br>1/18 中川徹先輩（1963 年卒）　「人類文化の主要矛盾の克服のために『自由』と『愛』と『倫理』」 |

| | |
|---|---|
| | ◆年次別 OB 会<br>4/12 追分会　11 名出席<br>9/16 若手会　9 名出席<br>10/7 さりげなく集う YM の会　18 名出席<br>11/8 追分会　9 名出席<br>◎その他<br>◆6/22 東京都管理法人課に 2016 年度事業報告等を提出<br>◆日本 YMCA 同盟代議員に引き続き梶村慎吾氏を選任（ただし次回評議員会で理事に選任の場合） |
| 2018/5/12 | 創立 130 周年記念礼拝　説教：阿久戸光晴 聖学院大学理事長・院長「AI　時代の新しい学問の構築」　35 名参加。※会報 149 号に説教録 |
| 2018/5/12 | 2018 年度第 1 回評議員会<br>◎2017 年度事業報告の件、◎2017 年度収支計算書の件<br>◎理事選任の件：本日の評議員会をもって理事全員が任期満了となるため、次期理事を次のとおり選任した。<br>【理事名簿】　徳久俊彦、長島章、関口哲生、梶村慎吾、清水正之、垣内史堂、岩見宣治、月本昭男、山岸純平の各氏（以上再任）、浜村俊傑、浅見啓一藤原智也の各兄（以上新任）野崎昭弘氏は退任。理事は 12 名、任期は 2018 年 5 月～2020 年定時評議員会の終結の時まで |
| 2018/6/23 | 2018 年度第 2 回理事会<br>◎代表理事選任の件：代表理事に徳久俊彦理事を選任し、常務理事は当面代表理事（理事長）が兼務することを決定した。 |
| 2018/6/23 | 春季公開講演会　講師：月本昭男理事　「旧約聖書の現代的意味～出エジプト伝承を中心に～」　33 名参加。※会報 150 号に講演録 |
| 2018/7/9 | 会報 149 号発行<br>巻頭言：徳久俊彦氏（1959 年経）　「130 周年を迎えて」<br>OB の声：木下毅氏（1960 年教）　「生きた信仰とは？」<br>＊原田前理事長（17/4/6 帰天）への追悼文：萩野谷興氏（63 年法）<br>＊創立 130 周年記念特集：中島伸一氏（1964 年法）「閑話三題、梶村慎吾氏（1969 年法）　「創立 130 周年に思う」、中所武司氏（1969 年工）「50 年前（1968 年）は大学紛争の年だった」、水上拓郎氏（2004 年農）「葡萄の木に接木された小さな信仰の歩み」、木原盾氏（2017 年育）「退舎して 1 年を経て～キリスト者の多様性～」 |
| 2018/9/8 | 2018 年度第 3 回理事会：徳久俊彦理事長、他理事が出席<br>◎2018 年度上半期事業報告の件<br>◎2018 年度収支見込みの件<br>◎下半期事業計画の件 |

| | |
|---|---|
| 2018/11/10 | 関西 OB 会　神戸 YMCA にて 11 名参加。講師：鈴木道剛 東北学院大学教授「アイドル（偶像）よりイコン（聖像）へ～芸術と科学と現実生活を支える受肉」<br>※会報 150 号に報告 |
| 2018/11/24 | 秋季公開講演会　講師：金澤正剛 国際基督教大学名誉教授「教会暦と音楽」　20 名参加 |
| 2018/12/9 | クリスマス礼拝・祝会　説教：藤森友紀 日本基督教団富士見町教会牧師　「光は暗闇の中に輝く」34 名参加　　※会報 150 号に報告 |
| 2018/12/25 | 会報 150 号発行<br>＊巻頭言：山口周三氏（1964 年法）「南原繋先生から学んだこと」<br>＊事業部報告<br>▷総務：舎生は 22 名、ここ 2 年程、学部生が増加<br>学生 YMCA との交流として、夏期ゼミやオリエンテーションに参加<br>▷企画：、公開講演会、OB 座談会など<br>▷聖研：早天祈禱会（出席率が比較的高い）、　月末には「月末恵み会」を開催。聖研は毎月第三木曜、合同祈禱会は毎月第二木曜<br>▷文共：会報発行、蔵書貸出制度など |
| **2019 年（平成 31 年／令和元年）** | |
| 2019/2/9 | 2018 年度第 4 回理事会<br>◎理事長・常務理事の職務執行状況報告の件<br>◆10/25 東京都の立ち入り検査が実施された。事務的な不備事項のほか、「入寮選考基準では常務理事を選考者と定めているが、2017 年度以降は常務理事が不在のため基準のとおり実施されていないこと」、及び「理事長が常務理事を兼務しているが、これは法令及び当会定款に違反しており、かつ違反の認識がないこと」の重要な指摘があり、合わせて東京都から同生活文化局都民生活課に出頭を命じられた。これを受けて 1/21 に理事長と事務局長が赴き、事務的な不備を謝罪のうえ、今後の対応方針案を説明した。<br>◎2018 年度事業報告の件、◎2018 年度収支見込みの件<br>◎2019 年度事業計画の件、◎2019 年度収支予算の件<br>◎理事長・常務理事選任の件 |
| 2019/4/20 | 2019 年度第 1 回理事会<br>◎理事長・常務理事職務執行状況報告<br>◎2018 年度事業報告の件<br>◆舎生数：19 名、うち女性 7 名、留学生 4 名（中国、韓国、インドネシア、シンガポール各 1） |

| | |
|---|---|
| | ◆聖書研究会　講師：洪徳憙 日本基督教団洗足教会牧師（ルカによる福音書を中心に）<br>◆関東地区学生 YMCA 聖書研究会　11/29　当会礼拝堂にて実施。東大、清泉、慶応、中央、一橋、YMCA から 31 名参加。講師は洪徳憙先生<br>◆合同祈禱会<br>4/12 岡谷和作 KGK 主事　「マルコによる福音書 12 章 1～11」<br>6/7 松坂政広 上野の森キリスト教会副牧師　「助け手とは」<br>7/12 小川国光 日本恵約キリスト教会牧師　「コリント人への手紙第一 13 章 1～13」<br>9/13 斎藤正 日本基督教団根津教会牧師　「ルカによる福音書 5 章 1～11」<br>10/11 敦賀章博 日本長老教会久我山キリスト教会牧師　「詩篇 126 篇」<br>11/18 山本裕司 日本基督教団西片町教会牧師　「創世記 28 章 10～22」<br>1/10 瀬戸高志 レデンプトール修道会神父　「イエスの招きを生きる」<br>2/14 左近深恵子 日本基督教団美竹教会牧師　「キリストの道」<br>◆OB 座談会<br>5/24 米倉将吾先輩（2024 年卒）　「ご自身の寮生活、信仰、研究などのお話」<br>7/26 小堀洋志先輩（1971 年工卒）　「東大 YMCA より生まれた賛育会について」<br>9/27 関智征先輩（2003 年卒）　「当時の寮生活やご自身の信仰、現在までの活動などのお話」<br>10/18 石川憲彦先輩（1973 年医卒）　「障害を持つ子供達との関わりなどのお話」<br>1/24 古屋玲奈（2017 年卒）　「漫画家としての生活や寮生活の思い出などのお話」<br>◆年次別同期会<br>6/9 追分会　10 名出席<br>6/14 若手会　12 名出席<br>10/6 さりげなく集う YM の会　19 名出席<br>11/5 寺尾榮祐兄を偲ぶ会　9 名出席<br>11/8 若手会・オリエント博物館見学会（月本昭男館長主催）と懇親会<br>◎2018 年度決算の件<br>◎諸規定制定の件：「入舎選考基準」「経理規程」「印章取扱規程」「公開 |

| | |
|---|---|
| | 講演会及び講師謝礼に関する規程」「個人情報管理規程」を改訂した。<br>◎理事長・常務理事選任の件：徳久理事長から、来年 5 月に理事全員が任期満了を迎えるにあたり、理事長（代表理事）を辞任したい旨の申し出があった。常務理事については篠原正雄氏を候補者とする案が出され、5 月の評議員会に同氏及び伊村大吾、松永るつ、中山貴絵の学生理事候補者を推薦することとした。また事務局長は引き続き置きたいとの強い要望が出された。<br>◎学生主事選任の件：藤原智也氏を選任<br>◎その他；<br>◆2019 年 4 月より、東大内でのサークル活動顧問は霜垣幸浩 工学系研究科教授（1984 年卒）から五百旗頭薫 法学政治学研究科教授（1996 年卒）に交代する。<br>◆6/14 東京都管理法人課に 2017 年度事業報告などを提出<br>◆2018/10/25 の東京都の立ち入り検査については、1/21 に理事長が説明に赴いた後、2/28 に文書で回答した。これに対し 3/27 に「速やかに対応を進められたい」との回答があった。 |
| 2019/5/11 | 創立 131 周年記念礼拝　奨励：パウロ眞野玄範 日本聖公会横浜教区（甲府聖オーガスチン教会・長坂聖マリア教会）司祭　「エキュメニカル運動の経験」　出席者 25 名<br>※会報 151 号に説教録 |
| 2019/5/11 | 2019 年度第 1 回評議員会<br>◎篠原正雄氏が新理事に選任された。任期は 2021 年 5 月まで |
| 2019/6/15 | 春季公開講演会　講師：五百旗頭薫 東京大学教授「吉野作造の歴史認識」　23 名参加。　※会報 151 号に講演録 |
| 2019/7/1 | 会報 151 号発行<br>＊巻頭言：青本健作氏（1963 年法）　「ノートル・ダムと森有正」<br>＊関西 OB 会予告編：関口哲生氏（1954 年工）<br>＊三浦真氏（2005 年経）　「東大 YMCA への寄付について」<br>＊追悼：村松武司（1955 年医・薬）「畏友 宮田新平兄（1954 年医・薬卒 2018/12/18 帰天）を悼む」 |
| 2019/9/14 | 2019 年度第 3 回理事会　徳久理事長、他理事が出席<br>◎2019 年度上半期事業報告の件、◎2019 年度上半期収支報告の件<br>◎2019 年度下半期事業計画の件<br>◎評議員選定委員選任の件：選定委員は、吉岡直人評議員、木村庸五監事、明神恵子事務局員、及び外部委員として小堀洋志氏と平野明宏氏の計 5 名を選任した。<br>◎理事会・事務局の体制の件：篠原新理事を紹介。20 年 5 月の評議員 |

| | |
|---|---|
| | 会開催の日をもって、篠原理事を除く理事・監事・評議員が任期満了になる。新体制のもとで、常務理事の選任、事務局体制を整えることとした。<br>◎その他：建物賃貸借契約により、㈱東信堂と契約を更新（期間：2019/8/22～2021/8/21） |
| 2019/11/16 | 関西 OB 会　京都大学 YMCA 会館にて、「今、取り組んでいること、考えていること、学んでいること、お気に入りの一冊など」で発題・懇談 9 名出席　※会報 152 号に報告 |
| 2019/11/9 | 秋季公開講演会　金澤正剛 国際基督教大学名誉教授「クリスマスと音楽」 |
| 2019/12/14 | クリスマス礼拝・祝会　説教：北川美奈子 三軒茶屋教会副牧師「インマヌエル～神は共におられる」 |
| 2019/12/23 | 会報 152 号発行<br>＊巻頭言：関栄次氏（1953 年法）<br>＊夏期修養会報告：徳永友花氏（2018 年工）　「ノンクリスチャン向けの聖書学びの会」<br>＊追悼；高沢金吾氏「佐野謙一君の思い出（1984 年工・2019/11/8 帰天）」 |
| **2020 年（令和 2 年）** | |
| 2020/2/8 | 2019 年度第 3 回理事会：徳久理事長、他理事が出席<br>◎2019 年度事業報告の件、◎2019 年度収支見込みの件<br>◎2020 年度事業計画の件、◎2020 年度予算の件<br>◎理事・評議員候補者推薦の件、◎理事長・常務理事選任の件<br>◎特定費用準備資金取扱規則（案）の件：都から指摘された「規則案」を作成した<br>◎退職金規定（案） |
| 2020/2/29 | 東大 YMCA 医師懇談会：会館礼拝堂にて開催。先輩医師を中心に、初めての試みとして、YM 出身の医師各位に呼び掛けて、一堂に会して顔合わせのうえ、専門分野、社会福祉法人・賛育会の現状と将来の課題などについて情報交換・懇談を行った。医師 6 名、賛育会関係者など計 13 名が出席　※会報 154 号に篠原正雄氏による議事報告 |
| 2020/3/16 | 評議員選定委員会：新型コロナウイルスの感染予防対策のため、委員会は書面決議により、候補者全員を選任した。 |
| 2020/4/30 | 2020 年度第 1 回理事会（新型コロナウイルスの感染予防対策のため、書面決議による開催とした）<br>◎2019 年度事業報告の件 |

| | |
|---|---|
| | ◆舎生数：16 名、うち女性 5 名、留学生 7 名（中国、韓国、インドネシア各 2、ルワンダ 1)。寄宿舎においては 4 月現在で新型コロナ感染の影響は少なく、2 週間の隔離者 3 名も舎に戻り、通常の生活を送っている。<br>◆聖書研究会　講師：洪徳憙先生（日本基督教団洗足教会）　7～12 月はヨハネ福音書を中心に、1 月はルツ記、2 月は雅歌<br>◆10/17 関東地区学生 YMCA 聖書研究会　当会礼拝堂にて実施。東大、清泉、慶応、中央、一橋、YMCA から 31 名参加。講師は洪徳憙先生<br>◆合同祈禱会<br>4/11 リチャード・イースト KGK 主事　「主にあって喜びなさい」<br>6/6 小川堅・真理子 東京恵約キリスト教会宣教師（タンザニア派遣宣教師）　「期待される種のしもべ」<br>7/11 原田元道 日本福音自由教会 TMC 牧師　「ローマ人への手紙 5 章 6～11」<br>9/12 石丸泰樹 日本基督教団牧師　「使徒言行録 4 章 1～22」<br>10/10 北原和夫 日本基督教団三軒茶屋教会副牧師　「コロサイ人への手紙 3 章 12～17」<br>11/14 青山潤 日本福音キリスト教会連合・浜田山キリスト教会牧師「ヨハネによる福音書 1 章 1～5」<br>1/30 赤城海 聖書宣教会牧師　「福音と伝道」<br>2/13 安海靖郎 インドネシア福音教会牧師　「終末と使命」<br>◆日曜夜の聖書の学びの会：徳永友花氏と Duane Dietze 日本福音自由教会宣教師夫妻による自由参加の集会。テキストは「始めて聖書を開く人のための 12 のステップ」。月に 1 回実施<br>◆OB 座談会<br>5/23 ガイビン・ヘロル先輩（2013 年卒）　「ご自身の人生の振り返りとこれからの展望などのお話」<br>9/26 徳永悠希先輩（2019 年卒）　「ご自身のクリスチャンとしての歩みや現在の仕事（㈱AQUA 勤務）などのお話」<br>11/28 三浦真先輩（2006 年卒）　「ご自身のクリスチャンとしての歩みや公認会計士のキャリア、タラントンの教えなどのお話」<br>1/23 鹿島真先輩人（2007 年卒）　「NHK 番組プロデューサーの仕事のお話など」<br>◆年次別同期会<br>10/5 さりげなく集う YM の会　23 名出席<br>11/20 追分会　7 名出席 |

| | |
|---|---|
| | 11/22 若手会　10 名出席<br>◎2019 年度決算の件：収入では、舎生数の減少による食費収入が減少、会費も漸減傾向にあり、運用益も運営環境の変化により減少した。支出では、修繕工事が頻発し修繕費が増加した。<br>◎学生主事選任の件：同主事に藤原智也氏を選任（重任）した。任期は 1 年間<br>◎その他：6/26 東京都管理法人課に 2018 年度事業報告等を提出 |
| 2020/5/9 | 創立 132 周年記念礼拝　※コロナ禍により中止 |
| 2020/5/9 | 2020 年度第 1 回評議員会：新型コロナ対策のため、書面決議により開催<br>◎2019 年度事業報告の件、◎2019 年度決算の件<br>◎役員の任期満了改選の件：<br>【理事名簿】　長島章、関口哲生、梶村慎吾、清水正之、垣内史堂、岩見宣治、月本昭男（以上再任）、中村義哉、徳永友花、吉田聖の各氏（以上新任）　任期は 2020 年 5 月～2022 年定時評議員会の終結の時まで。篠原正雄、伊村大吾、松永るつ、中山貴絵の各理事は改選期に当たらず継続、徳久俊彦理事は退任<br>【監事】木村庸五、弥永真生（以上再任） |
| 2020/5/9 | 2020 年度第 2 回理事会<br>◎代表理事選任の件：先の評議員会において、任期満了に伴う理事・監事及び新任理事が選任された旨報告があった。これを踏まえ、代表理事（理事長）を選任したい旨説明があり、月本昭男理事を選任することを決議した。<br>◎常務理事選任の件：月本議長より常務理事を選任したい旨発言があり、篠原正雄理事を選任することを決議した。 |
| 2020/8/7 | 会報 153 号発行<br>＊巻頭言：月本昭男氏（1971 年文）「新理事長挨拶」、徳久俊彦氏「理事長退任の挨拶」<br>＊徳永友花氏（2018 年工）「ノンクリスチャン向けの聖書学びの会　その 2　神を知る過程」<br>＊市川祐三氏（1949 年経）　「コロナウイルスに関する雑感」<br>＊追悼：徳久俊彦氏「『平和憲法とともに』～深瀬忠一の人と学問～について（53 年法・2015/10/5 帰天）」、「東野宗利さん帰天のこと（51 年法・2018/12/29 帰天）」、「百瀬泉さん追悼（56 年文・2019/1/23 帰天）」、関口哲生氏（1954 年工）「藤村洋兄を偲ぶ（1953 年 2020/1/9 帰天）」 |
| 2020/9/12 | 2020 年度第 3 回理事会：新型コロナ対策のため、書面決議により開催 |

| | |
|---|---|
| | ◎2020 年度下期事業計画の件<br>◎事業執行状況、上期事業及び 20 年度収支見通しの報告 |
| 2020/12/7 | 会報 154 号発行<br>＊巻頭言：合田隆史氏（1978 年法）　「旅人よ」<br>＊関澤純氏（1966 年農）　「『新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とメンタルヘルス対応の必要性』」（国連ポリシーブリーフ）を通して考える。<br>＊関口哲生氏（1954 年工）　「『コロナ禍　いかに生きるか』　旧約聖書と本会報を読む」<br>＊追悼：関口哲生氏　「関栄次兄　松本高校から僚友の外交官人生を偲ぶ（53 年・2020/7/16）」 |
| 2020/12/12 | クリスマス礼拝・祝会　説教：徳田信 日本基督教団大津教会担任牧師（06 年総合文化研究科卒）　「思い巡らすマリア」　※コロナ禍により舎生のみオンラインで実施 |
| **2021 年（令和 3 年）** | |
| 2021/1/17 | 「第 1 回東大 YMCA 会館将来構想懇話会」を開催（コロナ禍により Zoom により開催）<br>・会館の建物は建築後 50 年近くを経過した。緊急に具体的な将来計画を策定しなければならない状況ではないが、会館の将来の可能性と方向性などについて、世代横断的なメンバー構成で意見交換を行った。<br>・検討メンバーは、月本昭男理事長、篠原正雄常務理事、岩見宣治理事、小堀洋志氏（1971 年工）、市川祐三（1974 年経）氏、岩佐明彦氏（1994 年工）、中村義哉理事（2000 年経）、徳永友花理事（2018 年工）、花川耕介（2003 年新領域創成科学）兄、吉田聖兄（舎生）の 10 名<br>・20 年後くらいを想定してマンションの建替えに合流する案や早めに現会館部分を他に売却して移転する案などがあるが、いずれにしろ東大 YMCA という組織の将来のあり方の議論と一体であり、今後とも幅広く議論を進めることとしたい。 |
| 2021/2/20 | 2020 年度第 4 回理事会：新型コロナ対策のため、書面決議により開催<br>◎2020 年度事業報告の件、◎2021 年度事業計画の件<br>◎2021 年度予算の件：3 月に退舎生が多く、一方コロナ禍により新入舎生の募集が難しい状況で、予算面では困難が予想される。<br>◎第 1 回「第 1 回東大 YMCA 会館将来構想懇話会」の報告 |
| 2021/4/24 | 2021 年度第 1 回理事会：新型コロナ対策のため、書面決議により開催<br>◎2020 年度事業報告の件 |

| | |
|---|---|
| | ◆舎生数：20 名、うち女性 6 名、留学生 10 名（中国 1、韓国 6、インドネシア 2、ルワンダ 1）（2021 年 3 月 31 日現在）<br>◆聖書研究会は、4 月・5 月は中止、6 月以降は Zoom で開催、講師は 11 月まで洪徳憙先生（日本基督教団洗足教会）。1 月から大塚啓子 日本基督教団目黒原町教会牧師によりマルコ福音書を通読<br>◆OB 座談会は 4 月・5 月は中止のうえ、6 月以降は Zoom で開催<br>6/25 浜村俊傑先輩（2019 年教育学研究科卒）　「臨床心理学の研究や信仰の歩みのお話など」<br>7/23 岩谷雄介先輩（2015 年法科大学院卒）　「寮での生活や現在の企業法務弁護士の仕事の話など」<br>9/24 ウンイキット先輩（2018 年農学生命科学研究科卒）　「信仰の歩みや学生時代の話など」<br>10/22 谷田巌先輩（2015 年農学生命科学研究科卒）　「海洋生物の研究や現在の仕事のお話など」<br>2/25 三島潤平先輩（2020 年工学系研究科卒）　「寮生活や現在の IT コンサルタントの仕事のお話など」<br>◆春季・秋季公開講演会は中止。関西 OB 会は中止<br>◆年次別同期会<br>・若手会はコロナ禍の中で活動を継続するために、毎月 1 回 Zoom によるビデオフォーラムを開催。講師は主にメンバーが持ち回りで卓話を行う形式で、参加者は若手会に限らず、前後世代の OB 会員が出席<br>・聖書を学ぶ会は、Zoom により月 1 回のペースで開催<br>◎2020 年度決算の件<br>◎評議員選定委員会規則改定の件：書面及び電磁的記録による決議ができるように条文追加<br>◎学生主事選任の件：下田優太兄を選任した。任期は 1 年間<br>◎その他：6/26 東京都管理法人課に 2018 年度事業報告等を提出 |
| 2021/5/8 | 創立 134 周年記念礼拝　説教：太田信三 日本聖公会東京教区・東京聖テモテ教会「イエスとの出会い」　＊オンラインによる開催　※会報 155 号に説教録 |
| 2021/5/8 | 2021 年度第 1 回評議員会　＊書面決議による開催 |
| 2021/6/12 | 春季公開講演会　講師：月本昭男本会理事長・上智大学名誉教授 「旧約聖書と現代―『エデンの園』の物語に見る人間観」　※会報 156 号に講演録 |
| 2021/7/29 | 会報 155 号発行<br>＊巻頭言：柳谷雄介氏（1993 年農）　「あれから 10 年」（新生釜石教会牧師） |

| | |
|---|---|
| | ＊追悼：徳久俊彦氏　「関栄次君を送る（1953 年・2020/7/16)」、「紅山雪夫さん追悼（1960 年育・法、2020/5/8 帰天)」<br>＊関口哲生氏（1954 年工）　「東大 Y 会員を結ぶ絆　後輩・先輩をつなぐ会報」<br>＊梶村慎吾氏（1969 年法）　「東大 YMCA 会館・寄宿舎の建替えについて」<br>＊学内掲載用ポスターを一新 |
| 2021/9/11 | 2021 年度第 2 回理事会：新型コロナ対策のため、書面決議により開催<br>◎2021 年度上半期事業報告の件<br>◆舎生数：12 名、うち女性 3 名、留学生 6 名（韓国 3，インドネシア 2、ルワンダ 1)、新型コロナ禍などにより、新入舎生の勧誘が困難な状況<br>◎2021 年度下半期事業計画の件<br>◎常務理事選任及び事務局運営の件<br>◎その他：<br>◆7/1 東京都管理法人課に 2020 年度事業報告等を電子申請により提出。また、理事の変更登記が 7/6 に完了したので、7/8 に 2021 年度「役員変更等届」を電子申請により提出。<br>◆8/23 当会館地下 1 階を使用している㈱東信堂との契約更新手続きを行った（期間は 2021/8/22～23/8/21)。 |
| 2021/10/30 | 東大 YMCA 理事・監事懇談会：コロナ禍により、対面での理事会が開催できなかったため、オンライン併用で懇談会を臨時に開催した。<br>出席理事・監事：月本昭男、篠原正雄、長島章、関口哲生、梶村慎吾、清水正之、垣内史堂、岩見宣治、中村義哉、徳永友花、堀洸太郎、テオロドス・ジョナタン・ウイジャヤ、木村庸五の各氏<br>議事要旨：①舎生募集の強化が急務であり、理事会と舎生ともども早急に様々な募集活動を展開する。②ホームページは現在版の更新を図りつつ、本来は会員相互のコミュニケーションの場としても有効であるので、法人運営、舎生の活動の両面からページの構成や内容の充実を図る。そのための検討体制を早急に整える。③留学生の卒業後の状況を把握し、会報の配信、会費の納入につなげる。③会館再建問題と将来構想及びそのための募金活動については、理事会のオーソライズのもとに、早急に法人としての検討体制を整える。④来年度以降の理事体制と事務局体制については、人選も含めて早期に準備を進める。 |
| 2021/11/6 | 秋季公開講演会：金澤正剛 国際基督教大学名誉教授「レクイエムの歴史」＊オンライン併用による開催　※会報 156 号に講演録 |
| 2021/11/13 | 関西 OB 会　＊Zoom で開催。 |

| | |
|---|---|
| 2021/12/11 | クリスマス祝礼拝：江藤直純 日本福音ルーテル教会引退牧師　「赤ん坊と十字架」　＊コロナ禍により舎生のみで実施　※会報 157 号に説教録 |
| 2021/12/15 | 会報 156 号発行<br>＊巻頭言：税所真也氏（2009 年文）　「東大 YMCA に感謝して」<br>＊近藤信和氏（1987 年法）　「南原繁研究会や高円寺東集会に入会して」<br>＊中村義哉氏（2000 年経）　「東大 YMCA 会館・寄宿舎建て替え等の問題について」<br>＊「さりげなく集う YM の会で出された東大 YMCA 会館・寄宿舎建て替え等の問題点に関する意見」（幹事団：山口周三、島田宗洋、関澤純、垣内史堂、梶村慎吾の各氏） |
| **2022 年（令和 4 年）** | |
| 2022/2/12 | 2021 年度第 3 回理事会：月本理事長、他理事が出席（Zoom 併用で開催）<br>◎2021 年度理事長・常務理事職務執行状況報告：寄宿舎内でのコロナ感染者発生はなく、この中で、クリスマス祝礼拝、公開講演会、聖書研究会、合同祈禱会、OB 座談会などの事業はオンライン開催を交えて実施した。また 10/30 には、対面による理事・監事懇談会を実施した。<br>◎2021 年度事業報告の件<br>◆舎生数：10 名、うち女性 2 名、留学生 6 名（韓国 3，インドネシア 2、ルワンダ 1）<br>◎2021 年度収支見込みの件、◎2022 年度事業計画の件<br>◎2022 年度予算の件：舎生数の減少に伴い、年間 15 名で予算を組む。<br>◎学生主事選任の件：張亨碩（チャン・ヒョンソク）氏（情報理工学研究科 D1・2021/3/3 入舎）。就任期間は、前学生主事 下田優太氏の残期間と併せて 23 年 3 月末まで<br>◎理事推薦の件 |
| 2022/4/23 | 2022 年度第 1 回理事会：月本理事長、他理事が出席（Zoom 併用で開催）<br>◎2021 年度事業報告の件<br>◆舎生数：12 名、うち女性 1 名、留学生 6 名（韓国 2、インドネシア 2、ルワンダ 1、中国 1）。※4 月には 15 名になった。<br>◆聖書研究会　講師：大塚啓子 日本基督教団目黒原町教会牧師　「ヨブ記」<br>◆合同祈禱会<br>4/8 山本裕司 日本基督教団西片町教会牧師　「復活の主、つきぬ宴」 |

| | |
|---|---|
| | 5/13 間島直之 日本同盟基督教団多摩教会　「生きる望み」<br>6/10 アイダル・ホアン・カルロス カトリック麹町・聖イグナチオ教会神父　「イエスを眺める」<br>10/14 本田勝弘 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団日本中央聖書会牧師　「そういうわけだから」<br>11/18 小暮泰久 イエズス会無原罪聖母修道院霊性センター神父　「聖霊との協働（シュネルギア）」<br>12/16 小宮山祐一 日本キリスト改革派綱島教会牧師<br>1/27 佐倉泉 カトリック麹町・聖イグナチオ教会祭壇奉仕者・サレジオ会翻訳担当　「祈りについて」<br>2/10 片山はるひ 上智大学神学部教授　「『こころ』をつなげる祈り」<br>◆OB 座談会<br>5/27 菅野紀子先輩（2019 年農卒）「現在研究していることやフィリピン留学、信仰のお話など」<br>9/18　OB・OG 座談会及び交流会　「東大 YMCA 寮の現在」（元学生主事の下田優太氏を中心に）<br>10/7 駿河敬次郎」先輩（1944 年医卒）「ふるさと 101 年のこの地上の旅路」<br>◆現舎生・OBOG 交流会（旧「ノンクリスチャン向けの聖書の学びの会」）<br>4/25、5/30、6/27、7/18、8/29,10/28、1/29 に開催<br>◆年次別同期会<br>4/25 拡大若手会ビデオフォーラム（毎月 1 回で 12 回実施）<br>10/7 さりげなく集う YM の会<br>◎2021 年度決算の件：コロナ禍により舎生募集が困難で収入減、修繕費・鳩害対策等による支出増、及び有価証券売却損があり、当期損益は約 833 万円の赤字<br>◎理事推薦の件：5 月に任期満了となる理事 9 名について全員を再任し、新理事として、山口栄一氏、合田隆史氏、張亨碩（チャン・ヒョンソク）氏を推薦することを決定<br>◎東大 YMCA 会館将来構想検討会議の件：同会議の設置を決定<br>◎その他<br>◆休学中の在舎身分の取扱い、入舎・在舎プロセスの改訂：休学予定者が舎にとどまる場合は、①東大で休学手続きを取る前に寄宿舎総会に認めてもらうこと、②事務局に「休学理由書」及び「休学期間記載の在学証明書」を提出することとした。（これは 4/17 寄宿舎総会で決定したもの） |

| | |
|---|---|
| | ◆3 階・4 階の廊下やベランダに鳩が巣を作り、糞害などが生じたので、殺菌消毒の上、ネットを張るなどの対策工事を行った。 |
| 2022/5/14 | 創立 134 周年記念礼拝　説教：大塚啓子 日本基督教団目黒原町教会牧師「祈りの交わり」　※会報 157 号に講演録 |
| 2022/5/14 | 2022 年度第 1 回評議員会<br>◎2022 年度事業計画の件、◎2022 年度収支予算の件、◎2021 年度事業報告の件、◎2021 年度決算の件を審議。以上、議事は前回理事会にほぼ同じ<br>◆「東大 YMCA 会館将来構想検討会議」を設置し、法人として将来構想の検討を進める準備をしていることを報告した。 |
| 2022/6/11 | 春季公開講演会　講師：金ゼヒョ 韓東大学教授「ニューノーマル時代御国を生きる　Entrepreneurial engineer」 |
| 2022/6/22 | 2022 年度第 2 回理事会（書面決議）<br>◎22 年度第 1 回評議員会において理事が選任されたので、改めて互選により月本昭男氏を代表理事に選任した。 |
| 2022/7/15 | 会報 157 号発行<br>巻頭言：眞野玄範氏（1995 年教育）　「一つとなりますように」<br>＊追悼：徳久俊彦氏（1953 年経）「高久史麿君を送る（1954 年医・2022/3/24 帰天）」、徳久俊彦氏（1953 年経）「宮原守男君を偲ぶ（1952 年法・2021/12/14 帰天）」 |
| 2022/9/10 | 2022 年度第 3 回理事会：月本理事長、他理事が出席<br>◎理事長職務執行状況報告<br>◎2022 年度上半期事業報告の件、◎2022 年度下半期事業計画の件<br>◎日本 YMCA 同盟代議員選任の件：篠原理事を再任（1 期 2 年）<br>◎その他<br>◆6/23 東京都管理法人課に 2020 年度事業報告等を提出<br>◆理事の変更登記が 7/11 に完了したので、7/20 に 2022 年度「役員変更等届」を提出 |
| 2022/9/17 | 2022 年度第 3 回理事会 |
| 2022/11/12 | 関西 OB 会：京都大学 YMCA 会館　京大 Y 地塩寮との交流会。19 名参加：京大 Y9 名、東大 Y10 名（うち関西 3 名）　※会報 158 号に報告 |
| 2022/11/19 | 秋季公開講演会　講師：山本芳久 東京大学大学院総合文化研究科教授「トマス・アクィナスの感情論―『愛』と『希望』―」　※会報 157 号に講演録 |
| 2022/12/10 | クリスマス祝礼拝　説教：アンドレア高木賢一 カトリック神田教会主任司祭「ルカによる福音書 2 章 1～20　誕生物語」　※会報 159 号に説教録 |

| | |
|---|---|
| 2022/12/15 | 会報 158 号発行<br>＊巻頭言：山口栄一氏（1977 年理）　「人生を三回楽しむ秘訣」<br>＊月本昭男理事長　「榊裕之さん、文化勲章を受賞」<br>＊岡村俊雄氏（1968 年工）　「出エジプト記について」 |
| **2023 年（令和 5 年）** | |
| 2023/1/22 | 第 1 回東大 YMCA 会館将来構想検討会議<br>・2022 年度第 1 回理事会（4/23）において、建物竣工後 48 年を迎える当会館・寄宿舎の将来の老朽化建替え等に対応するために、 同検討会議の設置を決定した。<br>・検討事項は、①建物がマンションとの区分所有であることを念頭に、再建の方法や時期の想定、②舎生数の減少傾向を踏まえ、YM の将来の活動と建物の必要規模の想定、③再建基金の募金開始、④会館竣工 50 周年記念事業の開催の可否など<br>・検討メンバーは、山口周三（1964 年法)、関澤　純（1966 年農)、梶村慎吾（1966 年法)、小堀洋志（1971 年工)、山口栄一（1977 年理）合田隆史（1978 年法)、岩佐明彦（1994 年工)、中村義哉（2000 年経)、徳永友花（2018 年工）の各氏及び月本昭男理事長、篠原正雄常務理事、岩見宣治管理担当理事 |
| 2023/2/25 | 2022 年度第 4 回理事会：月本昭男理事長、他理事が出席<br>◎2022 年度理事長職務執行状況報告：寄宿舎総会の老朽化に伴うエアコン更新工事、LED 照明への更新工事、入舎生の多様化に伴い、入舎選考、舎の運営などを再検討する必要があること、新しい住所録の作成のための意向調査の件などを報告<br>◎2022 年度事業報告の件、◎2022 年度収支見込みの件<br>◎2023 年度事業計画の件、◎2023 年度予算の件<br>◎学生主事選任の件：張亨碩（チャン・ヒョンソク）氏を重任<br>◎日本 YMCA 同盟代議員選任の件：篠原理事を再任（1 期 2 年）<br>◎その他： |
| 2023/2/25 | 榊裕之氏の文化勲章受賞記念祝会　※会報 160 号に講演録<br>・祝辞：月本理事長、梶村慎吾氏、木村庸五氏、川越厚氏、北彰氏<br>・記念講演「大学での学びについて考えるー60 年近い大学暮らしの振り返りと次世代への期待―」<br>・司会：垣内史堂氏 |
| 2023/4/17 | 第 1 回東大 YMCA 会館 50 周年記念事業・募金小委員会を開催<br>◆会館将来構想検討会議の一環として小委員会を開催（座長：関澤純氏）<br>会館竣工 50 周年を記念して、式典、特別講演会、OB 座談会の開催や、 |

| | |
|---|---|
| | 会報 50 周年記念号や年表・小冊子の発行などが候補に挙げられるとした。<br>◆会館再建募金小委員会を開催（座長：山口周三氏）<br>・本来、再建募金はある程度具体的な将来計画をまとめたうえで実施すべきことながら、会館 50 周年の節目や会員の高齢化を考慮して、早期に募金を開始することとした。募金趣意書の作成、募金のための特定口座の開設、遺贈などの幅広い募金方法の設定、会員住所録の改訂などを提言した。 |
| 2023/4/22 | 2023 年度第 1 回理事会<br>◎理事長職務執行状況報告：<br>◎2022 年度事業報告の件<br>舎生数：15 名、うち女性 4 名、留学生 7 名（韓国 3、インドネシア 2、ルワンダ、台湾各 1）<br>◆聖書研究会　講師：4～11 月は大塚啓子 日本基督教団目黒原町教会牧師を講師にヨブ記を学ぶ。1～2 月は月本昭男理事長<br>◆早天祈祷会：日々の祈祷会のほか、「月末めぐみ会」を実施<br>◆合同祈禱会<br>6/30 ホアン・カルロス・アイダ カトリック聖イグナチオ教会司祭（上智大学名誉教授）　「オリゲネスによるイエスの弟子になるための 7 つのすすめ」<br>7/28 アンドレア高木賢一 カトリック神田教会主任司祭　「神の再発見、人の再発見」<br>9/22 藤原誠 シオンの群れ教会会員（東京理科大学応用数学科助教）「わたしはあなたとともにいる」<br>10/13 ロバート・ディーターズ カトリック教会司祭（イエズス会士、上智大学名誉教授）　「なぜイエスが祈るのか」<br>11/10 松原智 笹塚キリスト教会牧師（聖契神学校講師）「神が喜ばれる祈り～主の祈り」<br>1/12 村岡信慎 カトリック・イエズス会ブラザー<br>2/9 後藤満喜 東京ティラナスホール主事<br>◆OB 座談会<br>5/11 映画「パッション」（2001 年）の上映会<br>9/29 康佳慧先輩（2019 年卒舎・法学政治学研究科在学中）　「寮での研究生活、信仰生活のお話など」<br>10/27 徳永友花先輩（2019 年卒舎・工学系研究科修了）　「博士時代の研究と博士人材の重要性のお話など」<br>11/24 吉田聖先輩（2021 年卒舎・工学系研究科修了） |

| | |
|---|---|
| | 1/26 浜村俊傑先輩（2019 年卒舎・教育学研究科修了）<br>◆現舎生 OBOG 交流会<br>4/23 近藤陸矢先輩「リオと物産と私」<br>6/4 バイブルプロジェクト動画「聖書って何？」<br>7/16 バイブルプロジェクト動画「使徒の働き」<br>9/24 ダニエル・ヘラー先輩「三方よしとものづくり経営：世界の貧困問題と極端な格差社会の出口戦略になれるのか」<br>10/29 バイブルプロジェクト動画「イザヤ書 概観」<br>12/11 バイブルプロジェクト動画「ガラテヤ人への手紙 概観」<br>3/18 関口哲生先輩「私の教養教育と東大 Y」<br>◆年次別同期会<br>4/24 拡大若手会ビデオフォーラム（毎月 1 回で 11 回実施）<br>9/29 さりげなく集う YM の会<br>◎2022 年度決算の件：LED 照明、鳩害対策、エアコン更新工事などの支出が増加<br>◎理事候補推薦の件<br>◎その他<br>◆6/23 東京都管理法人課に 2021 年度事業報告等を提出 |
| 2023/5/13 | 創立 135 周年記念礼拝　説教：奈良部恒平 日本福音ルーテル教会牧師「主の言葉に従って旅立った」　※会報 159 号に説教録 |
| 2023/5/13 | 2023 年度第 1 回評議員会<br>◎2023 年度事業計画の件、◎2023 年度予算の件<br>◎2022 年度事業報告の件、◎2022 年度決算の件<br>◎理事選任の件：篠原正雄、堀洸太郎、テオロドス・ジョナタン・ウイジャヤの 3 人の理事の任期満了に伴い、篠原正雄（重任）、セーンダンヨーエ・シャリテ（新任）、崔民赫（新任）の 3 理事を選任した。 |
| 2023/6/11 | 第 2 回東大 YMCA 会館 50 周年記念事業・募金小委員会を開催<br>◆募金趣意書（案）の検討<br>◆寄付・寄贈、遺贈などの募金方法と税制優遇措置及びその周知方法などを検討<br>◆募金開始時期と募金依頼書送付の検討<br>◆50 周年記念事業のイメージプラン |
| 2023/6/24 | 春季公開講演会　講師：中島みぎわ ワールドビジョン・ジャパン戦略企画室長「グローバル課題を市民の力で解決するーNGO だからできること」　※会報 160 号に講演録 |
| 2023/7/8 | 第 2 回東大 YMCA 会館将来構想検討会議<br>◆会館建物がファミール本郷との区分所有であり、YM 単独では動けな |

| | |
|---|---|
| | いこと、建設当時以降に建築基準法などが改正され、現在の階数・容積率での再建は困難であること、舎生数が徐々に減少しており、YM の将来規模を検討する必要があることなどを懸念している。<br>◆建築の議論以前に東大 YMCA の将来構想を議論すべきであり、そのために「将来ビジョン小委員会」を設置した。メンバーは、山口栄一（座長）、合田隆史、岩佐明彦、中村義哉、徳永友花の各氏。（山口氏からケンブリッジ大学のコレッジの学生寮などの生活体験をプレゼンテーション）、その他、入舎資格の拡大などを検討<br>◆建替えが遠い将来の場合、大規模改修の必要性と可能性<br>◆募金計画、50 周年記念事業などの具体的な検討を進める。<br>◆以上の検討会議の概要及び検討結果をとりまとめ、23 年 7 月発行の会報送付に同封して、会員各位に報告した。 |
| 2023/7/10 | 東大 YMCA 関西の会：「京大 Y 地塩寮生との交流会」　於：京都大学 YMCA 会館<br>※会報 160 号に報告 |
| 2023/7/15 | 会報 159 号発行<br>＊巻頭言：榊裕之氏（1968 年工）　「幅広い学びの場・自由闊達な研究の場としての大学への感謝」<br>＊関澤純氏（1966 年農）：「福島原発事故への対応と地元民の基本的人権擁護について」<br>＊追悼：関智征氏（2003 年法）「東大 YM 駿河敬次郎先輩を天の故郷にお送りして（43 年医・2023/3/21 帰天）」、徳久俊彦氏（1953 年経）「芹澤光治良先輩（1922 経）のこと」、徳久俊彦氏（1953 年経）「徳永五郎君を送る（54 年文・2023/1/6 帰天）」、二神康郎氏（1960 年農）　「萩野瑞兄を偲んで（62 年工・2023/1/24 帰天）」 |
| 2023/9/9 | 2023 年度第 2 回理事会：月本理事長、他理事が出席。<br>◎理事長職務執行状況報告、◎2023 年度上半期事業報告の件、◎2023 年度下半期事業計画の件<br>◎会館将来構想検討会議の件<br>◎日本 YMCA 同盟代議員選任の件：篠原理事の後任として徳永友花理事を選出（2024 年 7 月から 2 年間）<br>◎東大 YMCA の会館・寄宿舎再建募金活動の開始について<br>「将来の会館・寄宿舎の再建事業に資するために、広く会員等からの寄付を募り、再建基金として管理する」趣旨で、募金を開始することを決定した。なお、このための募金専用口座を三井住友銀行に開設し、他の運営資金等に流用しないことを原則とした。<br>◎その他： |

| | |
|---|---|
| | ◆6/5 東京都管理法人課に 2022 年度事業報告等を提出<br>◆7/20 本郷消防署から作成指示のあった「東大 YMCA 会館防災計画書」を提出 |
| 2023/10/13 | 徳久俊彦前理事長 逝去　※葬儀式辞は会報 161 号に報告 |
| 2023/11/25 | 秋季公開講演会　講師：福島揚 立教大学大学院講師（神学者、東京神学大学・日本聖書神学校講師）「破局の中の希望～終末論への手引き」<br>※会報 161 号に講演録 |
| 2023/12/9 | クリスマス祝礼拝　説教：太田信三 東京聖テモテ教会牧師（東京諸聖徒教会管理牧師）　※会報 161 号に説教録 |
| 2023/12/15 | 会報 160 号発行<br>＊巻頭言：清水正之氏（1971 年文）「人生を巻き戻すということー巻頭言にかえてー」<br>＊榊裕之氏「文化勲章受賞記念講演」<br>＊追悼：萩野谷興氏（1963 年法）　「三浦永光兄を送る（61 年教養・2023/8/21 帰天）」 |
| **2024 年（令和 6 年）** | |
| 2024/2/17 | 2023 年度第 3 回理事会 |
| 2024/3/28 | 評議員選定委員会<br>出席者：木村庸五監事、小堀洋志外部委員、平野明宏外部委員、明神恵子事務局<br>次期評議員として、青本健作、岩佐明彦、田川義之氏（以上再任）、田川義之、倉光泰隆、塚本文武、高倉鉄夫、三沢和彦、五百旗頭薫、木原盾の各氏（以上、新任）の 9 名を選任した。 |
| 2024/4/27 | 2024 年度第 1 回理事会<br>◎理事長職務執行状況報告<br>◎2023 年度事業報告の件<br>◆舎生数：舎生数：15 名、（うち女性 5、留学生 7）（韓国 2、インドネシア 2、中国、ルワンダ、台湾各 1）<br>◆聖書研究会：月本昭男理事長を講師に、年間 9 回実施。「イザヤ書を中心に」<br>◆修養会（3/1～2 日）　於：富士吉田市立青少年センター<br>◆合同祈禱会<br>4/13 太田信三 東京聖テモテ教会牧師（同志会主事）<br>東大 Y14 名と同志会 4 名が参加し、祈祷会・茶話会を開催<br>7/13 カエタノ・コンブリ カトリックサレジオ会神父<br>＃他資料では、佐倉泉 聖イグナチオ教会信徒「祈りについて」の記載 |

| | |
|---|---|
| | あり<br>10/12 片山はるひ 上智大学神学部教授<br>2/8 小林祐 関東 KGK 主事<br>◆卒舎生座談会（旧 OBOG 座談会）<br>5/25 平井正道兄（2017 年卒舎・法学政治学研究科法曹養成専攻科卒）<br>7/27 木原盾兄（2023 年卒舎・教育研究科卒）<br>9/28 藤原智也兄（2020 年卒舎・工学系研究科卒）<br>10/26 田村正徳兄（1974 年卒舎・医学部卒）<br>2/22 塚本文武兄（1983 年卒舎・経済学部卒）<br>◆年次別同期会<br>4/30 拡大若手会ビデオフォーラム（毎月 1 回、年間 11 回実施）<br>10/5 さりげなく集う YM の会　於：神田学士会館、17 名参加<br>◎2023 年度決算の件<br>◎理事候補推薦の件<br>◎その他：3/17 防災訓練：ファミール本郷と合同で実施（初めての試み） |
| 2024/5/11 | 創立記念式典　説教：朴大信 日本基督教団松本東教会牧師（2011 年人文卒）　「変わらぬもののために代わる」 |
| 2024/5/11 | 2024 年度第 1 回評議員会：議長は二神康郎評議員<br>◎2024 年度事業計画の件、◎2024 年度収支予算の件<br>◎2023 年度事業報告の件、◎2023 年度決算の件<br>◎理事・監事選任の件：以下のとおり理事を選任した。<br>梶村慎吾、月本昭男、岩見宣治、清水正之、山口栄一、合田隆史、中村義哉、徳永友花の各氏（以上重任）、山本彼一郎、霜垣幸浩、三浦真、ブディオノ・クリスチャン・ミレニュー、佐藤洸大の各氏（以上新任）<br>※任期はいずれも 2026 年の定時評議員会終了の時まで<br>監事は、木村庸五、弥永真生の両氏（以上重任）※任期は 2028 年の定時評議員会終了の時まで<br>なお、篠原正雄・崔民赫両理事は継続、関口哲生、長島章、垣内史堂、張亨碩の各理事は退任した。 |
| 2024/6/22 | 春季公開講演会　講師：川中子義勝 東京大学名誉教授「J・S バッハにおける詩と音楽」　61 名出席 |
| 2024/6/22 | 2024 年度第 2 回理事会（書面決議：理事長は、互選により、月本昭男氏の再任を決定） |
| 2024/7/6 | 新旧役員懇談会を開催<br>① 新入舎生の応募が非常に低調で舎生数が減少傾向にあるので、舎生募集の強化を図らなければならないこと、②舎生間、あるいは舎生と理 |

| | |
|---|---|
| | 事会などのコミュニケーションがとりづらくなっていて、舎内総会や各部活動の運営が難しくなっていること、③これらの課題に対して理事会がサポートしなければならないことなどが話し合われた。 |
| 2024/7/15 | 会報 161 号発行<br>＊巻頭言：高本眞一氏（1973 年医・賛育会病院前院長）「共に生きる精神と患者中心の医療」<br>＊秋季公開講演会　福島揚 立教大学大学院講師の講演録<br>＊古賀博 早稲田教会牧師　「徳久俊彦さん（2023/10/13 帰天）葬儀式辞」 |
| 2024/9/14 | 2024 年度第 3 回理事会：月本昭男理事長、他理事が出席。評議員の陪席も可能とした。<br>◎上半期事業報告・会計報告の件<br>◎寄宿舎の運営について<br>◆7/6 の新旧役員懇談会での意見交換を踏まえて、舎生が困っている具体的な問題、あるいは YM が在学生にとって魅力がないということの原因、男女混住に起因する生活上あるいは舎の運営上の困難さ、最近多くなっている精神的な病の問題、舎監あるいはカウンセラー（顧問）、メンターの導入などについて意見交換を行った。<br>◆徳永理事夫妻は、この近くに在住し、世代的にも最も舎生に近いので、従来から何かと舎生の相談役になっていただいているが、この際、改めて「舎生担当理事」をお願いし、引き続き特段の支援をお願いすることとした。 |
| 2024/10/26 | 秋季公開講演会　講師：氏家仁 吉野作造記念館館長　「ふるさとにおける、吉野作造と吉野作造記念館について」　※会報 163 号に講演録 |
| 2024/11/2 | 東大 YMCA 関西の会　TKP ゲートタワービルにて |
| 2024/12/14 | クリスマス祝礼拝　説教：大久保正禎 日本基督教団・西片町教会牧師<br>新舎生劇：マリアとヨセフ |
| 2024/12/19 | 会報 162 号発行<br>＊巻頭言：平野昭弘氏（1982 年法・賛育会病院理事長）　「会計士の仕事と賛育会・東大 YMCA」<br>＊OB 寄稿：<br>・山形謙二氏　「私の辿ってきた道―ホスピスケアのチャレンジ」<br>・小堀洋志氏　「徳久俊彦さんの思い出」<br>・梶村慎吾氏　「徳久俊彦東大 YMCA 前理事長を偲ぶ」 |
| **2025 年（令和 7 年）** | |
| 2025/2/15 | 2024 年度第 4 回理事会：月本昭男理事長、他理事が出席。 |

| | |
|---|---|
| | ◎2024 年度事業報告の件、◎2024 年度決算の件、◎2025 年度事業計画の件、◎2025 年度予算の件<br>◎学生主事選任の件：米倉敬宏兄（農学部獣医学科）を選任<br>◎東大 YMCA 寄宿舎生活環境改善の件；<br>◆2024/12/9 東大 YMCA 舎生・役員懇談会を開催。完成後 50 年を経た寄宿舎の建物・設備に関する改善必要事項について、実態の確認や改善方法などを議論した。（出席者：月本、篠原、岩見、山本彼一郎、山口栄一、合田、霜垣、三浦、徳永の各理事、青本、倉光、高倉、塚本、木原の各評議員、木村監事、米倉、崔、佐藤光汰、道家、ワンハンリン、石井蓮の各舎生。）<br>◆寄宿舎における女性用トイレ・浴室の整備、個室の騒音対策、乾燥機付き洗濯機の購入、玄関のオートロック化、自転車置き場の改善などについて今後検討を進め、当面必要な改修工事費の予算化を図ること。これに合わせて、ファミール本郷のマンション建替えに関する調査について報告した。<br>◎その他：25/9/19 東京都生活文化局都民生活部管理法人課による 6 年ぶりの立ち入り検査があり、11/7 付けの「貴法人の運営組織及び事業活動の状況に関する立入検査の結果について（通知）」を受領。役員就任予定者による履歴等の確認、評議員会の開催場所の記載、小口現金や残高照合などの責任者の確認等について改善すべきとの指摘があったので、早期に改善に努めなければならない。 |
| 2025/4/26 | 2025 年度第 1 回理事会<br>◎2024 年度事業報告の件<br>◆舎生数：3 月末現在は 15 名（うち学部 5、大学院 10 名、男子 10 名、女子 5 名）、留学生は 7 名（インドネシア 2、イラン、韓国、台湾、中国、ルワンダ各 1）。4 月段階では舎生数 19 名<br>◆聖書研究会：月本理事長を講師として、ルカによる福音書のたとえ話を学ぶ。<br>◆合同祈祷会：24 年度は卒舎生座談会と交互に隔月開催としている。<br>10/10 大塚啓子 日本キリスト教団目黒原町教会牧師<br>1 月ブラザー村岡先生（イエズス会ブラザー）<br>2 月後藤満喜 東京ティラナスホール主事<br>4 月太田信三 東京聖テモテ教会牧師<br>◆卒舎生座談会<br>7/25 矢治健太郎先輩（1991 年教養・JAXA 火星探査チーム）<br>11/28 朴大信先輩（2011 年人文社会系研究科・松本東教会牧師）<br>2/27 高倉鉄夫先輩（1983 年経・本会評議員・賛育会理事・アートコミ |

| | |
|---|---|
| | ュニケーション銀座代表）<br>◆年次別同期会<br>4/21 若手会（1970 年前後卒業生の会）年度内にビデオ不フォーラムを 10 回開催<br>10/2　さりげなく集う YM の会　神田学士会館にて 13 名参加<br>2025/4/5　新舎一期生の会<br>◎2024 年度決算の件<br>◎寄宿舎環境整備ワーキンググループの件<br>◆当会館・寄宿舎が完成後 50 年を迎え、建物設備の老朽化・不具合が目立ってきており、加えて、女子トイレ・浴室の整備やセキュリティ対策が不十分であることから、WG を設置して改善計画の検討を鋭意進めることとした。委員長は山口栄一氏（1977 年理)。<br>◎理事候補推薦の件：次回評議員会において決定<br>◎会館竣工 50 周年記念行事の件<br>◆会館竣工 50 周年を記念して、記念式典（礼拝・講演会）及び祝賀会を行うこととした。(後日、11 月 23 日(日)の午後の日程で 4，礼拝説教は上田光正 日本キリスト教団協力牧師（62 年教養)、講演会講師は、建築家の團紀彦氏（1979 年工）と決定）<br>◎その他<br>◆6/24 東京都管理法課に 24 年度事業報告を提出<br>◆7/21 関東地区学生 YMCA 夏の交流会　東大 YMCA において「ウクライナ難民受け入れ事業」などについて議論（会報 162 号に報告） |
| 2025/5/10 | 創立 137 周年記念式典　礼拝：北原和夫 日本基督教団三軒茶屋教会副牧師・元同志会理事長　「呼び集められた者たちの共同体」　※会報 163 号に説教録 |
| 2025/5/10 | 2025 年度第 1 回評議員会<br>◎理事・監事選任の件：以下のとおり理事を選任した。<br>・任期満了で再任：篠原正雄（1971 年卒)、新任学生理事 4 名：石井蓮、ワン ハンリン、北川絢野、太田萌<br>・継続理事：月本昭男（1971 年卒)、岩見宣治（1971 年卒)、清水正之（1971 年卒)、山本彼一郎（1973 年卒)、山口栄一（1977 年卒)、合田隆史（1978 年卒)、霜垣幸浩（1984 年卒)、中村義哉（2000 年卒)、三浦真（2005 年卒)、徳永友花（2018 年卒）の各氏計 10 名（任期：2024 年 5 月～2026 年定時評議員会終了の時まで）<br>監事：木村庸五（1970 年卒)、弥永真生（1986 年卒）の両氏重任（任期：2024 年 5 月～2028 年の定時評議員会終了の時まで)。梶村慎吾氏（1966 年卒）は辞任、なお北川絢野姉は退舎に伴い 6 月に辞任 |

| | |
|---|---|
| | 評議員：青本健作（1963 年卒）、倉光泰隆（1978 年卒、塚本文武（1983 年卒）、高倉鉄夫（1983 年卒）、三沢和彦（1987 年卒）、岩佐明彦（1994 年卒）、五百旗頭薫（1996 年卒）、田川義之（2004 年卒）、木原盾（2017 年卒）の各氏、以上 9 名（任期：2024 年 5 月～2028 年定時評議員会終了の時まで）　※欠員 1 名 |
| 2025/6/28 | 2025 年度 春季公開講演会　講師：川越厚 在宅ホスピス研究所パリアン代表・森の診療所医師、1973 年医卒）「生存被爆者が『語ることのできなかった』苦しみ」 |
| 2025/7/10 | 会報 163 号発行<br>＊巻頭言：篠原正雄常務理事（1971 年理）「東大 YMCA 会館竣工 50 周年　未来へ」<br>＊秋季公開講演会　氏家仁氏「ふるさとにおける、吉野作造と吉野作造記念館について」<br>＊クリスマス礼拝　大久保正禎牧師「光は闇深くに現れて」<br>＊創立記念礼拝　北原和夫先生「呼び集められた者たちの共同体」<br>＊OB 寄稿　追悼：梶村慎吾氏（1969 年法）「野崎昭弘大兄の思い出」 |
| 2025/9/13 | 2025 年度第 2 回理事会<br>◎上半期事業報告及び会計報告<br>◎寄宿舎リノベーション（生活環境改善整備）ワーキンググループから修繕計画案と工事費見積りについて報告<br>◎50 周年記念式典及び祝賀会の開催、並びに 50 周年記念誌の編集・発行について報告。<br>◎2025 年度下半期事業計画の件<br>◎寄宿舎再建募金の件、及びリノベーション募金活動の開始の件 |
| 2025/10/13 | 臨時評議員懇談会<br>◎寄宿舎リノベーション（生活環境改善整備）計画案と工事費見積りの報告、及びリノベーション募金活動の開始について |
| 2025/11/23 | 東大 YMCA 会館竣工 50 周年記念式典　※ハイブリッドで開催、57 名出席<br>記念礼拝　上田光正 日本基督教団 伊東教会協力牧師（1952 年教養卒）「キリストはわたしたちの平和」<br>記念講演会　建築家 團紀彦氏（1979 年工）「大地と建築と祈りの場」<br>※秋季公開講演会を兼ねる。<br>記念祝賀会　司会：高倉鉄夫評議員、歌唱、世代別先輩のスピーチ、舎生紹介など |
| 2025/11/23 | 関西 OB 会　大阪市北区「ON the UMEDA」にて、参加者 4 名<br>※会館竣工 50 周年記念式典に合わせて、ハイブリッドで参加 |

| | |
|---|---|
| 2025/12/8 | 会報 164 号発行<br>巻頭言：月本昭男理事長（1971 年文）「ホモ・クーランス(homo kurans)」<br>＊春季公開講演会　川越厚氏（1973 年医）「生存被爆者が語ることのできなかった苦しみ」<br>＊50 周年記念礼拝　上田光正牧師（1952 年教養卒）「キリストはわたしたちの平和」<br>＊記念講演会　建築家 團紀彦氏（1979 年工卒）「大地と建築と祈りの場」<br>＊OB 寄稿<br>・追悼：二神康郎氏「野崎昭弘大兄の思い出」<br>・追悼：飯高茂氏「野崎昭弘先輩を偲んで」<br>・近藤信和氏「聖書の預言、預言者について」、「イスラエルの戦争について」 |
| 2025/12/13 | クリスマス礼拝・祝会　説教：藤森勇紀 日本基督教団 富士見町教会牧師 |
| **2026 年（令和 8 年）** | |
| 2026/2/21 | 2025 年度第 3 回理事会<br>◎2025 年度事業報告の件<br>◆舎生数：1 月末現在は 20 名（うち学部 5、大学院 15 名、男子 13 名、女子 7 名）、留学生は 8 名（インドネシア 2、中国 2、イラン 1、韓国 1、シンガポール 1、台湾 1）<br>◆合同祈祷会：夏期牧師を招いて対面により実施<br>5～8 月（月 1 回）：太田信三 日本聖公会 東京テモテ教会牧師<br>9 月：藤森勇紀 日本基督教団 富士見町教会牧師<br>10 月：大塚啓子 日本基督教団 目黒原町教会牧師<br>◆聖書研究会<br>4～7 月：大久保正禎 日本基督教団・西片町教会牧師<br>9～12、1 月：長谷川修一 立教大学文学部キリスト教学科教授<br>◆卒舎生座談会（旧 OB/OG 座談会）<br>7/10　三沢和彦先輩、田川義之先輩<br>10/30　半田淳比古先輩<br>1/22　浅見啓一先輩<br>2/26　三浦真先輩<br>◆修養会　静岡県網代にて宿泊、礼拝は伊東教会の主日礼拝に全員で出席、10 名参加。当日は記録的な大雪に見舞われる。<br>◆年次別同期会 |

| | |
|---|---|
| | 4/27 若手会（1970 年前後卒業生の会）4 月から 2 月にビデオフォーラムを 9 回開催<br>4/5、5/24　新舎一期生の会<br>10/4　さりげなく集う YM の会　東大 YMCA にて 17 名参加<br>10/2　　神田学士会館にて 13 名参加<br>◎2024 年度決算の件<br>◎寄宿舎環境整備ワーキンググループの件<br>◆当会館・寄宿舎が完成後 50 年を迎え、建物設備の老朽化・不具合が目立ってきており、加えて、女子トイレ・浴室の整備やセキュリティ対策が不十分であることから、WG を設置して改善計画の検討を鋭意進めることとした。委員長は山口栄一氏（1977 年理）<br>◎理事候補推薦の件：次回評議員会において決定<br>◎会館竣工 50 周年記念行事の件<br>◆会館竣工 50 周年を記念して、記念式典（礼拝・講演会）及び祝賀会を行うこととした。（後日、11 月 23 日(日)の午後の日程で 4，礼拝説教は上田光正 日本キリスト教団協力牧師（1962 年教養)、講演会講師は、建築家の團紀彦氏（1979 年工）と決定）<br>◎その他：<br>◎2025 年度事業報告及び収支見込みの件<br>◎2026 年度事業計画、及び収支予算の件<br>◎東京都都民生活部管理法人課からの通知（常務理事の報酬、遊休財産規制に抵触の件）に関する対応の件<br>◎学生主事選任の件：米倉敬宏学生主事に辞任に伴い、後任に神野和磨兄（理学系研究科 M1）を選任、任期は 2026 年 4 月から 2027 年 3 月 |

（岩見　宣治）

# 6-2 記録資料

## 6-2-1　歴代理事長一覧（1906 年度～2025 年度）

創立者　大西祝、高田畊安他 7 名

初代理事長　斎藤十一郎（1906～1913）

第 2 代理事長　高田畊安（1913～1917）

第 3 代理事長　吉野作造（1917～1933・3・18<逝去＞）

第 4 代理事長　岩住良治（1933～1946）

第 5 代理事長　斎藤　勇（1946～1952）

第 6 代理事長　堀　豊彦（1952～1975）

第 7 代理事長　高見穎治（1975・10・22～12・29<逝去＞）

第 8 代理事長　高井康雄（1976～1984）

第 9 代理事長　成瀬　治（1984～1997）

第 10 代理事長　大口邦雄（1997～2006）

第 11 代理事長　原田明夫（2006～2017・4・6<逝去＞）

第 12 代理事長　徳久俊彦（2017～2020）

第 13 代理事長　月本昭男（2020～）

（木原 友紀）

### 6-2-2　歴代常務理事等一覧（新舎：1975 年度～2025 年度）

| | |
|---|---|
| 1975～1994 | 馬場進（1930 経）専務理事 |
| 1994～1996 | 徳久俊彦（1953 経）専務理事代行 |
| 1996/4～2002/3/31 | 徳久俊彦（1953 経）常務理事 |
| 2002/4/1-2006/9/30 | 野口吉三郎（1959 法）常務理事 |
| 2006/10/1～2015/5 | 長島章（1962 法）常務理事 |
| 2015/5～2020/5 | 原田明夫理事長、徳久俊彦理事長が常務理事を兼務<br>桃井明男事務局長 |
| 2020/5～2026/5 | 篠原正雄（1971 理）常務理事 |
| 2023/9～ | 岩見宣治（1971 工）管理担当理事 |
| 2024/9～ | 徳永（草間）友花（2018 工院）舎生担当理事 |

（篠原　正雄）

## 6-2-3　歴代理事・監事・評議員一覧（1947 年度～2025 年度）

| | 先輩理事･監事･評議員 | 学生理事･監事･学生主事 |
|---|---|---|
| 1947 年度（昭 22） | （理事長）斎藤勇（1946 年～）、（理事）石原謙、河田茂<br>（監事）木村健二郎　　※永松主事が辞任、後任は木下主事 | 石原力、江口篤寿、渡辺守道、五十嵐雄一、赤坂浩、岡本途也（監事）稲木昇 |
| 1948 年度（昭 23） | （理事長）斎藤勇、（理事）石原謙、河田茂、藤田逸男、木村健二郎<br>（監事）吉利和　　※木下主事が辞任、後任は吉川需主事 | 中平健吉、菅川薫、乙守恒一、橋本光男<br>（監事）田浦武雄 |
| 1949 年度（昭 24） | （理事長）斎藤勇、（理事）石原謙、河田茂、藤田逸男、木村健二郎<br>（監事）吉利和　　※木下主事が辞任、後任は吉川需主事 | 中平健吉、菅川薫、乙守恒一、橋本光男、（後期）植木光教、山崎保興、青池明、上柳昭治、柴沼明）<br>（監事）青池明 |
| 1950 年度（昭 25） | （理事長）斎藤勇氏、（理事）木村健二郎、石原謙、河田茂、堀豊彦<br>（監事）吉利和、今井義量 | 岩島久夫、松村寛三郎、宮原守男、山崎保興、宮田光雄、中沢八郎 |
| 1951 年度（昭 26） | （理事長）斎藤勇氏、（理事）堀豊彦、木村健二郎、石原謙、河田茂氏<br>（監事）吉利和 | 岩島久夫、松村寛三郎、加藤庄六、宮原守男、永山和夫 |
| 1952 年度（昭 27） | （理事長）堀豊彦、（理事）木村健二郎、石原謙、河田茂氏、今井義量、石原憲治、宮本武之助、高見穎治、石川清<br>（監事）吉利和<br>※斎藤勇理事長は辞任、後任は堀豊彦 | 原田真、谷啓輔、徳久俊彦、深瀬忠一、武田忠直<br>（監事）坂野晧平 |
| 1953 年度（昭 28） | （理事長）堀豊彦、（理事）河田茂、石原憲治、石川清、木村健二郎、今井義量<br>（監事）吉利和 | 白井文夫、岩井要、今村一男、高久史麿、杉浦淳三<br>（監事）孟信 |
| 1954 年度（昭 29） | （理事長）堀豊彦、（理事）河田茂、石原憲治、石川清、木村健二郎、今井義量 | 今村一男、広瀬清、大場昭、魚住昌良、臼井敏仁 |
| 1955 年度（昭 30） | （理事長）堀豊彦、（理事）河田茂、石 | 今村一男、広瀬清、大場 |

| | | |
|---|---|---|
| | 原憲治、石川清、木村健二郎<br>（監事）吉利和 | 昭、魚住昌良、臼井敏仁、（後期）村尾裕史、鈴木一郎、大口邦雄、大久保旦<br>（監事）大場昭 |
| 1956 年度（昭 31） | （理事長）堀豊彦、（理事）河田茂、石原憲治、石川清、木村健二郎<br>（監事）吉利和 | 鈴木一郎、村尾裕史、荒木亨、宮木保彦、三宅晋、紅山雪夫、富森啓児<br>（監事）大場昭 |
| 1957 年度（昭 32） | （理事長）堀豊彦、（理事）河田茂、石原憲治、石川清、木村健二郎<br>（監事）吉利和　　※主事は岩井要 | 石崎朋夫、前田昭雄、野崎昭弘、大口邦雄<br>（監事）鈴木一郎 |
| 1958 年度（昭 33） | （理事長）堀豊彦、理事：河田茂、石原憲治、石川清、高見頴治<br>（監事）宮原守男<br>※木村健二郎理事は辞任、後任は高見頴治、吉利和監事は辞任、後任は宮原守男。主事は岩井要、大口邦雄 | 石崎朋夫、前田昭雄、野崎昭弘（監事）鈴木一郎 |
| 1959 年度（昭 34） | （理事長）堀豊彦、（理事）高見頴治、河田茂、石原憲治、石川清<br>（監事）宮原守男　※主事は、高山茂七郎 | 佐々木文彦、二神康郎、磯田一雄、成田勝彦、三宅晋、（監事）高橋雅二 |
| 1960 年度（昭 35） | | |
| 1961 年度（昭 36） | （理事長）堀豊彦、（理事）石川清、石原憲治、高見頴治、吉利和<br>（監事）宮原守男 | 笹野修一、梶村慎吾、萩野谷興、柳沢忠、原田明夫、（監事）長島章 |
| 1962 年度（昭 37） | （理事長）堀豊彦、（理事）高見頴治、石原憲治、吉利和、西川哲治<br>（監事）宮原守男 | 中川徹、青本健作、佐野謙一、小出達夫<br>（監事）大豆生田明宏<br>※野崎昭弘主事が辞任、後任は木下毅 |
| 1963 年度（昭 38） | （理事長）堀豊彦、（理事）高見頴治、石原憲治、吉利和、西川哲治<br>（監事）宮原守男 | 本荘仁、中島伸一、寺尾榮祐、川上征、高澤金吾<br>（監事）長島章 |
| 1964 年度（昭 39） | （理事長）堀豊彦、（理事）高見頴治、石原憲治、吉利和、西川哲治<br>（監事）宮原守男 | 筒井正明、徳永隆史、島田宗洋、藤村誠、加藤信一 |

| | | |
|---|---|---|
| | | （監事）村上俊一<br>※主事は原田明夫 |
| 1965 年度（昭 40） | （理事長）堀豊彦、（理事）高見穎治、石原憲治、吉利和、西川哲治<br>（監事）宮原守男 | 坂口忠、藤永敬士、関沢純、車田克彦、江藤良純<br>（監事）五十嵐正宣<br>※主事は高澤金吾 |
| 1966 年度（昭 41） | （理事長）堀豊彦、（理事）高見穎治、石原憲治、吉利和、西川哲治<br>（監事）宮原守男 | 井出千束、鈴木宣之、田辺功、渡辺尚彦、富永徹<br>（監事）梶村慎吾<br>※主事は高澤金吾 |
| 1967 年度（昭 42） | （理事長）堀豊彦、（理事）高見穎治、吉利和、石原憲治、西川哲治、高井康雄<br>（監事）宮原守男 | 清水徹、中島昭夫、垣内史堂、須藤自由児、佐藤良逸<br>（監事）町沢静夫<br>※学生主事は五十嵐正宣 |
| 1968 年度（昭 43） | （理事長）堀豊彦、（理事）高見穎治、吉利和、石原憲治、西川哲治、高井康雄<br>（監事）宮原守男 | 片平洌彦、川越厚、西田芳弘、森四郎、佐藤達三<br>（監事）赤尾直人 |
| 1969 年度（昭 44） | （理事長）堀豊彦、（理事）高見穎治、吉利和、西川哲治、高井康雄<br>（監事）宮原守男<br>※石原憲治理事は辞任 | 原研治、山形謙二、西村和雄、岩見宣治、国生肇、（監事）小堀洋志<br>※五十嵐主事は辞任、後任は湯原哲夫 |
| 1970 年度（昭 45） | （理事長）堀豊彦、（理事）高見穎治、吉利和、西川哲治、高井康雄<br>（監事）宮原守男 | 石川憲彦、月本昭男、嵐田和男、大蔵浩之、高見進<br>（監事）柳沼恵一 |
| 1971 年度（昭 46） | （理事長）堀豊彦、（理事）高見穎治、吉利和、西川哲治、高井康雄<br>（監事）宮原守男 | 吉岡直人、田村啓一、尾山光一、若原秀樹、高本真一<br>（監事）森田英夫 |
| 1972 年度（昭 47） | （理事長）堀豊彦、（理事）高見穎治、吉利和、西川哲治、高井康雄<br>（監事）宮原守男 | 田中潔、鐸木道剛、山下逸喜、廣井博、森田英夫 |
| 1973 年度（昭 48） | | 月本主事、岩見主事（再建担当）は辞任、後任は吉岡、篠原 |

| | | |
|---|---|---|
| 1974 年度（昭 49） | （理事長）堀豊彦、（理事）高見穎治、高井康雄、西川哲治、岩井要<br>（監事）宮原守男<br>※吉利和は辞任 | 中田晴雄、柳元章、片山啓、谷本亮二、田中令穂<br>（監事）田中潔<br>※廣井博、森田英夫、山下逸喜、鐸木道剛、田中潔は辞任 |
| 1975 年度（昭 50） | ※寄付行為改正により理事数を先輩 10 名、学生 5 名とする。常務理事を置く。<br>（理事長）高見穎治、（常務理事）馬場進、（理事）高井康雄、西川哲治、岩井要、駿河敬次郎、成瀬治、野崎昭弘、徳久俊彦<br>※堀理事長が辞任、後任は高見穎治<br>（12/29 高見穎治理事長が急逝） | 清水正之、篠原正雄、片山啓、柳元章、中田晴雄 |
| 1976 年度（昭 51） | （理事長）高井康雄、（常務理事）馬場進、（理事）岩井要、駿河敬次郎、成瀬治、徳久俊彦、野崎昭弘、柴谷貞雄、石川憲彦<br>（監事）宮原守男<br>※3/27 総会後の理事会にて、新理事長に高井康雄氏を決定 | 半田武比古、合田隆史、西正典、中塚隆、宮内啓行<br>（監事）芦川広<br>※清水正之、篠原正雄、片山啓、柳元章、中田晴雄は辞任 |
| 1977 年度（昭 52） | （理事長）高井康雄、（常務理事）馬場進、理事：柴谷貞雄、駿河敬次郎、成瀬治、徳久俊彦、岩井要、野崎昭弘、石川憲彦<br>（監事）宮原守男 | 岩崎英二、柿谷均、宮内啓行、山口栄一、倉光泰隆<br>（監事）芦川広<br>※半田武比古、合田隆史、西正典、中塚隆、宮内啓行は辞任 |
| 1978 年度（昭 53） | （理事長）高井康雄、（専務理事）馬場進、（理事）柴谷貞雄、駿河敬次郎、成瀬治、徳久俊彦、岩井要、野崎昭弘、石川憲彦、清水博<br>（監事）宮原守男 | 山口栄一、星野利幸、三井和彦、高谷武良、大江博<br>（監事）半田武比古 |
| 1979 年度（昭 54） | （理事長）高井康雄、（常務理事）馬場進、理事：柴谷貞雄、駿河敬次郎、成瀬治、徳久俊彦、岩井要、清水博、野崎昭 | 岡村善文、岡田謙介、大島誠、水本和実、高谷武良 |

| | | |
|---|---|---|
| | 弘、石川憲彦<br>（監事）宮原守男 | （監事）宮内啓行<br>※山口栄一、星野利幸、三井和彦、大江博、半田武比古は辞任 |
| 1980 年度（昭 55） | （理事長）高井康雄、（常務理事）馬場進、（理事）柴谷貞雄、駿河敬次郎、成瀬治、徳久俊彦、岩井要、清水博、野崎昭弘、石川憲彦<br>（監事）宮原守男 | 岡村善文、岡田謙介、大島誠、水本和実、高谷武良<br>（監事）岩崎英二<br>※宮内啓行は辞任 |
| 1981 年度（昭 56） | （理事長）高井康雄、（常務理事）馬場進、（理事）柴谷貞雄、駿河敬次郎、成瀬治、徳久俊彦、岩井要、清水博、野崎昭弘、石川憲彦<br>（監事）宮原守男 | 高谷武良、平野明宏、小山哲司、前川守、星地亜都司<br>（監事）藤井信吾<br>※岩崎英二は辞任 |
| 1982 年度（昭 57） | （理事長）高井康雄、（専務理事）馬場進、理事：柴谷貞雄、駿河敬次郎、成瀬治、徳久俊彦、岩井要、清水博、野崎昭弘、月本昭男<br>（監事）宮原守男<br>※石川憲彦は辞任、馬場常務理事の役職名を「専務理事」とする。 | 星地亜都司、岩城照彦、高倉鉄夫、塩見順一、戸辺一之<br>（監事）藤井信吾<br>※高谷武良、平野明宏、小山哲司、前川守は辞任 |
| 1983 年度（昭 58） | | |
| 1984 年度（昭 59） | （理事長）成瀬治、（専務理事）馬場進、（理事）柴谷貞雄、駿河敬次郎、徳久俊彦、岩井要、清水博、野崎昭弘、月本昭男、高井康雄<br>（監事）宮原守男<br>※高井理事長（76 年から 8 年間在位）が辞任、後任は成瀬理事長 | 上野直之、津村直、小谷賢昇、佐藤真二、西道隆臣<br>（監事）星地亜都司<br>※星地亜都司、岩城照彦、高倉鉄夫、塩見順一、戸辺一之、藤井信吾は辞任 |
| 1985 年度（昭 60） | （理事長）成瀬治、（専務理事）馬場進、理事：柴谷貞雄、駿河敬次郎、高井康雄、徳久俊彦、岩井要、清水博、野崎昭弘、月本昭男<br>（監事）宮原守男 | 松隈潤、瀬下宏紀、橋本徹、高嶋祐一郎、弥永真生<br>（監事）星地亜都司<br>※上野直之、津村直、小谷賢昇、佐藤真二、西道隆臣は辞任 |

| | | |
|---|---|---|
| 1986 年度（昭 61） | （理事長）成瀬治、（専務理事）馬場進、（理事）柴谷貞雄、駿河敬次郎、高井康雄、徳久俊彦、岩井要、清水博、野崎昭弘、月本昭男<br>（監事）宮原守男（以上再任） | 高嶋祐一郎、三沢和彦、小林和夫、井原和人、近藤信和<br>（監事）小川有美 |
| 1987 年度（昭 62） | （理事長）成瀬治、（専務理事）馬場進、（理事）柴谷貞雄、駿河敬次郎、高井康雄、徳久俊彦、岩井要、清水博、野崎昭弘、月本昭男<br>（監事）宮原守男 | 高嶋祐一郎、山田祐彰、松田俊一郎、村山斉、黒坂大路<br>（監事）小川有美<br>※三沢和彦、小林和夫、井原和人、近藤信和は辞任 |
| 1988 年度（昭 63） | 【理事・監事名簿】<br>（理事長）成瀬治、（専務理事）馬場進、（理事）柴谷貞雄、駿河敬次郎、高井康雄、徳久俊彦、岩井要、清水博、野崎昭弘、月本昭男<br>（監事）宮原守男、弥永真生<br>【新評議員】　※新寄付行為により新たに評議員を選出<br>森原元夫、小田原登志郎、岡田良一、楠田洋、能美英彦、五十嵐雄一、石原力、橋本光男、岩下昭比古、高久史麿、今村一男、荒木亨、二神康郎、原田明夫、梶村慎吾、岩見宣治、市川祐三、浦西友義、合田隆史、大谷遊介、計 20 名<br>※就任は 1988/1/28 の評議員会 | 山田祐彰、荒井崇、柴田淳、大津秀暁、大高豪太 |
| 1989 年度（平元） | （理事長）成瀬治、（専務理事）馬場進、（理事）柴谷貞雄、駿河敬次郎、高井康雄、徳久俊彦、岩井要、清水博、野崎昭弘、月本昭男<br>（監事）宮原守男、弥永真生 | 新井崇、柴田淳、大津秀暁、柳谷雄介、柴谷光信<br>※山田祐彰、大高豪太は辞任 |
| 1990 年度（平 2） | （理事長）成瀬治、（専務理事）馬場進、（理事）柴谷貞雄、駿河敬次郎、高井康雄、徳久俊彦、岩井要、清水博、野崎昭弘、月本昭男<br>（監事）宮原守男、弥永真生 | 柳谷雄介、柴谷光信、真野玄範、川上岳、デワルト・ヨーゼフ |

| | | |
|---|---|---|
| 1991 年度（平 3） | 【評議員名簿】1992 年度<br>森原元夫、岡田良一、楠田洋、能美英彦、五十嵐雄一、石原力、橋本光男、岩下昭比古、加藤庄六、高久史麿、今村一男、荒木亨、二神康郎、原田明夫、梶村慎吾、岩見宣治、浦西友義、山口栄一、合田隆史、19 名<br>※小田原登志郎氏死去に伴い評議員を補充 | |
| 1992 年度（平 4） | （理事長）成瀬治、（専務理事）馬場進、（理事）駿河敬次郎、清水博、徳久俊彦、高井康雄、関口哲生、岩井要、野崎昭弘、垣内史堂<br>（監事）宮原守男、弥永真生 | 小谷明生、五十川陽洋、小泉和史、高井啓介、湯地晃一郎<br>※学生主事は三沢和彦 |
| 1993 年度（平 5） | 【評議員名簿】1994 年度<br>岡田良一、能美英彦、五十嵐雄一、石原力、橋本光男、岩下昭比古、加藤庄六、高久史麿、今村一男、荒木亨、二神康郎、原島文雄、原田明夫、梶村慎吾、木村庸五、小堀洋志、月本昭男、市川祐三、浦西友義、倉光泰隆、霜垣幸浩<br>※任期は 1994 年 1 月～95 年 12 月 | |
| 1994 年度（平 6） | （理事長）成瀬治、専務理事：馬場進、理事：駿河敬次郎、高井康雄、徳久俊彦、岩井要、関口哲生、清水博、野崎昭弘、垣内史堂<br>（監事）宮原守男、弥永真生　※理事任期は 94 年 4 月～96 年 3 月 | 岩佐明彦、大川真理、五百籏頭薫、宮澤啓明、弓田竜<br>※学生主事：三沢和彦 |
| 1995 年度（平 7） | 【評議員名簿】1996 年度<br>岡田良一、能美英彦、五十嵐雄一、石原力、橋本光男、岩下昭比古、加藤庄六、高久史麿、今村一男、荒木亨、二神康郎、原島文雄、原田明夫、梶村慎吾、木村庸五、小堀洋志、月本昭男、市川祐三、浦西友義、倉光泰隆、霜垣幸浩（以上再任）、橋本章、黒川次郎、高澤金吾、飯高茂、榊裕之、吉岡直人、北彰 | 岩佐明彦学生理事は辞任、後任は武田誠 |

| | | |
|---|---|---|
| | （以上新任）<br>※任期は 1996 年 1 月～97 年 12 月 | |
| 1996 年度（平 8） | （理事長）成瀬治、（常務理事）徳久俊彦、（理事）駿河敬次郎氏、高井康雄、成瀬治、岩井要、関口哲生、清水博、野崎昭弘、垣内史堂、大口邦雄<br>（監事）宮原守男、弥永真生（以上再任）<br>※馬場理事は辞任、理事後任は大口邦雄、常務理事は、徳久俊彦氏 | 奥山博史、清水知足、伊川修、渡辺頼勝、松田恵利也 |
| 1997 年度（平 9） | （理事長）大口邦雄、（常務理事）徳久俊彦、（理事）駿河敬次郎、高井康雄、成瀬治、岩井要、関口哲生、清水博、野崎昭弘、垣内史堂<br>（監事）宮原守男、弥永真生<br>※成瀬理事長は辞任、後任は大口邦雄理事<br>【評議員名簿】1998 年度<br>石原力、加藤庄六、高久史麿、今村一男、荒木亨、橋本章、黒川次郎、二神康郎、原島文雄、原田明夫、高沢金吾、飯高茂、榊裕之、梶村慎吾、木村庸五、小堀洋志、月本昭男、吉岡直人、北彰、市川祐三、霜垣幸浩（以上再任）、北村一男、狩野照、松村寛三郎、久保田省吾、山口栄一（以上新任）<br>※任期は 1998 年 1 月～1999 年 12 月<br>※岡田良一、能美英彦、五十嵐雄一、橋本光男、岩下昭比古、浦西友義、倉光康隆は辞任 | 奥山博史、井川修、渡辺頼勝、小倉知夫、中村義哉<br>※清水知足、松田恵利也は辞任 |
| 1998 年度（平 10） | （理事長）大口邦雄、（常務理事）徳久俊彦、（理事）駿河敬次郎、成瀬治、岩井要、関口哲生、野崎昭弘、垣内史堂<br>※高井康雄、清水博は退任<br>（監事）宮原守男、弥永真生（以上再任） | 渡辺頼勝、伊川修、中村義哉、小倉和夫（以上再任）、橋本徹、原島文雄、蛯浦道生（以上新任）<br>※奥山博史は辞任 |
| 1999 年度（平 11） | （理事長）大口邦雄、（常務理事）徳久 | 中村義哉、勝部圭一、ダ |

| | | |
|---|---|---|
| | 俊彦、（理事）駿河敬次郎、成瀬治、岩井要、関口哲生、橋本徹、野崎昭弘、原島文雄、垣内史堂<br>（監事）宮原守男氏、弥永真生氏（以上再任）<br>【評議員名簿】2000 年度<br>石原力、高久史麿、今村一男、荒木亨、橋本章、黒川次郎、二神康郎、原田明夫、高澤金吾、飯高茂、梶村慎吾、榊裕之、木村庸五、北彰、市川祐三、霜垣幸浩、北村一男、狩野照、松村寛三郎、久保田省吾、山口栄一、和久田康雄、湯原哲夫、高本真一（以上再任）、垣内史堂、大蔵浩之（以上新任）<br>※加藤庄六、原島文雄、小堀洋志、月本昭男、吉岡直人は辞任<br>※任期は 2000 年 1 月～2001 年 12 月 | ニエル・ヘラー、花川耕介、宮川尚久<br>※中村義哉、渡辺頼勝、伊川修、小倉和夫は辞任 |
| 2000 年度（平 12） | （理事長）大口邦雄、（常務理事）徳久俊彦、（理事）駿河敬次郎、成瀬治、岩井要、関口哲生、橋本徹、野崎昭弘、月本昭男、吉岡直人、<br>※原島文雄、垣内史堂は辞任、月本昭男、吉岡直人は新任<br>※任期は、2000 年 4 月～2002 年 3 月<br>（監事）宮原守男、弥永真生 | （学生理事）勝部圭一、花川耕介、ダニエル・ヘラー、宮川尚久、呉正憲 |
| 2001 年度（平 13） | （理事長）大口邦雄、（常務理事）徳久俊彦、（理事）駿河敬次郎、成瀬治、岩井要、関口哲生、橋本徹、野崎昭弘、月本昭男、吉岡直人<br>（監事）宮原守男、弥永真生<br>【評議員名簿】2002 年度<br>石原力、北村一雄、苅野照、松村寛三郎、久保田省吾、高久史麿、今村一男、荒木亨、和久田康雄、橋本章、黒川次郎、二神康郎、原田明夫、高沢金吾、飯高茂、榊裕之、湯原哲夫、梶村慎吾、木村庸五、月本昭男、吉岡直人、北彰、高 | 花川耕介、呉正憲、中村義哉、関智一、鍬本幸司<br>※勝部圭一、宮川尚久、ダニエル・ヘラーは辞任 |

| | | |
|---|---|---|
| | 本真一、山口栄一、霜垣幸浩（以上再任）、浦西友義、合田隆史、藤井信吾、三沢和彦（以上、新任）、計 29 名<br>※任期は 2002 年 1 月～2003 年 12 月、市川祐三は辞任 | |
| 2002 年度（平 14） | （理事長）大口邦雄、（常務理事）野口吉三郎（新任）、（理事）岩井要、関口哲生、橋本徹、野崎昭弘、月本昭男、吉岡直人（以上再任）、梶村慎吾（以上新任）<br>※徳久俊彦常務理事、駿河敬次郎、成瀬治両理事は辞任<br>（監事）宮原守男、弥永真生（以上再任） | 中村義哉、グナワン・ヘンリー、石渡裕太、佐藤央雅、田川義之 |
| 2003 年度（平 15） | 【評議員名簿】2004 年度<br>石原力、北村一雄、苅野照、松村寛三郎、久保田省吾、高久史麿、今村一男、荒木亨、和久田康雄、橋本章、黒川次郎、二神康郎、原田明夫、高沢金吾、飯高茂、榊裕之、湯原哲夫、梶村慎吾、木村庸五、垣内史堂、岩見宣治、大蔵浩之、北彰、高本真一、浦西友義、山口栄一、合田隆史、藤井信吾、三沢和彦、計 29 名<br>※任期は 2004 年 1 月～2005 年 12 月 | |
| 2004 年度（平 16） | （理事長）大口邦雄、（常務理事）野口吉三郎、（理事）岩井要、関口哲生、橋本徹、野崎昭弘、梶村慎吾、月本昭男、吉岡直人<br>（監事）宮原守男、弥永真生 | 中村義哉、村上善道、田川義之、細野篤、松下幸敏<br>※中村義哉主事は再任、任期は 1 年間 |
| 2005 年度（平 17） | 【評議員名簿】2006 年度<br>久保田省吾、高久史麿、赤木俊光、橋本章、黒川次郎、二神康郎、高橋雅二、長島章、原島文雄、青本健作、原田明夫、高沢金吾、中島伸一、飯高茂、村上俊一、榊裕之、湯原哲夫、木村庸五、垣内史堂、岩見宣治、大蔵浩之、北彰、高本 | |

| | | |
|---|---|---|
| | 真一、浦西友義、市川祐三、山口栄一、合田隆史、藤井信吾、霜垣幸浩、三沢和彦、計 30 名<br>※任期は 2006 年 1 月～2007 年 12 月<br>※石原力、北村一雄、苅野照、松村寛三郎、今村一男、荒木亨、和久田康雄、梶村慎吾評議員は辞任<br>※原田明夫は 4/1 付、長島章は 6/1 付で評議員を辞任 | |
| 2006 年度（平 18） | （理事長）原田明夫、（常務理事）長島章、（理事）徳久俊彦、関口哲生、橋本徹、野崎昭弘、野口吉三郎、梶村慎吾、月本昭男、清水正之<br>※任期は 2006 年 4 月～2008 年 3 月<br>※野口常務理事は辞任、後任は長島章 | 学生理事：西浜悟史、内山健太郎、小野雄人、鹿島真人、細野篤<br>※中村義哉、田川義之、王嶺、松下幸敏の各理事は辞任<br>※学生主事は田川義之、任期は 4 月より 1 年間 |
| 2007 年度（平 19） | 【評議員名簿】2008 年度<br>高久史麿、赤木俊光、橋本章、黒川次郎、二神康郎、高橋雅二、原島文雄、青本健作、高沢金吾、中島伸一、飯高茂、村上俊一、榊裕之、湯原哲夫、木村庸五、垣内史堂、岩見宣治、大蔵浩之、高本真一、浦西友義、市川祐三、山口栄一、合田隆史、藤井信吾、霜垣幸浩、三沢和彦、計 26 名<br>※任期は 2008 年 1 月～2009 年 12 月 | 田川義之学生主事の任期を 1 年間延長 |
| 2008 年度（平 20） | （理事長）原田明夫、（常務理事）長島章、（理事）徳久俊彦、関口哲生、橋本徹、野崎昭弘、野口吉三郎、梶村慎吾、月本昭男、清水正之<br>※任期は 2008 年 4 月～2010 年 3 月 | 山本義人、半田英雄、税所真也、斎藤健二、金寛英 |
| 2009 年度（平 21） | 【理事・監事名簿】2009 年度<br>（理事長）原田明夫、（常務理事）長島章、（理事）徳久俊彦、関口哲生、橋本徹、野崎昭弘、野口吉三郎、梶村慎吾、月本昭男、清水正之 | 山本義人、織田拓磨、税所真也、中島彰、久保田力<br>※学生主事は村上善道 |

| | | |
|---|---|---|
| | 【評議員名簿】2010 年度<br>高久史麿、赤木俊光、橋本章、黒川次郎、二神康郎、高橋雅二、原島文雄、青本健作、高沢金吾、中島伸一、飯高茂、村上俊一、榊裕之、湯原哲夫、木村庸五、垣内史堂、岩見宣治、大蔵浩之、高本真一、浦西友義、市川祐三、山口栄一、合田隆史、藤井信吾、霜垣幸浩、三沢和彦、計 26 名<br>※全員再任、任期は 2010 年 1 月～2011 年 12 月 | |
| 2010 年度（平 22） | （理事長）原田明夫、（常務理事）長島章、（理事）徳久俊彦、関口哲生、野崎昭弘、野口吉三郎、梶村慎吾、月本昭男、清水正之<br>（監事）宮原守男、弥永真生氏<br>※橋本徹は辞任<br>※任期は 2010 年 4 月～2012 年 3 月 | 織田拓磨、天野翼、山田望、中島彰、日野祥智<br>※山本義人、税所真也、久保田力は退任<br>学生主事：朴大信 |
| 2011 年度（平 23） | （理事長）原田明夫、（常務理事）長島章、（理事）徳久俊彦、関口哲生、野口吉三郎、野崎昭弘、梶村慎吾、月本昭男、清水正之<br>※任期は 2011 年 4 月～2012 年 3 月まで<br>【評議員名簿】2011 年度　※3 月末まで<br>高久史麿、橋本章、黒川次郎、二神康郎、高橋雅二、原島文雄、青本健作、高沢金吾、中島伸一、飯高茂、村上俊一、榊裕之、湯原哲夫、木村庸五、垣内史堂、岩見宣治、大蔵浩之、高本真一、浦西友義、市川祐三、山口栄一、藤井信吾、霜垣幸浩、三沢和彦、計 24 名<br>※任期は 2012 年 1 月～2012 年 3 月(3 か月のみ)<br>※赤木俊光、合田隆史は退任 | 中島彰、山田望、日野祥智、ダヴィド ムルヤディ、斎藤虎象、<br>※天野翼、織田拓磨は退任<br>※学生主事は引き続き、朴大信 |
| 2012 年度（平 24） | ※4/1 付で公益財団法人として設立登記 | 可児邦広、千葉岳洋、樋 |

| | | |
|---|---|---|
| | （理事長/設立登記は「代表理事」）原田明夫、（常務理事）長島章、（理事）徳久俊彦、関口哲生、野崎昭弘、梶村慎吾、月本昭男、清水正之<br>※任期は、2012 年 4 月～2014 年 5 月<br>※野口吉三郎は退任<br>（監事）木村庸五、弥永真生<br>※監事任期は 2012 年 4 月～2016 年 3 月<br>【評議員名簿】2012 年度<br>※公益財団法人として「最初の評議員」を選任<br>橋本章、黒川次郎、二神康郎、高橋雅二、青本健作、中島伸一、村上俊一、垣内史堂、岩見宣治、霜垣幸浩、計 10 名<br>※任期は 2012 年 4 月～2016 年 5 月 | 口崇、山城一平<br>※中島彰、山田望、日野祥智、ダヴィド ムルヤディ、斎藤虎象は退任<br>主事は税所真也 |
| 2013 年度（平 25） | 月本昭男理事の辞任を承認 | 学生主事は、引き続き税所真也氏を選任 |
| 2014 年度（平 26） | | 西部悠太、木原盾、岩谷雄介、王旭東。<br>※可児邦広、千葉岳洋、樋口崇、山城一平は退任。学生主事は、引き続き税所真也氏を選任。 |
| 2015 年度（平 27） | （理事長）原田明夫、（常務理事）長島章、（理事）徳久俊彦、関口哲生、野崎昭弘、梶村慎吾、清水正之氏（以上再任）<br>※原田明夫理事長、長島章常務理事は再任<br>※4/25 理事会において、長島章常務理事の退任希望を受け、常務理事は当分の間、原田明夫理事長が兼務し、外部から（事務局長）桃井明男を選任 | 王旭東（留任）、申耀翰、リン リリアナ、張燁萌（以上新任）<br>※木原盾、西部悠太、岩谷雄介は退任<br>※学生主事：木原盾、副主事：西部悠太 |
| 2016 年度（平 28） | （理事長）原田明夫、（理事）長島章、徳久俊彦、関口哲生、野崎昭弘、梶村慎吾、清水正之（以上 7 名再任）、垣内史 | 古谷玲奈、平井正道、康佳慧、金子友紀の各氏（以上 6 名新任） |

| | | |
|---|---|---|
| | 堂、岩見宣治<br>※任期は 2016 年 4 月 1 日～2018 年 5 月<br>（監事）木村庸五、弥永真生（再任）<br>※任期は 2016 年 4 月 1 日～2020 年 5 月<br>【評議員名簿】2016 年度<br>二神康郎、高橋雅二、青本健作、中島伸一、村上俊一、霜垣幸浩（以上 6 名再任）、吉岡直人、中村義哉、田川義之、三浦真（以上 4 名新任）<br>任期は、2016 年 4 月～2020 年 5 月 | 学生主事：引き続き木原盾 |
| 2017 年度（平 29） | ※原田理事長の逝去に伴い、徳久俊彦理事を理事長に選任<br>（理事長）徳久俊彦、（理事）長島章、関口哲生、野崎昭弘、梶村慎吾、清水正之、垣内史堂、岩見宣治、月本昭男<br>※任期は 2016/4/1～2018/5 月<br>（監事）木村庸五、弥永真生（再任）<br>※任期は 2016 年 4 月～2020 年 5 月 | 康佳慧、吉田聖、山岸純平、呉爾傑<br>※古谷玲奈、平井正道、金子友紀は辞任<br>学生主事：康佳慧（木原盾の留学・退舎に伴う辞任）、任期は 1 年 |
| 2018 年度（平 30） | （理事長）徳久俊彦、（理事）長島章、関口哲生、梶村慎吾、清水正之、垣内史堂、岩見宣治、月本昭男<br>※任期は 2018 年 4 月～2020 年 5 月<br>※野崎昭弘は辞任<br>（監事）木村庸五、弥永真生（再任）<br>※任期は 2016 年 4 月～2020 年 5 月<br>※長島章は常務理事を辞任、常務理事は当面理事長が兼務する。 | 浜村俊傑、浅海啓一、藤原智也※山岸純平、呉爾傑は辞任 |
| 2019 年度（平 31） | （理事長）徳久俊彦、（理事）長島章、関口哲生、梶村慎吾、清水正之、垣内史堂、岩見宣治、月本昭男（以上再任）、篠原正雄（新任）<br>※任期は 2019 年 5 月～2021 年 5 月<br>※篠原理事の任期は 2021 年 5 月まで | 伊村大吾、松永るつ、中山貴絵<br>※浜村俊傑、浅見啓一、藤原智也は退任<br>学生主事：藤原智也 |
| 2020 年度（令 2） | （理事長）月本昭男、（常務理事）篠原正雄、（理事）長島章、関口哲生、梶村 | 中村義哉、徳永友花、吉田聖（以上新任） |

| | | |
|---|---|---|
| | 慎吾、清水正之、垣内史堂、岩見宣治（以上再任）、中村義哉、徳永友花（以上新任）<br>※徳久俊彦理事長は退任、後任理事長は月本昭男理事、常務理事は篠原正雄理事を選任<br>※任期は 2020 年 5 月～2022 年 5 月<br>（監事）木村庸五、弥永真生（以上再任）<br>※任期は、2020 年 5 月～2024 年 5 月 | 学生主事：藤原智也（重任）、任期は 1 年間 |
| 2021 年度（令 3） | 篠原正雄理事を重任（評議員会）のうえ、篠原正雄常務理事を選任（理事会） | 堀洸太郎、下田優太、テオロドス・ジョナタン・ウイジャヤ<br>※吉田聖、伊村大吾、松永るつ、中山貴絵は退任<br>※学生主事は下田優太、任期は 4 月から 1 年間 |
| 2022 年度（令 4） | （理事長）月本昭男、（常務理事）篠原正雄、（理事）長島章、関口哲生、梶村慎吾、清水正之、垣内史堂、岩見宣治、中村義哉、徳永友花（以上再任）、山口栄一、合田隆史（以上新任）<br>※篠原正雄は継続<br>※岩見理事は管理担当理事とする。<br>※任期は 2022 年/5 月～2024 年 5 月<br>（監事）木村庸五、弥永真生（以上再任）。<br>※中島伸一評議員は辞任 | 堀洸太郎、テオロドス・ジョナタン・ウイジャヤ、張亨碩<br>※下田優太は辞任<br>※2/12 学生主事は、張亨碩（チャン・ヒョンソク）、任期は下田優太前学生主事の残期間と併せて 23 年 3 月末まで |
| 2023 年度（令 5） | 篠原正雄理事を重任（評議員会）のうえ、篠原正雄常務理事を選任（理事会） | 張亨碩（継続）、セーンダンヨーエ・シャリテ（新任）、崔民赫（新任）、<br>※堀洸太郎、テオロドス・ジョナタン・ウイジャヤ理事は任期満了に伴い辞任<br>※学生主事は張亨碩を重任 |

| | | |
|---|---|---|
| 2024 年度（令 6） | （理事長）月本昭男、（常務理事）篠原正雄、（理事）梶村慎吾、岩見宣治、清水正之、山口栄一、合田隆史、中村義哉、徳永友花（以上重任　事）、山本彼一郎、霜垣幸浩、三浦真（以上新任）、15 名<br>任期は 2024 年 5 月～2026 年 5 月まで<br>※関口哲生、長島章、垣内史堂は辞任、篠原正雄は継続<br>※徳永理事は舎生担当理事とする。<br>（監事）木村庸五、弥永真生（重任）<br>※任期は 2024 年 5 月～2028 年 5 月<br>【評議員名簿】2024 年度　※3 月評議員選定委員会<br>青本健作、岩佐明彦、田川義之氏（以上重任）、倉光泰隆、塚本文武、高倉鉄夫、三沢和彦、五百旗頭薫、木原盾（以上新任）、計 9 名<br>※任期は、2024 年 5 月～2028 年 5 月<br>※二神康郎、高橋雅二、村上俊一、霜垣幸浩、吉岡直人は辞任 | ブディオノ・クリスチャン・ミレニュー、佐藤洸大（新任）、崔民赫（継続） |
| 2025 年度（令 7） | ※篠原正雄理事は重任（任期は 2025 年 5 月～2027 年 5 月）<br>（理事長）月本昭男、（理事）岩見宣治、清水正之、山本彼一郎、山口栄一、合田隆史、霜垣幸浩、中村義哉、三浦真、徳永友花（以上継続）<br>※任期は 2026 年 5 月<br>（監事）木村庸五、弥永真生（継続）<br>※梶村慎吾は辞任 | 石井蓮、ワン ハンリン、北川絢野、太田萌（以上新任）<br>※崔民赫、ブディオノ・クリスチャン・ミレニュー、佐藤洸大は辞任<br>※張亨碩主事は辞任、後任は米倉敬宏、任期は 4 月より 1 年間 |

（岩見　宣治）

## 6-2-4　舎生数の推移（1945 年～2025 年）

| | 舎生数 | 備考 |
|---|---|---|
| 1945 年（昭和 20 年） | 6～7 名 | 終戦前後の状況：舎生は 6-7 人のみ |
| 1946 年（昭和 21 年）<br>▽<br>▽<br>1957 年（昭和 32 年） | | ※舎生数の資料なし |
| 1958 年（昭和 33 年） | 30 名 | |
| 1959 年（昭和 34 年） | 36 名 | 6 月：一般舎生 33 名、客間に大学院生 3 名。寄宿舎常住人口は、鈴木一郎主事、事務員、炊事婦 2 名の計 4 名を加えて計 40 名 |
| 1960 年（昭和 35 年） | 36 名 | 6 月：一般舎生 34 名、客間に大学院生 2 名 |
| 1961 年（昭和 36 年） | 35 名 | 1 月会報：一般舎生数は 32 名　6/20 会報：一般舎生数 30 名、他に客間に 3 名が在住。12 月：3 舎生数は 5 名 |
| 1962 年（昭和 37 年） | 35 名 | 他に舎外学生会員 9 名　※会員住所録より |
| 1963 年（昭和 38 年） | 33 名 | ※舎生便覧より |
| 1964 年（昭和 39 年） | 33 名 | |
| 1965 年（昭和 40 年） | 35 名 | 7 月会報：舎生数 35 名、学部別には、本郷（法 7、経 2、文 2、工 6、理 2、農 3、薬 0、医 7）　駒場教養 4 大学院 2 |
| 1966 年（昭和 41 年） | 33 名 | 他に舎外学生会員 3 名　※会員住所録より |
| 1967 年（昭和 42 年） | | |
| 1968 年（昭和 43 年） | 34 名 | 7 月会報；一般舎生 31 名と客間に 3 名在舎 |
| 1969 年（昭和 44 年） | 23 名 | 11 月：空室 10 室あり<br>※寄宿舎の再建が具体化するなかで、入舎選考が困難な状況 |
| 1970 年（昭和 45 年） | 34 名 | 舎生 31 名、客間 3 名、他に舎外学生会員 8 名　※舎生便覧より |
| 1971 年（昭和 46 年） | | |
| 1972 年（昭和 47 年） | | |
| 1973 年（昭和 48 年） | | 3 月旧舎から舎生が退去、5 月から取り壊し工事に着手 |
| 1974 年（昭和 49 年） | 17 名 | 1 月現在、建替え工事中の外部居住舎生への活動補助金の支給対象者は、17 名（月本、山下、市川、浦西、亀 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 井、篠原、清水（久）、鐸木、高幣、田中（キ）、田中（令）、藤本、吉岡、片山、柳元、谷本、中田の各兄） |
| 1975 年（昭和 50 年） | 16 名 | 3/15 新館完成。下宿等に分宿中の旧舎生 7 名が入居開始 7 名（3 月）<br>11 月に新舎生 5 名が入会し、11 月現在 16 名。 |
| 1976 年（昭和 51 年） | 22 名 | 3 月末舎生数 20 名、5 月：舎生数は 24 室中 22 名収容、5/10 会報：舎生数はほぼ 20 名 |
| 1977 年（昭和 52 年） | 22 名 | 3 月末舎生数 15 名、3 月末：舎生数 20 名。9 月末舎生数 22 名 |
| 1978 年（昭和 53 年） | | |
| 1979 年（昭和 54 年） | 18 名 | 7 月 18 名、うち留学生 2 名（米国 1、韓国 1） |
| 1980 年（昭和 55 年） | | |
| 1981 年（昭和 56 年） | 20 名 | 3 月末：舎生数 20、名うち留学生 3 名（韓国、台湾、北米、各 1） |
| 1982 年（昭和 57 年） | 25 名 | 3 月末：舎生数 25 名、新舎になって以降の最大の舎生数（残室は 1 室） |
| 1983 年（昭和 58 年） | 18 名 | 3 月末：舎生数は減少し、新舎生も入らず 9 月現在の舎生は 18 名 |
| 1984 年（昭和 59 年） | 25 名 | 11 月：25 名、うち留学生 3 名（韓国、シンガポール、台湾、各 1） |
| 1985 年（昭和 60 年） | 25 名 | 1 月：舎生数 25 名、うち留学生 3 名（韓国、シンガポール、台湾、各 1）<br>7 月：舎生数 24 名（うち留学生 2 名） |
| 1986 年（昭和 61 年） | 23 名 | 3 月：舎生数 23 名、うち留学生 2 名、4 月：舎生数 23 名、うち留学生 3 名 |
| 1987 年（昭和 62 年） | 24 名 | 4 月：舎生数 24 名、うち留学生 4 名（韓国 3、タイ 1） |
| 1988 年（昭和 63 年） | 18 名 | 会報：舎生数は平均 18 名、うち、学部生 12 名、院生 3 名、留学生 3 名 |
| 1989 年（平成元年） | 22 名 | 7 月：舎生数 22 名、うち留学生 3 名） |
| 1990 年（平成 2 年） | 22 名 | 1 月：舎生数 22 名（うち留学生 4 名） |
| 1991 年（平成 3 年） | 21 名 | 7 月会報：21 名のうち留学生 3 名 |
| 1992 年（平成 4 年） | 25 名 | 舎生数 25 名、うち学部・院生 22 名、留学生 3 名、年平均は 20 名<br>7 月会報：舎生数 21 名、うちプロテスタントは 12 名、カトリックは 9 名 |
| 1993 年（平成 5 年） | 21 名 | 93 年度事業報告：平均舎生数 19 名、うち留学生 3 名 |

| | | |
|---|---|---|
| 1994 年（平成 6 年） | 21 名 | 94 年度事業報告：平均舎生数 21 名、うち留学生 3 名 |
| 1995 年（平成 7 年） | 23 名 | 95 年度事業報告：舎生数 23 名、うち留学生 3 名<br>4 月～9 月は平均 22 名、10 月から 25 名、うち留学生 4 名 |
| 1996 年（平成 8 年） | 18 名 | 12 月会報：前年度の満室に比して 4 月から 17 名でスタート、12 月は 18 名 |
| 1997 年（平成 9 年） | 21 名 | 5 月：舎生数 21 名 |
| 1998 年（平成 10 年） | 24 名 | 12 月末現在、舎生数は 24 名で、ほぼ満室。うち学部・院生 16 名、留学生 3 名、ゲスト留学生 5 名<br>1998 年度事業報告：舎生数 3 月に 6 名が退舎、4 月に 6 名が入舎、留学生の国籍は、アメリカ、韓国、中国、ボリビア、インドネシア、シンガポール |
| 1999 年（平成 11 年） | 23 名 | 1999 年度の平均舎生数は 22.7 名、留学生は米国、韓国、中国、ボリビア、インドネシア、デンマーク、シンガポール |
| 2000 年（平成 12 年） | 25 名 | 7 月：24 名、うちゲスト留学生 3 名<br>12 月：25 名、うちゲスト留学生 4 名 |
| 2001 年（平成 13 年 | 23 名 | 3 月末：舎生数は 23 名、うち留学生は、米国、インドネシア、韓国、ボリビア、ニュージーランド、チェコ、シンガポール |
| 2002 年（平成 14 年 | 19 名 | 11 月：舎生数 19 名 |
| 2003 年（平成 15 年） | 24 名 | 7 月：舎生数 24 名 |
| 2004 年（平成 16 年） | 24 名 | 2004 年度事業報告：舎生数は 22 人～24 人で推移 |
| 2005 年（平成 17） | 25 名 | 2005 年度事業報告：4 月現在 25 名在舎、うち留学生 3 名。10 月に 3 名退舎 |
| 2006 年（平成 18） | 26 名 | 9/10　舎生数 26 名、うち留学生 4 名（韓国 2、中国、フィリピン各 1）<br>2006 年度事業報告：舎生数は、4 月当初 23 人でスタート、その後 23～25 人で推移、以降 3 月まで 26 人在舎 |
| 2007 年（平成 19） | 25 名 | 2007 年度事業報告：2007 年 3 月の退舎生が 11 名と多く、4 月当初は 18 名でスタート、その後入舎募集活動により 7 月時点で 25 名までに回復 |
| 2008 年（平成 20） | 28 名 | 5 月現在、舎生数 26 名、うち留学生 3 名（韓国 2、中国 1）<br>2008 年度事業報告：前年度の退舎生が 3 名と少なく、年度前半で 28 名と満杯になり、年間平均では 27 名弱。 |

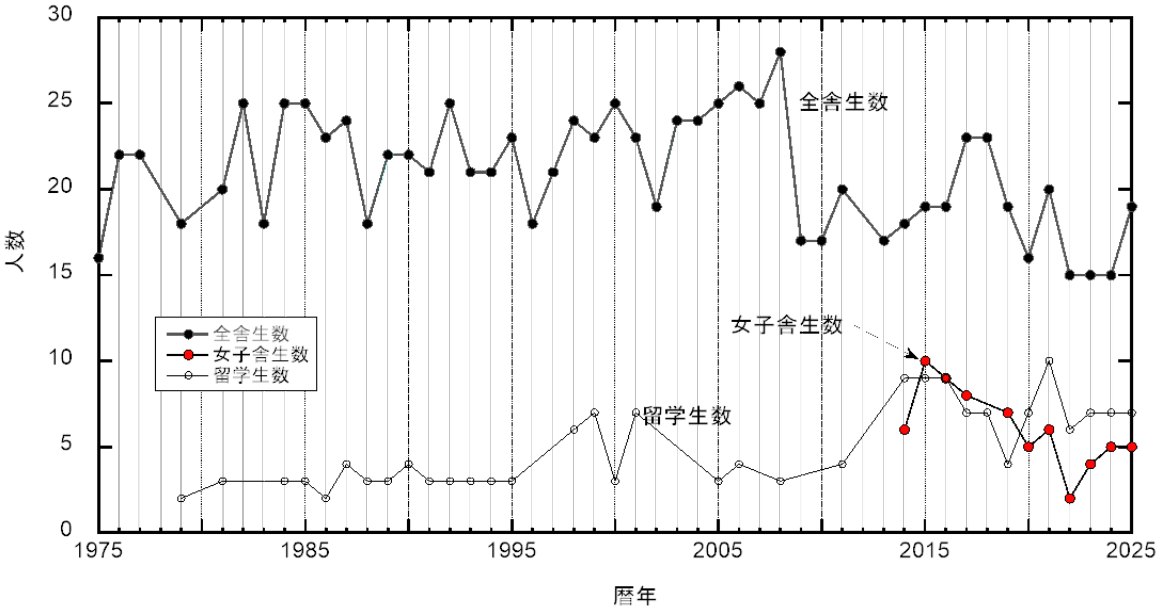
| | | |
|---|---|---|
| | | しかし、年度末から本年 4 月にかけて退舎生が 11 名に上り、4 月末現在で 17 名 |
| 2009 年（平成 21） | 17 名 | 9 月理事会報告：3 月末に 28 名いた舎生は、現在 16 名に減少。その原因は、2008 年度後半に発生した一部の特定寮生の問題行動による混乱より、7 名もの途中退舎が発生したこと。また、近年の外国人留学生の枠の拡大や、大学院生・研究生の増加により、2005 年度以降は舎の活動に参加しない不適格な舎生が入寮して、舎が機能不全に陥った。2 月：年度平均は 17 名 |
| 2010 年（平成 22） | 17 名 | 4 月：舎生数 17 名、9 月：15 名で空室が多い。年度平均舎生数は 15.6 人 |
| 2011 年（平成 23） | 20 名 | 6 月現在舎生数 20 名、うち留学生 4 名（韓国 2、中国 1、インドネシア 1）<br>5/12　2011 年度事業報告：舎生数は前年から増加（15.6 人⇒18.0 人） |
| 2012 年（平成 24） | | |
| 2013 年（平成 25） | 17 名 | 9/14 理事会◆舎生数は 16～17 名で推移、増加対策が必要<br>※2 月の理事会で正式に 2014 年 4 月以降の女子学生受け入れを決定 |
| 2014 年（平成 26） | 18 名 | 舎生数は 4 月より 16 名で推移、9 月現在は 18 名。うち留学生は 9 名（中国 3、韓国 2、マレーシア 2、インドネシア 1、アルゼンチン 1）<br>4 月に初めての女子学生が入舎して以降、女子学生が計 6 名入舎 |
| 2015 年（平成 27） | 19 名 | 4 月：舎生数 19 名、うち女子 10 名、うち留学生 9 名<br>7 月会報：舎生の男女比、日本人/留学生比が共に 1：1 となる。 |
| 2016 年（平成 28） | 19 名 | 3 月：舎生数 19 名、うち女性 9 名、留学生 9 名（中国 3、インドネシア 2、マレーシア 2、韓国 1、アルゼンチン 1）<br>4 月：舎生数は 17 名、うち女性 7 名、留学生 7 名（中国 3、ポルトガル、インドネシア、マレーシア、韓国各 1） |
| 2017 年（平成 29） | 23 名 | 4/22 理事会：舎生数 21 名、うち女性 8 名、留学生 7 名（中国、韓国各 2、インドネシア、マレーシア、ポルトガル各 1） |

| | | |
|---|---|---|
| 2018 年（平成 30） | 23 名 | 2017 年度事業報告：3 月舎生数は 23 名、うち女性は 7 名、留学生は 7 名（韓国 3、中国、ポルトガル、インドネシア、シンガポール各 1） |
| 2019 年（平成 31） | 19 名 | 3 月：舎生数 19 名、うち女性 7 名、留学生 4 名（中国、韓国、インドネシア、シンガポール各 1） |
| 2020 年（令和 2 年） | 16 名 | 4/30 理事会：舎生数 16 名、うち女性 5 名、留学生 7 名（中国、韓国、インドネシア各 2、ルワンダ 1） |
| 2021 年（令和 3 年） | 20 名 | 3 月末：舎生数 20 名、うち女性 6 名、留学生 10 名（中国 1、韓国 6、インドネシア 2、ルワンダ 1）　※コロナ禍により新入舎生の募集が困難な状況<br>9 月：舎生数 12 名、うち女性 3 名、留学生 6 名（韓国 3、インドネシア 2、ルワンダ 1） |
| 2022 年（令和 4 年） | 15 名 | 2 月：舎生数 10 名、うち女性 2 名、留学生 6 名（韓国 3、インドネシア 2、ルワンダ 1）3 月末：舎生数 12 名、うち女性 1 名、留学生 6 名（韓国 2、インドネシア 2、ルワンダ 1 、中国 1）　※4 月には舎生数 15 名 |
| 2023 年（令和 5 年） | 15 名 | 4 月：舎生数 15 名、うち女性 4 名、留学生 7 名（韓国 3、インドネシア 2、ルワンダ 1、台湾 1） |
| 2024 年（令和 6 年） | 15 名 | 4 月：舎生数 15 名、（うち女性 5、留学生 7）（韓国 2、インドネシア 2、中国、ルワンダ、台湾各 1） |
| 2025 年（令和 7 年） | 19 名 | 2024 年度事業報告：舎生数：3 月末現在は 15 名（うち学部 5、大学院 10 名、男子 10 名、女子 5 名）、留学生は 7 名（インドネシア 2、イラン、韓国、台湾、中国、ルワンダ各 1）4 月：舎生数 19 名 |
| 2026 年（令和 8 年） | 20 名 | 1 月末：舎生数 20 名、うち女性 7 名、留学生 8 名（インドネシア 2、中国 2、イラン 1、韓国 1、シンガポール、台湾各 1） |

注）年間で、月別に増減がある場合は、舎生数欄には多い方を記載した。

（岩見　宣治）

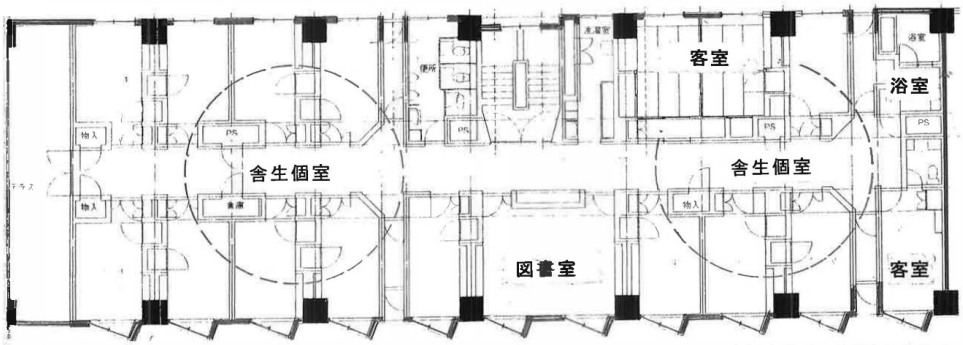
舎生数の推移（1975 年～2025 年）



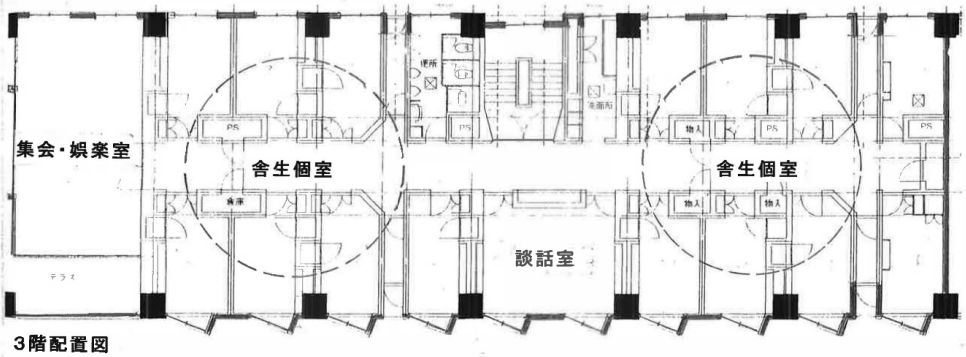

（山口　栄一）

## 6-2-5　会館・寄宿舎概略図

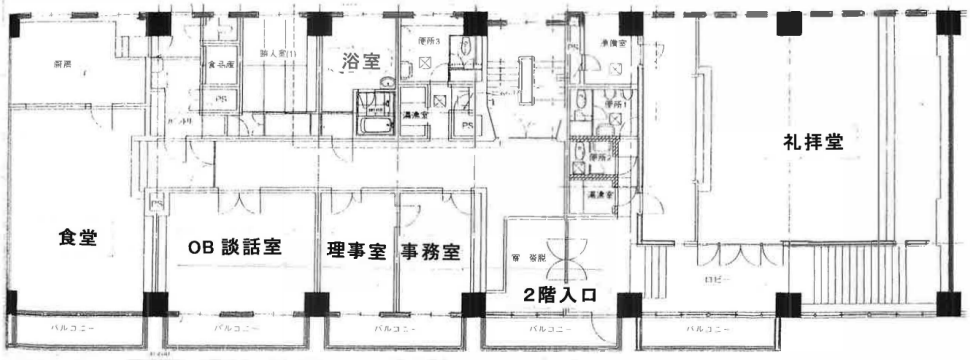
新会館・寄宿舎



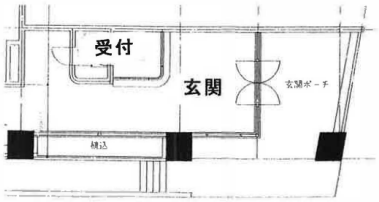

4階配置図




3階配置図

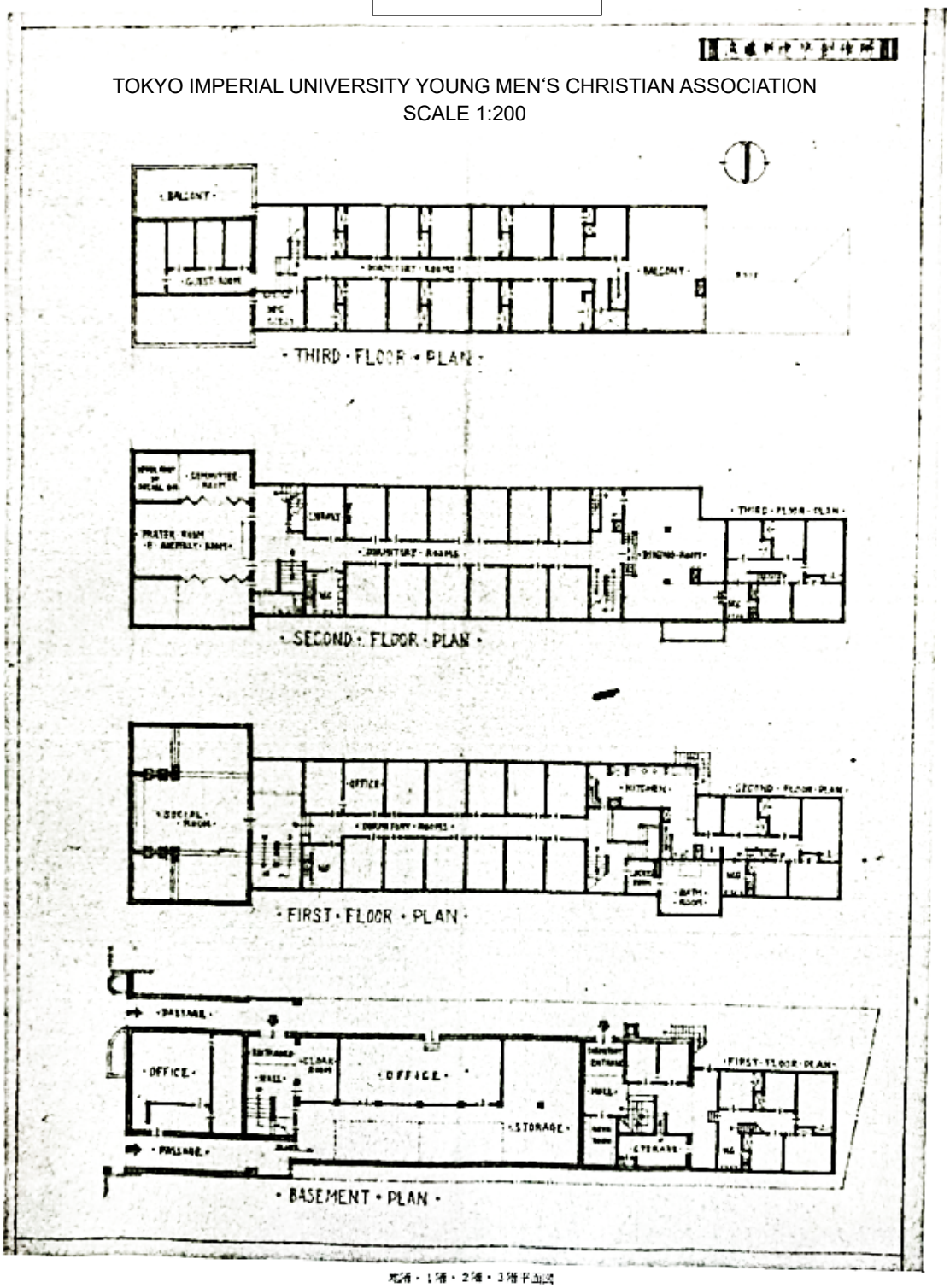



2階配置図




1階配置図

旧会館・寄宿舎




地階・1階・2階・3階平面図

# あとがき

本記念誌は、2025 年に東京大学学生キリスト教青年会の現会館（いわゆる「新舎」）竣工 50 周年を迎えるにあたり、それを記念して編集されました。舎生、卒舎生をはじめご協力いただいたすべての皆様に、心から感謝申しあげます。

企画当初は 50 周年記念行事のおまけとして、無理せずできる範囲で、といった位置付けで始まったと思います。しかしながら、編集作業を始めてみると、山口栄一兄（編集作業グループリーダー）をはじめとする編集委員のみならず、現役舎生を含め多くの方々が、それぞれの賜物を生かしてたいへん積極的に本誌の作成に寄与してくださいました。中でも、月本理事長による巻頭言の「良心の砦」は、新舎 50 年にとどまらず、過去から未来へと続く本会の旗幟としてまことにふさわしいものにちがいありません。

さらに、特筆すべきは、本書の半分のページ数を占める「東大 YMCA 戦後 80 年史年表」です。これは、岩見宣治兄が管理担当理事を務めながら 2 年にわたって丹念に過去の理事会議事録を始めとする様々な資料を掘り起こして書き下ろしてくださったものであり、この場をお借りして深く感謝の意を表するものです。

編集委員一同精一杯努力しましたが、なお不正確なところや配慮の足りないところが多々あることと思います。あらかじめお詫び申し上げますとともに、今後の参考とさせていただきたく存じますので、お気づきのことなどございましたらお手数ですが編集委員会までお知らせいただけると幸いです。

本誌がこれからの本会の歩みに些かでも資することを祈念しつつ

（編集委員長　合田 隆史）

合田兄、山口兄の熱意にほだされて編集作業グループメンバーになりました。一連の作業を通して四十数年ぶりに旧交を温める機会を得たこと、また世代を超えた新たなつながりを得たことに静かな感動を覚えています。團兄による記念講演会の記録を任されいくぶん緊張しましたが、お話の内容には自分の中で温めていたテーマと重なるところもあり、当日は引き込まれて聞き入っていました。

本誌の編集に関わった皆さまのご尽力に敬意を表します。有難うございました。

（柿谷 均）

社会人になり少し遠ざかっていた東大 YMCA に、こうして改めて連なる機会をいただいたことに、感謝いたします。旧舎を含めた東大 YMCA の歴史に触れる機会にも恵まれました。

本誌が、節目を祝い、未来へつながる一冊となれば幸いです。膨大な年表作成作業をきめ細やかに遂行してくださった岩見兄と、編集委員長の合田兄、山口兄をはじめ、みなさまのご執筆・ご協力に、心よりお礼申し上げます。

（木原 友紀）

誤字脱字のチェック程度のお手伝いしかできませんでしたが、編集作業を通して YM のこれまでの貴重な歴史を再認識するとともに、年代を越えた編集委員各位から老若を問わず何とも言えないパワーをいただき、感謝しています。

世相が変調しそうな気配ですが、今後も YM が日々発展していかれることを祈念しています。

（倉光 泰隆）

2025 年 5 月に、第一子となる男の子を賛育会病院で出産しました。徳永龍（とくながりゅう）といいます。大変な困難の中、無料で医療奉仕をされていた青年会の先輩方を、とても誇りに思います。

卒舎生座談会を通じて、旧舎・新舎に関わらず、東大 YMCA で過ごした時間は特別なものだった、と多くの人が感じていることがよくわかりました。これからの若い人たちも、素晴らしい時間を東大 YMCA で過ごして欲しいと願っています。

（徳永 友花）

近くの森で直径 25 ㎝ほどで切り倒された赤松の年輪を数えたら 50 あった。50 年ってこんなものかと。我ら 50 年の歩みも神の御手の中にあると思う。今回過去の会報を読む機会が与えられた、懐かしくも尊しく。

[お願い：OB 談話室の写真、世代々々でぜひ整理を！]

（半田 武比古）

今回このような歴史ある寄宿舎の記念誌に編集作業グループメンバーの一員として現舎生の身ながら関わらせて頂けましたことに、この上ない喜びを感じております。卒舎生寄稿エッセイや岩見兄が作成された戦後 80 年史の年表等を拝見し、膨大な歴史の積み重ねの上に今の舎があるということを実感いたしました。

現舎生としての実感として、現在の舎は人数という点をはじめとして、厳しいとも言える状況にあると思っています。このような現状において、その歴史や伝統をどう守っていくか、重い課題として突きつけられたようにも思いました。しかしながら、必ずしも舎の未来が暗いものとは思いません。現舎生の持つエネルギーはもちろん、先輩方の舎に対する熱い想いを記念

誌からふんだんに感じたからです。自身はこの3月を持って退舎する身ではありますが、先輩方の後に連なり、舎を陰ながら支え、見守っていきたいと強く思っております。今後、未来の記念誌にどのような舎の歴史が刻まれていくのか、楽しみに思えてなりません。

（米倉 敬宏）

編集作業グループリーダーとして、皆さんの背中を押す仕事を拝命しました。

まずは、三沢和彦兄の章構成を土台にして、作業グループメンバーに各章の担当希望を名乗り出ていただき、夫々自律的に章の内容を構成していただきました。こうして2025年の9月に企画してわずか半年で、伏線が共鳴的に絡み合うようにしてゴールに辿り着きました。なお、各章の表紙はぜひ現舎生にお願いしたいと呼びかけたら、Theodorus J. Wijaya兄が快く作成してくださいました。

ぼくは全体編集とともに、第2章の卒舎生寄稿エッセイを担当しました。当時いっしょに住んでいた旧友にエッセイの執筆を呼びかけると、すぐに「おお書くよ」と言ってくれ、あの頃のままの文体で思い出を書き上げてくれたのには、大感激。青春時代の絆がしっかりとつながっていることを感じました。また集まろうね。

（編集作業グループリーダー　山口 栄一）

# 写真で振り返る新舎 50 年の歩み

本郷通り近影　東大 YMCA 周辺

1970 年の新追
分会館（旧舎）
全容

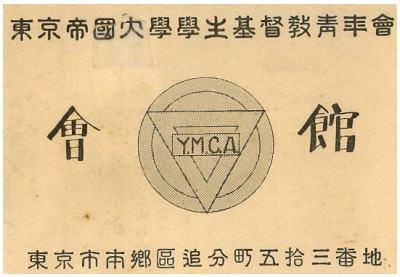
## 旧舎時代（1926 年 5 月～1973 年 5 月）

旧舎竣工時の案内（ハガキセット）から（1926 年）

旧舎前景

当時の舎生部屋

当時の食堂



東京帝國大學學生基督教青年會

會館

YMCA

東京市巣鴨區追分町五拾三番地

創立　本會は明治廿一年五月十三日當時帝大學生たりし大西祝、五島清高田畊安氏等九名に依りて設立さる

目的　學内に基督の精神を宣布し學生の靈性、知識、身體の發達を圖り會員相互の友愛に依つて人格ある社會人を養成する事

事業　本會の事業は左の七部に分つ

一、寄宿舍部　二、聖書研究部　三、研究部　四、圖書部　五、音樂部　六、體育部　七、日曜學校部

會員　本會の趣旨に贊同する東京帝大學生並に卒業生は會員たる事を得

一、通常會員　學生たる者

二、特別會員　卒業したる者

三、名譽會員　特に本會に功勞ありし者

會館　社交室、講堂、委員室等及臨時に宿泊し得る客室四を有す、寄宿舍は約五十室を有し四十餘名を收容し得

旧舎設計者　遠藤新（えんどうあらた）
当青年会出身（1914 工）建築士
フランク・ロイド・ライトの日本での愛弟子。帝國ホテルを設計したライトは工期遅れ等の理由で解雇されたが、その後を遠藤らが引き継ぎホテルを完成させた。当会館は彼にとって帝國ホテル完成（1923 年）直後の仕事であったようだ。ライトが好んだプレーリー様式は、この旧舎でも採用されたようである。

1973 年解体前の旧舎

本郷通り界隈（1973 年）

懐旧舎記念会の様子（1973 年 3 月）

1973 年解体中の旧舎

旧舎解体のため、1973 年 3 月より引っ越しが始まった。舎生は近隣のアパートへ、備品等は仮倉庫へ、事務所は東京 YMCA での仮住まいとなった。1973 年 5 月 6 日、奥にあった二舎から取り壊しを開始、5 月 25 日から寄宿舎本体の取り壊しにとりかかった。ちなみに最後に撤収した住民は高幣秀和兄で最後の最後 23 日に退舎したという

会報第 97 号表紙から

# 新舎（1974 年 3 月完成）

ファミール本郷全影

東大 YMCA 会館（新舎）1975 年 3 月完成

礼拝堂前

玄関部分（2026 年以降、自転車置き場を拡張するため模様替えを行う計画がある）

礼拝堂内

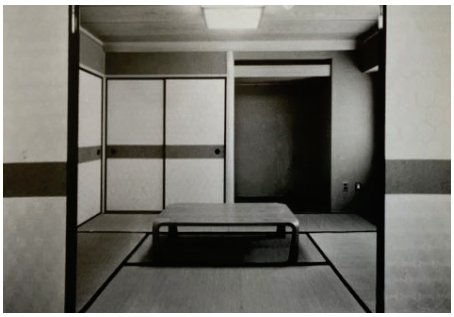
旧会館の土地は東海興業（株）との間で等価交換され、近隣とともに再開発された。14 階建てのファミール本郷が建設され、当青年会はその一部を取得し新会館とした。会館の設計は当青年会出身の岩井要氏（1954 工）が担当した。氏は、教会建築などの経験が深くまことに適任であった。
かくて新舎は 1975 年 3 月に完成した

新舎の寄宿室

祈祷室

OB 談話室

食堂



客室

新会館竣工記念式の様子（1975 年 4 月 26 日）
再建に尽力した先輩方の喜びはひとしおであった

香港 YMCA との交流会

（2007 年 2 月 26 日来日した香港 YMCA の皆さんと会館で交流があった）

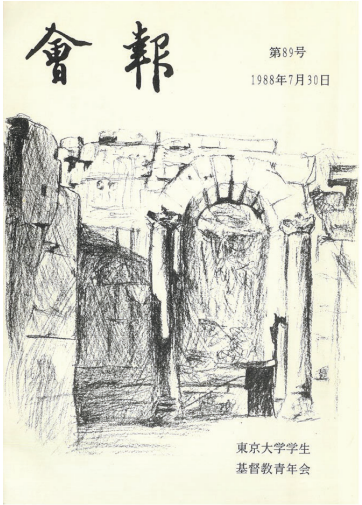
夏の修養会（1978 年 7 月東京 YMCA 野辺山高原センターにて）

（〝夏が来れば、思い出す〜）

各階合唱対抗戦（1986 年クリスマス祝会にて）

（なかなかクリスマス・オラトリオにはほど遠いが、本人達は一所懸命）

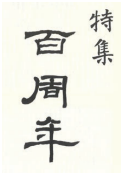
## YMCA 会報から




**第 89 号（1988 年 7 月）：**

この年 5 月 14 日に当青年会創立 100 周年記念式典が開催された。参加者 100 名余り。会報では、その喜びを先輩、舎生達が寄稿している。

また、百周年記念式典と祝会を開催するにあたり、舎生総出で準備、対応を行ったことから、その舞台裏を紹介し、苦労談を熱く語っている。



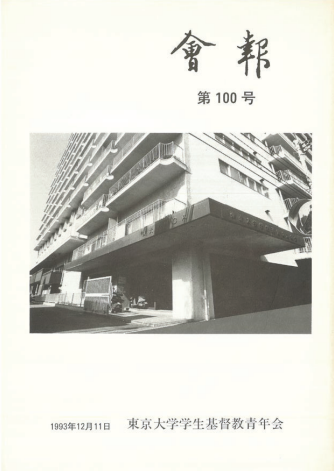

**第 100 号（1993 年 12 月）：**

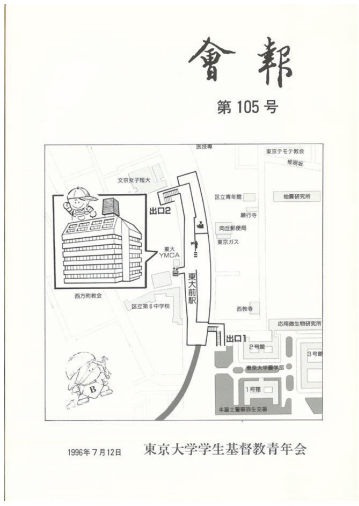
記念すべき第 100 号＊である。

この年、当青年会は、東大五月祭で当時、聖路加国際病院院長であった日野原重明先生をお迎えして公開講演会を開いた。先生の知名度の高さと大規模な広報活動が功を奏して会場は定員 320 名を優に越え、立ち見が出るほどの大盛況であった。この会報では、先生の講演を再録している。なお、日野原先生は京大 YMCA 地塩寮のご出身である。

また、会報では「会報を振り返って～会報を通して YM の 105 年を浮き彫りにする」と題し 99 号までの会報の総括を行っている。

＊（注）実は第 65 号というのが、勘違いで 2 回発行されていて、正確には 101 番目ではあったが・・




**第 105 号（1976 年 7 月）：**

この年 3 月 26 日、ようやく地下鉄南北線が開通し、東大前駅が利用できるようになった。駒場に通う教養学部生達はなんと一時間以内でキャンパスにたどり着ける。その感激を特集。

「改札を出るとすぐ正面にエレベーターがあります。(中略) 扉が開くと目の前に、本郷通りと信号機が見えます。ここまで来ればもう安心。通り沿いに「左」に向かって十歩二十歩、そこはなんと東大 YMCA があるのです。」

南北線開通に徹夜で並び一番乗りを目指した舎生がいた。その日の食堂ノートには 0009 番の切符が貼られていた。お疲れ様。

## 忘れえぬ人々（この 50 年、東大 YMCA に貢献し帰天された先輩諸氏へ敬意をこめて）

＊この他にも多くの先輩諸氏が当青年会に貢献されました（感謝）

新会館時代

A.D.

1975　S50　**新会館再建**

1980　S55

1985　S60

**当会 100 周年記念**

S64/H1

1990　H2

1995　H7

2000　H12

高見穎治（たかみえいじ）氏
1975.12.29 帰天（1925 文）当会第 7 代理事長　東大教授他　英文学者

森有正（もりありまさ）氏
1976.10.18 帰天（1935 文）パリ大学教授他　仏文学者　哲学者

片山哲（かたやまてつ）氏
1978.5.30 帰天(1912 法)　46 代首相
弁護士　キリスト教社会主義者

斎藤勇（さいとうたけし）氏
1982.7.4 帰天(1911 文）当会第 5 代理事長　東大教授他、英文学者

堀豊彦（ほりとよひこ）氏
1986.4.9 帰天(1912 法)当会第 6 代理事長　東大教授他、政治学者
平和運動家

大塚久雄（おおつかひさお）氏
1996.7.9 帰天（1930 経）東大教授他
経済史家　大塚史学で広く評価

会報 85 号（堀豊彦先生追悼特集号）より引用：堀先生が師吉野作造の思想を継承して生涯戦闘的なリベラリストで在り続けたことは良く知られていることです（住谷一彦）　旧舎から今の新しい建物への（中略）大事業で、先生の御人柄とご見識なしにはできえないことでした。しかしクリスマス祝会のあとなどに、実に感銘深いお話をなさる方でもありました（野崎昭弘）　先生は一度だけ、私に向かって、羨ましい、と仰言られた（中略）私が旧約聖書研究の道に踏み込む最終決断を促したのであった（月本昭男）

## 忘れえぬ人々（この 50 年、東大 YMCA に貢献し帰天された先輩諸氏への敬意をこめて）つづき

新会館時代

2000

**21 世紀始まる**

2005 H17

馬場進（ばばすすむ）氏
2001.5.1 帰天（1930 経）会館再建時から
専務理事として 19 年　　自称「堂守」

岩井要（いわいかなめ）氏
2011.9.22 帰天（1954 工）当会理事
当会館設計者、建築士

木下順二（きのしたじゅんじ）氏
2006.10.30 帰天（1924 文）劇作家
作品は「夕鶴」他　主演した山本
安英らは旧舎で練習していた

2010 H22

**公益財団法人化**

**女性舎生受入れ**

2015 H27

成瀬治（なるせおさむ）氏
2016.8.26 帰天（1950 文）当会第 9 代
理事長　東大教授他　歴史学者

高井康雄（たかいやすお）氏
2021.3.16 帰天（1947 農）当会第 8 代
理事長　東大教授他　農学生命科学

原田明夫（はらだあきお）氏
2017.4.6 帰天（1963 法）当会第 11 代
理事長　検事総長他、弁護士

H31/R1

2020 R2

徳久俊彦（とくひさとしひこ）氏
2023.10.13 帰天（1953 経）当会第 12 代
理事長　賛育会理事長、東京 YMCA
学院理事長を歴任

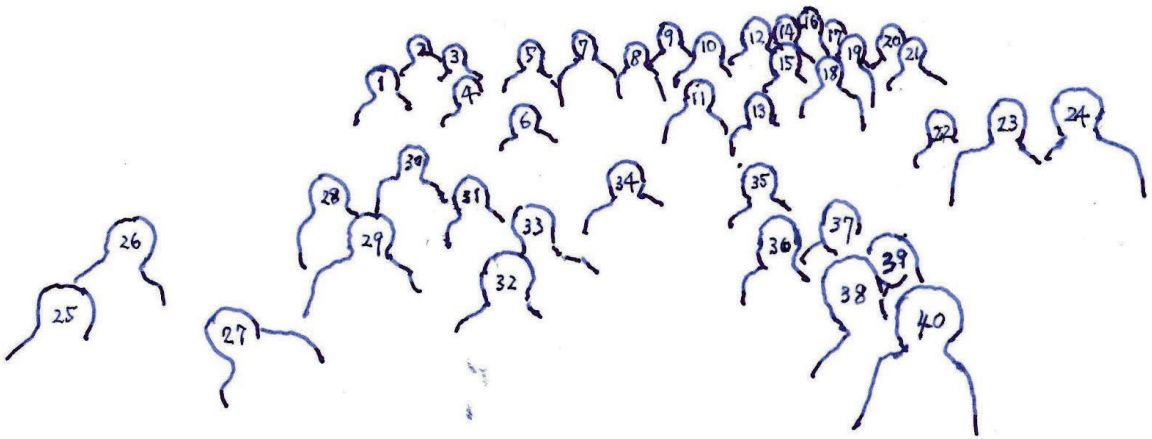
駿河敬次郎（するがけいじろう）氏
2023.3.21　102 歳で帰天（1944 医）
当会理事　順天堂医科大学教授他、医師

2025 R7

**新会館 50 年達成**

会館竣工 50 周年記念式典写真

# 記念式典出席者名簿



| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北 彰 | 梶村 慎吾 | 清水 正之 | 月本 昭男 | 岩見 宣治 | 二神 康郎 | 團 紀彦 | 榊 裕之 | 柿谷 均 | 山口 栄一 | 倉光 泰隆 | 関口 玲 | 半田 武比古 | 合田 隆史 | |
| 73文 | 69法 | 71文 | 71文D | 71工 | 60農 | 79工 | 68工D | 77理D | 77理D | 78法 | 26法 | 77工M | 78法 | |

| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 鎌田 将 | 石井 蓮 | 中村 義哉 | 米倉 敬宏 | 太田 萌 | | 明神 恵子 | Alireza Tavana | T. J. Wijaya | | 及川 茂樹 | | | 宋 竜児 | 高見 進 |
| 28文D | 27農M | 00経 | 26農 | 26工M | | | 26工D | 26工D | | 94文 | | | 07公共院 | 71法 |

| 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 写真外 | 41 | 42 | | 現役舎生 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 永田 智子 | 中島 伸一 | 関澤 純 | 小堀 洋志 | 篠原 正雄 | 神野 和磨 | | 高本 真一 | | 崔 民赫 | | 上田 光正 | 高倉 鉄夫 | | |
| | 64法 | 66農 | 71工 | 71理D | 27理M | | 73医 | | 25法D | | 62養 | 83法 | | |

（編集委員）

柿谷 均　　木原 友紀
倉光 泰隆　　合田 隆史
霜垣 幸浩　　高倉 鉄夫
徳永 友花　　中村 義哉
半田 武比古　　三沢 和彦
米倉 敬宏　山口 栄一

＊＊＊＊＊＊

＊＊＊＊＊

（編集協力）

岩見 宣治
木原 盾
神野 和磨
篠原 正雄

良心の砦－東大 YMCA 会館竣工 50 周年記念誌

2026 年 3 月 31 日火曜日発行

発行人　月本 昭男
編集人　合田 隆史・山口 栄一
住所　〒113-0023　東京都文京区向丘 1 丁目 20 番 6 号
電話　03-3816-1029

印刷所　株式会社明光社
住所　〒112-0001　東京都文京区白山 3 丁目 6 番 21 号
電話　03-3814-4893

無断転載・複製を禁じます